

沖縄県文化財調査報告書 第111集

湧田古窯跡 (I)

— 県庁舎行政棟建設に係る発掘調査 —

1993年 3月

沖縄県教育委員会



巻首図版 1 遺跡近景 (東側より)



巻首図版2 I地区の遺構（上：石列と瓦列 下：瓦列）



卷首図版3 II地区の遺構（上：1号窯 下：2号窯）

序

本書は、県庁舎建設局からの分任を受けて、1986年度から1987年度にかけて、県庁舎建設工事に伴って実施した調査成果の報告書であります。

県庁舎の建設は行政棟、議会棟、警察棟の3棟の主要施設に区分けされ建設が進められていますが、本報告書は最初に着工しました行政棟の建設に関わって発掘された調査記録であります。

湧田古窯跡は17世紀代に開設された窯業地の一つであります。古くは琉球王府が編纂した文献に湧田窯創建の記録があり、その実際の存在が発掘調査によって確認されたこととなります。数々の出土品とともに重要な遺構が検出されました。これまで沖縄の窯業史研究では、登り窯が伝統的な窯の形態であるとされてきましたが、従来の見解を覆す平窯構造が確認され、沖縄窯業史の研究に一石を投じることになりました。

平窯そのものは日本本土にも古くから見られますが、湧田窯の例のような形状をもつものはなく、その類例は中国、東南アジアに分布すると言われております。湧田窯は、沖縄の窯業技術の源流の解明に、きわめて重要な手がかりをもたらす第一級の考古資料と言えます。また、これまで沖縄各地の近世の村落遺跡から、湧田焼きと目される陶器がかなり出土しておりますが、今回の発掘調査の成果によりその資料の比較研究がある程度可能になりました。これにより、近世琉球の窯業地と生産地の商品流通の構造、範囲の様相の一端を窺い知ることが出来たと言えます。

今日の壺屋窯は湧田焼、知花焼などの古窯が移転統合してできたものであると文献に記録されておりますが、湧田窯は今日につながる沖縄の伝統的地場産業（窯業）のルーツの一つとしての記念物であったと言えます。

末尾になりましたが、本報告書が文化財保護思想の普及や地域の文化財並びに歴史に対する認識と理解を深め、さらに学術研究の一助ともなれば幸いに存じます。

なお、発掘調査及び資料整理作業にあたり、多大なるご協力を頂いた関係各位に対して深く感謝いたします。

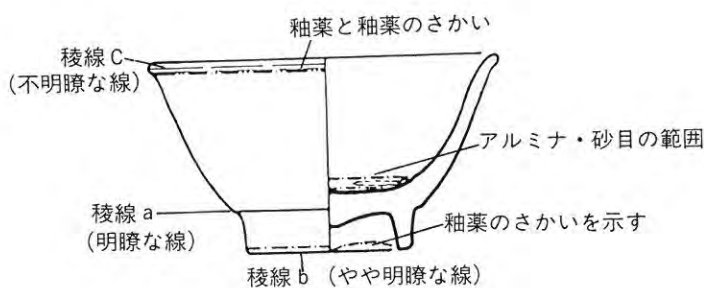
平成5年3月

沖縄県教育委員会
教育長 津留健二

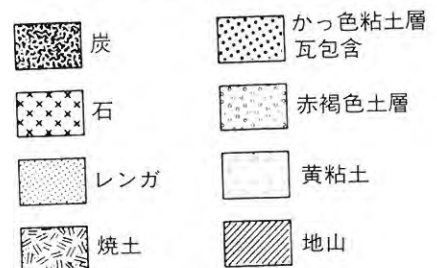
例 言

1. 本書は1986年度から1987年度に県教育委員会文化課が県庁舎建設局から分任を受けて、県庁舎行政棟の建設に伴って発掘調査された成果報告書である。
2. 第2号窯と第1号窯の2基の切りとり保存作業については、奈良国立文化財研究所の保存科学研究室の沢田正昭氏と肥塚隆保氏の御協力を得ました。謝意を表します。
3. 第II章で掲載した『那覇読史地図』（明治初年の那覇）は嘉手納宗徳氏の製作によるものである。
4. 第III章で使用した2500分の1の国土基本図は建設省国土地理院発行によるものである。
5. 陶磁器の鑑定は佐賀県立九州陶磁文化館学芸課長大橋康二氏の協力を得ました。記して謝意を表します。
6. 地磁気年代測定を島根大学の伊東晴明教授と時枝克安助教授の協力を得ました。記して謝意を表します。
7. I地区から検出された人骨の鑑定については長崎大学医学部第二解剖学教室の松下孝幸助教授の協力を得ました。記して謝意を表します。
8. 獣・魚骨の同定については、早稲田大学考古学研究室の金子浩昌氏の協力を得ました。記して謝意を表します。
9. 各章の執筆分担は次の通りである。
 大城 慧（第I章、第II章、第III章、第V章第16節～第21節、第VI章）
 島袋 洋（第IV章、第V章第15節）
 金城亀信（第V章第10節～第14節）
 豊見山禎（第V章第1節～第3節、第9節、第22節、第23節）
 長嶺 均（第V章第4節～第8節）
 金子浩昌（第V章第24節）
10. 本書に掲載した遺物の写真は上原明・矢沢秀雄の撮影によるものである。
11. 発掘調査で出土した遺物及び報告書作成の為の実測図・写真類などの記録は全て、県教育委員会文化課資料室にて保管している。
12. 本遺跡の発掘調査にあたって文化庁及び奈良国立文化財研究所の指導・助言を頂いた。記して感謝を表したい。
13. 本書に表した高度値は、海拔高である。
14. 切り取り保存された第2号窯は県立博物館の構内において仮保管中であり、第1号窯については那覇市壺屋地区に保管展示の予定である。
15. 観察表の計測値の単位は全てcm, gである。

遺物実測凡例



遺構図凡例



目 次

| | |
|---------------------|-----|
| 卷頭図版 | |
| 序 | |
| 例言 | |
| 第I章 調査に至る経緯 | |
| 第1節 調査に至る経緯 | 3 |
| 第2節 調査体制 | 4 |
| 第II章 位置と環境 | 6 |
| 第III章 調査経過 | 9 |
| 第IV章 層序と遺構 | 11 |
| 第1節 I地区 | |
| 1. 層序 | 11 |
| 2. 遺構 | 11 |
| 第2節 II地区 | |
| 1. 層序 | 24 |
| 2. 遺構 | 26 |
| 第3節 III地区 | 31 |
| 第V章 出土遺物 | 35 |
| 第1節 青磁 | 35 |
| 第2節 白磁 | 48 |
| 第3節 染付 | 54 |
| 第4節 褐釉陶器 | 80 |
| 第5節 特殊陶器 | 80 |
| 第6節 瑠璃釉 | 81 |
| 第7節 タイ産陶器 | 85 |
| 第8節 ベトナム産色絵 | 85 |
| 第9節 本土産陶磁器 | 86 |
| 第10節 沖縄産施釉陶器 | 93 |
| 第11節 沖縄産無釉陶器 | 122 |
| 第12節 土器 | 134 |
| 第13節 陶質土器 | 135 |
| 第14節 瓦質土器 | 138 |
| 第15節 瓦類 | 145 |
| 第16節 金属製品(簪・釘・その他) | 155 |
| 第17節 銭貨 | 155 |
| 第18節 鉄滓・羽口 | 155 |
| 第19節 坩堝 | 155 |
| 第20節 硯・石製品 | 155 |
| 第21節 キセルの雁首 | 157 |
| 第22節 円盤状製品 | 166 |
| 第23節 窯道具 | 170 |
| 第24節 湧田古窯跡出土の脊椎動物遺体 | 176 |
| 第VI章 結 語 | 192 |

目 次

| | |
|--|--|
| 第1図 沖縄本島及び那覇市の位置 …………… 1 | 第41図 染付② (I地区) ……………61 |
| 第2図 湧田古窯跡の位置と調査地域 …………… 2 | 第42図 染付③ (I地区) ……………62 |
| 第3図 古地区にみる湧田村 …………… 7 | 第43図 染付④ (I地区) ……………63 |
| 第4図 調査範囲とグリット設定 …………… 8 | 第44図 染付⑤ (I地区) ……………64 |
| 第5図 遺構出土状況 ……………10 | 第45図 染付⑥ (I地区) ……………65 |
| 第6図 層序 (I地区) ……………12 | 第46図 染付⑦ (I地区) ……………66 |
| 第7図 け-43~45グリット検出の瓦列と獣骨 集中部 (I地区) ……………13 | 第47図 染付⑧ (I地区) ……………67 |
| 第8図 さ・し・す-43・44 磚・瓦検出状況 (I地区) ……………14 | 第48図 染付⑨ (I地区) ……………68 |
| 第9図 こ-42~さ-42瓦列検出状況 (I地区) ……15 | 第49図 染付⑩ (I地区) ……………69 |
| 第10図 長方形石組遺構と瓦列 (I地区) ……16 | 第50図 染付⑪ (I地区) ……………70 |
| 第11図 石列と瓦列 (I地区) ……………17 | 第51図 染付⑫ (I地区) ……………71 |
| 第12図 検出された井戸 (I地区) ……………18 | 第52図 染付⑬ (I地区) ……………72 |
| 第13図 検出された井戸 (I地区) ……………19 | 第53図 染付⑭ (I地区) ……………73 |
| 第14図 3号窯 (I地区) ……………20 | 第54図 染付⑮ (I地区) ……………74 |
| 第15図 4号窯 (I地区) ……………21 | 第55図 染付⑯ (I地区) ……………75 |
| 第16図 5号窯と井戸 (I地区) ……………22 | 第56図 染付⑰ (I地区) ……………76 |
| 第17図 6号窯 (I地区) ……………23 | 第57図 染付⑱ (I地区) ……………77 |
| 第18図 層序 (II地区) ……………25 | 第58図 染付⑲ (I地区) ……………78 |
| 第19図 ブタ出土状況 (第5層) (II地区) ……26 | 第59図 染付⑳ (I地区) ……………79 |
| 第20図 带状遺物集中部 (II地区) ……………28 | 第60図 褐釉陶器 ……………82 |
| 第21図 1号窯 (II地区) ……………29 | 第61図 褐釉陶器・特殊陶器 ……………83 |
| 第22図 2号窯 (II地区) ……………30 | 第62図 褐釉陶器と瑠璃釉 ……………84 |
| 第23図 全体平面の状況 (III地区) ……………32 | 第63図 タイ産陶器・ベトナム産色絵 ……85 |
| 第24図 完掘後の地形と断面 (III地区) ……33 | 第64図 本土産陶磁器 (I地区) ……………87 |
| 第25図 層序 (III地区) ……………34 | 第65図 本土産陶磁器 (II地区) ……………89 |
| 第26図 青磁① (I地区) ……………38 | 第66図 本土産陶磁器 (II地区) ……………90 |
| 第27図 青磁② (I地区) ……………39 | 第67図 本土産陶磁器 (II地区) ……………91 |
| 第28図 青磁③ (I地区) ……………40 | 第68図 本土産陶磁器 (I・II地区) ……92 |
| 第29図 青磁④ (I地区) ……………41 | 第69図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 碗 ……107 |
| 第30図 青磁⑤ (I地区) ……………42 | 第70図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 碗 ……108 |
| 第31図 青磁⑥ (I地区) ……………43 | 第71図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 碗 ……109 |
| 第32図 青磁⑦ (I地区) ……………44 | 第72図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 小碗 ……110 |
| 第33図 青磁⑧ (I地区) ……………45 | 第73図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 小皿 ……111 |
| 第34図 青磁⑨ (I地区) ……………46 | 第74図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 小皿・小碗・小杯・大皿 ……112 |
| 第35図 青磁⑩ (II地区) ……………47 | 第75図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 大皿・大鉢 ……113 |
| 第36図 白磁① (I地区) ……………50 | 第76図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 小鉢・大鉢 ……114 |
| 第37図 白磁② (I地区) ……………51 | 第77図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 小鉢・香炉・火取 ……115 |
| 第38図 白磁③ (I地区) ……………52 | 第78図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 酒器・急須・壺 ……116 |
| 第39図 白磁④ (I地区) ……………53 | 第79図 沖縄産施釉陶器 (上焼) 蓋 (急須・壺・鍋) 大型急須・片口鉢 ……117 |
| 第40図 染付① (I地区) ……………60 | 第80図 沖縄産施釉陶器 (上焼) |

| | |
|---|-------------------------------|
| 油壺・瓶子・対瓶・瓶・壺……………118 | 第99図 平瓦……………151 |
| 第81図 沖縄産施釉陶器（上焼） 油壺・乗燭・燭台・灯明皿……………119 | 第100図 博瓦……………152 |
| 第82図 沖縄産施釉陶器（上焼）火炉・火鉢……………120 | 第101図 博……………153 |
| 第83図 沖縄産施釉陶器（上焼）鍋……………121 | 第102図 レンガ……………154 |
| 第84図 沖縄産無釉陶器（荒焼）摺鉢……………128 | 第103図 金属製品……………158 |
| 第85図 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺……………129 | 第104図 銭貨拓影……………159 |
| 第86図 沖縄産無釉陶器（荒焼） 壺・德利・瓶子・花瓶・小壺……………130 | 第105図 銭貨拓影……………160 |
| 第87図 沖縄産無釉陶器（荒焼）水甕……………131 | 第106図 埴埴……………161 |
| 第88図 沖縄産無釉陶器（荒焼）蓋・水鉢・花鉢……………132 | 第107図 羽口……………162 |
| 第89図 沖縄産無釉陶器（荒焼） 小鉢・鍋・水注・片口鉢・蓋・碗・ 皿・乗燭・灯明皿・火炉……………133 | 第108図 石器（1：たたき石、2：砥石）……………163 |
| 第90図 陶質土器……………137 | 第109図 硯……………164 |
| 第91図 瓦質土器……………141 | 第110図 キセルの雁首と吸口……………165 |
| 第92図 瓦質土器……………142 | 第111図 円盤状製品の平面分布……………166 |
| 第93図 瓦質土器……………143 | 第112図 サイズ別出土状況……………167 |
| 第94図 瓦質土器……………144 | 第113図 円盤状製品……………168 |
| 第95図 瓦型……………147 | 第114図 円盤状製品……………169 |
| 第96図 軒丸瓦……………148 | 第115図 窯道具①……………172 |
| 第97図 丸瓦……………149 | 第116図 窯道具②……………173 |
| 第98図 軒平瓦……………150 | 第117図 窯道具③……………174 |
| | 第118図 窯道具④……………175 |
| | 第119図 プタ下顎骨……………183 |
| | 第120図 傷のある骨……………184 |

表 目 次

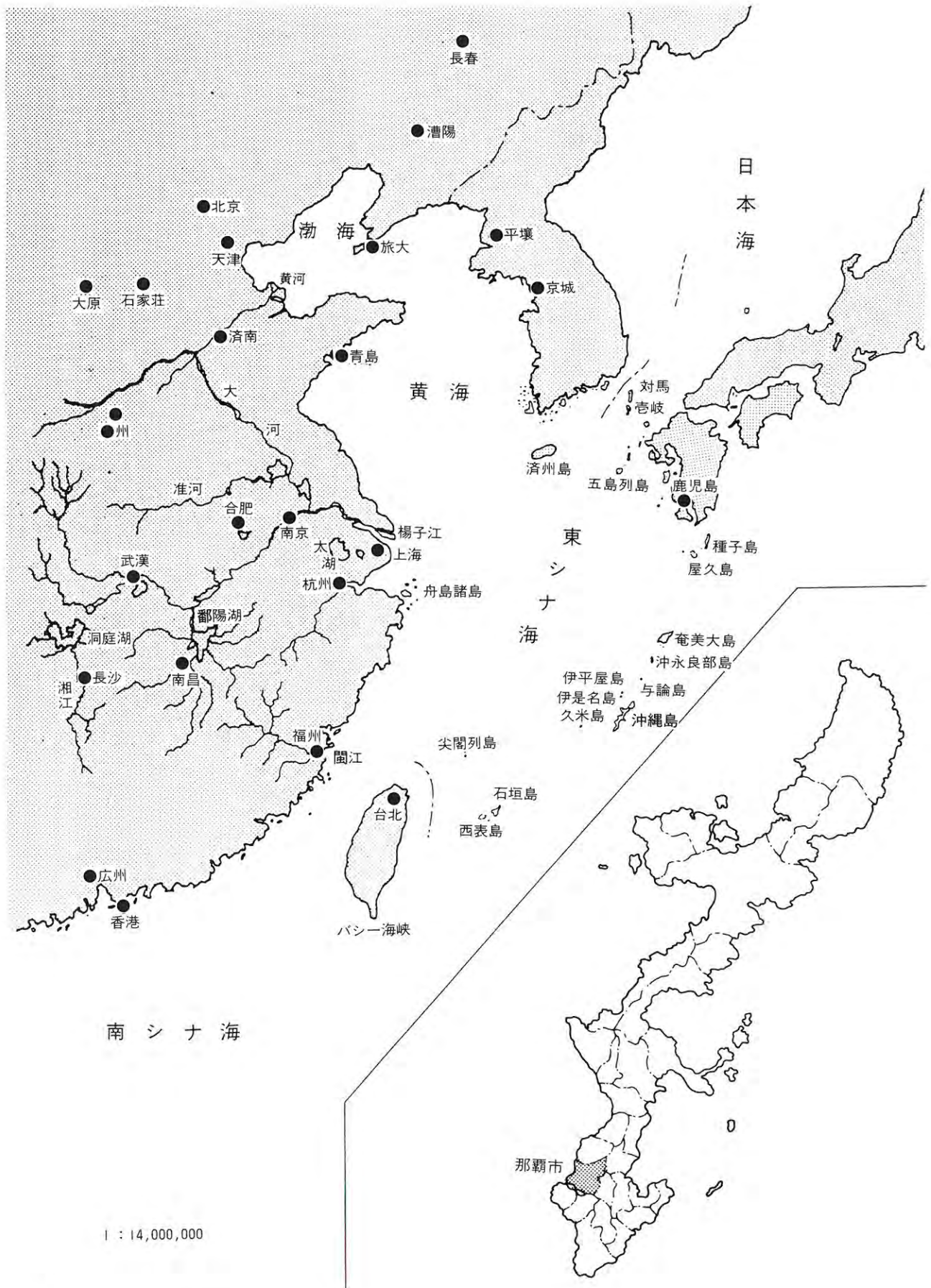
| | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 第1表 青磁観察一覧……………36 | 第18表 イヌ骨出土状況……………179 |
| 第2表 白磁観察一覧……………48 | 第19表 ネコ骨出土状況……………179 |
| 第3表 染付観察一覧……………56 | 第20表 ヤギ骨出土状況……………181 |
| 第4表 本土産陶磁器観察一覧……………88 | 第21表 各種動物最少個体数出土状況……………181 |
| 第5表 沖縄産陶器（上焼）観察一覧……………103 | 第22表 骨の計測（ブタ、イヌ、ウシ、ウマ）……………185 |
| 第6表 沖縄産陶器（荒焼）観察一覧……………126 | 第23表 ブタ歯牙出土状況……………188 |
| 第7表 瓦質土器観察一覧……………140 | 第24表 ブタ歯牙出土状況 II地区……………188 |
| 第8表 摺鉢口径一覧……………138 | 第25表 ブタ歯牙出土状況 II地区（一括）……………188 |
| 第9表 植木鉢口径一覧……………138 | 第26表 イヌ歯牙出土状況……………189 |
| 第10表 古銭観察一覧……………156 | 第27表 ウマ歯牙出土状況……………189 |
| 第11表 窯道具観察一覧……………171 | 第28表 ウシ歯牙出土状況……………189 |
| 第12表 脊椎動物種名一覧……………176 | 第29表 ヤギ歯牙出土状況……………189 |
| 第13表 魚類出土状況……………177 | 第30表 ブタ骨出土状況……………190 |
| 第14表 ニワトリ骨出土状況……………178 | 第31表 II地区ブタ骨出土状況……………192 |
| 第15表 ジュゴン出土一覧……………178 | 第32表 ウシ骨出土状況……………191 |
| 第16表 ヒト出土一覧……………178 | 第33表 ウマ骨出土状況……………191 |
| 第17表 ネズミ出土一覧……………178 | |

図版目次

- 第1図版 表土剥ぎの状況と事前の打ち合せ
第2図版 I地区作業風景
第3図版 I地区堆積層の状況
第4図版 I地区遺物出土状況
第5図版 I地区遺物出土状況
第6図版 I地区（上：3号窯と4号窯検出状況、
中・下：3号窯）
第7図版 I地区4号窯の状況
第8図版 I地区5号窯の状況
第9図版 I地区6号窯の状況
第10図版 I地区井戸検出状況
第11図版 I地区遺構検出状況
第12図版 I地区遺構検出状況
第13図版 I地区遺構検出状況
第14図版 I地区遺構検出状況
第15図版 I地区遺構検出状況
第16図版 I地区遺構検出状況
第17図版 I地区遺構検出状況
第18図版 II地区作業風景
第19図版 II地区堆積層の状況
第20図版 II地区の状況
第21図版 II地区の状況
第22図版 II地区遺物出土状況
第23図版 II地区獣骨出土状況
第24図版 II地区窯前面の状況
第25図版 II地区1号窯・2号窯の発掘状況
第26図版 II地区1号窯(上)と2号窯(下)
第27図版 II地区1号窯
第28図版 II地区1号窯内側の調整痕
第29図版 II地区2号窯の状況と作業風景
第30図版 II地区2号窯
第31図版 II地区窯体熱残留磁気調査状況
第32図版 II地区1号窯・2号窯切り取り作業
第33図版 III地区発掘風景
第34図版 III地区の状況と遺物の出土状況
第35図版 青磁①（I地区）
第36図版 青磁②（I地区）
第37図版 青磁③（I地区）
第38図版 青磁④（I地区）
第39図版 青磁⑤（I地区）
第40図版 青磁⑥（I地区）
第41図版 青磁⑦（I地区）
第42図版 青磁⑧（I地区）
第43図版 青磁⑨（I地区）
第44図版 青磁⑩（I地区）
第45図版 白磁①（I地区）
第46図版 白磁②（I地区）
第47図版 白磁③（I地区）
第48図版 白磁④（II・III地区）
第49図版 染付①（I地区）
第50図版 染付②（I地区）
第51図版 染付③（I地区）
第52図版 染付④（I地区）
第53図版 染付⑤（I地区）
第54図版 染付⑥（I地区）
第55図版 染付⑦（I地区）
第56図版 染付⑧（I地区）
第57図版 染付⑨（I地区）
第58図版 染付⑩（I地区）
第59図版 染付⑪（I地区）
第60図版 染付⑫（I地区）
第61図版 染付⑬（II地区）
第62図版 染付⑭（II地区）
第63図版 染付⑮（II地区）
第64図版 染付⑯（II地区）
第65図版 染付⑰（II地区）
第66図版 染付⑱（II地区）
第67図版 染付⑲（II地区）
第68図版 染付⑳（II地区）・磁器（III地区）
第69図版 褐釉陶器
第70図版 褐釉陶器と特殊陶器
第71図版 褐釉陶器と瑠璃釉
第72図版 タイ産陶器・ベトナム産色絵
第73図版 本土産陶磁器（I地区）
第74図版 本土産陶磁器（II地区）
第75図版 本土産陶磁器（II地区）
第76図版 本土産陶磁器（II地区）
第77図版 本土産陶磁器（I・II地区）
第78図版 沖縄産施釉陶器（上焼）碗
第79図版 沖縄産施釉陶器（上焼）碗
第80図版 沖縄産施釉陶器（上焼）碗
第81図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小碗
第82図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小皿
第83図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小皿・小碗・小杯
第84図版 沖縄産施釉陶器（上焼）大皿・大鉢
第85図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小鉢・大鉢

第86図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小鉢・香炉
第87図版 沖縄産施釉陶器（上焼）酒器・急須・壺
第88図版 沖縄産施釉陶器（上焼）蓋（急須・壺・鍋）
大型急須・片口鉢
第89図版 沖縄産施釉陶器（上焼）油壺・瓶子・対瓶
第90図版 沖縄産施釉陶器（上焼）油壺・乗燭・燭台・
灯明皿
第91図版 沖縄産施釉陶器（上焼）火炉・火鉢
第92図版 沖縄産施釉陶器（上焼）鍋
第93図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）摺鉢
第94図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺
第95図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺・徳利・瓶子・
花瓶・小壺
第96図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）水甕
第97図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）蓋・水鉢・花鉢
第98図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）鍋・水注・片口鉢・
蓋・碗・皿・乗燭・灯明皿・火炉
第99図版 陶質土器
第100図版 瓦質土器
第101図版 瓦質土器
第102図版 瓦質土器
第103図版 瓦質土器
第104図版 瓦型
第105図版 軒丸瓦
第106図版 丸瓦
第107図版 軒平瓦
第108図版 平瓦
第109図版 埴瓦

第110図版 埴
第111図版 レンガ
第112図版 金属製品
第113図版 銭貨
第114図版 銭貨
第115図版 カンザシ・鉄滓・埴塼・羽口
第116図版 石器（1：たたき石、2：砥石）
第117図版 硯
第118図版 キセルの雁首と吸口
第119図版 円盤状製品
第120図版 円盤状製品
第121図版 窯道具①
第122図版 窯道具②
第123図版 窯道具③
第124図版 窯道具④
第125図版 サメ、魚類、ニワトリ、ジュゴン、
ヒト
第126図版 イヌ、ネコ、ヤギ
第127図版 ブタ
第128図版 ブタ
第129図版 ブタ
第130図版 ブタ
第131図版 ウマ、ウシ
第132図版 ウマ
第133図版 ウマ
第134図版 ウシ
第135図版 ウシ



第1図 沖縄本島及び那覇市の位置



第2図 湧田古窯跡の位置と調査地域

第 I 章 調査に至る経緯

第 1 節 調査に至る経緯

琉球政府時代に現在的那覇市泉崎 1-2-2 の敷地に建設された県庁舎は戦後間もなく米軍政府、及び民政府として政治の中枢機関が集中した場所であり、現在にまで至っている。

昭和28年に建設された各建物が40年間において、老朽化と新しい県民のニーズに対応できる施設としては狭いことから新庁舎建設が昭和58年12月に決定され現在の地に建設される運びとなった。

新しい県庁舎建設については、昭和58年に県庁舎建設基本構想、昭和59年に基本計画が実施された。建設基本構想の中では、行政棟、議会棟、警察棟の主要建物に区分され建設が進められている。

昭和61年度からは旧庁舎の建物の解体工事の後、行政棟の建設工事に入っていった。ところが、現庁舎敷地は湧田と呼称した窯業を中心とした村跡でもあった。古くは17世紀の始めに、この地域に窯業が開設されたことが文献に登場してくるところであり、琉球最大の窯場であったことで知られていたところである。戦後の焼け野原から復興して近代的な建物が建ち並んだことから、詳細な発掘調査が実施される機会がないまま長い間ペールに包まれてきた経緯がある。但し、付近一帯の様相は文献や焼き物が個人住宅や道路改良工事などからしばしば遺物が採集されていたことから、焼き物の村として早くから周知されていたところでもある。戦時中膨大な戦禍を受けたことから、あるいはその後の旧庁舎建設の際に旧来の地形が大きく変貌したとはいえ構内には、まだ緑地帯として残されてきた場所もあったことから工事の実施の際にも建設部局に対して、旧湧田村が存在していたことや工房跡や遺物が地下に存在していることの状況を説明した。

その後、県庁舎建設局側から湧田古窯跡の取扱いについて調整があった。それに対し、県文化課から遺物が出土した時点での連絡方を申し入れた。ところが、実質的な工事が入る直前においても双方の調整がなされないまま工事が先行してしまった状況であった。すでに地下への掘削が始まっており、その中から夥しい量の瓦片が掘り出されたことから県庁舎建設局へ埋蔵文化財としての取扱いとともに発掘調査の必要性があることを申し入れた。発掘調査に入った時には一部土取り工事が入っており搬出が行われていた。協議調整の結果は緊急発掘調査という形で建設局からの調査費で実施された。

調査は遺跡の広がりを確認することから始められた。1986年10月～12月にかけて範囲確認調査を実施し、引き続き同年12月～1987年8月にかけて記録保存の為の発掘調査を実施した。調査面積は約5,000㎡の広大な範囲に及んだ。工事区内は、遺跡に支障のないところは、工事の進捗状況との関連から変則的な発掘調査となった。工事現場内での調査となったことから作業員の安全管理の面に調査員の対応に苦慮した。

調査の途中から工事がストップした中で長い発掘調査が実施された。以後、建設局と文化課との連絡会議がもたれた。工事着手前の詳細な協議調整がとられなかったことが、行政棟の竣工を大幅に遅らせる要因であったと考える。

発掘調査の結果は、膨大な量の瓦、塼を中心とする遺物とともに窯跡や工房跡を示す遺構がほぼ完全な形で検出されたことで、一気に湧田村の古窯の形態が浮かび上がってきたといえる。沖縄における窯業技術の系譜と展開を知る上で重要な遺跡の一つであったことがあらためて確認されたと言えよう。

第2節 調査体制

湧田古窯跡は、県庁舎敷地の全域に広がっており作業場、粘土取り場、窯、不良品廃棄場、製品置き場等が確認され、窯場工房の様相が立体的に把握できた。

発掘調査は1986年12月から1987年8月までの約9ヶ月の長期に及び県文化課の職員が調査にあたった。また出土した資料については7年間の歳月をかけて水洗いからナンバーリング、分類、実測、写真等と細分化され整理されてきた。コンテナ総数933箱の膨大な量にのぼった。

調査体制は発掘調査から資料整理、報告書の刊行まで含めて下記の通りであった。

調査組織

| | |
|---------|----------------------|
| 調査主体 | 沖縄県教育委員会 |
| 教育長 | 米村幸政 (昭和61年度～昭和62年度) |
| 〃 | 池田光男 (昭和63年度) |
| 〃 | 高良清敏 (平成元年～平成2年度) |
| 〃 | 津留健二 (平成3年度～平成4年度) |
| 文化課課長 | 比嘉賀幸 (昭和61年度～昭和62年度) |
| 〃 | 宜保栄治郎 (昭和63年度～平成3年度) |
| 〃 | 金城 功 (平成4年度) |
| 文化課課長補佐 | 西平守勝 (昭和61年度) |
| 〃 | 糸数兼治 (昭和61年度) |
| 〃 | 当間一郎 (昭和62年度～昭和63年度) |
| 〃 | 平田興進 (昭和62年～平成元年度) |
| 〃 | 上江洲均 (平成元年度～平成2年度) |
| 〃 | 伊佐真一 (平成3年度～平成4年度) |
| 〃 | 知念 勇 (平成4年度) |
| 〃 | 川満一成 (平成4年度) |

調査事業事務

| | |
|------------|-----------------------|
| 文化振興係長 | 小橋川順市 (昭和61年度～昭和63年度) |
| 〃 | 仲里哲雄 (昭和63年～平成2年度) |
| 文化振興係・管理係長 | 大村光仁 (平成3年度～) |
| 主事 | 本郷公朗 (昭和61年度～昭和62年度) |
| 〃 | 当間 勉 (昭和61年度) |
| 〃 | 大山京子 (昭和61年度～昭和62年度) |
| 〃 | 照喜名玲子 (昭和62年度～昭和62年度) |
| 〃 | 運天政弘 (昭和62年度～昭和63年度) |
| 〃 | 波平 淳 (昭和63年度～平成2年度) |
| 〃 | 上原節子 (昭和63年度～平成元年度) |
| 〃 | 照屋邦雄 (平成元年度～平成2年度) |
| 〃 | 新垣昌頼 (平成元年度～平成3年度) |
| 〃 | 仲里富代 (平成元年度) |
| 〃 | 伊波盛治 (平成3年度～) |
| 〃 | 玉村良子 (平成2年度～平成4年度) |

主事……………比嘉美代子（平成3年度～平成4年度）
〃……………上間尚子（平成3年度～平成4年度）

調査事業総括

埋蔵文化財係長……………安里嗣淳（昭和61年度～平成2年度）
〃……………大城 慧（平成3年度～）

発掘調査員

主任専門員……………岸本義彦
〃……………島袋 洋
〃……………金城亀信
専門員……………豊見山禎
〃……………長嶺 均
臨 任……………島 弘（現那覇市教育委員会）
〃……………大田宏好（現北中城村教育委員会）
〃……………照屋 孝（現具志川市教育委員会）
〃……………大城 剛（現具志川市教育委員会）
〃……………松川 章（現浦添市教育委員会）
〃……………花城潤子（現沖縄福祉専門学校）
〃……………大城秀子（現知念村教育委員会）
〃……………上地千賀子

発掘調査補助員……………比嘉優子
〃……………城間千栄子
〃……………西川寿勝（奈良大学学生）

発掘調査協力員……………小渡清孝
〃……………宮城篤正（浦添美術館館長）
〃……………多和田真淳（故人）
〃……………池田栄史（琉球大学助教授）
〃……………渡辺 誠（名古屋大学教授）

発掘調査作業員

西原春子、嵩田三戸、嵩田春、仲宗根節子、大野幸子、大城輝子、東風平洋子、小橋川幸子、呉屋光子、糸数トヨ、金城吉克、照屋光江、金城洋子、新垣シゲ、上原昭子、儀間トヨ、古波津サト子、糸数文子、仲里敏子、与那嶺良子、宮城サダ子、備瀬枝美子、山崎律子、長嶺洋子、大城帝子、上原由美子、辺土名キヨ子、名城節子、大村由美子、上原美智子、大城鈴枝、比嘉まり子、小橋川恵子、金城敬子、金城登美子、山田由子、並里富子、宮城朝子、大城ひとみ、大濱光子、謝花和子、大城美枝子、運天勝江、川上益子、安慶田和美、仲村トヨ子、名城洋子、瑞慶山峯子、金城文、新垣ふじ子、石嶺弘子、石橋朝子、神門美智子、栗山初美、古波津徳子、城間千鶴子、平良江利子、高野愛子、松本道代、屋宜ミヨ、真境名文子、与那嶺真理子、小嶺禮子、津波キヨ子、西銘パトロシニア、仲村トヨ、与那覇勢津子、平田春枝、前原静江、新川常子、名城文子、松田貞子、佐久間尚美、呉屋光子、金城美枝子、呉屋正一、玉城善徳、幸地ヨシ子、玉城富子、麓幸子、古波津ヨシ子、古波津政子、幸地克信（敬称略）

資料整理作業員

大村由美子、金城敬子、川上益子、宮城サダ子、上原美智子、大城鈴枝、安慶田和美、辺土名キヨ子、比嘉まり子、鳩間利恵子、与儀恵子、仲元知枝、神谷よしえ、池原直美、浜元春江、手嶋永子、金城礼子、上原博美、大城聖子、平良貞枝、小沢紀美子、新垣直美、喜納久美子、高良昌美、宮良栄子、高良三千代、小嶺禮子、玉寄智恵子、瑞慶覧尚美、金武雅子、譜久村郁子、川満美賀子、外間峰子、比嘉優子、大城勝江、照屋利子、上原園子、城間千鶴子、仲宗根三枝子、我那覇悠子、外間瞳、当山慶子、崎原美智子、池田悦子、仲嶺朋恵、杉山知寿子、西銘パトロシニア、平良貴子、津波古良子、備瀬枝美子、石橋朝子、座間味美津子、源河秀子、安和千代子、高宮とり

第II章 位置と環境

湧田という呼称は、古くは那覇市の四町（西町、東町、若狭町、泉崎町）の一つで、現在的那覇市泉崎1丁目2番2号（北緯26度12分31秒、東経127度40分59秒）付近の一角を形成し、旧上泉町とされていたところである。湧田焼の窯業生産の地として、湧田村として知られ、活気を呈していた地域の一つであったとされている。

泉崎は識名丘陵の続きで、安里川と國場川との間を走って、古波蔵から城岳の丘阜を越し、那覇江へと突出する一半島であったとされている。いわゆる那覇港へ流入する入り江の近くに形成された丘陵縁部の村である。地形的には現在の楚辺や城岳一帯が琉球石灰岩の丘陵地が広がり、西側（現在のバスターミナルや那覇市役所）にかけては湿地帯がひろがる水田地であったとされている。さらに通堂町から奥武山一帯は現在でこそ地続きであるが、その昔は小さな浮島を形成する島嶼であり、交通の手段も小舟を利用したものであった。西海の水は若狭町・泊の両丘陵の間に広がって渦原一圓を没し、遠く識名坂の下に迫り、近くは上の毛から松尾山、上の蔵に断続する丘陵の裾を洗って久茂地川に落ち、甲辰橋下などは近世まで湾入して爬龍舟を引き上げた位で、中島小掘や、内兼久附近は入江で、東の先一帯は砂濱を為し、中島は名の通り中州で、西東の地は浮島と唱えられ今の通堂町の渡地が川向の垣花渡り口の「スラ場」から奥武山などと共に点々散在する島嶼であった」と『南島風土記』の中の泉崎の目のなかで記述している。

古くは1838年（尚育4）の冊封の冠船渡来に来た中国の人々への飲料水供給のためにも重宝されるなど、湧田井の管理なども行われている。その碑文などが1865年（尚泰18）に建立されているが去る第二次大戦で破壊され、現在はその跡形もない。この地が首里王府のお抱えの窯業生産地として多くの焼き物を生産しており、特に1616年に尚豊の王命により、薩摩から朝鮮（高麗人）の一六、一官、三官などの陶工を連れて帰り、焼き物の技術を伝授している。沖縄の代表的な陶工である平田典通・仲村渠致元らもここ湧田村で作陶業に精を出したと言われている。

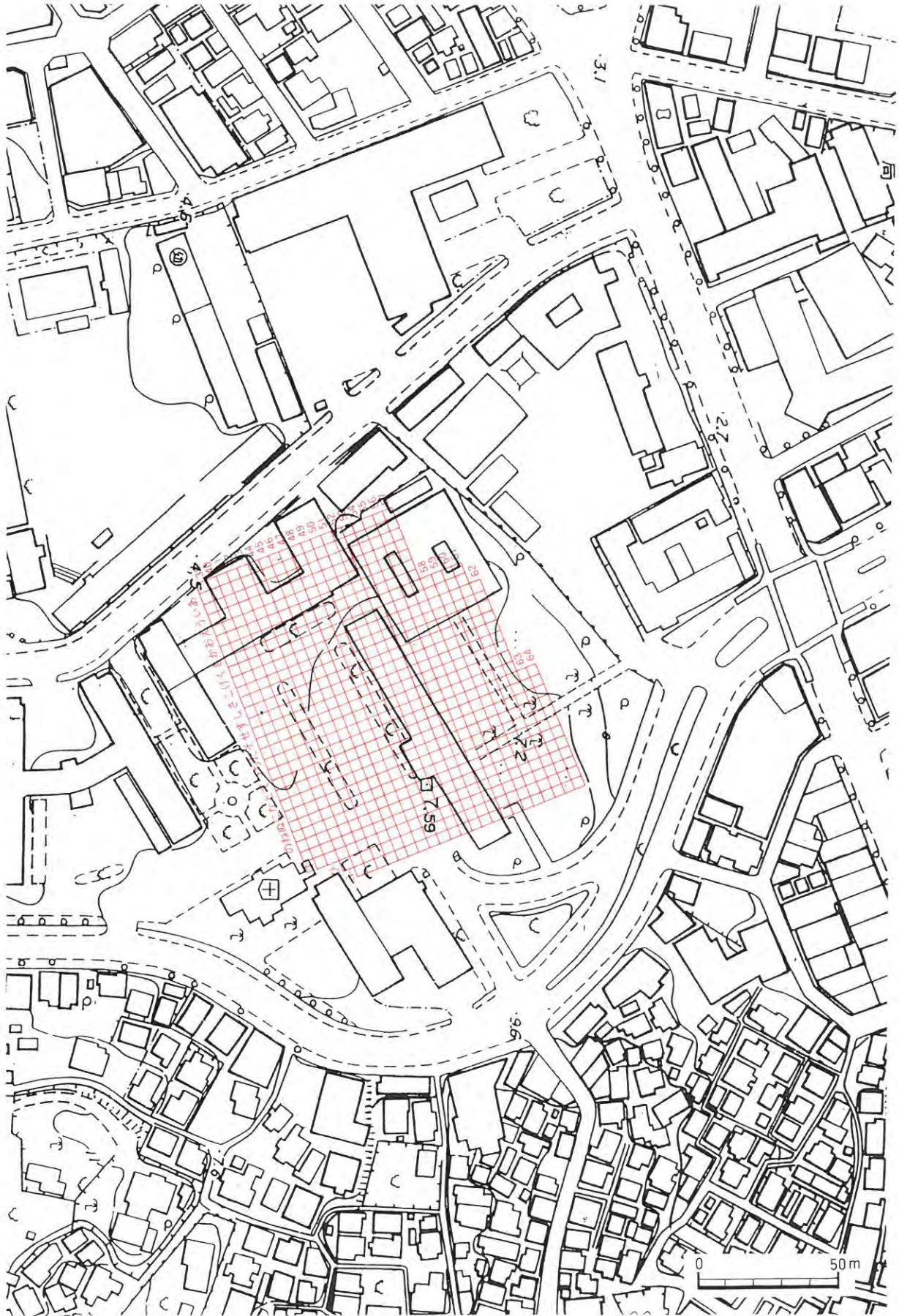
1682年に現在の壺屋町に窯場が統合されるまでの65年余の間、古窯を形成した陶業の村としての琉球最大の中心的役割を担った窯業地の一つであったとも言える。また、壺屋への統合は1682年を境に一度に移されたものではなく段階的に移っていったとする見方もある。

その後、明治期から大正、昭和の初め（戦前）に至るまで沖縄県庁や県立図書館などが建ち並ぶ那覇市の中心地であった。しかしながら去った大戦において那覇市はもとより、沖縄全域が「鉄の暴風」が吹き荒れまったくの廃虚と化した。戦後の復興の中から再び現在の地に民政府が設置され、文字どおり政治、経済の中核を占め現在に至っている。県庁周辺には旧来の古いたたずまいが急速に消失し地形や自然環境が大きく変貌した。

球陽をみるための
那覇読史地図
(明治初年の那覇)



第3図 古地図にみる湧田村



第4図 調査範囲とグリッド設定

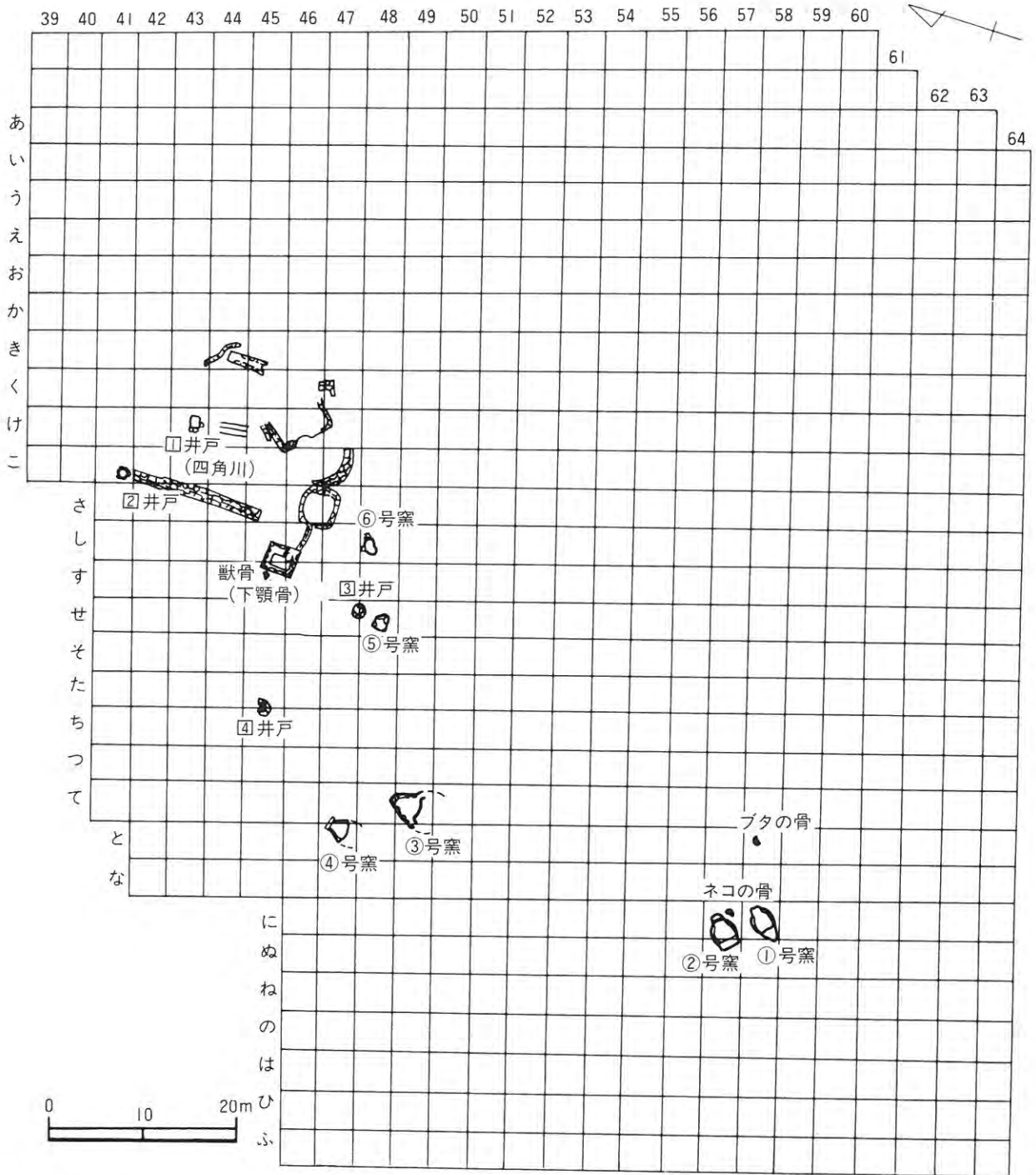
第Ⅲ章 調査経過

調査は昭和61年度に湧田古窯跡の範囲確認調査を実施するとともに、同年12月には遺物の量とその広がりから記録保存の為に緊急発掘調査が実施された。行政棟建設工事に伴う範囲確認調査については、グリッド掘りによる坪掘りによったところが大きいのが、遺構の確認は出来なかったものの瓦、磚を中心とした荒焼の焼き物が数多く出土した。

行政棟が建設される場所は、楚辺、城岳あたりの丘陵地から次第に泉崎あたりにかけてゆるやかに傾斜していく地形であり丘陵地の縁端部にあたる。その昔は丘陵の西側端部にかけては泥地などの海岸線が複雑に入り組んだ場所であった。湧田村が形成されていた場所は広範囲に及んでおり窯跡も広範囲に及んでいる。行政棟地区に限定して見るならば瓦窯と磚、上焼等その他日常に利用した製品が出土している。工房と窯場が同一面において検出されたことで、窯業地の形態の一端を把握することが出来た。

調査の中では窯と製品の保管、粘土の採取場、工房とそれぞれの状況が把握されたことから湧田の窯業生産地としてのセット関係が明確に把握することが可能になった。発掘調査は約9ヶ月間を要した。当初予想していた以上に遺物の量が膨大にのぼり、遺跡の残存状況が良好であることが確認された。その結果を示すものとして、窯、瓦列、井戸、建物跡の一部等が検出された。中でも第1号窯から第6号窯が検出されたことは驚嘆の念を念じえなかった。特に第3号窯についてはほぼ原形を保った状態であったことから切り取り保存で処理することが調査の中途において決定された。窯業の構造形態から切り取り保存の第1号となった。窯の構造については、これまでの登り窯と考えられていた形態に逆行するもので平窯の構造で造られたものであった。旧建物と建物の間やグリーンベルト地帯として使われていた場所については遺構がよく残っていた。

しかしながら工事との関連から現地に保存できるまでの調整には至らず全て記録保存による調査で消滅することになった。中途からの調整に入ったことから、建設局と文化財保護当局との協議が頻繁にもたれたが、結果は一部工事を続行しながら長期間に亘る調査となった。一部の切り取り保存の遺構の他は全て写真、記録、などが残り報告書にその状況をまとめた。



| 表示 | 遺構名 | 挿図番号 | 表示 | 遺構名 | 挿図番号 |
|----|-----|------|----|------|------|
| ① | 1号窯 | 第21図 | □ | 1号井戸 | 第13図 |
| ② | 2号窯 | 第22図 | □ | 2号井戸 | 第12図 |
| ③ | 3号窯 | 第14図 | □ | 3号井戸 | 第12図 |
| ④ | 4号窯 | 第15図 | □ | 4号井戸 | 第13図 |
| ⑤ | 5号窯 | 第16図 | □ | | |
| ⑥ | 6号窯 | 第17図 | | | |

第5図 遺構出土状況

第IV章 層序と遺構

第1節 I地区

本地区は今回の調査対象地域の北側一帯で、瓦層やジャリ層、焼土層などが部分的な広がりで見認められたり、中国産陶磁器の集中部や瓦を縦に積み重ねた瓦列遺構、石積み遺構、レンガを積んだ遺構そして4基の窯跡、5基の井戸（掘りぬきのもので、周囲に石灰岩を配す）など多種多様な遺構が検出されている。また、出土した膨大な遺物量もさることながら、多岐にわたる豊富な内容も本地区の空間的な位置付けを物語っているようである。以下、本地区で確認された層序と検出された遺構の概略を記す。

1. 層序

全体的にみると瓦層、ジャリ層、焼土層が互層をなすような堆積の状況であった。しかし、部分的な広がりのもので多く、全体的な層位の把握は困難であった。また、本地区の西側で青灰色粘土（クチャ）層と第3紀砂岩（ニービ）層の境目が略南北方向に走る。これら基盤層を覆うように黄褐色粘土層がみられるが、東側では青灰色粘土層の上面で中国産陶磁器や土錐の集中部、塼敷きの遺構などが検出された。ちライン東壁と43ライン南壁の土層断面を第6図に示した。以下、確認された層序について簡記するが、第1層は旧庁舎に伴う客土や造成層であり、重機で剥ぎ取った。

第2層—本地区のほぼ全面にみられる赤褐色の瓦層。上部では瓦の少ない部分もあり、下部には約10cmの厚さのジャリ層がみられる場所もある。厚い所で30cm前後であるが、上部はかなり削られた場所も見受けられ、本来の層厚は判然としない。

第3層—黄灰色の粘土層で、本区の中央部に広がる。途切れ途切れに確認され、厚い所で約30cmを有する。下部に同じような厚み、堆積状況を示すジャリ層と瓦層がみられ、第8図の瓦列はこの瓦層から積まれている。

第4層—部分的にみられる焼土層。ち-45・46グリット付近では60cm前後の厚さを有す所もみられる。本層も下部ではジャリや瓦類の集中する箇所が見受けられた。

第5層—本地区の中央付近から西側に広がる黄褐色土層で、厚い所で60cm前後を測る。窯跡は本層を掘り込んでいる。本来的には無遺物層と考えられるが、上部で部分的に炭の集中するところや瓦類の集中する箇所がみられる。

第6層—いわゆる地山層。東側では青灰色粘土（クチャ）、西側では第3紀砂岩（ニービ）である。東側では上面において遺構の検出や遺物の集中部などがみられた。

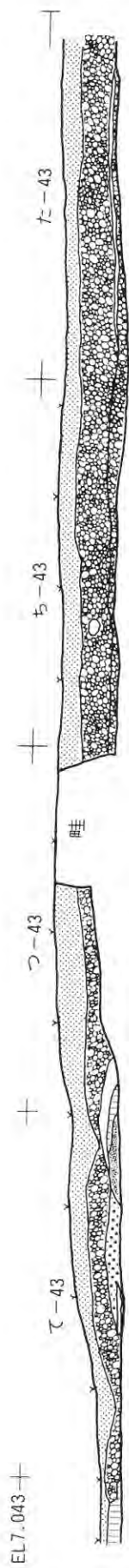
2. 遺構

瓦や塼、レンガなどを縦に積んだ瓦列遺構（第7・9図）、長方形石組遺構（第10図）、長方形の石積みとレンガ・塼積み遺構（第11図）、5基の井戸（第12・13図）、4基の窯体（第14図～第17図）など多様な遺構が検出されている。しかし、それぞれの遺構がどのように関連していたのかを把握するのは困難であった。以下、検出された遺構のうち数ヶ所で確認されている瓦列遺構、井戸、窯体の概要について略述する。

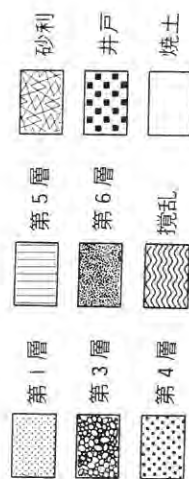
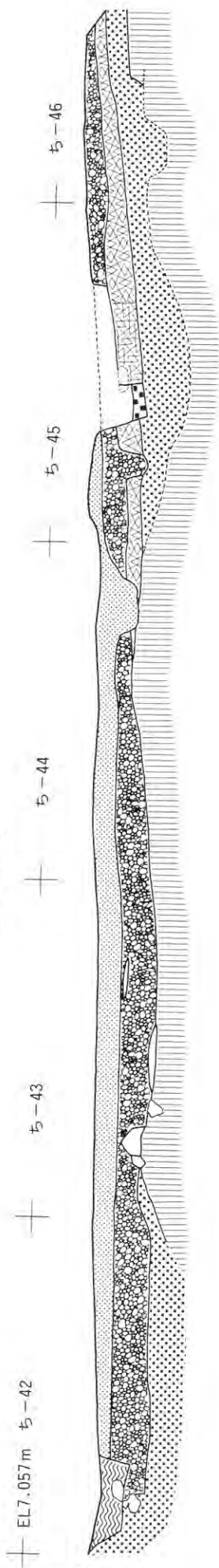
瓦列遺構

本地区中央部で多方向に検出されており、特徴的なものを第7～第10図に示した。直線的なもの（第

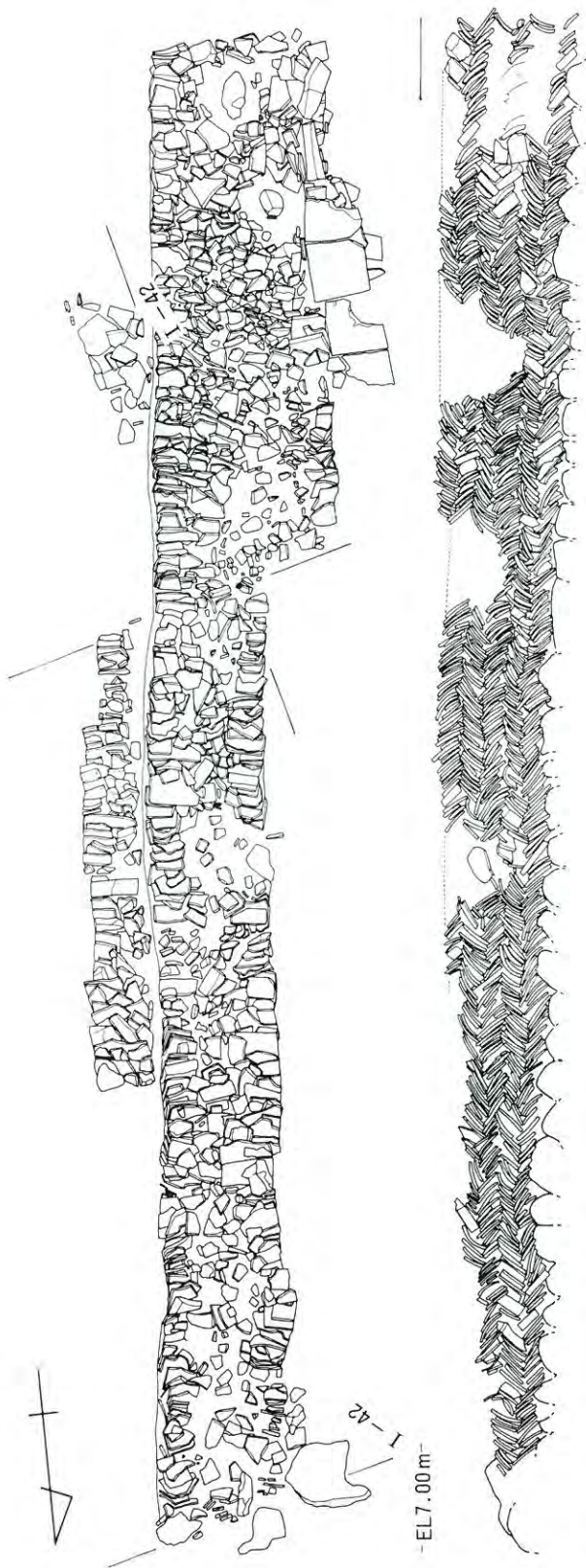
43ライン南壁



ちライン東壁



第6図 層序 (I地区)



第7図 ニー42～さー42瓦列検出状況（I地区）

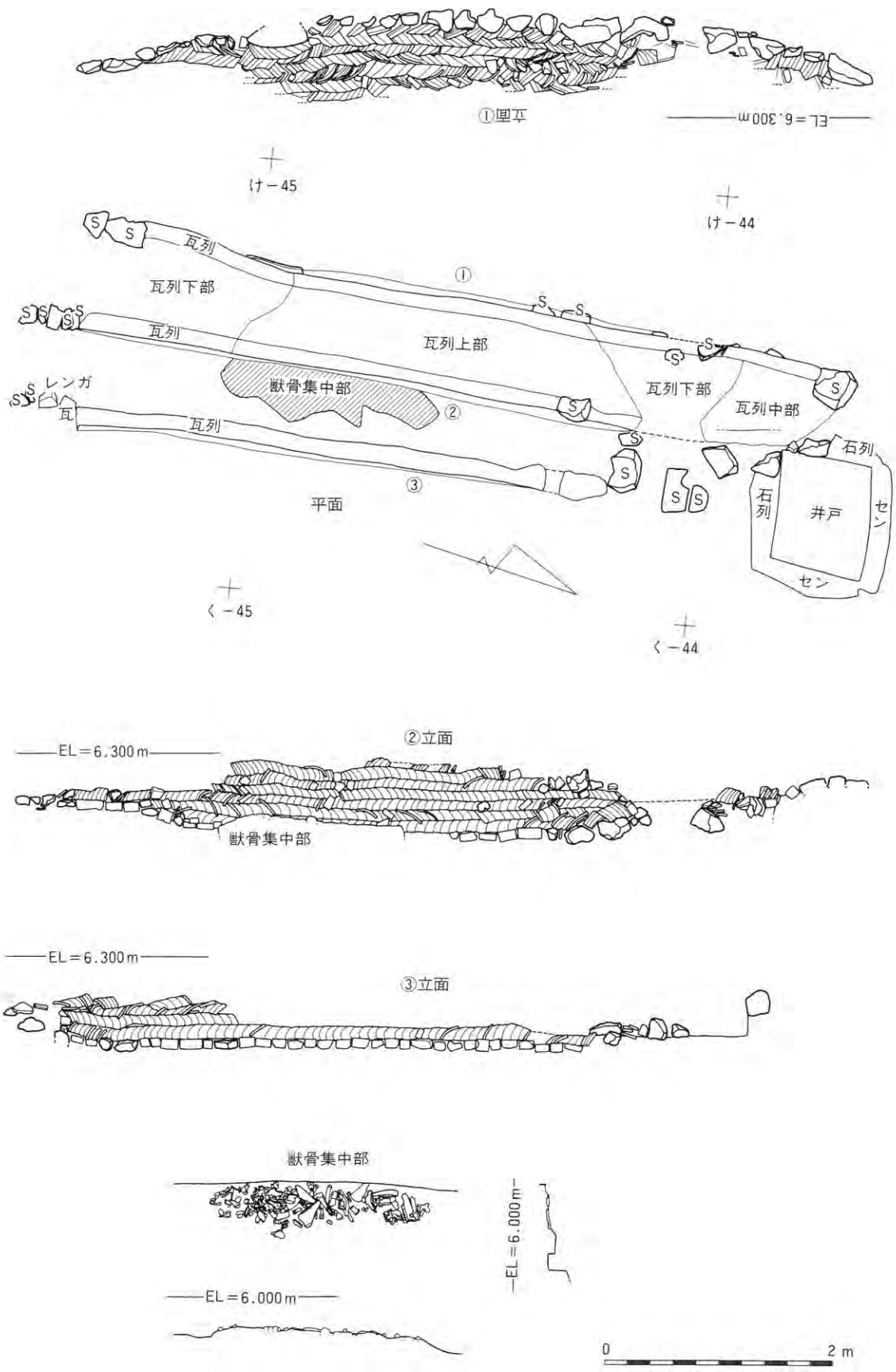
7図・第8図）やL字状になるもの（第9図・第10図）などが見受けられるが、本来的な形状は判然としない。前者のものをみると下部に石灰岩礫やレンガなどを配し、その上から一段一段傾く方向を変えて積んでおり、6・7段確認できる。第7図は約80cm幅で長さ約14m検出されたもの（略南北方向）の北側半分である。瓦を主としており、○に大の字のスタンプが付された瓦類も認められる。第8図は塼が主体で、略南北方向に3列（約40cmの間隔）みられ、両端に石灰岩礫が認められる。第9図は瓦の集中部の外側に斜めにたてられている塼の列がみられる。下部はこれといったものはみられない。

井戸

5基検出されており、第13・第14図に示した。いずれも石灰岩礫を周囲に廻らしているが、1号井戸だけが方形状の囲みで、他は円形状のものである。前者は約70cm四方の広さで、深さが約100cm、他は直径が約50cmで、深さ100cm以上のものである。1号井戸は片側に面を有する礫が多いようであるが、他のものはそういうことにはあまり気を使っていないようである。5号井戸（第12図）は周囲に塼などの列もみられ、井戸を取り巻く広場のようなものをつくっていると考えられる。

窯体

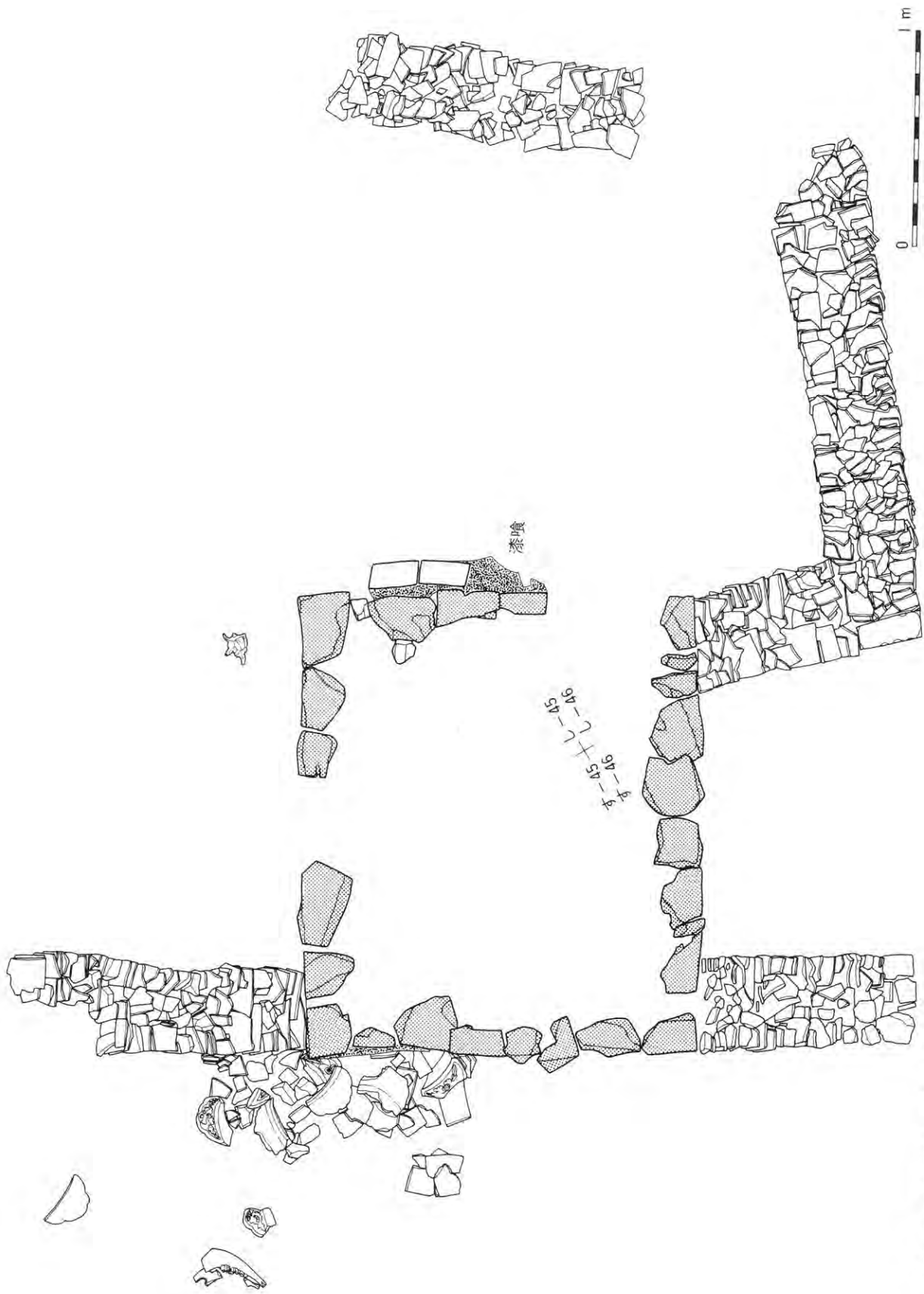
西側で2基、中央部南側で2基がそれぞれ近接して検出されている。いずれも下部構造だけであり、全体的な形状など判然としない部分も多い。周辺の状況などをみると瓦を主に焼いた窯かと考えられる。西側で検出された2基は単室の平窯のようで、焼成室が丸く膨らみ、燃烧室は焚口の方へ直線的にすぼまり逆三角形の空間をつくるというほとんど同じような形状が想定される。南側にある第3号窯（第14図）は壁沿いおよび焼成室と燃烧室の境目にはレンガが配されている。焼成室と燃烧室の境目は30cm前後の比高を有しており、焼成室側に弧を描いてつくられている。焼成室の壁沿いには20cm幅ぐらいの浅い溝状



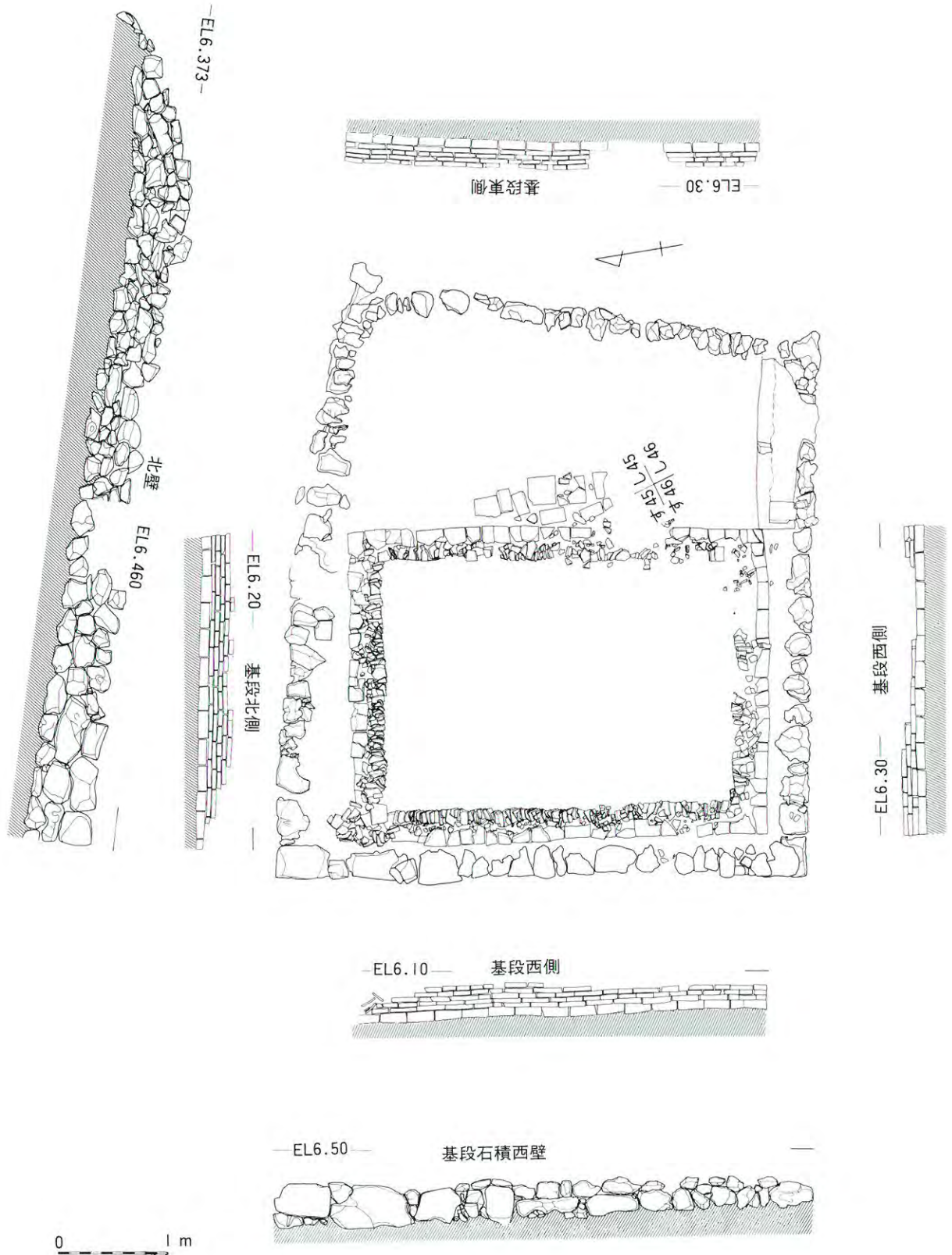
第8図 け43~45グリット検出の瓦列と獣骨集中部 (I地区)



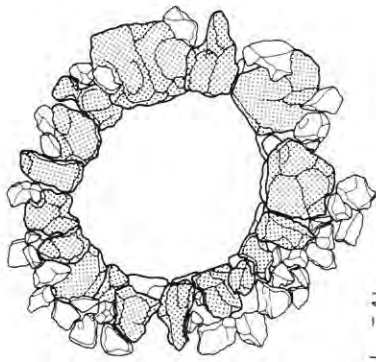
第9図 さ・し・す-43・44磚・瓦検出状況 (I地区)



第10図 長方形石組遺構之瓦列 (I地区)

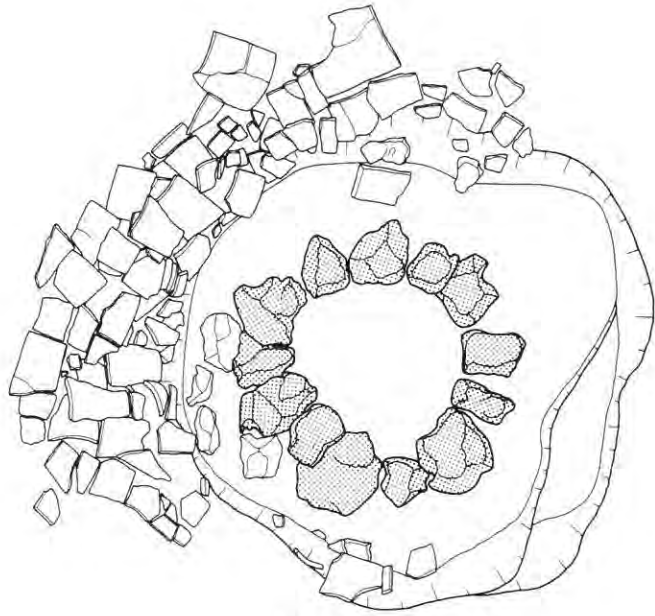


第11図 石列と瓦列 (す・し45~す・し46) (I地区)



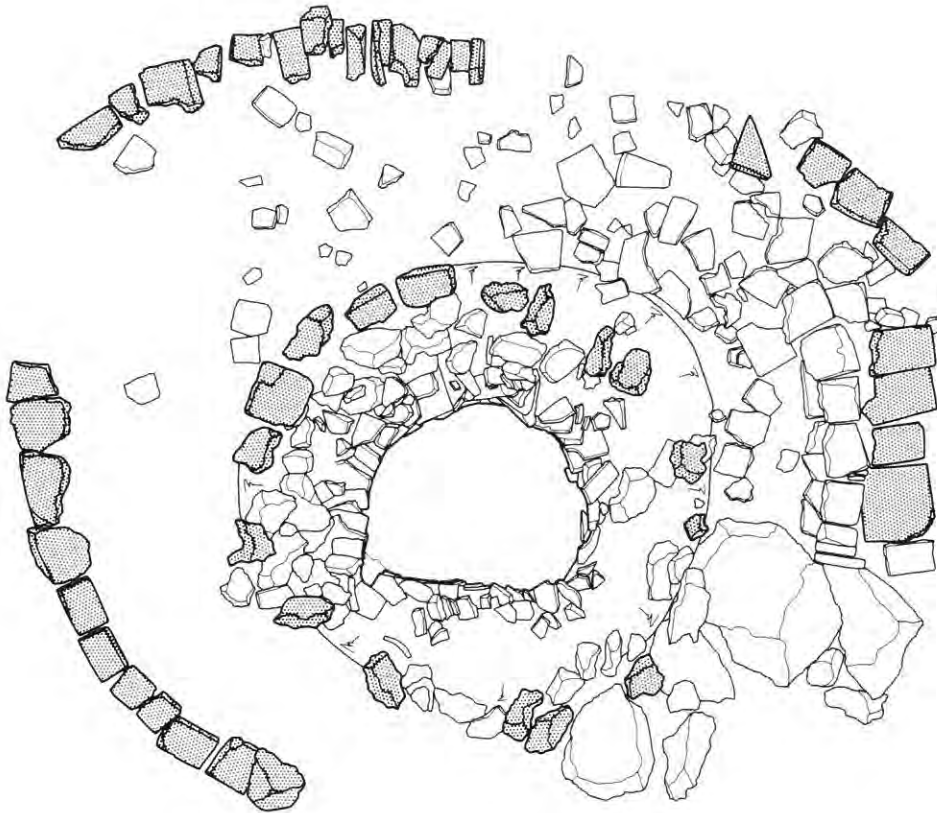
こ41 こ41
 さ42 さ42

こ-41グリッド検出の井戸(2号)



せ47 す47
 せ48 す48

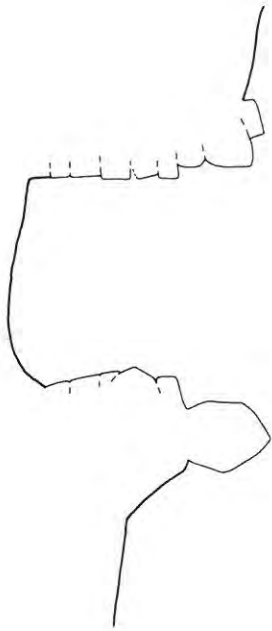
5号窯南側の井戸(3号)



井戸(5号)



第12図 検出された井戸(1地区)

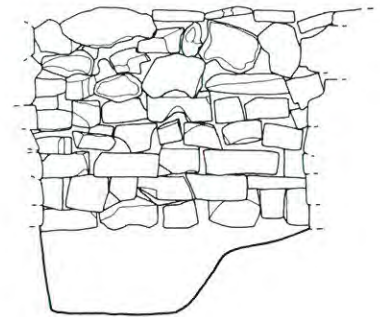


—EL 6.362 m—



①立面

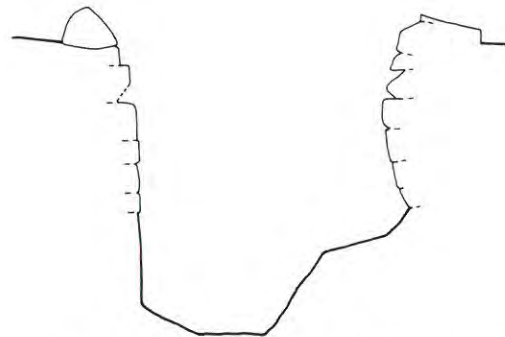
—EL 6.314 m—



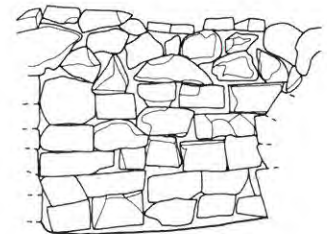
②立面

—EL 6.262 m—

—EL 6.262 m—



け-43グリット検出の溜井(1号)

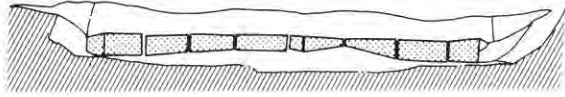


0 1 cm

第13図 検出された井戸 (I地区)

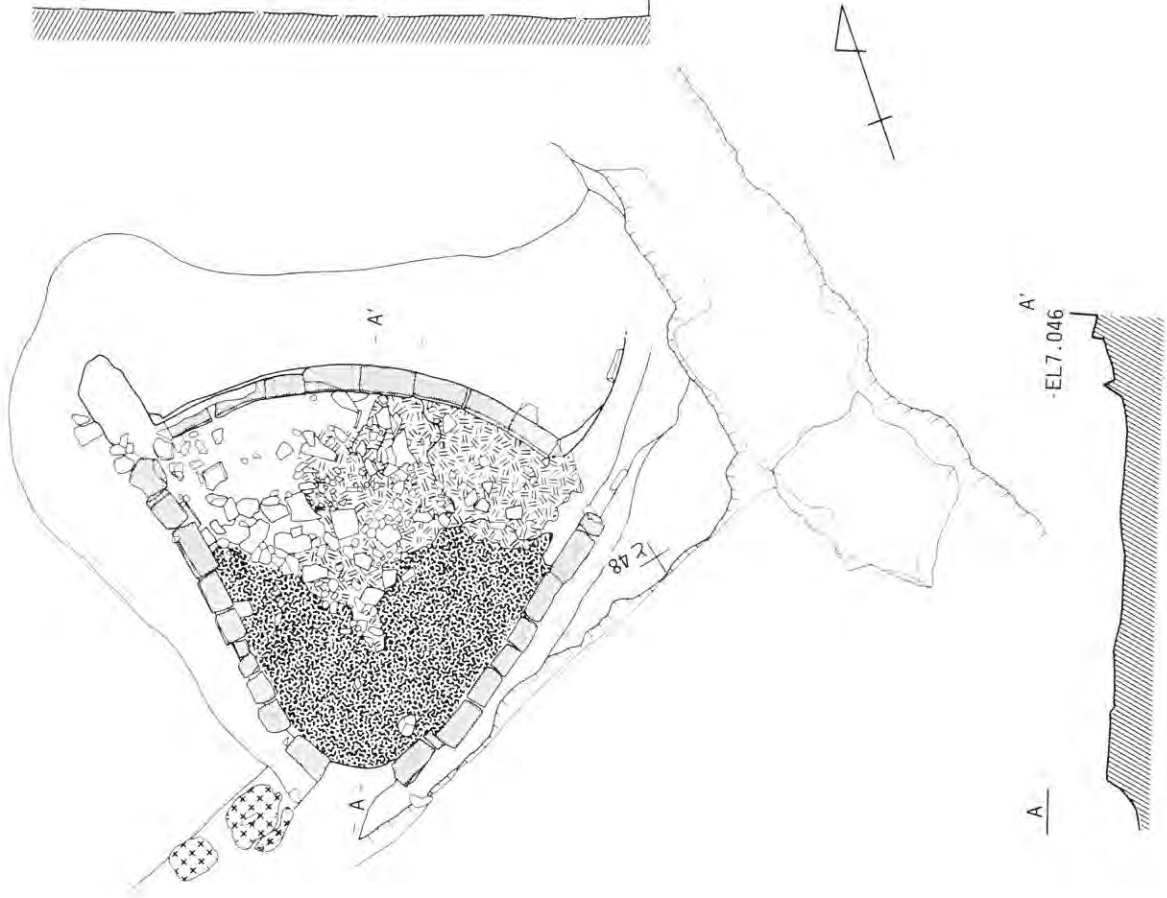
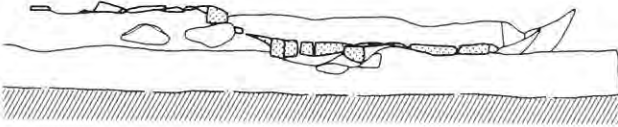
-EL7.148-

正面観



-EL7.248-

正面見通し



-EL7.224-

東側西見通し

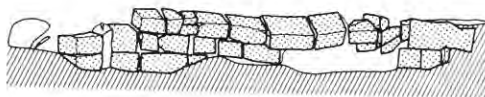
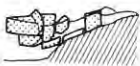


西側面見通し

-EL7.224-

西側面見通し

-EL7.224-



0 1 m

第14図 3号窯 (I地区)

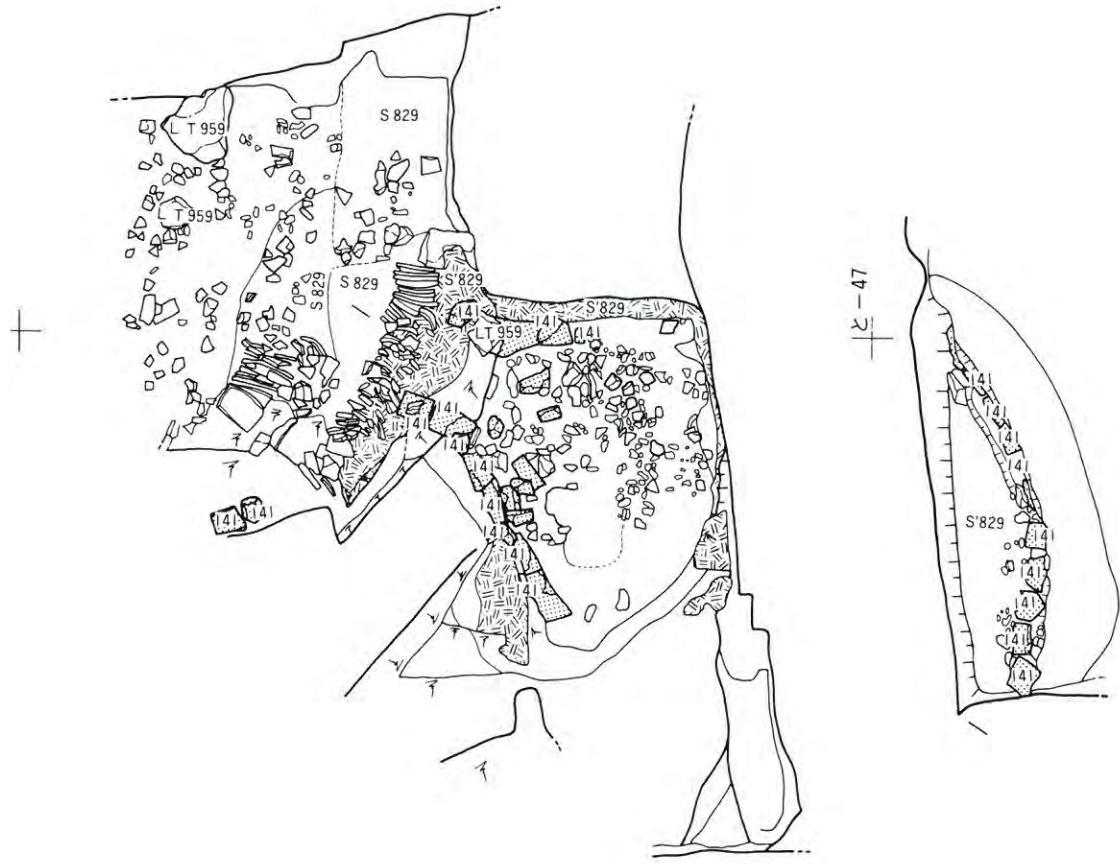
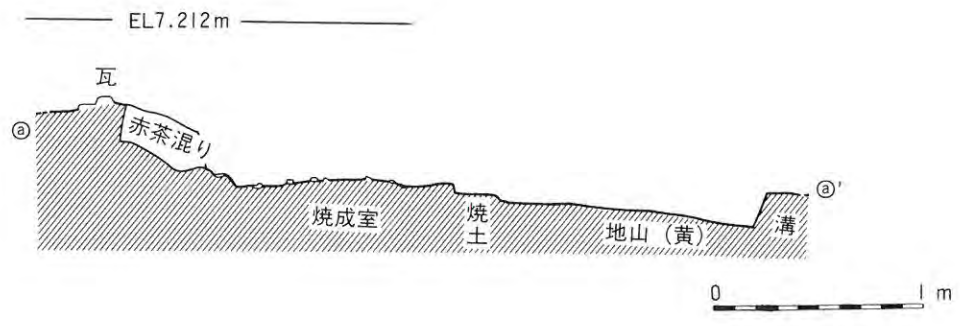
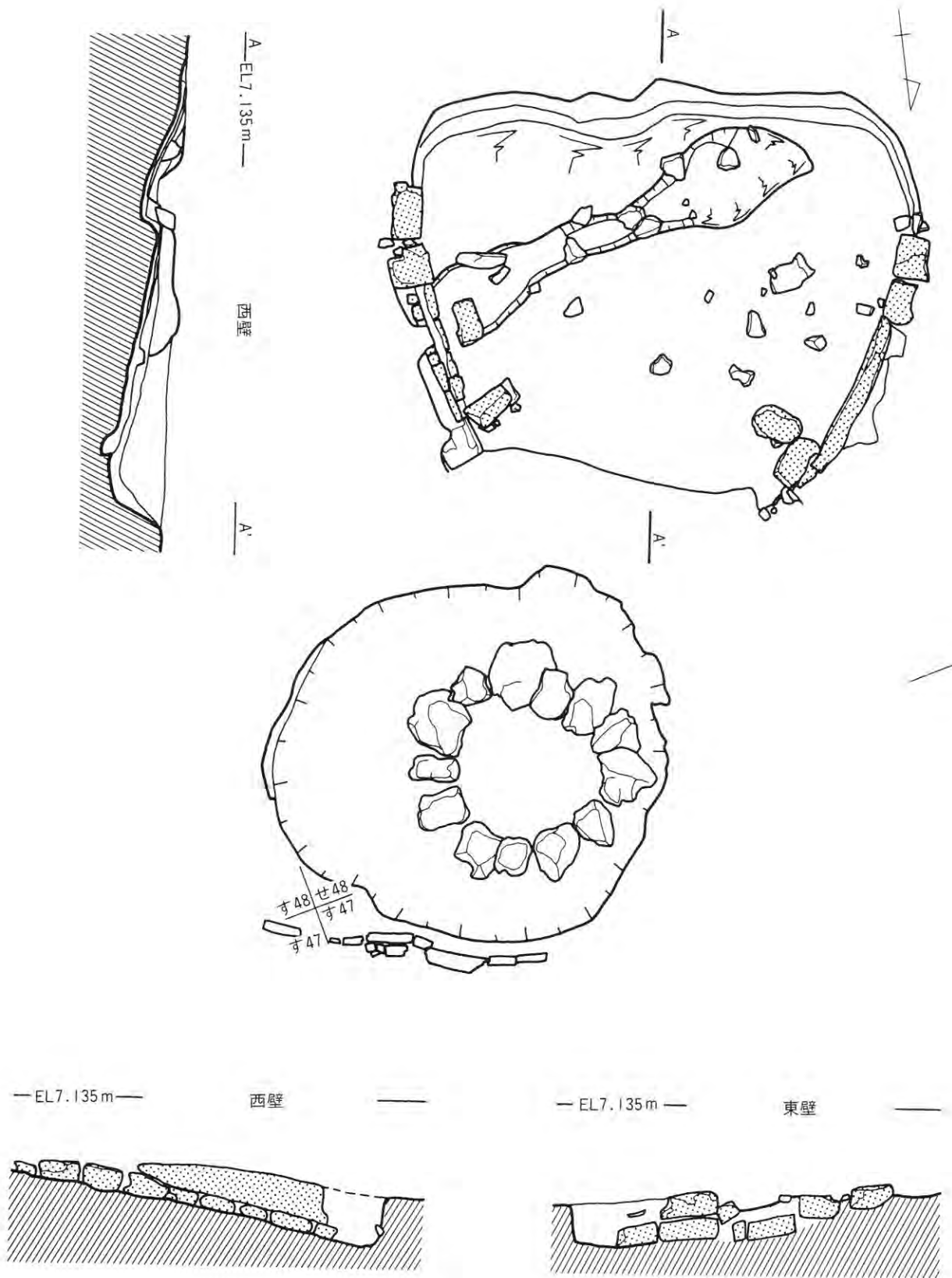


图-46

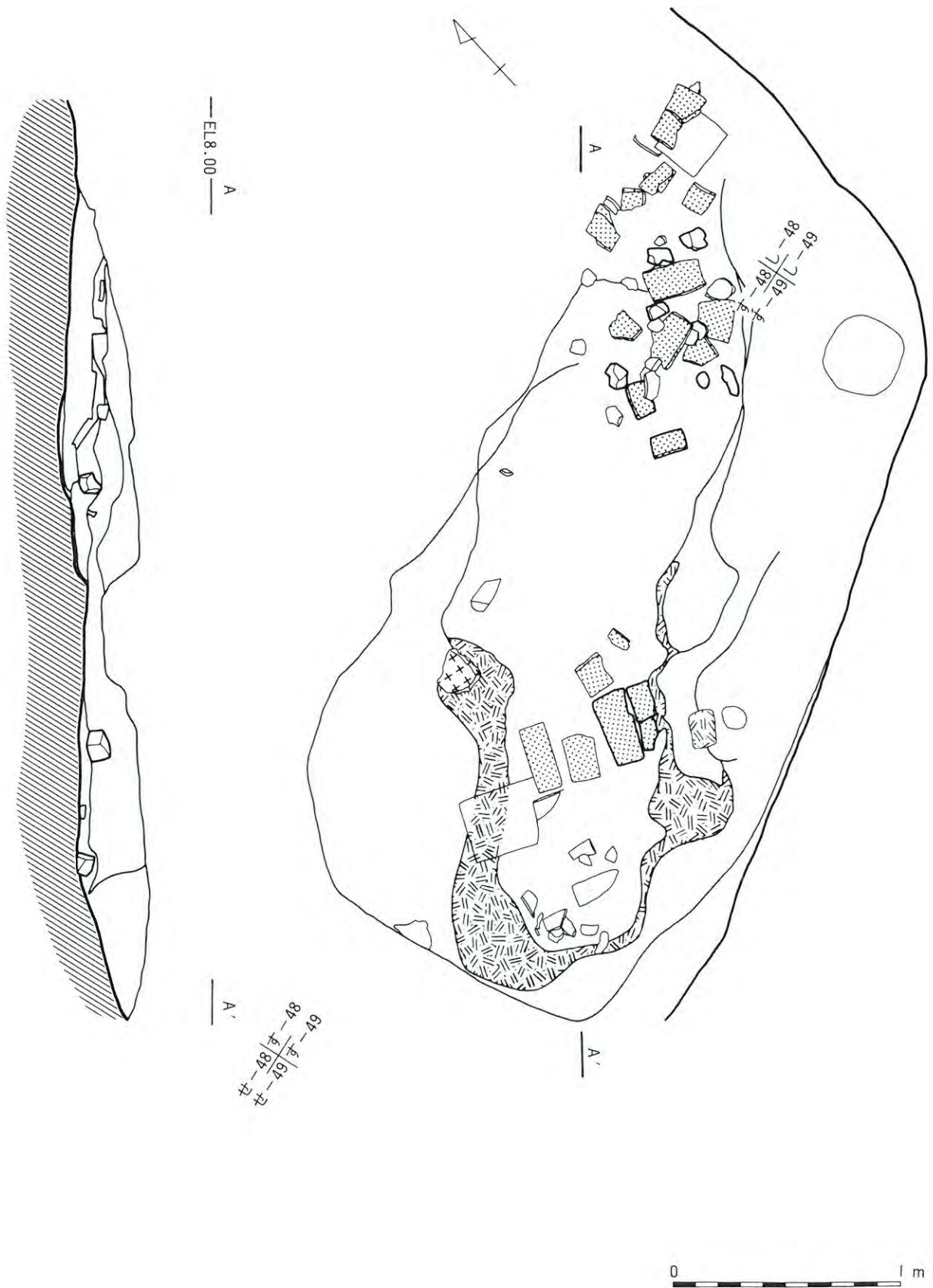
图-47



第15图 4号窰 (I地区)



第16図 5号窯と井戸（I地区）



第17图 6号窠 (I地区)

の凹みが廻るようである。焼成室と燃焼室の境目付近の幅が約250cmで、そこから焚口まで約200cmである。本窯は焼成室がほとんど削られており、焼成室の大きさは判然としない。第4号窯（第15図）からすると焼成室と燃焼室の境目から焼成室の奥までと焚口部までの距離はほぼ同じようである。両者とも主軸は略南北方向にあり、焚口は北側に設けられている。煙道部は判然としない。

中央部南側の2基の窯は全体的な形状や大きさ、内部構造など不明である。ただ、床面が若干傾斜するなど第3号・第4号窯とは趣を異にし、別形態の窯の可能性も考えられる。第5号窯（第16図）は主軸が略南北方向にあり、幅約200cm×長さ160cmの範囲で確認された。ほぼ中央付近で窯道具が出土しており、床面が若干南側へのぼるような傾斜を示す。第6号窯（第17図）は主軸が略東西方向になるようで、幅約100cm×長さ約400cmの範囲である。床面は若干東側へのぼるような傾斜を示す。

第2節 II地区

本地区は今回の調査区の南側に位置している。西側は第3庁舎が建っていた関係で、かなり下方まで攪乱を受けていた。東側は駐車場で平坦になっており、西側に比べ攪乱されているレベルは浅い。しかし、部分的には排水管や電気ケーブルなどの埋設により比較的深く掘り込まれた所も見受けられている。

全体的にみるとかなり攪乱を受けていたものの、発掘調査の結果、比較的保存の良好な状態で検出された2基の平窯、土採り場と考えられる大きな凹部、穴を掘って埋められたブタの骨の検出など当時の湧田古窯の様子的一端を窺わせるような状況が確認できた。以下、本地区の層序および検出された遺構について略述する。

1. 層序

第18図に示した。東側の堆積層と西側のそれでは第5層以下の状況に差異がみられる。つまり、前者の場合には量的に多くないが瓦などの遺物を含んでおり、後者の場合にはまったく遺物を含まない。以下に本地区の層序について概要を記すが、第1層はアスファルトやその下部のコーラル層および建物の基礎部分であり重機で剥ぎ取った。

第2層一部分的にみられる暗褐色混礫土層。旧庁舎建設に伴う攪乱層で、厚い所で約30cmを測る。遺物はあまり得られていない。

第3層—黒褐色混礫土層で、本層も比較的小範囲にみられる。部分的に拳大ぐらいの石灰岩礫が多い箇所と数センチほどの石灰岩礫が多い箇所がみられる。厚い所で約100cmあり、沖縄産陶器や瓦などが多く得られている。

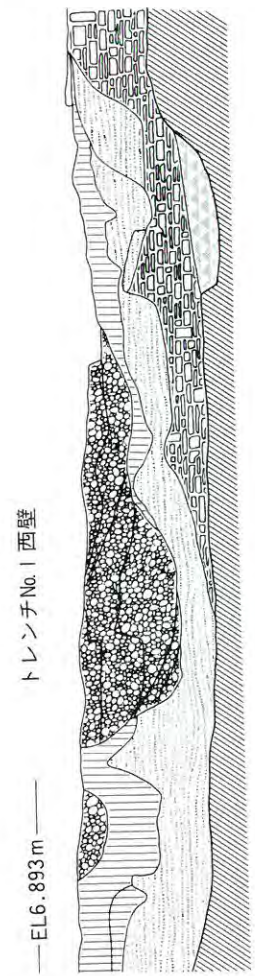
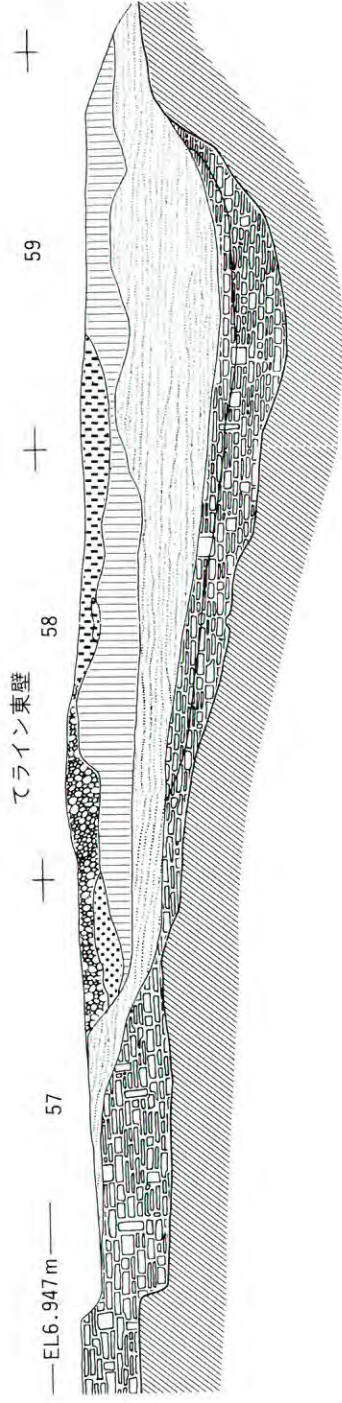
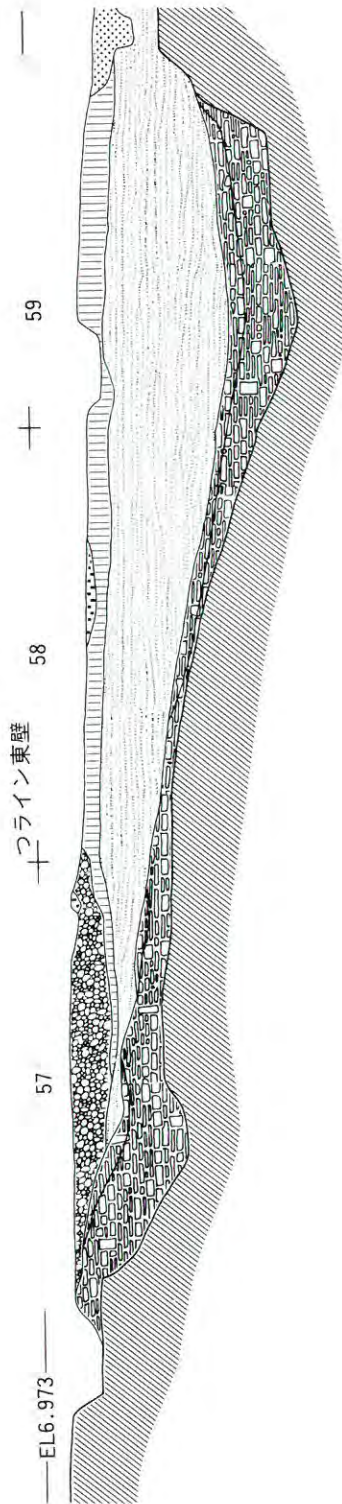
第4層—本層も部分的な範囲を示し、厚い所で約20cmの黄褐色土層である。遺物は少ない。

第5層—本地区全体にみられる層で、ひとつの基準層として把握される、赤褐色の瓦層である。ほとんど灰色瓦で、瓦の間を土が埋めるという感じの箇所も見受けられる。比較的水平方向に堆積しているが、上部が削られ本来の層厚は不明。厚い所で約60cmである。本層の下部ではブタの骨が検出された落ち込み部（第19図）もみられた。

第6層—一部分的にみられる黄褐色土層で、遺物はほとんど含まない。

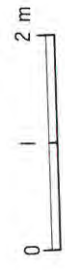
第7層—黄褐色土層で無遺物層。西側で検出された窯は、本層から掘り込まれている。図示した箇所の厚い所で約60cmを測る。東側では厚い所で約100cmあり、散発的に瓦などの遺物が得られ、二次的な堆積を示している。

第8層—黄白色の粘土層。本層も本来的には無遺物層。南側の方へやや傾斜し、40cm前後の厚さを有



凡例

- | | | | |
|--|-----|--|-----|
| | 第1層 | | 第7層 |
| | 第2層 | | 第8層 |
| | 第3層 | | ニービ |
| | 第4層 | | 地山 |
| | 第5層 | | |



第18図 II地区 層序

す。東側では瓦類が散見され、二次的な堆積の状況を示す。
第9層—本地区の基盤をなす第3紀砂岩（ニービ）層。

2. 遺構

本地区ではブタ骨の検出された落ち込み部（第19図）、带状遺物集中部（第20図）、2基の窯体（第21図、第22図）などがある。以下、それぞれについて概略を述べる。なお、2号窯の煙道付近で検出されたネコの骨については割愛した。

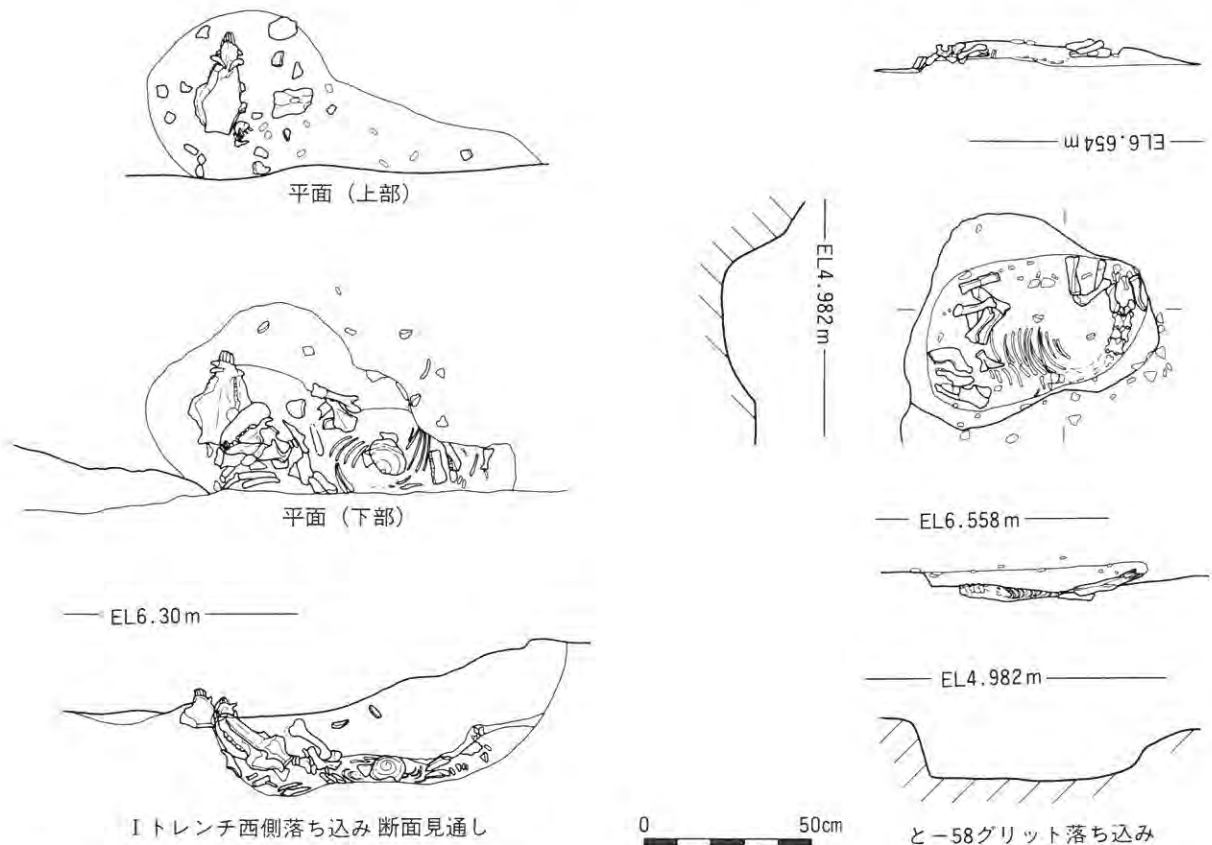
落ち込み部

とー58、なー57グリットで確認されており、第19図に示した。両者とも第5層の時期のものと考えられる。とー58グリットの落ち込み部内は略楕円形状になっており、長軸が約80cm、短軸が約40cmを測る。深さは15cm前後で、比較的浅い。検出されたブタの骨は頭部を東側に向け手足は南側に位置していた。ブタDとされているものである。

なー57グリッドのものは東側部分が削られている（排水管の埋設）ものの隅丸長形状の平面が想定される。長軸は南北方向にあり、100cmを越すようである。深さは約50cm掘り込まれ、前者のものに比べかなり深い。上顎・下顎骨が南側で集中的にみられ、それから北側へは四肢骨が多く検出された。数個体分の骨があり、ブタA・B・C・Eとされる。第1号窯の東（主軸ライン近く）約3mと近い距離にあり、窯との関係も注意される場所である。

带状遺物集中部

灰色瓦の破片を主に搏やサンゴ礫などが50cm前後の幅で集中し、带状に長く南西～東北方向へ延びて検出された（第20図）。約10cmの浅いナベ底状の凹部に堆積しているものと判明したが、性格的なものな



第19図 ブタ出土状況（第5層）（II地区）

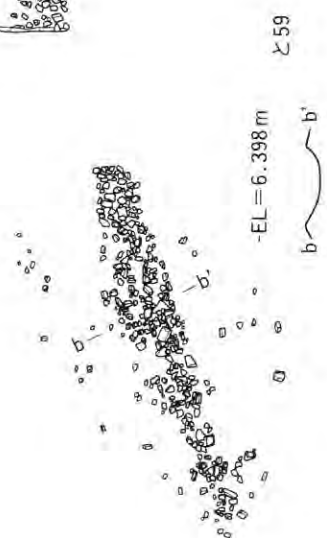
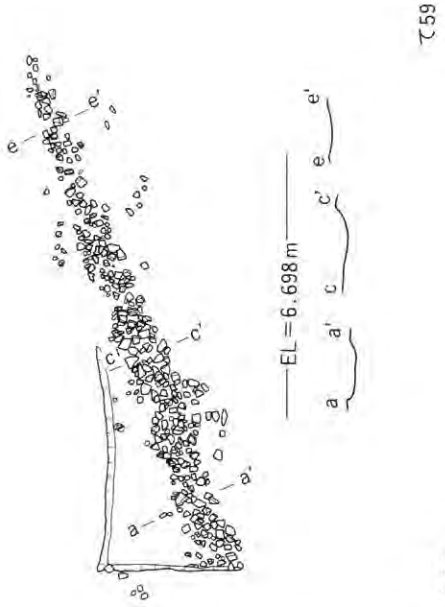
ど詳細は判然としなかった。

窯 体

本地区の西側で平行して（約250cmの間隔）2基確認できた。南側のものを1号窯（第21図）、北側のものを2号窯（第22図）とした。この2基の他に1号窯に南接するように煙道部を形づくっただけの部分もみられた。1・2号窯とも単室の平窯で、同じような大きさ、形状であり、同じ時期につくられたものと考えられる。この2基の窯をみると各部屋の仕切りにレンガが残っている2号窯の方がより作業時の形状を残しているものと考えられ、1号窯はレンガが取り去られた状態かと解された。1・2号窯とも主軸は東比一南西方向にあり、焚き口は南西側に、煙道は東北側に位置している。

レンガの残る2号窯をみると燃焼室の半分ほどが壊されているものの、平面形がたまご形に近い形状を呈していたかと想定される。中央よりやや西側付近で約140cmの段差を設けて燃焼室と焼成室にしており、その段の部分にはレンガを積んでいる。レンガは横にして積んでいるが、上1段だけは縦にしている。レンガは下段よりも上段が約30cm焼成室側に入り込むように積み上げられ、平面的には焼成室側の方へ弧を描くように積まれている。燃焼室では積まれているレンガの半分ぐらまで炭の堆積があり、下部では炭化した木片もみられた。

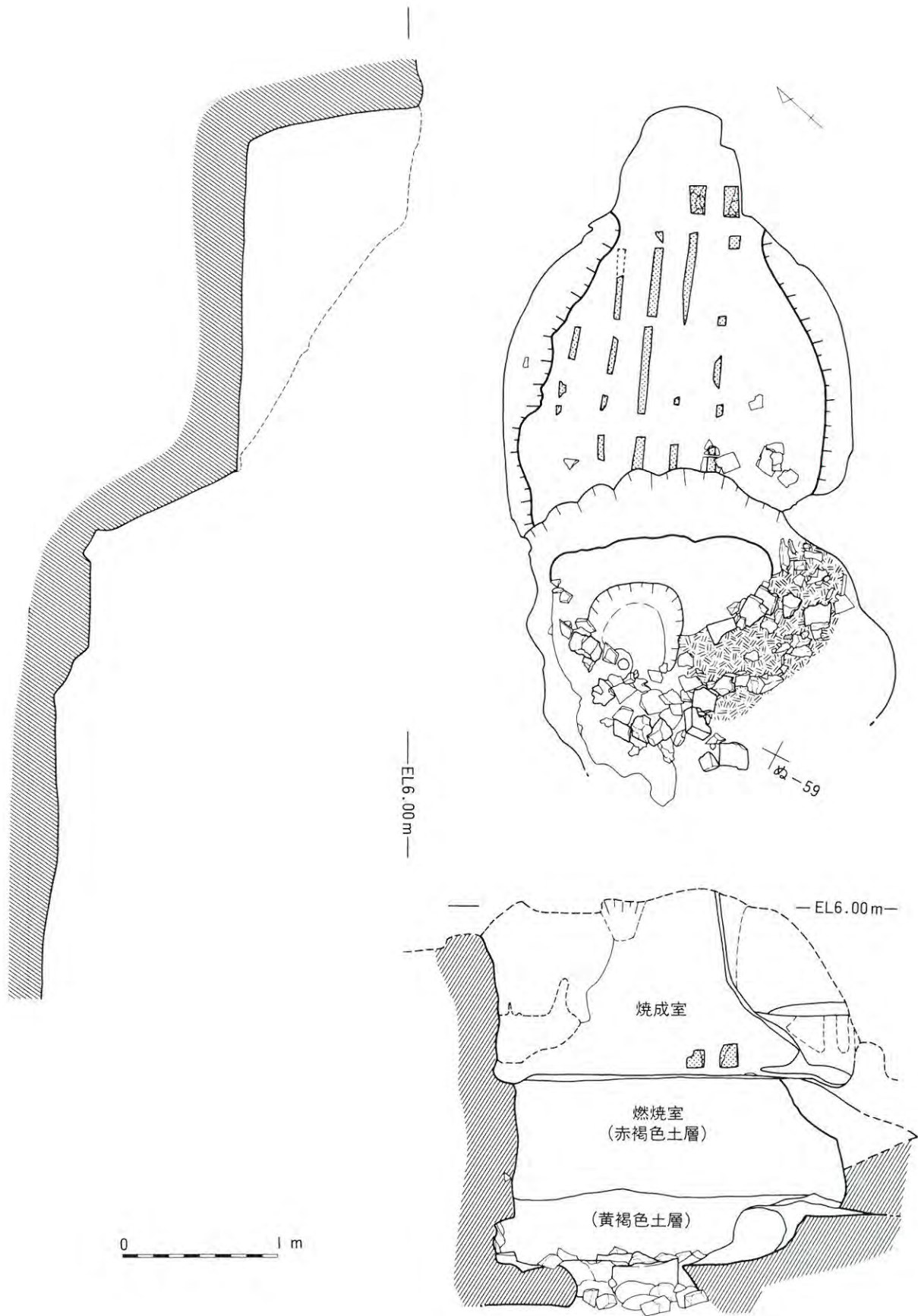
焼成室は床面の面積が概ね4㎡で、壁沿いに浅い溝状の凹部が廻る。床面にはレンガが立っているところが数ヶ所みられる他、レンガの抜け跡やその部分だけ灰色になった箇所などが見受けられた。焼成室と燃焼室の境目に積まれたレンガの上でもそのような箇所がみられることから、通炎孔や分炎柱、坑道など内部の構造についてもあるていど想定できるようである。1号窯では床面に残る灰色部分の痕が2号窯のものに比べ細く、塼が利用されたものと考えられる。高いところで100cmほど残る壁をみると若干弧を描いており、ドーム状の天井が想定される。天井は常設のものではない可能性が高いようである。また、床面にたてられるレンガの高さとあうように壁面に若干のでっぱりを設けている。煙道は焼成室の先端中央部に設けている。幅約60cm、奥行が約50cmで、やや東側へ斜めに掘っている。焼成室との境目にはレンガを配している。窯壁は7cm前後の厚味があり、1号窯では内側の面の削り調整の痕が明瞭に残る場所も見受けられる。1号窯もその規模や形状、内部の構造などほとんど2号窯と同様であり、同じような窯の構築技術のもとに両者がつくられたことが窺える。



II区

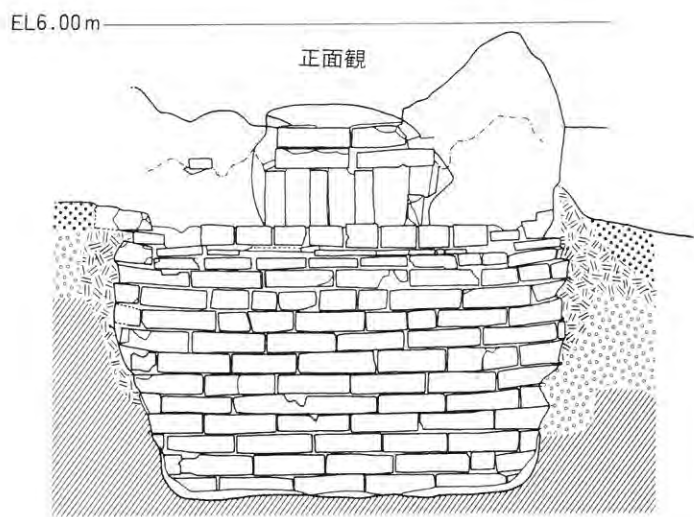
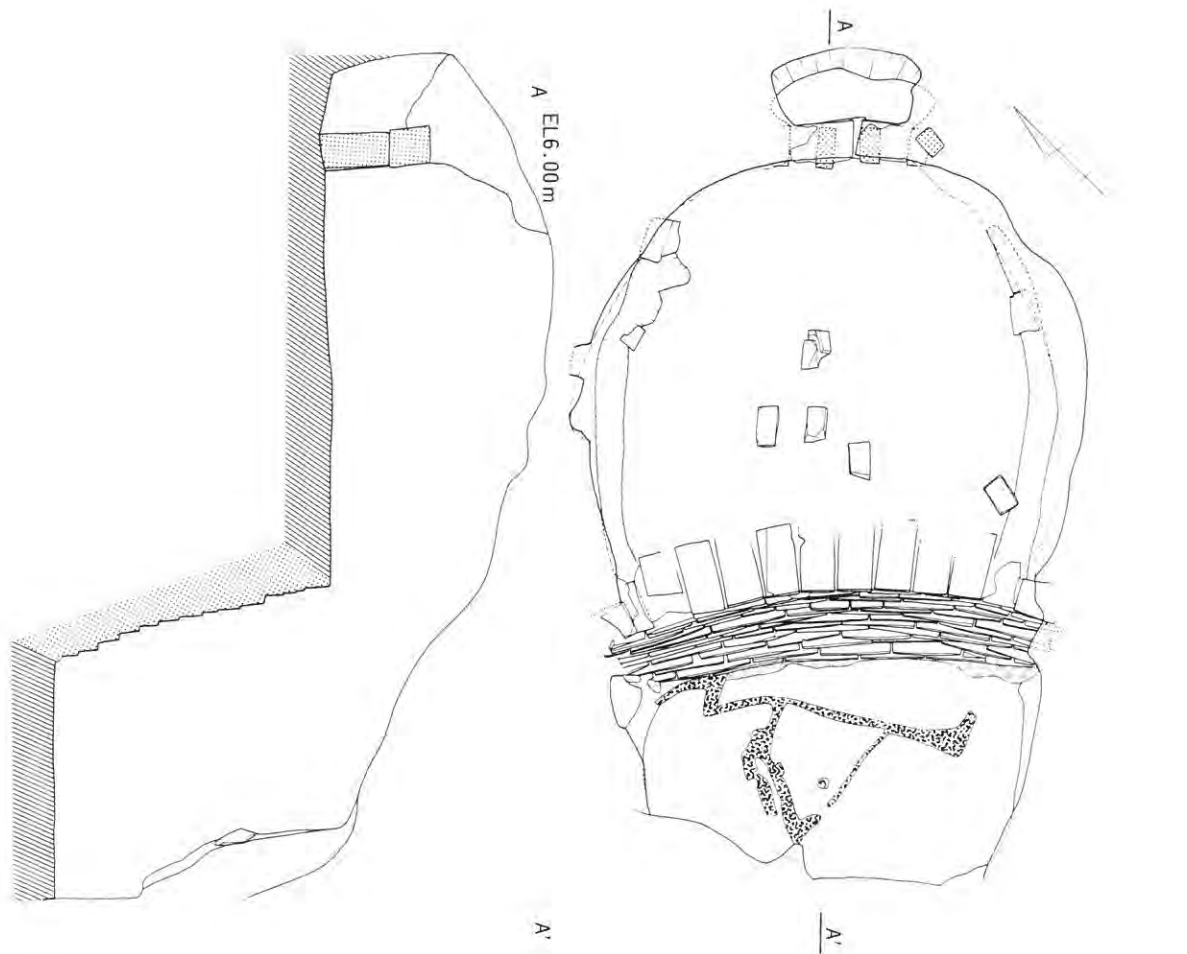


第20図 带状遺物集集中部 (II地区)



西側から奥を見通した正面図

第21図 1号窯 (II地区)



第22図 2号窯 (II地区)

第3節 III地区

本地区はI地区の西側にあたり(第23図)、瓦類が廃棄された場所として捉えられた。東側の方はかなり平坦に削られており、基盤の第3紀砂岩(ニービ)層が露出している。そのため本地区の上方がどのような状況であったのか不明である。南側は旧第5庁舎の建設で下方まで掘り込まれ、西側は止水壁をつくる際に大きく攪乱されている。また、瓦類の堆積している場所のやや北側寄りに排水管が埋設されており、その部分も下方まで掘り込まれている。

本地区は全体的に西側へ傾斜しており、その傾斜に沿うように堆積層が確認された。50ラインに設けた畦の北壁と排水管理設のために掘り込まれた箇所の南壁を第25図に示した。全体的に南東側の方から北西側の方への流れが想定され、北側まで及ばない層も認められる。本地区からはほとんど瓦類だけが出土しており、他の焼き物としては第2層上面から壺屋焼きの碗が出土しているぐらいである。以下、今回確認された層序について簡単に述べる。

第1層—赤褐色土層。上部が平坦に削られており、本来の層厚は不明。両方の断面に比較的厚く認められることから、本地区の全面を覆っていたものと考えられる。50ラインでは上部が削られ、2ヶ所に分断された形になっている。土は堅くしまり、瓦の小破片を含む。

第2層—本区の西側、攪乱部付近にみられる赤褐色の瓦層である。厚い所で約30cmを測る。瓦は割りと小さ目の破片が主体で、上面からは壺屋焼きの碗が数個体分がまとまって出土している。

第3層—本地区の中央部付近にみられる黄褐色土層である。50ラインの断面にみられるものの、上部が削られており、本来の層厚は不明。

第4層—本地区の中央付近にみられる暗褐色土層で、厚い所は30cm前後を測る。堆積している瓦が割りと大き目で、瓦の間にやや隙間がみられる。

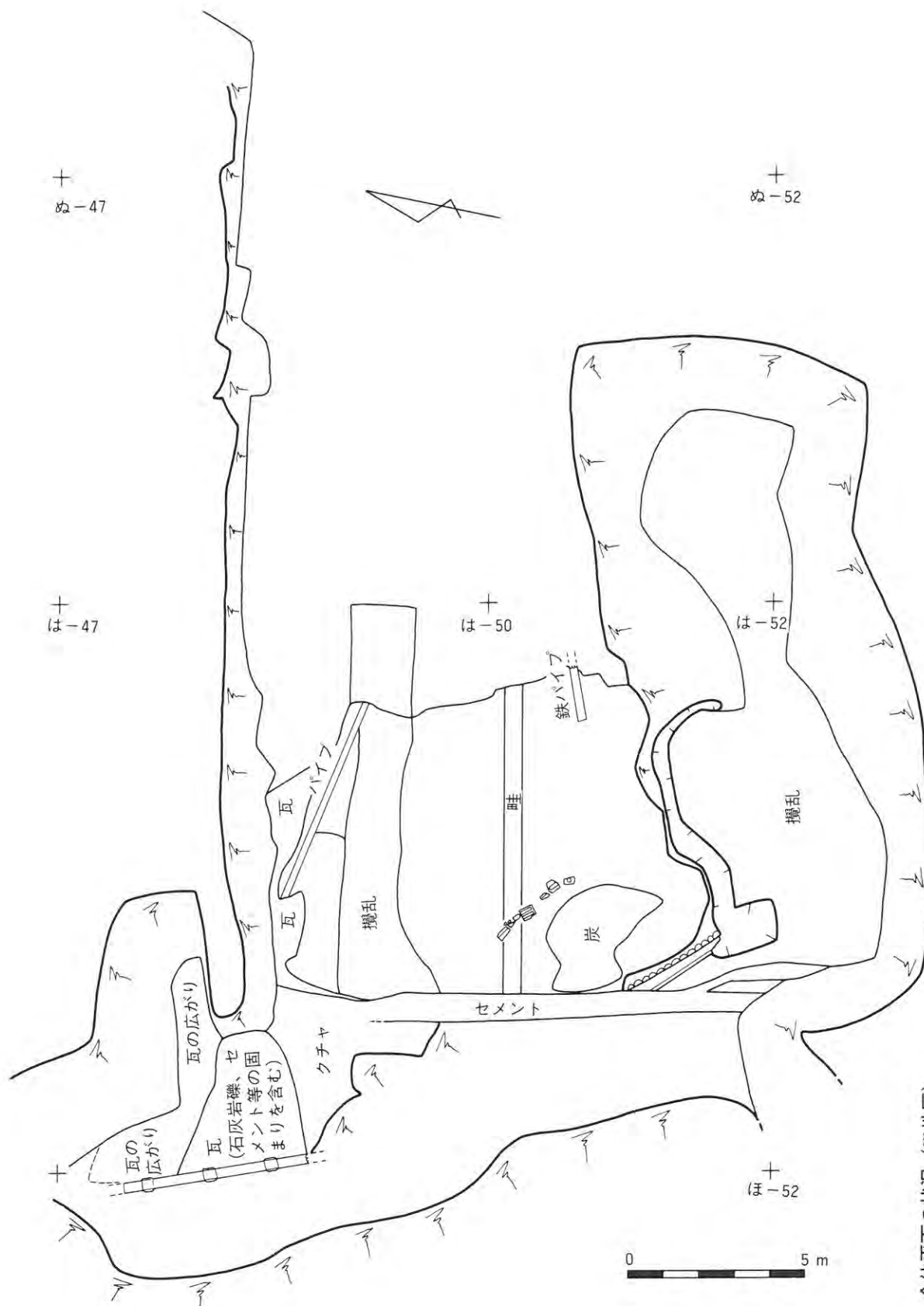
第5層—黄褐色土層。斜面の上部から下部までみられるが、本地区の南側に広がり、北側には及んでいない。厚い所で約30cm、瓦の包含量は第4層とあまり変わらない。

第6層—斜面上部の方にみられる暗茶褐色土層で、上方で厚く約60cmの層厚を有している。出土する瓦の破片はやや大き目である。

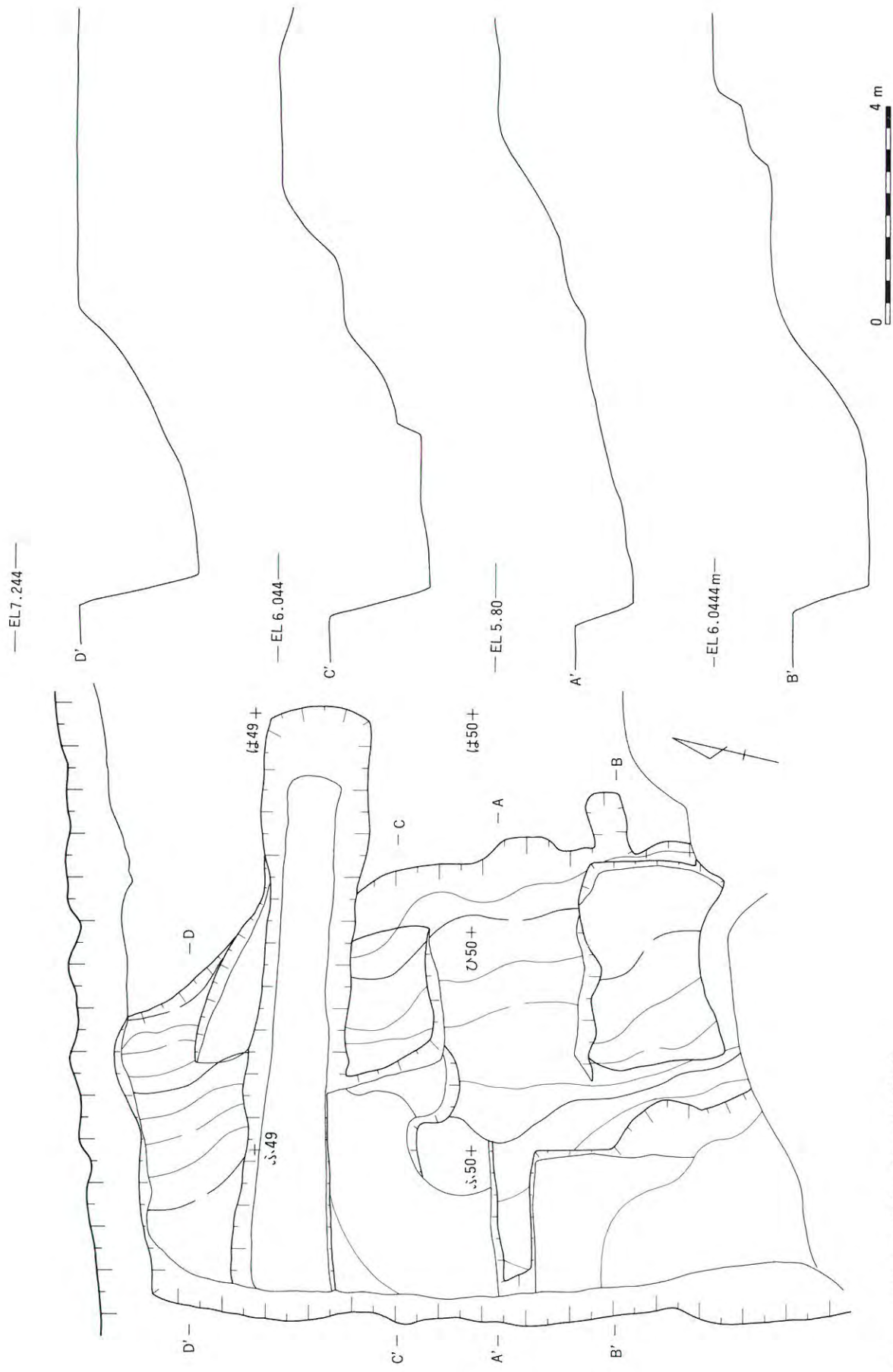
第7層—本地区の中央付近から北側へ広がる淡橙色混土瓦層で、北側の厚い所では100cmを越す。出土する瓦も破片の大きなものが目立ち、数枚が溶着したものなども見受けられる。瓦の堆積した中に土が入り込んだような状況である。

第8層—本地区の北側にみられる淡橙色粘質土層で、範囲はそれほど広くない。厚い所で90cm前後を測るが瓦の包含量はそう多くない。

第9層—第3紀砂岩(ニービ)層。本地区の基盤をなす層で、無遺物層のいわゆる地山。



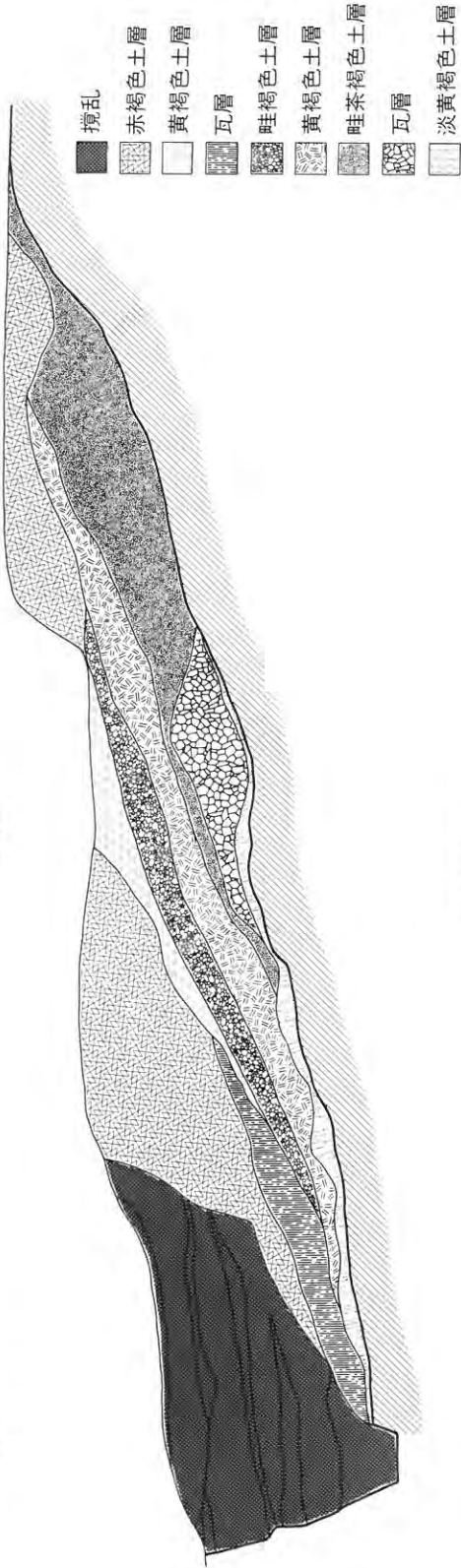
第23図 全体平面の状況 (III地区)



第24図 完掘後の地形と断面 (III地区)

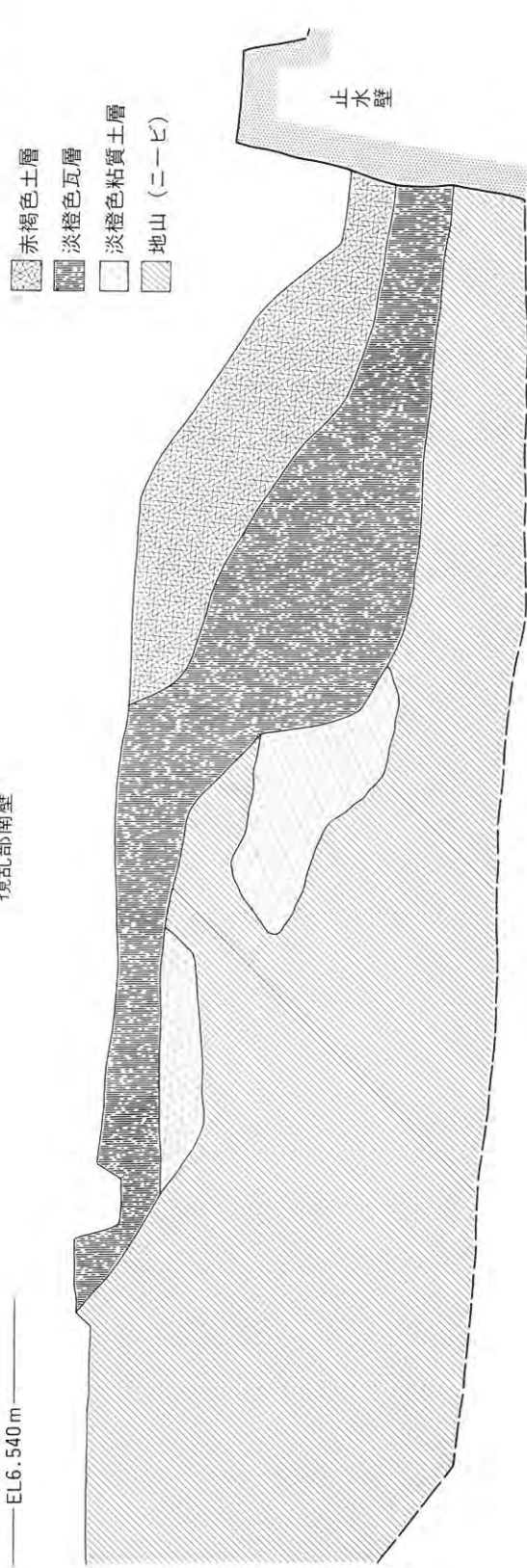
— EL6.035 m —

畦北壁



— EL6.540 m —

攪乱部南壁



第25図 層序 (III地区)

第V章 出土遺物

第1節 青磁

第26図～第34図がI地区、第35図がII地区の出土である。第26図～第30図1は碗形である。第26図1・2は口縁部端反りの碗である。同図2は見込みに印花文（草花文）を施す。年代は14世紀末～15世紀中葉である。同図10は外面篋描き蓮弁文で見込みに印花文を施す。年代は15世紀中葉である。他は見込みに印花文を施す碗で、年代は15世紀中葉～16世紀初頭及び15世紀後半～16世紀中葉である。

第27図～第29図1～9は剣先形蓮弁文碗である。この種の碗は、蓮弁文の文様形態によって大きく3種に細分できる（註1）。剣頭と蓮弁の間隔が密で剣頭と蓮弁がほぼ一致するもの（第27図）、剣頭と蓮弁の間隔が広くなり、剣頭と蓮弁が一致しないもの（第28図）、蓮弁の間隔が広く剣頭を持たないもの（第29図1～9）である。第29図10・11は雷文帯をもつ大振りの碗である。見込みに鹿文様、内面には窓絵を印花により描く。年代は15世紀である。

第30図2・3は小碗で剣先形蓮弁文を描く。

第30図4～19、第31図1～6は皿形である。第30図7は篋描きによる蓮弁文を施す。年代は14世紀後半～15世紀初頭。同図4～6、8・9は小型皿である。10～12は菊花形皿である。13は口縁部が外反する皿で見込みに印花文を施す。高台内に窯道具の熔着痕がある。同図14・16、17・18は腰折皿で年代は15世紀後半～16世紀中葉である。15は口縁部外反の皿である。15・16は見込みを丸く釉剥ぎを行う。19は景德鎮窯産の皿である。素地は緻密で器壁が非常に薄い。高台内のみ透明釉を掛けている。第31図1～6は稜花皿である。同図4は見込みに線描きで「太」字を描く。同図5は高台内に窯道具の熔着痕がある。同図6は焼成不良のため釉薬が発色せず、濁った白色を呈する。

第31図7、第32図1～3は盤である。第32図1は口縁部を稜花形に作り、外面に丸彫りの蓮弁を施し、内面に篋描きで唐草文を描く。同図4・5は酒会壺で、外面に片切彫りの蓮弁を施す。第33図1～6は小坏、同図7～16は瓶である。同図3は外面片切りの蓮弁を施す。同図7・8は瓶の胴部で胴下半部に片切りによる蓮弁を施す。同図15は口縁部を輪花形に形作り、頸部に蕉葉状の文様を施す。同図14と16は同一個体の可能性がある。

第34図1～5は蓋、6は小壺、7～10は特殊器形、11は香炉、12は鐘形？である。同図5は非常に珍しい形態のもので残存部から想定すると八角形を呈するようである。7～10は瓶等の装飾に使用されたようであるが、実際どのような器種に伴うのかは不明である。12は鐘形？で上面に一孔を穿いた後釉掛けを行っている。内面に熔着痕様のものが4か所みられる。

第35図はII地区出土のもので、全体的に出土量は少ない。同図1～4は碗、同図5～7は皿、8は燭台、9は水注の注口、10は摺鉢、11は器種不明、12が盤である。8は灯芯の周囲に片切りの細線を巡らし、脚部の周囲には雷文が巡る。脚は残存部から想定すると6本脚となるようである。脚部内面は無釉である。

第59図26はIII地区出土の碗である。無文の碗で、見込みを丸く釉剥ぎを行っており、窯道具の熔着痕がみられる。高台無釉である。

註

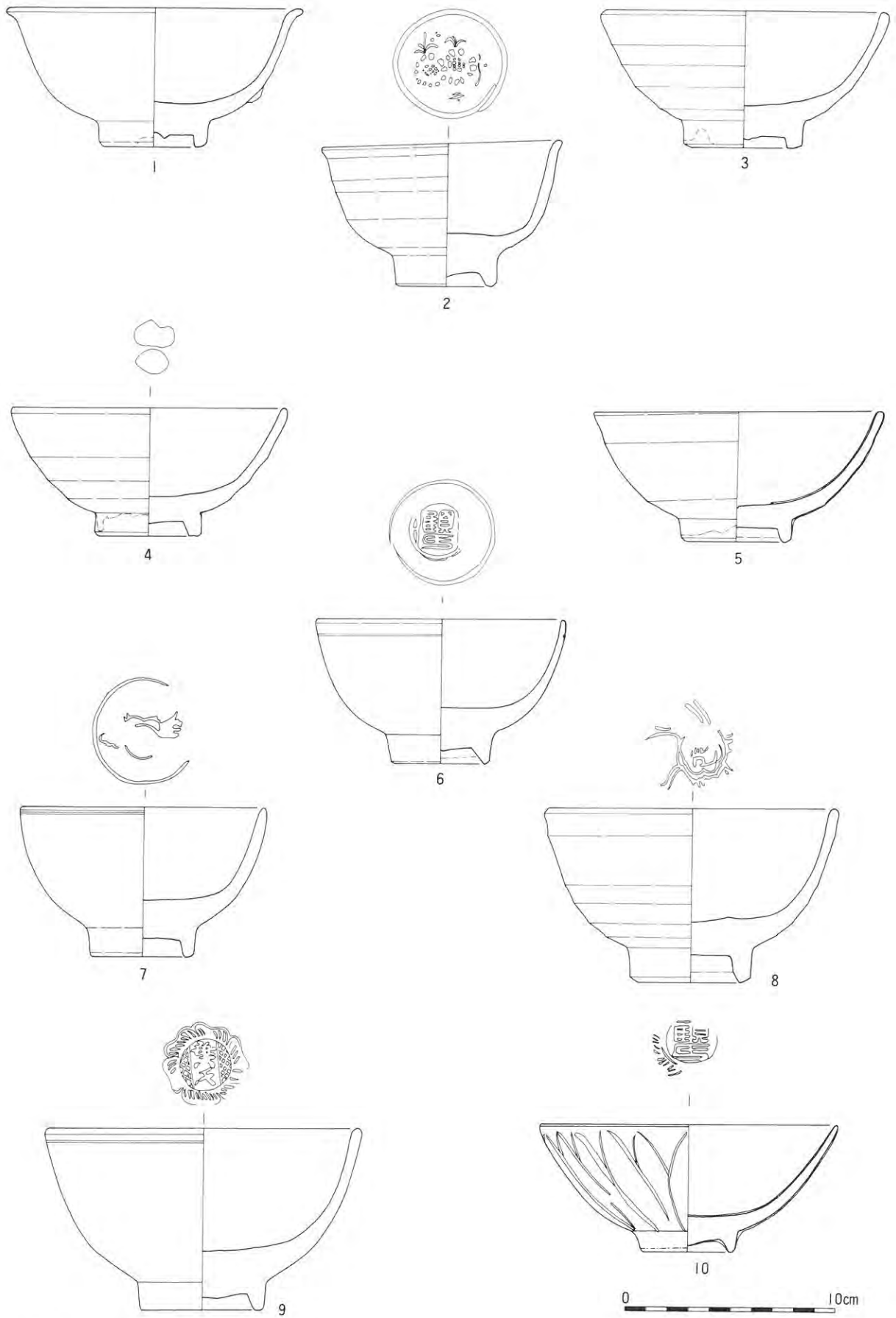
註1. 大橋康二氏の御教示による。

第1表1 青磁観察一覧

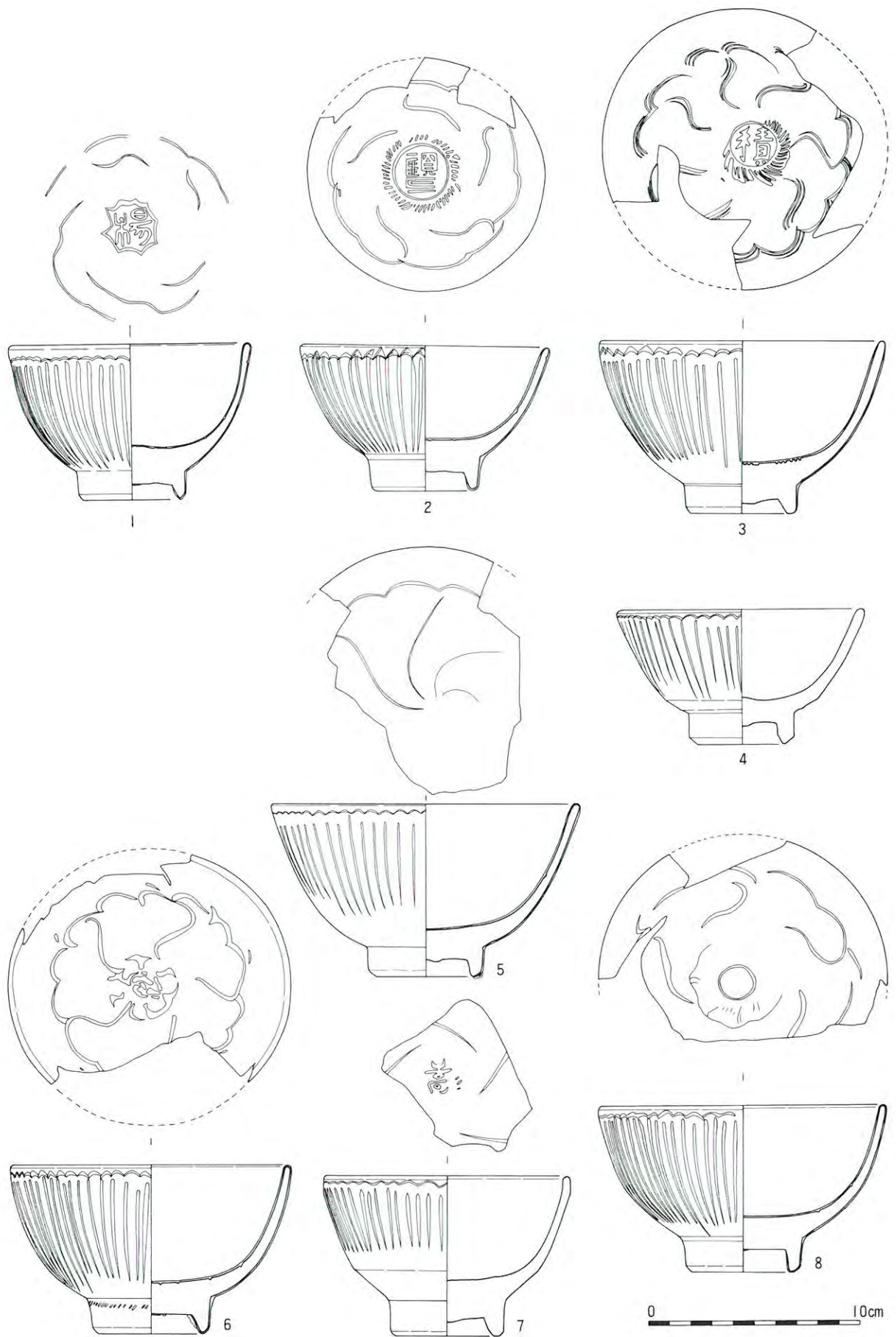
| 図 | PL | 地区 | 形状 | 部位 | 器形 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 |
|----------------|----------------------------------|------------------|-----------------|------|-----------|------|------|-----|--|---------------|-------------|--------------------------|
| 第26回 PL. 35 | 1 | こ45 | 3瓦層 | 碗 | 完形 | 14.2 | 6.6 | 5.1 | 口縁は端反り。 | 竜泉窯系 | 14C末～15C中葉 | 高台無軸。 |
| | 2 | L46・き45 皿・く46 | 1瓦層・2瓦層 | 碗 | 完形 | 11.5 | 7 | 4.8 | 外面無文・見込み印花文(草花文)・端反り。 | 竜泉窯系 | 14C末～15C中 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 3 | せ42 | IV | 碗 | 完形 | 13.8 | 6.5 | 5.7 | 外面無文か? | 福建・広東系 | 15C後～16C中葉 | 高台無軸・見込み丸く軸刺ぎ・焼成不良。 |
| | 4 | こ48 | 2瓦層 | 碗 | 完形 | 13.2 | 6 | 5.1 | 外面無文・見込み印花文か? | 福建・広東系 | 15C | 高台無軸。 |
| | 5 | L42 | 2層 | 碗 | 完形 | 13.8 | 6.3 | 5.3 | 内外面無文。 | | | 見込み丸く軸刺ぎ・高台無軸。 |
| | 6 | き44 | 4層 | 碗 | 完形 | 12 | 6.9 | 8.7 | 見込み印花「顧氏」(仕成)印あり。 | 竜泉窯系 | 15C中16C初 | 高台内無軸。 |
| | 7 | き44・き45 | | 碗 | 完形 | 11.8 | 7.15 | 5 | 見込み印花文。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C初 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 8 | き43 | 黄褐色 | 碗 | 完形 | 14.1 | 8.5 | 5.8 | 見込み印花文。 | 福建・広東系 | 15C後～16C | 高台無軸。 |
| | 9 | こ48 | 3瓦層 | 碗 | 完形 | 15.2 | 8.7 | 6 | 見込み印花文。 | 竜泉窯系 | | 外面無軸・高台内蛇/目軸刺ぎ・大振りの碗。 |
| | 10 | き44 | 1層 | 碗 | 完形 | 14.2 | 6.1 | 4.5 | 外面に描き蓮弁文・見込み印花文「顧氏」印あり。 | 竜泉窯系 | 15C中葉 | 高台置付のみ無軸。 |
| 第27回 PL. 36 | 1 | き42・こ2 | 1瓦層 | 碗 | 完形 | 11.4 | 7.4 | 5.1 | 刻先形蓮弁文・見込み印字「楊」字、周囲捻花(線描)。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 2 | L45 | 2層 | 碗 | 完形 | 11.8 | 7 | 5.1 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文「顧氏」字、周囲捻花(線描)。 | 竜泉窯系 | 15C中葉～16C前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 3 | き45・き44 | 2瓦層 | 碗 | 完形 | 13.6 | 8.2 | 5.3 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文「積」字、周囲捻花・柳描文。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 4 | L47 | 3瓦層 | 碗 | 完形 | 11.9 | 6.4 | 5 | 刻先形蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 15C～16C | 高台内無軸・焼成不良。 |
| | 5 | L46・く45 | 2瓦層・2層 | 碗 | 完形 | 14.8 | 8.2 | 5.5 | 刻先形蓮弁文・見込み捻花文線描。 | 竜泉窯系 | 15C後～16C前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 6 | き45 | 2瓦層・灰たまり・線組遺構 | 碗 | 完形 | 13.4 | 8.05 | 5.6 | 見込み捻花文(線描)。 | 竜泉窯系 | 15C後～16C中 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 7 | せ42 | 3層 | 碗 | 完形 | 11.6 | 5.6 | 4.9 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文か? | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 焼成不良・高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 8 | L46 | 2層(瓦栗中) | 碗 | 完形 | 13.7 | 8 | 5.5 | 刻先形蓮弁文・見込み印花・周囲捻花文。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C前半 | 高台内無軸。 |
| | 9 | こ43 | 1瓦層 | 碗 | 完形 | 13 | 8.1 | 5.4 | 刻先形蓮弁文・見込み印花(花内文)・周囲捻花文線描き。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C前半 | 高台内無軸。 |
| | 10 | せ42 | 3層 | 碗 | 完形 | 14.2 | 7.6 | 5.6 | 刻先形蓮弁文・見込み印花・周囲捻花文線描き。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| 第28回 PL. 37 | 1 | 45.け43 | 2層下部・4層 | 碗 | 完形 | 12.2 | 5.9 | 5 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台無軸。 |
| | 2 | き45・こ49 | 4層・2瓦層 | 碗 | 完形 | 14 | 7 | 5.5 | 刻先形蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 15C後～16C前半 | 高台内無軸。 |
| | 3 | き47・か45 | 長五列 | 碗 | 底部 | 10.8 | 6.3 | 4.4 | 二重線による刻先形蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 15C | 高台無軸。 |
| | 4 | き43 | 1層 | 碗 | 完形 | 13.6 | 7.6 | 5 | 刻先形蓮弁文。 | 福建・広東系 | 15C後～16C | 高台内無軸・焼成不良。 |
| | 5 | こ45 | 2瓦層 | 碗 | 完形 | 13.8 | 6.3 | 5.4 | 刻先形蓮弁文。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 見込み丸く軸刺ぎ・高台内無軸。 |
| | 6 | き44・き45 | 1層・2層 | 碗 | 完形 | 13.6 | 7.7 | 5 | 刻先形蓮弁文・見込み印花・花卉文。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸。 |
| | 7 | こ43・き42・L47・き46 | 1瓦層第1砂利下 | 碗 | 完形 | 14 | 6 | 6.6 | 波濤文・焼成不良。 | 福建・広東系 | 16C | 高台内無軸。 |
| | 8 | せ42 | 3層 | 碗 | 完形 | 11.6 | 5.6 | 4.9 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中葉 | 高台無軸。 |
| | 9 | 45.け43 | 2層下部・4層 | 碗 | 完形 | 12.2 | 5.9 | 5 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台無軸。 |
| | 第29回 PL. 38 第30回 PL. 38 | 1 | こ45・こ46 | 第3瓦層 | 碗 | 完形 | 13 | 6.8 | 5 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 |
| 2 | | せ42 | 3層 | 碗 | 完形 | 11.6 | 5.6 | 4.9 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台無軸。 |
| 3 | | き44 | 2瓦層 | 碗 | 完形 | 13.8 | 6.6 | 5.4 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台無軸。 |
| 4 | | せ45 | 3 | 碗 | 完形 | 13.6 | 6.3 | 5 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸・見込み蛇/目軸刺ぎ。 |
| 5 | | け45・き45・な・に60 | 黄褐色3層・2瓦層 | 碗 | 完形 | 6.8 | 6.25 | 2.7 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 見込み無軸(丸く軸刺ぎ)・高台内無軸。 |
| 6 | | | | 碗 | 完形 | 13.4 | 6.9 | 5.2 | 刻先形蓮弁文(山形無し)見込み印花文(花文)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸。 |
| 7 | | せ43 | | 碗 | 完形 | 13.4 | 6.65 | 4.8 | 刻先形蓮弁文(山形無し)。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸。 |
| 8 | | き42・く44 | 北井戸・瓦列裏込め | 碗 | 完形 | 13.2 | 7.2 | 5.3 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文無し。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸。 |
| 9 | | か40 | か | 碗 | 完形 | 13.8 | 6.5 | 5.6 | 刻先形蓮弁文・見込み印花文無し。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸。 |
| 10 | | こ44・つ42・L45 | I, II, 第4層 | 碗 | 完形 | 16.2 | 10.1 | 6.6 | 雷文帯印花・内面印花・見込み印花(鹿文様)。 | 竜泉窯系 | 15C | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| 第30回 PL. 39 | 1 | き44 L46・こ47 | 2瓦層 2瓦層, III | 碗 | 底部 口縁部 | 13.6 | | 7 | 雷文帯印花・見込み印花(鹿文様)。 口縁部端反り、外面波濤文?に唐草文、内面雷文に唐草文。 | 竜泉窯系 竜泉窯系 | 15C | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 2 | せ43 | 3層 | 小碗 | 口縁部 | 6.5 | | | 刻先形蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 15C後～16C中 | |
| | 3 | か45 | 1層攪 | 小碗 | 口縁部 | 8.6 | | | 刻先形蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 15C後～16C中 | |
| | 4 | か46 | | 皿 | 完形 | 9.4 | 2.6 | 5.3 | | 竜泉窯系 | 15C | 高台内無軸。 |
| | 5 | き45 | | 皿 | 完形 | 9.2 | 2.2 | 4.8 | | 竜泉窯系 | 15C代 | 高台内軸刺ぎ。 |
| | 6 | き45・こ45 | 2瓦層・外敷西撰・第2瓦層 | 皿 | 完形 | 9 | 2.4 | 5.4 | | 竜泉窯系 | 15C | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 7 | き44 | 1瓦層 | 皿 | 口縁部 | 12.8 | | | 外面に描き蓮弁。 | 竜泉窯系 | 14C後半～15C初 | |
| | 8 | せ44 | 1 | 皿 | 完形 | 7.6 | 2.8 | 4.2 | 見込みに描きの花文あり。 | 竜泉窯系 | 15C | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 9 | へ44・45 | 瓦列 | 皿 | 完形 | 8.8 | 2.7 | 6.2 | 見込み印花文。 | 福建・広東系 | 15C中葉～16C前半 | 高台内無軸。 |
| | 10 | か46 | 1層 | 皿 | 口縁部 | 10.4 | | | 「菊花形皿」外面に描き蓮弁。 | 竜泉窯系 | 15C | |
| | 11 | L43 | 1瓦層 | 皿 | 完形 | 10.4 | 2.5 | 7 | 「菊花形皿」 | 竜泉窯系 | 16C | 高台内無軸。 |
| | 12 | L45 | 1瓦層 | 皿 | 完形 | 9.8 | 2.9 | 5.4 | 「菊花形皿」外面に蓮弁に描き、見込み印花文。 | 福建・広東系 | 15C中葉～16C前半 | 高台内無軸。 |
| | 13 | き45 | 2層 | 皿 | 完形 | 12.6 | 2.55 | 6.2 | 口縁外反、見込み印花文、窯道具の焼着痕あり。 | 竜泉窯系 | 15C中～16C初 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 14 | せ46 | 黄褐色 | 皿 | 完形 | 11.7 | 3.15 | 5.4 | 内側に描き唐草文、見込みに七宝地文、「折腰皿」。 | 竜泉窯系 | 15C | 高台内蛇/目軸刺ぎ・高台内に窯道具の焼着痕あり。 |
| | 15 | き・け46 | 縦列形 | 皿 | 完形 | 10.5 | 3.1 | 5.2 | 外反の皿。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 見込み丸く軸刺ぎ・高台内無軸。 |
| | 16 | た・L44 | 3層 | 皿 | 完形 | 13.6 | 3.15 | 6.4 | 折腰皿。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 見込み丸く軸刺ぎ・高台内無軸。 |
| | 17 | せ46 | 1瓦層・円形瓦栗中部 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.9 | 5 | 折腰皿。 | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台無軸。折腰皿。 |
| | 18 | け45 | 2・3瓦層一括 | 皿 | 完形 | 12.6 | 2.8 | 6.1 | | 福建・広東系 | 15C後～16C中 | 高台内無軸。折腰皿。 |

第1表2 青磁観察一覧

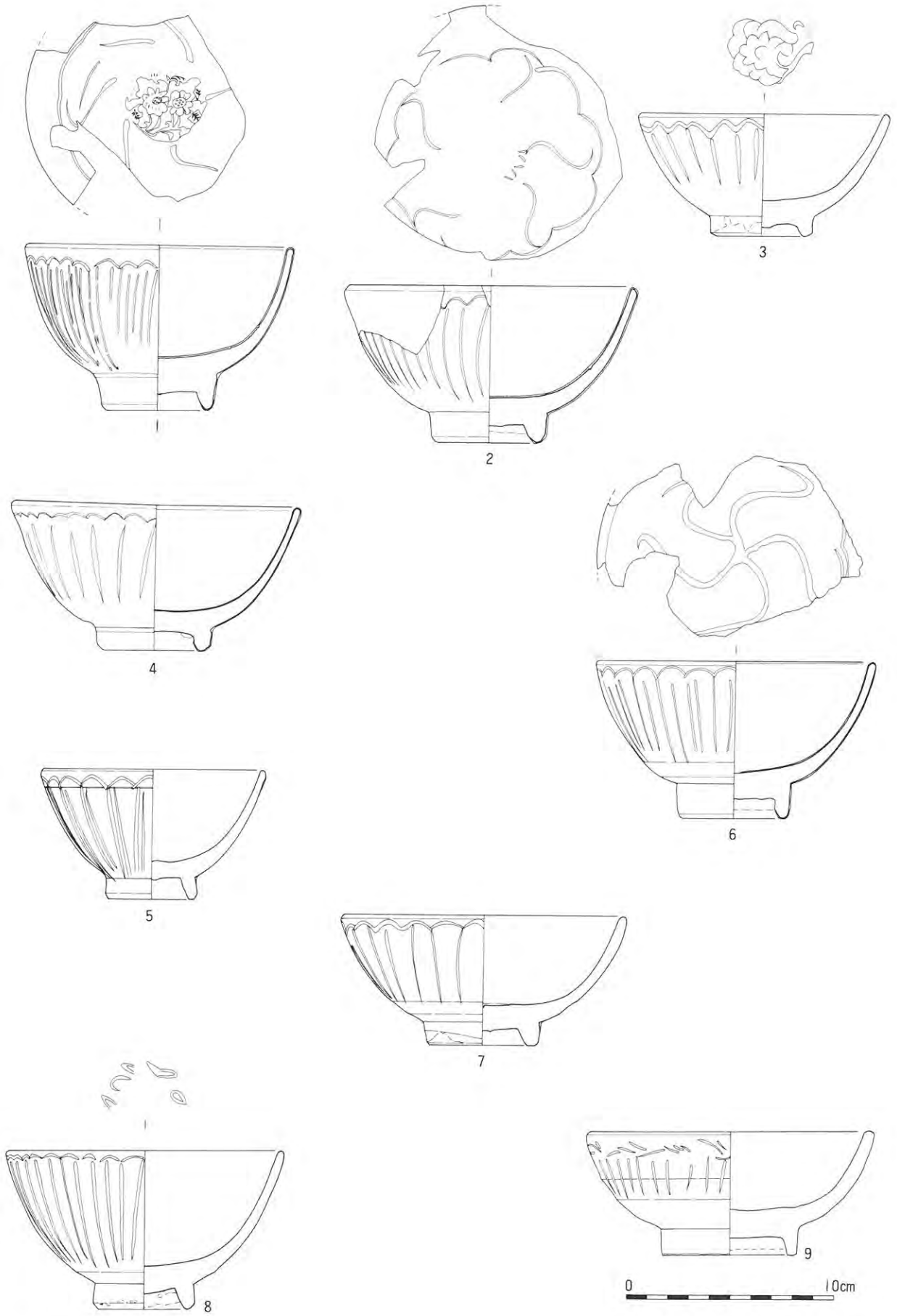
| 図. PL | 地区 | ナリト | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 |
|----------------|----|---------------|-------------|-------|-----|------|------|------|------------------------------------|--------|-------------|-----------------------------|
| 第30回 PL. 39 | 19 | そ44・き45 | 3層, 第2瓦層 | 皿 | 完形 | 15.2 | 3.5 | 9.4 | 景德鎮窯。 | | 16c代 | 高台内のみ透明釉。 |
| 第31回 PL. 40 | 1 | こ47 | 3層 | 皿 | 完形 | 11.2 | 5.1 | 5.6 | 内面にハ描きの唐草文、見込みに印花文、稜花皿。 | 竜泉窯系 | 15c中葉～16c前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 2 | こ45, し46 | 3瓦方形東, 第3瓦層 | 皿 | 完形 | 11.2 | 3.3 | 5.4 | 内面にハ描きの唐草文、見込みに印花文、稜花皿。 | 竜泉窯系 | 15c中葉～16c前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 3 | | 長瓦列 | 皿 | 完形 | 11.4 | 3.2 | 5.5 | 内面にハ描きの唐草文、稜花皿。 | 竜泉窯系 | 15c中～16c前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 4 | く46 | 瓦集中部 | 皿 | 完形 | 11 | 2.8 | 5 | 内面にハ描きの唐草文、見込みに「太」字の線描き、稜花皿 | 竜泉窯系 | | 高台内全面施釉、高台内に窯道具の焼き痕あり。 |
| | 5 | し45 | 4層 | 皿 | 完形 | 11.6 | 2.9 | 4.4 | 内面に柳目文。 | 福建・広東系 | 15c後～16c中 | 見込み丸く軸刺ぎ、高台無釉。 |
| | 6 | く・け3? | 黄褐色 | 皿 | 完形 | 14.2 | 3.8 | 6.3 | 内面にハ描きの唐草文、稜花皿。 | 福建・広東系 | 15c後～16c中 | 高台無釉。焼成不良。 |
| | 7 | せ44 | 3瓦集中 | 盤 | 底部 | | | 30 | 見込みにハ描き文様。 | 竜泉窯系 | 14c中～15c前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| 第32回 PL. 41 | 1 | ず44 | 3層 | 盤 | 口縁部 | 26 | | | 内面にハ描きの唐草文。 | 竜泉窯系 | 14c後～15c中葉 | |
| | 2 | へ44・45け45・こ46 | 互列, 第2・3瓦層 | 盤 | 底部 | | | 13.2 | | 竜泉窯系 | 14c中～15c中 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 3 | せ46 | 3層 | 盤 | 底部 | | | 16.2 | 見込み印花文。 | 竜泉窯系 | 14c後～15c前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 4 | ず44 | II | 酒会壺 | 口縁部 | | | | 外面蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 14c | |
| | 5 | ち46 | 攪乱 | 酒会壺 | 底部 | | | 18.2 | 外面蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 14c | |
| 第33回 PL. 42 | 1 | | 攪乱 | 小杯 | 口縁部 | 8.8 | | | 外面柳目文、内面ハ彫りの文様。 | 竜泉窯系 | 14c後半～15c中葉 | |
| | 2 | せ44 | 1瓦 | 小杯 | 口縁部 | 6.8 | | | 内外面ハ彫りの文様。 | 竜泉窯系 | 14c後半～15c中葉 | |
| | 3 | ず43 | 3瓦層上部 | 小杯 | 口縁部 | 6 | | | 外面片切り蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 14c後～15c中 | |
| | 4 | ち44 | 黄褐色 | 小杯 | 口縁部 | 6.6 | | | 外面にハ描きの文様。 | 竜泉窯系 | 14c後～15c中 | |
| | 5 | こ44 | IV | 小杯 | 口縁部 | 9.2 | | | 外面にハ描きの唐草文か? 口縁部内面にもハ描きの文様。 | 竜泉窯系 | 14c後半～15c前半 | |
| | 6 | そ43 | III | 小杯 | 底部 | | | 3.9 | | 竜泉窯系 | 14c後半～15c中葉 | |
| | 7 | し47 | 1瓦, 1砂利下 | 瓶 | 胴部 | | | | 外面に唐草文、蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 14c中～15c前半 | 破片。 |
| | 8 | け・こ47 | 2瓦層 | 瓶 | 口縁部 | 4.2 | | | 外面唐草文、片切り蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 14c中～15c前半 | |
| | 9 | し46 | 1瓦層円形状集中部 | 瓶 | 胴部 | | | | 外面色蕉文? | 竜泉窯系 | 14c中～15c前半 | 破片。 |
| | 10 | | 2瓦層 | 瓶 | 口縁部 | 4.8 | | | 頸部にハ描きの文様。 | 竜泉窯系 | 14c後半～15c代 | |
| | 11 | き45 | 1層 | 瓶 | 胴部 | | | | 外面圏線。 | 竜泉窯系 | 14c後半～15c代 | |
| | 12 | き44 | 4層上部 | 瓶 | 口縁部 | 5.3 | | | | 竜泉窯系 | 14c末～15c | |
| | 13 | | 中央瓦列側溝 | 瓶 | 口縁部 | 5.8 | | | | 竜泉窯系 | 14c末～15c | |
| | 14 | ず45 | 3層 | 瓶 | 口縁部 | 5.6 | | | 口縁内面に圏線。 | 竜泉窯系 | 14c末～15c | |
| | 15 | こ47 | 3層 | 瓶 | 口縁部 | 8.4 | | | 外面色蕉文? | 竜泉窯系 | 14c後～15c初頭 | |
| | 16 | ず44 | 3層 | 瓶 | 底部 | | | 6.2 | | 竜泉窯系 | 14c末～15c | 畳付除き高台施釉。 |
| 第34回 PL. 43 | 1 | き44 | 2瓦 | 蓋 | 完形 | 5.1 | 3.9 | | | 竜泉窯系 | 14c中～15c初頭 | 「非常に珍しい」。 |
| | 2 | こ45 | 2瓦 | 蓋 | | 5.6 | | | | 竜泉窯系 | 14c中～15c初頭 | 「非常に珍しい」。 |
| | 3 | こ43 | 表土 | 蓋 | | 3.5 | | | ハ彫りの蓮弁あり。 | 竜泉窯系 | 14c | |
| | 4 | | CH a3攪乱 | 蓋 | | 4.8 | | | 上部にハ描きの蓮弁文。 | 竜泉窯系 | 14c中～15c初頭 | |
| | 5 | き43, し44, 45 | 2層, 瓦列ウ | 蓋? | | | | | 上面に「壽」・「有」・「積」字等を配する。 | 竜泉窯系 | 14c～15c初頭 | 非常に珍しい貴重品。 |
| | 6 | し45 | 果水弁 | 瓶? | 胴部 | | | | | 竜泉窯系 | 14c後～15c | |
| | 7 | た44 | 3層 | 特殊 | | | | | | 竜泉窯系 | 14c～15c初頭 | |
| | 8 | し47 | 1瓦, 1砂利下 | 特殊 | | | | | | 竜泉窯系 | 14c～15c初頭 | |
| | 9 | せ43・か40 | 3層・攪乱 | 特殊 | | | | | | 竜泉窯系 | 14c～15c初頭 | |
| | 10 | そ42 | 4層 | 特殊 | | | | | | 竜泉窯系 | 14c～15c初頭 | |
| | 11 | そ43・し43 | 4層, 3層 | 香炉 | 口縁部 | 13.2 | | | 外面「算木文」 | 竜泉窯系 | 14c後半～15c前半 | |
| | 12 | せ42 | 3層・中央瓦列側溝 | 鐘形? | 胴部 | | | | | 竜泉窯系 | 14c中～15c初頭 | |
| 第35回 PL. 44 | 1 | 2 | 1号表 | 碗 | 完形 | 13.8 | 7.2 | 5.4 | 見込み印花文、口縁部端反り。 | 福建・広東系 | 14c末～15c中葉 | 高台内無釉。 |
| | 2 | 2 | 1号表 | 碗 | 底部 | | | 6.2 | 外面にハ描き文様、見込み印花文。 | 竜泉窯系 | 14c末～15c中葉 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 3 | ね57 | 赤褐色土 | 碗 | 底部 | | | 5.7 | 見込み印花文、周囲に「捺し花文」線描き | 竜泉窯系 | 15c中葉～16c前半 | 高台内蛇/目軸刺ぎ、2次の火熱をうけている。 |
| | 4 | て57 | 灰褐色土 | 碗 | 完形 | 12.8 | 7 | 5 | 見込み印花文。 | 竜泉窯系 | 15c後半～16c中葉 | 高台内無釉。 |
| | 5 | た57 | 3層 | 皿 | 完形 | 13 | 3.8 | 6.6 | 外面にハ描き蓮弁文、見込み印花文。 | 竜泉窯系 | 14c中～15c初頭 | 高台内蛇/目軸刺ぎ。 |
| | 6 | な56 | 1攪乱 | 皿 | 完形 | 11.9 | 3.2 | 5.7 | 内面にハ描きの蓮弁文、外面にもハ描き、見込みに「七宝地文」「折腰皿」 | 竜泉窯系 | 15c代 | 高台内軸刺ぎ。 |
| | 7 | つ59・て57 | 8層b・4層 | 皿 | 完形 | 10 | 2.4 | 6.1 | 見込み印花文で「七宝地文」「菊花形皿」 | 竜泉窯系 | 15c後～16c中 | 高台内無釉。 |
| | 8 | 2 | 2号窯, B-12 | 燗台 | 胴部 | | | | 外面に雷文、上面にハ描き文。 | 竜泉窯系 | 14c中葉～15c初頭 | 脚は6本? 燗台を立てる部分も6角形になると思われる。 |
| | 9 | 745 | | 水注の注口 | | | | | | 竜泉窯系 | 14c代 | |
| | 10 | し45 | 下段遺構内(東側) | 掃鉢 | 胴部 | | | | | 竜泉窯系 | 14c～15c | 内面下部無釉。 |
| | 11 | に58 | 攪乱(赤褐色) | 特殊 | | | | | | 竜泉窯系 | 14c中～15c初頭 | 器種不明。 |
| 第39回 PL. 68 | 12 | 不明 | | 盤 | 完形 | 30.2 | 6.1 | 12.6 | | 竜泉窯系 | 14c末～15c代 | 高台内無釉。 |
| | 26 | ひ50, 黄褐色(E) | | 碗 | 完形 | 13.2 | 6.35 | 5.2 | | 福建・広東系 | 15c後半～16c中 | 見込み軸刺ぎ。高台内無釉。 |



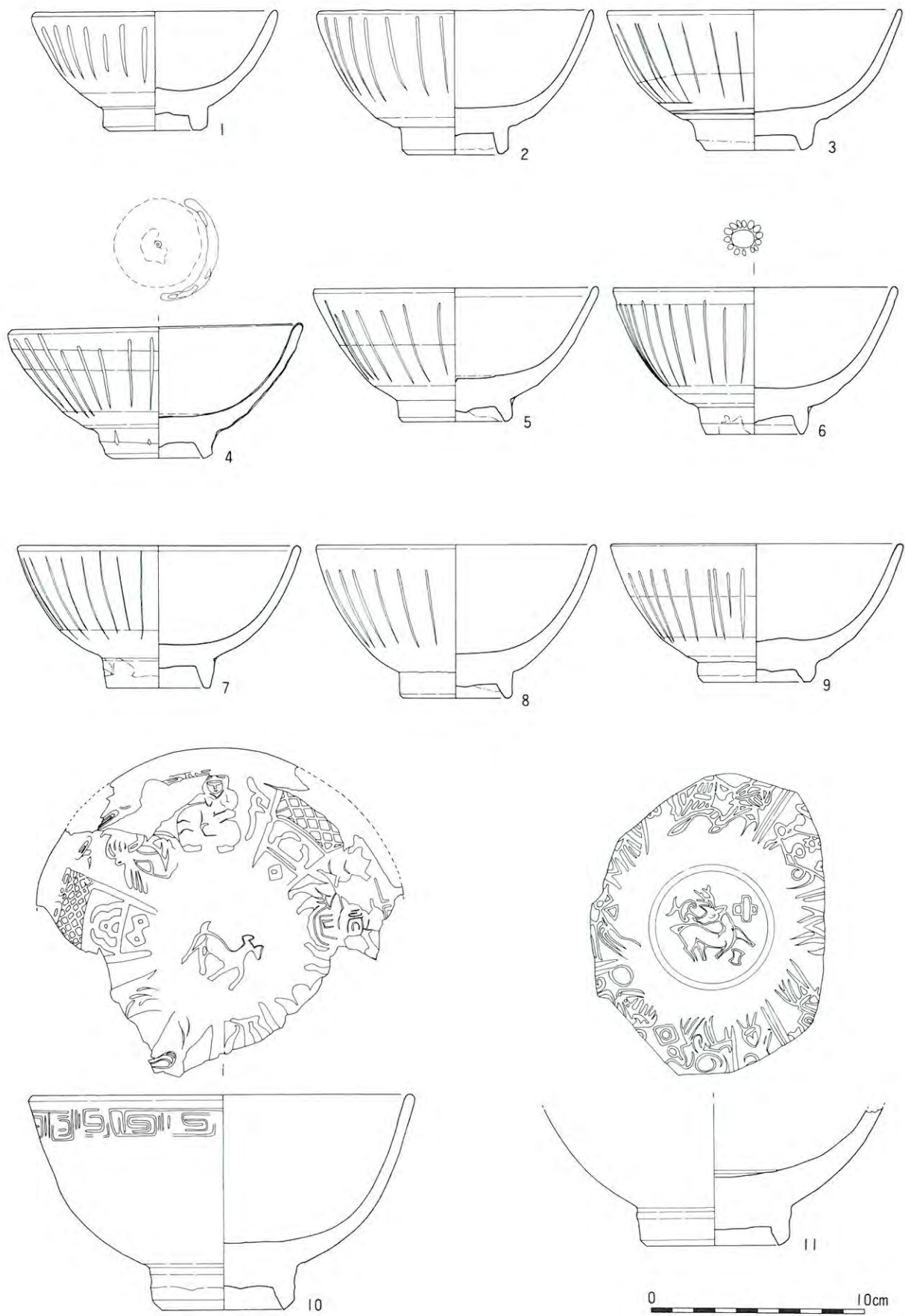
第26图 青磁① (I地区)



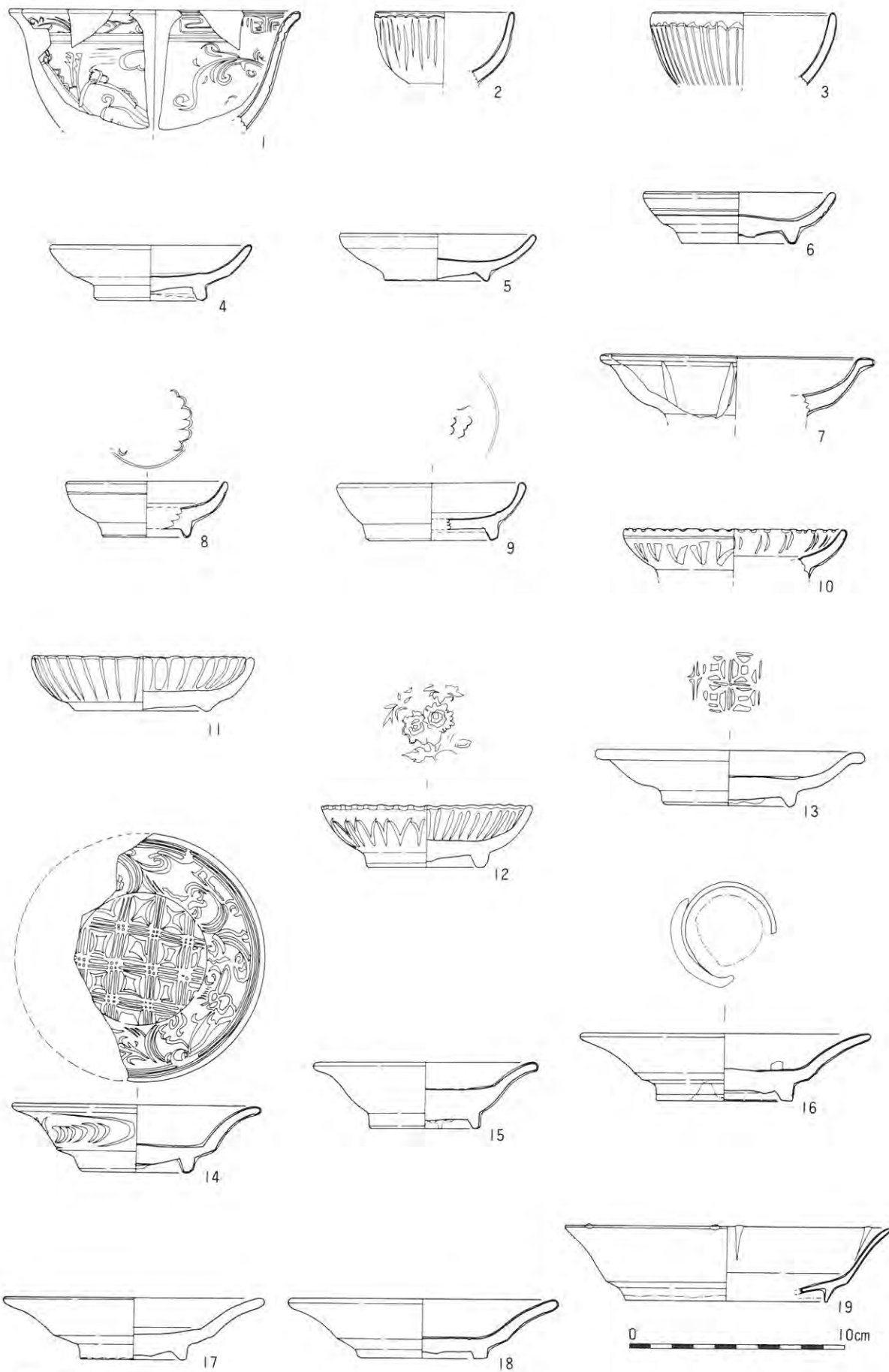
第27图 青磁② (I地区)



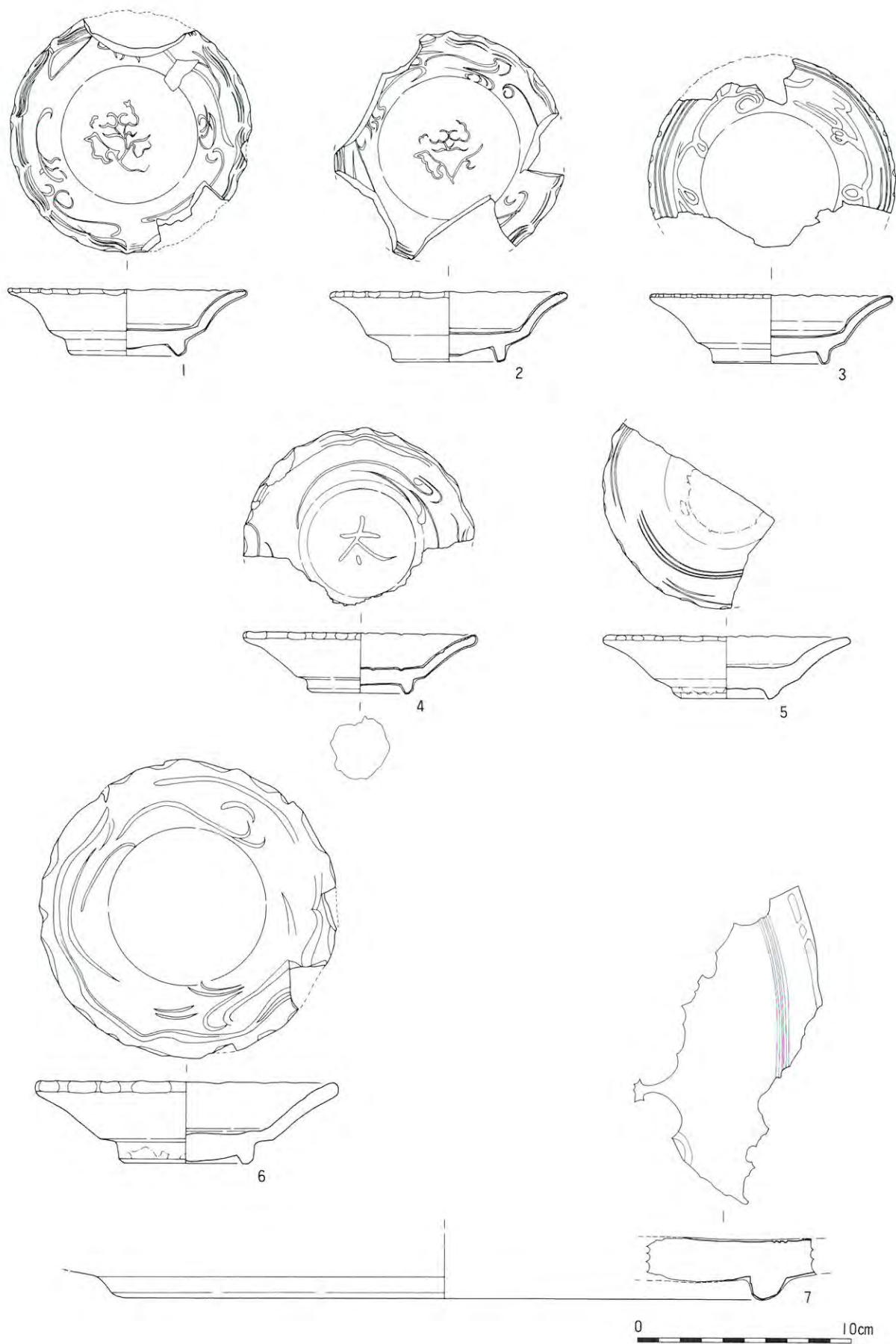
第28图 青磁③ (I地区)



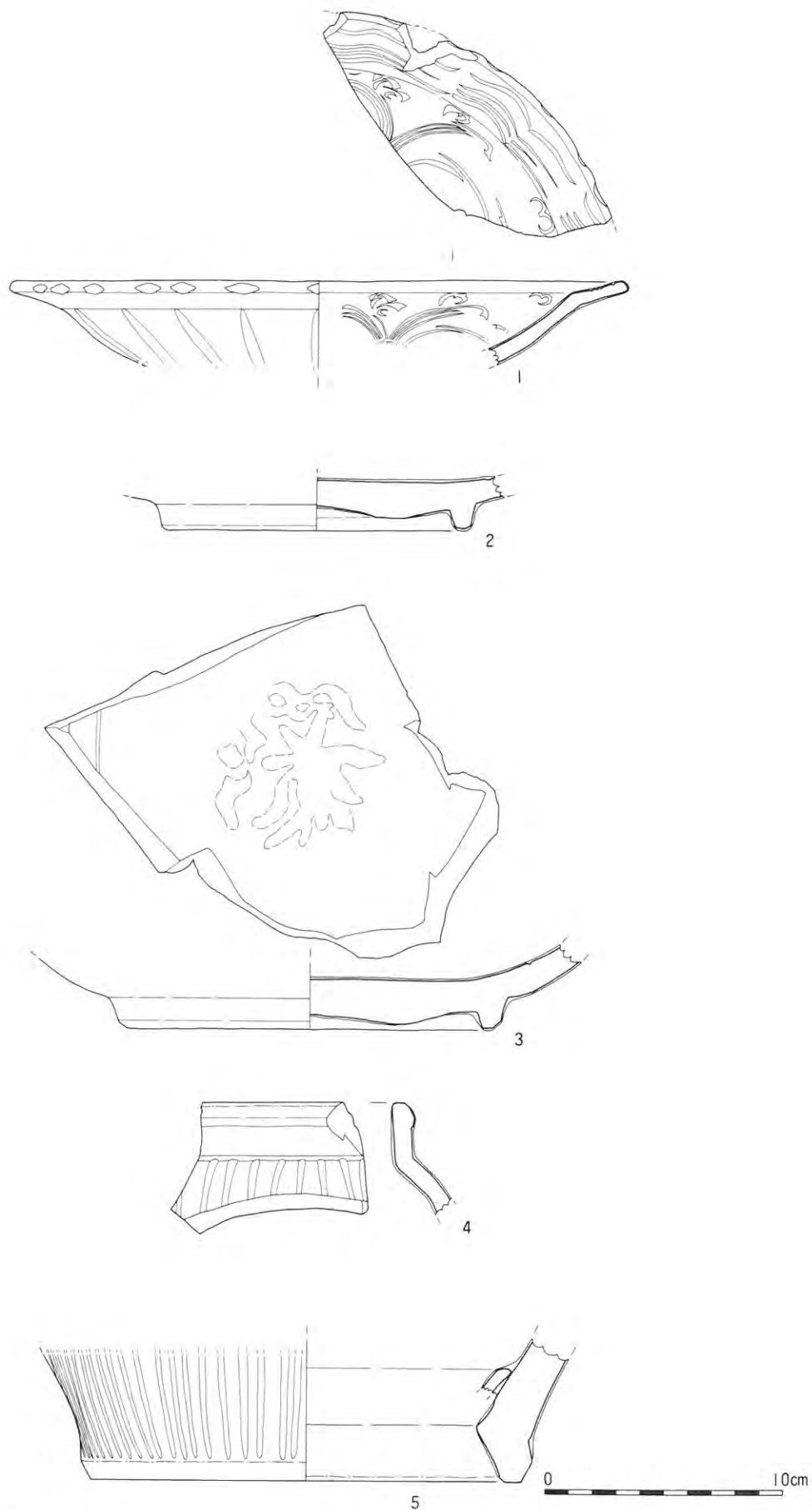
第29图 青磁④ (I地区)



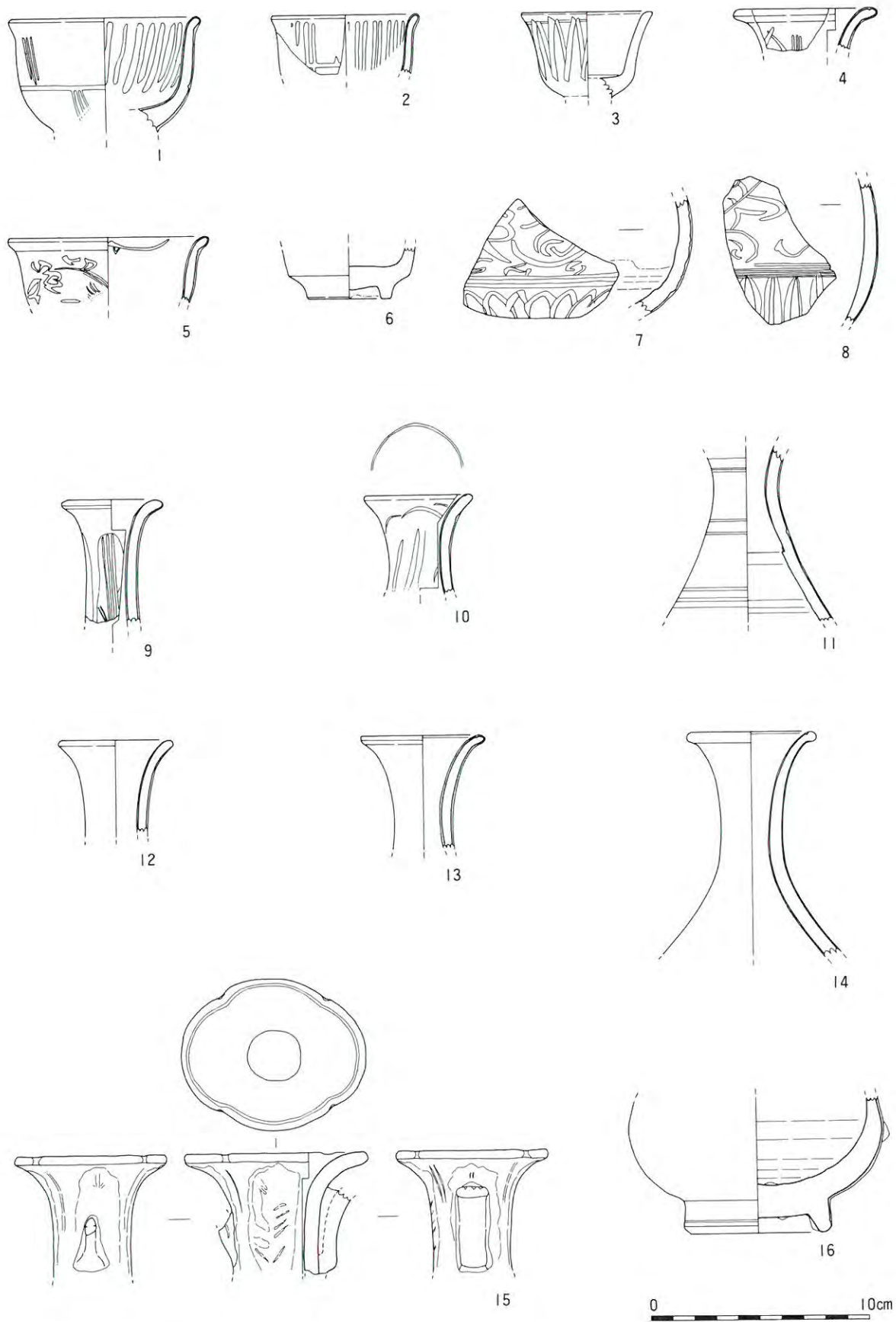
第30图 青磁⑤ (I地区)



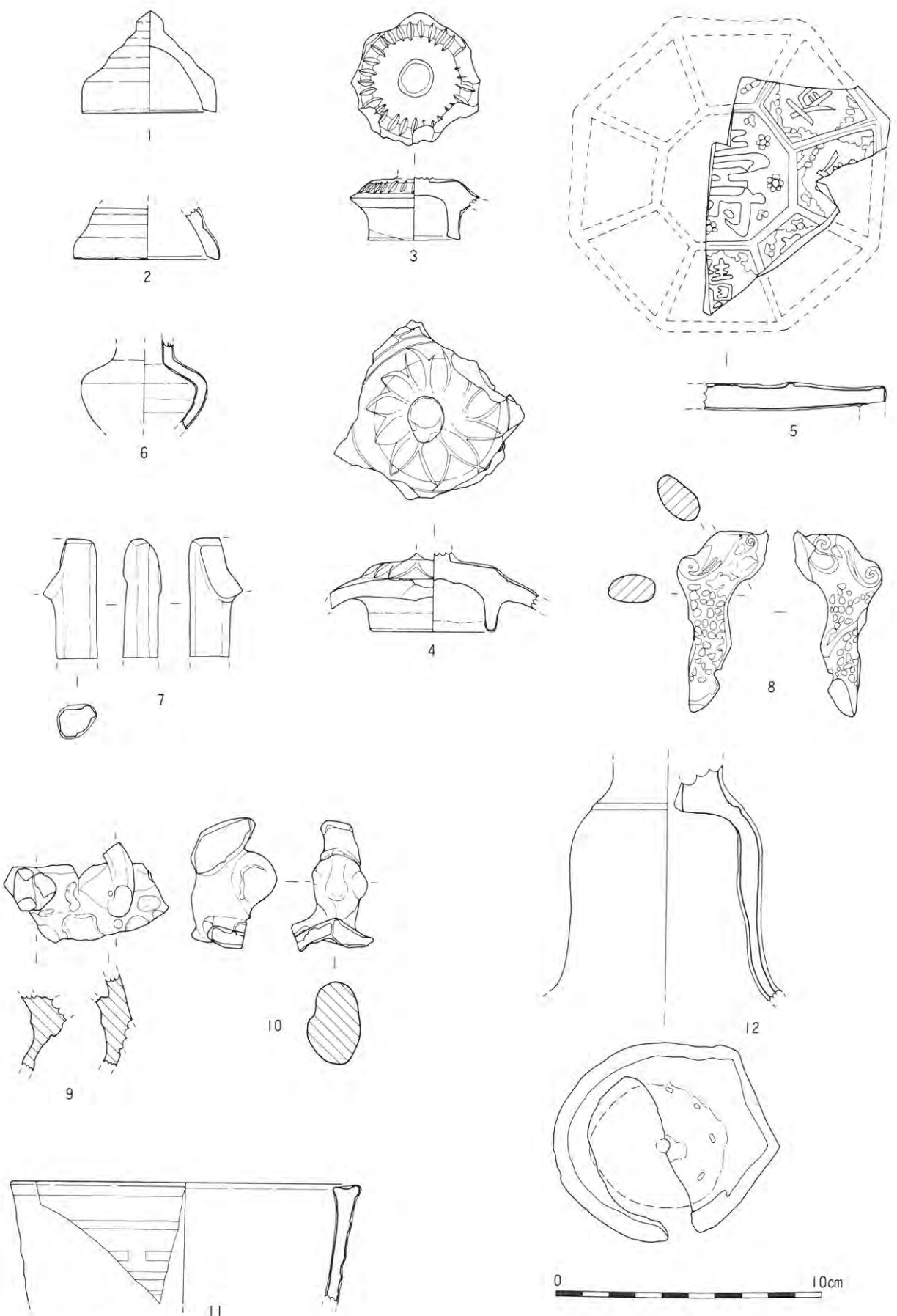
第31图 青磁⑥ (I地区)



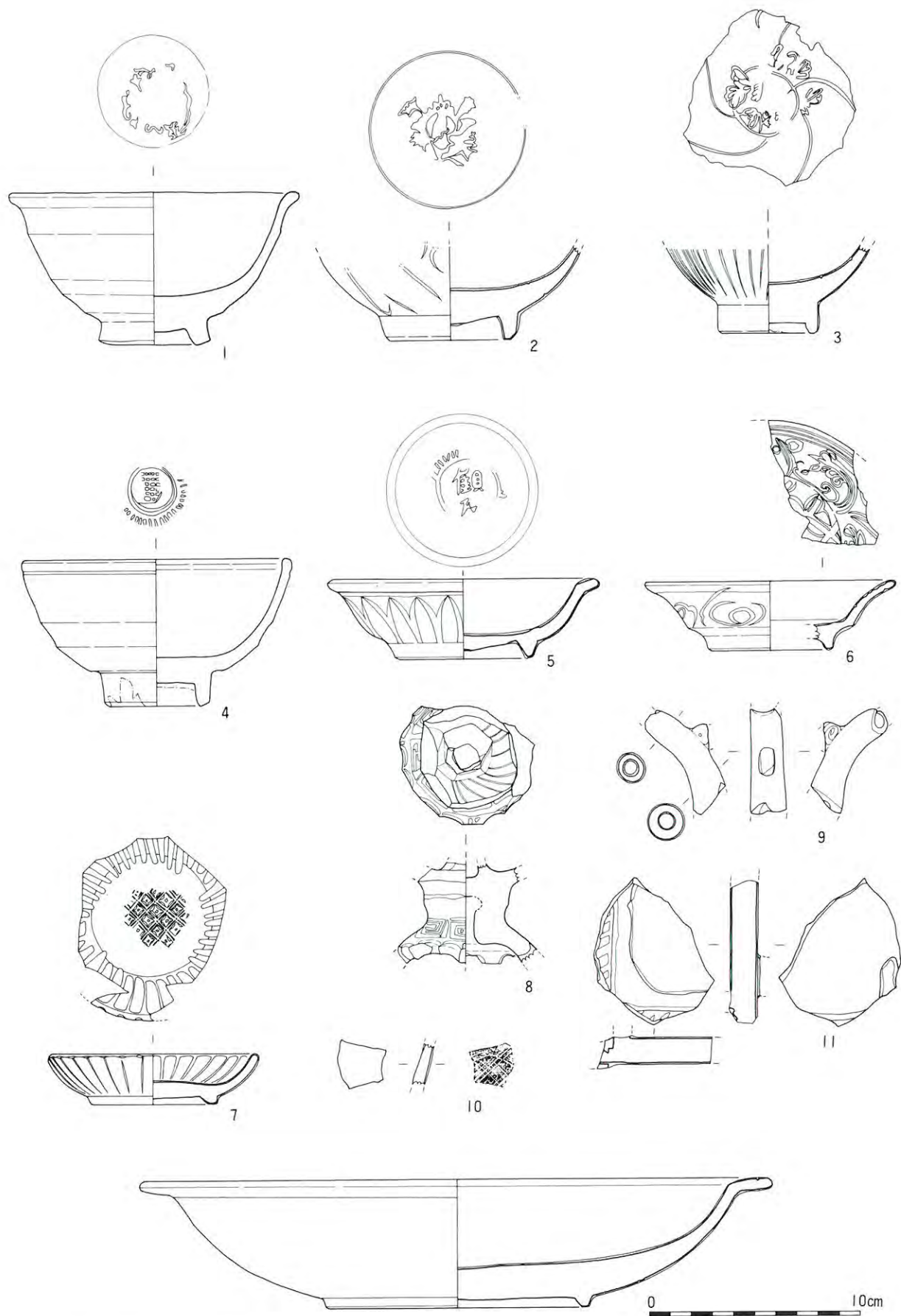
第32图 青磁⑦ (I地区)



第33图 青磁⑧ (I地区)



第34图 青磁⑨ (I地区)



第35图 青磁^⑩ (I地区)

第2節 白磁

第36図～第38図はI地区、第39図がII地区、第39図24がIII地区出土である。III地区では小片が数点出土しているのみである。

第36図1・2は口禿の碗である。1は内面に青海波を陽刻する。同図3は外面中位に菊花を配する。同図4は端反りタイプの碗の底部である。畳付付近に砂が付着している。同図5は腰折れの碗である。同図6は景德鎮窯系の製品で、口縁部を外側に曲げるタイプの碗である。同図7は福建・広東系の碗である。腰部に削りの際のカンナ痕が残る。見込み、高台は無釉である。同図8も福建・広東系の碗で、見込みは蛇の目状の釉剥ぎを行う。高台は無釉である。同図9は見込み・高台無釉の碗である。同図10～13は端反りタイプの皿である。11は高台内に銘を染付する。14・15は福建・広東系の皿である。14は見込み・高台無釉、15は見込み蛇の目釉剥ぎ、高台無釉である。第37図1～3は碁笥底の皿である。同図3は見込み・高台無釉である。同図4・5は口禿タイプの皿である。4は小皿の転用とみられ、割口を磨いている。5は内外面に煤の付着が見られ、灯明皿へ転用したとみられる。同図6～10は切り高台の皿である。6は腰部が丸味を帯びて立ち上がるものである。7～10は一般的な切り高台の皿である。8は口唇部に煤の付着がみられ、灯明皿に利用したものと思われる。11は切り高台ではないが見込みに切り高台の熔着痕がある。口唇部に煤の付着がみられ、灯明皿に利用したものと思われる。同図12・13は菊花形の皿である。12は平底で見込み蛇の目釉剥ぎ、底部無釉である。13は高台内無釉である。同図14は稜花形の皿である。高台無釉で、内面から外面にかけて化粧掛けを行う。

第38図1は小坏である。同図2は見込み蛇の目釉剥ぎを施す。高台内に銘を染付する。同図3・4は型成形の製品で口唇部は口禿である。同図5は特殊な器形で用途は不明である。同図6は合子の身で、釉薬が黄ばんでいる。同図7は小壺で肩部に圈線、胴部に唐草文を陽刻する。同図8は高足坏の脚部とみられる。脚台内は無釉である。同図9は瓶で、内面に成形の際の継ぎ目が2箇所みられる。同図10～13は壺である。10は胴部外面下位に削りの際の篋跡が残る。11は高台無釉である。12はアンピン壺と呼ばれるものである。高台無釉である。

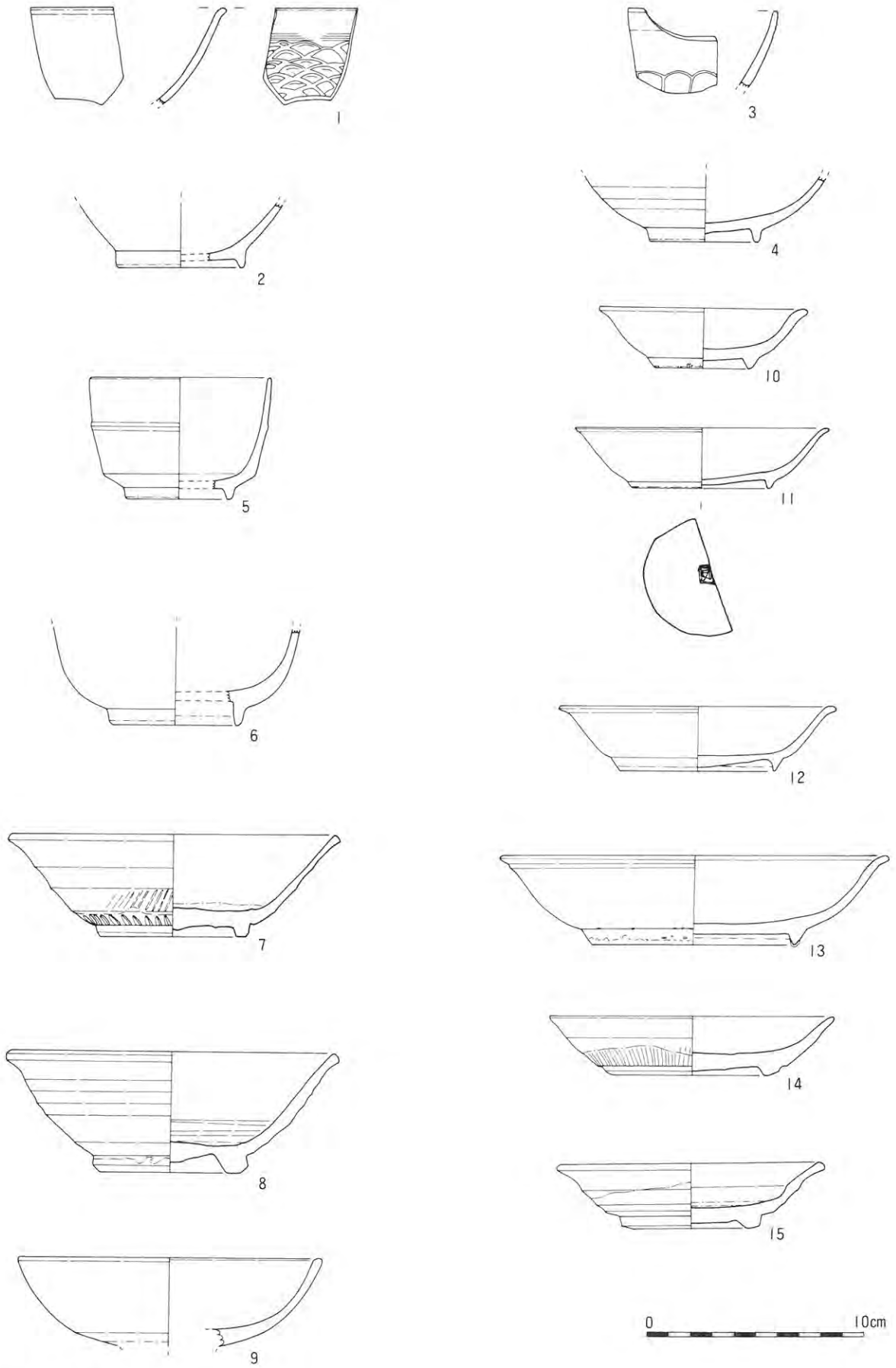
第39図1～5は碗の底部である。同図1～4は高台無釉、1・4は見込みは蛇の目状の釉剥ぎを行う。2・4は見込みは無釉である。同図5は、見込みは蛇の目釉剥ぎを施す。外面は畳付のみ無釉である。同図6・7は高台の高い碗で、色絵の可能性はある。同図8～20は型成形の製品である。10は鉄釉による口銹装飾を施す。11は高台内に陽刻に銘がある。9～12、14～17、19・20は口禿である。15・18は高台内無釉である。同図21は燭台の脚部とみられる。同図22は八角小坏である。高台無釉である。同図23は焼成不良の皿で内側面に篋彫りの菊花状の蓮弁文をほどこす。見込み蛇の目釉剥ぎ、畳付のみ無釉である。同図24はIII地区出土の製品である。器種は皿とみられる。高台無釉である。

第2表1 白磁観察一覧

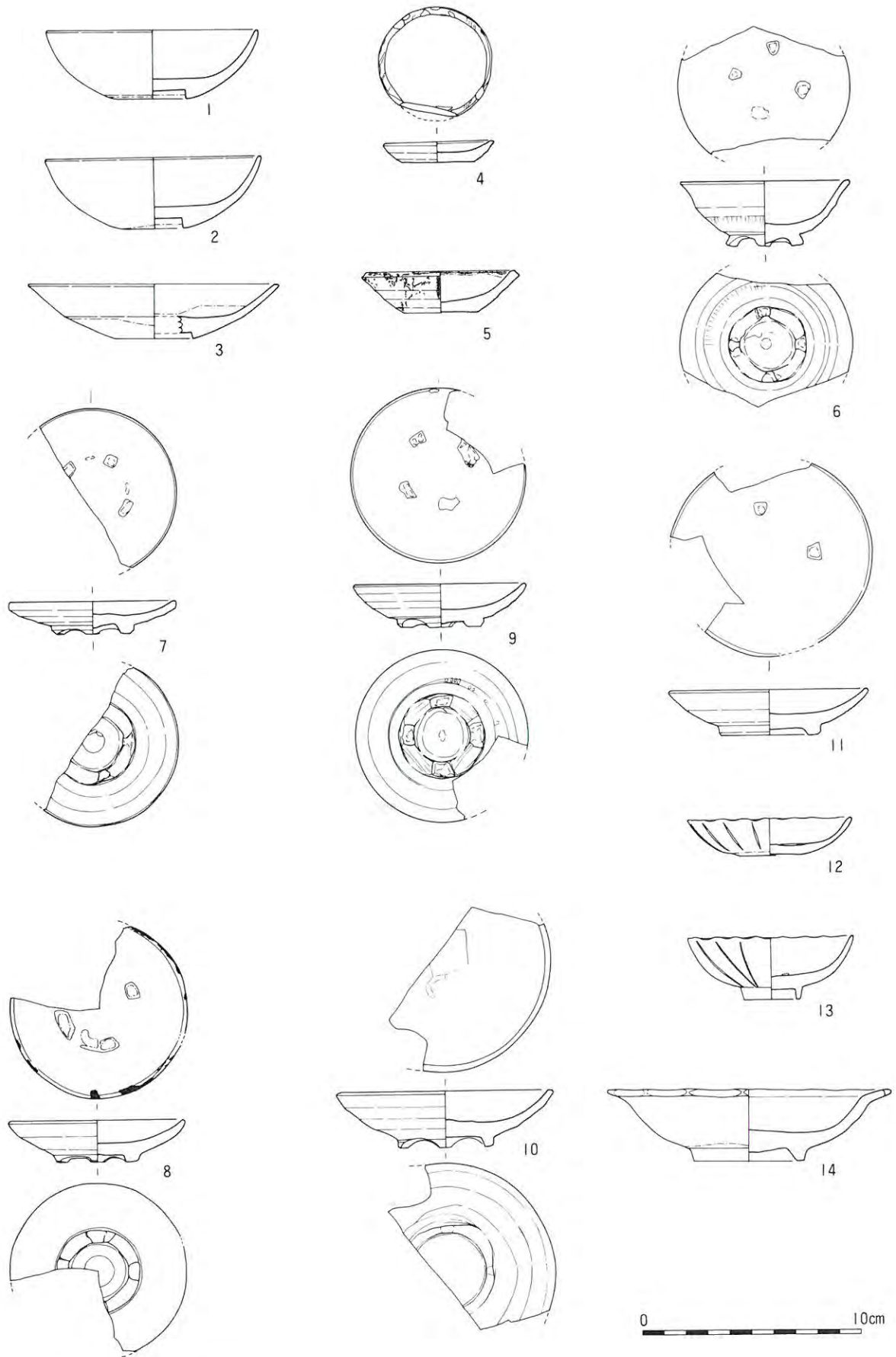
| 図.PL | 器種 | 部位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 | |
|---------------|----|-------------------------|-----------------|----|-----|------|------|-----------------------|----------------------------|------------|------------|----------------------|
| 第36図 PL.45 | 1 | な44 | 攪乱 | 碗 | 口縁部 | | | 青海波、内面に型による陽刻文様、口禿。 | 中国産 | 13c末～14c中 | | |
| | 2 | せ44 | 第1瓦層 | 碗 | 底部 | | 6.1 | 1と同種の底部。 | 中国産 | 13c末～14c中 | 高台無釉。 | |
| | 3 | し43 | 第1瓦層 | 碗 | 口縁部 | | | 外面中部より下部に菊花を配する。 | 中国産 | 13c～16c代 | | |
| | 4 | こ44 | 第4層 | 碗 | 底部 | | 5.1 | 口縁部が外反するタイプ。 | 中国(景德鎮) | 15c後半～16c代 | 畳付のみ無釉。 | |
| | 5 | そ42、こ4 | 第1瓦層、第2層 | 小鉢 | 完形 | 8.4 | 5.6 | 4.9 | 腰を折って直線的に立ち上がる。胴部に沈線を陽刻する。 | 中国(景德鎮) | 16c～17c初 | |
| | 6 | し42 | 第3層 | 碗 | 底部 | | 6.1 | 口縁部を外側に曲げる景德鎮系。薄手の作り。 | 中国産 | 15c～17c前半 | | |
| | 7 | ち42、ち4 2、ち43 | 第1層、黄灰色粘質土層、第3層 | 碗 | 完形 | 15.4 | 4.7 | 6.8 | 口縁部が大きく開く浅手の碗。腰部にカンナ痕が残る。 | 福建・広東系 | 15c～17c | 見込み高台無釉。 |
| | 8 | さ47、し4 3、し44、 し44 | 攪乱、第1層、攪乱、第1層 | 碗? | 完形 | 15.2 | 5.6 | 7.2 | 口縁部が大きく開く浅手の碗。畳付は幅広に作る。 | 福建・広東系 | 16c～17c | 見込み蛇の目釉剥ぎ。高台無釉。 |
| | 9 | さ42-43、 す44 | 第3層、第1瓦層 | 碗 | 口縁部 | 14 | | | 腰部が丸味を帯びて立ち上がる。 | 福建・広東系 | 16c～17c代 | 見込み無釉か蛇の目状の釉剥ぎ。高台無釉。 |
| | 10 | す41 | 黄褐色土層 | 小皿 | 完形 | 9.6 | 2.8 | 4.2 | 口縁部は外反する。やや厚手の作り。 | 中国産 | 15c後半～16c代 | 畳付のみ無釉。 |
| | 11 | し45 | 第4層 | 小皿 | 完形 | 12 | 2.75 | 6.8 | 口縁部は外反する。薄手の作り。高台内に銘を染付する。 | 中国産 | 15c後半～16c代 | 畳付のみ無釉。 |
| | 12 | く46 | 第2層 | 小皿 | 完形 | 12.8 | 3 | 7.2 | 口縁部は外反する。10に比べやや厚手の作り。 | 中国産 | 15c後半～16c代 | 畳付のみ無釉。 |

第2表2 白磁観察一覧

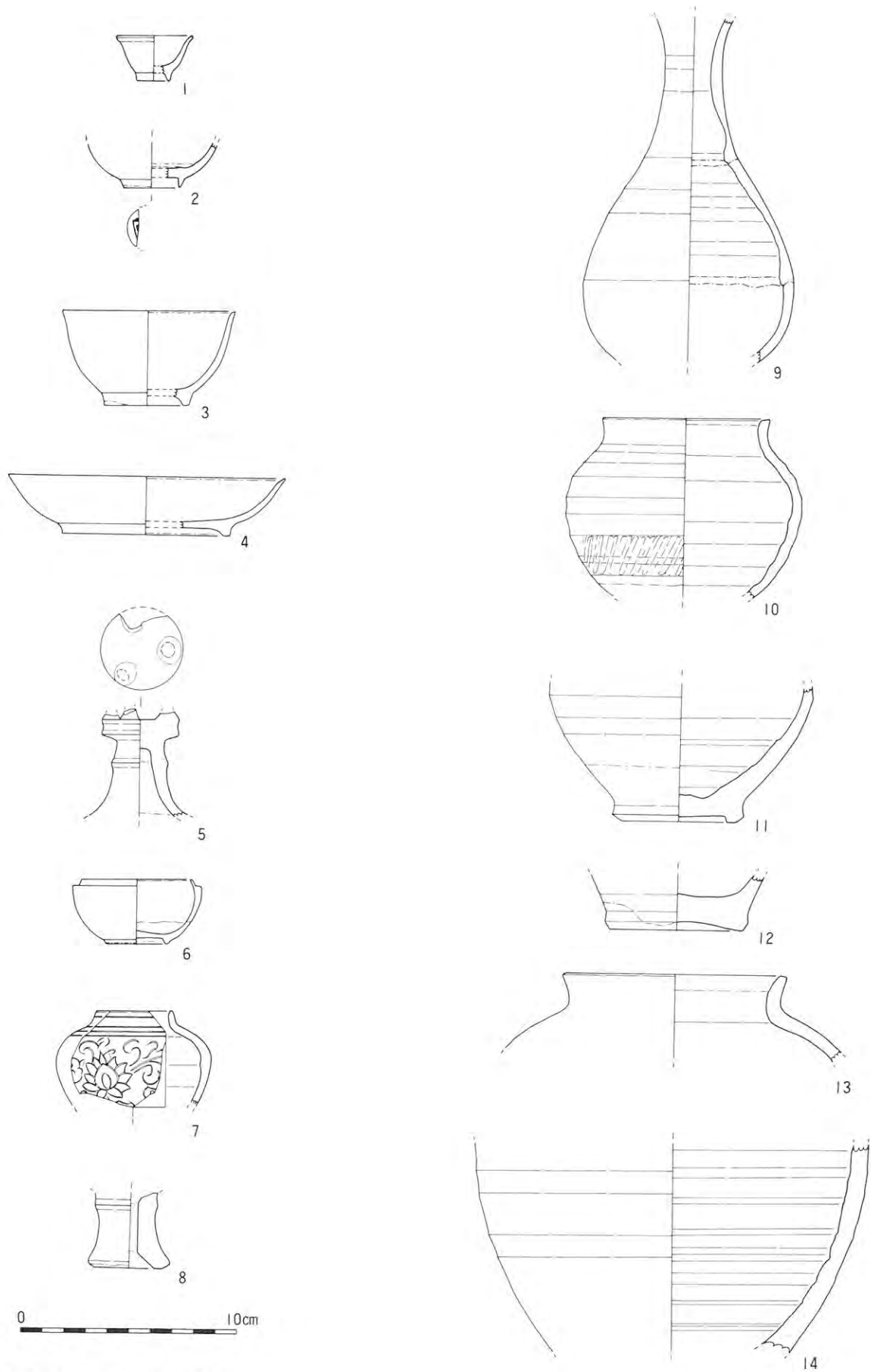
| 図. PL | 器名 | グリット | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 | |
|----------------|----|------|---------------|-------------------------|--------|------|--------|------|-----------------------------------|----------------------------------|------------|----------------------|-------------------------|
| 第36図 PL. 45 | 13 | 1 | し44 | 黄褐色土層 | 皿 | 完形 | 18 | 4.1 | 5.4 | 口縁部は反外する。薄手の作り。 | 中国(景德鎮系) | 15c後半~16c代 | 畳付のみ無軸。内面に重ね焼きの痕あり。 |
| | 14 | 1 | す45, そ42, そ43 | 第3層瓦集, 第2層, 第3層 | 皿 | 完形 | 13.2 | 2.7 | 8 | 腰部にカンナ痕が巡る。畳付を幅広く作る。 | 中国産 | 明初~清 | 見込み高台無軸。 |
| | 15 | 1 | こ44 | 第4層 | 皿 | 完形 | 12.4 | 3 | 6.4 | 畳付を幅広く作る。 | 福建・広東省 | 16c~17c | 見込み蛇の目軸刺ぎ。高台無軸。 |
| 第37図 PL. 46 | 1 | 1 | こ44 | 第2砂利層 | 皿(特殊) | 完形 | 9.8 | 3.2 | 3 | ごけ底の皿。 | 中国(景德鎮系) | 16c~17c初 | |
| | 2 | 1 | す44 | 第3層 | 皿(特殊) | 完形 | 10 | 3.3 | 2.6 | ごけ底の皿。 | 中国(景德鎮系) | 16c~17c初 | |
| | 3 | 1 | し44 | 第1瓦層 | 皿 | 完形 | 11.7 | 2.5 | 3.6 | ごけ底の皿。灰色に発色している。珍しい'ひげ'である。 | 中国 | 明代 | |
| | 4 | 1 | し44 | 第3層 | 小皿 | 完形 | 3.3 | | | 口禿'ひげ'。小皿の転用か? 口縁部に二次的な加工を施している。 | 中国 | 15c代 | |
| | 5 | 1 | す44 | 第3層 | 小皿 | 完形 | 7.2 | 1.9 | 3.4 | 口禿'ひげ'。口唇部から外面にかけ煤付着。灯明皿に利用か | 中国 | 15c代 | |
| | 6 | 1 | き45 | NO. 24 | 小皿 | 完形 | 8 | 2.9 | 3.8 | 福建か。切高台。 | 中国 | 15c代 | 全面施釉。 |
| | 7 | 1 | か45 | 第2層 | 小皿 | 完形 | 7.8 | 1.5 | 3.8 | 福建か。切高台。 | 中国 | 15c代 | 全面施釉。 |
| | 8 | 1 | き45 | 第2層 | 小皿 | 完形 | 8.1 | 1.9 | 3.8 | 口唇部に煤付着。灯明皿に転用か。切高台。 | 中国 | 15c代 | 全面施釉。 |
| | 9 | 1 | つ43, き45 | 第3層, 第1層 | 小皿 | 完形 | 8 | 2 | 4 | 切高台の小皿。 | 中国(福建か?) | 15c代 | 全面施釉。 |
| | 10 | 1 | こ46 | 第3層 | 小皿 | 完形 | 10 | 2.5 | 4.4 | 切高台。 | 中国 | 15c代 | 全面施釉。 |
| | 11 | 1 | し46, け46, け47 | 第3層, 第3層, 第3層, 第3層, 第3層 | 小皿 | 完形 | 9.2 | 2.1 | 4.6 | 見込み上の製品の焙着痕あり。灯明皿に転用? | 中国 | 15c代 | 高台無軸。 |
| | 12 | 1 | す44 | 第3層 | 小皿(特殊) | 完形 | 7.6 | 1.7 | 2.8 | 菊花形の皿。口縁を輪花に成形。 | | | 見込み蛇の目軸刺ぎ。底部平底で無軸。 |
| | 13 | 1 | さ44 | | 小皿(特殊) | 完形 | 7.6 | 2.9 | 2.6 | 菊花形に作った小皿。口縁部を線彫り。 | 景德鎮系 | 16c~17c前半 | 高台内無軸。 |
| 14 | 1 | し45 | 第1瓦層 | 皿 | 完形 | 13.1 | 3.3 | 5.1 | 椀花形で高台無軸の粗製の皿。内面から外面上部にかけて化粧かけする。 | 中国(福建・広東) | 16c~17c前半 | 高台内無軸。 | |
| 第38図 PL. 47 | 1 | 1 | か42 | 攪乱 | 小杯 | 完形 | 3.6 | 2.1 | 1.6 | | 中国清朝 | 17c~18c代 | 畳付のみ無軸。 |
| | 2 | 1 | こ47 | 第3層 | 小杯 | 底部 | | | 2.6 | 腰部が丸く立ち上がる。高台内に染付の銘あり。 | 中国(景德鎮系) | 16c後半~17c代 | 見込み蛇の目軸刺ぎ。 |
| | 3 | 1 | き45 | 第2層 | 小碗 | 完形 | 8 | 4.4 | 4 | 型成形。口禿。 | 中国 | 18c~19c | |
| | 4 | 1 | そ43 | 第2層 | 皿 | 完形 | 13 | 2.7 | 7.8 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c代 | |
| | 5 | 1 | き43 | 第1瓦層 | 不明 | 脚部 | | | | 特殊。 | 中国か? | 上限は15c代か? 16c~清初代? | |
| | 6 | 1 | か45, き44 | 第2瓦層, 第1層 | 合子 | 完形 | 6(5.2) | 3 | 2.9 | 軸が黄ばんでいる。(特殊'ひげ')。合子の身。 | 中国か? | 14c~明代まで | |
| | 7 | 1 | け43 | 第3瓦層 | 小盥 | 口縁部 | | | | 唐草文を陽刻。 | 中国 | 15c~16c代 | |
| | 8 | 1 | す44 | 第3層 | 高足杯? | 脚部 | | | 3.8 | | 中国 | 明代15c~17c前半 | |
| | 9 | 1 | CIIa3か46, に59 | 第2層攪乱, 攪乱 | 瓶 | 胴部 | | | | | 中国 | 16c~17c | |
| | 10 | 1 | き44 | 第1層 | 壺? | 口縁部 | 7.8 | | | 黄ばんだ発色。口唇部無軸。 | 中国 | 明代 | 高台無軸。 |
| 第39図 PL. 48 | 11 | 1 | け45, せ47 | 第2・3瓦層, 第3瓦層 | 壺? | 底部 | | | 6.2 | 黄ばんだ発色。 | 中国 | 明代 | 高台無軸。 |
| | 12 | 1 | け40 | 攪乱 | 壺 | 底部 | | | 6.7 | 7'ド'壺。やや灰色がかった発色。 | 中国 | 16c~17c前半 | 高台無軸。 |
| | 13 | 1 | し43, き42 | 第3層, 第1瓦層 | 壺 | 口縁部 | 10.4 | | | 黄ばんだ発色。 | 中国 | 明代 | |
| | 14 | 1 | せ43 | 第3層 | 壺 | 胴部 | | | | 黄ばんだ発色。 | 中国 | 明代 | |
| | 1 | 2 | と58 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | 7.3 | 高台畳付き幅広。 | 中国 | 16c~17c代 | 見込み蛇の目状の軸刺ぎ。高台無軸 |
| | 2 | 2 | た58 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | 5.9 | 粗製の碗。 | 中国 | 17c~18c代 | 見込み高台無軸。 |
| | 3 | 2 | な60 | 第3層'ハ'ロ層 | 碗 | 底部 | | | 6.9 | 高台畳付が広い作り。 | 中国 | 16c代~17c代 | 高台無軸。 |
| | 4 | 2 | な61 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | 6.8 | 腰部にカンナ痕が巡る。 | 中国 | 明代 | 見込み蛇の目状の軸刺ぎ。高台無軸 |
| | 5 | 2 | FIVb4 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | 7.7 | | 中国 | 17c後半~18c代 | 見込み中央に軸刺を丸く塗る。畳付除き高台施釉。 |
| | 6 | 2 | | 表土攪乱 | 碗 | 底部 | | | 6.8 | 赤絵の可能性あり。 | 中国 | 17c後半~18c前半まで | 畳付にモミガラ付着。 |
| | 7 | 2 | と58 | 第1層, 黒褐色土層 | 碗 | 底部 | | | 6.6 | | 中国 | 17c後半~19c前半 | 見込み蛇の目軸刺ぎ。畳付にモミガラ付着。 |
| | 8 | 2 | に60 | 第3層, 'ハ'ロ層 | 小杯 | 完形 | 3.4 | 2.1 | 1.6 | 口唇部に鉄軸あり。畳付のみ無軸。 | 中国 | 17c後半~19c(清朝) | |
| | 9 | 2 | に57 | 第1層攪乱 | 小杯 | 完形 | 4 | 2.1 | 1.7 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c | |
| | 10 | 2 | に57 | 攪乱 | 小碗 | 完形 | 6 | 3.1 | 2.8 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c | |
| | 11 | 2 | た57 | 第3層 | 小碗 | 完形 | 6.5 | 3.25 | 2.7 | 型成形。口禿。高台内に陽刻の銘あり。 | 中国(福建) | 18c~19c | |
| | 12 | 2 | | 第2層攪乱 | 小碗 | 完形 | 8.8 | 4.2 | 4 | 型成形。口禿。 | 中国 | 18c~19c | |
| | 13 | 2 | て59 | 砂利層 | 小碗 | 底部 | | | 4.9 | 型成形。口禿。 | 中国 | 18c~19c | |
| 14 | 2 | | 表土攪乱 | 小皿 | 完形 | 5.6 | 1.3 | 3.8 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c | 畳付のみ無軸。 | |
| 15 | 2 | な57 | 攪乱 | 小皿 | 完形 | 5.8 | 1.6 | 3.8 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c | 高台内無軸。 | |
| 16 | 2 | な57 | 攪乱 | 小皿 | 完形 | 8 | 2.4 | 5 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c | 高台内無軸。 | |
| 17 | 2 | | 攪乱 | 小皿 | 完形 | 9.2 | 1.9 | 6.2 | 型成形。口禿。 | 中国(福建) | 18c~19c | 畳付のみ無軸。 | |
| 18 | 2 | に57 | 第2層攪乱 | 皿 | 底部 | | | 7.6 | 型成形?。 | 中国 | 18c~19c頃 | 高台内無軸。 | |
| 19 | 2 | な57 | 第2層攪乱 | 口禿の皿 | 完形 | 12.8 | 2.8 | 8.2 | 口禿。型成形。 | 中国(福建) | 18c~19c | 全面施釉。 | |
| 20 | 2 | な57 | 第2層攪乱 | 口禿の皿 | 完形 | 12.8 | 2.6 | 8.2 | 口禿。型成形。'ま'が付着。 | 中国(福建) | 18c~19c | 全面施釉。 | |
| 21 | 2 | の56 | 攪乱 | 壺台? | 脚部 | | | | | 中国か? | 清朝 | | |
| 22 | 2 | つ58 | 第7層 | 八角小杯 | 底部 | | | 3.6 | 内面に重ね焼きの焙着痕あり。 | 中国 | 15c代 | 高台無軸。 | |
| 23 | 2 | な59 | 攪乱 | 皿(特殊'ひげ') | 底部 | | | 9 | 内側面'ハ'彫りの菊花状の蓮弁文。 | 中国 | 16c~17c代か? | 見込み蛇の目軸刺ぎ。畳付無軸。焼成不良。 | |
| 24 | 3 | | 攪乱 | 皿? | 底部 | | | 3.7 | | 中国 | 14c末~15c | 高台無軸。 | |



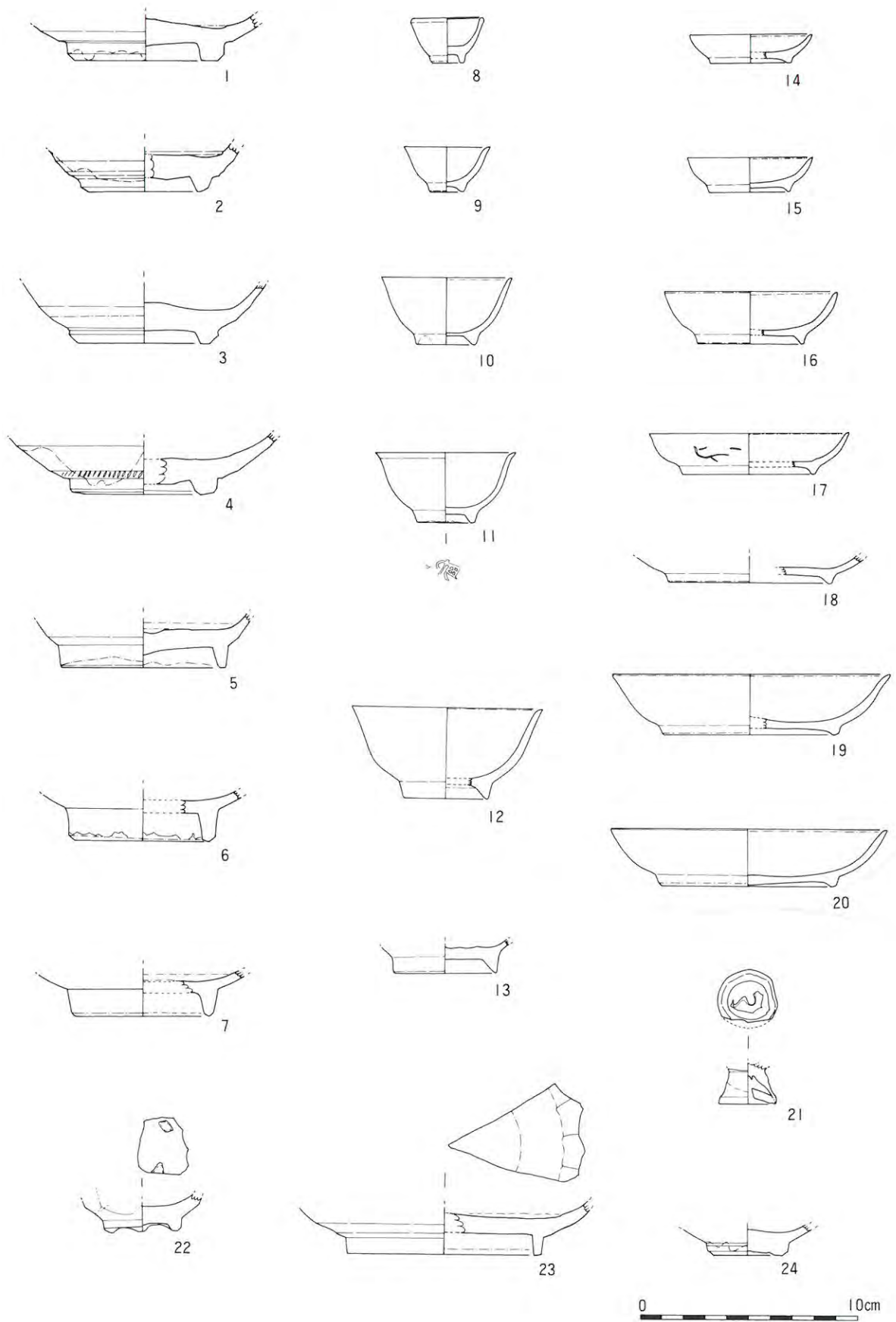
第36图 白磁① (I地区)



第37图 白磁② (I地区)



第38图 白磁③ (I地区)



第39图 白磁④ (II·III地区)

第3節 染付

第40図～第50図がI地区、第51図～第59図1～20がII地区、第59図21～25がIII地区の出土である。

第40図～第43図、第51図～第55図が碗、第44図～第49図、第56図～第58図14～17が皿及び鉢、第50図4～18、第58図1～13、第59図がその他の器種である。

第40図、第41図1は端反り型と直口型の碗である。第40図1・5・6、第41図1は高台施釉、第40図4は高台無釉である。第41図2・3は口縁部に波濤文、胴部に蕉葉文、見込みに青海波に法螺貝を描く。同図4・6・7・8は腰が若干張って真直ぐ立ち上がるタイプで、外面は口縁部に波濤文、胴部に唐草文、見込みに花文を描く。同図5は蓮子型碗の底部である。第42図3は、「梅にうぐいす」の文様がある珍しいタイプである。同図4は見込みに花鳥文を描く。高台内に二重方形枠内に「正」字を書き込む。同図7は見込みに人物文を描く。同図8は高台が「ハ」字状に開くもので、見込みに樹下人物文を描く。同図10は第42図6と同種の底部である。同図11・12は見込みに花唐草文を描くものである。第41図6と同種の底部であると思われる。第43図2～4は16世紀後半・末～17世紀前半に属する。2は饅頭心型の膨らみがなくなっている。同図3は見込み蛇の目釉剥ぎを施す。同図5～10は腰折れの坏である。同図5・7・8・10は外面草花文、6・9は如意頭繫ぎ文を描く。見込みの文様は草花文と十字花文の2種ある。以上はいずれも明代の製品である。

第43図11～16は清代の製品である。同図11～15は小碗である。同図11は口唇部の釉が掻き取られている。焼成不良で全体的にくすんだ色調を呈する。同図12・13・15は二重描線により唐草文を描く。高台内に銘を有し、12は「成」、13は「全」、15は「玉」の各種ある。同図14は仙芝祝寿文を描く。

第44図1・2は端反りタイプの皿で、外面唐草文、内側面・見込みに草花文を描く。同図3・4は碁笥底の皿で、3は見込みに十字花文を描き、その周囲に花を巡らす。第45図と第46図は見込み十字花文の皿で、口径10cm前後のものと口径12cm前後のもの2種がある。第47図と第48図は見込み玉取り獅子文の皿である。第49図1～6・8・9は碁笥底の皿である。同図1～3は外面は波濤文と蕉葉文の組み合わせであるが、同図4～6は外面は無文となる。同図8・9は内面に花模様を描き、その周囲に点描地文を配する。7は皿または鉢と見られる。文様は同図8・9と同様である。以上は明代の製品である。第50図2は福建・広東系の粗製の皿で見込みに「玉」字を描く。高台外面は無釉であるが、高台内は釉掛けを行う。見込み蛇の目釉剥ぎである。同図3は皿か鉢とみられる。福建・広東系の製品で呉須手で見込みに「飛馬文」を描く。以上は明末・清初の製品である。第49図11・12、第50図1は清代の製品である。第50図1は見込みに「志在書中」図を描く。第50図4は口縁部が輪花状をなす角形の鉢である。同図5～13は明・清代の小坏である。同図10は高台内「宣徳年造」、同図11は高台内「正徳年製」である。同図14～16は高足坏である。同図17・18は蓋で崩れた蓮弁文・蕉葉文を描く。

以上がI地区出土の製品である。次にII地区出土の製品について述べる。

第51図は明代の製品である。第51図1～6は端反りタイプの碗である。同図5は見込みに「福」字を描く。同図7・8は口縁部外面に波濤文、胴部外面に蕉葉文、見込みに青海波に法螺貝を描く。同図7は高台内に一重長方形枠内「太平」字を書き込む。同図9は腰が若干張って真直ぐ立ち上がるタイプの碗である。同図10は饅頭心型碗の底部である。高台内の銘は不明である。第52図1は大振りの碗で、外面の図柄は不明である。見込みは花文を描く。高台無釉である。同図2～10、第53図1～3は福建・広東系の粗製の碗である。呉須の発色が悪く、黒味がかかった色調を呈する。文様はかなり崩れており、図柄は不明である。見込み及び高台は無釉で、見込みは蛇の目状の削りを行う。同図10のみ見込みは施釉である。これらの製品の年代は16世紀後半～17世紀前半である。

次に清代の製品について述べる。

第53図6～14、第54図1～9、第56図1は福建・広東系の碗で、高台が高く、高台径の大きい大振りの碗である。第53図6～13は草花文を描くグループである。このグループには草花文のみを描くものと同図9のように腰部に蓮弁文を巡らすものがある。年代は18世紀頃である。第54図1～6は寿字を巡らすグループである。このグループは外面を「寿」字と花文を交互に配し、腰部には蓮弁文が巡る。またこのグループは高台内に「和美」・「合利」・「盛」等の銘を有する。年代は18世紀～19世紀後半である。同図7は丸文のグループに属する。同図8は草花文または唐草文に「寿」字の崩れを配する。第55図1は文様の崩れがひどく、図柄は不明である。第54図9は見込み蛇の目釉剥ぎ、高台内は無釉であるが、高台中央のみ施釉されている。文様は崩れがひどく、図柄は不明である。年代は18世紀～19世紀頃である。

第55図2～5は内外面に仙芝祝寿文を施す。同図6～17は染付の青色の発色が強い小碗である。この種の碗は高台内に意味不明の銘を有する。年代は同図6～9が18世紀末～19世紀、同図10～17が18世紀～19世紀である。同図18は外面に青磁釉を掛けるもので、内側面に八卦文、見込みに太極図を描く。

第56図・第57図はII地区出土の皿形である。第56図1・3は見込みに十字花文を描く。同図2は見込みに玉取り獅子文を描く。以上は明代の製品である。

第56図4～9、第57図は清代の製品である。第56図5は染付に辰砂を加えたものである。網目状の部分が辰砂で描かれている。高台内は無釉である。第56図8・9、第57図1・2・8は見込みに志在書中図を描く。第57図3～7は18世紀後半～19世紀に属する小皿である。同図3～5は型成形とみられる。同図9は内面に仙芝祝寿文を描く。

第58図14～17は福建・広東系の大振りの鉢の底部である。見込み中央に印花文、その周囲は蛇の目釉剥ぎを施す。第59図1～15は小坏である。同図16は角形の皿である。高台は貼り付けである。年代は17世紀前半、同図17～20は蓮華で清代の製品である。第58図1～3は瓶である。1・3は頸部に蕉葉文を巡らす。2は肩部に蓮弁文、胴部に唐草文を配する。1・3はII地区、2はI地区の出土である。年代は15世紀～16世紀。4は小壺で口鏤装飾を施す。同図5は合子の身である。やや焼成不良気味の製品である。胴部は篋彫りによる蓮弁文を配し、圏線は染付である。年代は15～16世紀。同図6～8は蓋である。7は蓋物の蓋、8は壺の蓋である。これらの製品はII地区出土で、年代は清代である。同図9・10は用途不明の製品である。9は胴部に「平安散□」と書かれている。年代は18世紀後半～19世紀頃。10は年代不明（明代・清代か）である。同図11～13は小瓶である。11は焼成不良気味の製品で口鏤装飾を施す。13は胴部に「同」と書かれている。年代は11が16世紀末～17世紀前半、12・13は18世紀～19世紀である。

以上がII地区出土の製品である。次にIII地区出土の製品について述べる。

第59図21～22は皿、同図23～24が碗、同図25がその他の器種である。21は内外に唐草文を施す。年代は明代である。22は碁笥底の皿で、呉須の発色が不良である。外面に波濤文と蕉葉文、見込みに花文を配する。23は清代、24は明代の碗の底部である。25はコーヒーカップ状の製品である。外面に雲か霞の文様を紺色に近い呉須で描き、その中を上絵付けで渦巻文を描く。周囲の花文は赤絵で描く。全体的に古伊万里を真似たようなモチーフ、色調を呈する。年代は清代とみられる。

第3表1 染付観察一覧

| 図・PL | 器型 | ケラット | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 |
|----------------|----------|--------------------|-------------------------|----|------|------|------|-----------|----------------------------------|------------|-------------|-----------------------------|
| 第40回 PL. 49 | 1 | き44・き45, No. 36 | 1層 | 碗 | 完形 | 18 | 8.1 | 6.4 | 見込み「十字花文」外側に唐草と魚を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 2 | こ47 | 3層 | 碗 | 口縁部 | 14.6 | | | 外側に唐草文を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 3 | き44 | 第2瓦層 | 碗 | 口縁部 | 8.3 | | | 見込み「十字花文」外側に唐草と魚を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 4 | き44 | 1層 | 碗 | 完形 | 14.6 | 6.3 | 5.6 | 口縁部に「梅甲つなぎ」があり、胴部には松・竹・梅が描かれている。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 5 | 東 | 表探 | 碗 | 完形 | 15 | 6.9 | 6 | 端反り「ひび」の碗で蓮の文様を外面に描く。見込み花文。 | 中国産 | 15c後半～16c中 | |
| | 6 | し46 | 第2瓦層, 黄褐色土層 | 碗 | 口縁部 | 12.5 | | | 直口「ひび」の碗。外面に蓮の文様。見込みに花文を描く。 | 中国産 | 15c～16c中葉 | |
| | 7 | す・せ44 | 黄褐色土層 | 碗 | 口縁部 | 15.2 | | | 端反り「ひび」の碗で蓮の文様を外面に描く。 | 中国産 | 15c後半～16c中 | |
| 第41回 PL. 50 | 1 | こ47 | 2瓦層 | 碗 | 完形 | 14 | 6.85 | 6.2 | 端反り「ひび」で外側, 見込み, ともに「丸文」を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 2 | き45・46, し46 | 2瓦層集中 | 碗 | 完形 | 12.6 | 5.8 | 5.1 | 外面に「蕉葉文」口縁部に「波濤文」見込みに「巻貝」を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 3 | き45, No.42, せ45 | 黄褐色土層 | 碗 | 完形 | 12.3 | 6.2 | 5.1 | 外面に「蕉葉文」口縁部に「波濤文」高台内面に「巻貝」を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | 高台内に「太平」の銘あり。 |
| | 4 | し42, ち44 | 第1瓦層, 攪乱層 | 碗 | 口縁部 | 12.2 | | | 口縁部に「波濤文」胴部に唐草文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 5 | し44, せ45 | 攪乱層, 第3層上面 | 碗 | 底部 | | | 6 | 蓮子型 中心部かへこむ特徴がある。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 6 | せ43, ち44 | 第3層, 1瓦層 | 碗 | 完形 | 12.6 | 6.4 | 5.4 | 見込みに花文を描く。腰を若干張ってまっすぐ立ち上がる「ひび」。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 7 | か46 | 攪乱層 | 碗 | 口縁部 | 12.8 | | | 口縁部に「波濤文」胴部に「唐草文」を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 8 | しけ・こ47 | 2層 | 碗 | 底部 | | | 5.6 | 胴部に「唐草文」見込みに「花文」を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 9 | せ43, せ43 | 3層下, 第3層 | 碗 | 完形 | 14.6 | 6.4 | 5.2 | 草花文に鳥を描く。 | 中国産 | 16c代 | |
| | 10 | 西北 | シ最下 | 碗 | 完形 | 14.6 | 7 | 6.4 | 草花文に鳥を描く。 | 中国産 | 16c代 | |
| 第42回 PL. 51 | 1 | せ44 | 1瓦層 | 碗 | 口縁部 | 14.3 | | | 草花文に鳥を描く。 | 中国産 | 16c代 | |
| | 2 | し45, せ44 | 1瓦層・3層瓦集 | 碗 | 口縁部 | 14.2 | | | 草花文に鳥を描く。 | 中国産 | 16c代 | |
| | 3 | す45 | 2層 | 碗 | 完形 | 17.9 | 6.5 | 6.6 | 「梅にうくす」の文様がある珍しいタイプ。 | 中国産 | 16c代 | |
| | 4 | し45 | 2瓦層 | 碗 | 底部 | | | 5.8 | 高台内に「正」を配し見込みに花鳥文を描く。 | 中国産 | 16c代 | |
| | 5 | す44, せ43 | 3層, 第3層黄灰色粘質土層 | 碗 | 底部 | | | 5.8 | 見込みに「花文」を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 6 | 東 | 表探 | 碗 | 底部 | | | 6 | 外面に唐草文。見込みに「草花文」を描く。 | 中国産 | 16c代 | |
| | 7 | し44 | 1層 | 碗 | 底部 | | | 6.8 | 見込みに「人物文」。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 8 | し44 | 1瓦層 | 碗 | 底部 | | | 5.8 | 見込みに「樹下人物文」。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 9 | せ43・き44 | 3層(瓦集出) 攪乱 | 碗 | 底部 | | | 5.6 | 見込みの文様不明。 | 中国産 | 15c後半～16c前半 | |
| | 10 | き45 | 2層 | 碗 | 底部 | | | 5.6 | 胴部に唐草文。見込みに花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 11 | せ43 | 3層 | 碗 | 底部 | | | 5 | 外面に唐草文。見込みに花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 12 | し42 | 2層 | 碗 | 底部 | | | 4.6 | 見込みに花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| 第43回 PL. 52 | 1 | き46, し45, し44, な61 | 2層, 下段構内, 第4瓦層, (2区) 3層 | 碗 | 底部 | | | 6.4 | 見込みに花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 2 | ち43 | 黄灰色粘質土層 | 碗 | 底部 | | | 4.2 | 「鏡心型」の影がなくなっている。 | 中国産 | 16c末～17c前半 | |
| | 3 | た45 | 3号井戸 | 碗 | 底部 | | | 5 | 外面の文様は不明。見込み蛇の目軸刺き。 | 福建・広東系 | 16c末～17c前半 | |
| | 4 | た44, た44 | 第1層, 1瓦層 | 碗 | 底部 | | | 6.8 | 外面は区画内に花文? を描く。見込みに花文を描く。腰折れの小杯。 | 福建・広東系 | 16c末～17c前半 | |
| | 5 | き44 | | 小鉢 | 完形 | 7.2 | 4.1 | 4.1 | 外面草花文。見込みに十字花文を描く。腰折れの小杯。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 6 | し46 | 1瓦層 | 小鉢 | 完形 | 7.8 | 4.7 | 4.7 | 外面唐草文。見込みに草花文を描く。腰折れの小杯。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 7 | し44 | 1瓦層 | 小鉢 | 完形 | 8.4 | 4.5 | 4.8 | 内外面ともに草花文を描く。腰折れの小杯。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 8 | き46 | 2層集中 | 小鉢 | 口縁部 | 8.2 | | | 外面に草花文を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 9 | し45 | 2砂利層下の埴土 | 小鉢 | 底部 | | | 4.6 | 外面唐草文。見込みに草花文を描く。腰折れの小杯。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 10 | し43・し46 | 3層, 第2瓦層 | 小鉢 | 底部 | | | 4 | 外面に草花文を描く。見込みに十字花文? を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | |
| | 11 | つ44 | 1層 | 小鉢 | 完形 | 8 | 4.05 | 3.8 | 外面山水図? を描く。 | 中国産 | 17c～18c代 | 口縁部の釉がかきとられて釉薬が焼成不良。高台内は無釉。 |
| | 12 | | 2a3攪 | 碗 | 完形 | 8.2 | 4.5 | 3 | 外面二重線による唐草文を描く。 | 中国産 | 16c～18c | 高台内「成」字の銘。 |
| | 13 | 不明 | | 碗 | 底部 | | | 2.9 | 外面二重線による唐草文? | 中国産 | 16c～18c | 高台内「全」字の銘。 |
| | 14 | た44 | 3層 | 碗 | 底部 | | | 6.1 | 内外面に「仙芝祝寿文」を描く。 | 中国産 | 18c～19c代 | |
| | 15 | か42c1 | a4攪 | 碗 | 完形 | 8 | 4.85 | 2.8 | 外面二重線による唐草文を描く。 | 中国産 | 16c～18c | 高台内「玉」又は「正」字の銘。 |
| 第44回 PL. 53 | 1 | す45, き44 | 黄褐色土層, no17 | 皿 | 完形 | 13.2 | 3 | 8.6 | 端反りタイプ。見込み部分及び外面に草花を描いている。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 2 | No45 | | 皿 | 完形 | 13.4 | 3 | 8.4 | 端反りタイプ。見込み部分及び外面に草花を描いている。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 3 | せ42 | 3層 | 皿 | 完形 | 12.8 | 3.5 | 5 | 見込み「十字花文」周囲に花をめぐらせている。外面は唐草文を描く。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | ゴケ底。 |
| | 4 | こ45 | 3瓦層 | 皿 | 完形 | 13.2 | 3.95 | 6.6 | 見込み「花十字文」。 | 中国産 | 15c後半～16c中葉 | ゴケ底。 |
| | 5 | き44 | | 皿 | 完形 | 15.2 | 3.8 | 8.4 | 見込みに「花十字文」外面は唐草文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| 第45回 PL. 54 | 1 | せ44 | | 小皿 | 完形 | 9.8 | 2.2 | 5 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 2 | せ43 | 3層 | 小皿 | 完形 | 9.8 | 2.1 | 4.8 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 3 | す42 | 3層, 中央瓦列側溝, 3層 | 小皿 | 完形 | 9.7 | 2.4 | 4.6 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 16c末～16c中葉 | |
| | 4 | せ43 | 3層 | 小皿 | 完形 | 9.2 | 2.1 | 4.8 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| 第46回 PL. 55 | 1 | し43 | 第4層 | 小皿 | 完形 | 9.6 | 2.4 | 4.8 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 2 | き45 | 2瓦層, 炭だまり | 皿 | 完形 | 11.8 | 2.7 | 6.8 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 1 | き45 | 2層 | 皿 | 完形 | 12 | 2.8 | 6.4 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 2 | き44 | 2層 | 皿 | 完形 | 12.1 | 2.7 | 7 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 3 | か45, き44, き45 | 攪乱, 第2瓦層, 第2瓦層 | 皿 | 完形 | 12 | 2.8 | 6.4 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 4 | き45 | 2瓦層, 埴土 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.8 | 6.8 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| 第47回 PL. 56 | 1 | せ44, き44 | 2層, no18 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.8 | 6.4 | 外面唐草文。見込み十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 1 | き44・45 | 1層 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.8 | 6.4 | 「玉取り獅子文」。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 2 | き45 | 第2瓦層 | 皿 | | | | | 「玉取り獅子文」。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 3 | き44, き45 | 1層, no40 | 皿 | 完形 | 11.8 | 2.6 | 6.8 | 「玉取り獅子文」。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| | 4 | せ・せ45 | 2瓦層(溝, 攪乱) | 皿 | 完形 | 11.9 | 2.6 | 6.7 | 「玉取り獅子文」。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | |
| 5 | き45, き45 | 第2層, 第2瓦層 | 皿 | 完形 | 12.3 | 2.75 | 6.9 | 「玉取り獅子文」。 | 中国産 | 15c末～16c中葉 | | |

第3表2 染付観察一覧

| 図 | PL | 番号 | 口径 | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 | | |
|----------------|-------|----------------|---------------|--------------------|-------------------|-----|-------|-------|------|--|-----------------------|-------------------------|--------------------------------|-------------|----------------|
| 第48図 PL. 57 | 1 | 1 | き44, せ44 | 第2層, 第2層 | 皿 | 完形 | 11.9 | 2.4 | 6.3 | 「玉取り獅子文」 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | | |
| | | 2 | き44, せ44 | no14, 第1層 | 皿 | 完形 | 12.4 | 2.7 | 6.65 | 「玉取り獅子文」 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | | |
| | | 3 | せ45 | 黄褐色土層 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.5 | 7 | 「玉取り獅子文」 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | | |
| | | 4 | く44-45 | 互列裏込め | 皿 | 完形 | 11.8 | 2.7 | 7 | 「玉取り獅子文」 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | | |
| | | 5 | す44 | 4層 | 皿 | 完形 | 13.4 | 3.05 | 7.8 | 「玉取り獅子文」 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | | |
| 第49図 PL. 58 | 1 | 1 | し44, す45 | 1瓦層, 第3層 | 皿 | 完形 | 9.4 | 2.3 | 2.5 | 見込みに花鳥文を描き外面に蕉葉文を描く。「花鳥文」の描き方が変わっている。 | 中国産 | 16c前半~16c中葉 | ゴケ底。 | | |
| | | 2 | し44, く・け42 | 第1層, 瓦集中部掃除 | 皿 | 完形 | 9.6 | 2.35 | 3.5 | 見込みに花鳥文を描き外面に蕉葉文を描く。 | 中国産 | 16c前半~16c中葉 | ゴケ底。 | | |
| | | 3 | き42, す43 | 1層, 遺砂利 | 皿 | 完形 | 9.8 | 2.8 | 3 | 外面「波濤文」を描く。見込みの文様は不鮮明 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | ゴケ底。 | | |
| | | 4 | こ41 | 井戸状遺構 | 皿 | 完形 | 11.2 | 3 | 2.8 | 「人形十字文」見込みに「寿字」を人の形にして描く | 中国産 | 16c代 | ゴケ底。 | | |
| | | 5 | ち44, ち45, せ43 | 第1層, 覆乱, 第3層 | 皿 | 底部 | | | 2.8 | 「人形十字文」見込みに「寿字」を人の形にして描く | 中国産 | 16c代 | 破片。ゴケ底。 | | |
| | | 6 | け40 | 覆乱 | 皿 | 底部 | | | 3.6 | 「人形十字文」見込みに「寿字」を人の形にして描く | 中国産 | 16c代 | 破片。ゴケ底。 | | |
| | | 7 | せ43 | 3層 | 碗 | 底部 | | | 6.4 | 内面に花模様を描き、その周囲に「点描地文」を配する。 | 中国産 | 16c代 | 破片。 | | |
| | | 8 | こ42 | 第1瓦層 | 皿 | 口縁部 | | | | 内面に花も葉を描き、その周辺に「点描地文」を配する。 | 中国産 | 16c代 | ゴケ底。 | | |
| | | 9 | こ42 | 1瓦 | 皿 | 底部 | | | 4.6 | 内面に花模様を描き、周囲に「点描地文」を配する。 | 中国産 | 16c代 | ゴケ底。 | | |
| | | 10 | ら44 | 1層 | 皿 | 底部 | | | 5.8 | 見込み草花文? | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | | |
| | | 11 | て44, せ44 | 西覆乱, 第1~第2層試掘 | 皿 | 完形 | 14.7 | 3.5 | 8.4 | 内外面とも雲?を描く。 | 中国産 (清朝) | 18c後半~19c | | | |
| | | 第50図 PL. 59 | 1 | 1 | に59 | 覆乱 | 皿 | 完形 | 15.2 | 3.1 | 8 | 「志在書中図」である。 | 中国産 | 18c頃 | |
| 2 | す42 | | | 第1層 | 皿 | 完形 | 10.6 | 3.5 | 5.45 | 見込みに「玉」字。 | 福建・ 広東系 | 17c代 | | | |
| 3 | ち45 | | | | 皿か鉢 | 底部 | | | 7.2 | 「飛馬文」・「呉須手」白化粧を塗ってその上に染付を行っている。 | 福建・ 広東系 | 16c末~17c前半 | 破片。 | | |
| 4 | き43 | | | 2層(瓦集中) | 鉢 | 口縁部 | | | | 口縁部を輪花状に作る。角形の鉢。 | 中国産 | 15c~16c中葉 | 破片。非常に珍しいタイプである。 | | |
| 5 | し42 | | | 2層 | 小杯 | 口縁部 | 5.6 | | | 外面唐草文を描く。 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | 破片。 | | |
| 6 | せ48 | | | 覆乱(5号窯) | 小杯 | 完形 | 4.4 | 2.7 | 2 | | 中国産 (明・清) | 16c~17c前半 | 高台無軸。 | | |
| 7 | 不明 | | | | 小杯 | 底部 | | | 2.4 | | 中国産 (明・清) | 16c~17c前半 | | | |
| 8 | こ41 | | | 井戸中 | 小杯 | 底部 | | | 2.2 | | 中国産 (明・清) | 16c~17c前半 | 高台無軸。 | | |
| 9 | 不明 | | | | 小杯 | 底部 | | | 2.4 | 外面唐草文を描く。 | 中国産 | 15c後半~16c代 | 高台無軸。 | | |
| 10 | ち42 | | | 1瓦層 | 小杯 | 底部 | | | 3 | 「宣徳年造」の銘が入っている。「宣徳年」自体は、15c年代であるが、この場合は16c代。 | 中国産 | 16c後半 | | | |
| 11 | す43 | | | 1砂利層 | 小杯 | 底部 | | | 2.3 | | 中国産 (明・清) | 16c~17c前半 | 高台無軸。 | | |
| 12 | か45c2 | | | a2層 | 小杯 | 底部 | | | 2.2 | | 中国産 (明・清) | 16c~17c前半 | 高台無軸。 | | |
| 13 | き42 | | | 第1層 | 小杯 | 底部 | | | 2.6 | 「正徳年製」 | 中国産 (明・清) | 16c後半頃 | 破片。 | | |
| 14 | そ46 | | | 2焼土層 | 高足杯 | 胸部 | | | | 高足杯。 | 中国産 | 16c後半以降~ | | | |
| 15 | か46 | | | c2a3, 覆乱 | 高足杯 | 胸部 | | | | 高足杯。 | 中国産 | 16c後半以降~ | | | |
| 16 | こ46 | | | 4号井戸 | 杯 | 底部 | | | 3.4 | 見込みに「花文」。高足杯。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c前半 | 高足杯。粗製。 | | |
| 第51図 PL. 60 | 1 | | | 1 | ふ43 | 3層 | 蓋 | 完形 | | 3 | 2.8 | 3 | 外面に蓮弁文, 蕉葉文のくずれた文様を描く。 | 中国産 | 15c~16c代 |
| | | 2 | た44 | 2層 | 蓋 | 破片 | 内径 | 9 | | | 3 | 「蓮弁文」「蕉葉文」くずれた文様を描く。 | 中国産 | 15c~16c代 | |
| | | 1 | 2 | 1号表 | 碗 | 口縁部 | 13.65 | | | | | 中国産 | 15c中葉~16c前半 | | |
| | | 2 | 2 | き48 | 第3層 | 碗 | 口縁部 | 14.6 | | | | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | | 3 | 2 | ち58 | 第8層b | 碗 | 底部 | | | 5.8 | | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | | 4 | 2 | き59 | 覆乱 | 碗 | 口縁部 | 14.8 | | | | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | | 5 | 2 | な・に60 | 覆乱 | 碗 | 底部 | | | | | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | | 6 | 2 | 1号表 | 碗 | 底部 | | | | 5.3 | | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | | 7 | 2 | な50 | 第2層覆乱, 2号窯b-12 | 碗 | 完形 | 12.3 | 6.2 | | 5 | 外面に波濤文と蕉葉文, 見込みにお貝を描く。 | 中国産 | 15c後半~16c前半 | 高台内に「太平」字の銘あり。 |
| | | 8 | 2 | く58 | 1号表 | 碗 | 完形 | 12.4 | 6.35 | | 4.9 | 外面に波濤文と蕉葉文, 見込みにお貝を描く。 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | |
| | | 9 | 2 | く58 | 第3層 | 碗 | 完形 | 12.4 | 6.4 | | 5.75 | 外面波濤文に唐草文, 見込みに十字花文を描く。 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | |
| | | 10 | 2 | ち57 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | | 5.25 | 「親明心型」 | 中国産 | 16c後半~17c初め | |
| | | 第52図 PL. 61 | 1 | 1 | 2 | つ59 | 第8層 | 碗 | 完形 | 14.7 | 6.7 | 4.9 | 外面の文様はくずれがひどく不明。見込みに「捻じ花」?を描く。 | 中国産 | 16c後半~17c前半 |
| 2 | 2 | | | つ57, つ57 | 第8層, 第6層 | 碗 | 完形 | 14.8 | 6 | 6.4 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み, 高台無軸。 | |
| 3 | 2 | | | ち59 | 第9層 | 碗 | 完形 | 15 | 6 | 6.5 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み, 高台無軸。 | |
| 4 | 2 | | | そ59, ち59, ち58, ち59 | 表土, 第1層, 8層b, 第8層 | 碗 | 完形 | 15.4 | 5.7 | 6.5 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み, 高台無軸。 | |
| 5 | 2 | | | ち59 | 第1層 | 碗 | 完形 | 14.2 | 6.4 | 6.8 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み, 高台無軸。 | |
| 6 | 2 | | | て57, つ57 | 第5層, 第6層 | 碗 | 完形 | 16 | 5.8 | 6.25 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み, 高台無軸。 | |
| 7 | 2 | | | ち59, ち59 | 第1層, 第9層 | 碗 | 完形 | 14.35 | 6.3 | 5.9 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み, 高台無軸。 | |
| 8 | 2 | | | ち59 | 第8層 | 碗 | 口縁部 | 13 | | | | 外側に列点文を配する。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c前半 | |
| 9 | 2 | | | ち59 | 第8層 | 碗 | 底部 | | | | 5.3 | 外側に列点文を配する。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c前半 | 見込み, 高台無軸。 |

第3表3 染付観察一覧

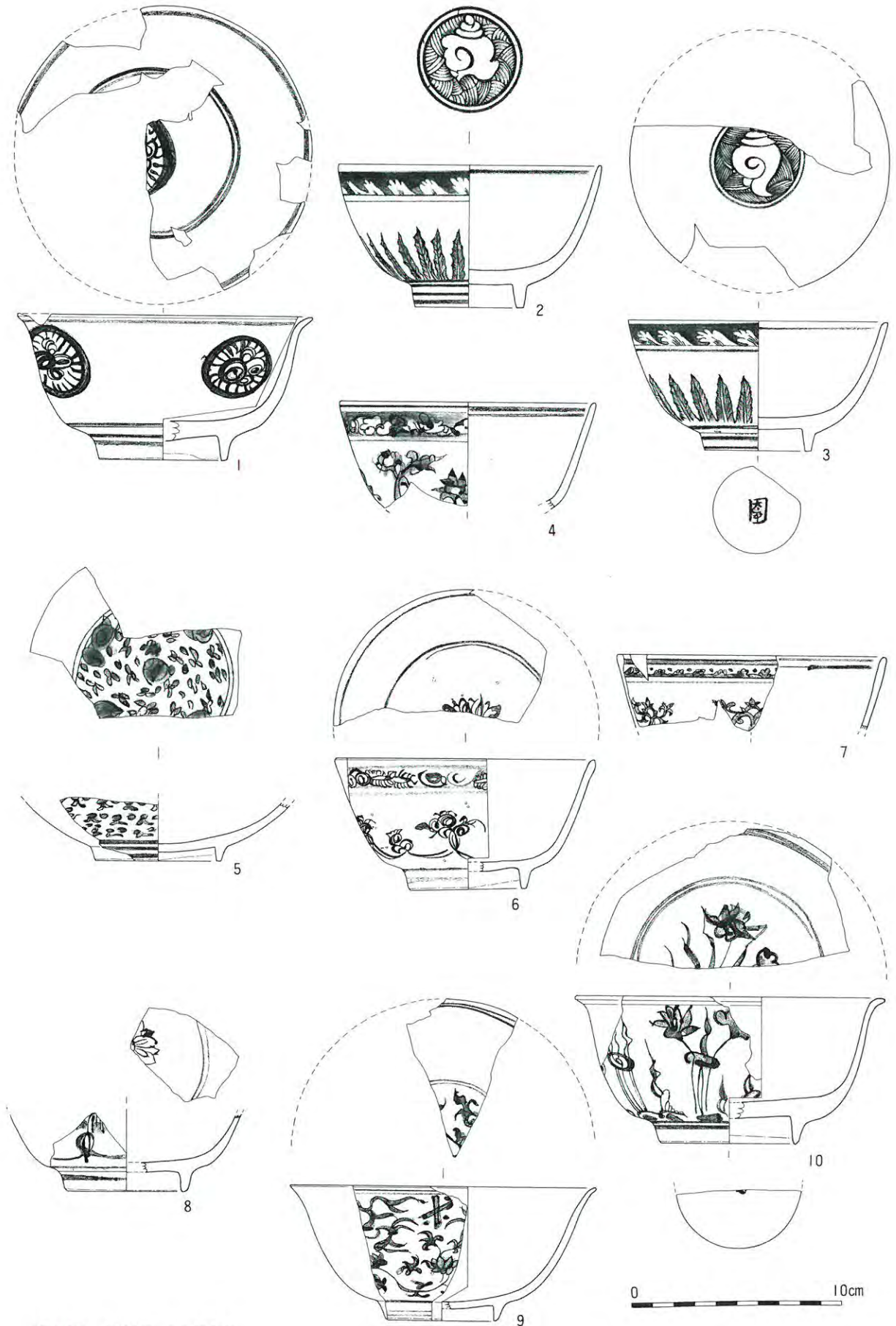
| 図. Pl. | 番号 | ナリ | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 | |
|----------------|----------------|---------------------|------------------|---------------------|-----|----------------|------|----------------------------------|---|-----------------------|-------------|---------------|-----------|
| 第52回 Pl. 61 | 10 | ち59 | 第8層 | 碗 | 完形 | 12.2 | 4.4 | 5 | 粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c前半 | 高台無軸。 | |
| | 第53回 Pl. 62 | 1 | た59 | 第6層 | 碗 | 完形 | 11.8 | 5.1 | 5.1 | 粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 16c後半~17c代 | 見込み、高台無軸。 |
| | | 2 | て57 | 第3層 | 碗 | 完形 | 15.4 | 6 | 6.7 | 外面の文様はくずれがひどく不明。粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 17c~18c頃 | 見込み、高台無軸。 |
| | 3 | ち59 | 第8層 | 碗 | 完形 | 12 | | | 粗製の碗。 | 福建・ 広東系 | 17c~18c頃 | | |
| | 4 | ち58 | 第8層b | 碗 | 底部 | | | 4.4 | | 中国産 | 16c末~17c前半 | | |
| | 5 | た58 | 第5層 | 碗 | 底部 | | | 5 | | 中国産 | 16c末~17c前半 | | |
| | 6 | な60 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | 6.9 | | 中国産 | 16c末~17c前半 | | |
| | 7 | に57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 12.7 | 5.4 | 6 | 外面に草花文を描く。 | 中国産 | 18c頃 | | |
| | 8 | に57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 13.3 | 5.9 | 6.6 | 外面に草花文を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c頃 | | |
| | 9 | ぬ58 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 12.8 | 5.5 | 5.1 | 外面に草花文を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c頃 | | |
| | 10 | な57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 13.1 | 5.5 | 6.1 | 外面に草花文を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c頃 | 高台内路あり。 | |
| | 11 | な57 | 攪乱(7t) | 碗 | 口縁部 | 13.8 | | | 外面に草花文。腰部に蓮弁文を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c頃 | | |
| | 12 | | 表土攪乱 | 碗 | 底部 | | | 6.5 | 腰部に蓮弁文を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c頃 | | |
| | 13 | ち57 | 第4層 | 碗 | 底部 | | | 7 | 外面に草花文を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c頃 | | |
| 第54回 Pl. 63 | 14 | F464,に57 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | 5.4 | | 福建・ 広東系 | 18c頃 | 高台内「盛」字の銘。 | |
| | 1 | ね57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 14.2 | 6.75 | 6.9 | 「花文」「寿字文」を交互に配している。寿字文がハ ッである。腰に「蓮弁文」のくずれた文様を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c~19c前半 | 高台内「和美」字の銘。 | |
| | 2 | | 表土攪乱 | 碗 | 完形 | 13.95 | 6.4 | 6.6 | 腰に「蓮弁文」のくずれた文様を描く。「花文」「寿 字文」を交互に配している。 | 福建・ 広東系 | 18c~19c前半 | 高台内「和美」字の銘。 | |
| | 3 | な57 | 第3層攪乱 | 碗 | 完形 | 13.05 | 5.5 | 6 | 腰に「蓮弁文」のくずれた文様を描く。「花文」「寿 字文」を交互に配している。 | 福建・ 広東系 | 18c~19c前半 | 高台内「和美」字の銘。 | |
| | 4 | に57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 14.3 | 6.2 | 7 | 腰に「蓮弁文」のくずれた文様を描く。「花文」「寿 字文」を交互に配している。 | 福建・ 広東系 | 18c~19c前半 | | |
| | 5 | な57 | 第2層攪乱 | 碗 | 底部 | | | 5.9 | 腰に「蓮弁文」のくずれた文様を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c~19c前半 | 高台内「合利」の銘。 | |
| | 6 | F4b | 第4層攪乱 | 碗 | 底部 | | | 6.2 | 「花文」「寿字文」を交互に配している高台内に「合 利」の銘あり。腰に「蓮弁文」のくずれた文様を描く。 | 福建・ 広東系 | 18c~19c頃 | | |
| | 7 | た57 | 第3層 | 碗 | 完形 | 12.45 | 5.45 | 5.3 | 外面に丸文と草花文を描く。 | 中国産 | 18c~19c | 見込み蛇の目輪割き。 | |
| | 8 | な57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 14.1 | 6.45 | 6.3 | 外面「寿」字と唐草文を描く。 | 中国産 | 18c~19c | | |
| | 9 | ち59 | 第9層 | 碗 | 完形 | 14.55 | 6 | 5.3 | 外面の文様は不明。 | 中国産 | 18c~19c頃 | 見込み蛇の目輪割き。 | |
| | 第55回 Pl. 64 | 1 | な57 | 表土攪乱、攪2、南 側抗張区?? | 碗 | 完形 | 14 | 6.6 | 6.9 | 外面の文様は不明。 | 中国産 | 18c~19c代 | |
| | | 2 | な57 | 攪2 | 碗 | 口縁部 | 11.9 | | | 外面「仙芝祝寿文」 | | 18c~19c代 | |
| | | 3 | な52 | 攪2 | 碗 | 底部 | | | 6.45 | 外面「仙芝祝寿文」 | 中国産 | 18c~19c代 | 高台「和美」の銘。 |
| | | 4 | し・せ57 | 攪1 | 碗 | 底部 | | | 7.6 | 内外面「仙芝祝寿文」 | 中国産 | 18c~19c代 | |
| 5 | | | 上部中攪 | 碗 | 完形 | 9.8 | 4.65 | 4.35 | 内外面「仙芝祝寿文」 | 中国産 | 18c後半~19c | | |
| 6 | | | 窯周辺、表土攪 | 小碗 | 完形 | 9.9 | 5 | 4 | 外面唐草文を描く。 | 中国産 | 18c末~19c | | |
| 7 | | に57 | 攪2、攪乱 | 小碗 | 口縁部 | 10 | | | 外面唐草文を描く。 | 中国産 | 18c末~19c | | |
| 8 | | ぬ59 | 攪乱、黒褐色 | 小碗 | 口縁部 | 7.6 | | | 外面二重線により唐草文を描く。 | 中国産 | 18c~19c | | |
| 9 | | ち57 | 西7t、3層、南表土 ?? | 碗 | 完形 | 9.5 | 5.1 | 5.25 | 外面「唐草文」を描く。 | 中国産 | 19c代 | | |
| 10 | | な57 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | 3.95 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 (清朝) | 18c~19c | | |
| 11 | | 不明 | 不明 | 碗 | 底部 | | | 4.8 | 外面に「唐草文」を描く。 | | 18c~19c | | |
| 12 | | な60 | 皿 | 碗 | 底部 | | | 4.15 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c頃 | | |
| 13 | | | 表土?? | 碗 | 底部 | | | 3.6 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c頃 | | |
| 14 | | 不明 | 不明 | 碗 | 底部 | | | 3.1 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c頃 | | |
| 15 | | 第3層、10層 | 碗 | 底部 | | | 4 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c頃 | | | |
| 16 | | 表土?? | 碗 | 底部 | | | 4.1 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c頃 | | | |
| 17 | な59 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | 4.5 | 腰部に「蓮弁文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c頃 | | | |
| 18 | な57 | 攪2 | 碗 | 完形 | 9.3 | 4.85 | 3.85 | 外面は青磁輪を施す。内側面八卦文、見込みに大極園 を描く。 | 中国産 (清朝) | 18c末~19c頃 | | | |
| 第56回 Pl. 65 | 1 | ち57 | 第5層 | 皿 | 完形 | 9.85 | 2.4 | 6.2 | 見込みに「十字花文」を描く。 | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | 2 | | 1号表 | 皿 | 完形 | 12 | 2.7 | 7 | 見込みに「玉取獅子文」を描く。 | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | | |
| | 3 | | 1号表 | 皿 | 完形 | 12 | 2.7 | 6.2 | 見込みに「十字花文」を描く。 | 中国産 | 15c末~16c中葉 | | |
| | 4 | | 攪乱 | 皿 | 完形 | 16.2 | 3 | 8.2 | 内面草花文? | 中国産 | 18c~19c | | |
| | 5 | な57 | 2層攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 見込みに辰砂と染付で文様を描く。 | 中国産 | 17c後半~18c前半 | | |
| | 6 | な57 | ??2層 | 皿 | 底部 | | | 7.1 | 見込みに草花文?を描く。 | 中国産 | 18c~19c | | |
| | 7 | に57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | 12.85 | 見込みの文様は松?か。 | 中国産 | 18c~19c | | |
| | 8 | な57 | ??2 | 皿 | 底部 | | | 8 | 見込みは「志在書中」図である。 | 中国産 | 18c後半 | | |
| | 9 | | 上攪乱 | 皿 | 完形 | 15 | 3 | 7.55 | 見込みは「志在書中」図である。 | 中国産 | 18c頃 | | |
| | 10 | | 上攪乱 | 皿 | 完形 | 15.5 | 2.7 | 7.4 | 見込みは「志在書中」図である。 | 中国産 | 18c頃 | | |
| 第57回 Pl. 66 | 2 | | 赤褐色 | 皿 | 完形 | 15.35 | 3.1 | 7.85 | 見込みは「志在書中」図である。 | 中国産 | 18c頃 | | |
| | 3 | | 攪乱 | 皿 | 完形 | 8.2 | 2 | 5.3 | 内面に草花文を描く。 | 中国産 | 18c後半~19c | 型成形か。 | |
| | 4 | な60 | 3層遺物集中 | 皿 | 完形 | 8.15 | 2 | 6.15 | 内面に草花文を描く。 | 中国産 | 18c後半~19c | 型成形か。 | |
| | 5 | な・に60 | | 皿 | 完形 | 8.2 | 2 | 6 | 内面は唐草文?か。 | 中国産 | 18c後半~19c | 型成形か。 | |
| | 6 | な57 | 攪乱 | 皿 | 完形 | 9.5 | 2 | 6.7 | | 中国産 | 18c後半~19c | 型成形か。 | |
| | 7 | に57 | 攪2 | 皿 | 完形 | 9 | 2.1 | 4.4 | 内面は二重線による唐草文を描く。 | 中国産 | 18c後半~19c | 高台内路あり。 | |
| | 8 | に59,ぬ59,黒 褐色,な57 | 攪1、攪乱 | 皿 | 完形 | 17.5 | 3.3 | 8.65 | 内面は「志在書中」図である。 | 中国産 | 18c頃 | | |
| | 9 | | 攪乱 | 皿 | 完形 | 17.8 | 3.2 | 9.5 | 内外面とも「仙芝祝寿文」を描く。 | 中国産 | 18c~19c代 | | |
| 第58回 Pl. 67 | 1 | な56 | 第3層(外口層) | 瓶 | 口縁部 | 6.8 | | | | 中国産 | 15c~16c代 | | |
| | 2 | せ・せ45(1 区)、(3区) | 第2瓦層(溝・遺)、攪乱 | 瓶 | 胴部 | | | | 肩部に蓮弁文。胴部に唐草文を描く。 | 中国産 | 15c~16c代 | | |
| | 3 | な57 | 第2層 | 瓶 | 胴部 | | | | 頸部に蕉葉文と雷文を描く。 | 中国産 | 15c~16c代 | | |
| | 4 | に59 | 攪乱 | 瓶 | 口縁部 | 3.9 | | | | 中国産 | 18c~19c頃 | 口縁。 | |
| | 5 | →59 | 第5層 | 合子 | 完形 | 8.5 | 3.3 | 8.05 | 外面にハ彫りによる蓮弁文を配する。 | 中国産 | 15c~16c | 合子の「み」の部分である。 | |
| | 6 | な60 | 第3層 | 蓋 | | 内8.9、 外9.45 | | | | 中国産 | 18c~19c | 蓋の蓋。 | |

第3表4 染付観察一覧

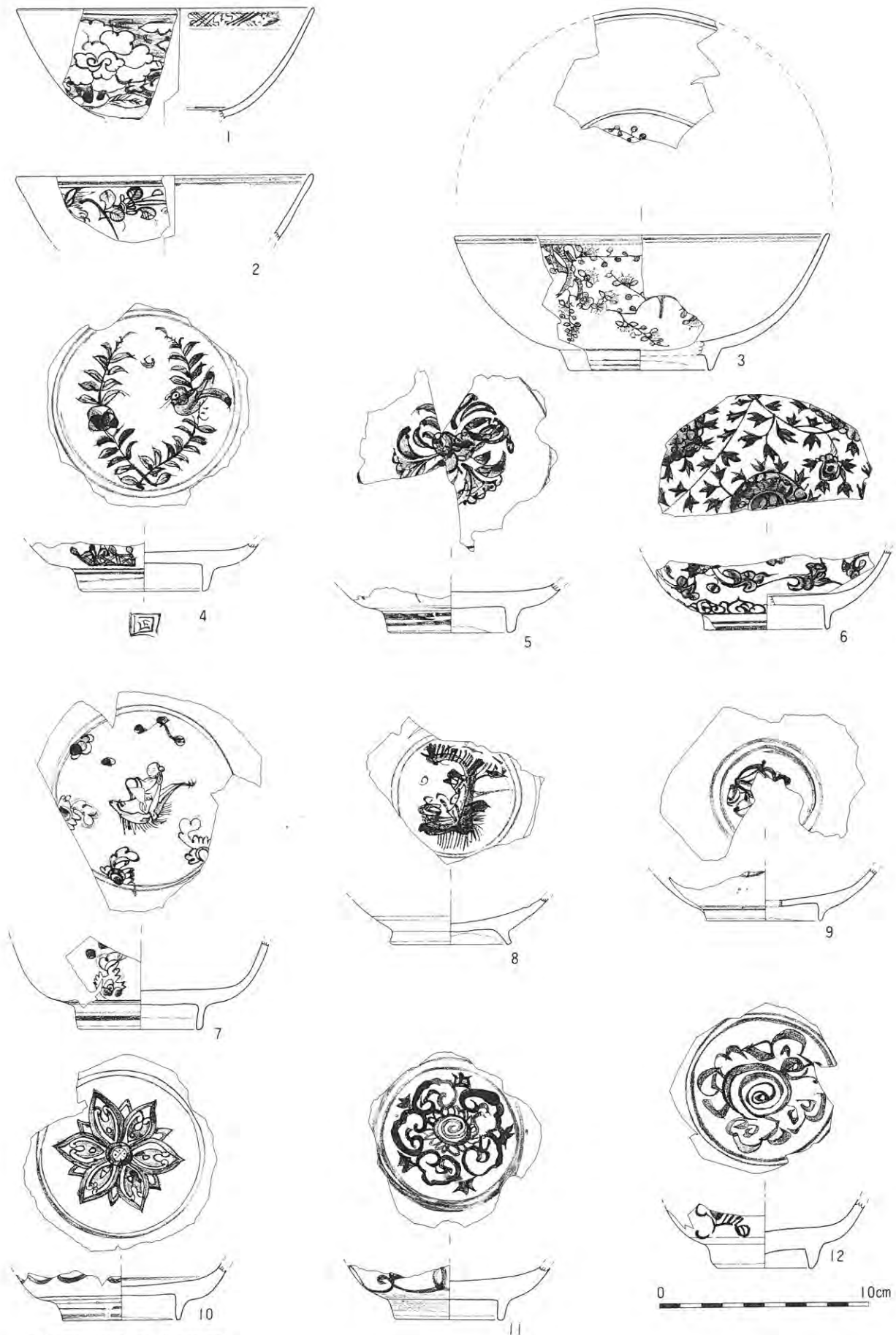
| 図. Pl. | 群 | ナリト | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | 備考 |
|----------------|-----|---------------------------------|-----------------|----------|-----|----------------|------|-----------------------------|----------------------|--------------------|--------------|---------------------|
| 第58図 Pl. 67 | 7 | つ58 | 第7層 | 蓋 | | 内7.4, 外8.0 | | | | 中国産 | 18c~19c | 蓋の蓋。 |
| | 8 | な60 | 第3層 | 蓋 | | 内8.2, 外10.0 | | | | 中国産 | 17c~19c頃 | 蓋の蓋。 |
| | 9 | | 攪乱 | 小瓶 | 底部 | | | 1.4 | | 中国産 (清朝) | 18c後半~19c頃 | 「平安散?~」とかかれている |
| | 10 | せ45 | 第3層 | 用途 不明 | 胴部 | | | | | 中国産 (明・ 清か?) | | |
| | 11 | と58 | 第1層,赤褐色 | 瓶 | 口縁部 | 2.5 | | | | 中国産 | 16c末~17c前半 | やや焼成不良きみ。 |
| | 12 | な57 | 攪乱2 | 小瓶 | 底部 | | | 1.6 | | 中国産 | 18c~19c | |
| | 13 | と61 | 第3層 | 小瓶 | 口縁部 | 2.25 | | | | 中国産 | 18c~19c | |
| | 14 | な57 | 攪乱 | 鉢 | 底部 | | | 9.4 | | 中国産 | 17c~19c頃 | 見込み蛇の目輪割ぎ。 |
| | 15 | と58 | 第3層,黄褐色 | 鉢 | 底部 | | | 12.6 | | 中国産 (清朝) | 17c~19c頃 | 見込み蛇の目輪割ぎ。 |
| | 16 | | 表土か | 鉢 | 底部 | | | 13.1 | 見込みに印花文。 | 中国産 (清朝) | 17c~19c頃 | 見込み蛇の目輪割ぎ。 |
| 第59図 Pl. 68 | 17 | | 表土か | 鉢 | 底部 | | | 12.3 | 見込みに印花文。 | 中国産 | 17c~19c頃 | 見込み蛇の目輪割ぎ。 |
| | 1 | の54 | 攪乱 | 小杯 | 完形 | 5.3 | 3.65 | 2.5 | | 中国産 | 17c代 | |
| | 2 | て43,て44 | 第4層黄褐色粘土, 西か | 小杯 | 口縁部 | 7.4 | | | | 中国産 | 明・清代 | |
| | 3 | そ43 | 第3層 | 小杯 | 口縁部 | 6.75 | | | | 中国産 | 明・清代 | |
| | 4 | て44 | 西か | 小杯 | 口縁部 | 5.0 | | | | 中国産 | 明・清代 | |
| | 5 | せ42 | 第3層 | 小杯 | 口縁部 | 5.0 | | | | 中国産 | 明・清代 | |
| | 6 | し46 | 第2層瓦集中 | 小杯 | 口縁部 | 6.2 | | | | 中国産 | 明・清代 | |
| | 7 | そ43 | 第3層黄灰色粘質 | 小杯 | 口縁部 | 4.5 | | | | 中国産 | 明・清代 | |
| | 8 | | 2号窯前そうじ | 小杯 | 底部 | | | 2.25 | | 中国産 | 17c代 | |
| | 9 | ち59 | 8b層 | 小碗 | 完形 | 3.95 | 2.5 | 1.55 | | 中国産 | 17c~18c頃 | 「むけ年製」銘入り。 |
| | 10 | ち59 | 第5層 | 小杯 | 底部 | | | 2.1 | | 中国産 | 17c~18c頃 | |
| | 11 | | 攪乱 | 小杯 | 底部 | | | 2.45 | | 中国産 | 17c~18c頃 | |
| | 12 | な57 | 攪2 | 小杯 | 底部 | | | | | 中国産 | 17c~18c頃 | |
| | 13 | す45 | 第2層 | 小碗 | 口縁部 | 3.4 | | | | | 18c~19c代 | |
| | 14 | な56 | 第5層 | 小碗 | 完形 | 3.75 | 1.8 | 1.6 | | | 18c~19c代 | |
| | 15 | な58 | 攪乱 | 小碗 | 完形 | 3.6 | 2.0 | 1.6 | | 中国産 | 18c~19c代 | |
| | 16 | ち59(2区),け 44(1区),ち59 (2区) | 第4層,第2層 | 小皿 | | | | | | 中国産 | 17c前半 | 高台をはりつけてある。四角い皿である。 |
| | 17 | な60 | 第3層 | 蓮華 | | | | | | 中国産 | 18c~19c | |
| | 18 | な60 | 第3層,ワッ集中 | 蓮華 | | | | | | 中国産 | 18c~19c | 清朝「ちり蓮華」 |
| | 19 | に57 | 攪乱 | 蓮華 | | | | | | 中国産 | 18c末~19c | 清朝「ちり蓮華」 |
| | 20 | | 攪乱 | 蓮華 | | | | | | 中国産 | 18c末~19c | 清朝「ちり蓮華」 |
| | 21 | | | 碗 | 底部 | | | 4.4 | 内面に唐草文。外面に花卉文?を描く。 | 中国産 | 明代 | |
| | 22 | ひ49 | 瓦層 | 皿 | 完形 | 10.5 | 2.8 | 3.3 | 外面波濤文に蕉葉文。見込みに花文を描く。 | 中国産 | 15c後半~16c中葉 | ゴケ底。 |
| | 23 | ふ50 | 黄褐色土層 | 碗 | 底部 | | | 5.8 | 腹部に蓮弁文を描く。 | 中国産 | 清代 | |
| | 24 | ふ49赤 | | 碗 | 底部 | | | 5.35 | 見込み花文。 | 中国産 | 明代 | |
| 25 | へ48 | | 特殊 | 完形 | 6.8 | 5.5 | 3.05 | 色絵の花の部分赤絵で描く。渦巻文の上絵付けの色は不明。 | 中国産 | 清代? | 古伊万里をまねたものか? | |



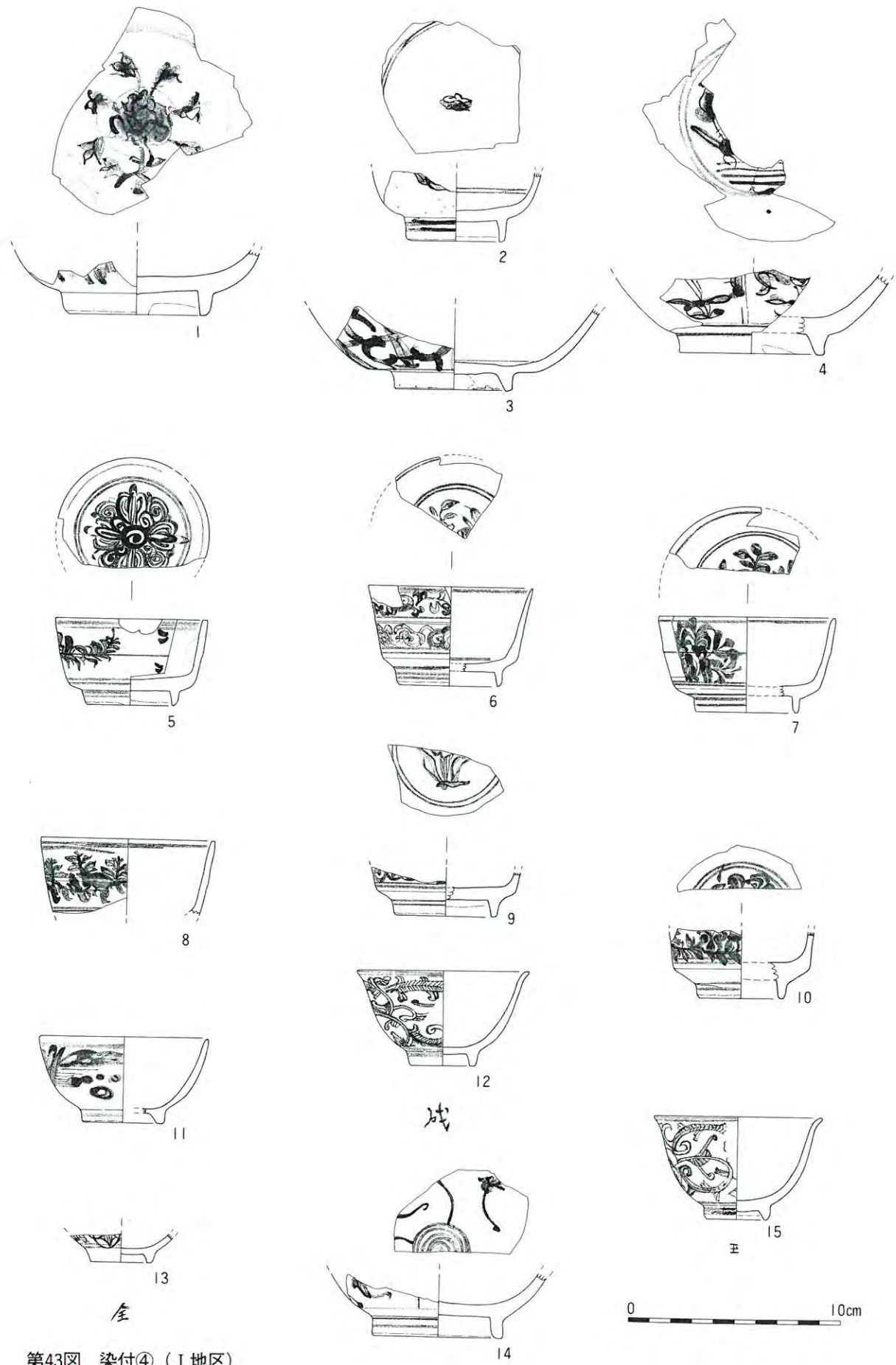
第40图 染付① (I地区)



第41图 染付② (I地区)



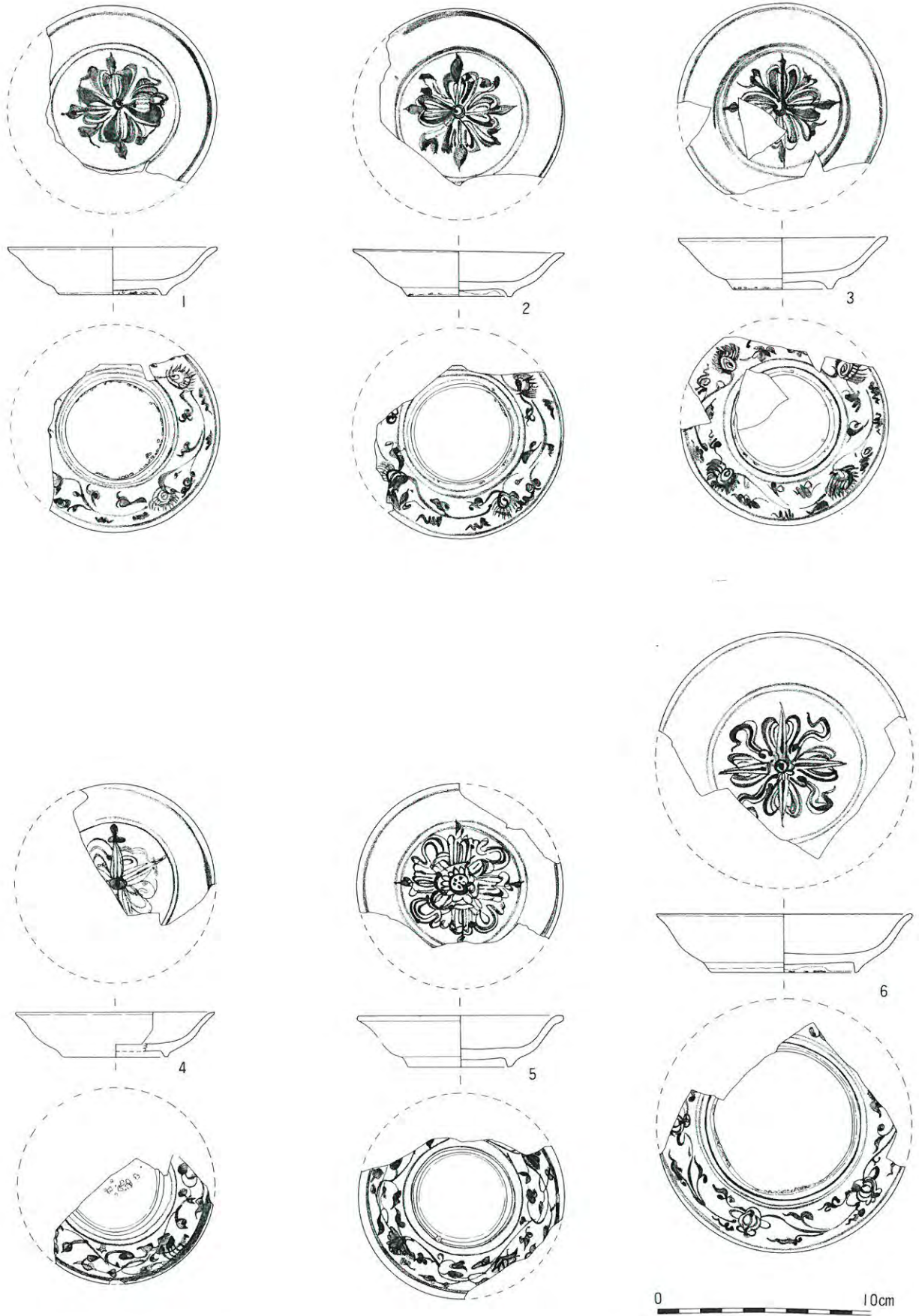
第42图 染付③ (I地区)



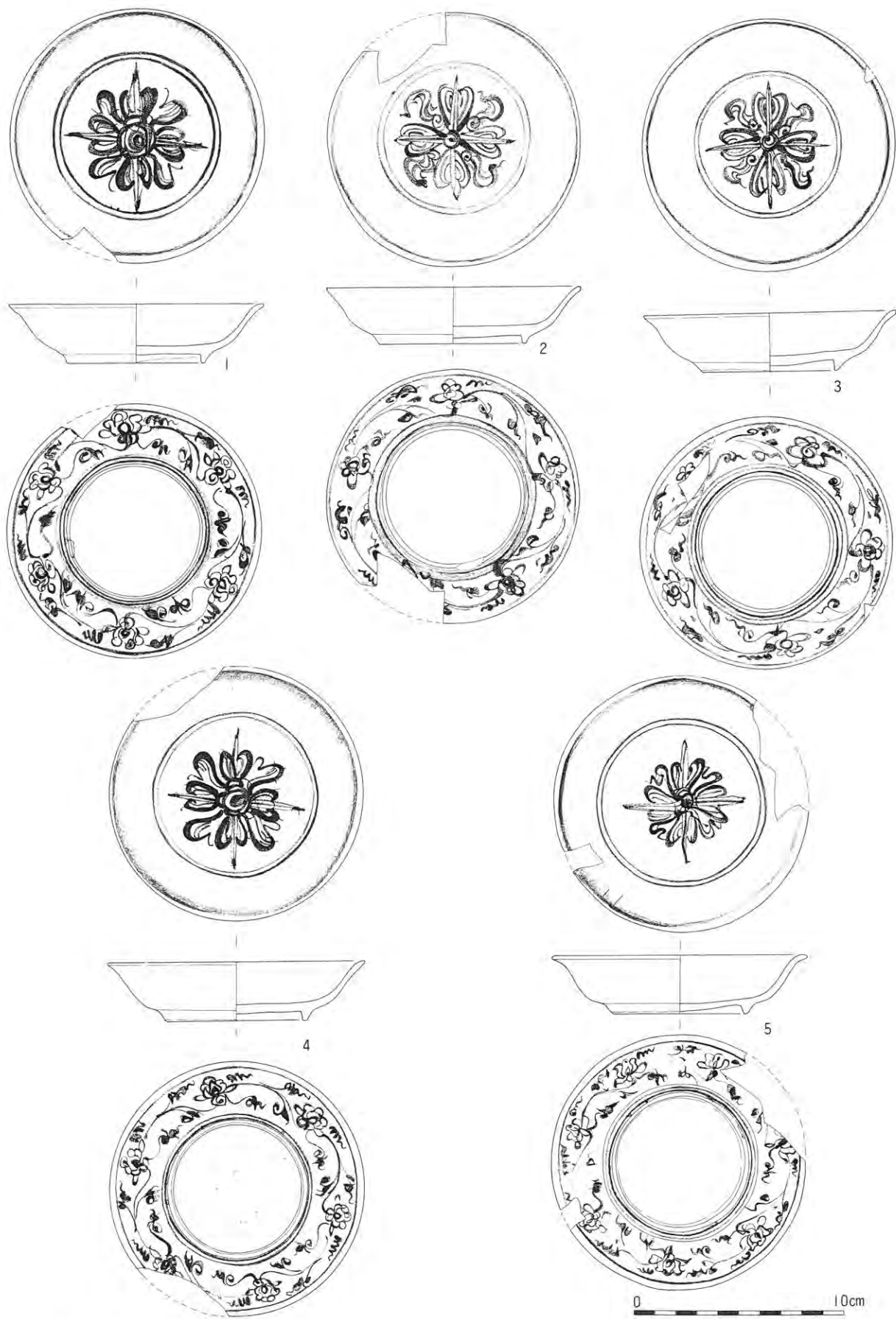
第43图 染付④ (I地区)



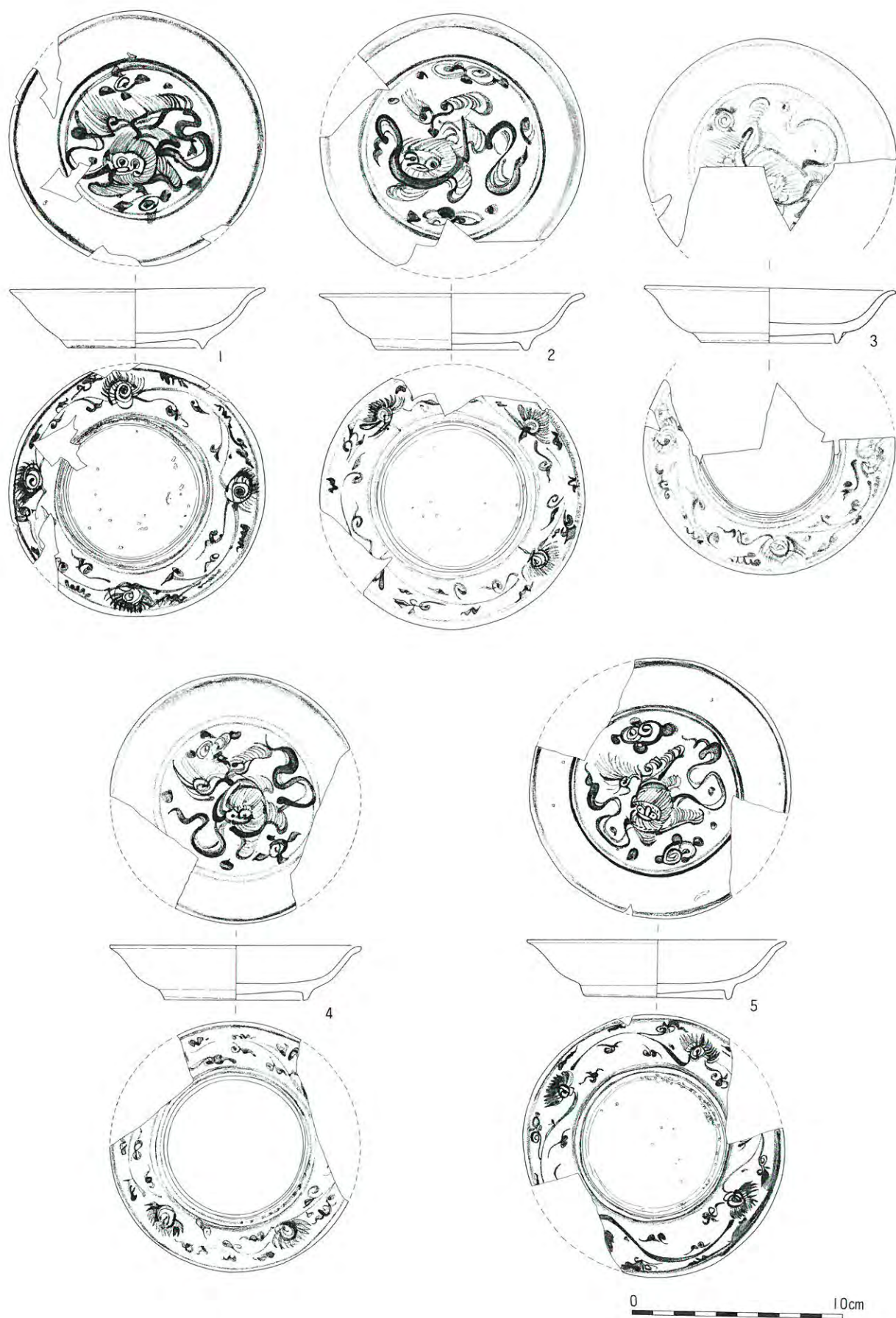
第44图 染付⑤ (I地区)



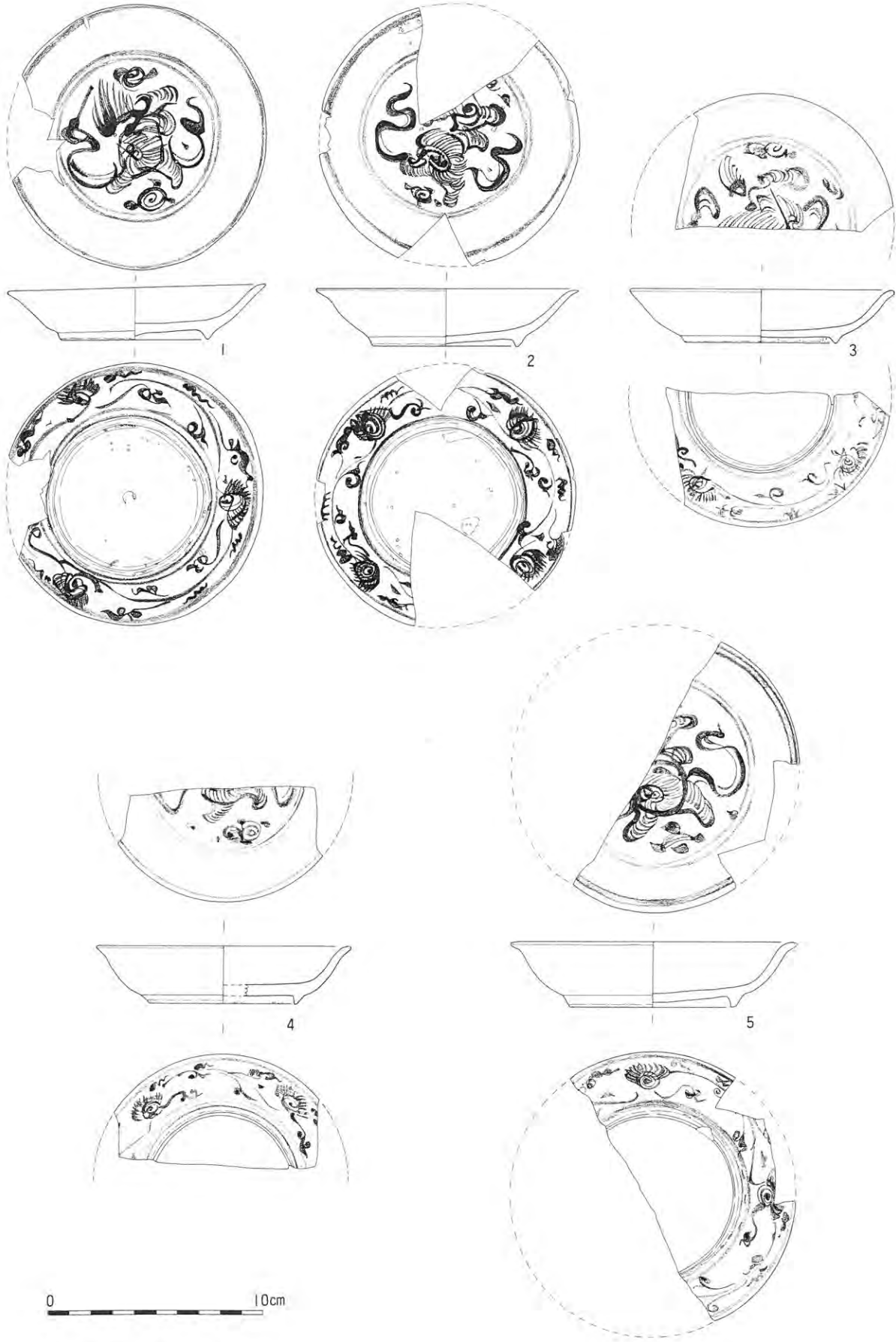
第45图 染付⑥ (I地区)



第46图 染付⑦ (I地区)

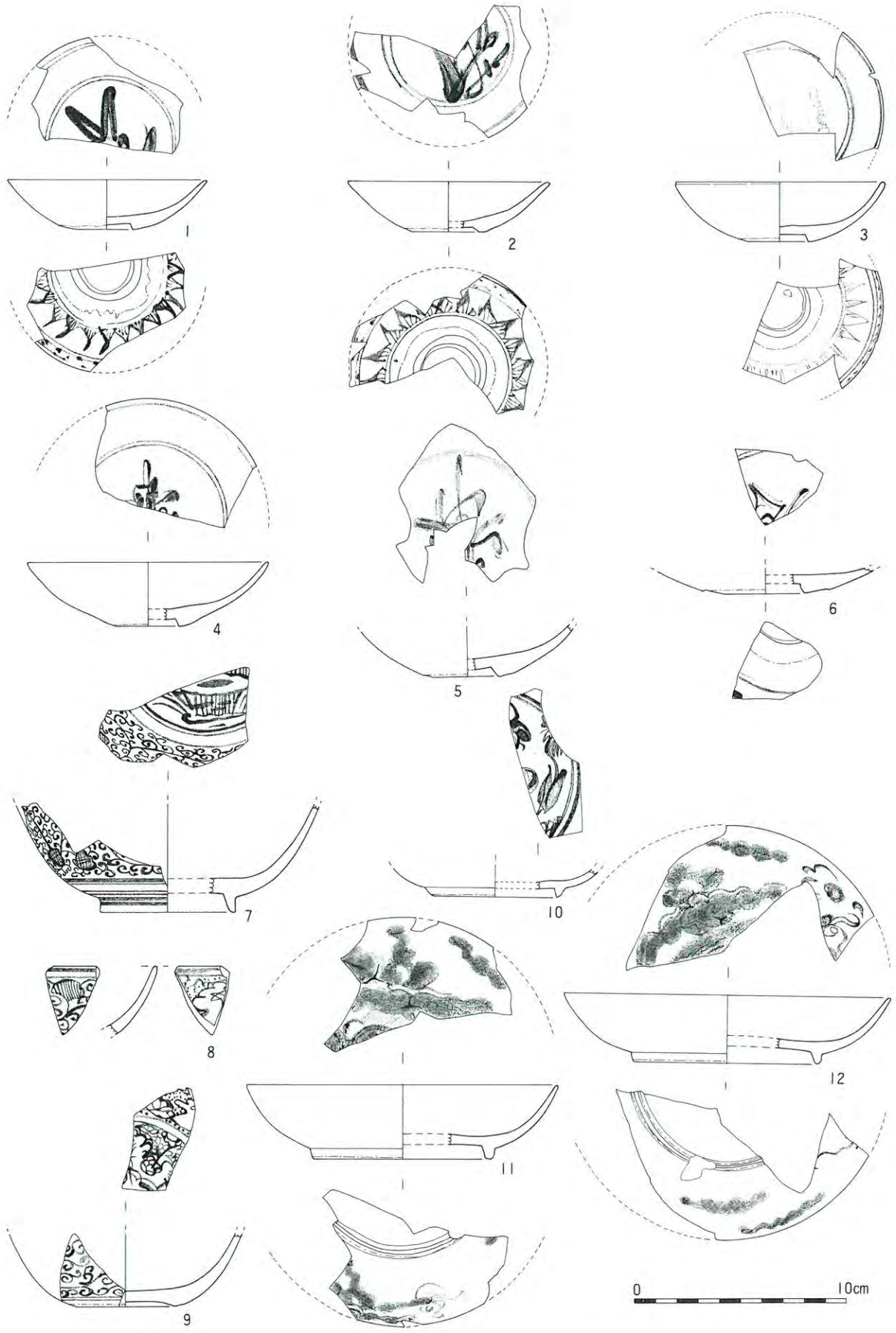


第47图 染付⑧ (I地区)

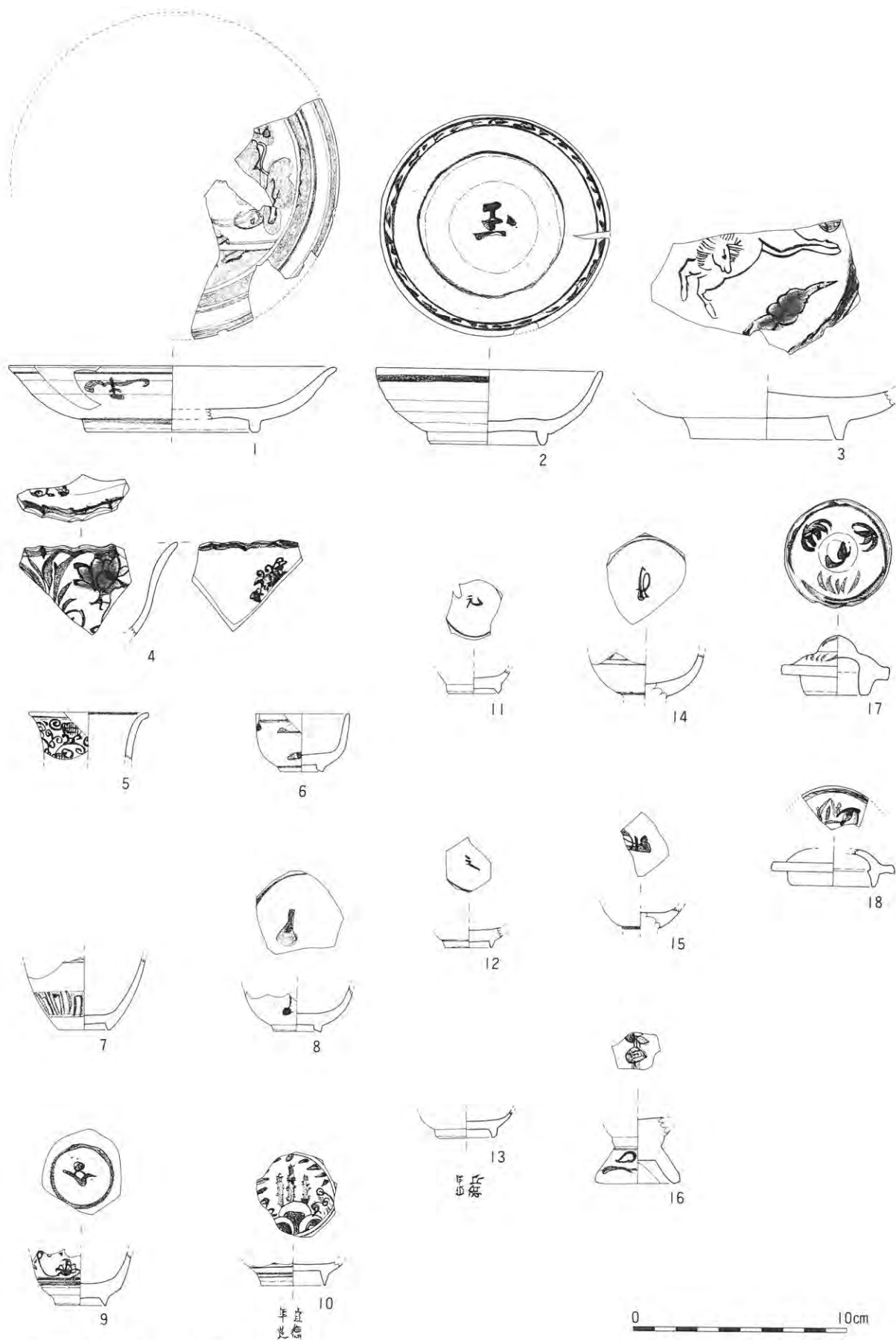


0 10cm

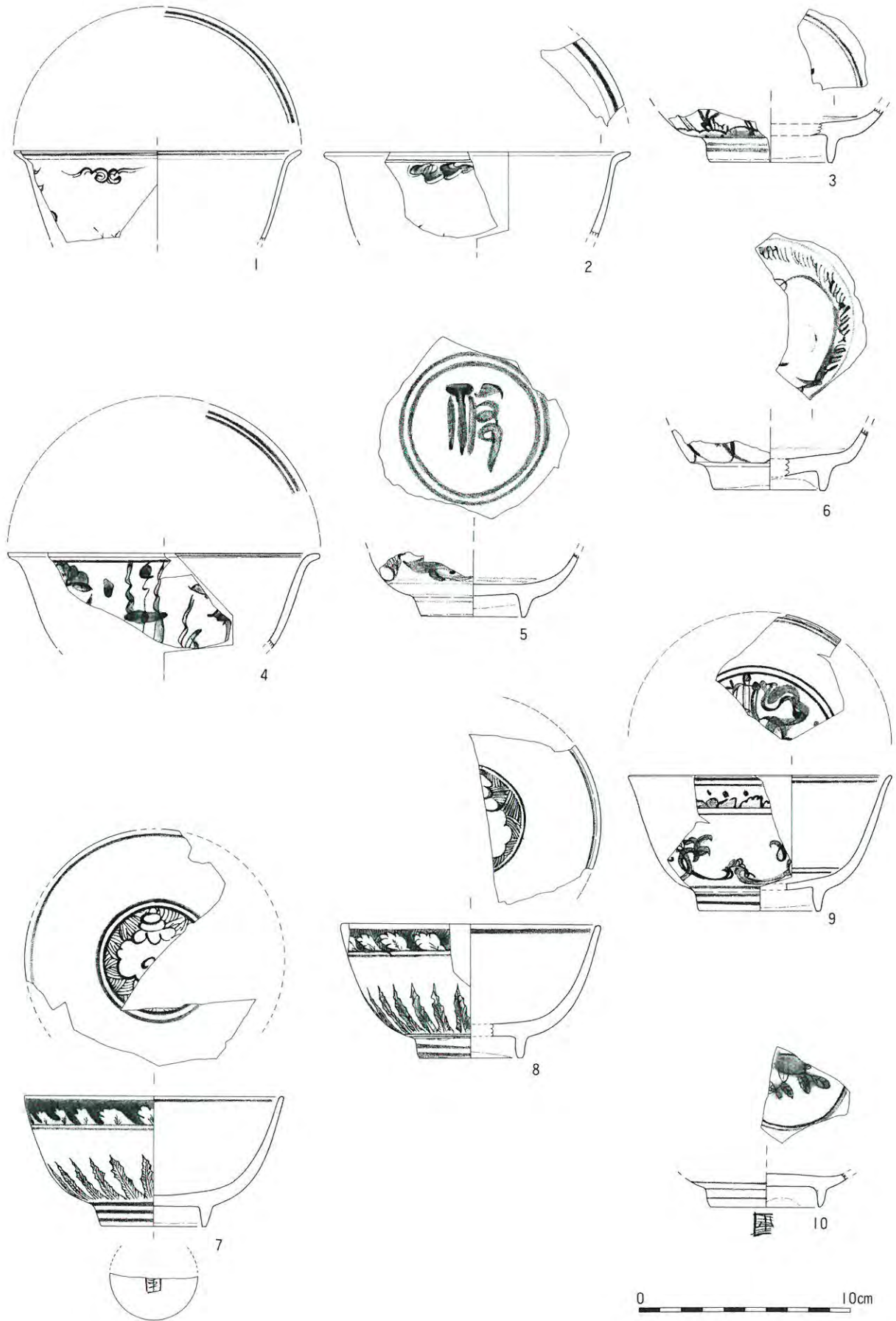
第48图 染付⑨ (I地区)



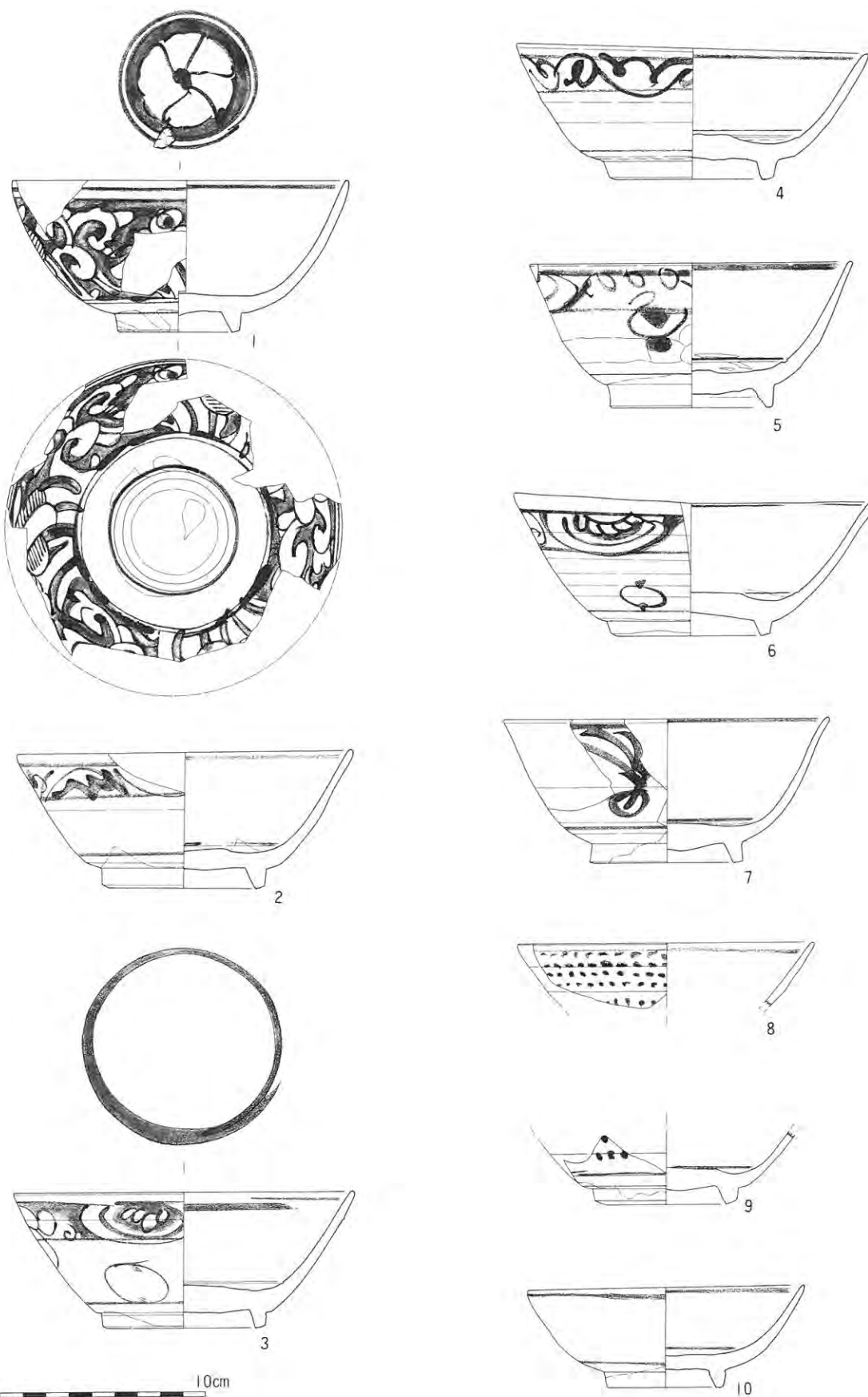
第49图 染付⑩ (I地区)



第50図 染付⑪ (I地区)



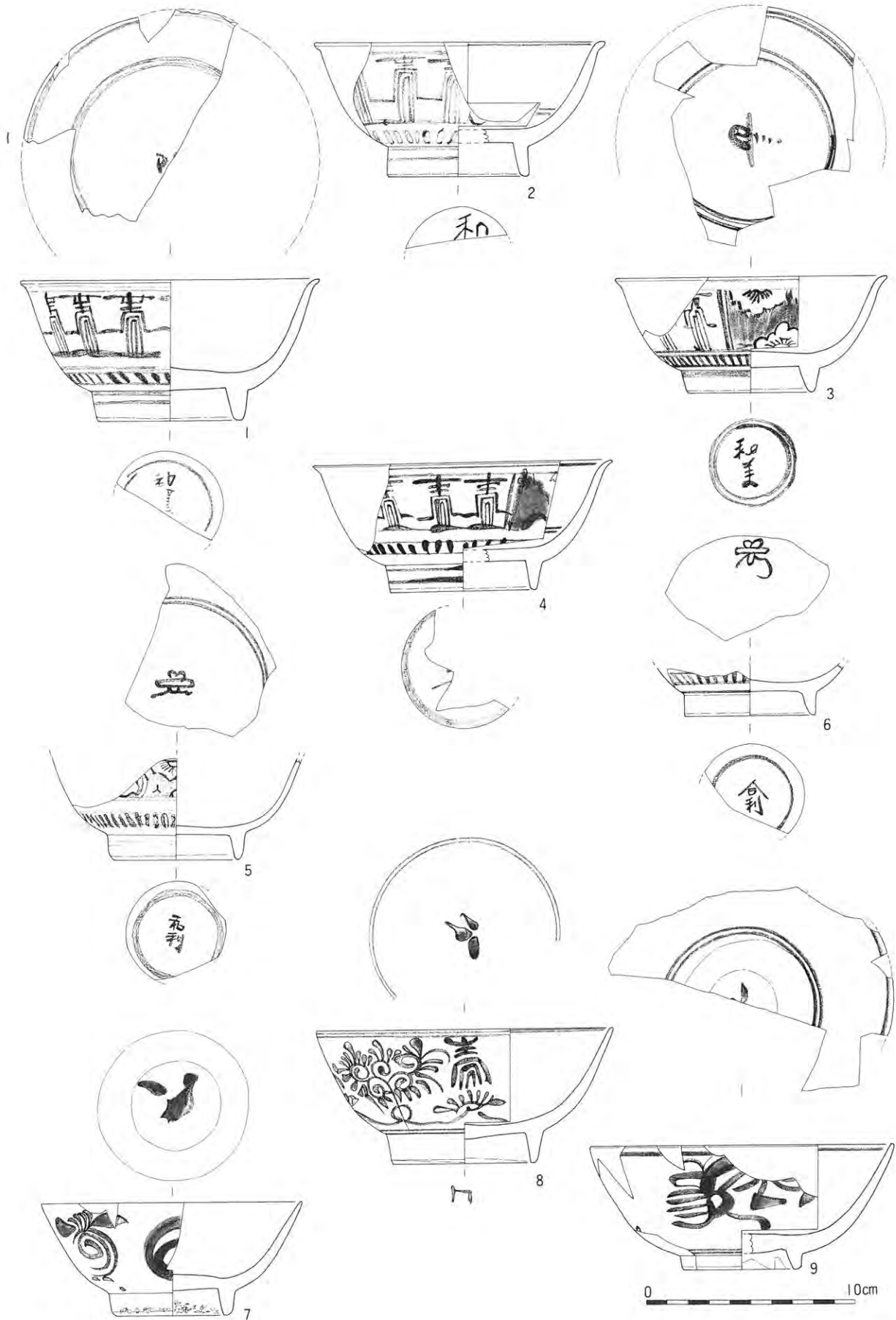
第51图 染付⑫ (II地区)



第52図 染付⑬ (II地区)



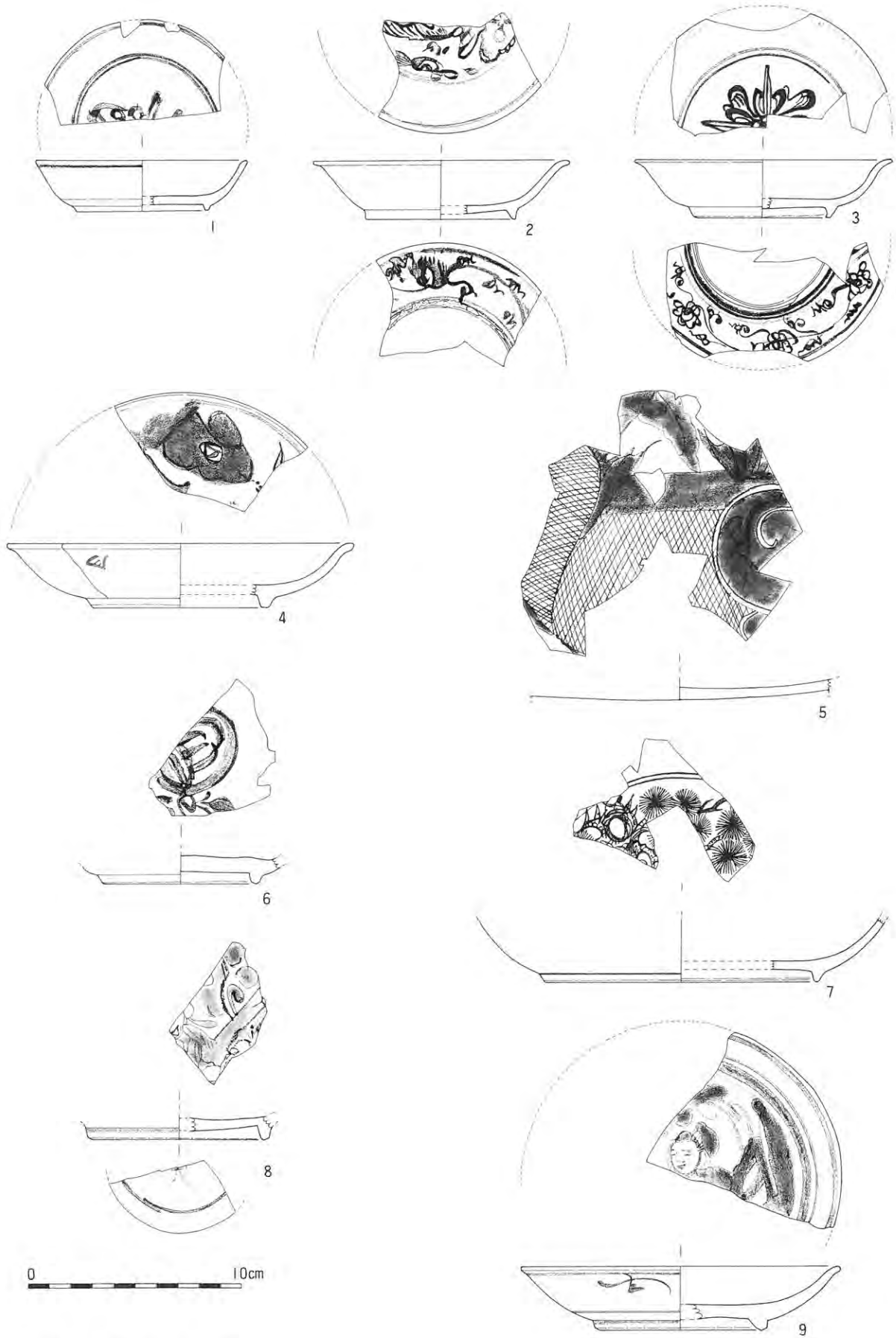
第53图 染付⑭ (II地区)



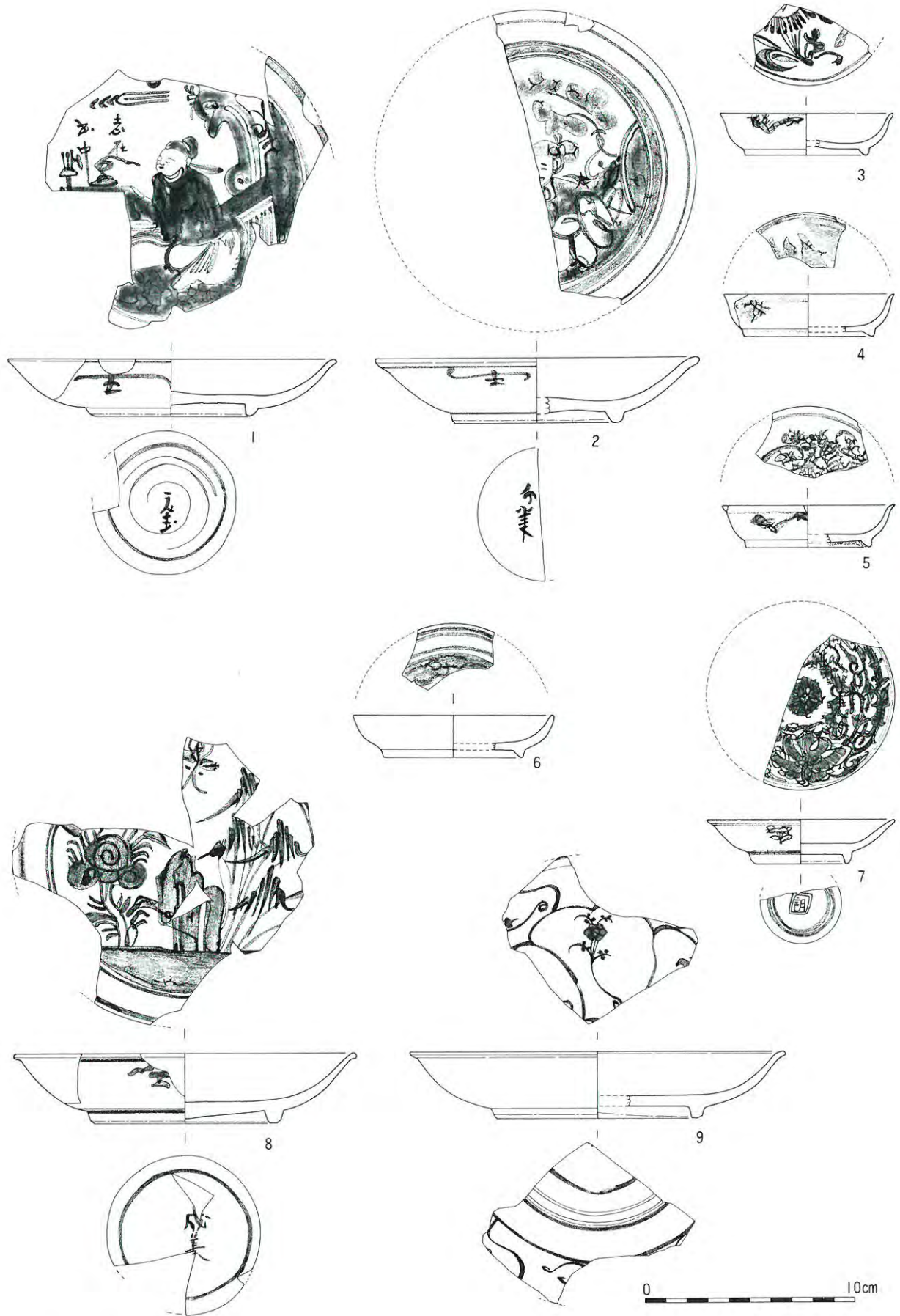
第54图 染付⑮ (II地区)



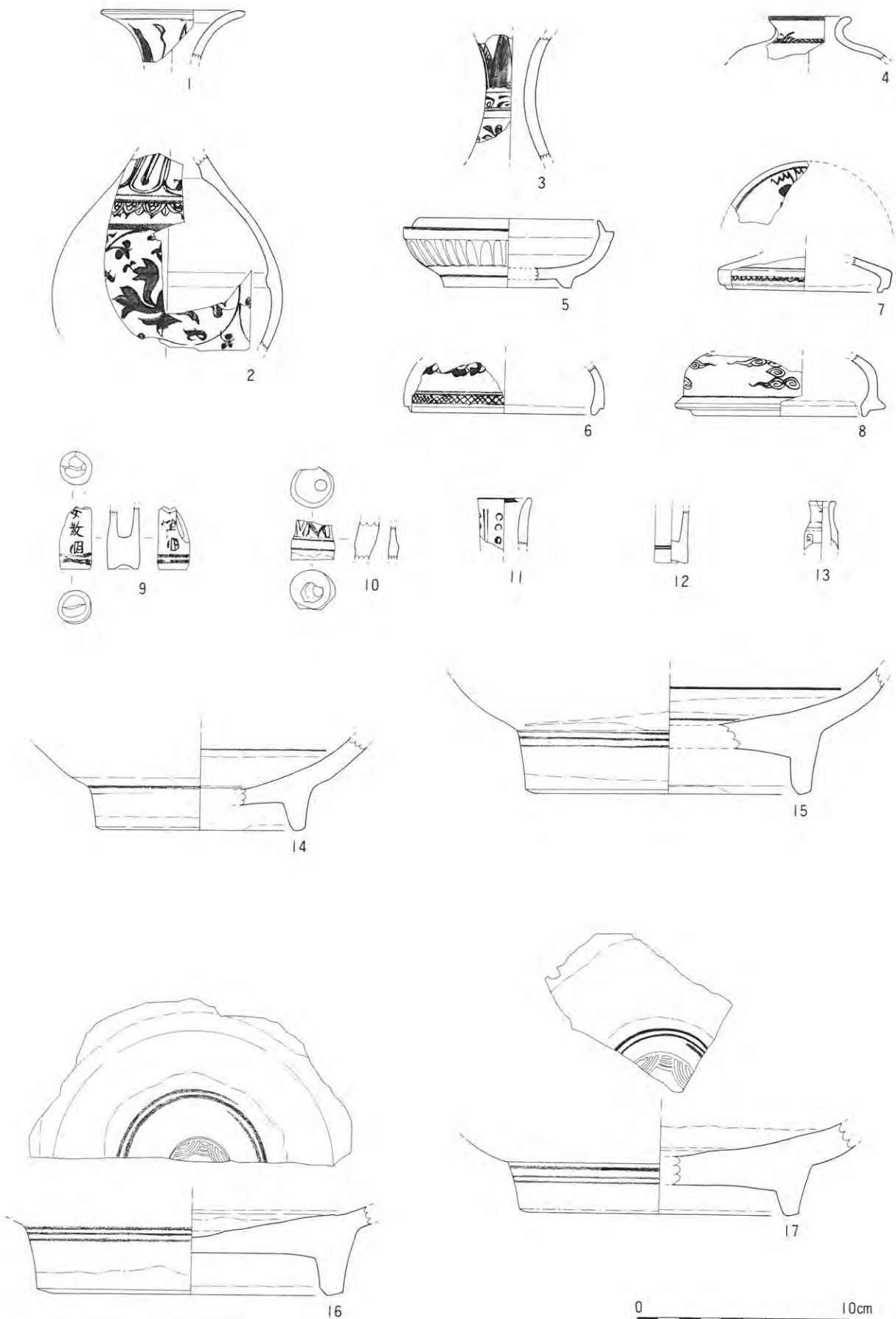
第55图 染付⑩ (II地区)



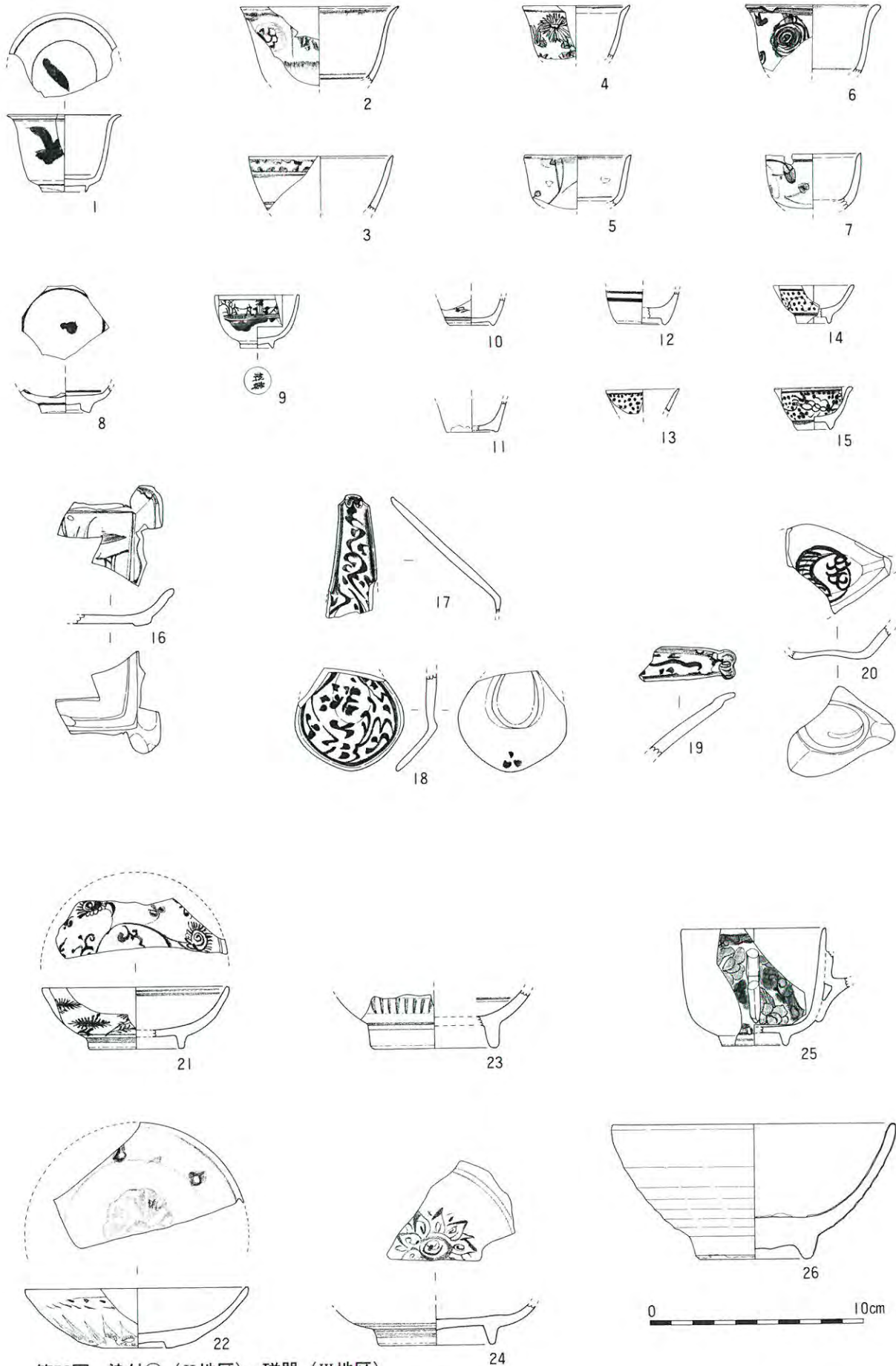
第56图 染付⑰ (II地区)



第57图 染付⑱ (II地区)



第58图 染付⑱ (II地区)



第59图 染付⑳(Ⅱ地区)・磁器(Ⅲ地区)

第4節 褐釉陶器

ここで取り上げた褐釉陶器は15～17世紀以降に位置付けられる外国産の資料で、判明した器種は壺・鉢・急須の3器種であった。壺の口縁状態は豊富で出土量は比較的少ないことから、胴部・底部との接合作業によって、全形が窺える資料が確認されることが考えられたが、壺・鉢1点のみに限られた。

第60図1は口縁形態が直口状を呈するものである。推算口径は7.8cmで、口唇部を平坦に成形する。素地は淡橙色の細粒子、釉色は黒褐色。口唇部の釉は大雑把に掻き取っている。

第61図1は推算口径10.6cmを測り、口縁の肥厚は三角形状となる。口唇部は内側に緩やかに傾き、蓋を受けるためと考えられる出っ張りが付いている。素地は淡橙色で外面の釉は剥落し、内面部に灰白色の釉を若干残すのみとなっている。

第61図2は推算口径11.4cmを測る資料で頸部を持つ資料である。口縁部は僅かに外反し、口唇部は丸みを帯びる。肩部に横位の耳を貼り付ける。焼き締め状態は悪く表面はあばた状となる。素地は暗褐色。

第62図1は口縁の肥厚部の形状が「L」字状を呈し、ほぼ完形に近い資料である。口径は16cm、器高は24.8cm。素地は淡橙色、釉色は黒褐色、外面に耳を伴わない。

第60図3は肥厚部の形状を「L」字状に成形した後、さらに下側に折り曲げて仕上げている。口唇部は平坦で、丁寧に釉を掻き取っている。釉色は灰白色に近く、所々淡緑褐色の釉だれを残す。

第60図2は肥厚部が概ね三角形状を呈し、推算口径が13cmを測る。釉色は黒褐色で、器外面部の稜線は顕著である。

第60図4は推算口径17.2cmで、口縁部からのラインは頸下部で折れて、肩部へ移行する。口唇部は平坦で幅広となる。釉色は茶褐色。

第60図5は口縁部が玉縁状をなし、ほぼ垂直気味の頸部から折れて、肩部へ緩やかに移行。頸部に沈線の圏線を数条めぐらせる。さらにその上から横位の耳を貼り付けている。釉色は淡黒褐色で、頸部中途より下側にのみ施釉する。素地は淡橙色。

第62図4は器高が約17.8cmの鉢である。器壁は全体的に薄く、口唇部は「T」字状を呈する。灰白色の釉が器外面に施釉され、その上から鉄絵の草文が描かれている。胴下部には波状の突帯を貼り付ける。素地は淡橙色。

第62図3は注口が付いた急須である。口径推算は7cmを測る。器外面の肩部には菊花様の印花文を有する。素地は淡青灰色、釉色は黒褐色を呈する。諸特徴から外国産のものとする。

第5節 特殊陶器

外国産と思われる特殊陶器類をここでは取りあげた。全て壺形で、文様構成から下記の3点を典型的な例として略述する。

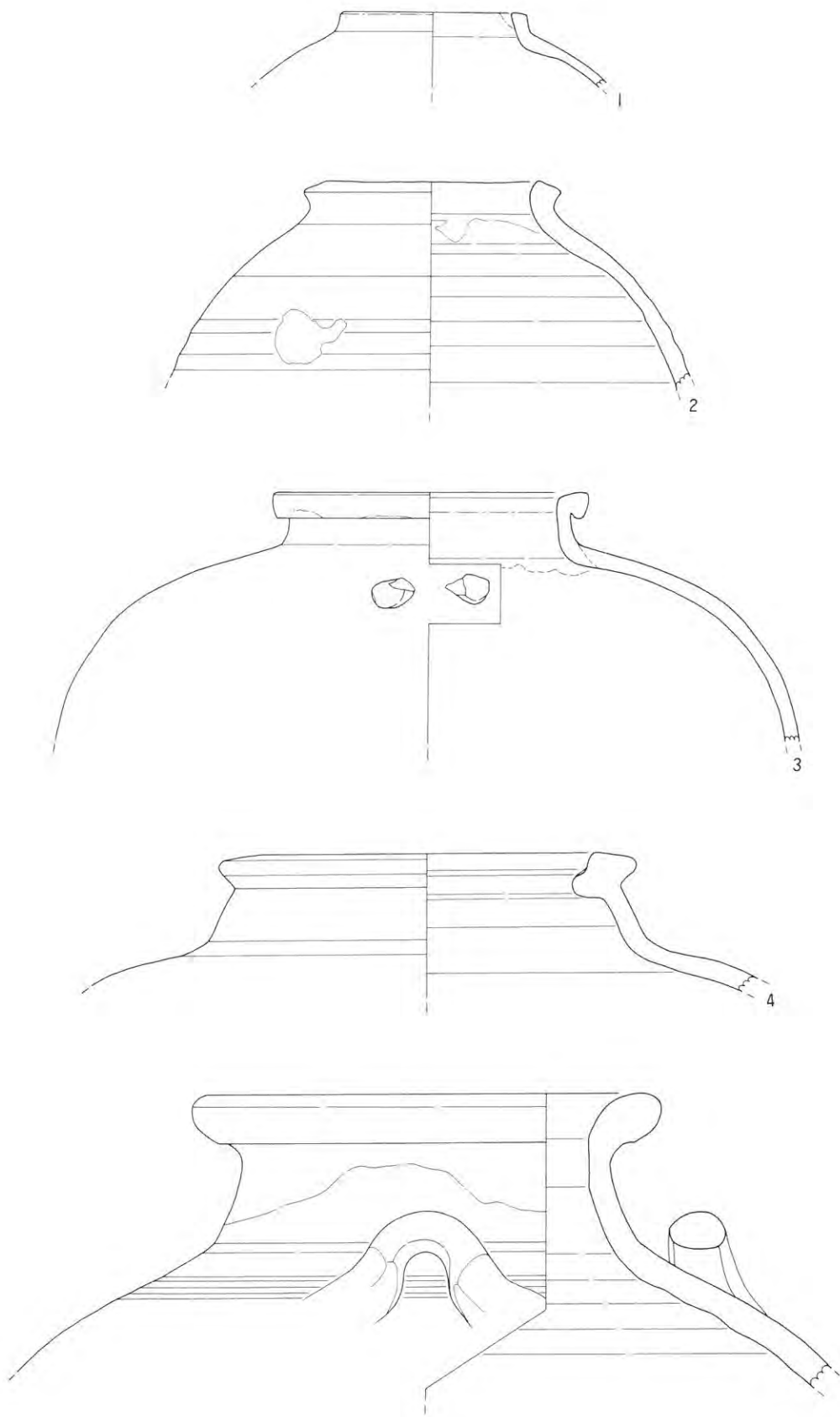
第61図3は器内外面に文様を有する施釉陶器である。素地は灰白色、釉色は淡緑褐色を呈する。器外面には線状陽刻の叩き目を肩部上部より下方に密に施す。器内面にはその際に用いられたと考えられる同心円状のあて具痕が観察される。器内外面とも肩部上部から口縁部にかけては無文となっている。

第61図4は器外面の肩部より下方に同心円状の文様を有する無釉陶器壺である。器内面へのあて具痕は確認できない。口縁部は逆「L」字状で、頸部はほぼ直立する。素地は淡橙色、器外面は赤褐色を呈する。

第61図5はゴ盤目状の叩き目を有する資料である。口縁部は器内面に向かって僅かに「フ」の字状に突き出して整形されている。素地は褐色で白い鉱物が多量に含まれている。

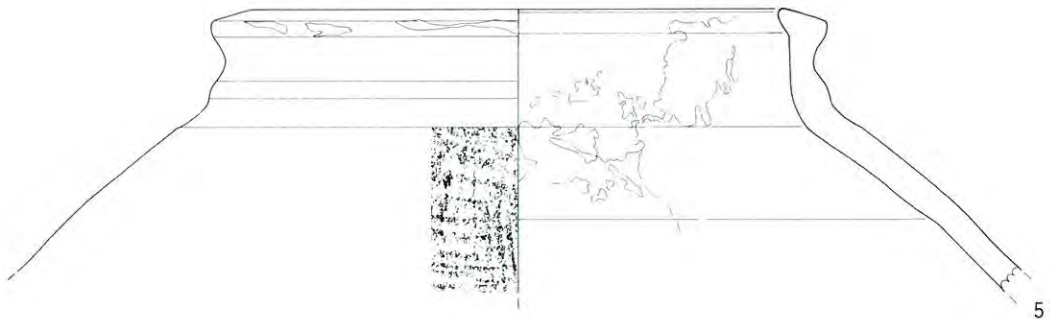
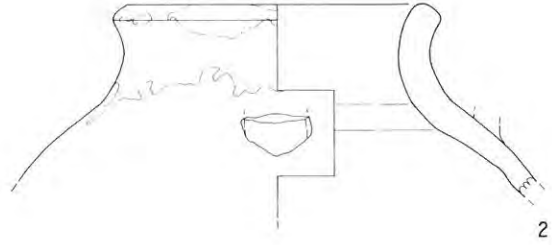
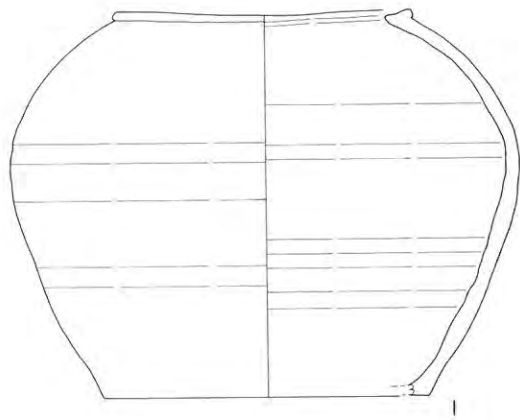
第6節 瑠璃釉

いずれも小破片で、器形は瓶・小碗・小杯である。ここでは図上復元が可能な小碗1点について記す。第62図2は推算口径9.4cmを測り、素地は白色、微粒子である。釉は外底面を含む全面に施し、外面が濃青色、内面は淡青白色を呈する。畳付の形状が逆三角形状で外底面中央部が雷鉢状にへこんでいることから、型押しによる成形と考えられる。



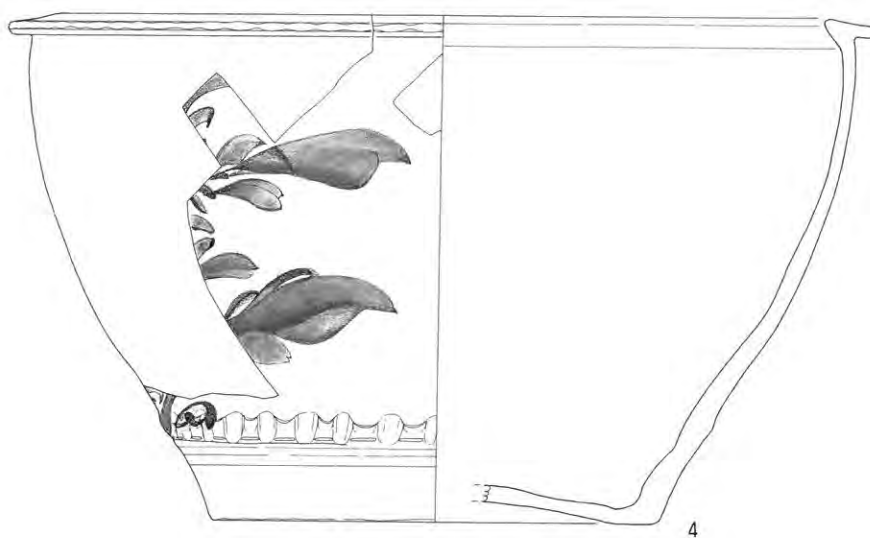
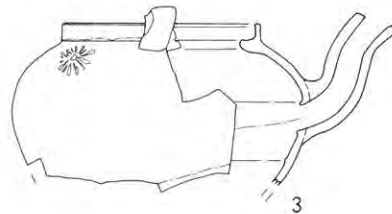
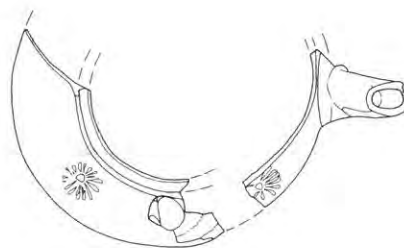
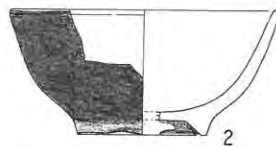
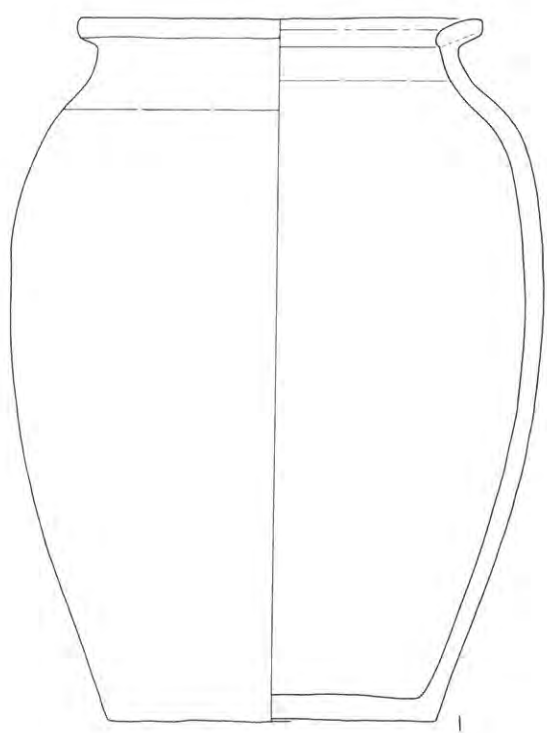
0 10cm

第60图 褐釉陶器



0 10cm

第61図 褐釉陶器と特殊陶器



第62図 褐釉陶器・瑠璃釉

第7節 タイ産陶器

タイ・サワンカローク窯系の鉄絵陶器の袋物と小壺が出土した。大きめの資料を取り上げた。時期的には15・16世紀に位置づけられる。

第63図1～4は蓋か身か判然としない資料である。素地は灰白色の粗粒子で、細かい黒色鉱物を含む。外面に黒色の釉で文様を描いた後に透明釉を施す。図上復元による推算口径は、同図2が8.9cm、同図3が7.5cm、同図6が8.9cmを測った。

第63図5は身の部分の底部資料で、文様は判然としないが草花文かと思われる。

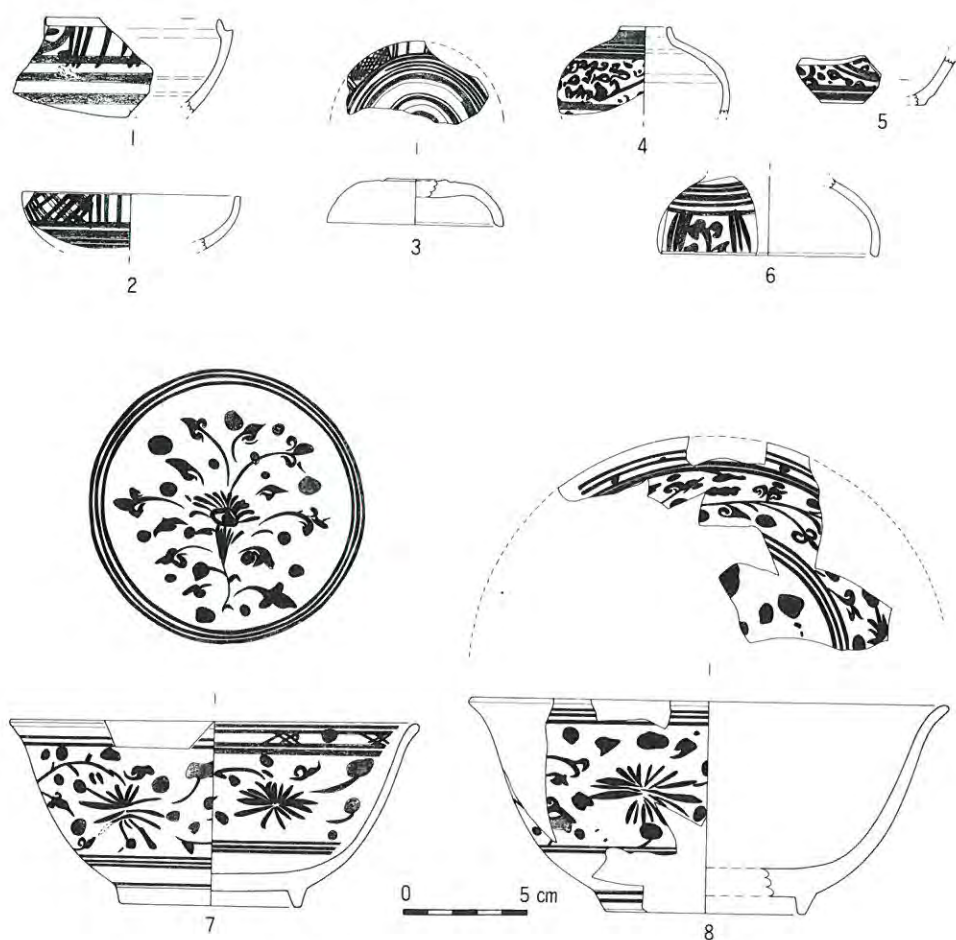
第63図6は小壺の口縁部資料と考えられる。外面には数条の圏線と草花文を描く。

第8節 ベトナム産色絵

色絵は小破片が多く、ここでは2点について略述する。

第63図7は口径推算16.2cmを測る碗である。ベトナム産赤絵とされるものである。色彩は赤と緑の2色を基調としており、器内外面に圏線に囲まれた草花文が描かれる。

第63図8は口径推算が19.0cmを測る。その他の特徴は図1と同じである。



第63図 タイ産陶器・ベトナム産色絵

第9節 本土産陶磁器

第64図～第68図に主要なものを示した。本報告では図上復元が可能な遺物を紹介することとし、明治期以降の遺物は今回の報告では割愛する。遺物については大橋康二氏の御教示を得た。

本遺跡出土の本土産陶磁器は、I地区及びII地区より出土しており、III区での出土はみられない。産地は、肥前産および肥前系（薩摩系の可能性があるものも含む）によって占められる。製品の大部分は染付であり、青磁・白磁及び陶器は染付の出土量に比して稀少である。年代は16世紀代から19世紀後半代まで各時期の製品が出土しているが、特に17世紀後半～19世紀後半の製品の出土が目立つ。

各遺物の詳細な年代・特徴・産地等については第4表を参照されたい。以下年代順に各区の概要を述べる。

16世紀代

I地区では、この時期の製品は肥前産陶器である（第68図7・10～12・15・18）。器種は碗形と皿形があるが、主体は皿形である。碗形・皿形はともに高台部無釉で装飾技法は鉄絵装飾で植物文を描いたり、口銹を施すものがある。

II地区においても、I地区と同様に肥前産陶器が出土しているが、大型の皿形が1点（第68図19）出土しているのみである。この時期の製品はI地区での出土が顕著である。

17世紀後半代

この時期の製品としては碗形では見込み荒磯文碗がI・II地区で出土している（第64図1・2、第66図1～3）。皿形ではII地区で染付芙蓉手皿（第66図12・13）が出土している。色調が灰色がかった粗放な作りで、嬉野町吉田山の製品（註1）とみられる。この種の染付芙蓉手皿は東南アジアへ輸出されたことが知られており、インドネシアのパサリカン遺跡で出土（註2）している。この時期に属する陶器には肥前産の京焼風陶器の出土がみられる（第68図17）。同製品は色調が卵黄色を呈し、高台内無釉で、高台内に「木下弥」とみられる印銘を押し、見込みに呉須絵で山水文を描く。この時期以降、I地区での出土は散発的となり、II地区での出土が目立つ。

18世紀代

この時期の製品は、コンニャク印判を施した製品がI・II地区で出土している（第64図5、第65図7・9）。また見込み蛇の目釉剥ぎを施した碗形・皿形の出土もみられる（第64図6・7・11・第68図3～5・7）。特に、白磁の碗形・皿形の中には蛇の目釉剥ぎ後泥状の砂を塗った製品が見られる（第68図6・8）。陶器では青緑釉陶器の碗形・皿形がみられる（第68図13・14）。また、蓋物・蕎麦猪口など碗・皿形以外の器種がこの時期にはみられる（第64図13、第66図5～8）。

19世紀～19世紀後半代

この時期の製品はほとんどが碗・皿形である。特にII地区での出土が目立つ。まず碗形では、広東型（第65図10）、端反り型（第65図12・13、第66図17）の他、小型の碗形（第66図1～4）がある。皿形は、見込みに山水図を描くものが多く出土している（第67図1～3・6・7・9・12）。この時期の製品の産地は、肥前産のものは少なく、肥前系のものが大半を占めており、大橋氏の御教示によれば薩摩産の可能性があるといる。

小 結

まず、I地区では16世紀代の肥前産陶器がまとまって出土しているほかは、極めて散発的な出土状況を示している。一方、II地区においては17世紀後半～19世紀後半の製品が各時期を通じて出土している。17世紀後半代においては、荒磯文碗・染付芙蓉手皿等東南アジア向けの製品が出土していることが目をひく。18世紀代においては、主要器種である碗・皿形の他に蓋物・蕎麦猪口等の他の器種の出土がみら

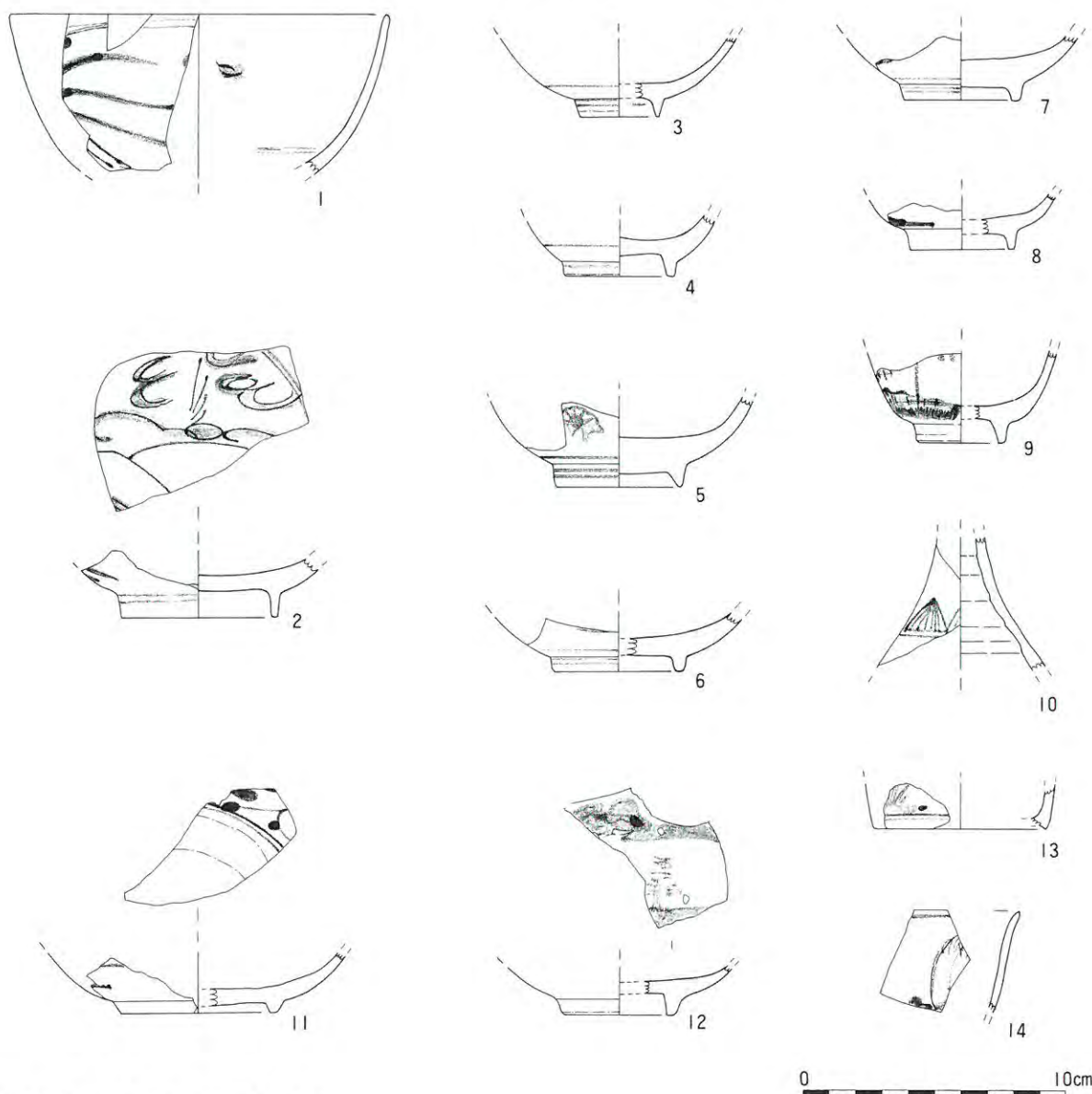
れる。19世紀～19世紀後半代においては再び碗・皿形が主体となる。特にこの時期の製品は、他の時期と比べて出土量が多く、産地もこれまでの肥前産から肥前系（薩摩産の可能性を含む）へと産地に変化がみられる。

註

- 註1. 「嬉野町吉田2号窯跡」『肥前地区古窯調査報告書 第6集』佐賀県立九州陶磁文化館 1989年
 2. 「海を渡った肥前のやきもの」展 佐賀県立九州陶磁文化館 1990年

参考文献

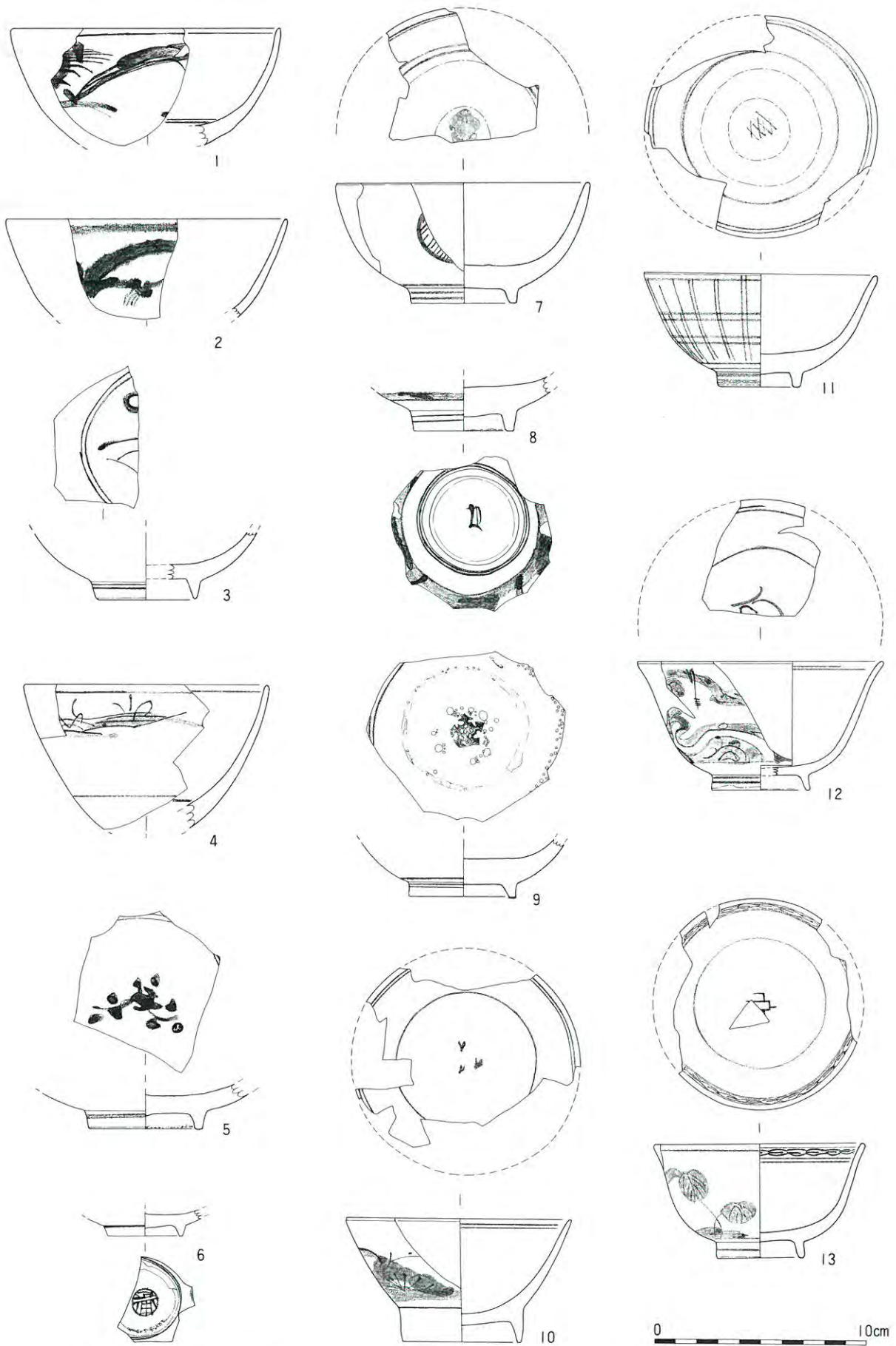
- (1) 「海を渡った肥前のやきもの」展 佐賀県立九州陶磁文化館 1990年
 (2) 「国内出土の肥前陶磁」 佐賀県立九州陶磁文化館 1984年
 (3) 大橋康二 「肥前陶磁」 ニューサイエンス社 1989年
 (4) 大橋康二 「肥前磁器碗の形態の変遷」 乙益重隆先生古稀記念論文集
 『九州上代文化論集』 乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会 1990年



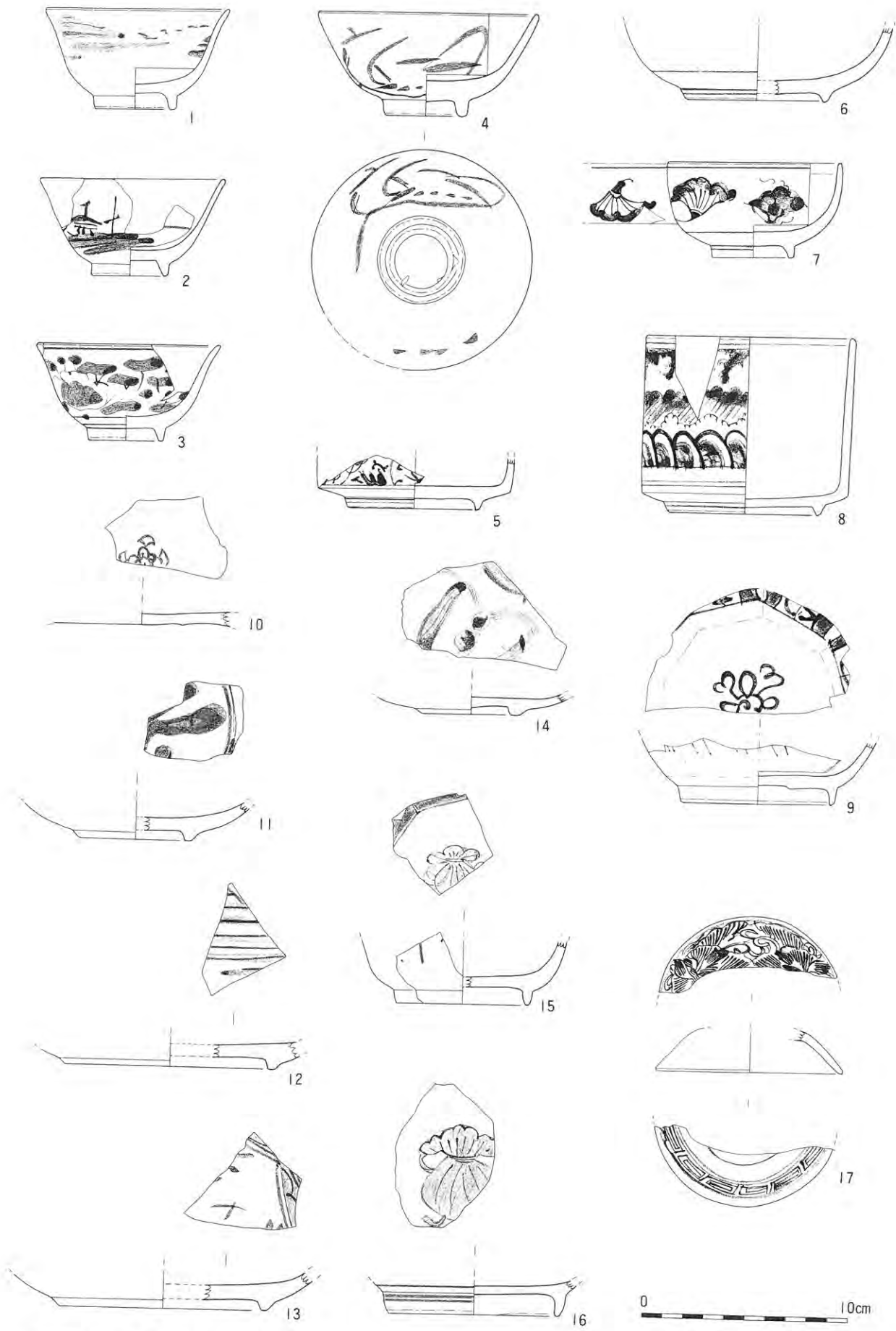
第64図 本土産陶磁器（I地区）

第4表 本土産陶器観察一覧

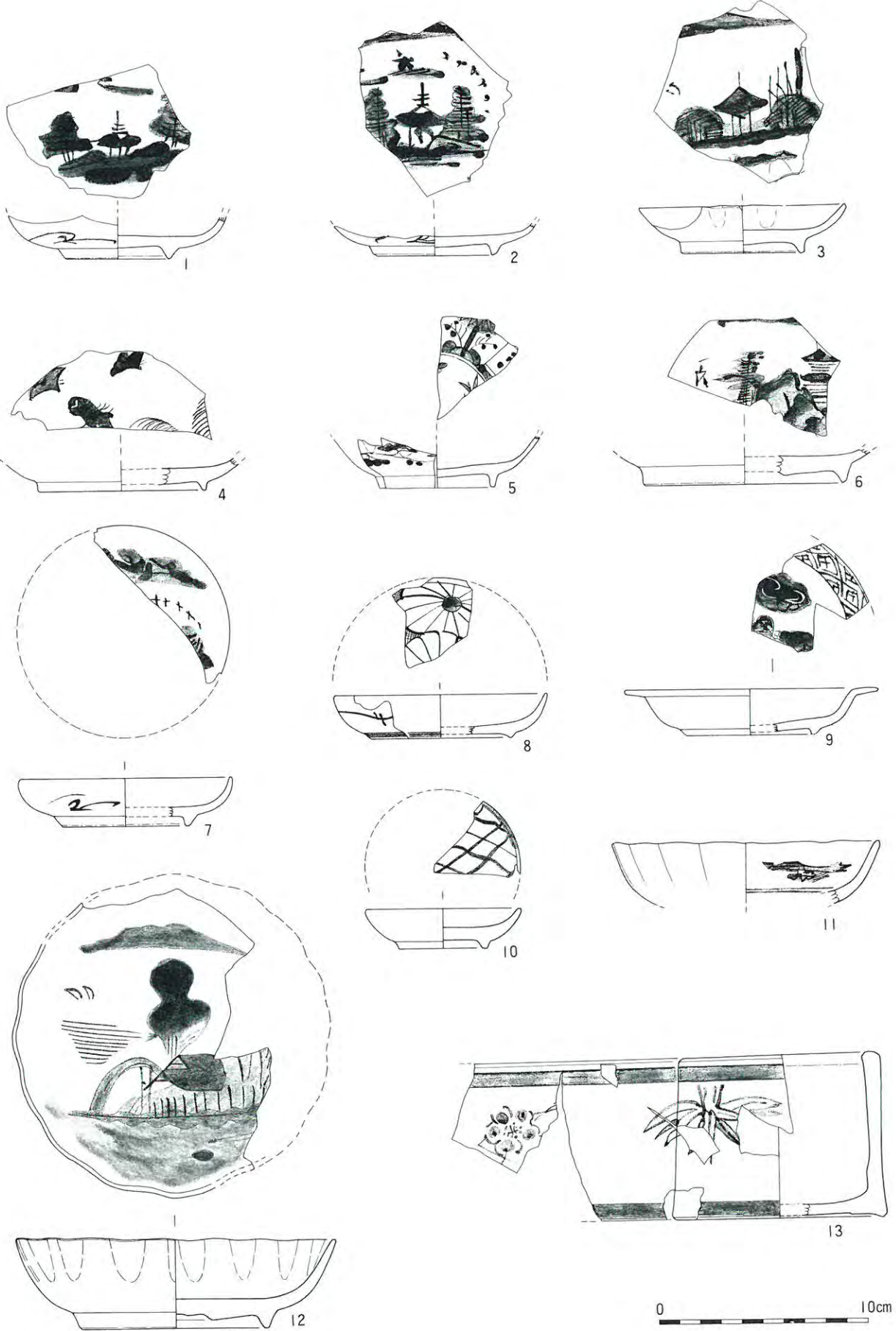
| 図 | PL | 地区 | ケリト | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 備考 |
|----------------|----------------|-----|---------|---------------|-------|------|------|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------|
| 第64回 PL. 73 | 1 | 1 | し44 | 第1瓦層 | 碗 | 口縁部 | 14.5 | | | 龍鳳見込み荒磯文。 | 文献(1) |
| | 2 | 1 | せ44 | 3層,黄灰色上面 | 碗 | 底部 | | | | 見込み荒磯文。 | 文献(1) |
| | 3 | 1 | し45 | 円形状集中1(し字土層上) | 碗 | 底部 | | | | 3 外体部下半に1条,高台外面2条,高台内に1条の圈線。 | |
| | 4 | 1 | こ46 | 第4層,4号井戸 | 碗 | 底部 | | | | 4.2 外体部下半に1条,高台外面に2条の圈線。疊付けに砂付着。 | |
| | 5 | 1 | ぬ5 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | | 4.8 コシ印判。 | |
| | 6 | 1 | し40 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | | 4.9 見込み蛇の目輪刺ぎ。高台砂付着。 | |
| | 7 | 1 | ち44 | 第2層 | 碗 | 底部 | | | | 4.4 見込み蛇の目輪刺ぎ。 | |
| | 8 | 1 | に41 | 第2層 | 碗 | 底部 | | | | 4 | |
| | 9 | 1 | た44 | 第1瓦層 | 碗 | 底部 | | | | 3.2 山水文。 | |
| | 10 | 1 | ち44 | 第3層 | 瓶 | | | | | 頸部に蓮弁文。 | |
| | 11 | 1 | つ45 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 5.9 体部内面つる草。見込み蛇の目輪刺ぎ | |
| | 12 | 1 | け40 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 4.2 見込み山水文。疊付けに煤付着。 | |
| | 13 | 1 | さ40 | 表土攪乱 | そばちよこ | 底部 | | | | 6.5 山水文。 | |
| | 14 | 1 | | 1号表 | 小杯 | | | | | 柳文。 | |
| 第65回 PL. 74 | 1 | 2 | な61 | 攪乱 | 碗 | 口縁部 | 12.8 | | | 龍鳳見込み荒磯文。 | 文献(1) |
| | 2 | 2 | | 2号窓前面,攪乱 | 碗 | 口縁部 | 13.4 | | | 雲龍見込み荒磯文。 | 文献(1) |
| | 3 | 2 | | 黒褐色,攪乱 | 碗 | 底部 | | | | 4.5 見込み荒磯文。 | 文献(1) |
| | 4 | 2 | ち59 | 8層 | 碗 | 口縁部 | 11.7 | | | 山水文。 | 文献(1) |
| | 5 | 2 | た59 | 1層 | 碗 | 底部 | | | | 5.4 見込み圈線内に牡丹文。疊付けに砂付着。 | |
| | 6 | 2 | て57 | 砂利層 | 碗 | 底部 | | | | 3.6 高台内に「寿福」を上下に合字? | |
| | 7 | 2 | | 表土攪乱 | 碗 | 完形 | 11.9 | 5.8 | | 5 外面丸文。見込み五弁花(コシ印判)。見込み蛇の目輪刺ぎ。 | 文献(3) |
| | 8 | 2 | な57 | 落ち込み(黒褐色) | 碗 | 底部 | | | | 4.8 高台内「大明年製」のくずれの款。 | |
| | 9 | 2 | に57 | 2攪乱 | 碗 | 底部 | | | | 5.1 見込み五弁花(コシ印判)見込み蛇の目輪刺ぎ。輪刺ぎ,高台砂付着。 | |
| | 10 | 2 | な57 | 攪乱2 | 碗 | 完形 | 10.8 | 5.8 | | 5.6 広東型。外面山水文。見込み岩波又は千鳥のくずれ。 | |
| | 11 | 2 | な57 | 表土攪乱 | 碗 | 完形 | 11 | 5.4 | 3.8 | 外面,見込み格子目文。見込み蛇の目輪刺ぎ。 | |
| | 12 | 2 | な57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 11.7 | 6 | 4.6 | 端反型。外面流水文。 | |
| | 13 | 2 | ぬ59 | 攪乱,黒褐色 | 碗 | 完形 | 10.1 | 5.4 | 4.1 | 端反型。外面山水文。口縁内面雷文。見込み「源氏」くずれ。 | |
| | 14 | 2 | に59 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 10.8 | 5.8 | 3.8 | 外面山水文。 | |
| 第66回 PL. 75 | 2 | 2 | に57 | 赤褐色 | 碗 | 完形 | 9 | 4.6 | 3.5 | 外面山水文。 | |
| | 3 | 2 | に57 | 赤褐色 | 碗 | 完形 | 8.9 | 4.7 | 3.6 | 外面唐草文。 | |
| | 4 | 2 | に58 | 黒褐色 | 碗 | 完形 | 10.8 | 5 | 3.8 | 外面帆掛文と鳥。見込み蛇の目輪刺ぎ。 | |
| | 5 | 2 | | 表土攪乱(埴物) | 蓋物 | 底部 | | | | 6.2 外面唐草文の一種。 | |
| | 6 | 2 | に57 | 攪乱2 | 蓋物 | 底部 | | | | 6.8 体部外面下半,高台に圈線。 | |
| | 7 | 2 | に57 | 攪乱 | 蓋物 | 完形 | 8.6 | 4.6 | | 4 蓋物の身。外面付け文。 | |
| | 8 | 2 | に57 | 攪乱 | 蓋物 | 完形 | 10.3 | 8.6 | | 7.2 蓋物の身。外面波濤文。 | |
| | 9 | 2 | な57 | 攪乱2 | 鉢 | 底部 | | | | 7.2 見込み花かま文。蛇の目凹形高台。 | |
| | 10 | 2 | に57 | 赤褐色 | 皿 | | | | | 見込み五弁花文。高台内蛇の目輪刺ぎ。 | |
| | 11 | 2 | な59 | 攪乱(淡黄褐色) | 皿 | 底部 | | | | 5.4 疊付けに砂付着。 | |
| | 12 | 2 | に57 | 攪乱1 | 皿 | 底部 | | | | 10.2 粗放な芙蓉手皿。見込み流水文。 | 文献(1) |
| | 13 | 2 | | 2号窓前面,攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 10 粗放な芙蓉手皿。見込み文様は不明。 | |
| | 14 | 2 | | 表土攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 4.7 見込み唐草文。疊付け砂付着。 | |
| | 15 | 2 | に57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 5.4 見込み宝袋文。 | |
| | 16 | 2 | | 埋土 | 皿 | 底部 | | | | 8.2 見込み宝袋文。 | |
| | 17 | 2 | に57 | 攪乱2 | 碗の蓋 | 口縁部 | 9.2 | | | 端反型の碗の蓋。外面唐草文の一種。口縁内面雷文。 | |
| | 第67回 PL. 76 | 1 | 2 | な60 | 第3層 | 皿 | 底部 | | | | 5 見込み山水文。外面草花文の一種。 |
| 2 | | 2 | な57 | 攪乱2 | 皿 | 底部 | | | | 5.6 見込み山水文。外面草花文の一種。 | |
| 3 | | 2 | に57 | 赤褐色 | 皿 | 完形 | 10 | 2.2 | 5.8 | 見込み山水文。口縁。輪花形の皿。 | |
| 4 | | 2 | に56 | 攪乱1 | 皿 | 底部 | | | | 8 見込み土島文。高台内無軸。 | |
| 5 | | 2 | | 2号窓(前壁部),攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 5.5 輪花形の皿。外面唐草文の一種。内面芙蓉手。 | |
| 6 | | 2 | な56 | 6層上 | 皿 | 底部 | | | | 9.4 見込み山水文。蛇の目凹形高台。 | |
| 7 | | 2 | に57 | 攪乱 | 皿 | 完形 | 10.2 | 2.2 | 6 | 見込み山水文。外面草花文の一種。 | |
| 8 | | 2 | な62 | 攪乱 | 皿 | 完形 | 10.2 | 2.1 | 6.6 | 外面唐草文の一種。内面菊花散らし文。 | |
| 9 | | 2 | な56 | 攪乱1 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.2 | 6.2 | 口縁内面四方だすき文。見込み山水文。 | |
| 10 | | 2 | な60 | 第3層 | 皿 | 完形 | 7.8 | 1.9 | 4.2 | 内面割目文。 | |
| 11 | | 2 | ぬ58 | 攪乱層 | 皿 | 口縁部 | 12.2 | | | 輪花形の皿。内面の文様意匠文明。 | |
| 12 | | 2 | な57 | 落ち込み,暗褐色 | 皿 | 完形 | 15.2 | 4.3 | 8.8 | 輪花形の皿。口縁。蛇の目凹形高台。内面山水文。 | 産地志田か? |
| 13 | | 2 | な57 | 攪乱 | 火入れ | 完形 | 8.2 | 7.9 | 9.8 | 外面梅と竹。 | |
| 第68回 PL. 77 | | 1 | 1 | こ41 | 第2層 | 碗 | 底部 | | | | 3.3 白磁。 |
| | 2 | 2 | な・に60 | | 碗 | 完形 | 11.2 | 5.6 | 4.1 | 白磁。 | |
| | 3 | 2 | に57 | 攪乱2 | 碗 | 底部 | | | | 4.5 白磁。 | |
| | 4 | 2 | に57 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | | 5 白磁。見込み蛇の目輪刺ぎ。 | |
| | 5 | 1 | と42 | 第2層 | 碗 | 底部 | | | | 4.7 白磁。 | |
| | 6 | 2 | な・に60 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | | 4.8 白磁。見込み部分を蛇の目輪刺ぎ状に泥状の砂を塗り、焼着を防ぐ。 | |
| | 7 | 2 | に57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 4.8 高台部無軸。見込みに砂目1個あり。 | |
| | 8 | 2 | | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 6 白磁。見込み部分を蛇の目輪刺ぎ状に泥状の砂を塗り、焼着を防ぐ。 | |
| | 9 | 2 | | 表土攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 8.9 青磁。蛇の目凹形高台。 | |
| | 10 | 1 | さ44 | 第3層 | 皿 | 完形 | 10.7 | 3.3 | | 5.6 口縁。胴下半・高台部無軸。 | |
| | 11 | 1 | た42,ち42 | 第1瓦層,第3層黄灰色土 | 皿 | 完形 | 10.7 | 3 | 3.6 | 胴下半・高台部無軸。 | |
| | 12 | 1 | せ47 | 第1層 | 皿 | 口縁部 | 12.6 | | | 胴下半無軸。 | |
| | 13 | 1 | さ40,さ42 | 攪乱,北井戸 | 碗 | 底部 | | | | 4 内野山高産。外面緑釉,内面透明釉。高台部無軸。 | |
| | 14 | 1 | こ41 | 井戸中 | 皿 | 底部 | | | | 4.5 内野山高産。内面緑釉,外面透明釉。見込み蛇の目輪刺ぎ。高台部無軸。 | |
| 15 | 1 | ち49 | 第3層 | 碗 | 底部 | | | | 4.4 見込み鉄絵。外面胴下半・高台部無軸。 | | |
| 16 | 2 | な57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 4.3 肥前産の可能性強い。見込みに山水文を描く。 | | |
| 17 | 2 | ぬ59 | 攪乱,黒褐色 | 皿 | 底部 | | | | 4.7 京焼風陶器。見込みに黒須絵で山水文を描く。高台内印緒「木下弥」? | | |
| 18 | 1 | た42 | 第1瓦層 | 皿 | 口縁部 | 11.5 | | | 鉄絵により植物文?を描く。胴下半無軸。 | | |
| 19 | 2 | な57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | | 7.6 大皿。胴下半・高台部無軸。 | | |



第65图 本土産陶磁器 (II地区)

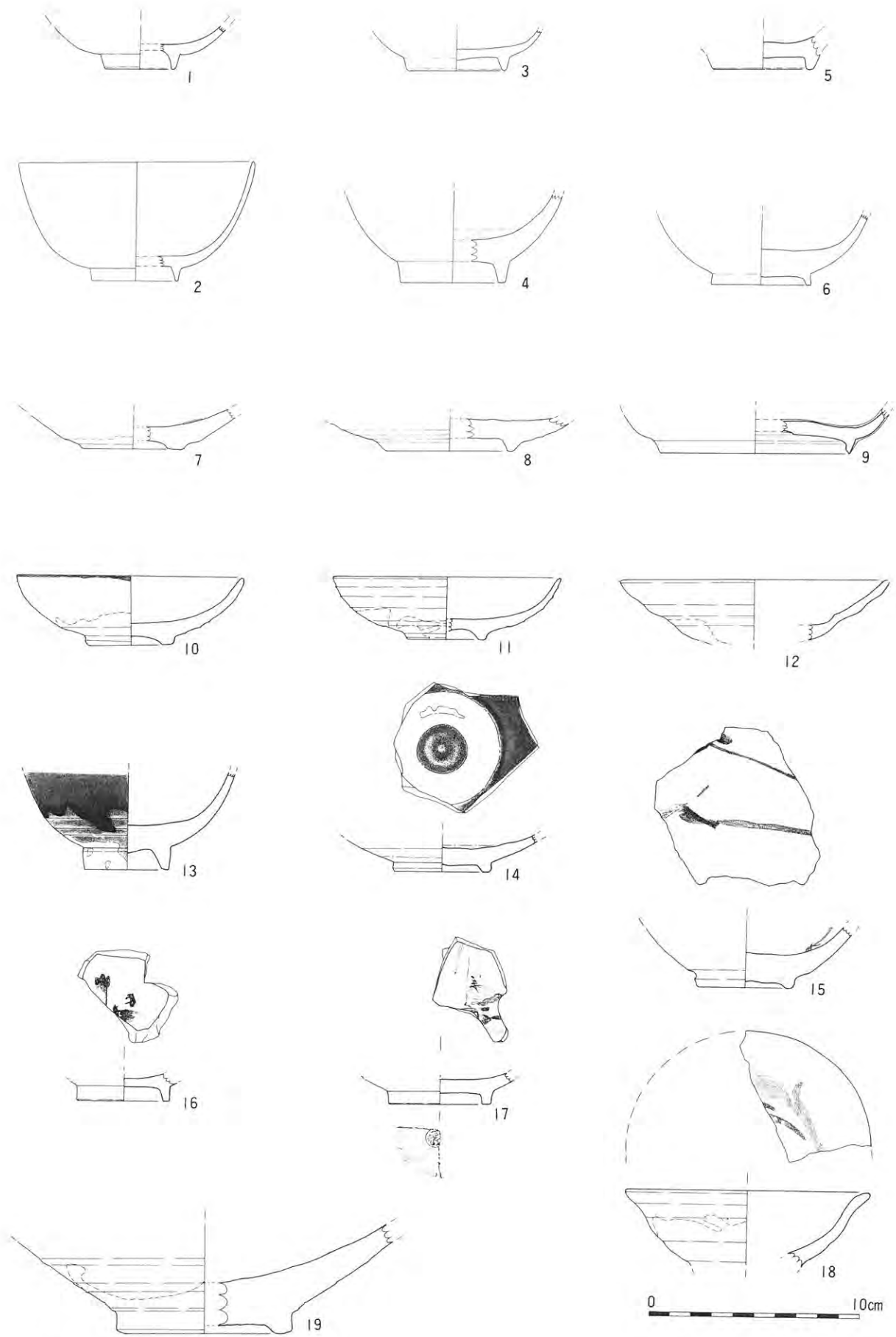


第66图 本土産陶磁器 (II地区)



第67図 本土産陶磁器 (II地区)

0 10cm



第68图 本土産陶磁器 (I・II地区)

第10節 沖縄産施釉陶器

沖縄産施釉陶器として取り扱ったものは、器の表面に釉を掛けた一群であり、いわゆる「上焼」(註1)と称されるものを中心とするものである。

本遺跡から出土した沖縄産施釉陶器の器種は、碗(小碗も含む)・皿・香炉・火取り(火舎)・酒器(カラカラ)・急須・壺(油壺・瓶子・対瓶・花瓶)・灯明具(灯明皿・燭台)・火炉・鉢などが確認されていて、出土した大部分は小振りのものが多くを占めている。その他に本項では、沖縄産施釉陶器の発生段階で若干の影響を与えたとみられる中国産白磁と青磁を参考資料として図化した(第69図1・4)。

釉の種類として確認されたものについては、灰釉・透明釉・鉄釉・飴釉・緑釉・黒釉・瑠璃釉が存在する。その他に素地に白色や茶色の化粧土を塗付するものがあり、白色のものはいわゆる白化粧を施すものであり、その場合は一般的に透明釉が掛けられている。茶色の化粧土を施す際は、釉掛けを行わないようである。釉の種類と関係する資料として、赤絵・三彩・染付(呉須)を施した碗・瓶子などが出土している。

施釉の方法として上記の釉の単釉掛け以外にそれぞれ異なる釉を掛け分けて施すものが、碗・皿などに認められる。単釉掛けの場合は、「フィガキー」(註2)と称される手法を用いているものが多い。

文様の種類としては、線彫り(釘彫り)・片切り彫り・印などの施文具で器面に草花文・格子文・花文などを描くものと鉄釉・呉須・緑釉を筆(指など)で描く絵付けや釉の流し掛けなどで花文などを表現するものがある。これも文様表現の一種として扱った。他に陰刻された文様に白色土を埋め込む白土象嵌(三島手)の資料も得られている。

以下、各器種について、器形や釉の種類などで分類し、必要に応じて細分類を行った。主な特徴を揚げて分類概念や分類基準とし、個々の特徴については観察表(第5表)に呈示することにした。

1. 碗

器形や施釉などからI～VII類に分類できた。

I類(灰釉無文碗)

直口口縁の碗で高台脇から口縁にかけて、外側に開きながらストレートに移行する器形である。高台が高い無文碗である。いわゆる灰釉碗である。施釉の手法は「フィガキー」である。(第69図2・3)

II類(灰釉有文碗)

外反口縁の碗で高台脇から外側に幾分丸味を持たせる器形である。見込みを浅く窪ませるのも特徴のひとつである。外面に鉄釉で草花文を描く。(同図5)

III類

外反口縁の碗であるが、外反の度合いに強弱があった為、釉掛けや釉の掛け分けなどでa～cの3種類に分けられる。その特徴を略記する。

a種…外面鉄釉、内面灰釉。見込みに丸文と圏線を鉄釉や白釉で圏線を描く。(同図6・8)

b種…両面鉄釉、フィガキーで施釉。見込みに鉄釉で丸文を描く。(同図7)

c種…外面鉄釉、内面透明釉(下地に白化粧土)。(同図9)

IV類

口縁の外反の度合いは微弱となり、直口する碗も含まれている。釉色の違い(掛け分け)や施釉の範囲にも変化が見られたので、a～cの三種類に細分した。これらに共通する点は両面に総釉した後に内底面や畳付の釉を除去することである。

a種…外面淡青色、内面透明釉(白化粧)。外底面に透明釉を施す緑釉の碗。(第70図1)

b種…両面透明釉(白化粧)。外底面に透明釉を施す。有文と無文があり、有文の場合は線彫りや丸彫り

で丸文に三葉・花文などを組み合わせる。中には文様に呉須を施す「釘彫染付」も含まれている。(同図7～11・第71図4)

c種…両面鉄釉。外底面も鉄釉を施している。(第70図3)

V類

外反する碗で他と共通するが、白化粧との施し方などに違いが見られたので、a・bの二種類に分けた。これも両面に総釉後に内底面や畳付の釉を除去する点で共通する。

a種…外面透明釉(白化粧)、内面透明釉。(第70図4)

b種…外面透明釉、内面透明釉(白化粧)。このタイプには有文と無文があり、有文の場合は線彫りで草花文を描いた後に文様へ呉須を施す。(同図5・6)

VI類

このタイプは、口縁造りから外反口縁・内彎口縁の二種類に分けられるが、口縁の造りが微妙な違いである為、釉色や施釉などの方法でa・bの二種類に分けた。

a種…両面透明釉(白化粧)、外底面透明釉を基本とするが口縁や文様帯にアクセントをつける為に三彩や鉄釉を施すものがある。これは全て有文の外反碗で、文様構成等に類似点が認められる。文様は刻文・点刻文や圏線で構成されている。(第71図1～3)

b種…両面に灰白色の釉を施す。内面への釉の掻き取りはない。文様は線彫りで刻文と圏線を描いた後に白土で象嵌する内彎碗。(同図4)

VII類

外反口縁と内彎口縁の二種類が含まれているが、両面及び外底まで白化粧を施した後に呉須を主体に飴釉・緑釉などで草花文・花文などを描き透明釉を施す。この中には三彩碗や赤絵が含まれている。これらの類似点は両面に総釉した後に内底面と畳付の釉を除去することである。(第71図6～10)

2. 小碗

茶碗としての利用が主体とみられたので、碗と区別した。小碗も器形や施釉などを基本にI類～V類に大別し、必要に応じて細分した。

I類

外反と内彎の小碗がある。前者をa種、後者がb種と二種類に分けた。

a種…両面透明釉(白化粧)のものと外面透明、内面透明釉(白化粧)を施すものを主体とするが、器にアクセントをつける為に飴釉と緑釉を施したものがある。釉の掻き取りは総釉後に見込みと畳付を除去するものと畳付のみ除去するものも含まれている。この手は口縁が外反するものである。(第73図1・2、同図9)

b種…両面透明釉(白化粧)を施すものと外面に鉄釉・透明釉、内面が透明釉(白化粧)を施釉するものがある。有文と無文の両者があり、有文の場合は呉須や白釉で花文・渦巻文などを描く。この種は内彎する小碗である。(同図3・4・7・10・11)

II類

I類a種と同様に外反する小碗である。外反の度合いに強弱の変化が認められる。施釉の手法などから2種類の変化が認められた。これは外面鉄釉。内面透明釉(白化粧)のタイプと外面鉄釉、内面透明釉のみを釉掛けするものがある。いわば異色の釉を掛け分けているものである。(同図5・6)

III類

内彎気味の有文の小碗である。文様の構成や器形などから三島手の範疇にはいるものとみられる。文様は圏線・菊花文・縦沈線を描いた後に鉄釉?もしくは茶色の化粧土で象嵌を施す。(同図8)

IV類

腰部を篋で面取りした小碗で、口縁が外反する。有文と無文があり、後者のものが多い。釉掛けは両面に透明釉（白化粧）を施すものを基本とするが、透明釉（白化粧）以外に黄緑色や淡緑色の飴釉でアクセントをつけるものがある。異色の釉で器に加飾するものも文様的一种として把握し、このグループに含めた。（同図12～15）

V類

V類は肩部が「く」の字状に折れ、口縁で外反する。文様は線彫りによる圏線と刻文を描いた後に白土で象嵌を施す。（第74図2）

3. 小皿

銘々皿の可能性もあったので大皿（盛り付け）と区別し、小皿と分類したものである。小皿は器形や施釉手法などからI類～V類までに大別し、状況に応じて細分した。

I類

I類には内彎するものと外反もしくは直口するものに分けられ、内彎する小皿は有文である。外反もしくは直口するタイプの小皿は無文であった。これらの特徴以外に施釉手法などからa～cの3種類に分けた。

a種…両面に緑灰色の透明釉を施す。いわゆる灰釉皿と称されるものに含まれるものでフィガキー手法で施釉。内彎する小皿で外面に白釉で花文を描く。（第73図1）

b種…外面無釉、内面透明釉（白化粧）を施す。口縁が外反するものと直口のものがある。

直口のものは高台から外側に大きく開き、若干丸みを持ちながら口縁に移行する。一見、蓋を想像させる。この種は無文である。（同図2・11）

c種…両面に透明釉（白化粧）を施す。釉は外底面まで総釉した後に見込みと畳付の釉を除去する。口縁で僅かに外反する無文の小皿である。（同図3）

II類

口縁造りが口縁端部に指圧を加え稜花状に仕上げる小皿で、口唇に篋を加え面を取るものもある。釉掛けの状況などからa・bの2種類に分けた。

a種…両面に透明釉（白化粧）を施す。外底面にも施釉。内面は呉須を施す際は雲文・花文などを描く。線彫りの場合は草文・圏線を描いた後に呉須で文様を沿って筆書きを行っている。（同図4・7・8）

b種…外面鉄釉、内面透明釉（白化粧）。無文と有文があり、有文の場合は線彫りによる圏線を描く。（同図5・6）

III類

口縁の外反が微弱な小皿である。施釉や釉色などの組み合わせの違いでa・bの二種類に分けられる。

a種…外面鉄釉、内面透明釉（白化粧）。無文の小皿である。中には口縁端に三角形の突起を貼り付けた灯火皿と判断できるものが含まれているが釉色や煤などが無い為、灯火以下に使用されたものと理解されたので本種に含めてある。（同図9・12）

b種…a種と同様に鉄釉・透明釉（白化粧）を施すが、内面に緑釉を筆書きで花文状に施す三彩小皿である。（同図10）

IV類

内彎の小皿で、両面に鉄釉をフィガキーの手法で施している。（同図13）

V類

赤絵小皿で、両面に透明釉（白化粧）を施した後に赤茶色や明緑色の釉で草花文を描いている。（第74図1）

4. 小杯

一例のみ確認されている。両面に濃緑色の釉を豊付を除いて総釉する。外面に白釉で「区」の一字を施していることが確認できる。(第74図1)

5. 大皿

盛り付け用の皿とみられるものを大皿と仮に分類した。口縁形態や釉色も変化に富んでいる為、I類～IV類までの4種類に大別し、必要に応じ細分した。

I類

内彎する大振りの皿で、施釉などの状況からa～cの三種類に細分した。

a種…両面に透明釉(白化粧)を施す。白化粧を施した後に鉄釉で圏線・斜沈線を筆書きする。大振りの内彎皿である。(第74図4) b種…外面透明釉、内面透明釉(白化粧)を施すものと両面に透明釉(白化粧)を施すものが含まれている。内面に線彫りの丸文に縦沈線文・波文などを施したのものや文様に淡緑色・淡茶色の釉を施すものがある。外反のきついものとゆるく微弱なものがある。(同図5・6)

C種…両面に透明釉(白化粧)をフィガキー手法で施す。大振りの内彎皿である。(同図8)

II類

口縁端部に指圧を加えて稜花状に仕上げる。両面に透明釉をフィガキーの手法で施す。内面には鉄釉で圏線を二本描いた後に圏線の間白色の釉を施している。また、見込みには鉄釉で丸文を描く。(同図7)

III類

口縁が肥厚する大皿で、疑似肥厚口縁タイプと肥厚口縁のタイプがある為、施釉・釉色などからa・bの二種類に分類した。

a種…外面透明釉、内面透明釉+白釉。内面は下地に透明釉を施した後白釉を掛けていて、圏線を下地の透明釉で表現する。口縁外端を三角状に成形する。見込みに明茶色の化粧土で手書きの丸文を描く。(同図9)

b種…両面に鉄釉を施す。口縁は玉縁状に肥厚する。(同図10)

IV類

この手の大皿は口縁を三角形に肥厚させて仕上げているもので、釉の掛け分けや釉色などからa～cの三種に細分した。

a種…外面鉄釉、内面透明釉。外面の釉は高台脇で止まり、内面が総釉後に蛇の目状の掻き取りを行っている。(同図11)

b種…両面に鉄釉や透明釉をフィガキー手法で釉掛けする。見込みに丸文や圏線を鉄釉・茶色の化粧土で描いている。(同図12・13)

c種…外面鉄釉、内面透明釉(白化粧)。外面は高台脇で釉が止まる。内面は総釉後に蛇の目状の掻き取り。内面及び内底面に青緑色の釉で花文を表現する。(第75図1)

6. 大鉢

大振りの鉢を仮称して大鉢とした。他器種との特異な点として高台に3～7程度の孔を穿っていて、紐通しの小孔とみられる。口縁部の特徴を掲げると外反口縁、肥厚口縁、輪花状口縁などが認められる。口縁形態や釉の状況などからI～IV類に大別される。

I類

口縁形態から口縁を外反させるもの、口縁を三角形状に肥厚させるもの、口縁を逆「L」字状に肥厚させる3つのタイプに細分できる。

a種…外面鉄釉、内面透明釉(白化粧)。口縁を外反させて口造りを行っている。(同図2)

b種…外面鉄釉、内面透明釉。口縁を三角形状に肥厚させる。(同図3)

c種…外面に鉄釉、内面が透明釉を施す点はb種と共通するが、口造りが口縁を逆「L」字状に肥厚させている。また、緑釉で花文を表現する点などで相違がみられる。(同図4)

II類

この大鉢は口縁の内端部に指圧を加え輪花状に仕上げている。施釉や釉掛けなどからa・bの2種類に分けられる。

a種…外面鉄釉、内面透明釉。内面は口縁の扶れに沿って白色の釉掛けを行ない、さらに同種の釉で圏線を筆書きで描き、花文を表している。(同図5)

b種…外面は透明釉、内面に透明釉を施す以外に外底面にも透明釉を施している。内面は呉須で草花文を描いている。(同図6)

III類

口縁の肥厚が大きくなり、大鉢I類c種より強調される。口縁は逆「L」字状に肥厚させるが、肥厚の突出が外側に摘み出される為、鏝状の口縁となる。施釉や釉色の違いなどからa・bの二種類に分けた。

a種…外面鉄釉、内面透明釉(白化粧)。内面に青緑色や鉄釉で花文を描く。外面に凸帯状の陽圏線を施す。(同図7)

b種…両面とも鉄釉をフィガキーの手法で施釉する。内面に茶褐色の化粧土で丸文と圏線を描いている。(同図8)

IV類

高台から丸味を保持しながら胴上部まで立ち上がらせた後に口縁を内側にきつく内彎(内傾)させる大振りの鉢である。外面には鉄釉を施し、内面が透明釉(白化粧)を施しているものである。(第77図6～8)

7. 小鉢

本品は口縁形態や製作手法などでI類からIII類に分類し、必要に応じ細分類を実施した。

I類

このタイプは口頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁が外側に開き傾いている。鏝付きの口折れ小鉢で、口縁内面は蓋を受けやすくする為に窪みをつける。高台脇からの立ち上がりの状態や施釉手法などからa～cまでの3種類に細分した。

a種…両面の黄緑色の釉を施す。外面に線彫りによる刻文・圏線・縦沈線(櫛描き)を施した後に白色釉(化粧土?)を文様に象嵌する「三島手」の手法である。(第71図1)

b種…両面は透明釉(白化粧)を総釉した後に豊付を露胎させたり、内底釉を蛇ノ目状に掻き取っている。(第76図1)

c種…両面ともb種と同様に透明釉(白化粧)を施す。内面に線彫りの格子文と波濤文を描いた後に呉須や鉄釉(飴釉の可能性あり)を文様に施す。(同図2)

II類

腰部が「く」の字状に折れる面取りの小鉢である。面取りは口縁から腰部まで篋で面を削り取り、面数を八面に仕上げている。内面は面同志の折れの部分(面の角)に青緑色の釉を流し花卉を表現しているものである。(同図3)

III類

この手は口縁が内側に強く内傾する内湾の小鉢である。施釉手法や器形の変化などからa～cの3種類に分類した。

- a 種…両面に濃緑色の釉を施すもので、外面の釉は高台脇で止まる。内面は鉄釉。(同図4)
- b 種…外面鉄釉、内面透明釉(白化粧)。器形や施釉の範囲はa種と類似する。(同図5)
- c 種…両面に黄褐色の釉「フィガキー」に類似した手法で施す。器形はa・b種と若干異なり高台脇から内側に閉じ気味に丸味を持ちながら胴上部に移行する。(第77図1)

8. 香炉

香炉は足が三つ貼り付けられていて、三足香炉と称されるものである。底部は丸味のある平底や外底面に浅い抉りを入れ碁笥底状に仕上げるものがあるが、全体的な形は底部から丸味を持たせながら立ち上がり、胴中央部で、外側にきつく突出させて丸味を強調させている。丸味は頸部下部で消えている。口縁はきつく外反するものや「く」の字状に折れるものがある。釉色や他の釉との掛け分けなどに変化が見られ豊富である。(第77図2～5)

9. 火取

円筒状で高台を持つ器形のみである。外面に丸彫りによる圏線と緻密な縦沈線や波文を施すものと線彫りで圏線・縦沈線と型押し of 三華文を施すものの2種があり、前者をa種とし(同図6・7)、後者をb種とした(同図8)。b種は文様に白土で象嵌する三島手の手法のものである。

10. 酒器

いわゆるカラカラと俗称されるもので、その用途は酒入れである。器形や文様の有無でa・bの2種類に分けられる。a種は無文の酒器で、胴部に丸味を持たせ頸部で極端に細まっている。口縁が酒を入れやすいように口縁を外端に一端強く突出させた後に口縁端部を撮み上げている。(第78図1)。b種は有文の酒器である。胴部中央で算盤玉のように成形させる為、屈曲がきつくなっている。文様は丸彫りによる緻密な縦線と圏線を施す。(同図2)

11. 急須

確認された急須は全て三角形の突起を3個貼り付けて脚とするものであった。急須は文様の有無や釉色・複数の釉を釉掛けするなどを基本としてI類からIII類に大別した。

I類

無文の急須で、底部に三角形の突起を三個貼り付けて脚とするものである。釉色や釉掛けの相違からa・bの2種類に分けた。

a 種…両面に透明釉を施す。外面は口唇と底面を除き施釉し、内面は口縁のみ露胎する。(同図3)

b 種…外面に黒釉を施し、釉は外面が口縁から胴下部まで施している。内面は頸部の釉垂れを除き露胎する。(同図4)

II類

有文の急須で、異色の釉で文様などを表現するものや線彫りによる格子文・圏線・丸文などを描いた後に異色の釉を文様に掛けているものがある。このタイプは全て三彩急須として把握できるものであり、三彩急須の範疇に入るものとして考えられた。(第78図5～7)

III類

三島手の急須である。外面や把手の部分に線彫りによる沈線・圏線などを描いた後に白土を文様に埋め込んでいる(象嵌技法)。(同図8)

12. 蓋(急須・壺・水滴・鍋)

急須の蓋が得られていて、いずれも被せ蓋であった。文様や釉色などから急須の分類と一致することが確認できた。蓋の分類は急須の身の分類に準じた。(第79図1～4)

壺の蓋も出土していて、蓋の形状(特に撮み)などからa～bの2種類に分けた。a種は高台状の撮みを造り、透明釉(白化粧)を施す。線彫りによる草花文を描いた後に呉須を施すものである(同図5)。

b種は蓋甲頂上に紐状の把手を貼り付けている。鉄釉（白化粧）を施す無文の蓋である（同図6）。a・b種とも被せ蓋である。

水滴の落とし蓋とみられるものが1点のみ得られている。素地や釉色などから無文の三島手の青磁水滴の範疇にあることが予想された。（同図7）

鍋の蓋は高台状の撮をもつもので、線彫りや櫛描きで草文を描いている。（同図8）

13. 大型急須

大振りの急須で「アンビン」と称されるものである。釉は黒釉のみを用いている。（同図9・10）

14. 油壺

小振りの油壺とみられるものが出土している。口縁がきつく外反し、頸部で締まっている。黄緑色の釉を胴下部まで施している。（第80図1）

15. 瓶子

瓶子は器形や釉色などの変化が著しい為、a～c種の3種類に分けられた。a種は外面に透明釉（白化粧）+緑釉+飴釉を施した三彩の瓶子で、器形は長胴のナデ肩で、頸部から口縁方向に向かって細まってくる（同図2）。b種は外面に黒釉と透明釉を掛け分けて施している。頸部は細長く、胴部で丸味を帯びている（同図6）。c種は両面に明茶色の釉を施し、器形が円筒形となる瓶子である。口縁は逆「L」字状に屈曲し、一端をつまみ出して注ぎ口とする。（同図4）

16. 対瓶

対瓶は怒り肩のものが全てであった。特徴として脚状に底部を仕上げている、底部の成形などから高台状に内割りを入れて仕上げるものとベタ底状に仕上げたものがある。前者をa種（同図3）、後者はb種（同図4）の2種類に分けた。a種は三彩対瓶、b種は瑠璃釉瓶子である。

17. 花瓶

大型の花瓶の破片が1点得られている。底部資料であるが、底造りや文様などから花瓶として推定した。高台は「ハ」の字状に大きく成形する為、脚を思わせる。高台外底の内割は深く、壘付も幅広である。外面に透明釉（白化粧）を施し、線彫りの圏線と縦沈線を描き、蓮弁を表現する。（同図5）

18. 壺

器形や釉色などからⅠ～Ⅲ類の3種類に分類した。分類概念は以下に略記する。

Ⅰ類 外反する黒釉の壺である。全体的に丸味を帯びている。内面に茶褐色の化粧土を塗付する。（同図7）

Ⅱ類 いわゆる嘉瓶と称されるもので、黒釉の釉を施す。胴中央で一端細まる。（同図8）

Ⅲ類 広口の壺で、食用油専用の四耳壺である。耳は穿孔され縦長に貼り付けられる。（同図9・10）

19. 油壺

この小壺は髭付け油用とみられるもので、すべて黒釉である。器形や底造りなどからa～cまでの3種類に分けた。a種は怒り肩気味の小壺で、高台外面を削り出し、底造りを意識して強調するもの（第82図1）。b種はナデ肩気味の小壺である。底造りはベタ底のままで終了しているもの（同図2）。c種は肩部が屈曲するが、全体的には円筒形状に近い小壺である。底面のみ削り出して、壘付を造っているものである。（同図3）

20. 灯明具（秉燭・燭台・灯明皿）

灯明具として秉燭・燭台・灯明皿の3種類があった。中でも灯明皿には蓋や皿からの転用品も含まれていた。秉燭・燭台・灯明皿の順に記述を行うが必要に応じて分類を試みた。

イ. 秉燭

「ウドンモー」と称されているもので、器内に灯心を支える切り込みのある円筒状の突起をもつもの

である。円筒状の突起は貼り付けである。脚付きの乗燭である為、脚と身の製作過程にも注目し、I a～I cの3タイプに分類した。

I a類：両面に灰緑色の釉を施す。口縁が直口し、脚上部から丸味を持っている。脚と身（器）は同一工程で製作され、脚から身までは一挙に造り上げている（同図4）。

I b類：両面に灰緑色の釉を施す点は、I a類と同じであるが、口縁を内側にきつく内傾させている。脚は中空である為、脚と身は別工程で製作し、最終的に身に脚を貼り付けて完成させている（同図5）。

I c類：両面に黒釉を施す。器形はI b類に類似するが脚が短く、身と脚は同一工程で一挙に造り上げている。（同図6）

ロ. 燭台

燭台が1点のみ出土している。黒釉を外面の暈付を除き総釉する。脚は中空で脚から先細りする円筒状の筒まで中は空である。脚と身（器）の製作は別工程とみられる。（同図7）

ハ. 灯明皿

灯明皿と分類したものには、製作段階から灯明専用の皿として意識して製作されてきたもの以外に鍋の蓋や皿などを利用した転用品も含まれている。分類に関しては前述の転用品を含めてあり、これについては灯明皿として使用される以前の用途や器形などを基準に行った。その結果、I類からIV類までの4種類に分けられた。

I類

内彎するベタ底の皿で、両面に黒釉を施している。小皿から灯明用に転用されたものか、あるいは今帰仁城跡（註2）や上村遺跡（註3）などから出土している白磁の灯明皿と器形が類似していることから白磁の灯明皿の影響を受けて登場したものとして考えられる。仮に後者であれば、湧田古窯の灯明皿で最も古いものになる。（第81図1）

II類

高台を持つ内彎口縁の灯明皿である。口縁端部分に三角形の突起を貼り付けて、灯心を支える。釉は透明釉（白化粧）を両面に施している。口縁外面や外底面には煤けたり、煤の炭化物が付着している（同図9・10）。その他にこのタイプと類似する特徴（器形・口縁端の三角形の突起）をもつものが前述の小皿III a種に含まれているが、煤などの付着が確認されていないことなどから灯明皿から小皿に転用されたものが存在することが判明している。（第73図12）

III類

器形的には染付の碁笥底皿と類似するものであり、両面に緑灰色の釉を施している。（同図11）

IV類

鍋などの蓋を灯明用の皿として転用したもので、蓋甲頂部に高台状の撮を造っている（実測図では天地を入れ変えてある）。口縁（蓋甲の縁端）端部に煤が帯状に付着している。（同図12）

21. 火炉

急須や鍋などを置いて炭火で保温（再加熱を含む）する炉で、両面の口縁端部に三角形の大型の突起を貼り付けている。また、炭を入れやすくする為に、口縁を「U」の字状に抉り取っていたり、穿孔された把手を外側胴部に貼り付けているのも特徴である。把手には獅子面が施されているのも特徴である。獅子面が彫りによるものか型によるものかは今回確認できなかったが、状況から考えられたのは後者の型物の可能性であった。器形の変化などからI類～III類に分けた。

I類

高台から丸味を持ったまま立ち上がり、胴上部から口縁には内側へ強く内傾する。全体的に丸味のある器形となっている。有文と無文の二者が確認され、有文の場合は口縁から胴部に片切り彫りの緻密な

縦沈線を施している。釉色は黒褐色や茶褐色を帯びたものを両面に施していて、中には天目茶碗にみられる褐錆斑が認められるものもある。(第82図1・3)

II類

高台から内側に閉じ気味に丸味を持って立ち上がり胴下部までそのまま移行する。胴下部から若干、丸味がゆるくなり、口縁部まで移行する円筒状の火炉である。口縁の両端部が肥厚し、「T」の字状となっている。(同図3)

III類

口縁を欠くが胴下部で「く」の字状に屈曲する火炉と考えられる。外面に透明釉(白化粧)を施す。内面は釉掛けがなく、露胎する。(同図4)

22. 火鉢

口縁を欠くが全体の状況から外反する火鉢が考慮できる。両面に透明釉(白化粧)を施している。外面には線彫りの縦沈線文と片切彫りの圏線を描いた後に文様に呉須を施している。内底面を深く削り取る為、段状となっている。(同図5)

23. 鍋

鍋は口頸部が「く」の字に折れ曲がり、底部に三角錐状の突起を貼り付けたものである。これらの鍋は口縁の造りや把手の貼り付けなどからI類からII類に分類した。

I類

器形は胴下部で膨れ、胴中央から若干、内側に閉じ気味になりながら頸部に移行する。口縁部で外反させている。底部は丸底で三角錐状の突起を三箇貼り付けている。紐状の把手を口縁に貼り付ける点でもII類と区別出来る。釉色は茶褐色・黄緑色・灰緑色の透明釉を両面に施している。(第83図1～5・7)

II類

器形は底部が平底で、底部から丸みを保持しながら胴下部へ移行し、胴下部から頸部まではほぼ垂直に立ち上がっている。口縁は外傾し、口縁外端を尖り気味に突出させている。口縁内縁は浅く、窪みを造り蓋受とする。口唇がI類よりも幅広であり、口唇に紐状の把手を貼り付ける点などが、このタイプの特徴である。(同図6・8)

小結

本遺跡出土の施釉陶器の中で三島手技法の縦沈線文は櫛描きによるものとして最終的に考えられた。今回、確認された器種は碗・皿・香炉・火取・酒器・急須・壺・灯明具・火炉・鉢・鍋などの10種類を越えている。まとめに入れる前にII地区の出土層位の検討を行うことにしたい。第3層と平行する土層は黒褐色土層・攪乱1層・攪乱2層と記述したものである。第5層に平行する土層は赤褐色土層と記したものであった。第6層は第1・2号窯を掘り込んだ時期である。第7・8層は窯構築以前の時期であるが、施釉陶器が出土していない。

II地区の第3層からは小皿II a、小皿II b、大皿IV c、大鉢I b、酒器 b、花瓶、乗燭I b、火炉IIIが出土していて、平行期の土層を含めると多種に及ぶ。これらの釉薬を観ると鉄釉・青緑釉・透明釉・(白化粧)の釉以外に緑灰色・灰緑色・の釉色が認められる。またこの時期に平行するものとみられる釉色や技法をみると黒褐色土層や攪乱1・2層のものを含めると「フィガキー」の灰釉碗・三島手技法がみられる。釉薬は緑釉・飴釉などが施される。

同地区の第5層及び平行期の赤褐色土層からは碗VII・小皿V・小鉢I c・急須II(蓋)・壺IIIが出土していて、釉薬などは透明釉(白化粧)を施すものが主体で、稀に黒釉が認められた。他に透明釉(白化粧)を施したものは呉須や赤絵で草花文を描く、線彫染付の場合は文様に呉須と鉄釉ないしは飴釉を組

み合わせている。

I 地区からは層の比較的安定した場所から火鉢（方形状下部塼二段目北側）が出土している他に第1瓦層から鉄絵の大鉢 I a が出土している。前者の火鉢は透明釉（白化粧）に三島手技法の櫛描き文と圏線を施した後に呉須を施している。また内面には青緑色の釉掛けが認められている。この他に同地区の攪乱層や攪乱2層からは碗IV a（緑釉）・香炉（緑釉）・小碗 I b（黄緑釉）が出土している。

以上の状況からは時期的な結論は出せないが、I 地区出土の火鉢は遺構と直接結びつく資料である。この遺構時期は時代幅が大きく、15世紀後半から17世紀中ごろに位置づけられるようであり下限の17世紀中のものは肥前の瓶が伴っていることからこの火鉢は17世紀中頃に比定される公算が出てきている。

註

註1. 釉薬に浸して掛ける手法で見込みと高台が露胎のままである。

註2. 金武正紀・宮里末廣ほか「今帰仁城跡発掘調査報告 I」今帰仁村教育委員会 1983年

註3. 大城慧・金城亀信ほか「上村遺跡」沖縄県教育委員会 1991年

参考文献

1. 知念勇・池田栄史・江藤和幸「灰釉碗からみた近世沖縄古窯の編年」沖縄県立博物館紀要 第14号 1988年
2. 池田栄史・津波古聡「灰釉碗の話」沖縄県立博物館紀要 第17号 1991年
3. 当真嗣一・上原静ほか「首里城跡」沖縄県教育委員会 1988年
4. 盛本勲「松田遺跡」沖縄県教育委員会 1986年
5. 金武正紀・島弘・玉城安明・内間靖・島袋春美「御細工所跡」那覇市教育委員会 1991年
6. 島弘・内間靖・玉城安明ほか「壺屋古窯群 I」那覇市教育委員会 1992年

第5表1 沖縄産施釉陶器（上焼）観察一覧

| 図. PL. | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 釉（外面） | 釉（内面） | 素地 | 施釉（経） | 施釉（底） | 器形、文様、貫入、施釉手法など | 出土地点 | |
|----------------|----|-----------|------|-----|-------|---------------|--------------------|----------------|-------------|-------------------|---|-----------------------|
| 第69回 PL. 78 | 1 | 碗（中国産白磁） | 14.8 | 6.8 | 5.3 | 淡灰色。透明釉。 | 同左。 | 灰白色。微粒子。 | 高台脇まで施釉。 | 全面施釉後に釉の掻き取り。 | 高台脇から口縁部にかけてストレットに延び口縁で微弱に外反する。高台は低く幅広。外底面の内刺りは浅い。内底面の釉を蛇の目状に掻き取る。文様の貫入はない。 | I区さ-44黄褐色Ⅲ下層 |
| | 2 | 碗Ⅰ | 14 | 7.2 | 7.2 | 緑灰色。"。 | "。 | 淡黄白色。細粒子。（半磁胎） | "。 | 腰部まで施釉。 | 高台脇から口縁部にかけてストレットに延びる直口口縁碗。高台が高い。文様はない。貫入は両面に細かく入る。7割キ（内外面の上半部のみを対象に施釉する手法）。 | II区に-57a2 |
| | 3 | 碗Ⅰ | 13 | 6.3 | 6.2 | "。 | "。 | 灰白色。細粒子。 | "。 | "。 | "。"。"。貫入はない。7割キ手法。内底に輪状の目痕あり。 | II区表土a7 |
| | 4 | 碗（中国産？青磁） | 11.2 | 5.2 | 5.4 | 淡黄緑色。失透釉。 | "。 | "。細粒子。 | "。 | 全面施釉。 | 高台脇から体部へかけて緩やかに7割キを持ちながら膨らみそのまま口縁へ移行する。直口口縁で内彎する碗。文様や貫入はない。 | II区a7 |
| | 5 | 碗Ⅱ（鉄絵碗） | 13.4 | 6.2 | 6.1 | 淡灰色。透明釉。 | "。 | "。微粒子。 | 高台外面途中まで施釉。 | 全面施釉。後に釉の掻き取り。 | 腰部で緩やかに膨らみながら口縁に移行する。口縁で僅かに外反する。畳付の幅が3mm前後と狭くなる。内底釉は蛇の目状に掻き取っている。文様は鉄釉で草花文を描く。両面に細かい貫入が観られる。 | II区な-57a7 |
| | 6 | 碗Ⅲa | 14.4 | 6.5 | 6.6 | 鉄釉。失透釉。 | 淡緑灰色。透明釉。 | 淡黄白色。細粒子。（半磁胎） | 高台際まで施釉。 | "。 | "。口縁で僅かに外反する。内底釉を蛇の目状に掻き取っている。文様は内面の見込みに丸文、腰部に團線を描く。両面に粗い貫入。 | II区に-58a7 |
| | 7 | 碗Ⅲb | 12.6 | 5.6 | 5.9 | 鉄釉。 | 鉄釉。 | 灰白色。細粒子。 | 高台脇まで施釉。 | 見込みと腰部に施釉。 | "。見込みに鉄釉で丸文を描いた後に7割キ手法で施釉。高台内外端と畳付に帯状の砂目（石灰分？）が付着。貫入なし。 | II区な-57a7 |
| | 8 | 碗Ⅲa | 11.9 | 5.8 | 6.3 | "。 | 灰緑色。 | 淡黄白色。"。 | 高台際まで施釉。 | 全面施釉後に釉の掻き取り。 | "。"。内底釉を蛇の目状に掻き取る。見込みに丸文、腰部に團線を白色の釉で描く。畳付に砂目が付着。貫入はない。 | 不明 |
| | 9 | 碗Ⅲc | 12.6 | 6.4 | 6 | "。 | 透明釉。白化粧。 | "。粗粒子。淡灰白色。 | "。 | "。 | "。"。内底釉を蛇の目状に掻き取る。内面に細かい貫入。 | II区な-57a7 |
| 第70回 PL. 79 | 1 | 碗Ⅳa（緑釉碗） | 12.8 | 6 | 6.5 | 淡青緑色。 | "。"。淡黄白色。 | "。"。 | 全釉。畳付のみ露胎。 | "。 | "。"。"。"。見込みと畳付に目痕や砂目が認められる。外底面に透明釉（素地の色と施釉で灰緑色を呈す。）内面に細かい貫入。 | I区15f Ⅳd IV 64 II a7 |
| | 2 | 碗Ⅳb（無文） | 12.4 | 6.2 | 5.9 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 透明釉。白化粧。口縁に淡青緑色の釉。 | 灰色。細粒子。 | 全釉。畳付のみ露胎。 | 全面施釉後に釉の掻き取り。 | 腰部で緩やかに膨らみながら口縁に移行する。口縁の外反は微弱である。内底釉を蛇の目状に掻き取っている。見込みと畳付に目痕や砂目が認められる。外底面に透明釉（素地の色と施釉で灰緑色を帯びる。）内面に細かい貫入。 | II区な-57 |
| | 3 | 碗Ⅳc | 13.2 | 6.2 | 6.4 | 鉄釉。 | 透明釉。淡黄白色。 | 淡黄白色。細粒子。 | "。 | "。 | "。"。内底釉を蛇の目状に掻き取る。外面の釉は外底面まで全釉後に畳付の釉を除去する。内面に細かい貫入。 | II区な-57a7a |
| | 4 | 碗Ⅴa | 13 | 6 | 5.7 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 淡黄白色。"。 | "。 | "。 | "。"。"。"。外面に部分的な細かい貫入。内面に細かい貫入。 | II区な、に60a7 |
| | 5 | 碗Ⅴb（無文） | 12.5 | 6 | 6 | 透明釉。白化粧。"。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 淡黄白色。"。 | "。 | "。 | "。"。"。"。外底面の一部は白化粧が掛けられ、他の透明釉のみが施される。両面に細かい貫入。 | II区表土a7 |
| | 6 | 碗Ⅴb（有文） | 13 | 6.4 | 6.1 | "。"。淡青白色。 | "。"。淡青白色。 | "。"。 | "。 | "。 | "。"。"。"。両面に細かい貫入。線彫りの草花文を描いた後に呉須を施す（釘彫染付）。 | II区に-57 a7 II |
| | 7 | 碗Ⅴb（有文） | 13.6 | 6.4 | 6.9 | "。"。淡黄白色。 | "。"。淡黄白色。 | "。"。 | "。 | "。 | "。口縁で僅かに外反。内底釉を蛇の目状に掻き取る。畳付の釉のみを除去。両面に細かい貫入。内面口縁に淡青緑色を掛ける。外面に丸文に三葉を丸彫りで描く。外底に透明釉。両面に細かい貫入。 | II区に-58黒褐色 |
| | 8 | 碗Ⅴb（有文） | 12.4 | 6.2 | 6 | "。"。淡灰白色。 | "。"。淡灰白色。 | 淡灰色。"。 | "。 | "。 | "。口縁で直口する。内底釉を蛇の目状に掻き取る。畳付の釉のみを除去。両面に細かい貫入。外面は線彫りで丸文に花文と格子目文（三本単位）。外底面に透明釉。 | II区に-57a7 |
| | 9 | 碗Ⅴb（有文） | 12.5 | 5.8 | 6 | "。"。"。 | "。"。"。 | 淡黄白色。"。 | "。 | "。 | "。口縁で僅かに外反。内底面を蛇の目状に掻き取る。畳付の釉のみを除去。外面は線彫りで丸文に十字文（三本単位）を施した後に呉須を施す。両面に細かい貫入。釘彫染付？ | II区表土a7 |
| | 10 | 碗Ⅴb（有文） | 12 | 5.7 | 6.1 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 淡灰色。細粒子。 | 全釉。畳付のみ露胎。 | 全面施釉後に掻き取り。（蛇の目状） | 腰部で丸味を持ちながら口縁に移行する。口縁は微弱に外反。内底釉を蛇の目状に掻き取る。畳付の釉を除去。外底は透明釉のみ。文様は丸文に弧文を丸彫りで描く。両面に細かい貫入。 | II区な-57a7 |
| | 11 | 碗Ⅴb?（有文） | 12.6 | | | "。"。淡黄白色。 | "。"。淡黄白色。 | "。"。 | 全釉。"。 | "。（"。） | 口縁が僅かに外反する。外面に雷文と格子目文を組み合わせる。文様は線彫りで描いた後に呉須を施す。両面に細かい貫入。釘彫染付。 | II区表土a7 |
| 第71回 PL. 80 | 1 | 碗Ⅵa | 13.4 | 6.2 | 6.5 | "。"。淡灰白色。 | "。"。淡灰白色。 | 淡黄白色。"。 | "。 | 全面施釉後に掻き取り。（蛇の目状） | 総釉後に外面の口縁と腰部に刻目と團線を描く。両面に細かい貫入。外底は透明釉のみ。 | II区F IV 64. な-57a7 II |
| | 2 | 碗Ⅵa | 12.6 | 5.6 | 5.8 | "。"。"。 | "。"。"。 | "。"。 | "。 | "。（"。） | "。総釉後に口縁に点刻文と團線、腰部に團線を描く。両面に細かい貫入。 | II区に-57a7 |
| | 3 | 碗Ⅵa（三彩碗） | 14.4 | 6.6 | 6.7 | "。"。淡黄白色。 | "。"。淡黄白色。 | "。"。 | "。 | "。（"。） | 総釉後に腰部に刻目と團線を描く。文様帯には鉄釉が掛けられている。口縁には部分的に青緑色の釉が施されている。両面に非常に細かい貫入。 | II区F IV 64a7 I |
| | 4 | 碗Ⅵb | 12 | 5.6 | 5.8 | "。"。淡灰白色。 | "。"。淡灰白色。 | "。"。 | "。 | "。（"。） | 直口口縁碗で、腰部に僅かに窪む。外面に呉須で草花文を描く。外底面は白化粧がなく透明釉（灰緑色）のみが施されている。両面に粗い貫入。 | II区表土 |
| | 5 | 碗Ⅵb（象嵌） | 12.8 | 5.6 | 6.1 | 灰白色。失透釉。 | 灰白色。失透釉。 | 淡茶色。"。 | 高台脇まで施釉。 | 全釉。 | 内彎口縁。外面に團線と刻文を交互に組み合わせながら膨らみ白化粧土で埋め込んでいる（象嵌手法）。貫入はない。 | II区な-57a7a7 II |
| | 6 | 碗Ⅶ（三彩碗） | 13.2 | 6.2 | 6.2 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 淡黄白色。"。 | 全面。畳付のみ露胎。 | 全面施釉後に掻き取り。（蛇の目状） | 口縁が僅かに肥厚する。外面に構図の判らない文様を青緑色・黄褐色・淡緑色の釉で描く。両面に細かい貫入。 | II区 |
| | 7 | 碗Ⅶ | 12.4 | 6 | 6.6 | 失透釉。"。 | 失透釉。"。 | "。"。 | "。 | "。（"。） | 口縁が僅かに外反する。外面に呉須で竹葉を描く。貫入はない。 | II区a7 II |
| | 8 | 碗Ⅶ | 13 | 6 | 6.6 | 透明釉。白化粧。"。 | 透明釉。白化粧。"。 | "。"。 | "。 | "。（"。） | "。外面に呉須で「丁」の字状の文様を描く。両面に細かい貫入。外底面は透明釉のみ施されている。 | II区に-58赤褐色 |
| | 9 | 碗Ⅶ（赤絵碗） | 13.4 | 6.7 | 6.1 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 淡黄色。細粒子。 | 畳付を除き総釉。 | 総釉後に掻き取り。（蛇の目状） | 口縁が僅かに外反。外面に草花文（花の中央部と葉が緑釉、花弁が赤茶色の釉・赤絵）。両面に粗い貫入。 | II区a7 |
| | 10 | 碗Ⅶ | 13 | 7.6 | 6.7 | "。"。淡灰白色。 | "。"。淡灰白色。 | 淡灰色。"。 | "。 | "。（"。） | 直口口縁。外面に花文を呉須や鉛釉（黄褐色）で描く。両面に部分的な粗い貫入が観られる。 | II区な-57a7 II |
| | 11 | 小鉢Ⅰa（三島手） | 12.2 | 5.3 | 7.6 | 黄緑色。 | 黄緑色。 | 灰白色。微粒子。 | 高台際まで施釉。 | "。（"。） | 口縁が「く」の字状に折れる。外面に刻文・團線・縦線を描き施した後に白色釉を施す。（三島手）。貫入はない。素地に微細な黒色及び白色の鉱物が少量含まれている。 | II区な-57a7 II |
| 第72回 PL. 81 | 1 | 小碗Ⅰa | 8.4 | 3.6 | 4 | 失透釉。白化粧。淡黄白色。 | 失透釉。白化粧。淡黄白色。 | 淡黄白色。細粒子。 | 畳付を除き総釉。 | 総釉後に掻き取り。（蛇の目状） | 無文の外反口縁。見込みや畳付に重なり焼く目痕や砂目（石灰化）が観られる。外面に部分的な細かい貫入がみられる。 | II区な、に-60a7 |
| | 2 | 小碗Ⅰa | 8.1 | 4 | 4.1 | 透明釉。緑灰色。 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 灰白色。微粒子。 | "。 | 総釉。 | 無文の小碗で、口縁が微弱に外反する。畳付のみ露胎する。両面に細かい貫入が観られる。素地に微細な黒色及び白色の鉱物が少量含まれている。 | II区な-57a7 |
| | 3 | 小碗Ⅰb | 8.2 | 4.1 | 4.7 | "。白化粧。淡灰白色。 | "。"。淡灰白色。 | 淡灰色。"。 | "。 | "。（"。） | 内彎する小碗。外底面は透明釉（灰緑色）以外に白化粧が部分的に観られる。両面とも細かい貫入。 | II区F IV a7 |
| | 4 | 小碗Ⅰb | 9 | 4.1 | 4.3 | "。"。乳白色。 | "。"。乳白色。 | 白色。細粒子。 | "。 | "。（"。） | "。見込みに呉須で花文を描く。両面に細かい貫入。 | II区表土 |
| | 5 | 小碗Ⅱ | 9.6 | 4.6 | 5.4 | 鉄釉。 | "。"。淡灰白色。 | 淡黄白色。"。 | 高台外面まで施釉。 | "。 | 口縁が軽く外反する。内面に非常に細かい貫入。 | II区な-57a7 II |

第5表2 沖縄産施釉陶器（上焼）観察一覧

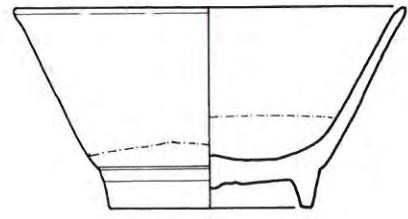
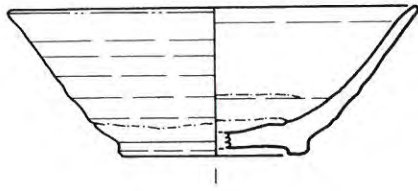
| 図番 | PL | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 軸(外面) | 軸(内面) | 素地 | 施釉(外) | 施釉(内) | 器形、文様、貫入、施釉手法など | 出土地点 | | | | |
|---------------|--------|------------|--------|------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------|-----------------|---|--|--|---------------------------------|---------------------------|
| 第72回 | PL. 81 | 6 小碗Ⅱ | 9.2 | 4.2 | 4.6 | 〃 | 〃。緑灰色。 | 淡灰色。 | 高台脇まで施釉。 | 〃(〃)。 | 〃 | 〃 | Ⅱ区ね-5877 | | | |
| | | 7 小碗Ⅰb | 9.3 | 3.9 | 5.1 | 〃 | 〃。白化粧。淡灰白色。 | 灰白色。〃 | 高台脇まで施釉。 | 〃(〃)。 | 〃 | 内幄する小碗。内面に粗い貫入。素地に微細な黒色や白色の筋物が僅かに含まれている。 | Ⅱ区77 | | | |
| | | 8 小碗Ⅲ | 9 | 4 | 5 | 〃 | 〃。灰黄色。 | 淡灰色。細粒子。 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する小碗。外面に團線・菊花文・縦沈線を施す(鉄軸で象嵌)。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区77 | | | |
| | | 9 小碗Ⅰa(三彩) | 8.8 | 3.7 | 4.6 | 〃 | 失透釉。白化粧。淡灰白色。 | 失透釉。白化粧。淡灰白色。 | 灰白色。微粒子。 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁が微弱に外反する。外面に黄褐色(鉛釉)と黄緑色(呉須)で構図不明のものを描く。貫入はない。 | Ⅱ区F IV 6477 | | |
| | | 10 小碗Ⅰb | 8 | 3.4 | 4.8 | 〃 | 透明釉。〃 | 透明釉。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する小碗。外面に濃青色の呉須で「教育会」と名を入れている。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区ね-5977 | | |
| | | 11 小碗Ⅰb | 8.4 | 3.8 | 4.3 | 〃 | 〃。黄緑色。 | 〃。黄緑色。 | 淡灰白色。細粒子。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内底面に白色の釉で渦巻き文を描く。両面に粗い貫入。 | I 区け-4577 | |
| | | 12 小碗Ⅳ(二彩) | 9 | 4 | 5 | 〃 | 〃。白化粧。淡灰白色。 | 〃。白化粧。淡灰白色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 外面を覆って削り、六角形(縦長と歪な)の面を作る。面取りの小碗。縦長の六角形の面には黄緑色の釉で楕円形状の文様を描く。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区に-5677 | | |
| | | 13 小碗Ⅳ | 7.9 | 3.9 | 5.5 | 〃 | 〃。淡黄白色。 | 〃。淡黄白色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 面取りは他と比較して丁寧。外底面の白化粧がなく、淡灰緑色の透明釉が施されている。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区F IV 6477 | |
| | | 14 小碗 | 8.2 | 4 | 4.4 | 〃 | 〃。淡灰白色。 | 〃。淡灰白色。 | 淡灰色。〃 | 〃 | 〃 | 総軸後に掻き取り。(蛇/目状)。 | 〃 | 面取りは縦長の六角形のみで、不鮮明な面となる。外底面に部分的に白化粧が覗かれるが、他は淡緑色の透明釉が施されている。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区F IV 6477 II | |
| | | 15 小碗Ⅳ(二彩) | 8.2 | 3.4 | 5.2 | 〃 | 〃。〃 | 〃。〃 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 外面を覆って六角形(縦長と歪な)の面を取る。淡緑色の釉が部分的に両面に掛ける。両面に粗い貫入。 | Ⅱ区77 | |
| | | 第73回 | PL. 82 | 1 小皿Ⅰa | 11 | 4.6 | 3.2 | 透明釉。緑灰色。 | 透明釉。緑灰色。 | 淡灰色。〃 | 高台脇まで施釉。 | 〃 | 〃 | 内幄する小皿。内外面に白色の釉で花文を描く。両面に粗い貫入。素地に微細な黒色筋物が微量に含む。 | Ⅱ区に-5777 I | |
| | | | | 2 小皿Ⅰb | 9.2 | 3.7 | 3 | 露胎。 | 〃。白化粧。淡黄白色。 | 黄白色。〃 | 露胎。 | 〃 | 〃 | 無文の外反小皿。内底軸を蛇/目状に掻き取る。内面に細かい貫入。置付は重ね焼きの切り離しの際大半が欠落。 | Ⅱ区な-5777 II | |
| | | | | 3 小皿Ⅰc | 9.4 | 3.8 | 3.4 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 灰白色。細粒子。 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁が微弱に外反。両面に細かい貫入。外底面の透明釉(淡緑色)。 | Ⅱ区表土77 | |
| | | | | 4 小皿Ⅱa | 10.6 | 4.4 | 3.5 | 〃 | 〃 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 椀状小皿。両面とも呉須で雲文?と花文を描く。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区に-58黒褐色 |
| | | | | 5 小皿Ⅱb(無文) | 12.8 | 5.8 | 4.3 | 鉄軸。茶褐色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口唇を覆って削り平坦に仕上げ。内面のみ細かい貫入。 |
| 6 小皿Ⅱb(有文) | 14.6 | | | 7.2 | 4.5 | 〃 | 〃 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内面に白土が付着。 | Ⅱ区な-60 III | |
| 7 小皿Ⅱa | 10 | | | 6.4 | 2.5 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 灰白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口唇を覆って削り平坦に仕上げ。内面に呉須で花弁を描く。両面に粗い貫入。素地に微細な黒色筋物が少量混入。 | 不明 | |
| 8 小皿Ⅱa(釘彫象付) | 18.6 | | | 7 | 4 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内面に釘彫りによる草文と團線を描いた後に呉須を施す。釘彫象付。両面に細かい貫入。内底面が浅く窪む。 | Ⅱ区に-5777 I | |
| 9 小皿Ⅲa | 14 | | | 6.5 | 3.4 | 鉄軸。茶褐色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁が微弱に外反。内底面に目痕がみられる。内面に細かい貫入。 | Ⅱ区に-5777 I | |
| 10 小皿Ⅲb(三彩小皿) | 17.2 | | | 7.8 | 4 | 〃 | 〃 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内面に緑釉(青緑色)で花文状に軸を流す。周辺が淡緑色に変色する。外面は置付と外底面が露胎するが、外底面に釉が流れ込む。両面に粗い貫入。 | Ⅱ区F IV 64に-5777 | |
| 11 小皿Ⅰb | 10.8 | 4.5 | 2 | 透明釉。緑灰色。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 淡灰色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁の小皿で大きく外側に開く。内底面と置付に黄白色の粘土が付着。内面に粗い貫入。 | Ⅱ区に-5777 2 | | | |
| 12 小皿Ⅲ | 10.8 | 5 | 3.3 | 鉄軸。茶褐色。 | 鉄軸。茶褐色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する小皿で、口縁に三角形の突起を貼り付ける。置付に白土が付着。貫入はない。 | Ⅱ区F IV 6477 II | | | |
| 13 小皿Ⅴ | 12.2 | 6.2 | 4.4 | 鉄軸。茶褐色。 | 鉄軸。茶褐色。 | 淡黄白色。細粒子。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する小皿。7777手法で鉄軸を施す。貫入はない。 | 不明 | | | |
| 第74回 | PL. 83 | 1 小皿Ⅵ(赤絵) | 10.6 | 5.6 | 4 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内底面に赤茶色、明黄色、明緑色の三種の釉で草花文を描く。両面に粗い貫入。 | Ⅱ区に-57赤褐色 | | |
| | | 2 小碗Ⅴ(象嵌) | 8 | 4 | 5.2 | 灰緑色。 | 灰緑色。 | 茶色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁で「く」の字状に折れ、口縁が外反する。文様は肩部から高台脇に團線と刻文(格子目状に展開)を描いた後に白色の釉で象嵌。 | Ⅱ区に-57、F IV 6477 I | | |
| | | 3 小杯 | 5.2 | 2 | 2.5 | 透明釉。濃緑色。 | 透明釉。濃緑色。 | 灰色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する小杯。外面に白色の釉で「区」の字を描く。両面に細かい貫入。 | な-5977(黄褐色) | | |
| | | 4 大皿Ⅰa(鉄絵) | 19.2 | 9.2 | 6.6 | 〃。白化粧。淡黄白色。 | 〃。白化粧。淡黄白色。 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する大皿。両面に團線と斜沈線を鉄軸で筆書き。両面に細かい貫入。 | I 区ふ-451 Ⅴ、87 | |
| | | 5 大皿Ⅰb(三彩) | 23.4 | 10.8 | 5.3 | 〃。黄緑色。 | 〃。黄緑色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁が僅かに外反。見込みと胴部に丸文と二本組の縦沈線を彫彫りする。内面口縁に青緑色と黄茶色の釉で点を配列したように施す。貫入はない。 | Ⅱ区な-5977 | |
| | | 6 大皿Ⅰb(三彩) | 27.6 | 9 | 7.3 | 〃。白化粧。淡黄白色。 | 〃。白化粧。淡黄白色。 | 淡灰色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 外反する大皿。内面に彫彫りて丸文、團線、波状文、斜沈線などを描いた後に淡緑色や淡黄色の釉を施す。素地に微細な黒色筋物を微量に含んでいる。両面に粗い貫入。 | Ⅱ区の-5977 | |
| | | 7 大皿Ⅱ | 20.2 | 8 | 6.2 | 透明釉。緑茶色。 | 透明釉。緑茶色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 椀状大皿。内面腰部に鉄軸で團線を二本描く。團線間は白色の釉を施している。見込みに明茶色の化粧土で丸文を描く(轆轤使用)。 | Ⅱ区に-5777 2 | |
| | | 8 大皿Ⅰc | 16 | 6.8 | 4.5 | 〃。緑灰色。 | 〃。緑灰色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内幄する大皿。7777手法で施釉。 | Ⅱ区77 | |
| | | 9 大皿Ⅲa | 22.6 | 9.2 | 7.3 | 灰白色。 | 灰白色。 | 淡茶色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を三角形に掘り出して口造りを行う。下地に透明釉を施した後に白色の釉を施す。内面は白色の釉掛けて下地の透明釉(灰緑色)を帯状に残して團線を表現する。見込みに明茶色の化粧土で手書きの丸文。 | Ⅱ区に-5777 II | |
| 10 大皿Ⅲb | 20 | 10.6 | 5.45 | 鉄軸。明褐色。 | 鉄軸。明褐色。 | 淡灰白色。細粒子。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 玉縁口縁の大皿。見込みと置付に目痕や白土が覗かれる。外底面を段状に浅く掘り削っている。貫入はない。 | Ⅱ区に-57、F IV 6477 II | | | |
| 11 大皿Ⅳa | 19.8 | 8.4 | 7.4 | 鉄軸。茶褐色。 | 透明釉。淡灰白色。 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を三角形に肥厚させる。内面に細かい貫入。 | Ⅱ区に-5777 | | | |
| 12 大皿Ⅳb | 19.2 | 9.2 | 5.9 | 〃。茶褐色。 | 〃。茶褐色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を三角形に肥厚させる。見込みに丸文(茶色の釉)。貫入はない。 | Ⅱ区に-5777 | | | |
| 13 大皿Ⅳb | 21.8 | 9.8 | 6.4 | 透明釉。濃緑色。 | 透明釉。濃緑色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を三角形に肥厚させる。見込みに丸文(茶色の釉)。貫入はない。 | Ⅱ区77 | | | |
| 第75回 | PL. 84 | 1 大皿Ⅳc | 22.4 | 9.6 | 6.9 | 鉄軸。茶褐色。 | 〃。白化粧。淡黄白色。 | 淡黄色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を逆「し」字状に肥厚させる。内面の淡緑色の釉は大半が白く変色している。内面に青緑色(実際は白く変色)で花文を表現。内面に細かい貫入。高台に直径7mm前後の孔を外側から穿っている。 | Ⅱ区す-45 II | |
| | | 2 大鉢Ⅰa | 21.8 | 10 | 11.8 | 〃 | 〃 | 淡黄白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁をゆるく外反させる。置付に白土が付着する。内面に粗い貫入。 | Ⅱ区 | |
| | | 3 大鉢 | 23.6 | 9.6 | 10.8 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を三角形に肥厚させる。内底面に重ね焼きの目痕が輪状にみられ、白土が付着。内面に團線を施す。高台に直径7mm前後の孔を外側から穿っている。内面に粗い貫入。 | Ⅱ区に-57 II | |
| | | 4 大鉢Ⅰc | 25.1 | 8 | 11.8 | 〃 | 〃 | 淡灰白色。〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁を逆「し」字状に肥厚させる。内面の淡緑色の釉は大半が白く変色している。内面に青緑色(実際は白く変色)で花文を表現。内面に細かい貫入。高台に直径7mm前後の孔を外側から穿っている。 | Ⅱ区に-5777 II | |
| | | 5 大鉢Ⅱa | 26 | 10.6 | 12.3 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 口縁の端部に指圧を加えて輪花状に仕上げる。内面に白濁した釉で口縁の輪花に合わせて花弁や團線を描く。内面に粗い貫入がみられる。外面に轆轤。 | Ⅱ区に-5877 | |
| | | 6 大鉢Ⅱb | 24.6 | 10 | 12.3 | 透明釉。淡黄白色。 | 透明釉。淡黄白色。 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 内面に淡灰緑色呉須で草花文を描く。外面に團線。両面に細かい貫入。高台外面に3mm前後の孔を穿っているか孔にまで釉が掛り、小さな孔となる。 | Ⅱ区な-57 77 II | |

第5表3 沖縄産施釉陶器（上焼）観察一覧

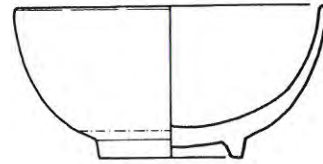
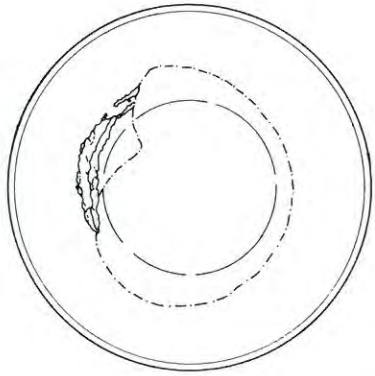
| 図Pl. | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 釉（外面） | 釉（内面） | 素地 | 施釉(特) | 施釉(内) | 器形、文様、貫入、施釉手法など | 出土地点 | |
|---------------|----------------|--------|---------|--------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---|---|----------|
| 第75区 PL.84 | 7 大鉢Ⅲa | 24.2 | 10 | 10 | 鉄釉。茶褐色。 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 淡黄白色。細粒子。 | 高台際まで施釉。 | 総釉後に蛇/目状掻き取り。 | 口縁を逆「し」字状に突出させて罅を造る。内面に青緑色、黄茶色の釉で花文を表現。内面に粗い貫入。外面に突出気味の陽圏線。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 8 大鉢Ⅲb | 28.5 | 11.6 | 13.4 | “”。 | 鉄釉。茶褐色。 | “”。 | 高台際まで施釉。 | 腹下部まで施釉。 | “”。 | Ⅱ区表土 Ⅱ | |
| 第76区 PL.85 | 1 小鉢Ⅰb | 17 | 7 | 6.1 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | 透明釉。白化粧。淡灰白色。 | “”。 | 畳付を除き総釉。 | 総釉後に蛇/目状掻き取り。 | 口縁を「く」の字状に折り曲げた後に端部を内側に内彎させる。内面に蓋受け状の段をつくる。内底及び畳付に白土が付着。両面に細かい貫入。 | Ⅱ区 Ⅱ | |
| | 2 小鉢Ⅰc | 16.8 | | | “”。 | “”。 | 淡灰色。粗粒子。 | 高台欠落。他は総釉。 | 高台欠落。他は総釉。 | “”。 | Ⅱ区赤褐色 | |
| | 3 小鉢Ⅱ | 15.6 | 7.6 | 8.2 | “”。 | 淡黄白色。 | “”。 | 畳付を除き総釉。 | 総釉後に蛇/目状掻き取り。 | 大振りの八角鉢。内面の角の部に青緑色の釉を流す。畳付に白土が付着。両面に部分的な粗い貫入がみられる。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 4 小鉢Ⅱa | 11.8 | 8.4 | 5.7 | 濃緑色。失透釉。 | 濃緑色。失透釉。 | 淡黄白色。 | 高台際まで施釉。 | 高台際まで施釉。 | 内彎する鉢。内底面に目取あり。貫入はない。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 5 小鉢Ⅲb | 14.7 | 7.4 | 7.6 | 透明釉。白化粧。茶褐色。 | 透明釉。白化粧。淡黄白色。 | 淡灰白色。 | 高台際まで施釉。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 6 大鉢Ⅳ | 15.8 | 11.6 | 8.3 | “”。 | 淡灰白色。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 7 大鉢Ⅳ | 21.2 | 10.5 | 11.6 | “”。 | 淡灰白色。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 8 大鉢Ⅳ | 20.8 | 8.5 | 9.7 | 透明釉。白化粧。 | 透明釉。白化粧。 | “”。 | 畳付を除き総釉。 | 総釉後に蛇/目状掻き取り。 | “”。 | Ⅱ区に-59 Ⅱ | |
| 第77区 PL.86 | 1 小鉢Ⅲc | 10.0 | 5.7 | 5.9 | 黄緑色。(透明釉)。 | 黄緑色。(透明釉)。 | 淡灰白色。微粒子。 | 腹下部まで施釉。 | 腹下部まで施釉。 | 内彎する小鉢。両面に粗い貫入。釉は7/8キ手法で施す。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 2 香炉(灰釉) | 13.2 | | 8.8 | 淡灰白色。(透明釉)。 | 淡灰白色。(透明釉)。 | “”。 | 底面近くまで施釉。 | 口縁まで施釉。 | 口縁が「く」の字状に折れる。頸部に陽圏線と丸い陶土を貼り付けて小円とする。両面の粗い貫入が部分的にみられる。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 3 香炉(三彩) | 18 | | 11.5 | “”。 | “”。 | “”。 | 底面近くまで施釉。 | “”。 | 口縁を欠落する。外底面は挟りを入れ基部底状に成形。外面に灰緑色の釉と黄茶色の釉を交互に施す。両面に粗い貫入。 | Ⅱ区に-58, 表土 Ⅱ | |
| | 4 香炉(鉄釉) | 5.6 | | | 茶黒色。 | 茶黒色。大半が露胎。 | 淡黄白色。粗粒子。半磁胎。 | 胴部以下が欠落。総釉。 | “”。 | 口縁がきつく外反。頸部と肩上部に丸彫りで不鮮明な圏線を施す。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 5 香炉(緑釉) | 16.2 | | | 緑青色。(白化粧)。 | 緑青色。(白化粧)。 | “”。 | “”。 | 口縁端まで施釉。 | 口縁を逆「し」字状に折曲する。内面に白化粧を施した後に口縁端まで施す。外面に粗い貫入が部分的にみられる。 | Ⅰ区に-40 Ⅱ | |
| | 6 火取a | 11 | 7 | 8.5 | 鉄釉。茶褐色。 | 口縁部のみ鉄釉。 | “”。 | 胴下部の折れまで施釉。 | “”。 | 円筒形の器形。外面に二本単位の圏線と縦沈線を丸彫りで施す。貫入はない。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 7 火取a | 10.2 | 7.3 | 8.4 | “”。 | “”。 | 淡灰色。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| | 8 火取b(三島手) | 10.4 | 5.9 | 8.4 | 緑灰色。 | 口縁のみ緑灰色。他は露胎。 | 淡黄白色。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| 第78区 PL.87 | 1 酒器a | 3.3 | 5.6 | 7.1 | “”。 | “”。 | “”。 | 高台外面まで施釉。 | 口頸部まで施釉。 | 口縁と注ぎ口は貼り付けてある。釉は黄茶色に変色する。高台は蛇/目状高台。外底面に鉄釉を施す。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 2 酒器b | | 6.8 | | “”。 | 茶褐色。 | 口頸部のみ茶褐色の鉄釉。 | 高台際まで施釉。 | 口頸部まで施釉。 | 注ぎ口は貼り付け。注ぎ口の穿孔は貼り付け前に外側から6mm前後の孔を穿っている。蛇/目状高台。素地に微細な黒色鉱物が多量に含まれている。器形は算盤玉の胴部で口頸部でしまる型が予想される。文様は丸彫りによる圏線と縦沈線。 | Ⅱ区に-59 Ⅲ | |
| | 3 急須(本土産?) | 6.2 | | 6.8 | 灰白色。透明釉。 | 淡緑白色。透明釉。 | 白色。微粒子。 | 口唇と底面を除き総釉。 | 口縁を除き総釉。 | 底面から口縁まで丸みを帯びながら移行する。口唇と内面口縁は口先が。両面に細かい貫入が入る。 | Ⅱ区表土 Ⅱ | |
| | 4 急須Ⅰb | 5 | 6.5 | 8.8 | 黒褐色。 | 黒褐色。 | 淡黄白色。粗粒子。 | 口縁から胴下部まで総釉。 | 頸部に軸垂れ。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| | 5 急須Ⅱ(三探) | 5.6 | 6.8 | 8.5 | 緑灰色。 | 緑灰色。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| | 6 急須Ⅱ(三探) | 6.8 | (7.0) | 0 | 緑灰色。 | 緑灰色。 | “”。 | 口縁から胴下部まで総釉。 | 頸部に軸垂れ。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| | 7 急須Ⅱ(三探) | 5.5 | 7.1 | 8.1 | 淡黄白色。(失透釉)。 | 淡黄白色。(失透釉)。 | “”。 | 口縁から胴下部まで総釉。 | 口縁を除き総釉。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| | 8 急須Ⅲ(三島手) | | | | 灰緑色。透明釉。 | 灰緑色。透明釉。 | 淡灰色。 | 口頸部から下に施釉。 | 頸下部にのみ施釉。 | 把手外面に片彫りの沈線。外面は線彫りの圏線・格子文・縦沈線を施す。他に型押しした花文を施している。把手の文様以外は白土で象嵌。外面に粗い貫入が僅かにみられる。 | 玉体形の無蓋壺。外面に線彫りの圏線と型押しした蓋型文・花文を施した後に白土で象嵌。両面に細かい貫入。外面口縁端を削り出して蓋受けをつくる。 | Ⅱ区 Ⅱ |
| | 9 壺?(三島手) | 9.2 | | | 黄茶色。 | “”。 | 淡黄白色。 | 蓋受けを除き総釉。 | 口縁のみ施釉。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ |
| 第79区 PL.88 | 1 急須蓋Ⅰb | 直径6.0 | 内側直径4.2 | 高さ2.7 | 鉄釉。茶褐色。 | 露胎。 | 淡灰白色。 | 蓋甲・楯に施釉。 | 露胎。 | 宝珠状の把手を貼り付ける。直径5mmの孔を外側から穿つ。外面に細かい貫入。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 2 急須蓋Ⅰb | 直径12.0 | 内側直径9.4 | 高さ3.9 | 黒釉。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | “”。 | Ⅱ区南北溝 Ⅱ | |
| | 3 急須蓋Ⅱ(三探) | 直径8.4 | 内側直径5.4 | 高さ3.8 | 透明釉。(白化粧)。 | 露胎。 | 淡黄白色。 | 蓋甲のみ。 | 露胎。 | 楯が欠落。蓋甲に線彫りの圏線と花文を描いた後に呉須と鉛釉を施す。外面から5mm程度の孔を穿つ。細かい貫入がみられる。 | Ⅱ区に-58 V (褐色土層) | |
| | 4 急須蓋Ⅲ(三島手) | 直径5.6 | 内側直径4.0 | 高さ2.8 | 淡灰色。 | “”。 | 淡灰色。 | “”。 | “”。 | 宝珠状の楯を貼り付ける。丸彫りの圏線と型押しした蓋文を施し、花文を表現する。文様の部分に白土で象嵌。細かい貫入。 | Ⅱ区 | |
| | 5 蓋の蓋a | 直径9.5 | 内側直径8.4 | 高さ3.8 | 透明釉。(白化粧)。 | “”。 | 淡黄白色。 | “”。 | “”。 | 高台状の楯を持つ。線彫りの草花文を描いた後に呉須を施す。非常に細かい貫入がみられる。 | Ⅱ区表土 Ⅱ | |
| | 6 蓋の蓋b(釘形染付) | 直径8.4 | 内側直径6.8 | 高さ2.3 | 茶褐色。(“”) | 白化粧を薄く塗る。 | 淡灰色。 | “”。 | “”。 | 蓋甲に紐状の把手を貼り付ける。貫入はない。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |
| | 7 水筒?蓋(三島手の範疇) | 直径5.2 | 内側直径3.8 | 高さ1.3 | 淡灰色。 | 露胎。 | 灰白色。 | 総釉。 | “”。 | 水滴などの落とす蓋。楯がつかどうかは判らない。直径3mm前後の孔を穿つ。細かい貫入。素地や釉色は三島手のものと一致。象嵌はない。 | Ⅱ区に-61 Ⅱ北土 | |
| | 8 鍋の蓋 | 直径14.6 | 内側直径4.0 | 高さ5.0 | 淡灰緑色。 | “”。 | 淡灰色。 | “”。 | “”。 | 高台状の楯。線彫りや柳書きによる草文。貫入はない。 | Ⅱ区に-61 Ⅱ | |
| | 9 大型急須 | 10.1 | (12.0) | (18.0) | 黒釉。茶褐色。 | 黒釉。茶褐色。 | 淡黄白色。 | 残存部は総釉。 | 残存部は総釉。 | 把手と注ぎ口が残る。胴部へは3cm前後の粗孔を両側から穿っている。貫入はない。 | Ⅱ区表土 Ⅱ | |
| | 10 大型急須 | 9.4 | 11.2 | 17.0 | “”。 | “”。 | 淡灰色。粗粒子。 | 高台際まで施釉。 | 胴上部と見込みを除き総釉。 | 胴部を直径3cm、短径2.3cmの楕円形孔を両側から穿孔。外底面に黒釉を施す。見込みを重ね焼きの目跡。外底面に白釉陶器の口縁が付着。 | Ⅱ区表土 Ⅱ | |
| | 11 片口鉢 | 18.6 | 11.0 | 10.0 | “”。 | “”。 | 淡黄白色。半磁胎。 | “”。 | 総釉後に蛇/目状掻き取り。 | 方形口の肥厚。口唇から下2cmの箇所から注ぎ口を貼り付ける。内側から1cm-1.2cmの粗孔を穿つ。貫入はない。 | Ⅱ区に-56 Ⅱ | |
| 第80区 PL.89 | 1 油壺 | 5.6 | 6.2 | 12.5 | 黄緑色。 | 黄緑色。 | “”。 | 胴下部まで施釉。 | 口縁のみ施釉。 | 外反のきつい油壺。釉の大半が淡黄緑色に変色。粗い貫入が部分的にみられる。 | Ⅱ区に-57 Ⅱ | |

第5表4 沖縄産施釉陶器(上焼) 観察一覧

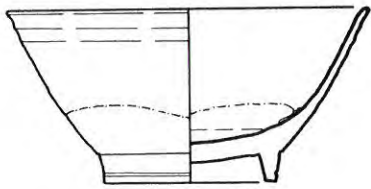
| 図. PL. 番号 | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 軸(外面) | 軸(内面) | 素地 | 施釉(外) | 施釉(内) | 器形、文様、貫入、施釉手法など | 出土地点 | |
|----------------|----------------|-------|------|----------------|------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------|-------------------------|--|---|-------------------|
| 第80回 Pl. 89 | 2 瓶子a (三探) | | 5.2 | | 透明釉。(白化粧)。 淡灰白色。 | 露胎。 | 淡黄白色。細 粒子。 | 畳付を除き総 軸。 | なし。 | 行肩気味の瓶。外面に青緑色の軸と黄茶色の軸を交互に軸掛けする。軸の大半が剥げ落ちる。外底面に白化粧。 | II区に-577II | |
| | 3 対瓶a (染付) | | 6.0 | | “。黄茶色。 白色。 | “。 | 白色。“。 | “。 | “。 | 怒り肩の対瓶。高台を「ハ」の字状に仕上げ安定させる。蛇/目高台。貝須で草葉文。非常に細かい貫入。外底面に透明釉と白化粧を施す。 | II区に-547 | |
| | 4 対瓶b (瑠璃釉) | | 4.8 | | 濃青色。(白化粧)。 “。 | “。 | 淡黄白色。“。 | 胴下部まで施 軸。 | “。 | “。高台を欠く。外底面に鉄軸(白化粧)。軸の大半が剥げ落ちて透明感を失っている。素地に微細な黒色・白色の鉱物と粗い茶色の鉱物を少量混入。 | II区表土層 | |
| | 5 花瓶 | | 8.2 | | 透明釉。(白化粧)。 淡黄白色。 | “。 | 白色。“。半 磁胎。 | 畳付を除き総 軸。 | “。 | 高台を「ハ」の字状に仕上げ安定させる。外面に線彫りの圈線と縦穴線を施す。軸の大半が剥げ落ちて白化粧が残る。 | II区に-577II | |
| | 6 瓶子b | | 3.0 | | 黒釉。明茶色。 | 黒釉。 | 淡橙白色。“。 | 残存部は総軸。 | 口縁のみ施軸。 | 丸みのある長頸の瓶子。軸は口縁から頸部が黒釉。頸下部は明茶色(灰軸)で掛け分け。貫入はない。素地に微細な黒色・白色の鉱物・石灰・砂粒などが混入。 | II区に-577 | |
| | 7 壺I | | 11.2 | 残存 高22 5 | “。“。 | “(茶褐色 の化粧土)。 | 淡黄白色。“。 | 高台際まで施 軸。 | 口頸部に施軸。 | 球体状の外反蓋。内面と外底面に茶褐色の化粧。外面に部分的な細かい貫入。 | II区に-577 | |
| | 8 壺II(煎 瓶) | | 11.6 | | “。黄茶色。 “。軸垂れあ り。 | “。 | 茶褐色。“。 | 高台脇と高台 外面のみ露胎。 | 露胎。軸垂れ | 胴中央で一揃くなる為。胴下部は下腹となる。畳付から外底面まで黒釉を施す。貫入はない。素地に石灰質砂粒が僅かに含まれる。 | II区に-613 | |
| | 9 壺III(油 壺) | | 8.4 | 7.2 | 12.4 | “。茶褐色。 “。 | 黒釉。茶褐色 “。 | 口唇と畳付を 除き総軸。 | 総軸。 | 口縁が三角形に肥厚する四耳壺。口唇の軸は薄で丁寧に掻き取っている。蛇/目高台で畳付に重ね焼きの目痕がみられる。貫入はない。 | II区に-587 | |
| | 10 壺IV(油 壺) | | 9.6 | 9.8 | 15 | “。“。 | “。“。 | 高台脇まで施 軸。 | 口縁のみ施軸。 | 口縁が「フ」の字状に折れ肥厚する。線彫りの圈線を施す四耳壺。外底面に黒釉。外面に部分的な細かい貫入。口唇の軸は薄で丁寧に掻き取っている。 | II区に-57赤褐色 | |
| | 11 瓶子c | | 4.4 | 8.8 | 20.9 | 明茶色。 明茶色。 | 灰紫色。“。 | 外底面まで総 軸。 | 総軸? | 円筒形の瓶子。口縁の一端をつまみ出してはき口を造る。口縁は逆「L」字状で肥厚部が突出する。貫入はない。昭和初期頃まで使用されていた酒や醤油の瓶。内容量は口唇と同じ位の水量で550ml(4.7合)を割った。貫入はない。 | II区に-597 | |
| | 第81回 Pl. 90 | 1 油壺a | | 4.2 | 残存 高4 5 | 黒釉。黄茶色 | 露胎。 | 灰白色。細粒 子。 | 高台脇まで施 軸。 | 露胎。 | 側面が扁平な楕円形状の小壺。高台外面は削り出して仕上げ。貫入はないが使用時の傷が細かく入る。 | II区に-577II |
| 2 油壺b | | | 3.6 | 残存 高3 3 | “。黄緑色。 失透釉。 | “。 | 淡黄白色。“。 | 外底面を除き 総軸。 | “。 | 行肩の小壺。外底面を浅く削り出して高台を強調する。貫入はない。 | II区に-607 | |
| 3 油壺c | | | 5.3 | 残存 高5 5 | “。茶褐色。 “。 | “。 | “。“。 | 胴下部から高 台内面を除く | “。頸部に軸 垂れ。 | 肩の折れがきつい小壺。外底面を深く削り出し高台を強調する。外底面に雑な軸掛け。外面に使用時の傷が細かく入る。 | II区F IV 64 II (3?) | |
| 4 乗燭Ia | | | 4 | 2.4 | 3.6 | 淡灰緑色。失 透釉。 | 淡灰緑色。失 透釉。 | “。“。 | 脚台上部まで | 総軸。 | 脚台付きの直口乗燭。外底面に断面三角形の穴を開けるが貫通しない。穴の規模は直径4.5mm、深さ5mm。貫入はない。 | II区に-577 |
| 5 乗燭Ib | | | 5.7 | 3.1 | 5.1 | 灰緑色。“。 | 灰緑色。“。 | 淡灰白色。“。 | 脚台下部まで | “。 | 細口付きの内燭乗燭。口唇の軸は煤で剥げ落ちる。脚台と身は貼り付け。素地に非常に細かい黒色鉱物が含まれる。 | II区に-613層 |
| 6 乗燭Ic | | | 5.6 | 3.4 | 5.1 | 黒釉。濃褐色 | 黒釉。濃褐色 | 淡黄白色。細 粒子。 | “。 | “。 | “。切り込みのある円筒状の灯心が良く残っている。外底面に穴を開ける。穴の規模は直径5.5mm、深さ2cmである。内面に細かい貫入。 | II区に-577 |
| 7 燭台 | | | 6.3 | 6.5 | 9.8 | 黒釉。黒褐色 | “。黒褐色。 | 淡灰白色。“。 | 外底を除き総 軸。 | 無軸。 | 脚から円筒状の筒までは中空である。外底面を削り出して高台を造る。外底面に直径6mmの孔を穿つ。貫入はない。素地に微細な黒色鉱物を少量含んでいる。内燭する。外底面は削り出して高台を造る。貫入はない。素地に微細な黒色鉱物を少量含んでいる。内燭する。外底面は削り出して高台を造る。貫入はない。素地に微細な黒色鉱物を少量含んでいる。内燭する。 | II区に-577 |
| 8 灯明皿I | | | 10.3 | 4 | 3 | “。“。 | “。“。 | 淡橙色。“。 | 胴中央まで | 総軸。 | 口縁端に僅かに内燭する。灯心を支える三角形の突起が欠落する。外面の口縁と外底面に煤が付着。内面も火力で軸が変色する部分が目立つ。内面に粗い貫入。 | II区に-577 |
| 9 灯明皿II | | | 10.7 | 4.2 | 2.5 | 透明釉。(白 化粧)。 淡黄 白色。 | 透明釉。(白 化粧)。 淡黄 白色。 | 淡灰色。“。 | 口縁まで | 総軸後に蛇/ 目状掻き取り | 口縁端に僅かに内燭する。灯心を支える三角形の突起が欠落する。外面の口縁と外底面に煤が付着。内面も火力で軸が変色する部分が目立つ。内面に粗い貫入。 | II区表土 |
| 10 灯明皿 | | | 11 | 5.2 | 2.6 | “。“。淡灰 白色。 | “。“。淡灰 白色。 | 淡灰白色。“。 | 口縁端部まで | “。 | “。三角形の突起が残る。外面口縁は煤けて黒くなる。内面に粗い貫入。 | III区切 |
| 11 灯明皿 | | | 10.9 | 3.5 | 2.3 | 緑灰色。失透 釉。 | 緑灰色。失透 釉。 | 淡灰色。細粒 子。 | 口縁まで | 総軸後に蛇/ 目状掻き取り | 口縁端部に僅かに内燭する唇筒面。素地に微細な黒色鉱物が微量に含まれる。貫入はない。 | 不明 |
| 12 灯明皿 | | | 4 | 11.8 | 3 | 茶褐色。透明 釉。 | 茶褐色。透明 釉。 | 淡灰白色。“。 | 蓋甲の縁端近 くまで施軸。 | 露胎。 | 丸みのある蓋蓋で楕が高台状に成形。口縁の両面に煤が帯状に付着。内面は煤けて淡灰色を帯びる。外面に僅かに貫入が認められる。蓋の蓋からの転用か。 | 不明 |
| 第82回 Pl. 91 | 1 火炉I | | 15 | 10.3 | 12.9 | 黒釉。口縁に 短頸斑。 | 黒釉。口縁に 短頸斑。 | 灰白色。“。 | 高台脇まで施 軸。 | 口縁まで施軸 | 内燭のきつい火炉。内面に軸垂れ。胴上部に有孔の獅子面把手を貼り付ける。孔の径は1.1~1.2cm。貫入はない。 | II区表土 |
| | 2 火炉II | | 20.5 | 11.9 | 19.3 | 茶褐色。透明 釉。 | 茶褐色。透明 釉。 | 淡黄白色。“。 | “。 | 胴上部まで | 口縁の肥厚は両面に突出した「T」字状。胴上部に有孔の獅子面把手。孔の径は5mm~8mm。両面に粗い貫入。 | II区に-57 927 II |
| | 3 火炉I | | 14.7 | | | “。“。 | “。“。 | “。“。 | 残存は総軸。 | “。 | 内燭のきつい火炉。外面に片切り彫りの縦穴線と圈線で文様を描く。有孔の獅子面把手を貼り付ける。孔は本品のみ正方形である。孔の直径1.4mm、短径1cm。孔の下端に軸端で丸い孔となる。 | II区表土層 |
| | 4 火炉III | | 12.6 | | | 透明釉。(白 化粧)。 淡黄 白色。 | 露胎。 | “。“。 | 胴中央と胴下 部から高台外 面まで | 露胎。 | 「く」の字状に腰が折れる。胴中央に白釉が垂れている。胴下部から高台外面に茶褐色の化粧土が施されている。また、高台内面から外底面に前記の化粧土が施される。外面に粗い貫入。口縁を欠くが外反する火鉢が予想される。外面に線彫りの縦穴線と片切り彫りの圈線で文様を描いた後に貝須を施す。内面の頸部に青緑色の軸垂れ。内底面を深く削り出した為段状に産む。外面に粗い貫入。外底面に茶色の化粧土鉄軸の可能性もある。 | II区に-56黒褐色 |
| | 5 火鉢 | | 13.4 | 残存 高22 6 | | “。“。淡灰 白色。 | 透明釉。(白 化粧)。 淡黄 白色。 | “。微粒子。 | 残部で畳付を 除き総軸。 | 総軸。 | 口縁を欠くが外反する火鉢が予想される。外面に線彫りの縦穴線と片切り彫りの圈線で文様を描いた後に貝須を施す。内面の頸部に青緑色の軸垂れ。内底面を深く削り出した為段状に産む。外面に粗い貫入。外底面に茶色の化粧土鉄軸の可能性もある。 | I区方形下部磚 2段北側 |
| 第83回 Pl. 91 | 1 鍋I | | 13.2 | | 9 | 黄茶色。(透 明釉)。 | 灰緑色。(透 明釉)。 | “。細粒子。 | 胴中央まで | 頸部から底面 近くまで | 口頸部が「く」の字状に折れる三足鍋。底面に煤が付着する。内面に細かい貫入。紐状の把手を貼り付ける。 | II区に-64.577II |
| | 2 鍋I | | 15.8 | 8.3 | 11.3 | “。“。 | 黄褐色。(透 明釉)。 | “。“。 | “。 | 頸部のみ | “。胴下部から底面まで煤ける。貫入はない。” | II区に-577I |
| | 3 鍋I | | 15.6 | | 10.8 | 茶褐色。(透 明釉)。 | 淡茶色。 | 淡黄白色。細 粒子。 | 口縁から胴中 央まで | 胴中央から底 面まで | 口頸部が「く」の字状に折れる三足鍋。胴下部からは煤ける。内面に淡茶色の軸を施す。貫入はない。紐状の把手を水平に貼り付ける。 | II区2窯周辺 |
| | 4 鍋I | | 16 | | | “。“。 | 茶褐色。(透 明釉)。 | “。“。 | “。 | “。 | “。底面に煤が付着。貫入はない。紐状の把手を水平に貼り付ける。 | II区に-58赤褐色 |
| | 5 鍋I | | 16.4 | 8 | 12.1 | “。“。 | 灰緑色。 | “。“。 | “。 | 頸部から下に 施す | “。“。貫入はない。” | II区に-577 |
| | 6 鍋II | | 22.4 | 10.2 | 10.4 | “。“。 | 透明釉。(白 化粧)。 淡黄 白色。 | “。“。 | 口縁から底面 近くまで | “。 | “。幅広い口唇(1cm)で、口唇に紐状の把手を斜め上がりに貼り付ける。内面に粗い貫入。 | II区に-56 |
| | 7 鍋I | | 15.1 | | 12 | “。“。 | 灰緑色。 | “。“。 | “。 | 頸部から下に 施す | “。下腹の器形。底面に煤が付着。貫入はない。内底面を円形状に軸を掻き取っている。 | II区切 |
| | 8 鍋II(緑 軸)。 | | 20.7 | | | “。(透明釉) | “。 | “。 | 残存部は総軸 | 頸部から下に 施す | “。幅広い口唇(9cm)で口唇に紐状の把手を斜め上がりに貼り付ける。外面に粗い貫入。 | II区に-577II |



2



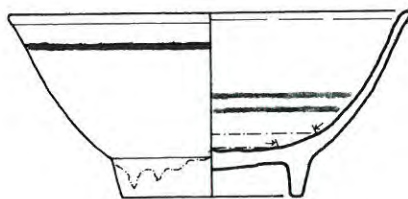
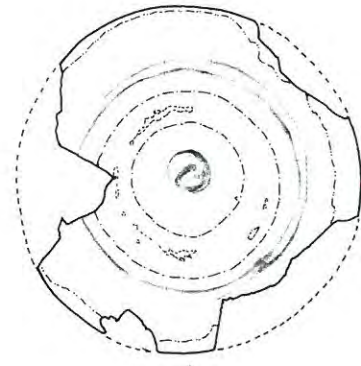
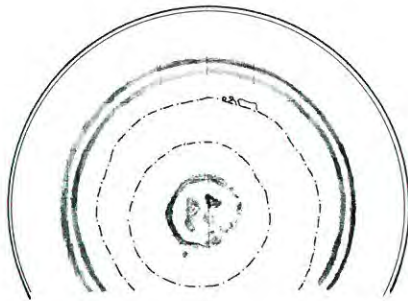
4



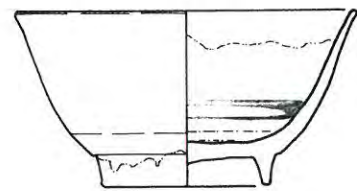
3



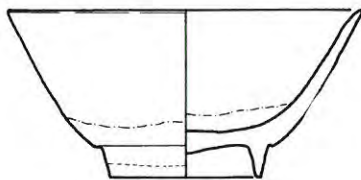
5



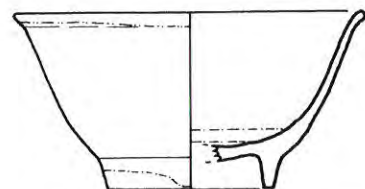
6



8

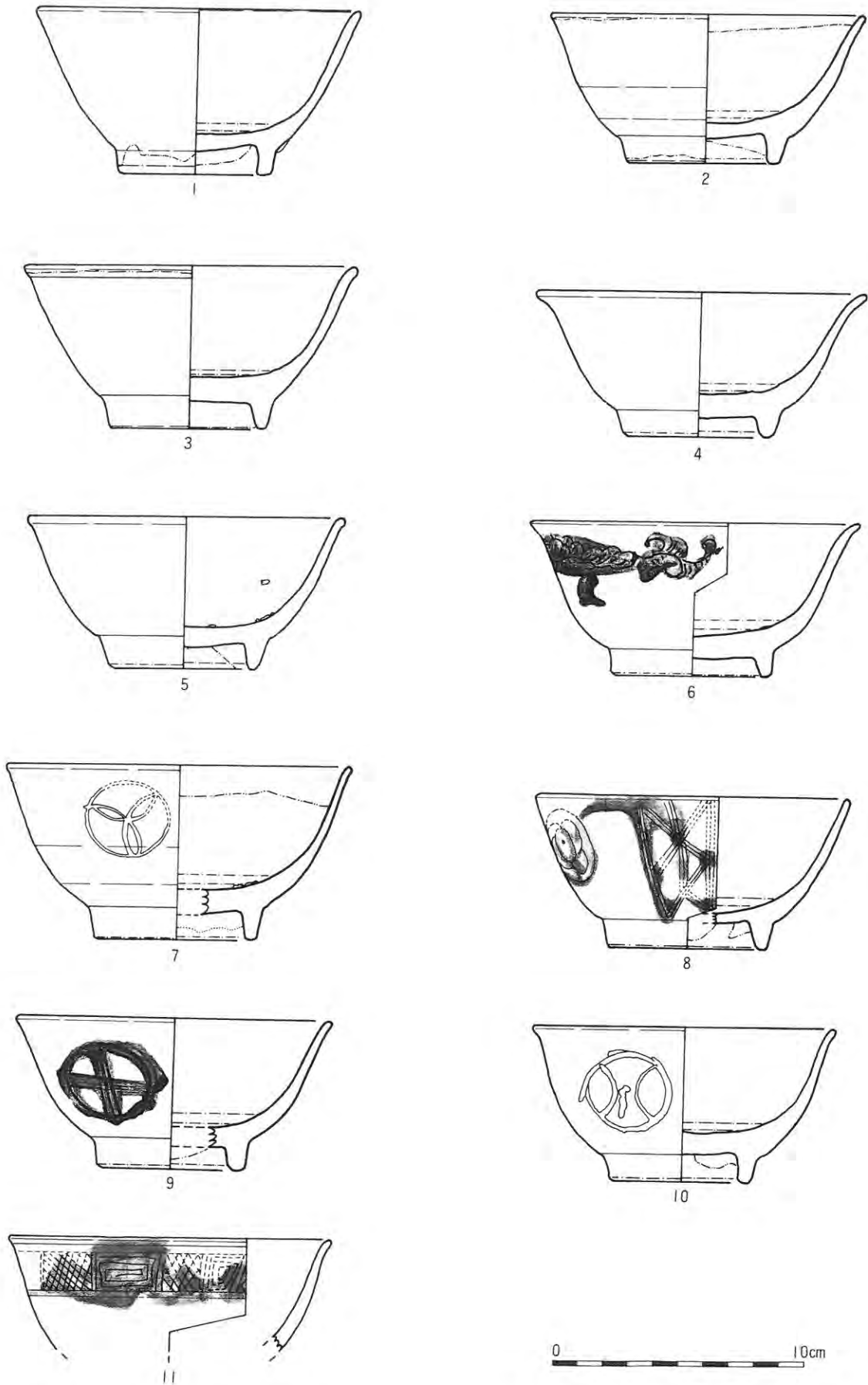


7

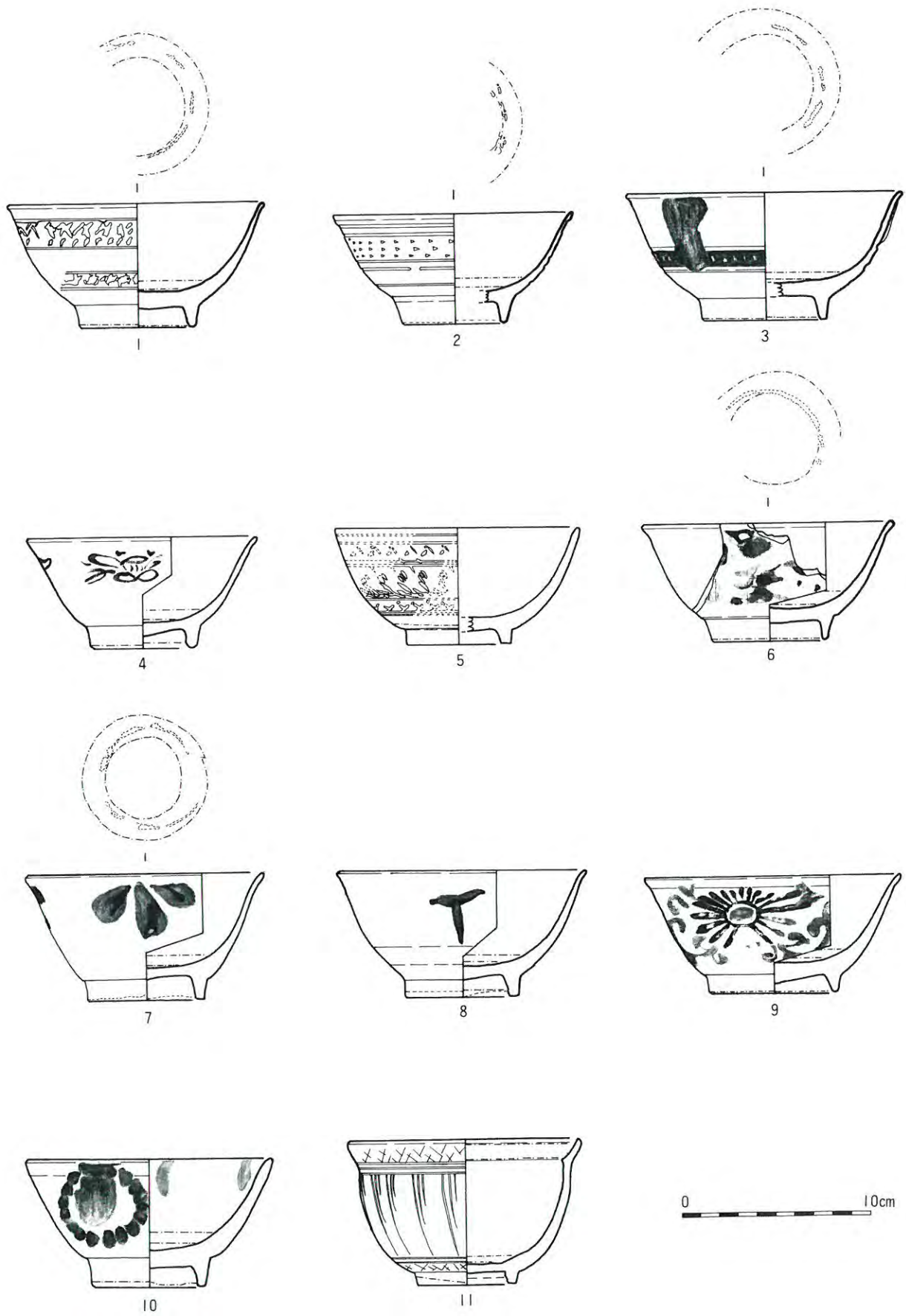


0 9 10cm

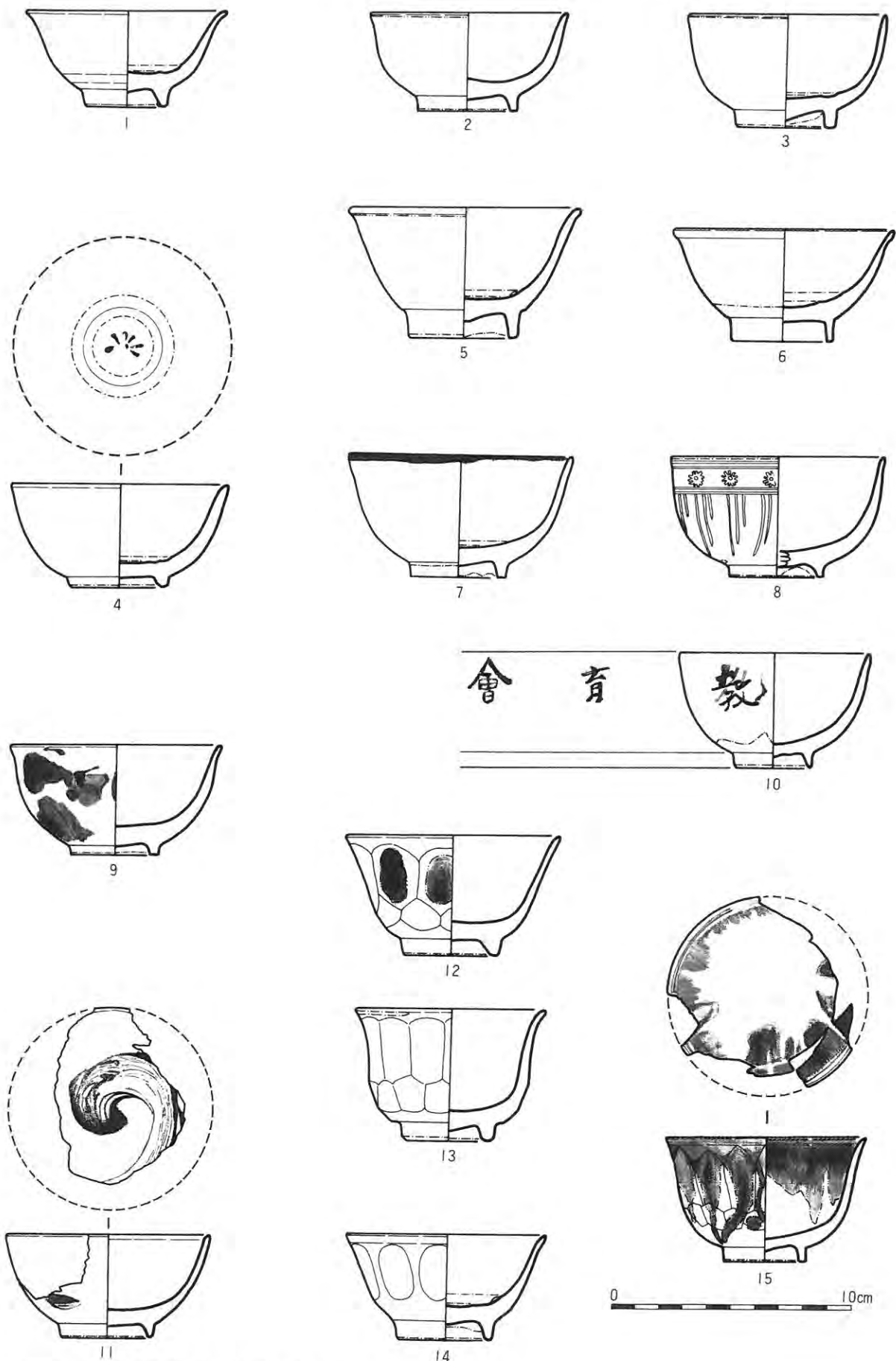
第69図 沖縄産施釉陶器（上焼）碗



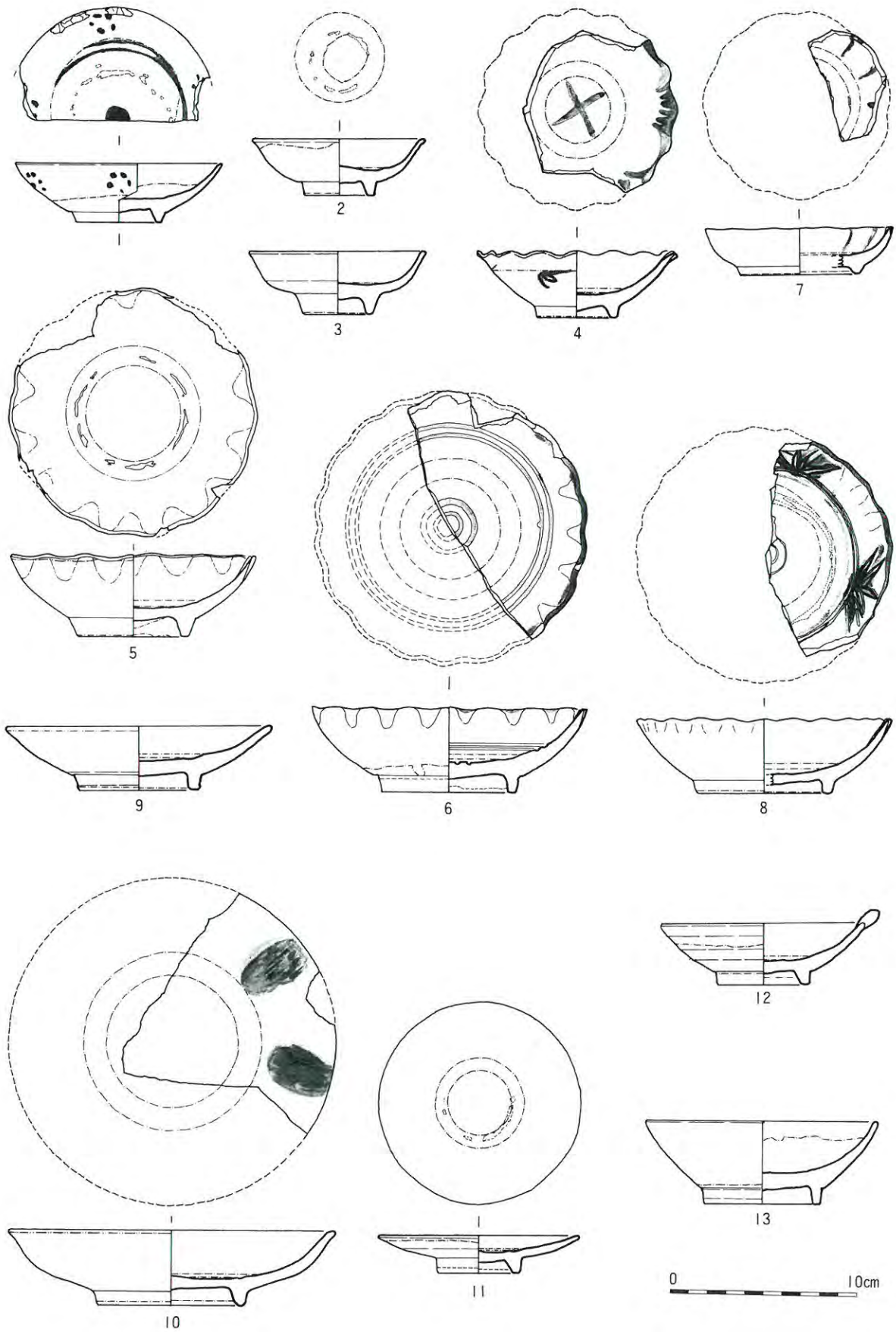
第70図 沖縄産施釉陶器（上焼）碗



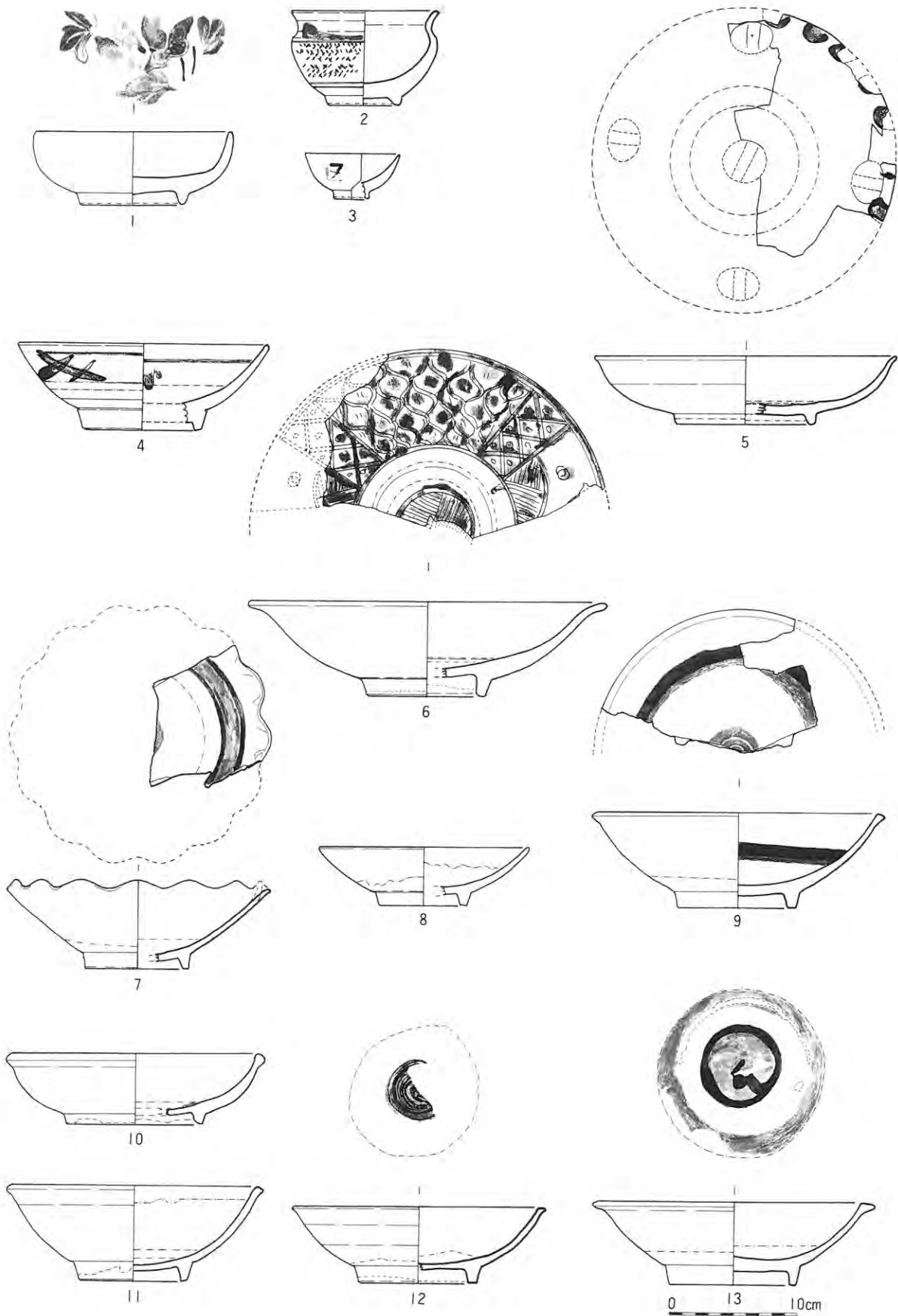
第71図 沖縄産施釉陶器（上焼）碗



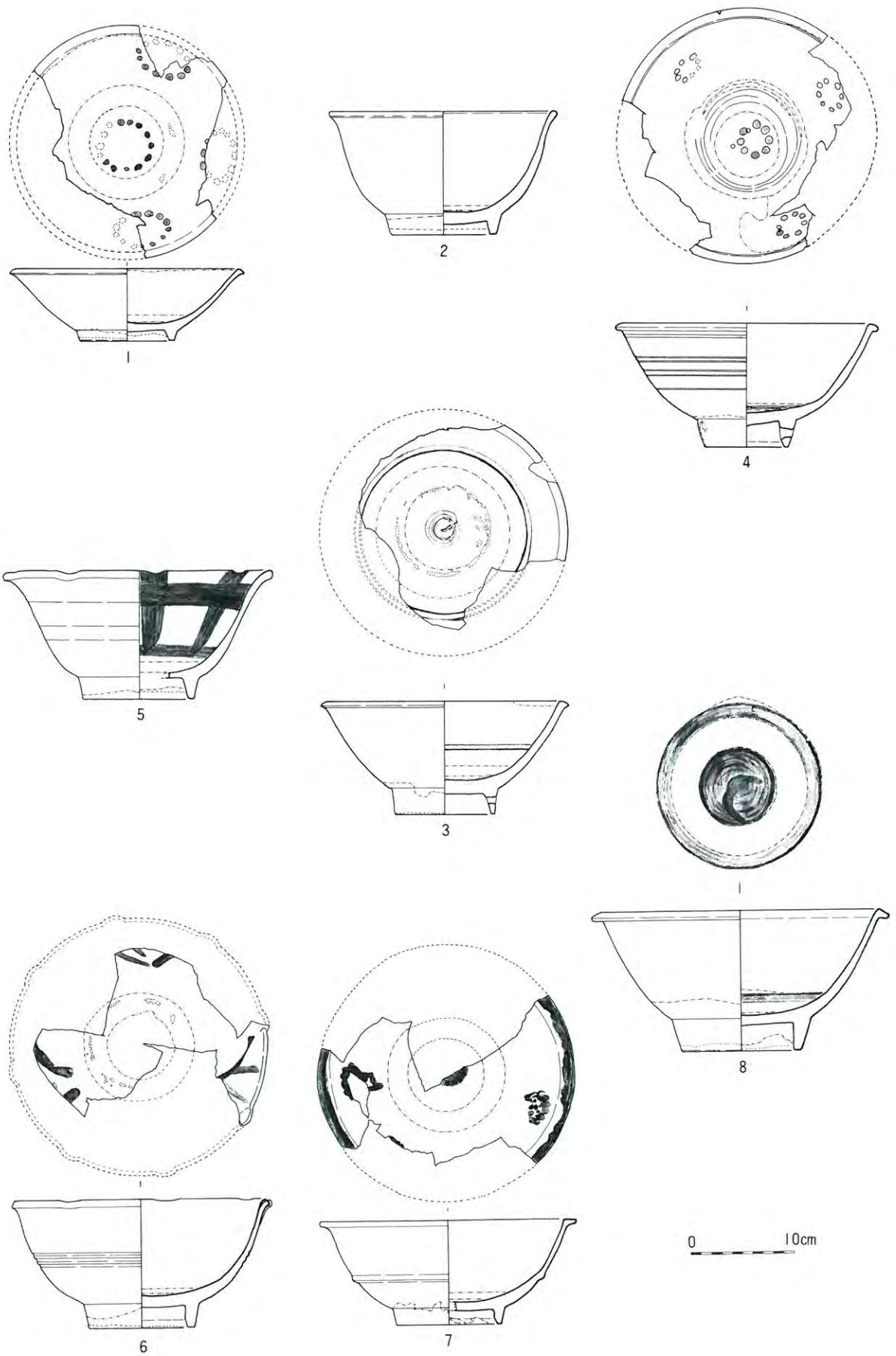
第72図 沖縄産施釉陶器（上焼）小碗



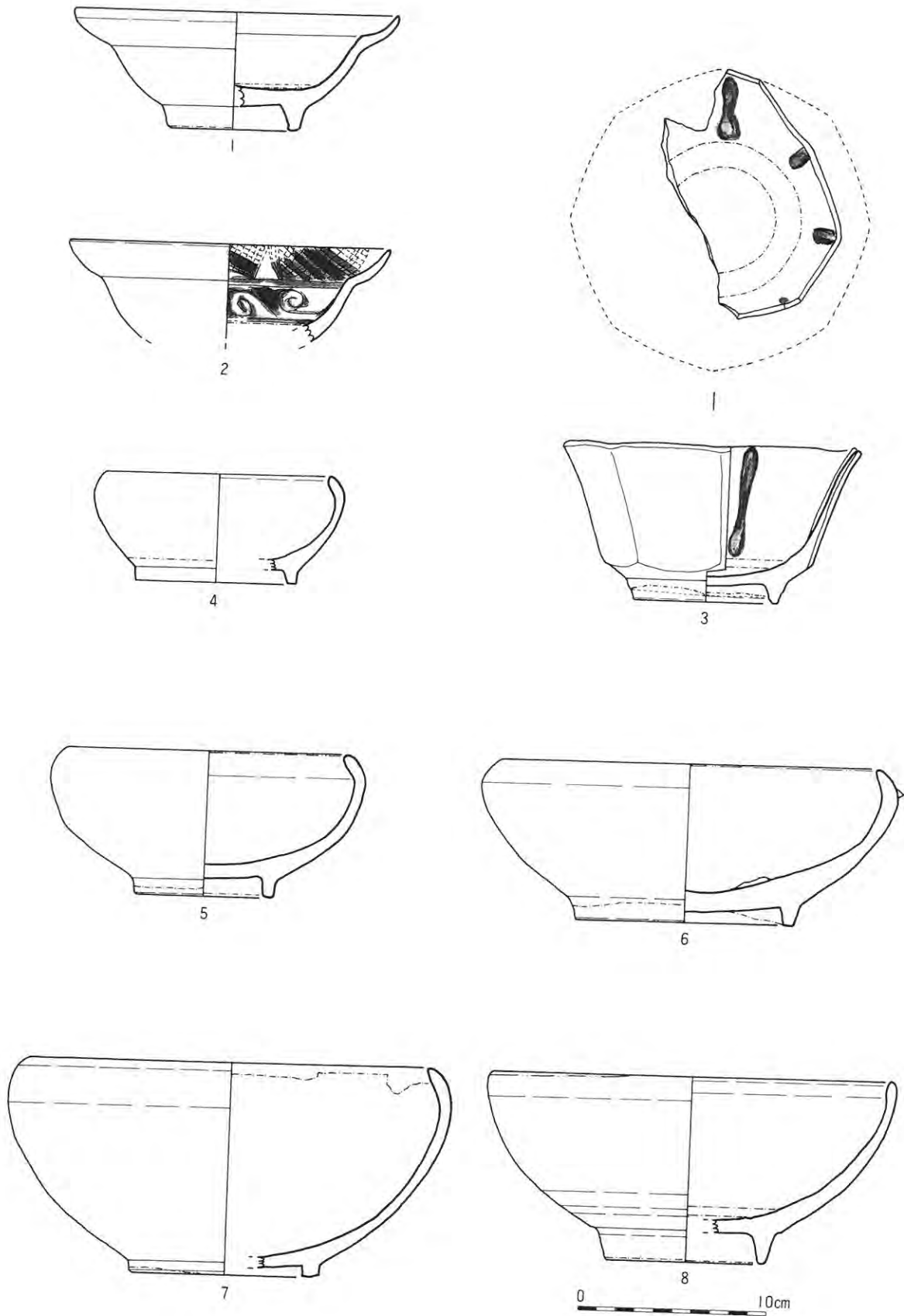
第73図 沖縄産施釉陶器（上焼）小皿



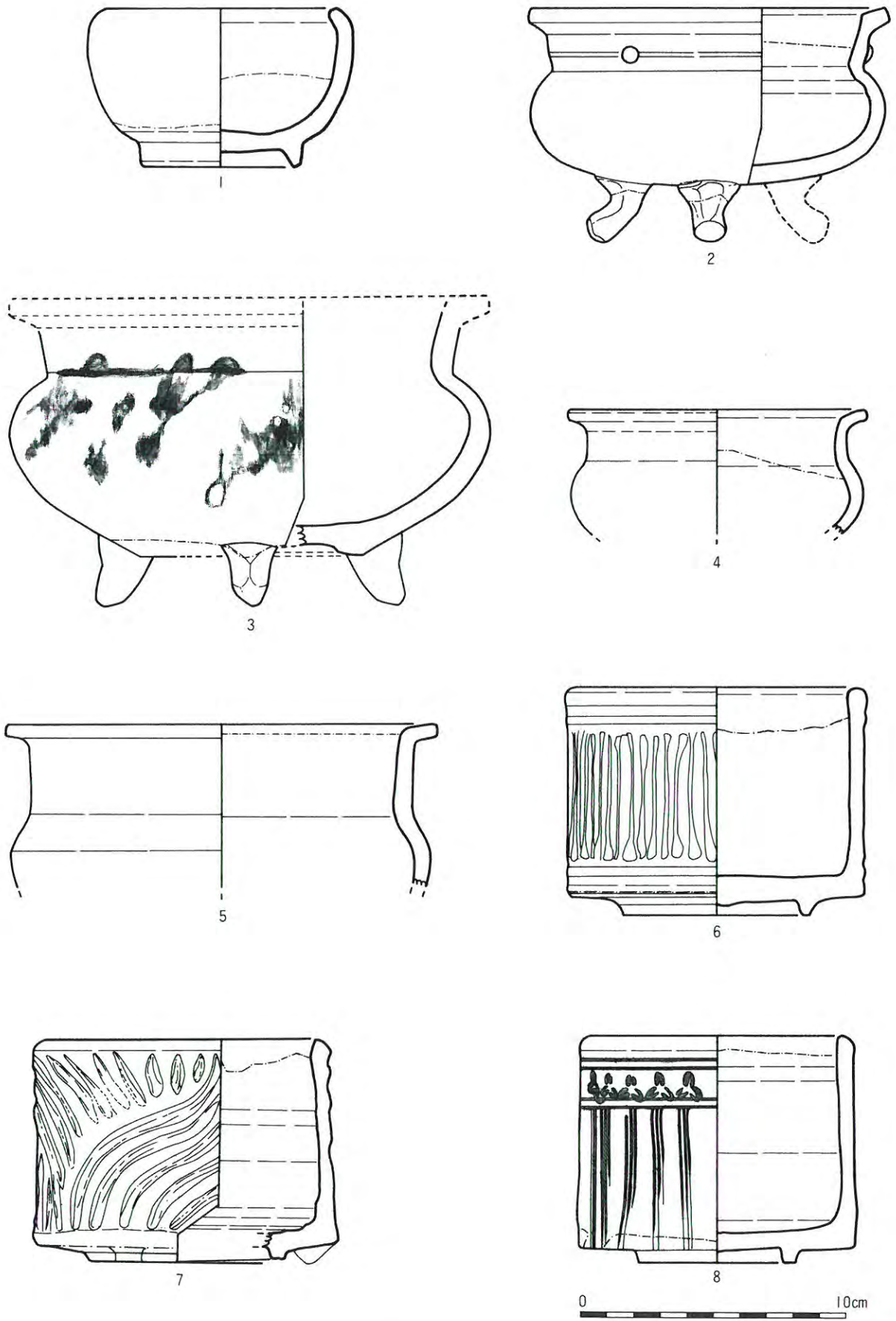
第74図 沖縄産施釉陶器（上焼）小皿・小碗・小鉢・大皿



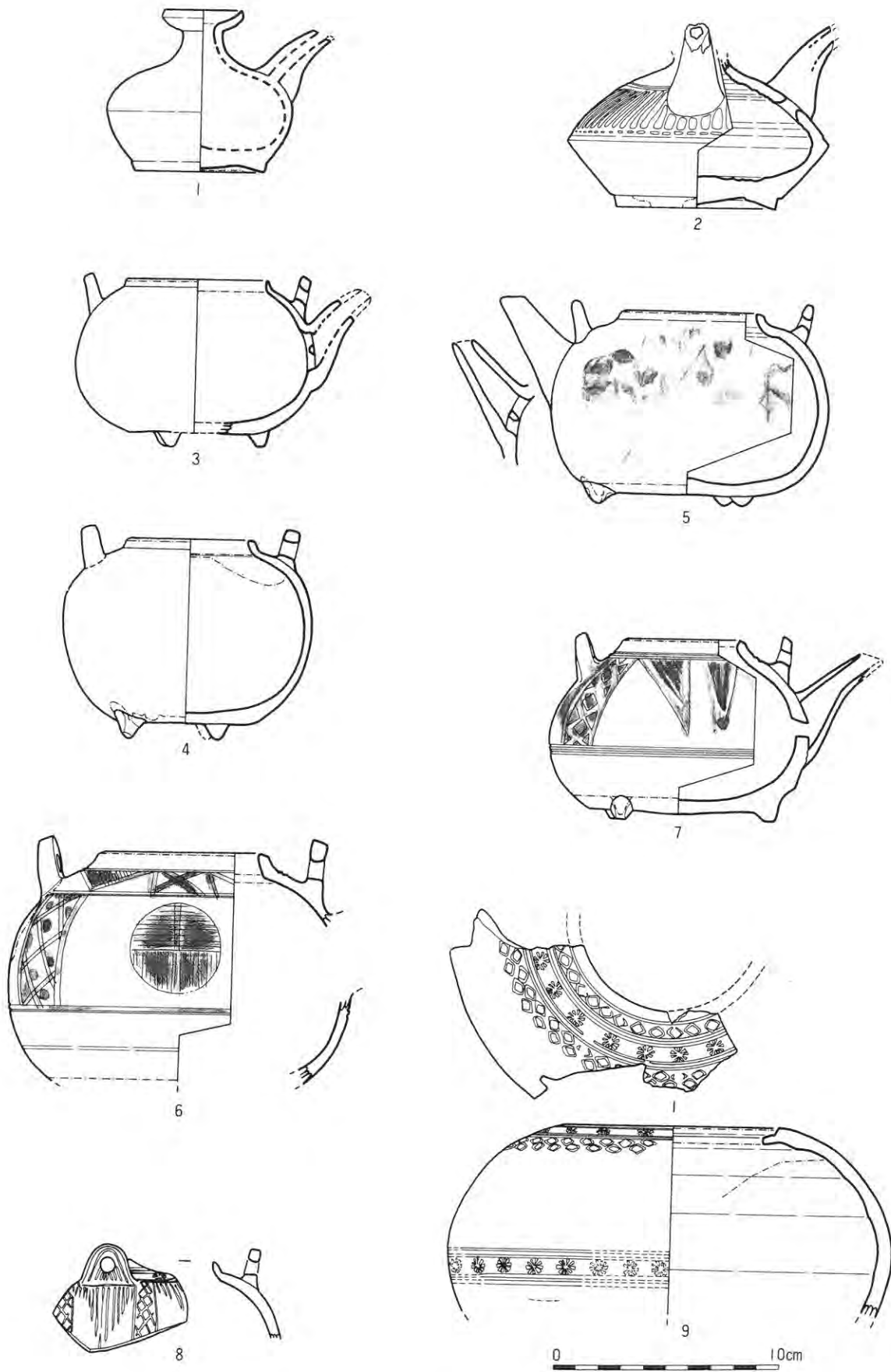
第75図 沖縄産施釉陶器（上焼）大皿・大鉢



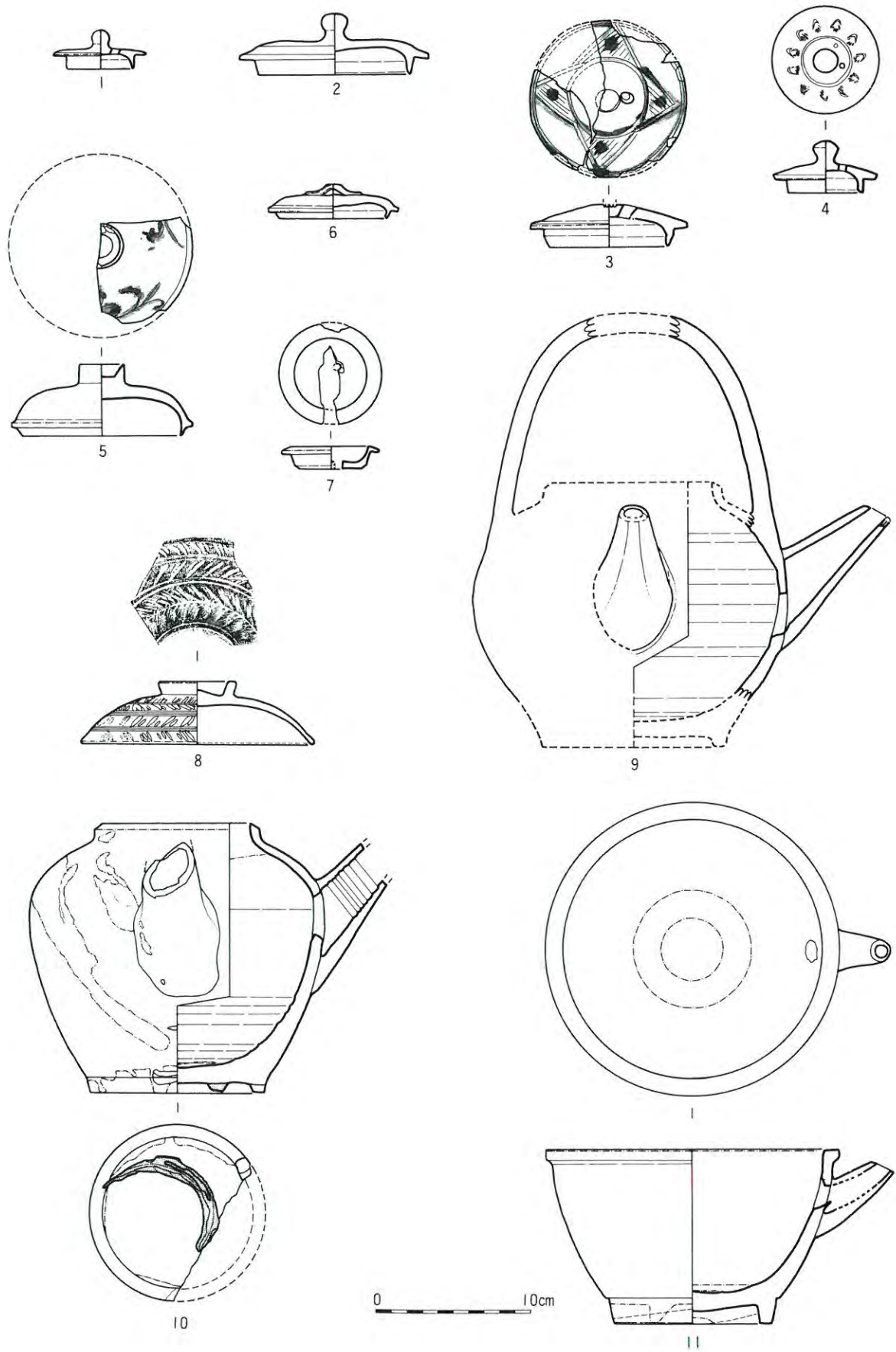
第76図 沖縄産施釉陶器（上焼）小鉢・大鉢



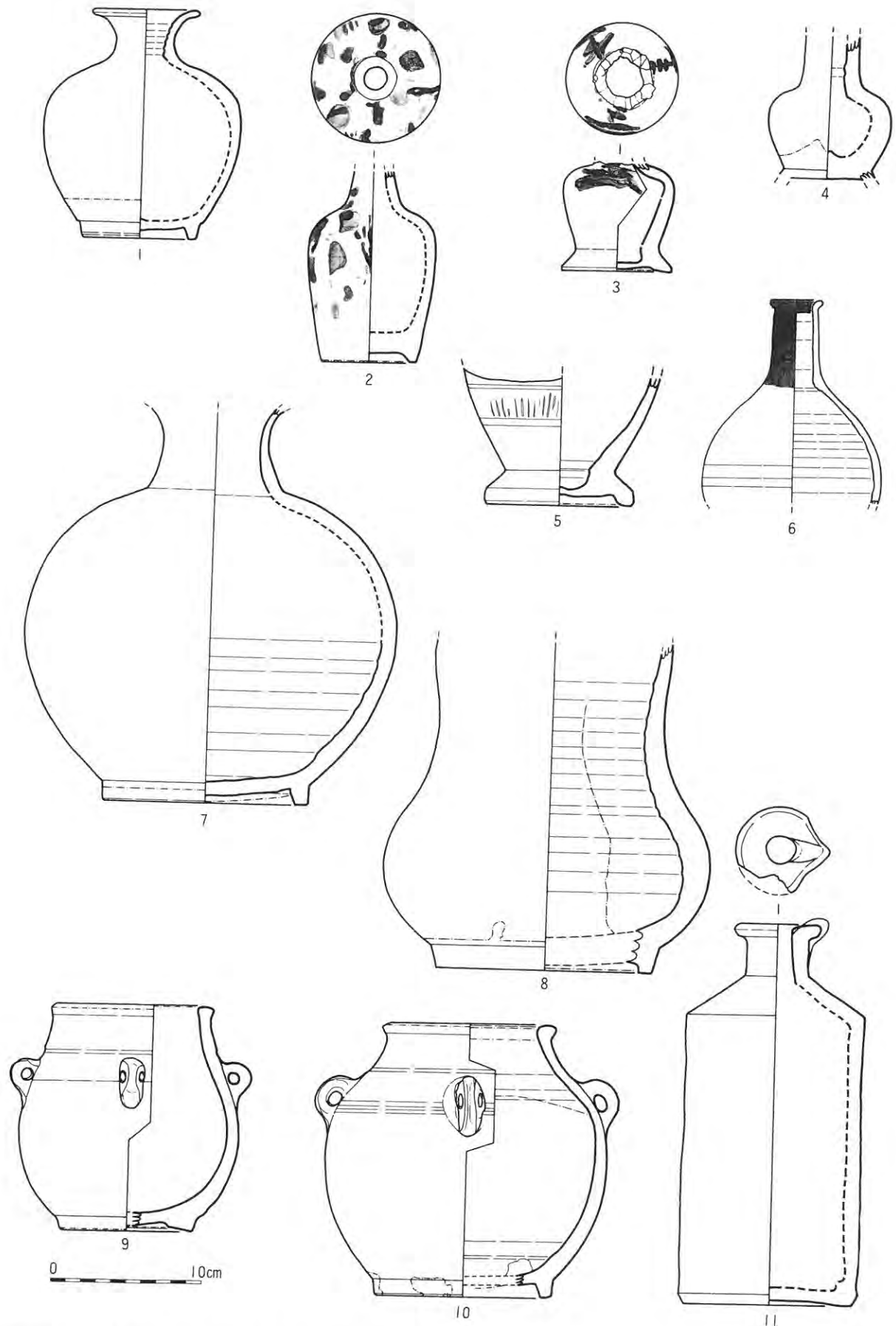
第77図 沖縄産施釉陶器（上焼）小鉢・香炉・火取



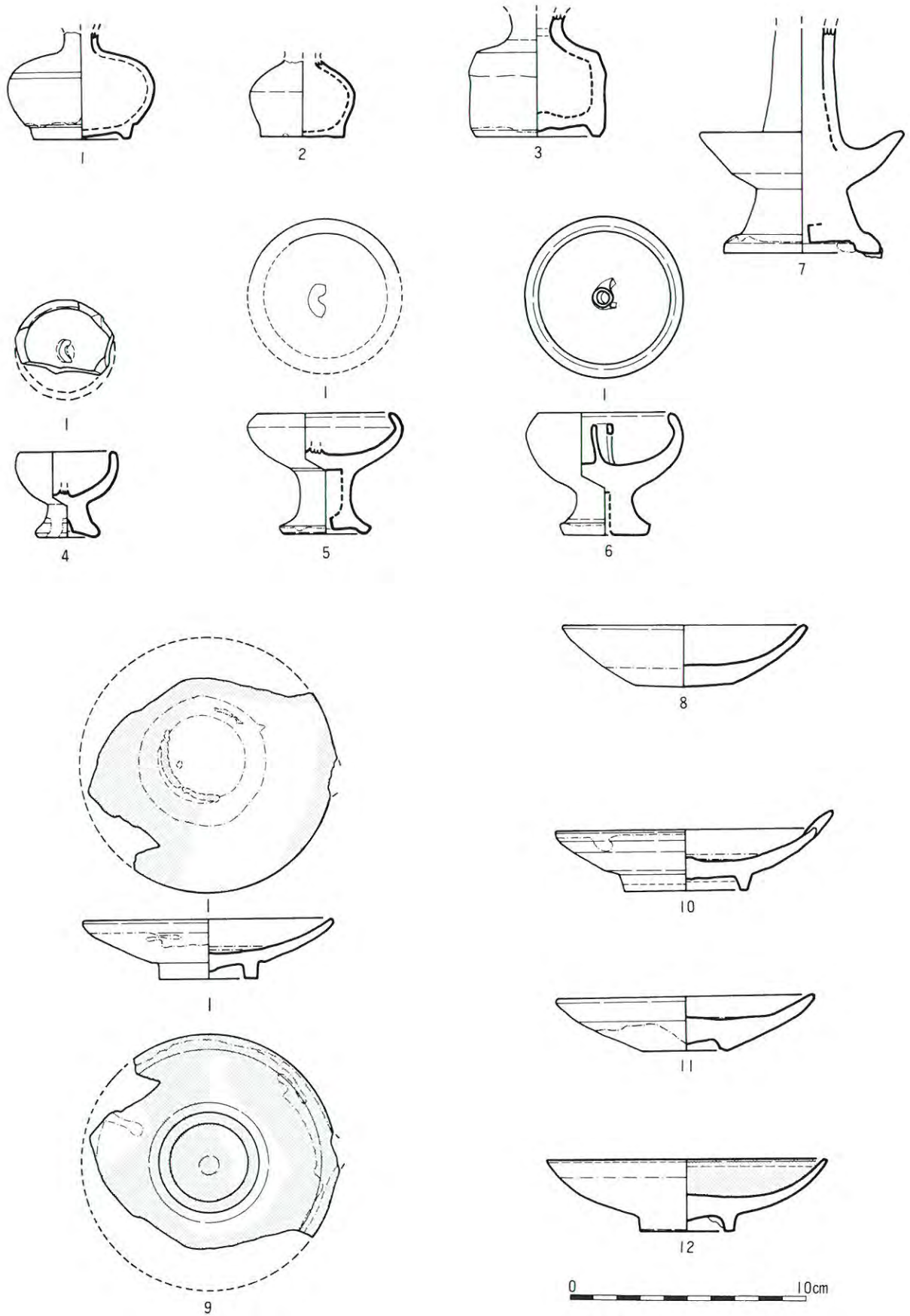
第78図 沖縄産施釉陶器（上焼）酒器・急須・壺？



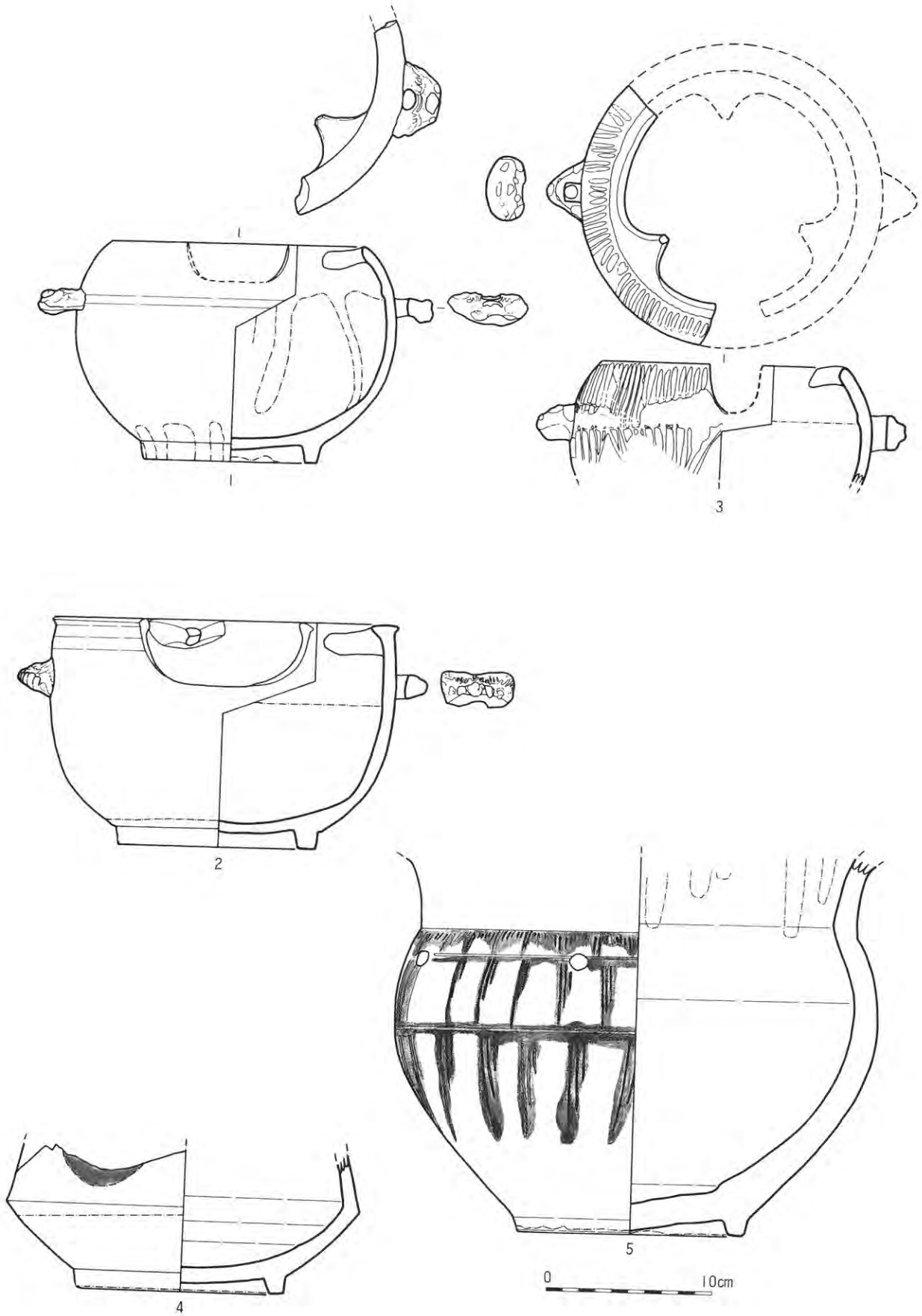
第79図 沖縄産施釉陶器（上焼）蓋（急須・壺・鍋）大型急須・片口鉢



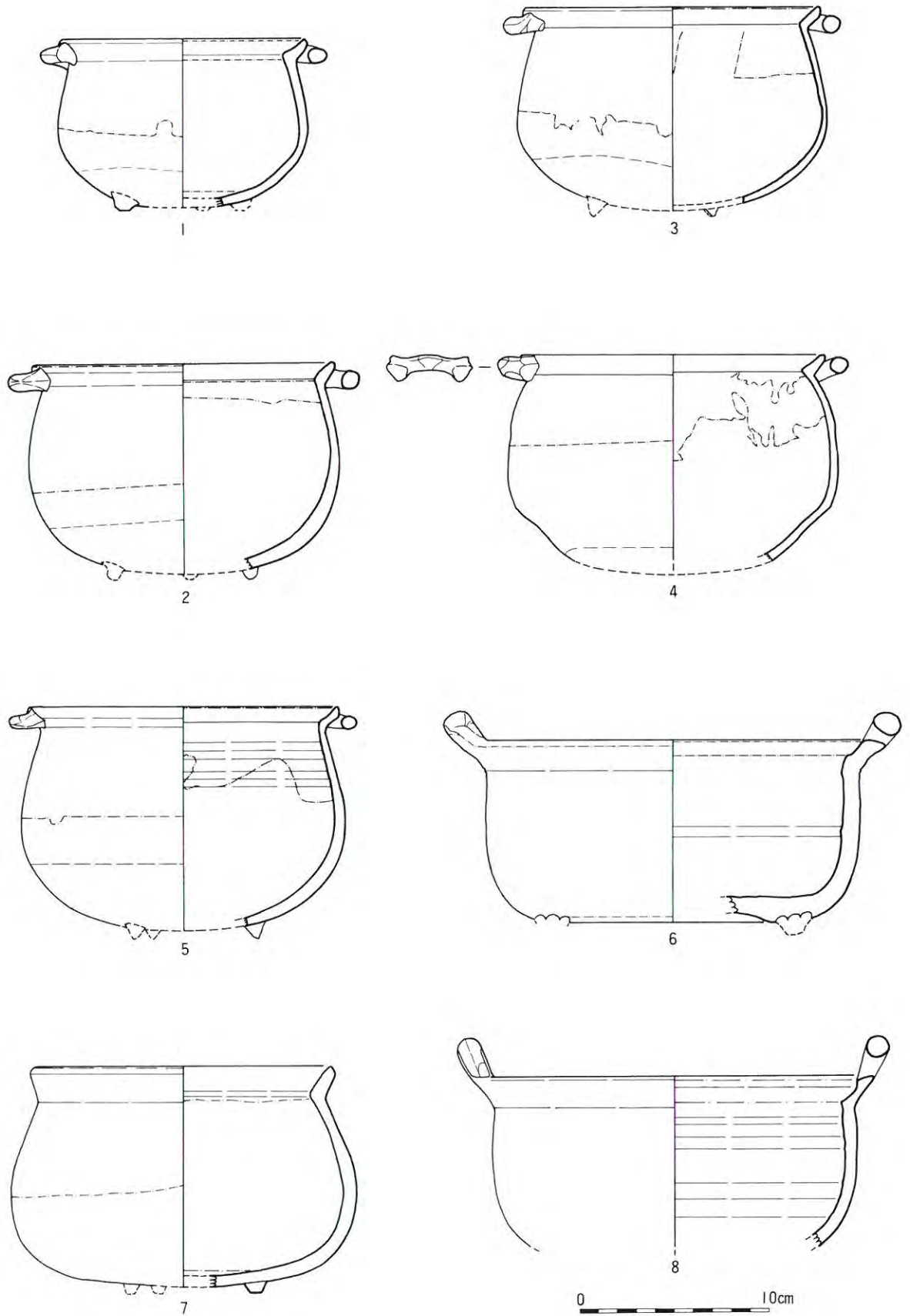
第80图 沖縄産施釉陶器（上焼）瓶・油壺・瓶子・対瓶・壺



第81図 沖縄産施釉陶器（上焼）油壺・秉燭、燭台・灯明皿



第82図 沖縄産施釉陶器（上焼）火炉・火鉢



第83図 沖縄産施釉陶器（上焼）鍋

第11節 沖縄産無釉陶器

沖縄産無釉陶器の用途が特定された器種は、摺鉢・壺・徳利・瓶子・花瓶・水甕・鉢・花鉢・鍋・水注・碗・皿・火炉などであり、豊富であった。個々の特徴は観察表（第6表）に呈示した。ここでは分類概念のみを記述した後に若干のまとめを行なうことにした。以下、摺鉢・壺などの順に記述する。

1. 摺鉢

摺鉢は口縁形態などからⅠ～Ⅲ類に大分類を行ない必要に応じて細分類を実施した。以下、特徴のみを記す。

Ⅰ類

Ⅰ類は口縁の造りや文様などからa～dの4種類に分けた。

a種…口縁を一端内彎させた後に口縁端部を摘み出して口縁を外反させているもの。(第92図1)

b種…口縁をハブラシ状に肥厚させた後に肥厚帯に圈線を施す。また、肥厚帯直下に篋で調整し肥厚を強調するもの。(同図2)

c種…口縁を「く」の字状に屈曲させる。肩部を意識した回転による指圧を深く入れて強調するもの。(同図3・7)

d種…Ⅰc種と同様に口縁を屈曲させるが、Ⅰc種と比較して屈曲は微弱なもの。(同図4～6)

Ⅱ類

Ⅱ類は口縁を逆「L」字状に屈曲させる為、口縁が突出し、口厚も幅広となるものである。口唇に圈線を施すものである。(同図8)

Ⅲ類

脚台付きの摺鉢であるが、口造りはⅡ類と共通するものである。(同図9)

2. 壺

壺は口縁形態などからⅠ類からⅢ類に分類し、必要に応じて便宜的な細分を実施した。

Ⅰ類

Ⅰ類は基本的にナデ肩の壺であるが、外反の度合いでa・bの2種類に分けた。

a種…外反のきつい玉縁口縁の壺で、肥厚帯下端を篋で削り取っているもの。(第93図1)

b種…a種と同様に外反のきつい玉縁口縁であるが、a種より肥厚が大きく肥大化するものである。(同図4)

Ⅱ類

本タイプはタマゴ形の器形を呈する壺であり、口造りが玉縁状に肥厚させる点でⅠ類と類似するが全体の器形が異なっている。(同図2)

Ⅲ類

本タイプは方形状の肥厚をもつものである。器形の微弱な変化からa・bの2種類に分けた。

a種…口縁部を逆「L」字状に屈曲させ、肥厚帯下端を僅かに突出させているものである。(第93図3)

b種…口縁部の屈曲はⅢa種よりもゆるくなり、ルーズな肥厚を造る。(第94図1)

3. 徳利

厚手の徳利が得られていて、口縁を欠く。残存部の状況から外反する器形が推定される。(同図2)

4. 瓶子

小振りの瓶子が1点出土している。これも口縁部を欠いている。底造りは糸切りによる切り離しが行なわれている。(同図4)

5. 花瓶

把手が貼り付けられた花瓶の口縁が1点得られていて、口縁がきつく外反する。(同図5)

6. 広口壺

口の広い小壺が出土して、頸部が7mmと短い。(同図6)

7. 水甕

水甕も口縁部の形状などからI類～III類に分類し、状況によって細分類を実施した。

I類

I類は頸・胴部で軽く内側に締り、口縁で屈曲させている。口縁は突出させた後に口縁下端を軽く摘み出している。(第95図1)

II類

本タイプも口造りなどからa・bの2種類に分けた。

a種…口縁を逆「L」字状に屈曲させる。全体的な器形としては垂直もしくは若干、外傾気味に直線的に口縁に移行するものが推定される。(同図2・3)

b種…口縁を屈曲させた後に口縁下端を釣状に仕上げ肥厚をつくる。口屋外端に縄目文を貼り付けている。(同図5)

III類

肥厚の形状などからa・bの2種類に分けられた。肥厚の肥大化の傾向が認められるものである。

a種…肥大化した方形状の口縁で、頸部で軽く締っているもの。(同図6)

b種…肥大化した玉縁状の口縁。ナデ肩気味の甕が考えられるもの。(同図9)

8. 厨子甕

厨子甕もしくはその可能性のあるものが2点得られている。文様は圏線や菊花文などを施している。(同図4・7)

9. 鉢

胴下部から口縁にかけて軽く、開き気味に移行する鉢である。文様は圏線と円盤状の貼り付けを行なっている(同図8)

10. 水鉢

口縁の形状以外に用途もある程度、把握されたので、これも参考にしながらa・bの2種類に分けた。

a種…手水鉢で沖縄で「ミジクブサー」と称されているものの一種である。口造りは一端、内彎させた後に口縁を外側へ摘み出して肥厚を造る。(第96図2)

b種…洗濯用の鉢で、専ら女性の下着洗いに使用された為、「メーチャーアラヤー」と俗称されるものである。器形は摺鉢と類似するが摺り目が無い点で区別出来る。(同図3)

11. 花鉢

歪な花鉢が得られている。素地に多量の軽石細片を混入させて焼成した為、器形が崩れている。(同図4)

12. 鍋

口縁部に紐状の把手を貼り付けた鍋が出土している。口縁内面には蓋受けの段が造られているものである(同97図2)。その他に薄手の鍋とみられるものも得られている。(同図3)

13. 水注

把手を欠く水注が1点出土している。注ぎ口も立端を欠いているものである。器形は扁楕円形状を呈し、頸部が非常に短い。(同図4)

14. 片口鉢

注ぎ口が欠落する鉢で、口縁をきつく外傾させて仕上げている。(同図5)

15. 蓋

鍋の蓋とみられるもので、蓋甲頂部に高台状の把手を造る。甲には櫛描きの波状文を描いている。(同図6)

16. 碗

手捏の碗と轆轤引きの碗の2種類があり、前者は瓦質土器であった。後者は瓦質土器と陶器の中間的要素を保持した碗である。口縁形態などからⅠ類～Ⅲ類に分類した。

Ⅰ類

瓦質土器の手捏の碗で、どちらかといえば杯に近いものかもしれない。Ⅱ類及びⅢ類と比較する為に図化した(第97図7)。同時に瓦質土器の小鉢も参考資料として図化した(第97図1)。これは沖縄製陶器の発生を考える上で重要な資料として判断できたからである。

Ⅱ類

この碗は腰が沈み腰折状態となっていて、全体的に逆「ハ」の字状の器形となっている。(同図8)

Ⅲ類

天目茶碗を意識的に模倣した碗で、口縁部へのひねり返しを行ない、べっ甲口口縁として仕上げている。(同図9)

17. 秉燭

底の浅い平皿の中央に灯芯もしくはロウソクを入れた中空の外反する筒を造る。内面口縁は煤けている。(同図11)

18. 灯明皿

内彎するベタ底皿が得られている。内面が若干、煤けている。(同図12)

19. 火炉

円筒状の把手の付く火炉である。内面には三角錐状の突起を貼り付けている(同図13)。その他に火炉の底部と考えられるものが1点得られている。底面に足を貼り付けている。(同図14)

20. 用途不明

薄手の杯?とみられるものが1点出土している。底面に同心円状の溝が認められ、脚と離れてしまった可能性も考えられた(同図15)。

小 結

沖縄製無釉陶器の摺鉢でⅠa類からⅠd類を時期的に考えた場合、17世紀中頃から17世紀後半に位置付けられることが予想できた。摺鉢Ⅱ・Ⅲ類について19世紀初～19世紀後半が共伴する陶磁器などから推定された。摺鉢Ⅰ類と摺鉢Ⅱ・Ⅲ類の中間の時期が欠落するのは、摺鉢Ⅰ類中から17世紀後半から18世紀に抜き出されて来るものが存在する可能性が考えられるからである。摺鉢Ⅰ類中から安里進ほかの摺鉢の編年(註1)をを参考に抽出すると摺鉢Ⅰd類が安里進ほかの摺鉢編年Ⅱ式(17世紀後半～18世紀後半に比定されている)に該当することが確認される。しかしながら摺鉢Ⅰd類と摺鉢Ⅱ・Ⅲ類の間には半世紀近くの空白部分が存在する。今回の発掘調査の成果からはこの空白の時期を埋める資料が確認されていないので、今後の湧田古窯跡の報告に期待したいところである。

壺分類のⅠa類は中国製褐釉陶器の壺の影響もしくは模倣して発生したものと考えられる。同様に花瓶も青磁や白磁の瓶からの影響や模倣を試みたものとして理解された。

素地に軽石の細片を多量に含ませて焼成した花鉢と火炉の底部が認められた。いずれも焼成途中で形が崩れている。軽石の細片を多量に含ませて焼成した例は陶器に於いては未確認であった。

末尾ながら瓦質土器と陶器の中間的要素を持つ陶器が碗Ⅱ・碗Ⅲなどで確認されていて、沖縄産無釉陶器の発生時期をある程度、絞り込むことが可能となった。まず、瓦質土器の中に萬曆33年(1605年)

の銘入浅鉢が出土していることから沖縄産無釉陶器の発生は1605年以降になるものと予想できる。瓦質土器から沖縄産無釉陶器の中間タイプのは1605年以降に登場して来る可能性が考えられる。碗II・碗IIIの中間タイプは本土産あるいは中国産の陶磁器の影響もしくは模倣によるものとみられ、1605年以降の陶工として考えられるのは薩摩から朝鮮人陶工の張一六・安一官・安三官や沖縄の無名の陶工達であろうか。『球陽』（註2）に拠れば朝鮮人陶工は1617年に招聘された記録があることなどから瓦質土器と沖縄産無釉陶器の中間タイプは1617年以降に登場してきたものとして理解される。従って沖縄産無釉陶器は瓦質土器と沖縄産無釉陶器の中間タイプに後続することになるものと考えられた。

これについては今後の湧田古窯跡の報告書によって具体的に解明されることであろう。

註

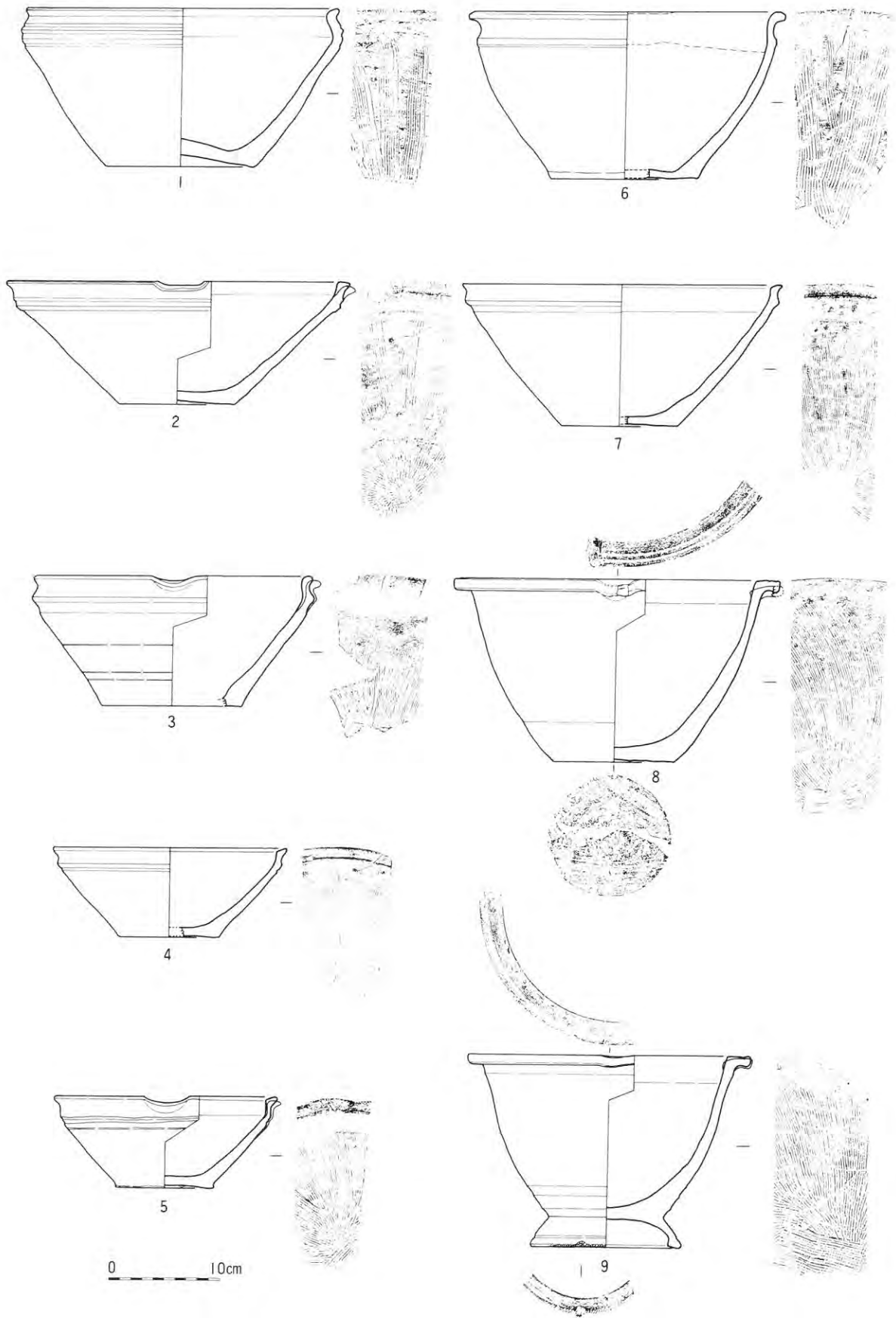
- 註1. 安里・上原政昌・家田淳一 「摺鉢編年からみた近世琉球窯業の展開」『名護博物館紀要3号』
名護博物館 1987年
- 註2. 球陽研究会編『球陽』 角川書店 1984年再版

第6表1 沖縄産陶器(荒焼) 観察一覧

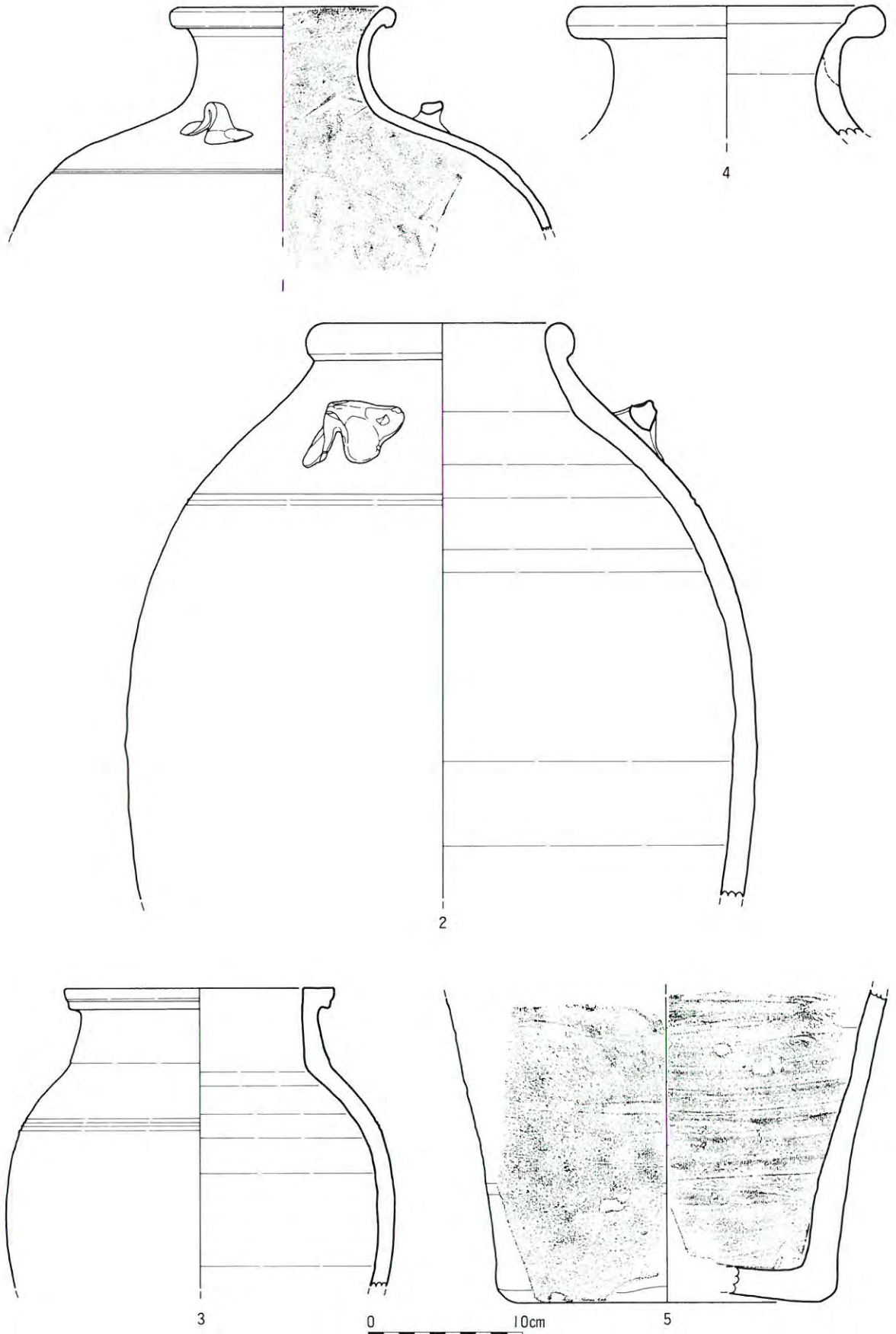
| 図番 | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 器色 | 素地 | 器面調整 | 文様など | 出土地点 |
|----------------|--------------|------|------|------|--------------|---------------------------------|--|---|----------------|
| 第84図 PL. 93 | 1 擂鉢 I a | 27.6 | 13.0 | 14.0 | 淡褐色の釉 | 淡灰色の粗粒子。粗い石英微量混入。 | 外面回転擦痕とナデ、内面回転擦痕。 | 丸彫りで圏線を3条。櫛描きで8条一組みの摺り目を施す。 | II区た-59 8層b |
| | 2 擂鉢 I b | 30.4 | 10.2 | 10.9 | 淡褐色の釉 | 淡褐色の細粒子。細かい石英を微量に含む。 | 外面回転擦痕のナデ消しや麗削り。内面回転擦痕とナデ。 | 丸彫りで圏線を1条。櫛描きで13条一組みの摺り目を施す。 | II区ち-59 8層 |
| | 3 擂鉢 I c | 24.5 | 12.4 | 11.5 | 淡褐色の釉 | 茶紫色の細粒子。粗い石英を少量含む。 | 外面回転擦痕と麗削り。(回転麗削り)。内面回転擦痕。 | 肩部を強調する為に頸部と肩下部に回転を利用して強く指圧を加える。櫛描きで12条一組みの摺り目を施す。 | II区た-58 8層 |
| | 4 擂鉢 I d | 20.6 | 9 | 7.9 | 濃紫色の釉 | 淡灰色の細粒子。粗い石英少量含む。 | 外面回転擦痕とナデ。内面回転擦痕。 | 肩下部に丸彫りによる圏線を1条。櫛描きで10条一組み(?)の摺り目を施す。 | II区ち-59 8層 |
| | 5 擂鉢 I d | 19.8 | 8.8 | 8.1 | 茶褐色の釉 | 茶紫色の微粒子。粗い石英を微量に含む。 | 外面回転擦痕とナデ。内面回転擦痕。底面は雑な麗削りをナデ消す。 | 〃。櫛描きで9条一組みの摺り目を施す。 | |
| | 6 擂鉢 I d | 28 | 13 | 14.8 | 淡褐色の釉 | 茶褐色の細粒子。〃。 | 外面はナデと麗削り。内面不規則なナデと叩き。底面雑な麗削りを消す。 | 〃。櫛描きで9条一組みの摺り目を施した後に弧状の叩きを入れている。内面口縁に淡褐色の釉を施す。 | II区つ-58 8層b |
| | 7 擂鉢 I c | 28.2 | 10.3 | 12.5 | 茶褐色の釉 | 淡灰色の細粒子。 | 外面轆轤痕を麗削りとナデで消す。内面回転擦痕。底面雑な麗削りをナデ消す。 | 肩部を強調する為に頸部と肩下部に回転を利用して指圧を強く加える。櫛描きで9条一組みの摺り目を施す。 | II区ち-59 1層 |
| | 8 擂鉢 II | 28.8 | 10.8 | 16.1 | 淡茶色の釉で光沢がある。 | 明茶色の微粒子。粗い石灰質砂粒や小型巻貝が少量含む。 | 外面回転擦痕・不規則な麗削りやナデを加える。内面回転擦痕。底面雑なナデと麗削りを雑に消している。 | 口唇に丸彫りの圏線を2条。櫛描きで17条一組みの摺り目を浅く施す。 | II区に-57 か2層 |
| | 9 擂鉢 III | 26 | 13.4 | 17.0 | 明橙色。(無釉) | 〃。〃。 | 外面回転擦痕・回転麗削り・ナデ。内面回転擦痕。底面〃。 | 口唇に片切彫りの圏線を1条。櫛描きで8条一組みの摺り目を施す。脚高の外面に丸彫りの圏線を1条と脚高外端部に刻目を施す。 | II区な-57 か2層 |
| 第85図 PL. 94 | 1 壺 I a | 13.1 | | | 茶褐色の釉 | 茶紫色の微粒子。粗い石英が少量含まれる。 | 外面回転擦痕をナデ消す。内面回転擦痕と指圧による当て。 | 胴上部に丸彫りによる浅い圏線を2条。三耳壺。 | II区ち-59 8層 |
| | 2 壺 II | 17.0 | | | 淡橙色。(無釉) | 明茶色の細粒子。多孔質の劈開面。石灰質の微砂粒が少量含まれる。 | 外面回転擦痕。内面〃。 | 胴上部に片切彫りで圏線を2条。三耳壺。 | II区な-59 か2層 |
| | 3 壺 III a | 19.2 | | | 淡茶色の釉で光沢を持つ。 | 黄褐色の細粒子。石灰質の微砂粒を少量含む。 | 外面回転擦痕とナデ。内面回転擦痕。 | 胴上部に丸彫りで圏線を2条施すがズレが生じ4条となるところがある。 | II区に-59 か |
| | 4 壺 I b | 20 | | | 紫褐色の釉 | 淡紫色の細粒子。粗い石英を微量に含む。 | 外面回転擦痕。内面回転擦痕とナデ。 | 口縁内面に肥厚の接合面が認められる。 | II区つ-58 9層 |
| | 5 壺底部 | 19.3 | | | 明茶色の釉で光沢がある。 | 明茶色の細粒子。粗い石灰質の砂粒と小型の巻貝が僅かに含まれる。 | 外面回転擦痕と麗削り。内面回転擦痕。底面丁寧な麗削り。 | 底面からの立ち上がりの部分に麗削りを加えて角を消している。 | II区表土 か |
| 第86図 PL. 95 | 1 壺 III b | 11.4 | 11 | 24.5 | 茶褐色の釉 | 明茶色の細粒子。粗い石英が微量に含まれる。 | 外面回転擦痕。内面〃。底面丁寧なナデ仕上げ。 | 口唇・頸下部・底面に胎土目の目痕が認められる。 | |
| | 2 壺底部 | 9 | | | 茶紫色の釉で光沢がある。 | 〃。小型の巻貝が僅かに混入。 | 両面とも回転擦痕。底面まで釉が施されていて調整は判らない。 | 歪な壺で器形が傾いている。 | II区に-57 か |
| | 3 徳利 | 4.4 | 6.8 | 11.8 | 灰茶色の釉で光沢がある。 | 〃。 | 外面轆轤痕と回転擦痕。〃。 | 頸下部に圏線(爪など)を1条施す。外底面に陶土が付着。(重ね焼きの目痕)。徳利とみられる。 | II区な-57 か2層 |
| | 4 瓶子 | 6.7 | | | 茶褐色の釉 | 灰白色の微粒子。 | 外面回転擦痕と指圧。内面回転擦痕。底面糸切り底(右側に小さい弧となる)。 | 底部からの立ち上がりの部分に指圧を加える。諸特徴から本土産陶器とみられる。 | II区な-57 か2層 |
| | 5 花瓶 | 9.2 | | | 赤褐色の化粧土。 | 淡灰色の微粒子。 | 両面とも轆轤痕が顕著。 | 頸下部に縦方向に伸びる把手を貼り付けた痕が残る。青磁などの陶磁の瓶を模倣したものとみられる。 | I区そ-42 3層 |
| | 6 小壺(広口) | 9.8 | | | 灰緑色の釉 | 淡灰色の微粒子。細かい石英が少量含まれる。 | 外面回転擦痕?内面回転擦痕。 | 口唇が若干摩滅し、釉が剥げ気味である。蓋付の広口壺とみられる。 | II区ち-59 1層 |
| | 7 瓶底部 | 7.8 | | | 明茶色の釉 | 茶褐色の微粒子。細かい石英が僅かに含まれる。 | 外面轆轤痕とナデ。内面回転擦痕。底面釉が施され不明。 | 長胴型の瓶が考えられる。 | II区南北溝 か |
| | 8 壺(小型) | 9.6 | | | 明茶色。(無釉) | 明茶色の細粒子。石灰質微細子とサンゴ片が僅かに含まれる。 | 外面回転擦痕・麗削り・ナデ。内面轆轤痕が顕著。底面雑なナデ。 | 胴下部に茶紫色の釉が垂れている。 | II区な-57 か2層 |
| 第87図 PL. 96 | 1 水甕 I | 39 | | | 明橙色。(無釉) | 明橙色の細粒子。粗い石英が微量混入。 | 両面とも回転擦痕。 | 口縁外面に丸彫りの圏線2条、口縁内面に圏線を1条施す。頸下部に陽圏線と陰圏線を施す。圏線間に櫛描きの波状文と円盤貼り付けを6ヶ所に施している。 | II区に-57 か2層 |
| | 2 水甕 II a | 43.8 | | | 〃。(〃) | 〃。石灰質粗砂粒とサンゴ片が微量混入。 | 〃。 | 口唇の外端近くに片切彫りの圏線を2条。頸下部に丸彫りの圏線2条と櫛描きの波状文。 | II区 |
| | 3 水甕 II a | 42.4 | | | 黄褐色。(〃) | 〃。石灰質粗砂粒が微量に混入。 | 〃。 | 頸下部に丸彫りによる圏線3条と櫛描きの波状文を施す。 | II区な-57 か2層 |

第6表2 沖繩産陶器（荒焼）観察一覧

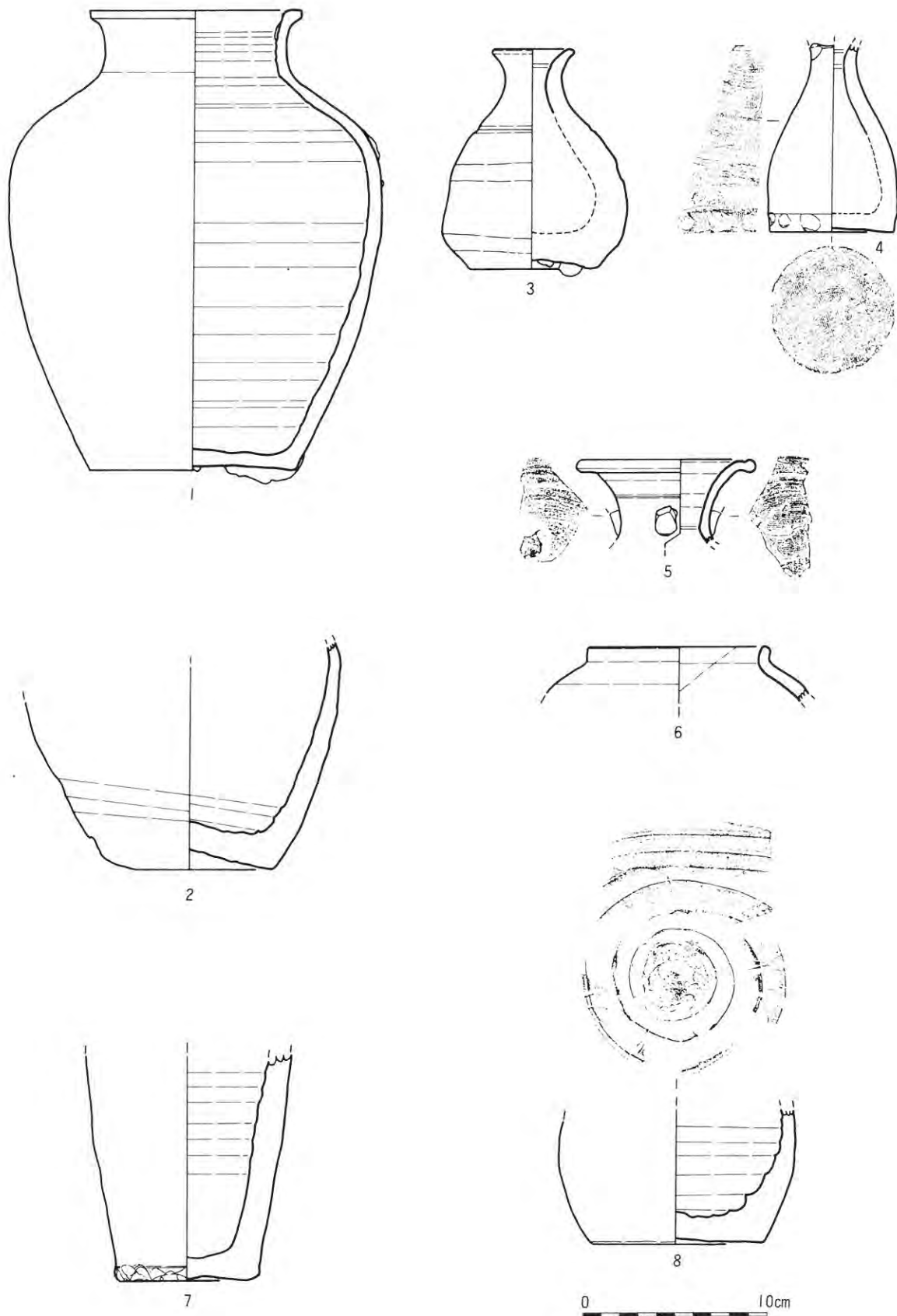
| 図番 | 器種 | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 器色 | 素地 | 器面調整 | 文様など | 出土地点 | |
|----------------|----------------|--------------------|----------|----------|------|----------|------------------------------|---|---|--|---------------|
| 第87図 PL. 96 | 4 | 厨子 甕 | 20.4 | | | 茶褐色。 | 茶褐色の微粒子。細かい石英と石灰質砂粒が微量に含む。 | 外面ナデ。内面回転擦痕。 | 口縁下端に丸彫りの圏線を2条施す。胴部に貼り付けの菊花文。（文様構成や口造りなどから厨子甕の可能性あり）。 | II区な-59 か | |
| | 5 | 水甕 II a | 53.4 | | | "（"）。 | 明橙色の微粒子。微細な石英と砂粒が僅かに含まれる。 | "。 | 口唇の両端に圏線を2条。口縁上端に縄目文の貼り付け。胴部に草花文を貼り付ける。 | II区つ-57 1層 | |
| | 6 | 水甕 III a | 43 | | | "（"）。 | 茶褐色の微粒子。" | 両面とも回転擦痕。 | 肥厚帯下部と胴上部に丸彫りの圏線。胴部に櫛描きの波状文と円盤貼り付け。頸部に窯印か工人のへう記号を入れている。記号は「へ」の字の上に点である。 | II区に-57 か1層 | |
| | 7 | 厨子 甕 | 24.4 | | | 黒褐色の釉。 | "。 | "。 | 口縁に陰圏線、頸部に陽圏線と片切彫りの草花文。（厨子甕の可能性あり）。 | II区か2層 | |
| | 8 | 鉢 | 37.8 | | | 淡褐色の釉。 | 茶紫色の細粒子。細かい石英が僅かに混入する。 | "。 | 口縁に陰圏線と円盤貼り付け。胴上部陽圏線。 | II区な-57 か2層 | |
| | 9 | 水甕 III b | 30.3 | | | 明橙色（無釉）。 | 明橙色の細粒子。細かい石英と粗い砂粒が混入。 | "。 | ナデ肩の水甕で、肥厚も大きい。 | II区か | |
| | 10 | 水甕 底部 | | 18.8 | | 黄茶色（無釉）。 | 淡茶色の細粒子。石灰質微砂粒が僅かに含まれる。 | 外面回転擦痕・ナデ・篋削り。内面回転擦痕。底面雑な篋削り。 | 底面からの立ち上りの部分に篋削りを入れて角切りを実施。内面に厚さ2mmの漆喰が胴下部まで付着。 | II区な-57 か2層赤褐色 | |
| | 第88図 PL. 97 | 1 | 甕の 蓋 | 長径 31 | | 10.2 | 黄茶色（"）。 | 橙褐色の細粒子。微細な石英が少量混入。 | 外面回転擦痕と篋削り。内面"。 | 蓋甲頂部に円盤状の把手を貼り付ける。厨子甕や水鉢の蓋とみられる。 | 不明 |
| | | 2 | 水鉢 I | 26 | 14.2 | 17.9 | 淡褐色の釉。 | 明茶色の細粒子。微細な石英と砂粒が僅かに含まれる。 | "。底面比較的丁寧な篋削り。 | 口縁部を折り曲げて肥厚をつくる為、頸部に接合面が認められる。頸下部に櫛描きの波状文を施す。俗称「ミジクブサー」。 | II区か |
| | | 3 | 水鉢 II | 35 | 14.2 | 17.9 | 明橙色（無釉）。 | "。 | "。"。"。 | 口唇外端近くに片切彫りの圏線を1条施す。 | II区た-57 2層 |
| 4 | | 花鉢 | | 14 | | 灰褐色（"）。 | 淡灰色の粗粒子。粗目の軽石片を多量に含む。 | 外面回転擦痕と篋ナデ。"。"。 | 口唇・口縁・胴中央に縄目文を貼り付ける。胴上部に篋削りの草花文。 | II区ち-59 9層 | |
| 第89図 PL. 98 | 1 | 小鉢 | 12.1 | 8.8 | 5.9 | "（"）。 | "。 | 外面回転擦痕とナデ。"。底面篋削り後にナデを施す。 | 焼成が悪く、不完全である。口唇の中央部から斜位に面取りを行った後に篋で面をナデる。瓦質土器の可能性が高い。 | I区せ-44 3層 | |
| | 2 | 鍋 | 23.6 | | | 暗褐色（"）。 | 茶褐色の粗粒子。1～3mm程度の大粒の石英を多量に含む。 | 外面回転擦痕・ナデ・篋削り。内面回転擦痕。 | 口縁内面に蓋受けの段を造る。口頸部に紐状の把手を貼り付ける。全体的雑な成形である。 | II区な、に -60 | |
| | 3 | 鍋? | 14.4 | | | 灰褐色（"）。 | 茶褐色の微粒子。石灰質微砂粒が微量に混入。 | 両面とも回転擦痕。 | 口頸部で「く」の字状に折れる薄手の鍋。口縁内面で僅かに窪む。 | II区な-57 か | |
| | 4 | 水注 | 9.4 | 8.4 | | 明茶色の釉。 | 茶褐色の細粒子。" | "。 | 口縁が僅かに肥厚し、頸部が短い。注ぎ口が短い割に内径は1.2cmと大きい。器形が歪に変形する。 | II区表土か | |
| | 5 | 片口 鉢 | 18 | | | 茶紫色の釉。 | 茶紫色の細粒子。" | "。 | 口縁は三角形に肥厚させている。胴上部に注ぎ口を造る。 | III区ひ-50 黄褐色 | |
| | 6 | 蓋 （有文） | | | | 淡褐色（無釉）。 | 淡褐色の細粒子。微細な石英と石灰質砂粒を微量に含む。 | "。 | 蓋甲頂部に高台状の把手を造る。甲に櫛描きの波状文を描く。 | II区な-57 か2層 | |
| | 7 | 碗 I | 5.4 | 4.2 | 4.4 | 灰色（無釉）。 | 淡灰色の細粒子。細かい黒色鉱物が僅かに含まれる。 | 外面篋削りとナデ。内面ナデと指圧。高台篋削りとナデ。 | 手捏の小碗。素地などから瓦質土器の範疇に入るものとみられる。 | I区け-45 2瓦層 | |
| | 8 | 碗 II | 12.6 | 5.2 | 5.3 | 淡灰色（"）。 | 茶紫色の細粒子。細かい石灰質の砂粒を僅かに含んでいる。 | 両面とも回転擦痕。高台は外面と畳付が篋削りで内面は回転擦痕。 | 直口口縁の碗で内底面が僅かに盛り上がっている。器色や素地などから瓦質土器と陶器の中間的要素を保持する。 | I区つ-42 4層焼土 | |
| | 9 | 碗 III | 9.8 | 4.2 | 5.7 | 黄褐色の釉。 | "。"。希に5mm前後の石灰質片が含まれる。 | 外面回転擦痕と篋削り。内面回転擦痕。高台は両面及び畳付が篋削り。外底面は回転篋削りとみられる。 | ひねり返しのあるべっ甲口縁。釉は胴下部まで施す。器色や素地などから瓦質土器と陶器の中間的要素を保持する。 | I区ち-41 | |
| | 10 | 皿か 蓋 | 8.3 | 4 | 2.1 | 灰褐色の釉。 | "。細かい石灰質の砂粒。 | 両面とも回転擦痕。 | 口唇を篋で削った後に軽くナデを加えて平坦に仕上げる。瓦質土器と陶器の中間的要素を持つ。 | I区ち-42 1瓦層 | |
| | 11 | 乗燭 | 14.7 | 10.8 | | 褐色（無釉）。 | "。"。 | 外面及び底面回転篋削り、畳付のみ篋削り後にナデ。内面回転擦痕。 | 平底に中空の筒状の突起を造る。内面口縁は煤けている。 | II区な-61 か | |
| | 12 | 灯明 皿 | 10.3 | 4 | 2.6 | 茶黒色の釉。 | "。"。 | 外面回転擦痕と篋削り。内面回転擦痕。底面器面の保持が悪くよく判らない。 | 内燭するベタ底皿。内面が若干、煤けて暗褐色となる。 | II区な-57 か2層 | |
| | 13 | 火炉 | 26.4 | | | "。 | "。 | 外面回転擦痕?。内面回転擦痕。 | 円筒形の器形。内面に三角錘状の突起を貼り付ける。外面は方形の孔把手を貼り付ける。孔は上方から穿たれ、孔の直径は7mmを測る。 | II区な-57 か | |
| | 14 | 火炉 の 底 部? | | 12.4 | | "。 | 淡灰色の粗粒子。1mm前後の軽石片を多量に含む。 | 外面回転擦痕と回転篋削り。内面回転擦痕。底面篋削りとナデ。 | 円筒形の器形。外底面に円柱状の突起を貼り付けて足とする。劈開面は空気の膨張などで空洞の状態となる。 | II区つ-57 9層 | |
| | 15 | 器種 不明 | 8.2 | | | 赤紫色（無釉）。 | 赤茶色の微粒子。 | 両面とも回転擦痕。底面に同心円状の溝。 | 口縁が逆「L」字状に肥厚する。内底面に窪みを深く入れていることなどから脚台などが貼り付けられていた可能性もある。 | II区に-57 か2層 | |



第84図 沖縄産無釉陶器（荒焼）摺鉢



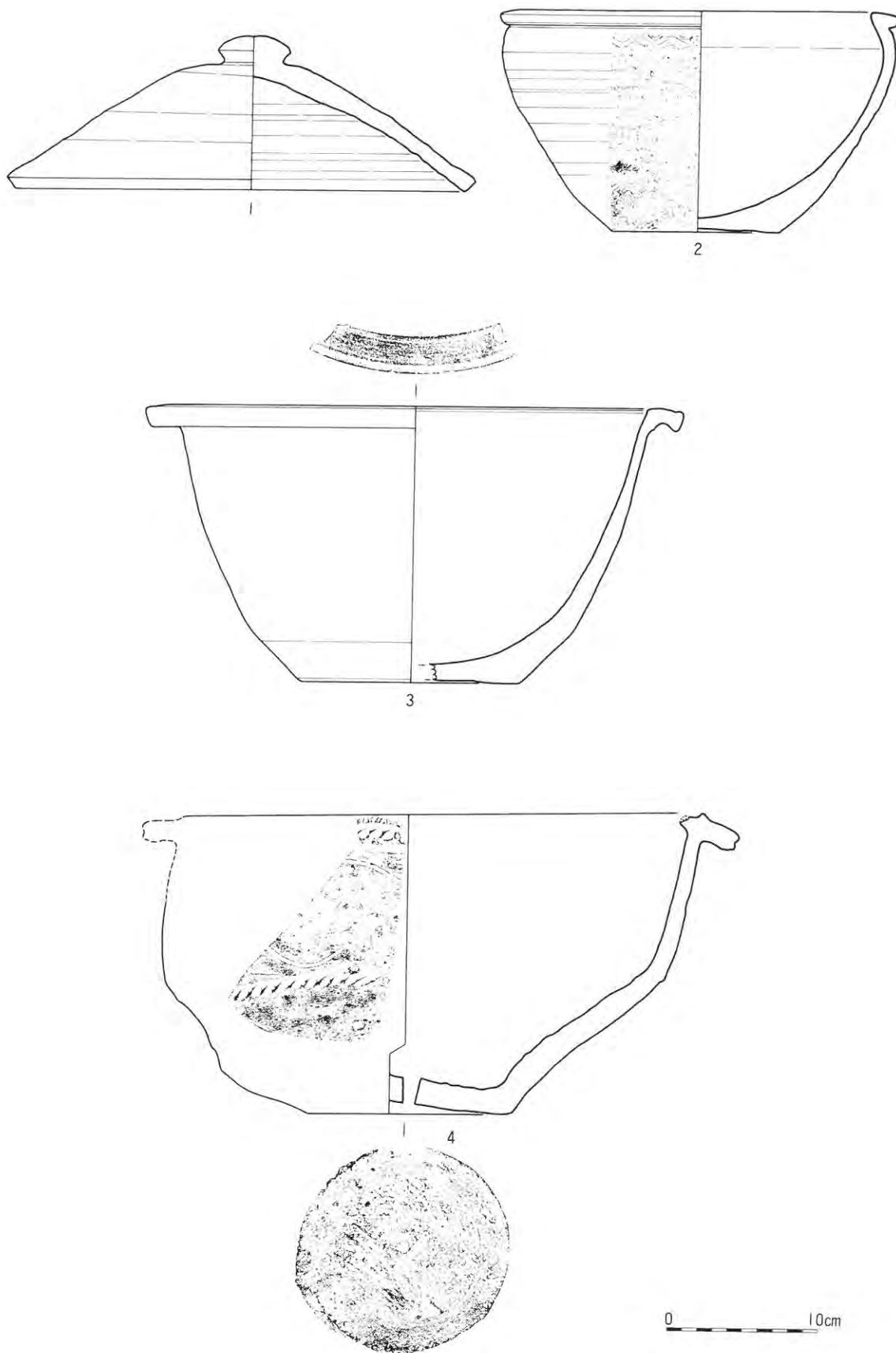
第85図 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺



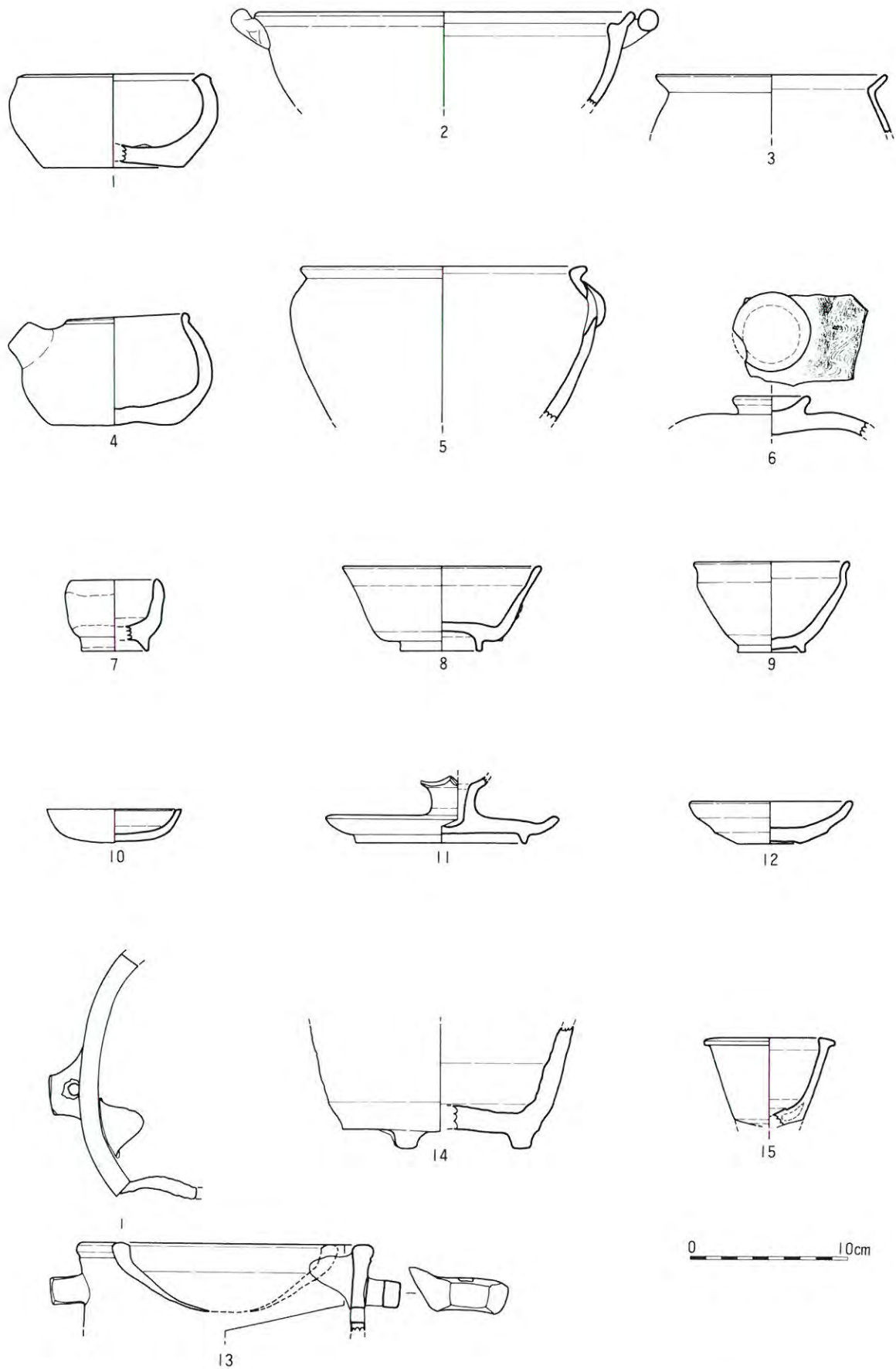
第86図 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺・小壺・他



第87図 沖縄産無釉陶器（荒焼）水甕



第88図 沖縄産無釉陶器（荒焼）蓋・水鉢・花鉢



第89図 沖縄産無釉陶器（荒焼）小鉢・鍋・水注・片口鉢・蓋・碗・皿・乗燭・灯明皿・火炉

第12節 土器

土器は総て細片化したものであった。量的にも1コンテナにも満たない。土器はグスク時代(註1)相当期に所属するものとタイの半練(ハンネラ)が出土している。タイの半練(ハンネラ)と半練の模倣土器以外は、グスク時代相当期の土器に所属するようである。グスク時代相当期の土器の中でも胎土に貝殻片を混和材として用いているものが注目されたが、他の資料と同様に図示できる程度のものはなかった。しかし、グスク時代相当期の土器で胎土に貝殻片を混和材として使用する例が沖縄本島内で確認されたのは、今のところ阿波根古島遺跡(註2)でしか報告されていない。貝殻片を混和材として使用する地域は、八重山の外耳土器(註3)に多く認められ、一般的である。このような状況からも貝殻片を混和材として使用する例は、沖縄本島内では1遺跡と極めて少ない状況にあるが、今後の調査によっては増加していく可能性の高い資料として考えられる。これは阿波根古島遺跡の報告で、次のように記述した「これを素地の面から考えると貝殻は、どこでも拾え、胎土に混和させることができる点で可能である。」からである。この背景には、八重山の外耳土器そのものが、沖縄本島のグスク及びグスク相当期の遺跡から未だ検出・確認されていない状況からであった。しかし、今回の資料で考えられたのは、時期を下って首里王府時代に陶工若しくは役人等が、八重山地域から資料として持ち込んだかあるいは、阿波根古島遺跡で報告した通りの考え方であろうか。今後、この種の土器については、沖縄本島内での類例資料の発見や確認が増えれば、解明されるものであろう。タイの半練(ハンネラ)(註4)が1片出土していたので、これを図化した(第90図1)。資料は落とし蓋の撮みの破片である。撮みの部分を他の遺跡と比較してみると撮みの部分が異常に大きい点が注目される。同程度のサイズのものは今帰仁城跡でも出土しているようである。撮みの最大直径は4cm、在存高(蓋側面を含む)5.4cmを測る。器色は淡藍色を帯び、胎土に白色や茶色の鉾物片を多量に含んでいる。出土地点はII地区な・に-10攪乱層より得られている。このタイの半練はグスク及びグスク相当期の遺跡から120余片が出土していることからタイとの交易を裏打ちする資料である。又、タイの半練を模倣したものが(第90図2)III地区ほ-48淡褐色土層から出土している。サイズは直径9.4cm、高さ2.7cmを測る。

註

註1. 現在のところ12世紀~15・16世紀考えられている。

註2. 金城亀信ほか『阿波根古島遺跡』 沖縄県教育委員会 1990年。

註3. 鳥居龍蔵「沖縄諸島に移住せし先住民に就いて」 人類学雑誌 第20巻 第227号 日本人類学会 1905年。

註4. 金武正紀「沖縄出土のタイ・ベトナム陶磁」『貿易陶磁研究』No.11 日本貿易陶磁研究会 1991年。

第13節 陶質土器

陶質土器の器種とし鍋・炉・手焙（火舎）・鉢・急須・皿・小壺の他に鍋や急須の蓋が確認されている。特に鍋は「サークナービ」として通称されているものが、最も多く出土している。他の器種は希少であった。これらの陶質土器は壺屋においては「アカムネー」（註1）と総称されている土器群であったようである。陶質土器の特徴として胎土は精選され、その成形が轆轤引きで、薄く仕上げる。器色は燈褐色もしくは黄褐色を帯びている。焼成は悪く脆いものが多い。

1. 鍋

鍋については復元できた資料は得られてはいないが、全体的な傾向からすると口縁に粘土紐状の把手を貼り付けている。底部については伊良波西遺跡（註2）の例から丸味を持つことが確認されている。最近の例では、この種の鍋の原型もしくは陶質土器を模倣した陶器が安仁屋トゥンヤマ遺跡（註3）から報告されている。安仁屋トゥンヤマ遺跡の沖縄製陶器には黄緑色の釉を胴部中央まで施している。また、底部には三角錘状の突起を三個貼り付けて足としている。

第90図3は口径22.6cmを測る資料で、胎土に雲母・赤色物質を混入させている。色調は明黄色を帯びている。II地区に-57攪乱第II層から出土している。

2. 炉

炉は鍋に次いで多い器種である。器形は概して内湾するものが多く、口縁内部に3個程度の突起を貼り付けている。また、胴上部には有孔の把手を2個貼り付けている。高台を造るのも特徴である。中には白化粧土による横線が轆轤痕と平行するかのように残っている。

炉の資元資料の3個体での平均サイズは口径15cm、底部8cm、高さ10cmであった。その他に最も大きなものは口径25cm、高台径17.5cm、高さ17cmのものがあった。最小は13.6cmを測るものがあった。

第90図4は外面に白化粧土による模様が轆轤痕と平行した状態で6条残されている。胎土に雲母・石灰質微砂粒が混入する。器色は燈褐色を帯びている。口径は13.6cm、高さ10.3cm、高台径8.6cmを測る。II地区に-57の攪乱層から出土している。

3. 手焙（火舎）

手焙（火舎）の資料は総て破片資料であった。特徴として口縁近くで「く」の字状に折れ、有孔の把手を2個貼り付けているものが多いようであった。

4. 鉢

鉢の中には水鉢・浅鉢・花鉢が含まれている。各種とも1点ずつ図化した。以下、記述する。

第90図5は内湾口径の水鉢で、口縁に楡描きの波状文と横沈線文を施している。推算口径は21.2cmを測った。胎土に雲母・赤色物質が含まれている。器色は淡燈色を帯びている。II地区な-59の攪乱層から出土。

第90図6浅鉢の資料で、全体的に大きく開き気味の器形である。口縁部で「く」の字状に折れる。胎土に雲母・石灰質微砂粒の他に小型の巻き貝を混入させていたようである。巻き貝が落ちてしまっている。器色は淡燈色を帯びている。推算口径は、28.8cm、II地区な-50第3層から出土。

第90図7は小振りの花鉢である。口縁部を外反させて口唇を幅広く仕上げている。全体的な形は、円筒型に近い。底面には外側から直径1.7cmの孔を穿っている。穿孔部分は、指などで調整している。外底には糸切り痕が認められる。外面にはベンガラと思われる赤色顔料が施されていたようであるが大半は禿落している。胎土に雲母・赤色物質を混入させている。口径10.8cm、底部5.8cm、高さ7.5cmを測っている。II地区に-57攪乱層の出土。

5. 急須

急須の資料として1点のみ図化した。第90図8は注ぎ口と把手の吊り下げの部分が残っている。特に口縁部の厚さは2mmと非常に薄く仕上げている。胎土に雲母、赤色物質が混入している。

色調は全体的に淡橙色を帯びているが、部分的に煤けている。推算口径7.6cmを測った。II地区な-59攪乱層より出土。

6. 皿

皿は第90図9に図示した資料が1点のみ得られた。底はいわゆるベタ底と称されるタイプのものと、底部から直線的に外側へ逆「ハ」の字状に開いている。胎土に雲母、赤色物質、石灰質砂粒が混入する。口径11.1cm、高さ3cm、底径4cmを測る。II地区な-57攪乱第3層の出土。

7. 小壺

第90図10に示す1点が出土している。口縁部は微弱に肥厚し、僅かに外反する。頸部で「く」の字状に折れ、胴上部で大きく外側に張り出す。全体的に丸味のある器形となっている。器色は淡橙色を帯びている。胎土に雲母、石灰質砂粒が混入している。口径4.9cm、高さ4.5cm、高台径3.5cmを測る。II地区63-攪乱第2層出土。

8. 鍋の蓋

復元可能な資料を1点のみ図化した。第90図11はつまみの部分を高台様に仕上げている。つまみ径は5.9cmを測る。最大直径5.8cm、高さ4.5cmを測る。胎土に雲母、赤色物質、石灰質微砂粒が混入する。II地区に-57出土。

9. 急須の蓋

蓋の中でも蓋甲上部に孔を三孔穿つたものが1点出土していたので、これを図化した。蓋の形態としては他の資料と同一形態である。第90図12は分銅状の鈕みを貼り付け、周辺に直径6mmの孔を三個穿っている。器色は淡黄色を帯びる。胎土に雲母、赤色物質、石灰質砂粒が混入する。蓋甲には赤色顔料(ベンガラ)が僅かに残っている。II地区に-56攪乱第1層出土。

10. 土鈴

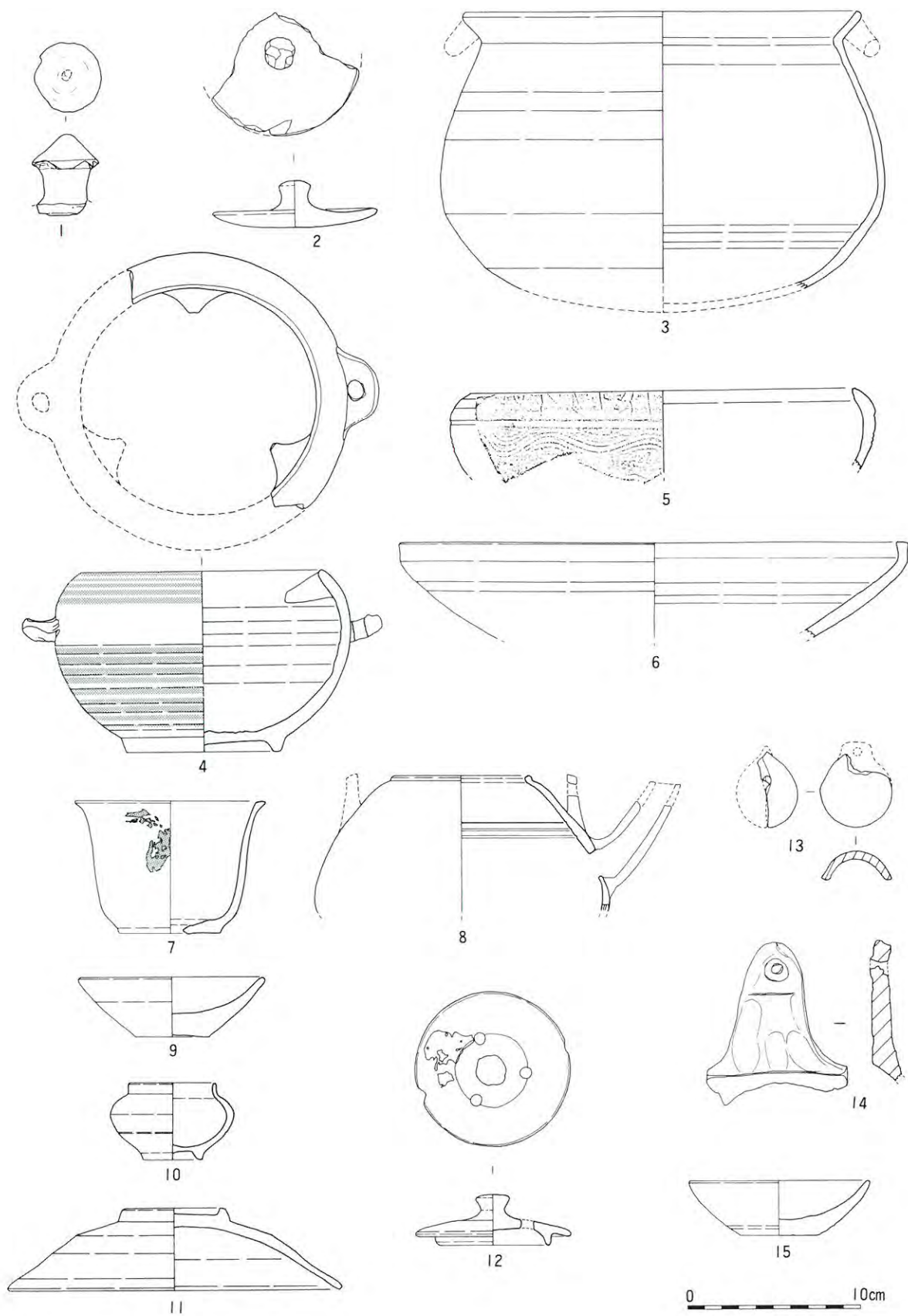
第90図13に示す資料である。把手の部分と身の半分近くが欠けている。身の中央には孔の痕跡が2カ所認められ、孔の直下から身の下半分は籠などによる切り込みによって生じた面が観察される。胎土に雲母、石灰質砂粒が混入している。器色は淡黄色。II地区表土攪乱層出土。

11. 用途不明

用途不明としたものは柄状の把手である。2点得られているが、良好なものを1点図化した。第90図14は把手の先端部分に5mm程度の孔を裏面から穿っている。外面の孔の周辺には孔の周辺に陶土を貼り付けている。胎土に雲母、赤色物質、石灰質微砂粒が混入している。色調は淡黄色。II地区な-57攪乱第2層出土。

小 結

湧田古窯跡出土の陶質土器の中で、皿の資料(第90図9)が無釉焼き締めの陶器皿と同一器形で、サイズも近似するとが確認された。この陶器皿とは、第90図15に図示したものである。他に1点得られている。この陶器皿と陶質土器の皿は、出土地点や層も一致している。陶質土器の皿が、陶器皿を模倣して登場したものであるのか、あるいはその逆であるかは、陶質土器の鍋と同様に判然としないが、基本的には陶器からの模倣かと考えられるところである。小壺の類例として御細工所跡(註4)から出土しているようである。



第90図 陶質土器

註

- 註1. 宮城篤正 「陶器」第三章 生業 那覇市史資料編 那覇の風俗 第2巻中の71979年。
 註2. 大田宏好 『伊良波西遺跡』豊見城村教育委員会 1986年。
 註3. 島袋洋ほか 『安仁屋トゥンヤマ遺跡』沖縄県教育委員会 1992年。
 註4. 島 弘ほか 『御細工所跡』那覇市教育委員会 1991年。

第14節 瓦質土器

瓦質土器は、陶質土器に次いで多く出土している。器種は甕、鉢（植木鉢、こね鉢、水鉢、浅鉢、摺鉢）・壺（長頸壺、短頸壺）・炉（手焙、火舎を含む）・香炉・碗・杯・皿（灯明皿）・鍔釜・漏斗の12種類が確認されていて、他の土器に比べ変化に富んでいる。その他に置物（龍・獅子・蛙・亀と鶴）や人形なども出土している。これらは素材も同一であったので、本項で述べる。個々の遺物の特徴について、第7表に示した。また、植木鉢と摺り鉢の口径については第8表と第9表に呈示した。

県内では瓦質土器の出現時期は、浦添城跡（註1）、勝連城跡（註2）などの例から14世紀中頃から始まるものと推定されるが、終末時期については今日まで、よく判らなかつたが、本遺跡から萬曆33年（1605年）の銘入りの浅鉢が出土していることから17世紀初頭までは確実に存在することになるが、その後も製作していることが予想されるので、17・18世紀として幅をもたせて位置づけたいところである。ところで、グスク出土の瓦質土器には口縁部や胴部に「菊花文」・「格子目文」などでスタンプや篋描きを施した例が多いようである。「菊花文」は、本土の中世遺跡の瓦器の手焙によく認められることから本土の中世瓦器が持ち込まれたか、あるいはそれを模倣して発生したものと考えられるが、本土の中世瓦器と県内の瓦質土器を明確に区別出来るかどうかは現段階では困難である。これは本土の中世瓦器そのものを早急に確定していく作業が未着手である為である。

しかしながら湧田の瓦質土器も本土の中世瓦器や陶器の影響を受けて発展してきたものと推察される。例として摺鉢、鍔釜などがある。摺鉢は今帰仁城跡（註3）などから出土している備前焼摺鉢を模倣あるいは影響を受けて登場してきたものとして考えられる。（伊東晃・上西節雄の備前焼摺鉢編年のIV～V期に相当する摺鉢）。鍔釜についても千葉地遺跡（註4）・草戸千軒（註5）などからも出土していて、本土の中世遺跡ではある程度定着したものとみられ、これの模倣や影響を受けてきたかと今のところ考えられる。但し、湧田と同一の鍔釜は未だ、グスク及びグスク相当期の遺跡から発見されていない為、将来に期待したい資料である。その他にモミガラを多量に混入させて、焼き上げた資料が2・3点出土している様である。モミガラを意識的に混入させていることが注目される。この種の例は我謝遺跡（註6）の瓦質土器に認められるようである。湧田の摺鉢については摺り目の磨耗しているものは1点も確

第8表 摺鉢口径一覧

| cm | 20～ | 23～ | 24～ | 25～ | 26～ | 27～ | 27～ | 28～ | 30～ | 32～ | 38～ | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| | 20.9 | 23.9 | 24.9 | 25.9 | 26.9 | 26.9 | 27.9 | 28.9 | 30.9 | 32.9 | 38.9 | |
| 個数 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 15 |

第9表 摺鉢口径一覧

| cm | 20～ | 35～ | 36～ | 38～ | 39～ | 50～ | 53～ | 55～ | 91～ | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| | 20.9 | 35.9 | 36.9 | 38.9 | 39.9 | 50.9 | 53.9 | 55.9 | 91.9 | |
| 個数 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 11 |

認されていないことが注目された。これについては今のところ根栽植物（イモなど）を直接摺り潰せば磨耗が認められなくなることが考えられるようである（註7）。

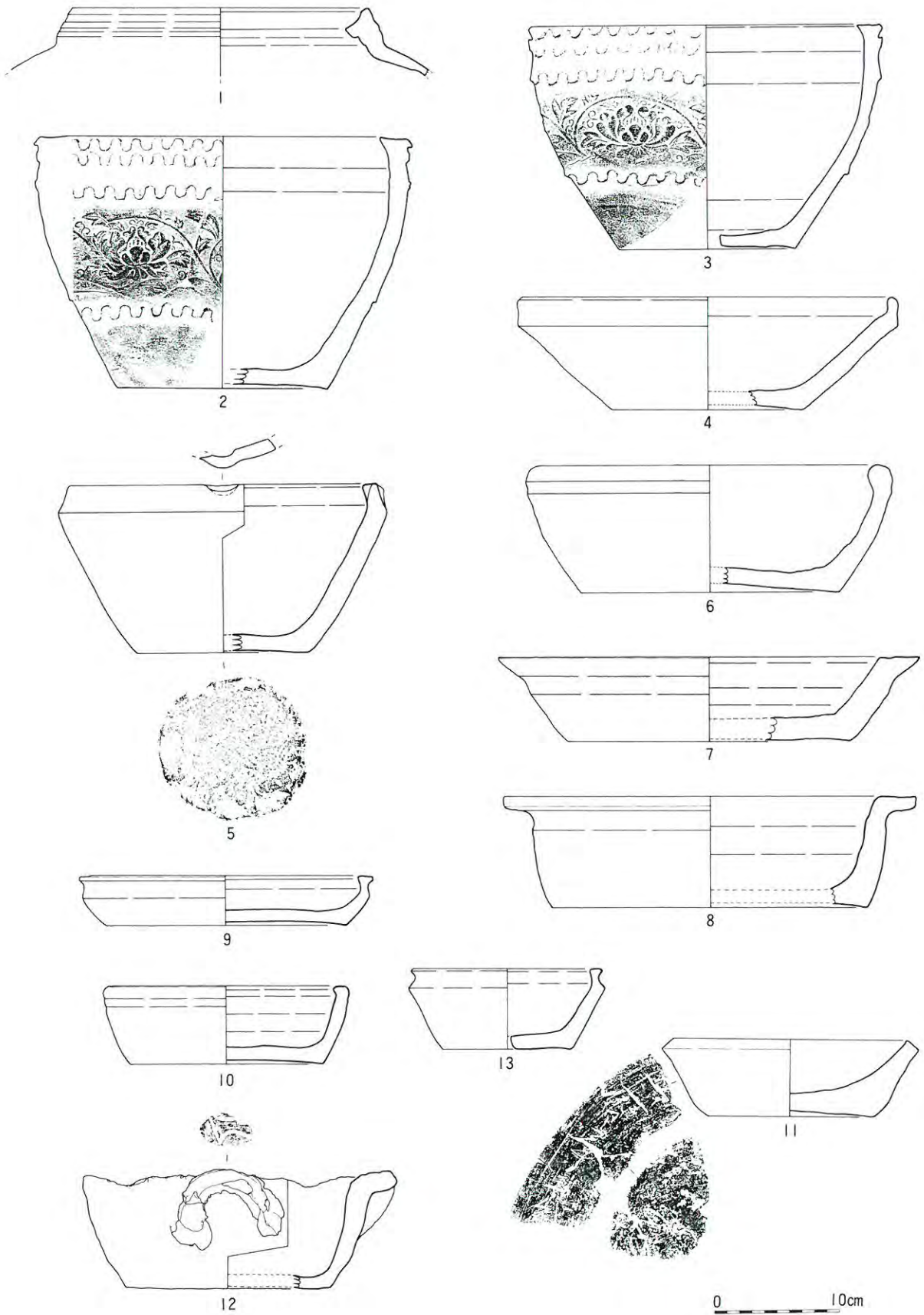
註

- 註1. 下地安宏ほか『浦添城跡発掘調査報告書』 浦添市教育委員会 1985年。
- 註2. 安里嗣淳ほか『勝連城跡』 勝連町教育委員会 1984年。
- 註3. 金武正紀他『今帰仁城跡発掘調査報告書Ⅰ』 今帰仁村教育委員会 1983年。
- 註4. 千葉地遺跡発掘調査団『千葉地遺跡』 1982年。
- 註5. 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒調査研究ニュース』No25 1975年。
- 註6. 大城慧ほか『我謝遺跡』西原町教育委員会 1982年。
- 註7. 宮城篤正（浦添市立美術館館長）より教示を戴いた。記して謝意を表わしたい。

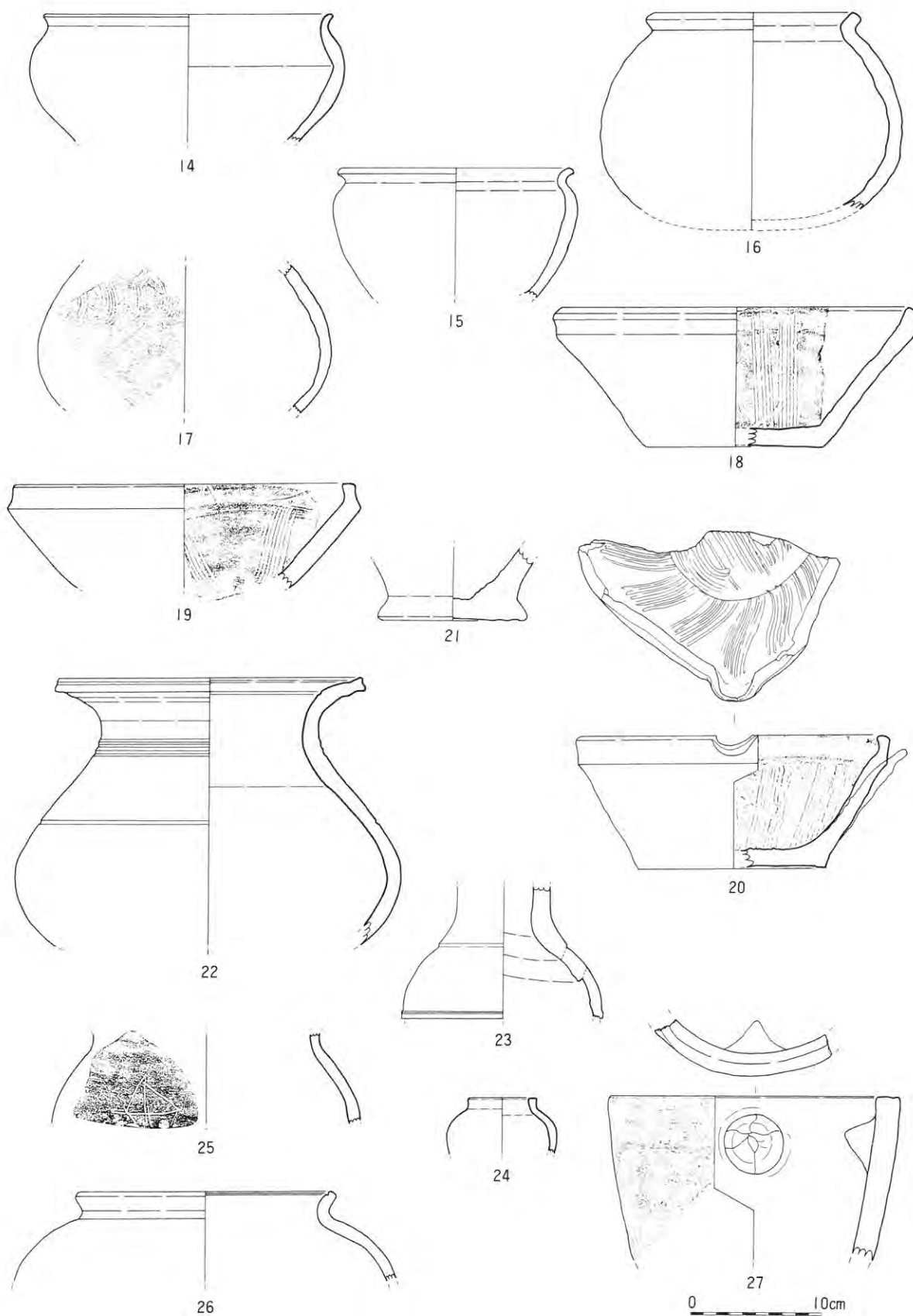
第7表 瓦質土器観察一覧

| 図番 | 分類 | 口径 | 高さ | 器高 | 器径 | 器色 | 器面調整(外) | 器面調整(内) | 混和材 | 文様等 | 備考 | 出土地点 | |
|----------------|---------|--------|--------|--------|-----|----------|-----------|----------|------------|-----------------|------------------|--------------|---------|
| 第91図 Pl.100 | 1 甕 | 23.3 | | | | 淡茶色 | 不明(轆轤?) | 不明 | A, B, C | | 器面が全体的に摩滅。 | I区第2瓦層磚組遺構 | |
| | 2 植木鉢 | 29.0 | 16.6 | 19.8 | | 淡灰色 | 回転擦痕・轆轤 | 轆轤痕・擦痕 | A, C, B | 波状凸帯・通・唐草文 | 底面に雑な磨削りあり。 | I区43第1瓦層 | |
| | 3 植木鉢 | 27.4 | 13.9 | 17.4 | | 淡灰色 | 回転擦痕・轆轤 | 轆轤痕・擦痕 | A, C | 波状凸帯・通・唐草文 | 底面から直径1cmの孔を穿つ。 | I区43第1瓦層 | |
| | 4 こね鉢? | 30.0 | 15.0 | 8.9 | | 明褐色 | 回転擦痕? | 轆轤痕・擦痕 | A, C, B | | 楕球状の器形。 | II区45第3号井戸内 | |
| | 5 こね鉢? | 25.0 | 13.5 | 12.3 | | 淡灰色 | 回転擦痕・磨削り? | 轆轤痕・擦痕? | A, C | | 底面に「L」字状のハ記号。 | I区45第3号井戸内 | |
| | 6 水鉢 | 26.6 | 20.4 | 10.0 | | 淡灰色 | 回転擦痕? | 轆轤痕 | A, C, B | 沈線文 | 底面に丁寧な磨削りあり。 | II区45第3層 | |
| | 7 浅鉢(洗) | 33.2 | 22.2 | 6.6 | | 灰褐色 | 回転擦痕? | 轆轤痕 | A, C, B, D | | 器面が全体的に摩滅。 | I区中央石列側溝第3瓦層 | |
| | 8 浅鉢(洗) | 32.6 | 25.0 | 8.8 | | 灰褐色 | 回転擦痕? | 轆轤痕 | A, C, B | | 底面に雑な磨削りあり。 | I区44第4層 | |
| | 9 浅鉢(盤) | 23.1 | 19.0 | 3.9 | | 淡灰色 | 回転擦痕? | 轆轤痕 | A, C, B | | 底面に丁寧な磨削りあり。 | 出土不明 | |
| | 10 浅鉢 | 19.5 | 15.2 | 6.2 | | 明灰色 | 回転擦痕・磨削り | 轆轤痕・擦痕 | A, C | 沈線文 | 底面に雑な磨削りあり。 | I区45第2層 | |
| | 11 浅鉢 | 20.2 | 13.0 | 6.1 | | 灰褐色 | 擦痕 | 回転擦痕 | A, C, B | | 「萬曆三十三年」、「りる」銘入。 | 出土不明 | |
| | 12 浅鉢 | 23.0 | 16.0 | 9.0 | | 明灰色 | 磨削り・行・指圧 | 磨削り・行・指圧 | A, C, B | 逆「L」字状把手 | | 把手上面に「」のハ記号。 | I区42第3層 |
| | 13 鉢 | 15.2 | 10.2 | 6.4 | | 淡灰色 | 行・磨削り | 轆轤痕・行 | A, C, B | | 底面に5×7mmの孔を穿つ。 | I区44第1層 | |
| 14 鉢 | 21.8 | | | | 明黄色 | 回転擦痕・磨削り | 轆轤痕・擦痕 | A, C | | 外面の磨削りは雑である。 | I区44第1瓦層 | | |
| 第92図 Pl.101 | 15 鉢 | 17.2 | | | | 明灰色 | 回転擦痕・磨削り | 轆轤痕・擦痕 | A, C, B | | | I区45第4層 | |
| | 16 鉢 | 14.8 | | | | 明黄色 | 擦痕・磨削り | 指圧・擦痕 | A, C, E, B | | 胴下部に米(モチウ)の圧痕集中。 | I区45第3号井戸内 | |
| | 17 鉢胴部 | | | | | 淡黄灰色 | 磨削り・行 | 回転擦痕 | A, C, B | 欄描き文 | 筋目は5本一組。 | I区46第4層 | |
| | 18 指鉢 | 27.4 | 13.2 | 10.5 | | 明黄色 | 擦痕・磨削り | 轆轤痕・行 | A, C | 3条一組 | 指り目の摩耗はない。 | I区44第2砂利層 | |
| | 19 指鉢 | 25.2 | | | | 淡灰色 | 回転擦痕・磨削り | 回転擦痕 | A, C | 7条一組 | 布目の圧痕あり。 | I区46第4号井戸 | |
| | 20 指鉢 | 23.6 | 14.7 | 10.0 | | 明灰色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, C | 9条一組 | 指り目の摩耗はない。 | I区45第3瓦層 | |
| | 21 鉢 | | 11.5 | | | 明灰色 | 擦痕 | 不明 | A, E, C, B | | 底面に米(モチウ)の圧痕集中。 | I区46畦状瓦集中部 | |
| | 22 長頸壺 | 22.0 | | | | 明褐色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, C, B | 凸帯文・凹文 | 最大胴径23.0cm。 | I区长瓦列7段裏込め内 | |
| | 23 長頸壺 | | | | | 明褐色 | 擦痕・磨削り | 指圧・磨削り | A, D, C | 凸帯文・沈線 | 最大胴径15.2cm。 | I区44瓦列裏込め | |
| | 24 短頸小壺 | 5.2 | | | | 灰褐色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, B | | 丁寧に仕上げる。 | I区45第2層下部 | |
| | 25 壺胴部 | | | | | 淡灰色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, C, B | 沈線文 | 最大胴径21.6cm。 | I区44第3層瓦集中部 | |
| 26 短頸壺 | 19.6 | | | | 淡灰色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, C | 沈線文 | | I区43第1瓦層 | | |
| 27 火舎 | 22.0 | | | | 灰褐色 | 行・磨削り | 行・磨削り | A, C, B | | 表面に米(モチウ)の圧痕あり。 | I区45第3層 | | |
| 第93図 Pl.102 | 28 火舎 | 17.5 | 13.2 | 9.0 | | 黄灰色 | 回転擦痕・磨削り | 回転擦痕 | A, C, B | | 口底内側に煤付着。 | II区45第8層b | |
| | 29 香炉 | 10.8 | 9.8 | 8.9 | | 灰褐色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, C, B | | 口唇部に煤付着。 | I区46第3層 | |
| | 30 香炉 | 9.4 | 7.4 | 6.9 | | 淡灰色 | 回転擦痕・磨削り | 回転擦痕・磨削り | A, C | | 三足香炉。 | I区46第5層 | |
| | 31 香炉 | 8.3 | 8.3 | 5.5 | | 淡灰色 | 回転擦痕・行 | 回転擦痕 | A, C | | 同上。口唇と内側に煤付着。 | I区46第2瓦層磚組遺構 | |
| | 32 香炉 | 12.5 | 10.6 | 4.7 | | 淡褐色 | 回転擦痕・磨削り | 回転擦痕・行 | A, C, B | | 同上。外側に煤付着。 | I区42第1瓦層 | |
| | 33 香炉 | (14.9) | (11.5) | 10.5 | | 明灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C, B | 丸に四角文・草 | 磨削り?。 | I区44瓦列裏込め | |
| | 34 香炉 | | | | | 明灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C | 波文 | 磨削り?。 | I区47瓦列 | |
| | 35 香炉 | | | | | 橙褐色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C | 丸と分割・区画文 | 片切磨り。 | I区长瓦列西側 | |
| | 36 火舎 | 8.0 | 4.4 | 5.5 | | 淡褐色 | 磨削り・行 | 回転擦痕・磨削り | A, C | | 口唇部に煤付着。 | I区46第2瓦層 | |
| | 37 火舎 | 12.8 | 11.2 | 5.0 | | 明黄色 | 回転擦痕・磨削り | 回転擦痕 | A, C | | 口唇部が焼ける。 | I区44第3層 | |
| | 38 火舎 | 11.6 | 10.2 | 5.5 | | 灰褐色 | 回転擦痕 | 回転擦痕・磨削り | A, C | | 内底は孔を穿つ途中で止まる。 | I区42第2層 | |
| | 39 碗 | 8.6 | 4.5 | 3.4 | | 明黄灰色 | 回転擦痕・磨削り | 行・磨削り | A, C | | | I区45第4層 | |
| | 40 杯? | 11.4 | | | | 黒灰色 | 磨削り・磨き | 磨削り・磨き | A, C | | 丁寧に磨きを入れ、仕上げる。 | I区45第1瓦層 | |
| | 41 燈明皿 | 8.6 | 4.0 | 3.0 | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 行 | A, C | | 内面口縁に煤付着。 | I区 | |
| | 42 燈明皿 | 9.6 | 3.8 | 2.5 | | 灰褐色 | 磨削り・行 | 行 | A, C | | 内底に煤付着。 | I区46第2層瓦集中部 | |
| | 43 茶釜 | 9.1 | | | | 灰褐色 | 回転擦痕・磨削り | 回転擦痕 | A, C | 有孔把手 | 最大直径23.1cm。煤付着。 | I区42第2瓦層 | |
| | 44 茶釜 | 13.0 | | | | 明黄色 | 回転擦痕 | 回転擦痕 | A, C, D | 筋端に浅い凹線 | 最大直径23.3cm。 | I区中央北瓦列内側4段目 | |
| 45 蓋 | | | | | 灰褐色 | 回転擦痕・磨削り | 磨削り | A, C, B | 同心円状の文様 | 最大直径10.1cm。 | I区45第2瓦層 | | |
| 46 茶釜の蓋 | | | | | 明黄色 | 行? | 磨削り・行 | A, C | | 最大直径12.0cm。有孔。 | I区44第2瓦層 | | |
| 47 用途不明 | | | | | 明灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C | | 最大直径5.0cm。中空。 | I区44第3層 | | |
| 48 脚台? | 11.4 | | | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C, B | 三角凸帯 | | I区44第3層 | | |
| 49 漏斗 | 10.4 | 2.8 | 7.6 | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C, B | | 最大内径1.1cm。 | I区42第3層 | | |
| 50 底部 | | 8.0 | | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 回転擦痕 | A, C | | 「」のハ記号あり。 | I区 | | |
| 第94図 Pl.103 | 51 置き物 | | | | | 明褐色 | 磨削り・行 | 雑な磨削り | A, C, B | 沈線・片切磨り | 龍の角。 | I区45第1瓦層 | |
| | 52 人形 | (2.8) | (2.2) | | | 灰褐色 | 行 | | B, F | | 灰褐色の自然釉付着。陶器。 | I区北側第1瓦層 | |
| | 53 人形 | 厚さ4.9 | 幅5.1 | 高さ11.6 | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C | | 線彫りにて表現。 | I区42第1層 | |
| | 54 団扇? | 長さ3.4 | 幅2.7 | 厚さ0.8 | | 淡灰色 | 磨削り | 磨削り・行 | A, C | | 同上。 | I区46第3層 | |
| | 55 置き物 | 長さ13.9 | 幅10.4 | 厚さ4.2 | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行・擦痕 | A, C | | 亀と鶴の足(有孔)。 | I区46第2瓦層下部 | |
| | 56 置き物 | 厚さ5.9 | 幅8.8 | 高さ8.1 | | 淡褐色 | 磨削り・行 | 行 | A, C, E | | 蛙? | 42第3層 | |
| | 57 置き物 | 長さ7.7 | 幅6.6 | 高さ6.6 | | 灰褐色 | 磨削り・行 | 底面・磨削り・行 | A, C | | 亀と鶴。 | I区42第3層 | |
| | 58 把手? | 厚さ4.1 | 幅5.9 | 高さ8.9 | | 淡灰色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C, B | | 人面? | I区45第2瓦層 | |
| | 59 鐘 | 厚さ1.5 | 幅1.9 | 長さ4.8 | | 明褐色 | 磨削り・行 | 磨削り・行 | A, C, B | | 重量14.0g | I区表土層 | |
| | 60 用途不明 | 長さ11.3 | 幅9.1 | 厚さ1.8 | | 淡灰色 | 磨削り | 磨削り | A, C, B | | 重量109g | I区44 | |

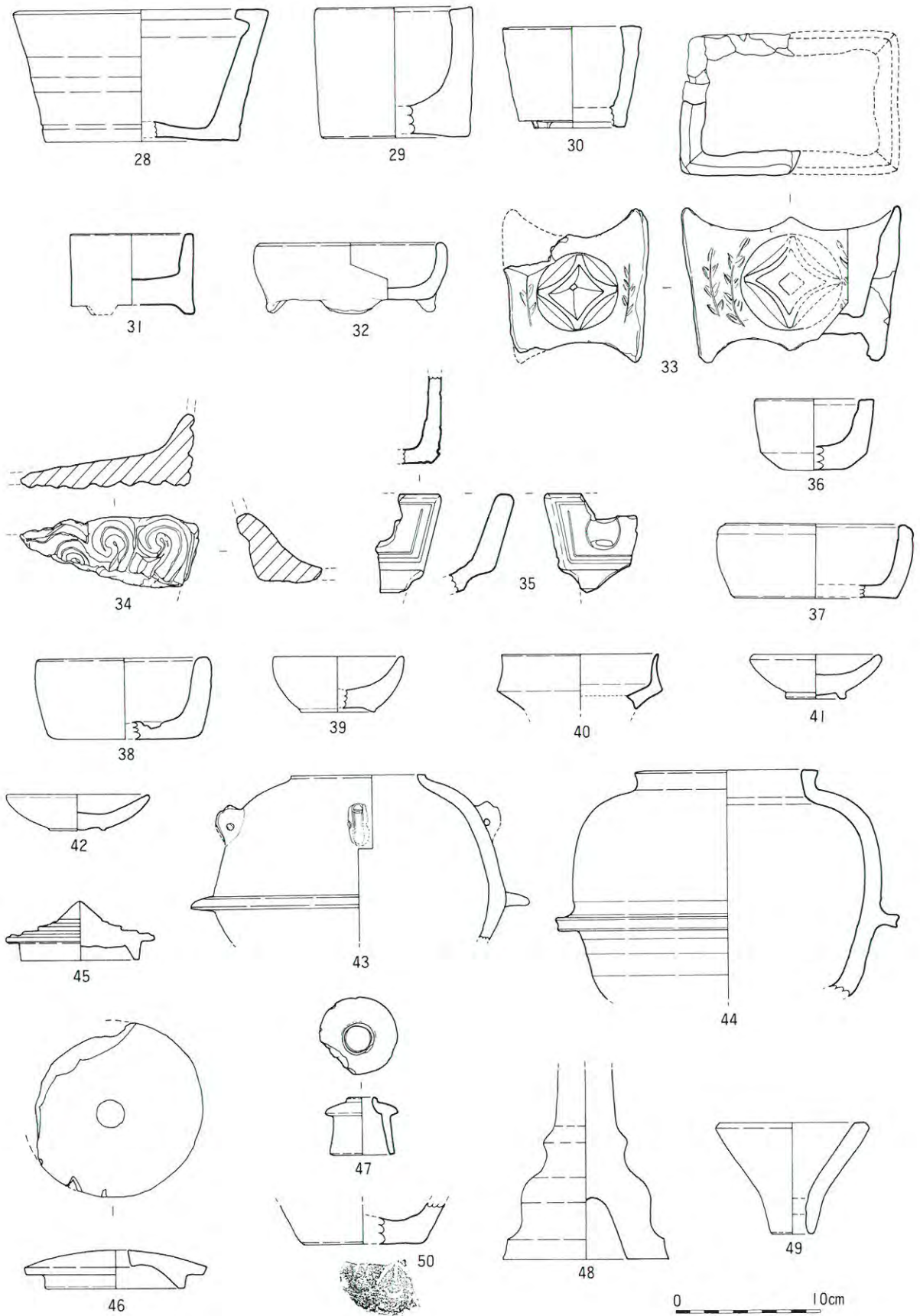
注: 混入物が多い順に記した。混入物のAは雲母(細片化)、Bは石英、Cは茶色・灰褐色の物質、Dは石灰質砂粒、Eはモチウ、Fは黒色鉱物



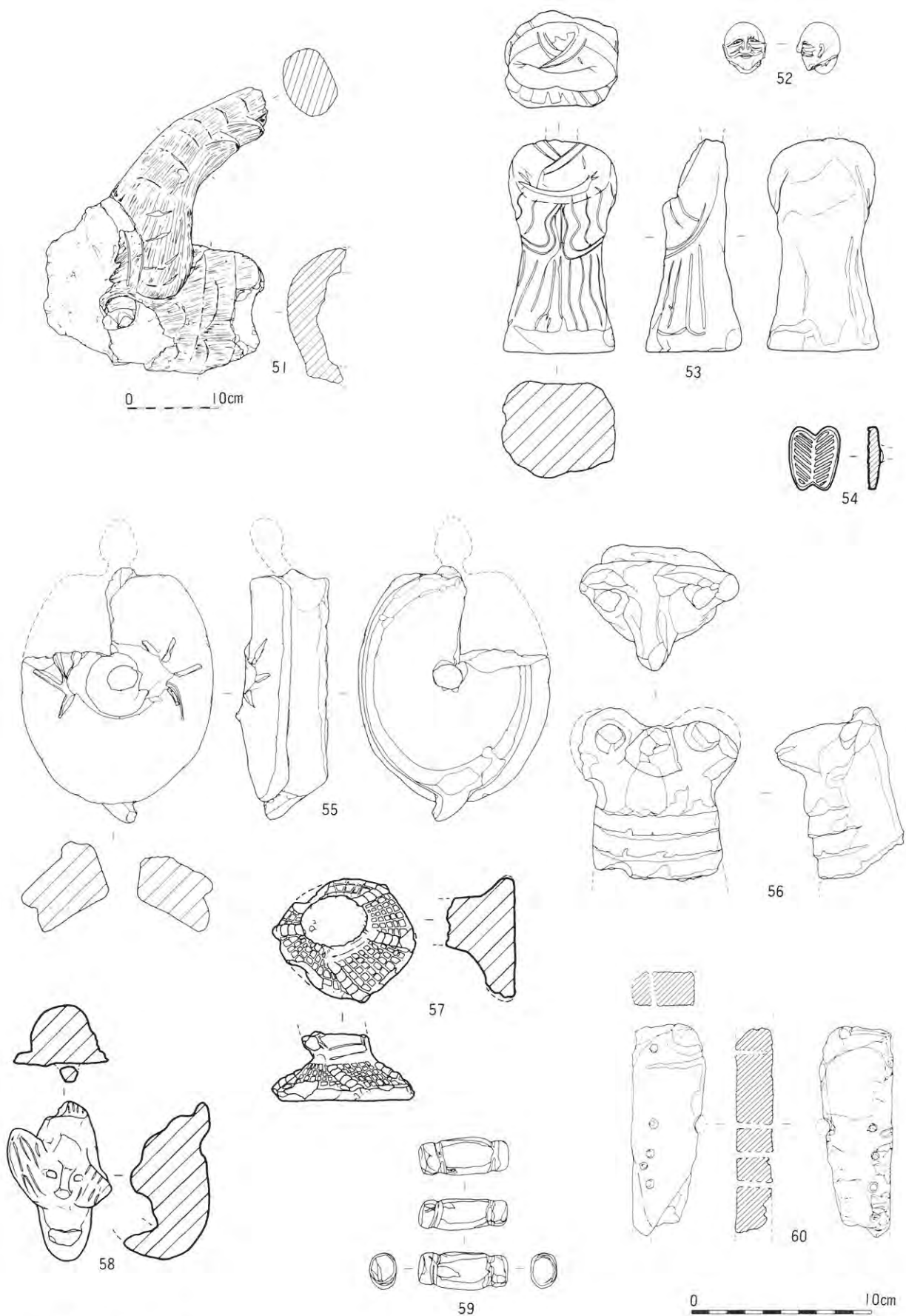
第91図 瓦質土器



第92図 瓦質土器



第93图 瓦質土器



第94図 瓦質土器

第15節 瓦 類

今回の調査で膨大な量の瓦類が得られている。ほとんどのものが小破片であるが、完形のものも多く見受けられる。軒瓦の型、窯入れしてないものやかなり変形したもの、数枚～10枚前後のものが熔着したものなどもみられ、生産地としての状況を如実に物語るようであった。種類のには軒丸・軒平瓦、丸・平瓦、塙瓦などの屋根瓦類と塙、レンガなどがみられる。これらの製品のほとんどが灰色のもので、本遺跡は灰色瓦を主に焼いた窯場であることが確認された。また、瓦はほとんどが明式瓦と呼ばれるもののように、丸瓦は2つ切り、平瓦は4つ切りである。また、これらの製品の中には○に大の字など数種の文字が記されるマークのようなものがみられるものも認められる。以下、今回得られた瓦類について種別に概略を述べる。

1. 軒丸瓦

ほとんど瓦当部のもので、代表的なものを第96図に示した。ほとんどが直径約17cmのものであるが、1は約19cmを測る。外区の幅は1cm前後で、無文。内区に連珠と花文を配しており、文様に数種見受けられる。1～4および6～11はそれぞれひとつの流れの中で捉えられようか。前者のものは後者のものに比べ、連珠が密に配されるようである。また、瓦当部の取り付け状況も若干異なるようである。第97図17は玉縁部までであるが、瓦当部の直径が約15cmとやや小さ目で、無文である。全体的な状況が赤瓦に近く、縁の部分に漆喰の付着もみられる。

2. 丸 瓦

第97図に示した。今回得られたものからすると、筒は直径が約10cmのようである。左右の縁は割ったままの状態、玉縁部の裏側だけ削って調整している。全体の長さは約33cmで、玉縁部は5cm前後。厚さは2cm弱のものが普通のものである。16は玉縁部が小さ目で、縁部を丁寧に調整しており、色合も赤瓦に近い。12は○に大の字のスタンプが押されている。

3. 軒平瓦

瓦当部のものがほとんどで第98図に示した。髭瓦ともよばれる。施される花文に数種みられるようである。垂れ部の長さが約13cmのもの（8～10など）と約12cmのもの（1・3～7）がみられる。谷部の凹みもやや深いもの（1・3～10）や浅いもの（2～7・13・14）などが見受けられ、谷部の凹みが浅いものは、垂れ部が短めのものに多い傾向がみられるようである。2は他の資料に比べ、やや小振りのものである。

4. 平 瓦

第99図に5点だけ示した。5は数枚のものが溶着した例である。長さ約25cm、頭幅が約25cm、尻幅が約21cmで、谷部は約3.6cm、厚さ2cm弱のものが普通のものである。凹面には桶を繋ぐ紐の痕も残り、板の幅は約4cmである。桶は頭部の直径が約35cm、尻部の直径が約27cmかと想定される。

5. 塙瓦

第100図に3点を示した。1は山形になるもので、一辺の幅が約12cm、左側の面に○に大の字のスタンプがみられる。長さは約22cmで、上端では表面に、下端では裏面に1.5cmほどの切り込み部が設けられている。2・3は大体25×30cmの大きさで、裏面の左側は斜めに削られ、鍵状の把手が左寄りに付される。厚さは約3cmで、2と3は上・下端の切り込み部の面が逆になっている。

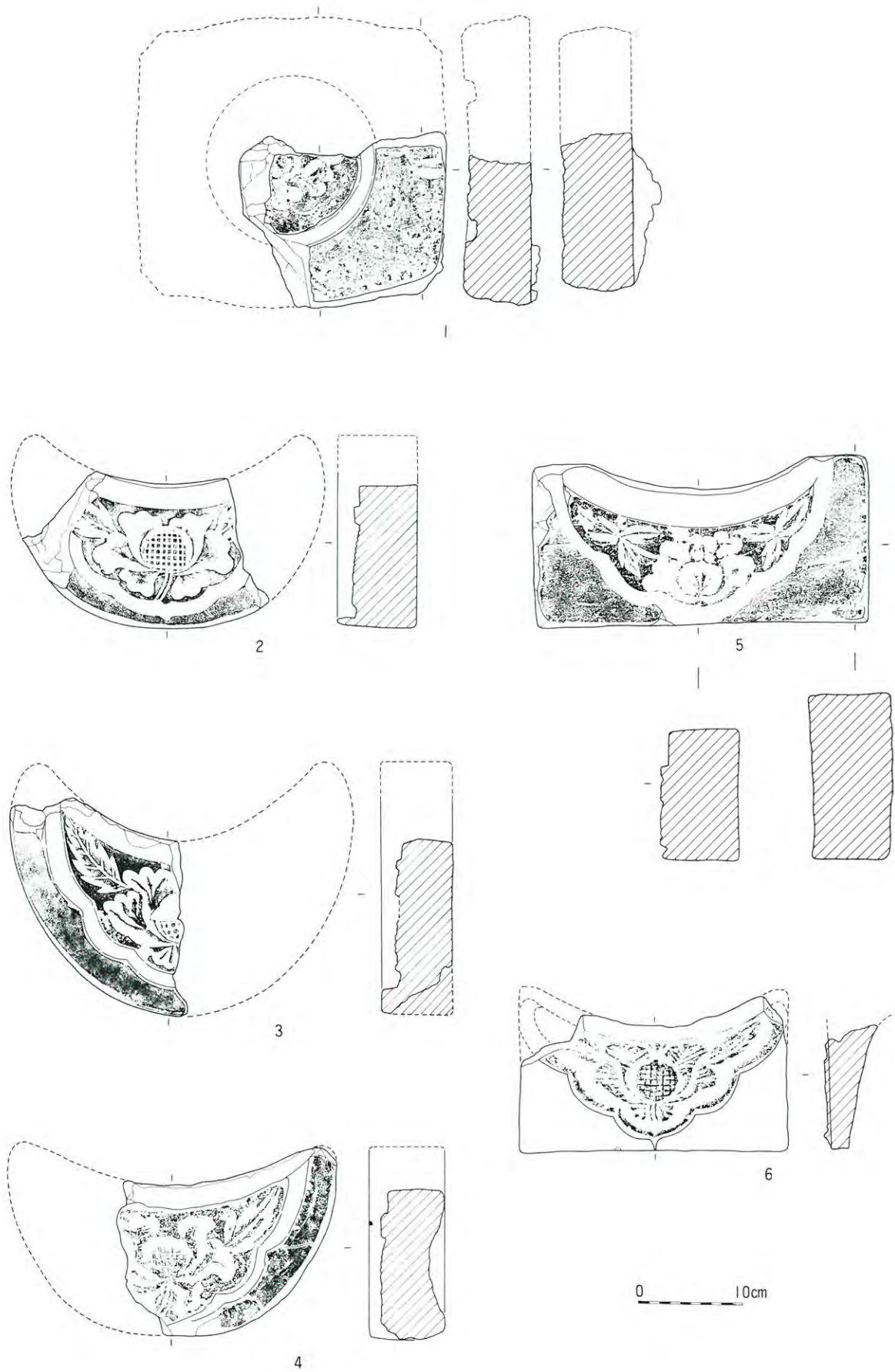
6. 塙

第100図4～6、第102図に示したものである。3cmぐらいの厚みで、大体26cmの方形状を呈し、平坦に仕上げられている。表面はより丁寧な仕上げで、側縁部は裏面の方へ若干斜めに整形されている。第100図4～6のように表面に草花文を配したものも見受けられる。4は上下2段に同じような文様がみら

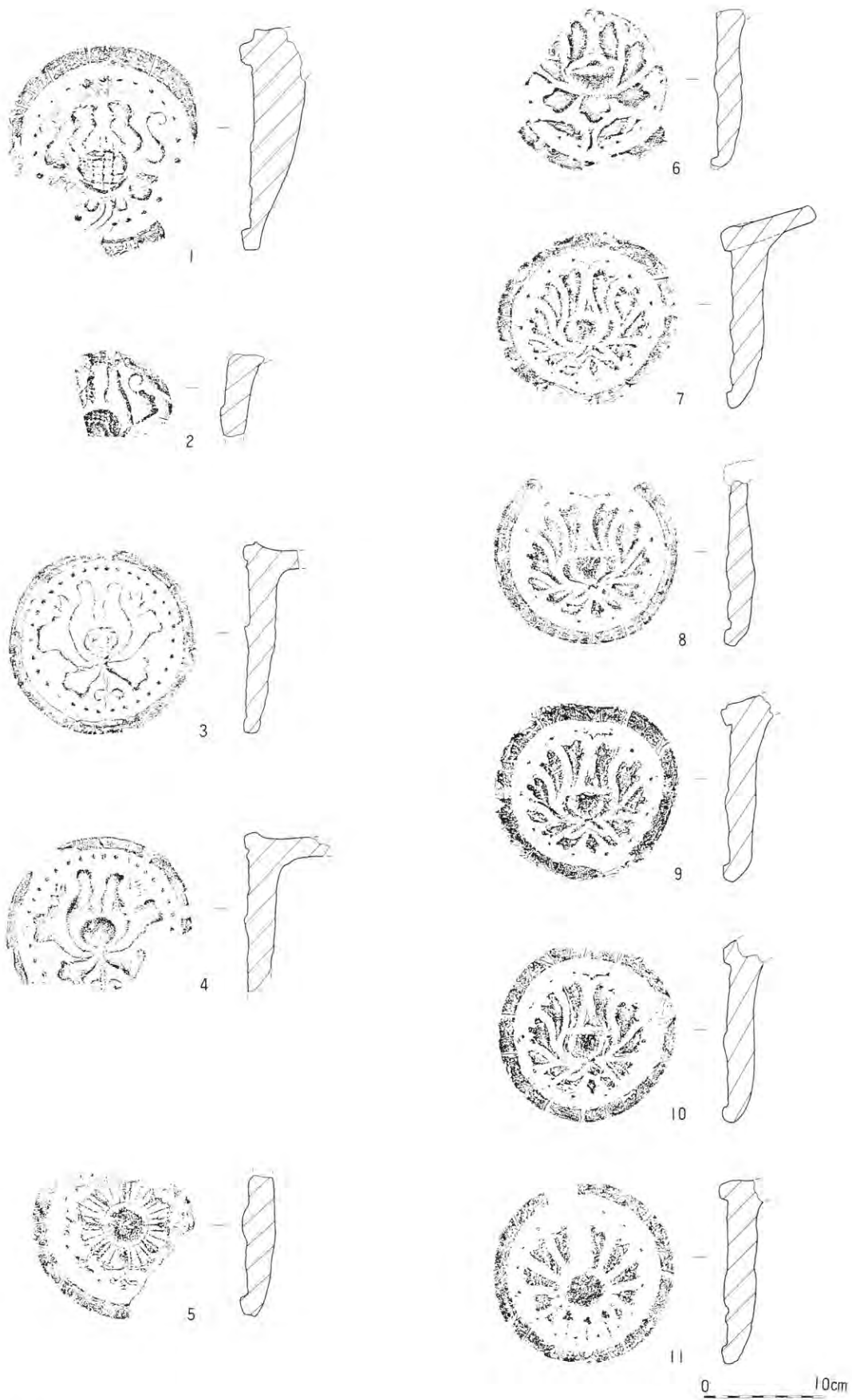
れ、5・6は一団の文様を半分にしたような三角形のものである。第101図6の無文の三角形を呈すものは、○に大の字のスタンプがみられる。

7. レンガ

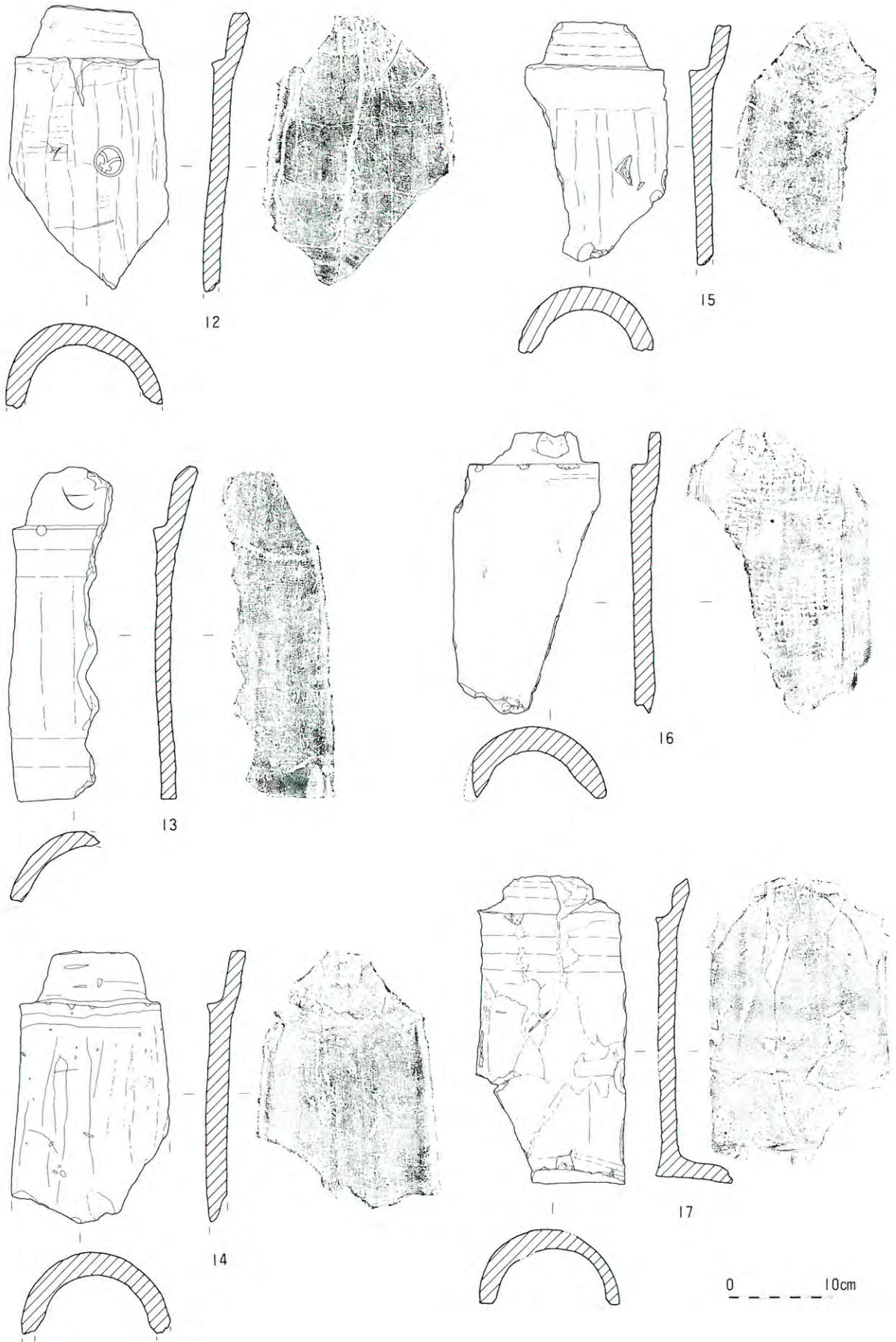
8cm前後の厚みを有すもので、第102図に示した。直方体のものであるが、凹面となる面を有するものが多く、細かくみると若干のバリエーションがみられる。かなりひび割れの入るものが多く、部分的に色の異なるものが目につく。



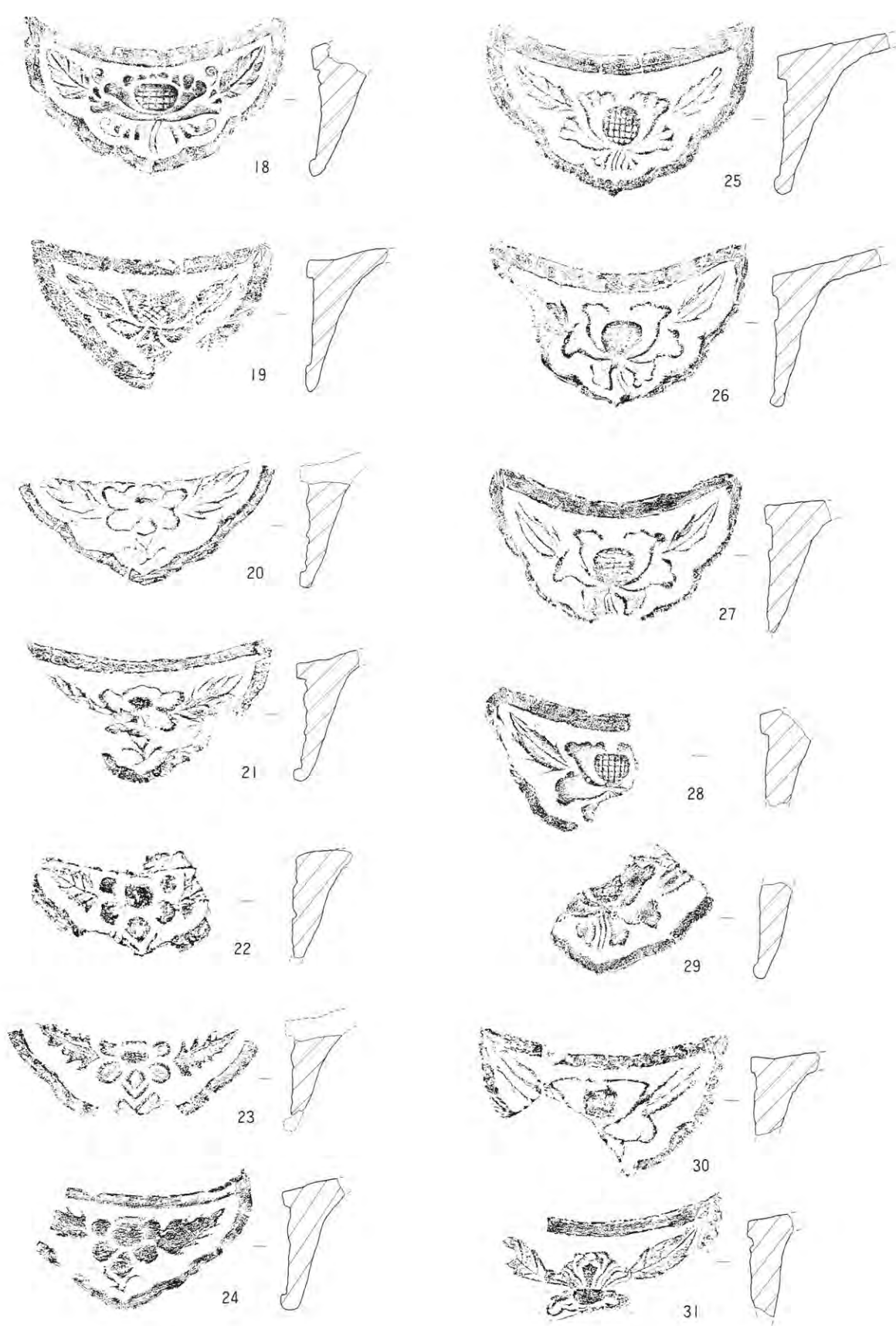
第95图 瓦型



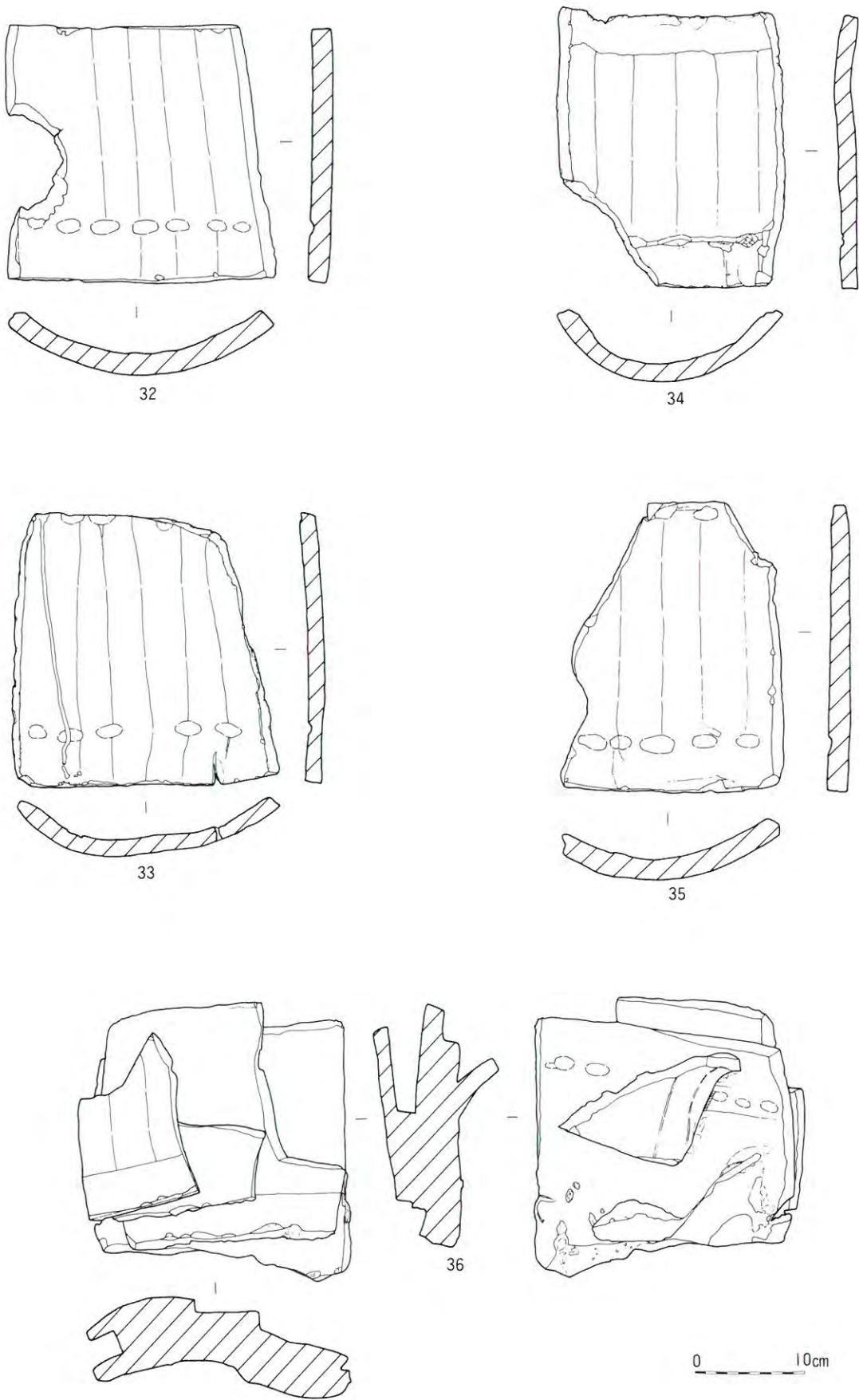
第96図 軒丸瓦



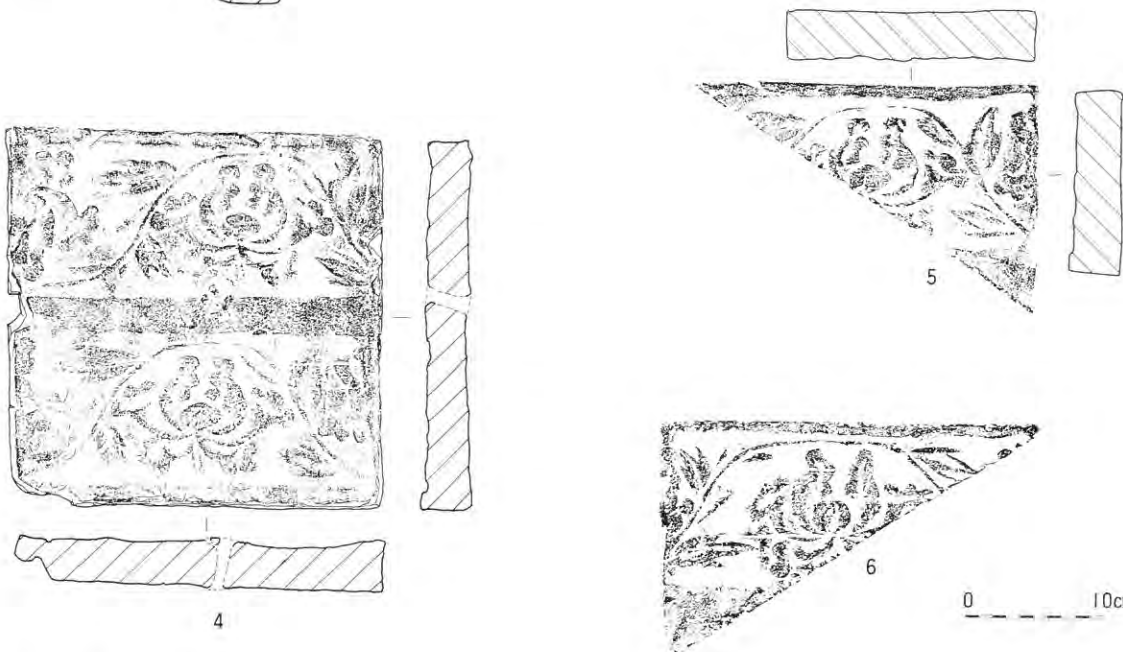
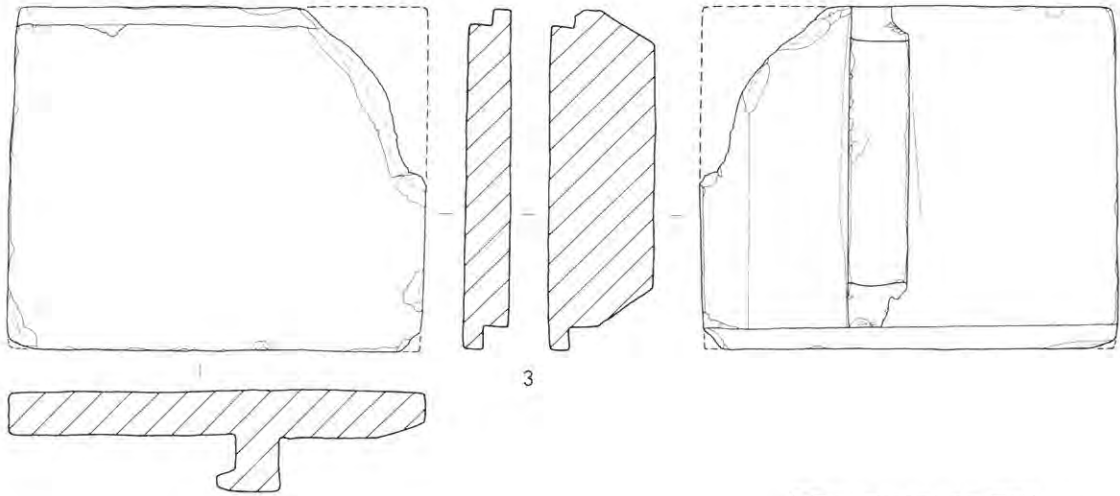
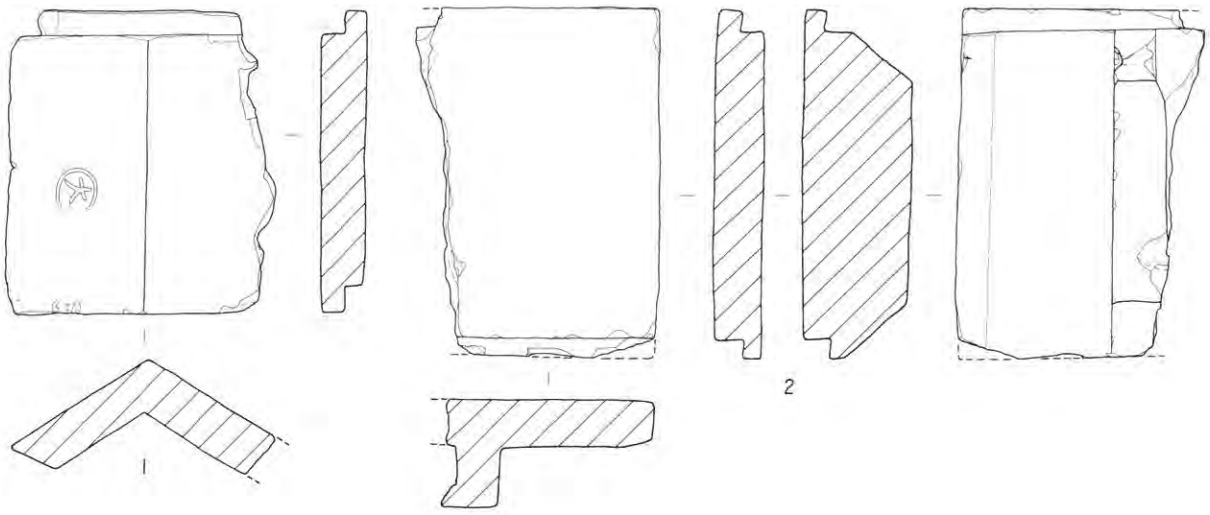
第97図 丸瓦



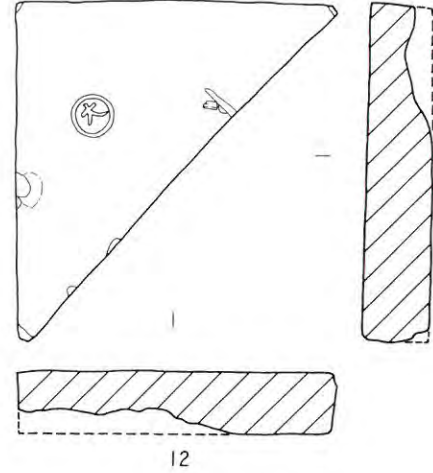
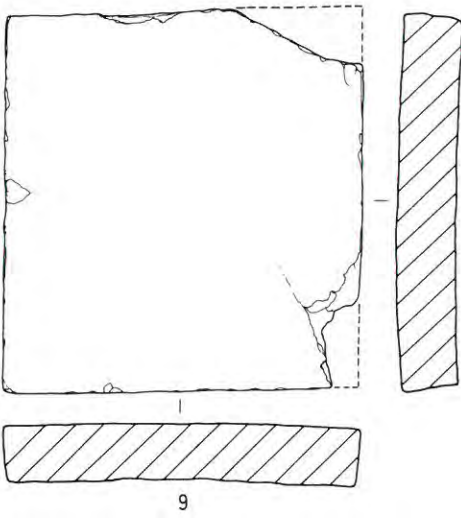
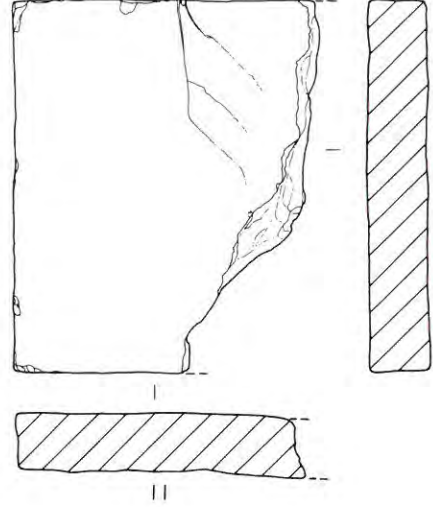
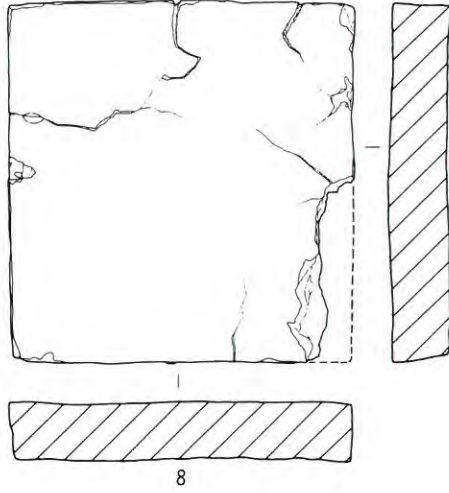
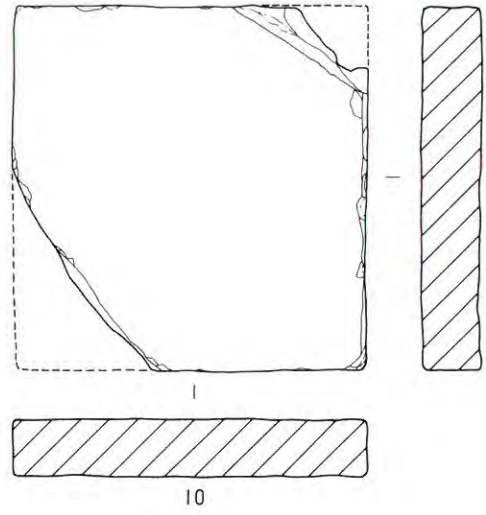
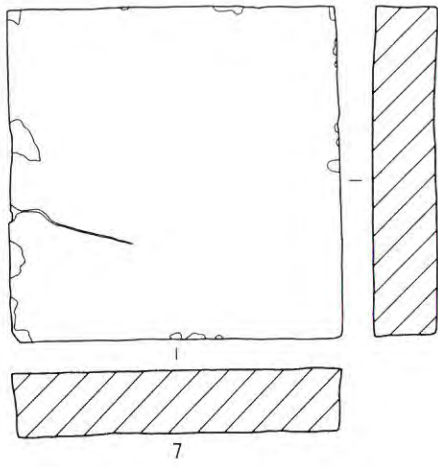
第98図 軒平瓦



第99图 平瓦

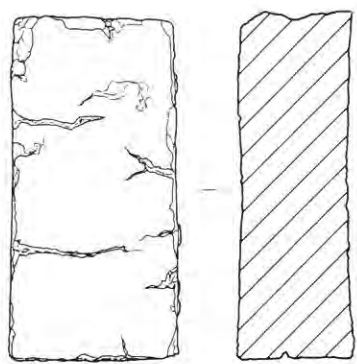


第100図 磚瓦



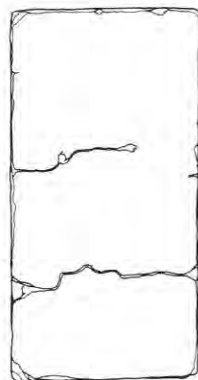
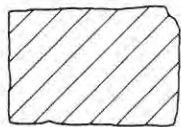
0 10cm

第101図 博

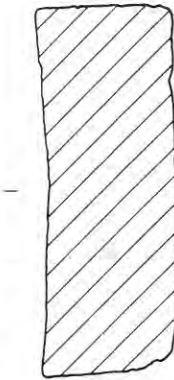


1

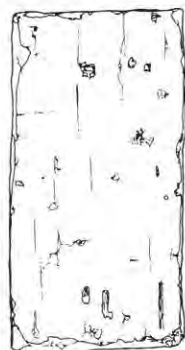
1



4

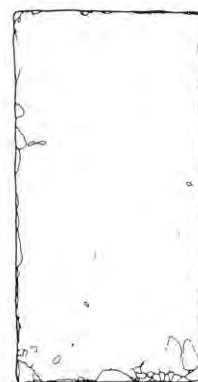
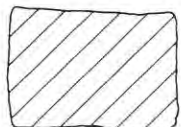


4

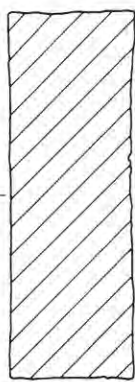


2

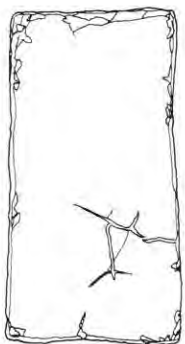
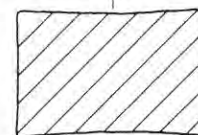
2



5

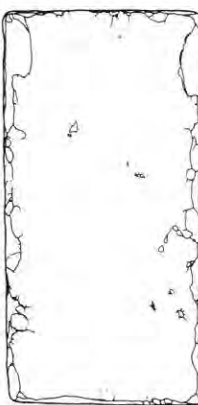
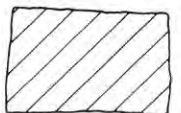


5

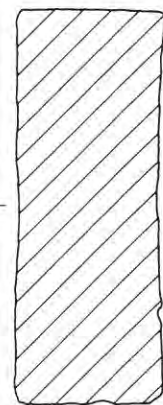


3

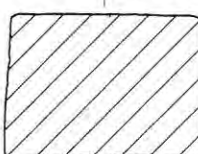
3



6



6



0 10cm

第102図 レンガ

第16節 金属製品

金属製品については、I地区、II地区、III地区ともに出土品は少なかった。攪乱を受けた状態の中からの出土や包含層中からは断片的な出土となっている。明確な湧田の時期に伴って出土した資料は少ない。鉄製品では断面方形の釘、刀子状製品、棒状品、他形状不明品となっている。

青銅製品ではカンザシ（第115図版）、指輪、形状不明品であった。

第17節 銭貨

銭貨はI地区で最も多く出土している。種類については第10表のとおりである。

第18節 鉄滓、羽口

1. 鉄滓

鉄滓はI地区からわずかに2片のみである。外形からは木炭のかみ込みや炉壁の残片が付着している。小さな気泡が出来ており、ゆたれが見られる。鍛冶滓の様相を呈している。

2. 羽口

I地区からわずかに1点のみである。45長瓦列裏口から出土したものである。直径13cmの円形状で、中央部は十字形に成形された通風孔3.5cm×4.0cmの大きさを造ってある。両端が欠損しており、全長は計測できない。土製品。

第19節 埴埴

I地区からのものが大半であるがほとんど欠損している。口縁部が平縁に成形され底部は丸底になる。1は口径5cm、高さ6cm、器壁0.7cm、2は口径6.4cm、高さ6cm、器壁0.5cmの薄手の小壺である。内外面ともに高温を受けた状態でガラス状の黒色の光沢ができています。さらに外面に釉状の溶解した状態が見られる。内面にわずかに青銅サビが付着している。

第20節 硯、石製品（砥石、くぼみ石、他）

1. 硯

いずれも破損しており、全形がわからない。I地区、II地区から出土している。破損している箇所はいずれも墨汁を受ける部分からである。器厚が薄いことから、最も破損しやすい状態となっている。裏面が平面のままになっているものと、ゆるやかに凹面をつくるものがある。

2. 凹石

砂岩製でやや方形状の製品である。5面に浅い凹みが残っている。2面の上下の端部に小さな敲打痕がみられる。長さ9.1cm、幅5.5cm、重量350グラム。II地区出土。

第10表 古錢觀察一覽

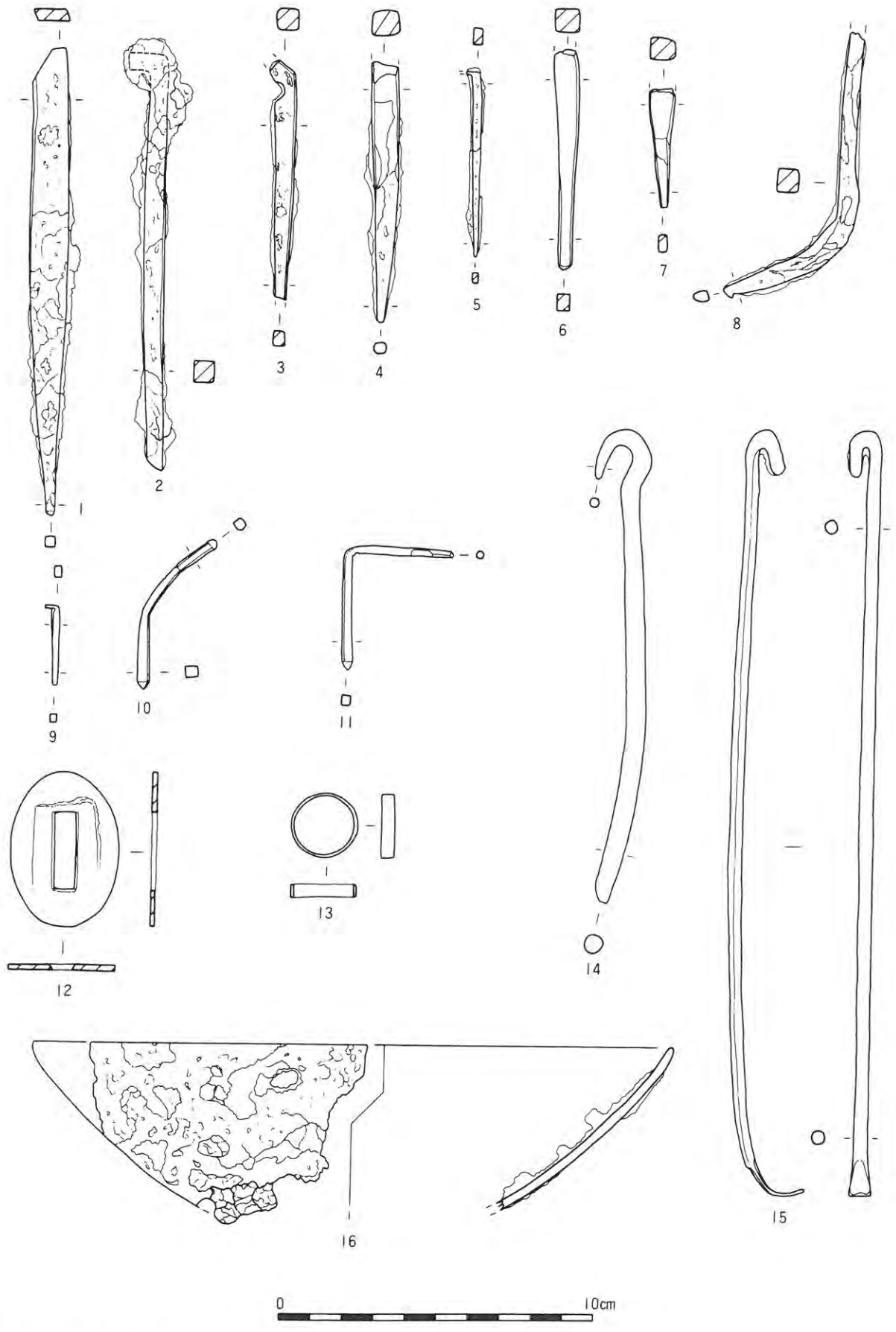
| 種別 | 古錢名 | 裏面 | 完/破 | 時代 | 初鑄 | 直徑/cm | 書体 |
|----|------|-----|-----|----|-------|-------|----|
| 1 | 開○○○ | なし | 破 | | | 2.25 | |
| 2 | 天禧通寶 | なし | 完 | 北宋 | 1018年 | 2.45 | 楷書 |
| 3 | 天禧通寶 | なし | 破 | 北宋 | 1018年 | 2.45 | 楷書 |
| 4 | 皇栄通寶 | なし | 破 | 北宋 | 1039年 | 2.45 | 楷書 |
| 5 | 熙寧元寶 | なし | 完 | 北宋 | 1068年 | 2.15 | 楷書 |
| 6 | 元豊通寶 | なし | 破 | 北宋 | 1078年 | 2.45 | 隸書 |
| 7 | 元祐通寶 | なし | 破 | 北宋 | 1093年 | 2.5 | 隸書 |
| 8 | 聖栄元寶 | なし | 破 | 北宋 | 1101年 | 2.45 | 隸書 |
| 9 | 宗寧□□ | | 破 | 北宋 | 1102年 | 3.5 | 楷書 |
| 10 | 大觀通寶 | なし | 完 | 北宋 | 1107年 | 2.4 | 楷書 |
| 11 | 大○○○ | なし | 完 | | | 2.35 | 楷書 |
| 12 | 洪武通寶 | なし | 完 | 明 | 1368年 | 2.35 | 楷書 |
| 13 | 洪武通寶 | なし | 破 | 明 | 1368年 | 2.35 | 楷書 |
| 14 | 洪武通寶 | 一銭? | 完 | 明 | 1368年 | 2.3 | 楷書 |
| 15 | 永樂通寶 | | 完 | 明 | 1368年 | | 楷書 |
| 16 | 永樂通寶 | なし | 完 | 明 | 1368年 | 2.45 | 楷書 |
| 17 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.4 | 楷書 |
| 18 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.2 | 楷書 |
| 19 | 鳩目銭 | なし | 完 | | | 1.35 | 無文 |
| 20 | 鳩目銭 | なし | 破 | | | 1.5 | 無文 |
| 21 | 鳩目銭 | なし | 破 | | | 1.65 | 無文 |
| 22 | 鳩目銭 | なし | 完 | | | 2 | 無文 |
| 23 | 鳩目銭 | なし | 完 | | | 1.9 | 無文 |
| 24 | 鳩目銭 | なし | 完 | | | 1.85 | 無文 |
| 25 | 鳩目銭 | なし | 完 | | | 1.9 | 無文 |
| 26 | 無文銭 | なし | 完 | | | 2.15 | 無文 |
| 27 | 無文銭 | なし | 完 | | | 2.2 | 無文 |
| 28 | ○○○○ | なし | 完 | | | 2.5 | |
| 29 | ○○○○ | なし | 完 | | | 2.35 | |
| 30 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.3 | 楷書 |
| 31 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.4 | 楷書 |
| 32 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.3 | 楷書 |
| 33 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.2 | 楷書 |
| 34 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.3 | 楷書 |
| 35 | ○永○寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.25 | 楷書 |
| 36 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.25 | 楷書 |
| 37 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.25 | 楷書 |
| 38 | 寛永通寶 | なし | 完 | 日本 | 1624年 | 2.25 | 楷書 |
| 39 | □永通寶 | なし | 破 | 日本 | 1624年 | 2.4 | 楷書 |
| 40 | □○○○ | なし | 破 | 日本 | 1624年 | 1.95 | |
| 41 | 寛□通□ | なし | 破 | 日本 | 1624年 | 2.8 | 楷書 |

3. 砥石

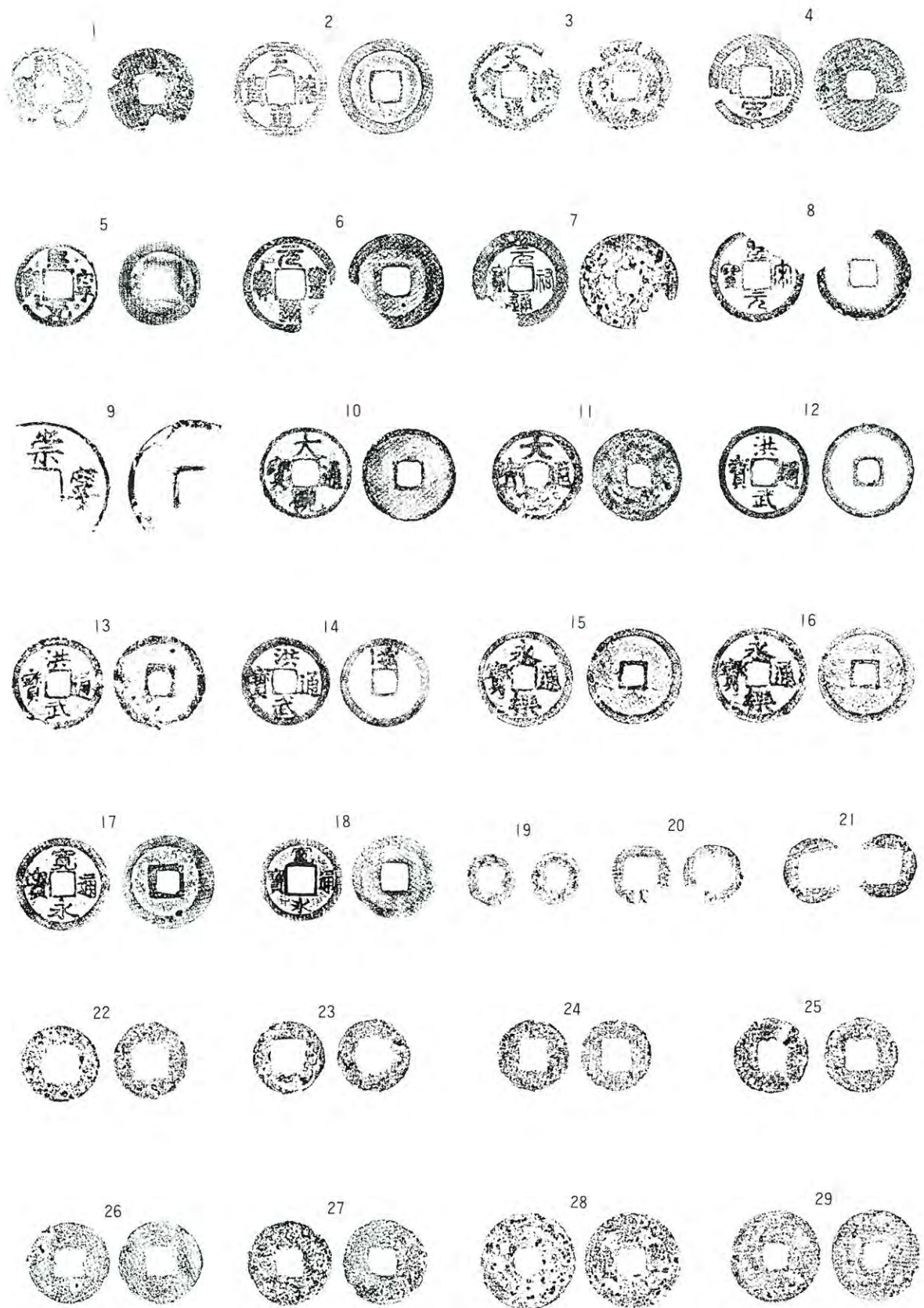
ややバチ形の方形状をなす。四面に砥ぎ面が残る。砥ぎ面には細い線条痕がみられる。I地区出土。重量380グラム。

第21節 キセルの雁首

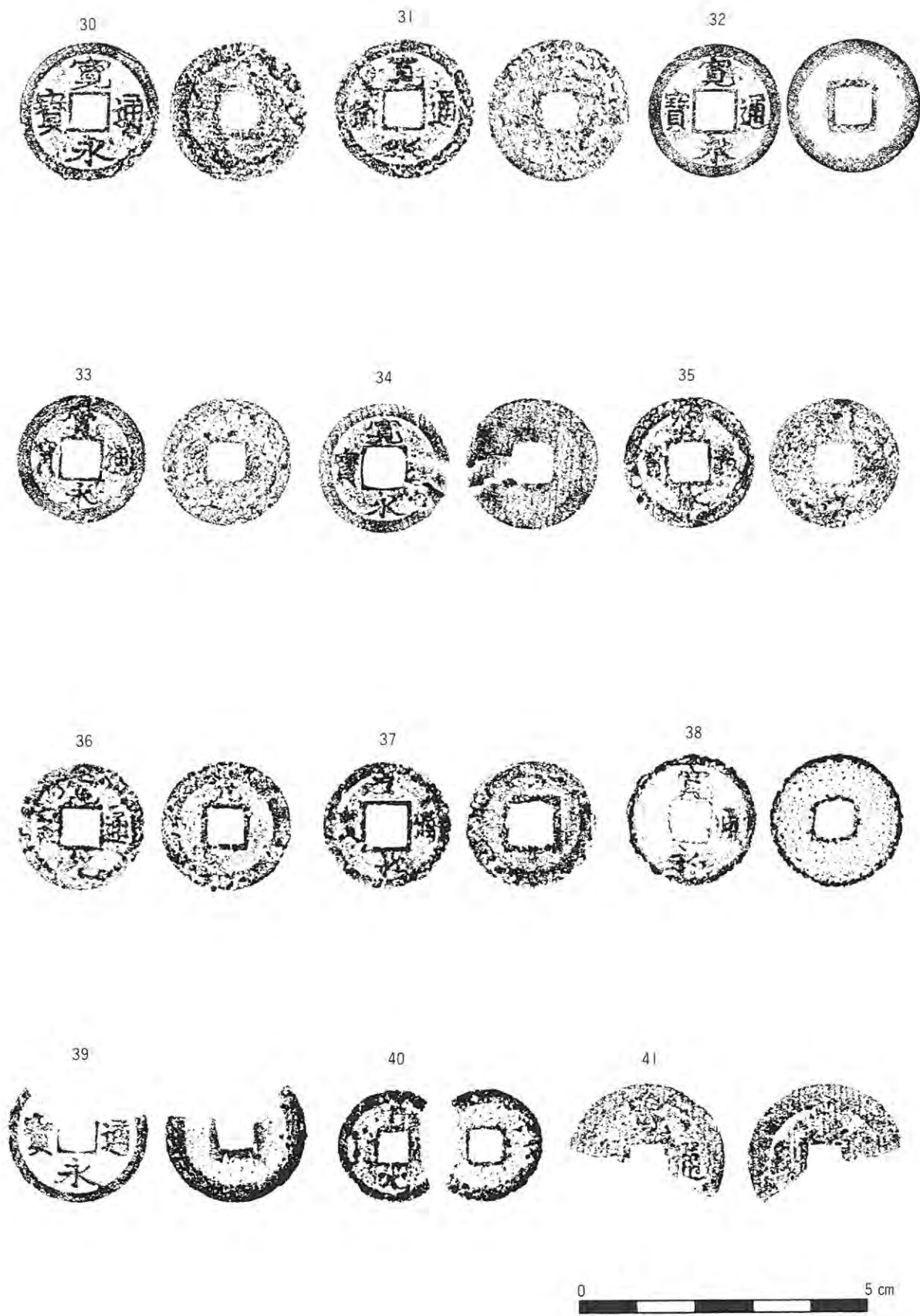
キセルは火皿部分と吸口部のみが残った資料である。各地区において出土している。無釉の陶製品は火皿部と煙管部に接続する部分はいずれも六角形～八角形に成形している。火皿部は径1.7cm前後が大半である。上葉がかかったものもあり、火皿部は円形で1.5cm。



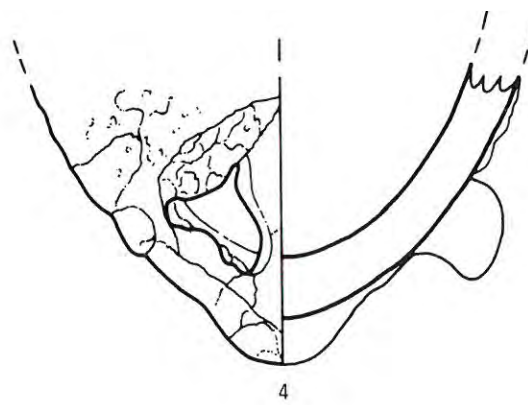
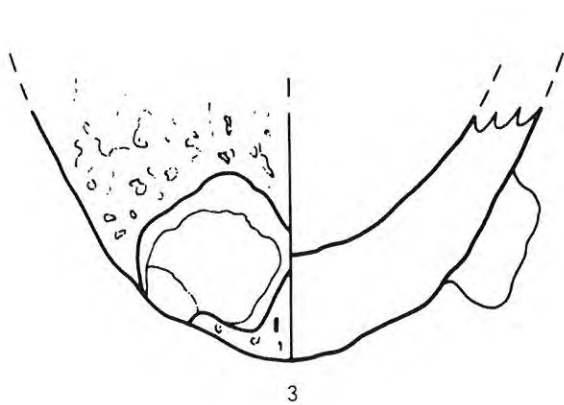
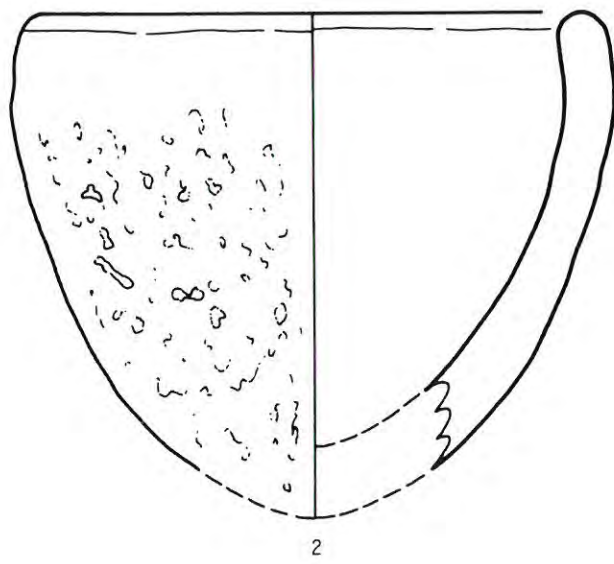
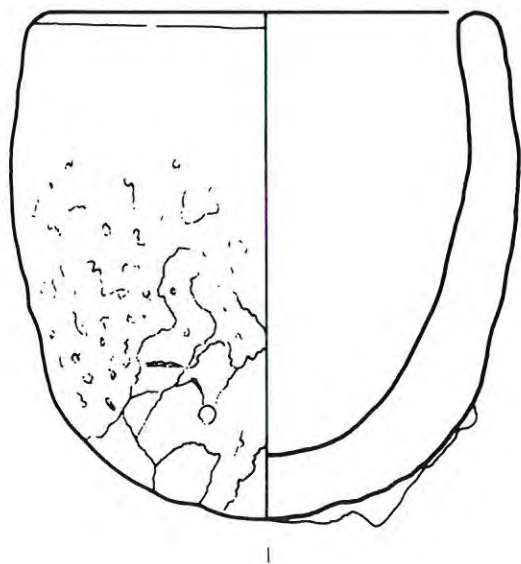
第103図 金属製品



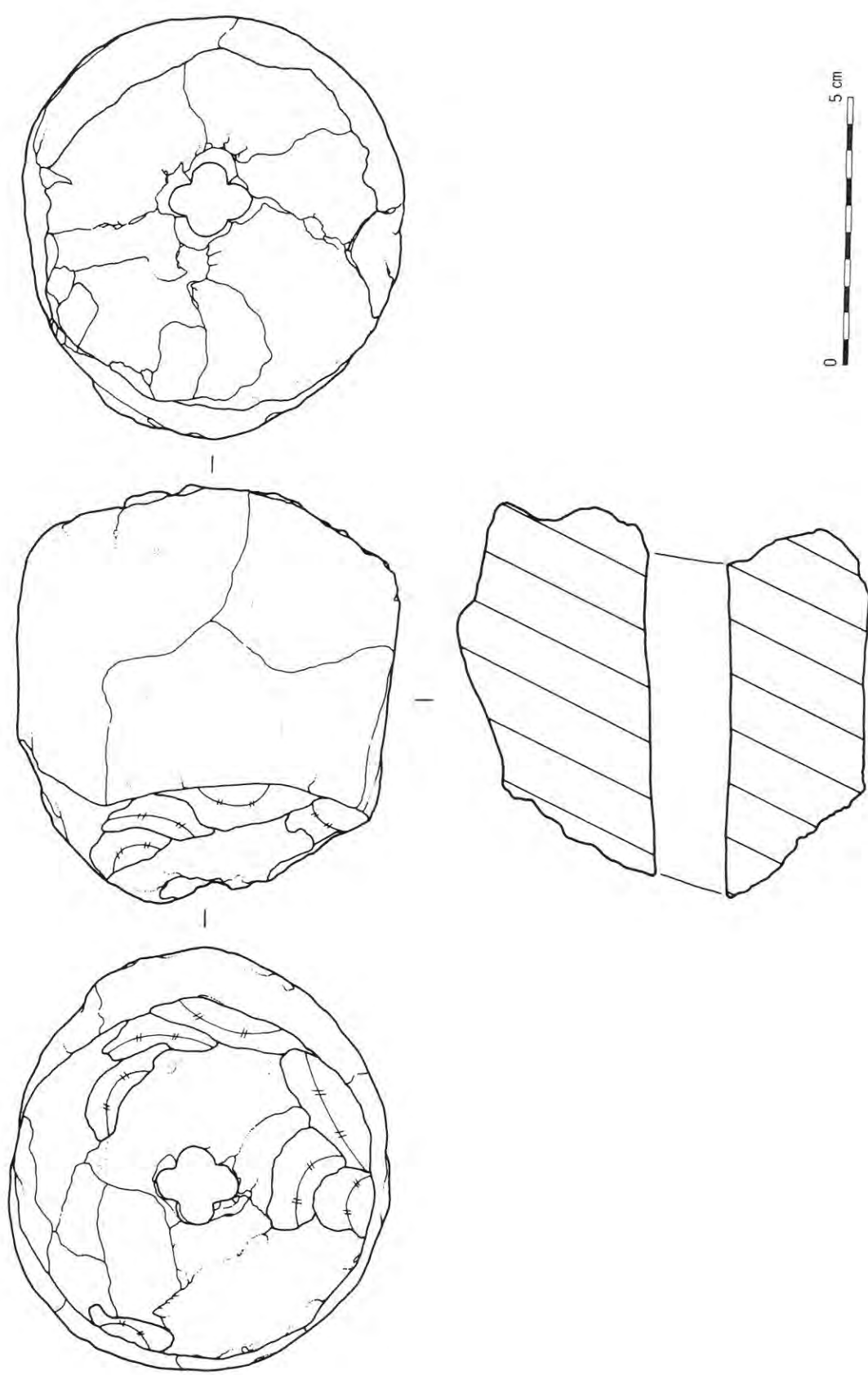
第104圖 錢貨拓影



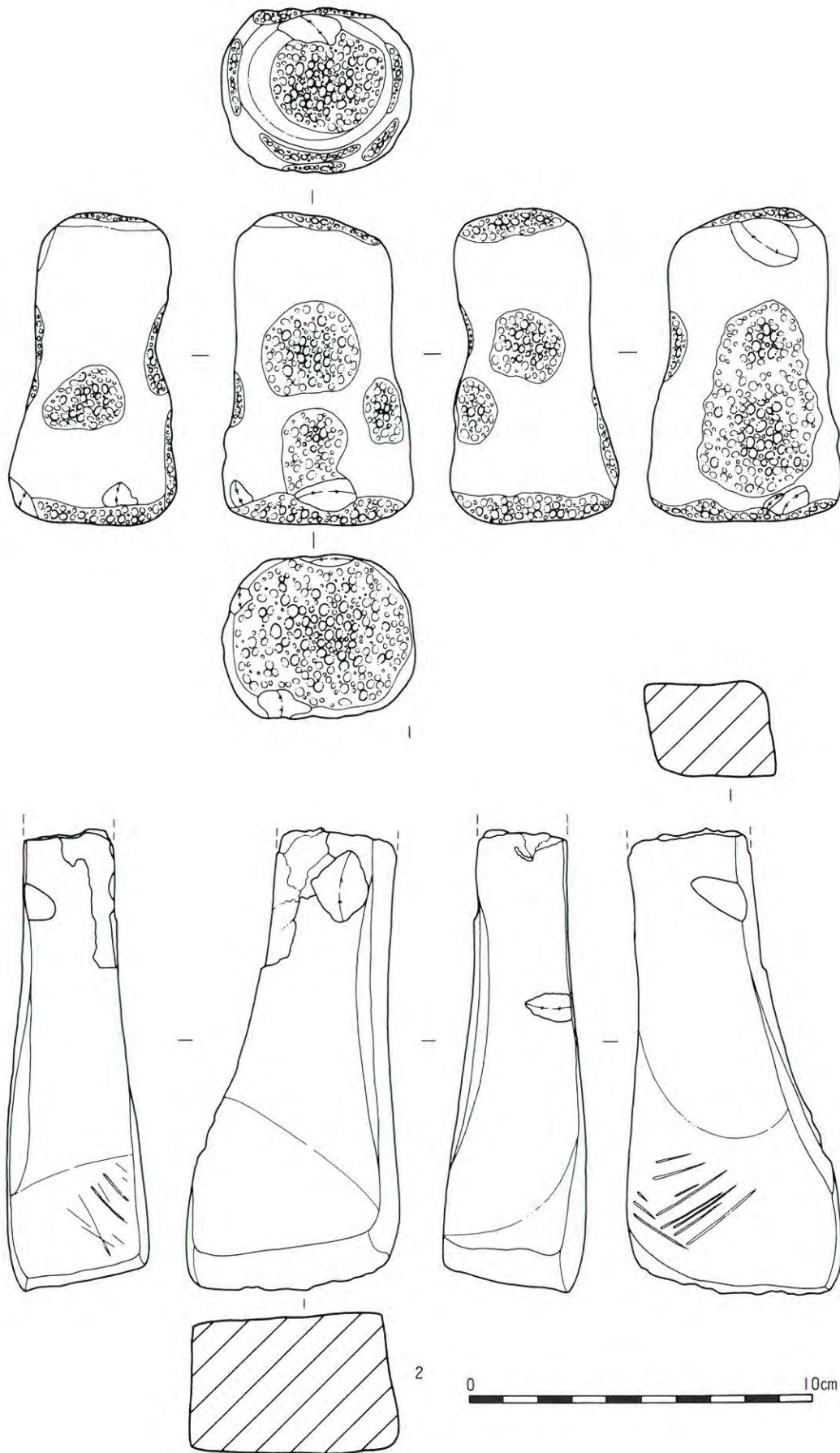
第105圖 錢貨拓影



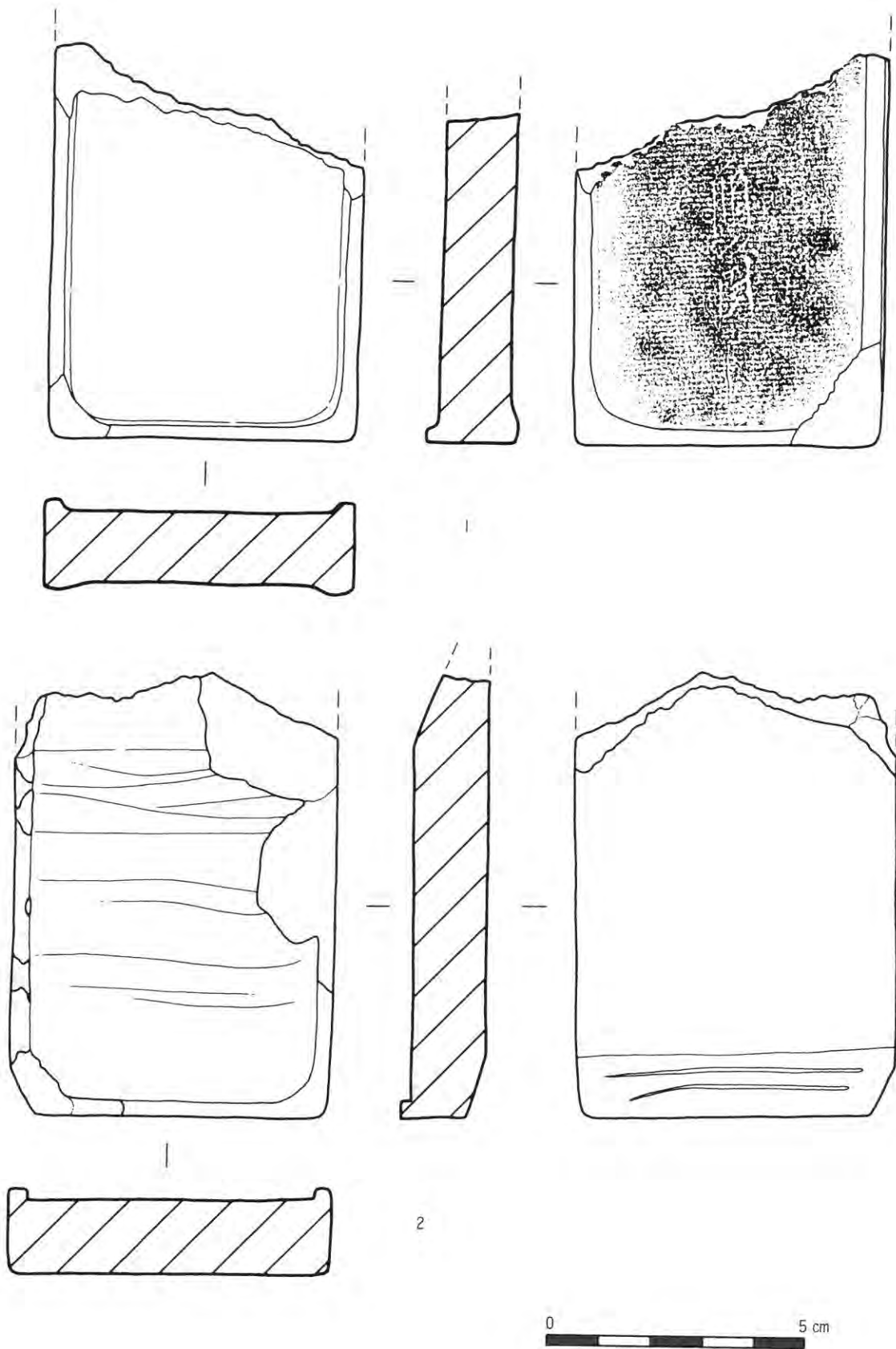
第106図 埴塼



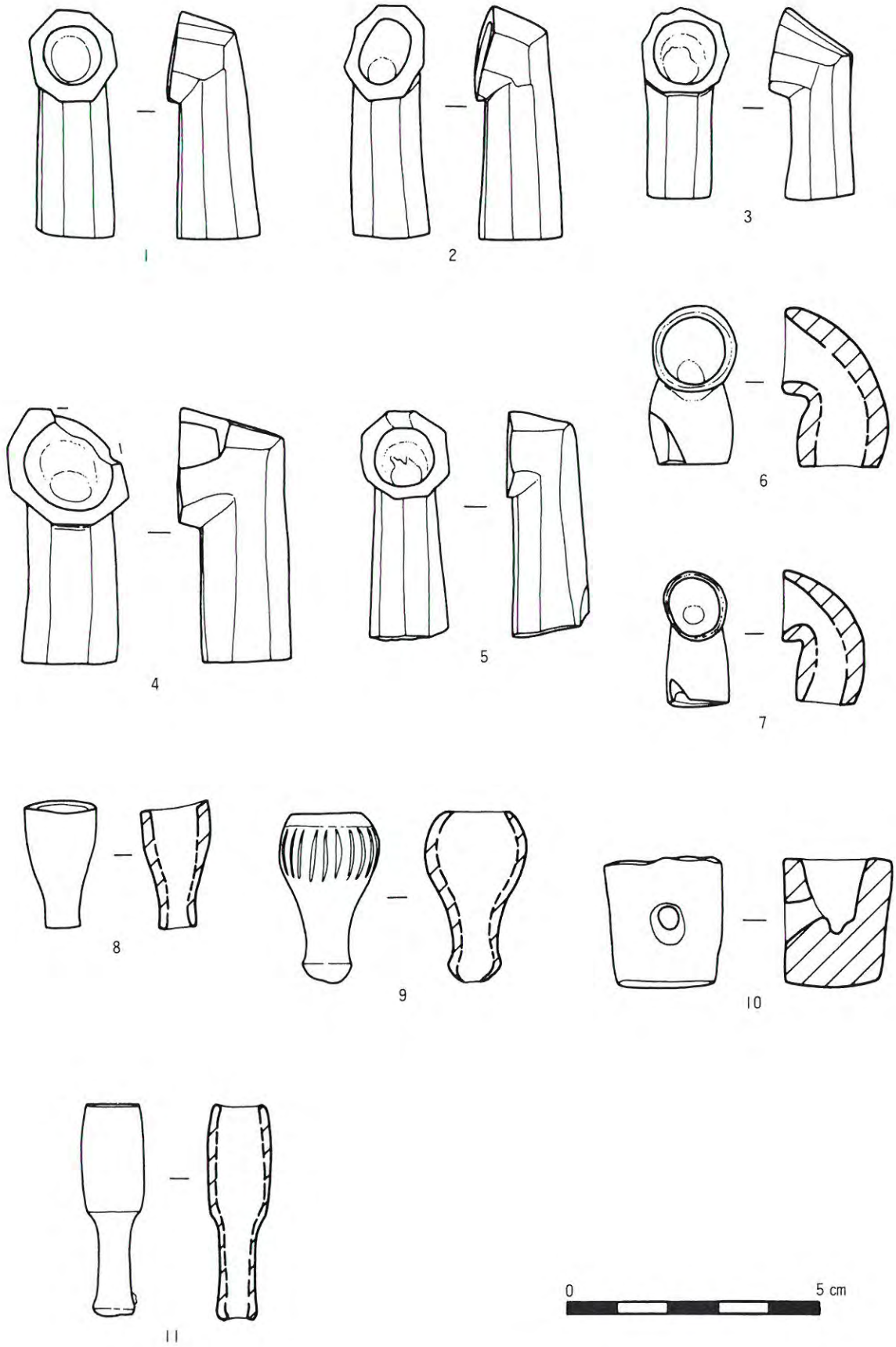
第107图 羽口



第108図 石器（1：たたき石、2：砥石）



第109図 碗



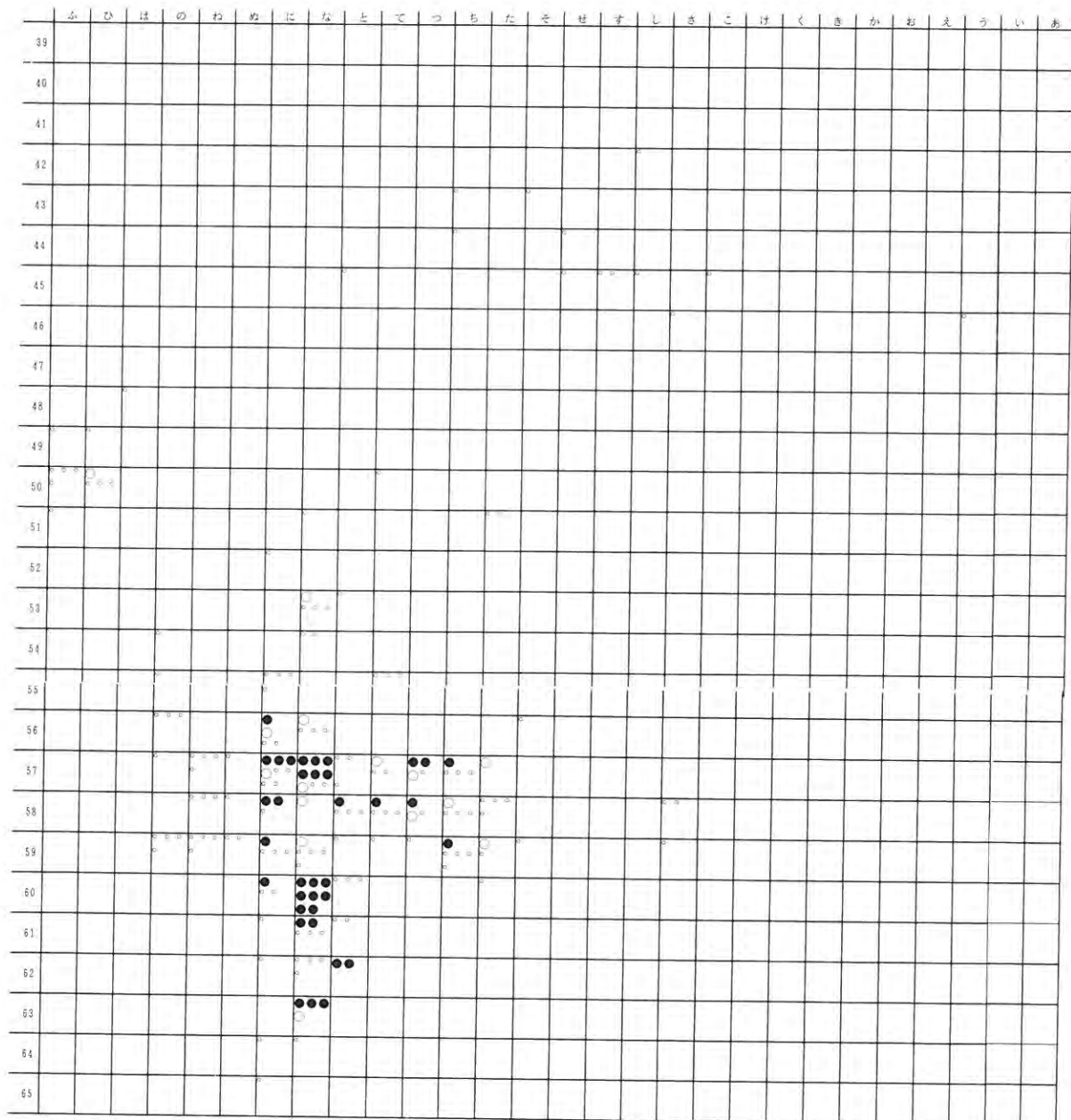
第110図 キセルの雁首と吸い口

第22節 円盤状製品

円盤状製品は総数777点出土している。まず各区の出土状況についてみると、II区での出土が卓越しており、次いでIII地区、I地区の順となっている。2区では第111図に示したように、集中的に出土する箇所がみられる。

次に材質についてみると、使用された材質には瓦・無釉陶器・施釉陶器・瓦質土器・陶質土器・磁器等があるが、完形品648点を対象にした場合、瓦が349点と全体の53.8%を占め、次いで無釉陶器が254点で39.3%と瓦と無釉陶器で出土数の93%に達する。

次に製品のサイズ別の集計では、完形品を対象にした場合、4.0～4.9cmが235点で全体の36.3%、5.0～5.9



(注) ●…10個 ○…5個 ……1個 を示す

第111図 円盤状製品の平面分布状況

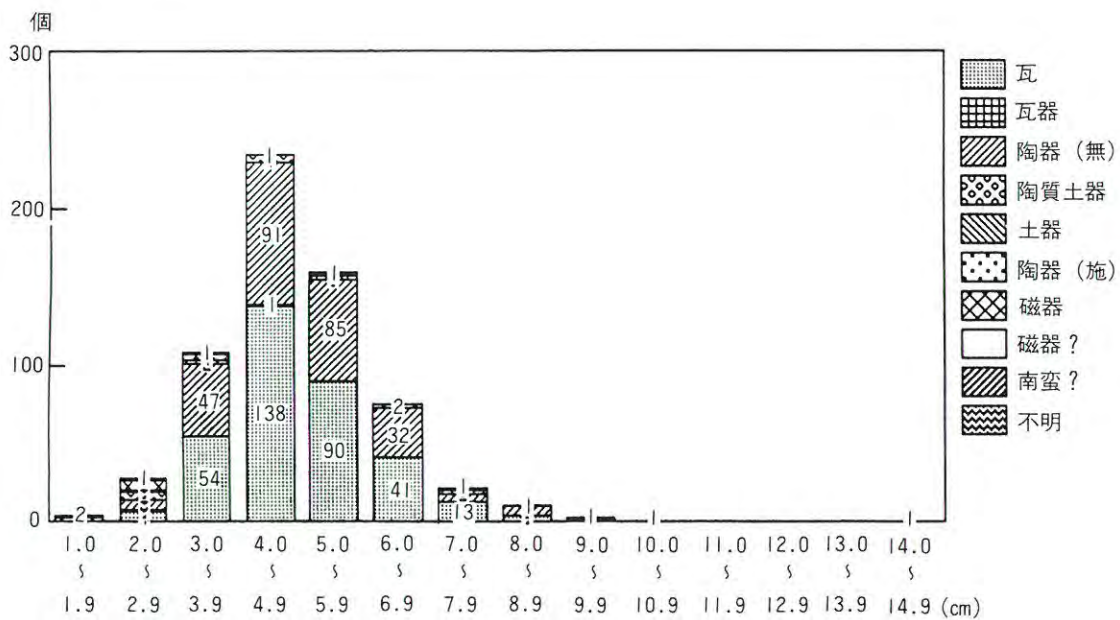
cmは160点で24.7%、3.0~3.9cmが108点で16.7%、6.0~6.9cmが75点で11.6%、2.0~2.9cmが27点で4.2%、7.0~7.9cmが22点で3.4%となっており、4.0~4.9cmで最大値を示す。

第112図はサイズに占める各材質の数量をグラフ化したものである。これを見ると、各サイズとも材質の比率は瓦が50%台、無釉陶器が40%台、他は10%以下で各サイズに対する材質の選択の傾向は見出せない。但し、1.0~2.9cmでは陶質土器・磁器の比率が高いが、個体数が少ないため判断はできない。

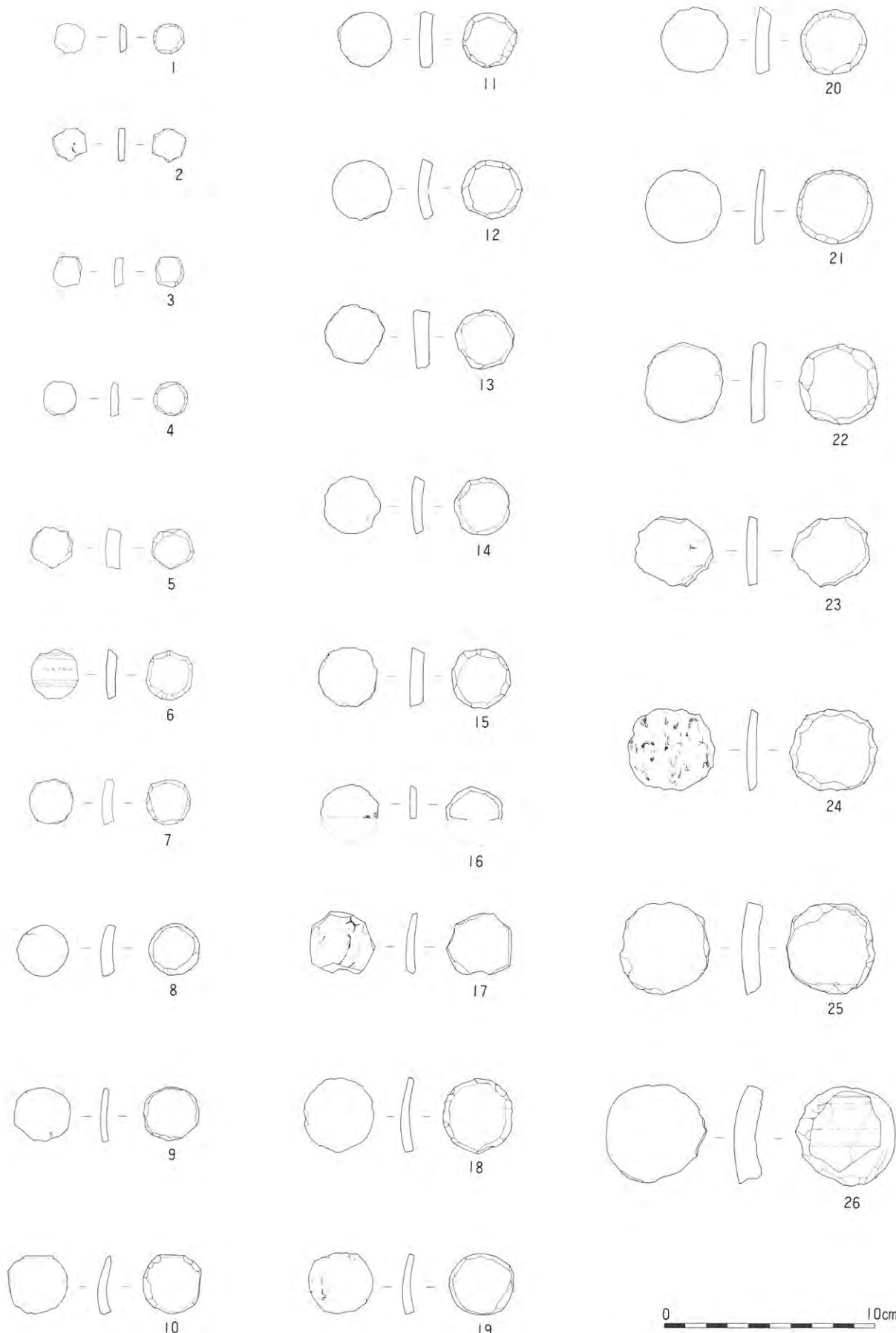
材質の使用部位は胴部及び底部でその大半を占める。また、成形の際の剥離方向には外→内、両面の2種がほとんどであり、部位の選択と成形技法においては傾向が見出せるようである。

第113図~第114図は磁器及び施釉陶器のうち主要なものを示した。磁器は中国産が大半を占め、これに肥前系の製品を少量含む。施釉陶器は沖縄産のもので、灰釉碗・及び高台畳付に耐火土を塗る小碗がみられる。材質の年代は中国産磁器についてみると、染付が概ね17世紀後半~18世紀代、白磁は16世紀~17世紀である。

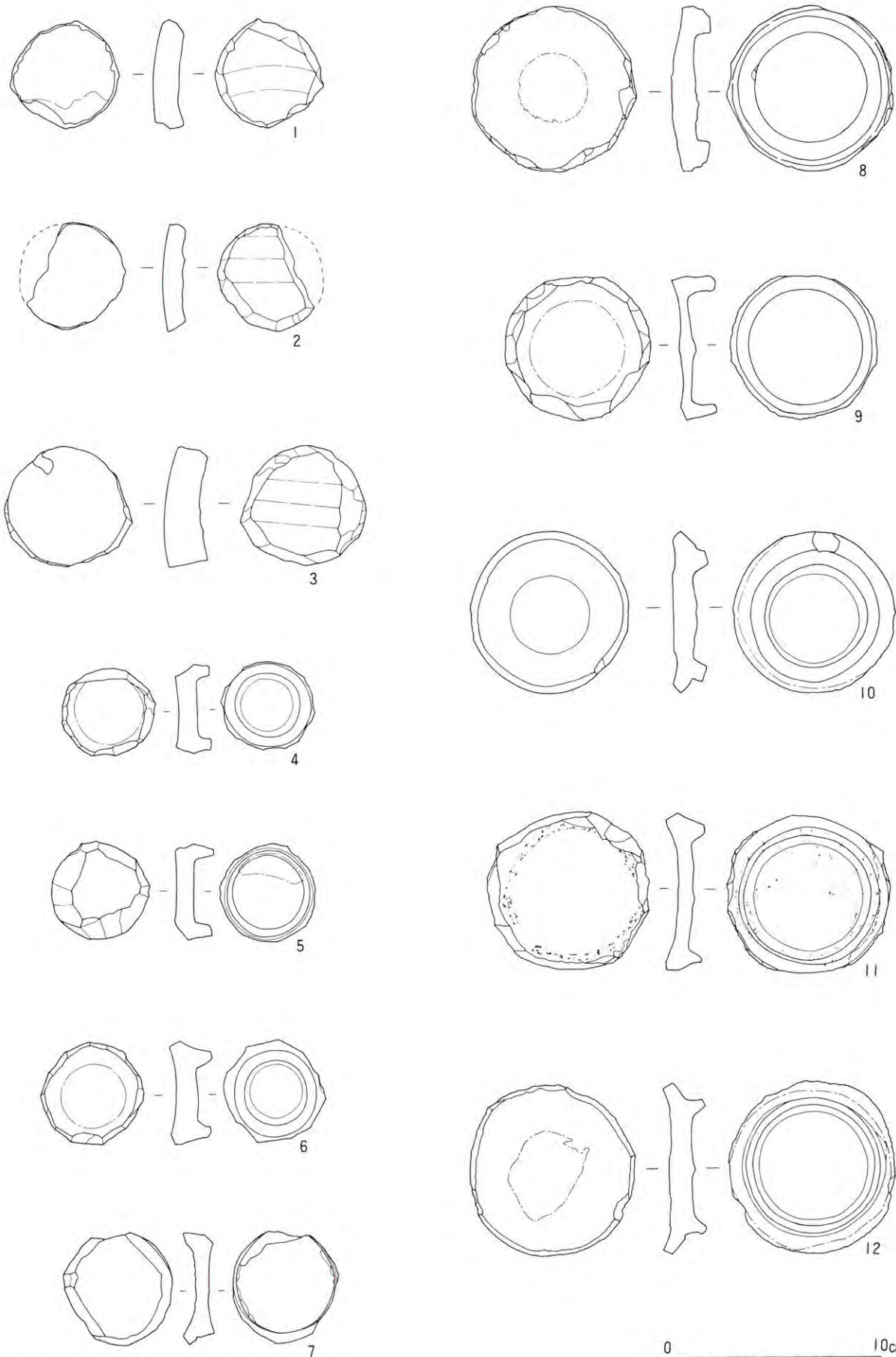
以上のことから本遺跡出土の円盤状製品について簡潔にまとめると次の通りである。まず、材質は瓦と無釉陶器が主体である点は、遺跡の性格を反映したものであると思われる。製品のサイズ、成形については、まずサイズは4.0~4.9cmを中心に3.0~5.9cmの範囲が主体をなし、成形については部位の選択は胴部・底部が主であり、剥離方向については外→内・両面の2種である等の傾向は見出せるようである。用途については特に傾向等について見出すことはできなかった。但し、出土状況からみてかなりまとまって出土する箇所もあることから、遺構との関連等を含めて今後検討していきたい。



第112図 サイズ別出土状況



第113図 円盤状製品



第114図 円盤状製品

第23節 窯道具

第115図～第118図に示した。本遺跡出土の窯道具については大橋康二、松島朝義、池田栄史各氏の御教示をえた。本遺跡出土の窯道具の器種はトチンとハマがあるが、その大半がトチン（第115図～第117図12）であり、ハマは全体的にその数量は少ない（第117図13、第118図1）。トチンは焼成の際、製品を支持するために使用するもので上面円盤部にハマをのせる場合と直接製品をのせる場合があるようである。第115図は下半部を欠くため全形は不明である。第115図3～8は上面に製品を載せた痕跡がみられる。このうち、3・5～8は上面円盤部に砂の付着がみられる。第116図1～3は全形が窺えるものである。いずれも製品をのせたとみられ、砂の付着がみられる。同図1は上面円盤部中央に穿孔を施しており、穿孔後火熱を受けている。同図4・5は器高が低いものである。両者とも上面円盤部に砂の付着がみられる。5は、畳付に砂とともに灰釉の付着がみられる。同図5～10は円盤部の側面3箇所を抉りとり、小山富士夫・田沢金吾氏の分類では洲濱形（註1）と呼ばれるものである。同図6～8は円盤部上面及び畳付に砂の付着がみられる。これらは火熱をかなり受けている。同図9は砂の付着は見られない。同図10は円盤部上面に砂の付着が見られる。第117図1～5は小型の製品を焼成する際に使用されたとみられる。同図3を除き円盤部上面に砂の付着が見られる。同図6～10は耐火土（メーガネク）を塗るものである。6は円盤部上面および畳付に耐火土が塗られている。7は円盤部上面及び畳付から内面にかけて、8は円盤部上面のみ耐火土が塗られている。6は灰釉の付着も見られる。9は外側面に耐火土の付着が見られる。10は外側面下半に耐火土が塗られている。円盤部上面には直径2cm程度の製品を3個置いて焼成した痕跡がある。恐らく小坏のような製品であろう。

同図12は素地が他の窯道具のそれとは異なるものである。第115図～第118図1～12の素地は焼成する製品と同じ素地を使用しているが、12は粗い砂（石灰岩質ではない）を多量に含むものである。同図11は瓦質で手捏ねである。窯道具として使用したのか疑問が残る。

同図13及び第118図1はハマである。上面にレコード盤状の溝が巡る。第118図1は上面に直径7cm程度の製品をのせた痕跡が残存部で2箇所みられる。また下面にはトチンとみられる製品の痕跡がみられる。痕跡の直径から想定されるトチンは、第115図7・8のような形状のものとみられる。

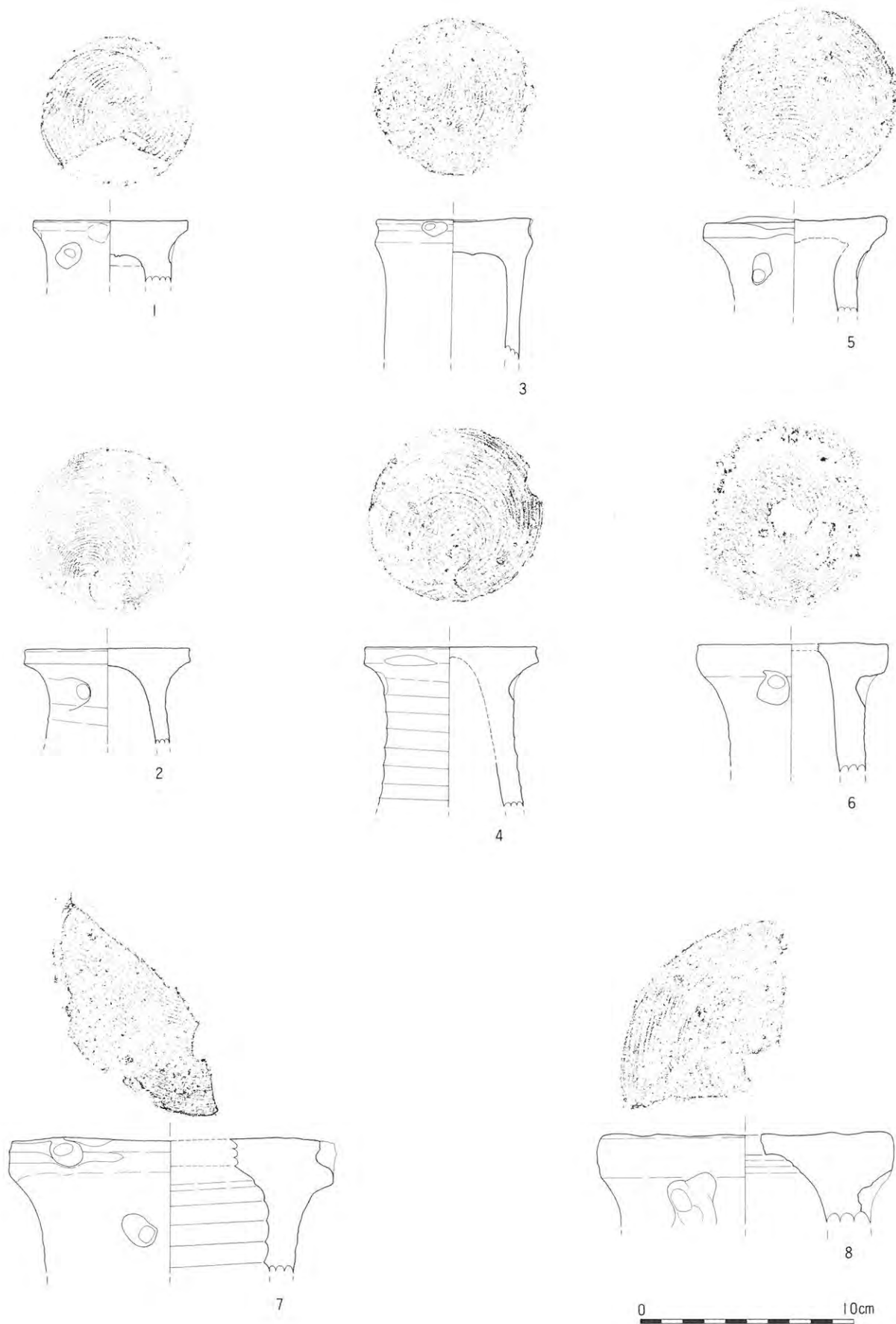
第118図2・3は瓦質のものである。口径により2種のタイプがあるようである。同図3は鼓状の形状をなすもので、輪積み成形で、口縁部は指オサエによって凹ませ、熔着を防ぐ工夫をしている。胴部中央は穿孔されている。これらは、素地・成形・形状・焼成ともに前述した他の窯道具のそれとは全く異質のもので、別系統に属するものではないかとおもわれる。素地・成形・焼成等の点から考えると瓦質土器の生産に使用されたのではないだろうか。

註

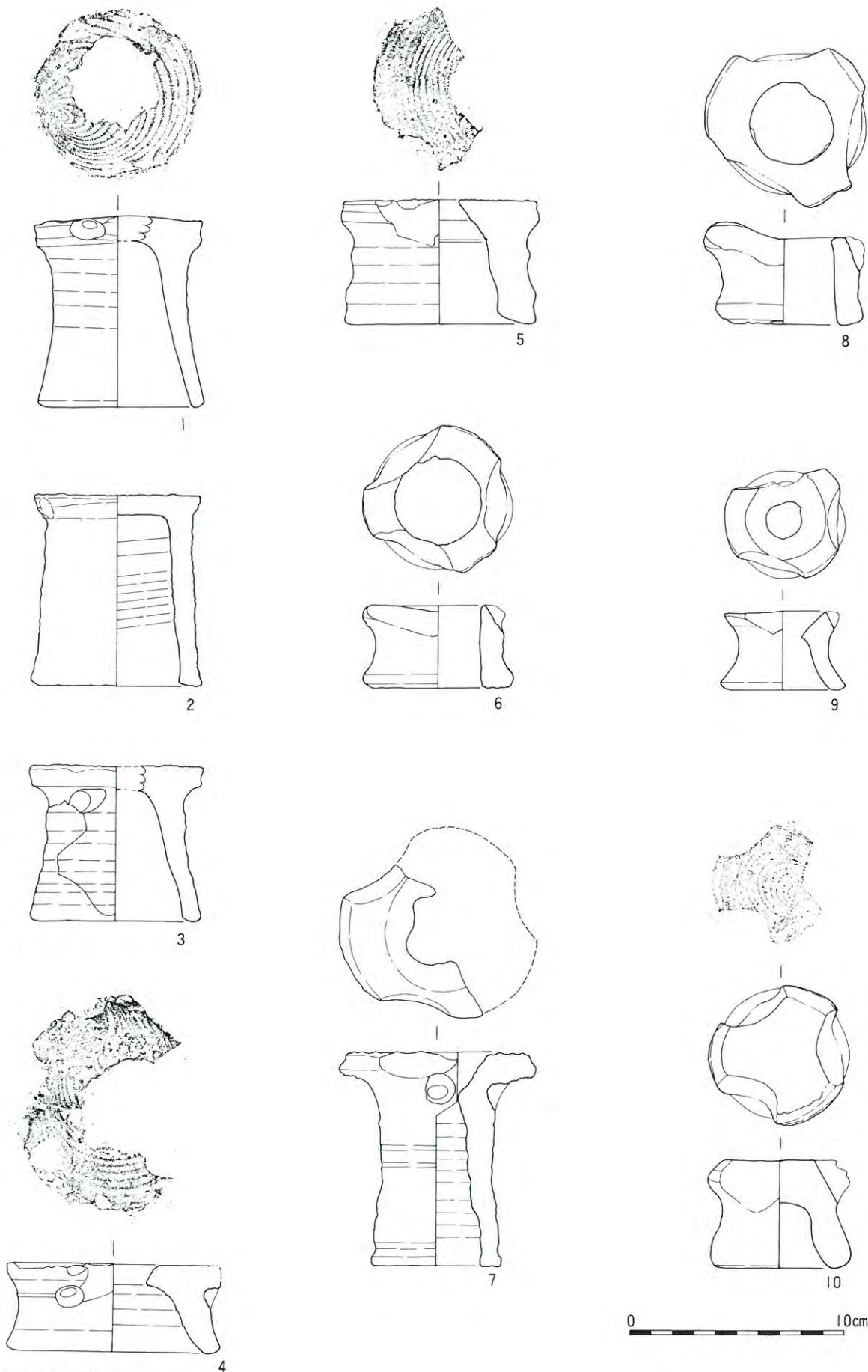
註1. 小山富士夫・田沢金吾共著『薩摩焼の研究』 国書刊行会 1988年

第11表 窯道具観察一覧

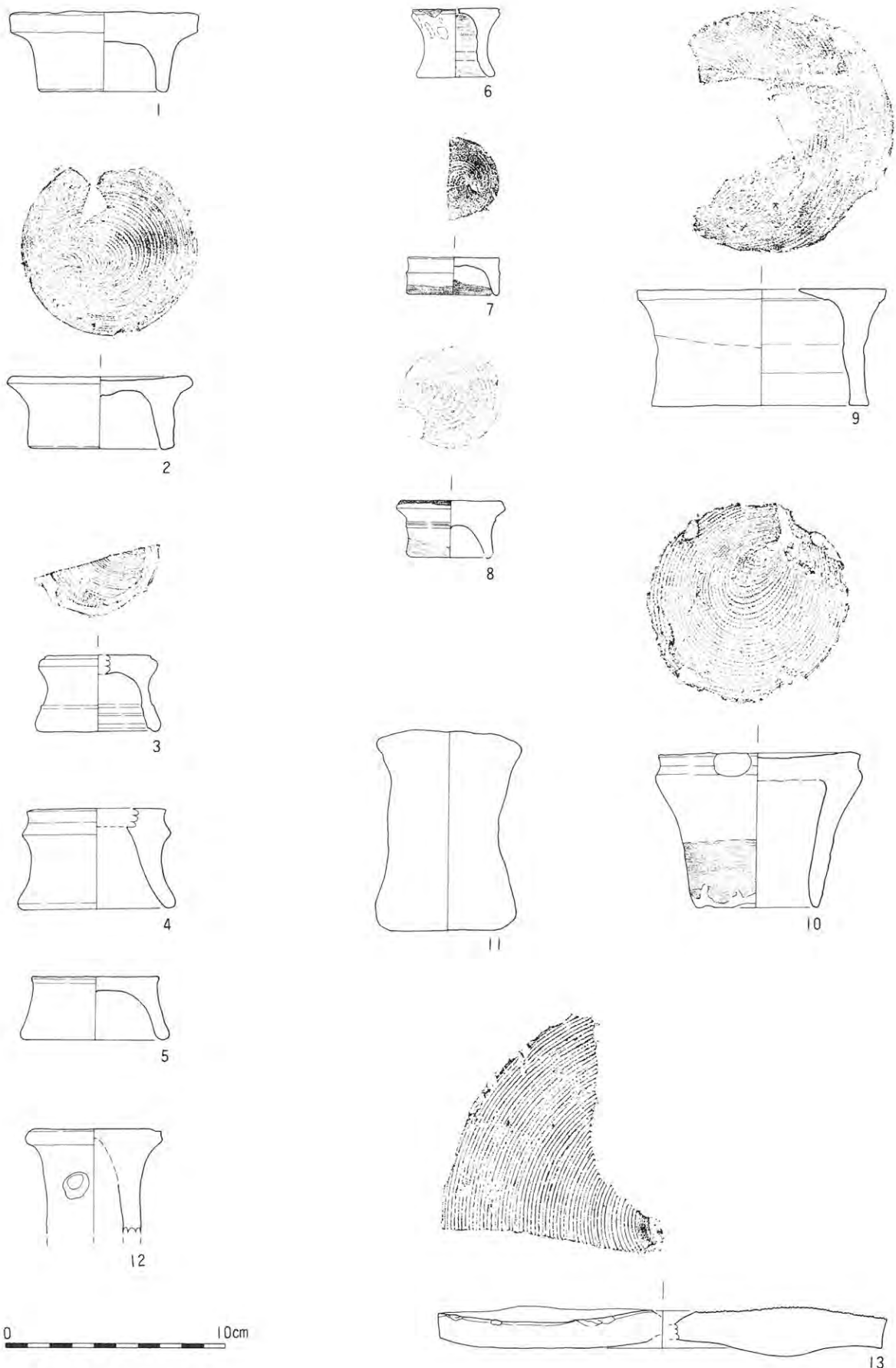
| 図. PL. | 器形 | カレット | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 備考 |
|------------------|------------------|-----------|--------------|-----------|-----|------|------|------|------------------------------------|--------------------------------|
| 第115図 PL. 123 | 1 | な57 | 第2層攪乱 | トフ | | 7.2 | | | 円盤部上面に砂付着みられず。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 2 | | 南側表土攪乱 | トフ | | 7.8 | | | 円盤部上面に灰釉が僅かに付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 3 | | 西表土攪乱 | トフ | | 7.3 | | | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 4 | な57 | 第1層攪乱 | トフ | | 8.1 | | | 円盤部上面に製品をのせた痕あり。(径6cm前後) | 円盤部上面糸切り。 |
| | 5 | FIVb4 | 第1層攪乱 | トフ | | 8.5 | | | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 6 | | 攪乱、南北シ | トフ | | 9 | | | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 7 | な57 | 攪乱 | トフ | | 15.2 | | | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 8 | な56 | 第2層攪乱 | トフ | | 13.8 | | | 円盤部上面に製品をのせた痕あり。この部分に砂が少量付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 1 | 不明 | 不明 | トフ | | 7.8 | 8.9 | 7.7 | 円盤部上面に砂付着。穿孔後火熱をうけている。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 2 | な57 | 第2層攪乱 | トフ | | 7.7 | 8.9 | 8 | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 第116図 PL. 124 | 3 | に47 | 第2瓦層 | トフ | | 8 | 7.2 | 8 | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 4 | な57 | 第2層攪乱 | トフ | | 9.9 | 4.1 | 10 | 円盤部上面に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| | 5 | に59 | 攪乱 | トフ | | 9.1 | 5.8 | 9 | 円盤部上面に砂付着。畳付に砂・灰釉付着。 | 円盤部上面糸切り。円盤部側面3ヶ所を削り取っている。州濱形？ |
| | 6 | の59 | 攪乱 | トフ | | 6.7 | 3.9 | 7.1 | 上面州濱形。上面畳付に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。円盤部側面3ヶ所を削り取っている。州濱形？ |
| | 7 | な61 | 攪乱 | トフ | | 8.6 | 10 | 6 | 上面州濱形。上面畳付に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。円盤部側面2ヶ所を削り取っている。 |
| | 8 | FIVb4、に57 | 第2層攪乱 | トフ | | 7.3 | 4 | 6.5 | 上面州濱形。上面畳付に砂付着。 | 全体的に火熱をうけている。 |
| | 9 | に58 | 黄褐色土層、攪乱 | トフ | | 5.4 | 3.7 | 5.8 | 上面州濱形。丁寧な作りである。砂の付着は見られない。 | 全体的にかなり火熱をうけている。 |
| | 10 | な57 | 第2層攪乱 | トフ | | 5.4 | 5.4 | 6.5 | 上面州濱形。上面に砂が僅かに付着。 | 上面糸切り。 |
| | 1 | | 攪乱 | トフ | | 8.6 | 3.6 | 5.8 | 丁寧な作りである。円盤部上面に僅かに砂が付着。 | 上面糸切り。 |
| | 第117図 PL. 125 | 2 | に59 | 攪乱 | トフ | | 8.5 | | | 前面に砂付着。 |
| 3 | | ち58 | 砂利層 | トフ | | 4.4 | 3.5 | 5.4 | 丁寧な作りである。砂の付着は見られない。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 4 | | に57 | 第2層攪乱 | トフ | | 6.3 | 4.6 | 7.2 | 丁寧な作りである。上面・畳付に砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 5 | | な59 | 攪乱 | トフ | | 5.8 | 2.9 | 6.8 | 丁寧な作りである。全面に僅かに砂付着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 6 | | ひ・な61 | 第3層 | トフ | | 4 | 3.1 | 3.6 | 丁寧な作りである。円盤部上面・畳付に耐火土を塗る。 | 側面に灰釉付着。 |
| 7 | | な60 | 第3層 | トフ | | 4.2 | 1.7 | 4.2 | 丁寧な作りである。円盤部上面・畳付に耐火土を塗る。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 8 | | つ57 | 第5層 | トフ | | 4.6 | 2.6 | 4 | 丁寧な作りである。円盤部上面・脚部外面に耐火土を塗る。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 9 | | と57 | 赤褐色土層 | トフ | | 11.4 | 5.3 | 9.9 | 丁寧な作りである。円盤部上面に泥状の砂、側面に耐火土を塗る。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 10 | | 1 | | トフ | | 8.2 | 7.1 | 5.5 | 円盤部上面に径2cm程の製品を3個のせた痕あり。脚部に耐火土が不着。 | 円盤部上面糸切り。 |
| 第118図 PL. 126 | | 11 | し45 | 円形上瓦集中L字上 | トフ? | | 6.5 | 9.1 | 6.2 | 瓦質で手づくねである。 |
| | 12 | | 表土攪乱 | トフ | | 6.2 | | | 素地に多量の砂を含む。円盤部上面に砂付着。 | |
| | 13 | な57 | 攪乱 | ハ? | | 20.4 | 1.6 | 20.1 | 上面に櫛目状の溝が巡る。 | |
| | 1 | に60 | 第3層ハコ層 | ハ? | | 19 | 1.4 | 18.4 | 上面に櫛目状の溝が巡る。上面に2個、下面に1個製品をのせた痕あり。 | |
| | 2 | 1 | 5号窯中心軸(西)最上部 | トフ | | 19.5 | | | 瓦質。素地に白粒を多量に含む。荒い作りである。側面穿孔。 | 焼成時のひずみ、割れが著しい。 |
| | 3 | さ46 | 第3瓦層 | トフ | | 24.5 | 23.7 | 22 | 瓦質。素地に白粒を多量に含む。荒い作りである。側面穿孔。 | 焼成時のひずみ、割れが著しい。 |



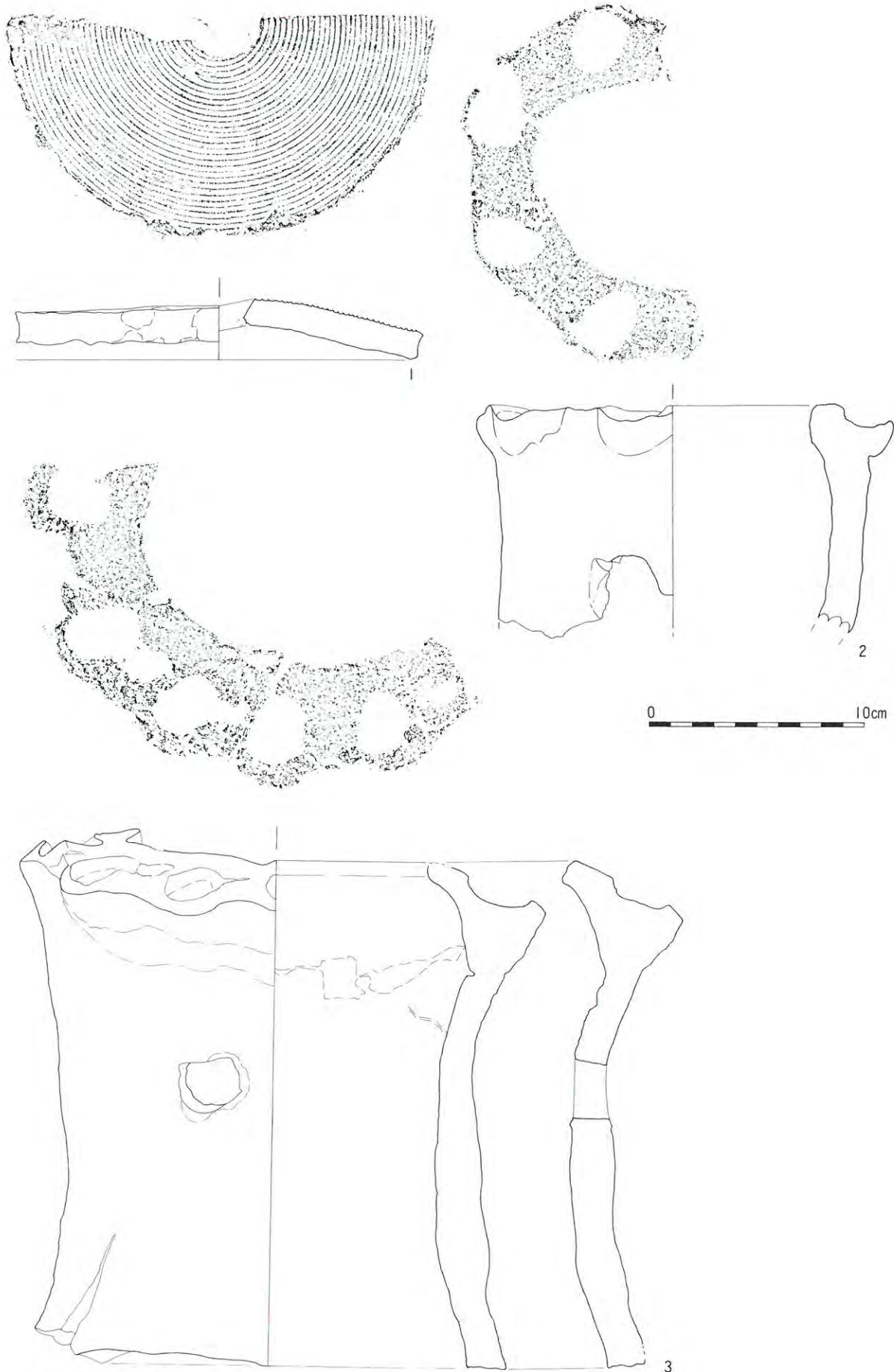
第115図 窯道具①



第116図 甕道具②



第117図 窯道具③



第118図 窯道具④

第24節 湧田古窯跡出土の脊椎動物遺体

金子 浩 昌

1. はじめに

17世紀頃の遺跡と考えられている湧田古窯跡からは脊椎動物遺体が多数出土している。それらの多くは窯跡の周辺に於いて出土したもので、窯の使用と何らかの関係ある人々によって食用に当てられたものの残滓と思われるが、それとはまた別に窯の直上に、一括投棄のかたちで数頭のブタの全身骨が出土したのは興味あることであった。窯の使用をめぐる何らかの祭祀的な行為と関係があったものと思われるのである。

報告に当たって、種々お世話になった沖縄県文化課の島袋洋氏並びに資料整理に協力頂いた大城勝江、城間千鶴子、比嘉優子、上原園子、照屋利子の諸氏及び実測図・表の作成などにご協力いただいた高良三千代、手嶋永子、金武雅子の諸氏に御礼申し上げる次第である。

出土した脊椎動物遺体の種名表 (第12表)

| 脊椎動物門 | Phyium VERTEBRATA |
|----------|--------------------------------|
| I. 軟骨魚綱 | I. Class Chondrichthyes |
| 1. サメ目 | 1. Order Lamniformes |
| シロザメ科 | Family Carcharhinidae |
| 属・種不明 | Gen. et sp. indet. |
| II. 硬骨魚綱 | II. Class Osteichthyes |
| 1. スズキ目 | 1. Order Perciformes |
| スズキ科 | Family Serranidae |
| 属・種不明 | Gen. et sp. indet. |
| フェダイ科 | Family Lutjanidae |
| 属・種不明 | Gen. et sp. indet. |
| タイ科 | Family Sparidae |
| ミナミクロダイ | <i>Acanthopagrus sivicolus</i> |
| フェフキダイ科 | Family Lethrinidae |
| ハマフェフキダイ | <i>Lethrinus mebulosus</i> |
| マカジキ科 | Family Istiophoridae |
| メカジキ | <i>Xiphias gladius</i> |
| ペラ科 | Family Labidae |
| 属・種不明 | Gen. et sp. indet. |
| ブダイ科 | Family Scaridae |
| ナガブダイ | <i>Scarops rubrouioiaceus</i> |
| 属・種不明 | Gen. et sp. indet. |
| III. 鳥綱 | III. Class Aves |
| 1. キジ目 | 1. Order Galliformes |
| キジ科 | Family Phasianidae |

ニワトリ

Gallus gallus var. domesticus

IV.哺乳綱

IV.Class Mammalia

1. 齧歯目

1. Order Rodentia

ネズミ類

Rattus sp.

2. 食肉目

2. Order Canivora

イヌ科

Family Canidae

イヌ

Canis familiaris

ネコ科

Family Felidae

ネコ

Felis catus

3. 海牛目

3. Order Sirennia

ジュゴン科

Family Dugongidae

ジュゴン

Dugong dugong

4. 奇蹄目

4. Order Perissodactyla

ウマ科

Family Equidae

ウマ

Equus caballus

5. 偶蹄目

5. Order Artiodactyla

イノシシ科

Family suidae

ブタ

Sus scrofa var. domesticus

ウシ科

Family Bovidae

ウシ

Bos taurus

ヤギ

Capra hircus

2. 脊椎遺体の概要

魚類

魚骨の出土は種類や量の上でも少なかった。そのなかでメジロザメ科サメ類の椎体の目立ったこと、カジキ類の椎骨のあったことは特徴的であった。カジキ類（メカジキ）の椎骨は僅かに一点であったが他の遺跡では例のない大型のものであった。沖縄の先史遺跡の前期とか後期と言われるような遺跡から

第13表 魚類出土状況

| 部位 | 出土地 層位 | I 地区 | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 個体数 | II 地区 | | 合計 | 個体数 | |
|------|-----------|------|-----|--------|--------|-----|--------|------------|-----------|--------|----------|----|------|----|------|----|-----|-------|------|----|-----|---|
| | | 攪乱 | 第2層 | 第2層 a層 | 第2層 b層 | 第3層 | 第3層 a層 | 第3層 a層灰だまり | 第3層 a層磚組遺 | 第3層 b層 | 黄褐色円形炭集中 | 副a | 不列内込 | 不明 | 攪乱II | | | 攪乱粘土 | 灰だまり | | | |
| イナダ科 | 椎体 | | 1 | 2 | | 1 | 4 | | | | | | | | | | | 8 | | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | 1 | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | 1 | 4 | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | | | 0 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | 1 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | | | 0 |
| イナダ科 | R 上 | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| イナダ科 | L 下 | | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| イナダ科 | R 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | | | 1 |
| イナダ科 | L 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | | | 0 |
| イナダ科 | その他 | | 2 | 3 | 5 | 1 | 6 | 5 | | 1 | 4 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 1 | | | 1 |

凡例：a：瓦層，b：砂利層，L 前上顎骨 R 前上顎骨 L 上咽頭骨 R 上咽頭骨
 歯骨 歯骨 下咽頭骨

の出土はごく稀で、外洋の魚を捕る機会のなかったことによるものと思われる。こうした状況はその後も続いていたようである。その他の魚類ではフェフキダイ科、ブダイ科の遺骸が多く、いずれも手近な場所で採れる沖縄でもっとも普通の魚である。

鳥類

ニワトリが確認されたのみである。標本は特に多いものではなかったが、四肢骨を主として出土し、大腿骨が多かったのは、肉の供給の主たる部分であったからであろう。ニワトリはすでにグスク期の遺構から出土が知られており、本標本もほぼそれと変わらない大きさのものであった。

第14表 ニワトリ骨出土状況

| 出土地 層位 | 部位 | | 鳥口骨 | | 肩甲骨 | | 上腕骨 | | 腕骨 | | 中足骨 | | 尺骨 | | 大腿骨 | | 脛骨 | | 合計 | 個体数 | | | |
|-----------|------|-----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|----|---|----|-----|---|---|----|
| | 近位部 | 遠位部 | 近位部 | 骨体 | 遠位部 | 骨体 | 遠位部 | 骨体 | 遠位部 | 骨体 | 近位部 | 骨体 | 遠位部 | 骨体 | 近位部 | 骨体 | | | | | | | |
| | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | | | | | |
| I地区 | 攪乱 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | 2 | | |
| | a集中 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 1 | | |
| | 第1層 | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | 1 | 1 | 3 | 1 | 3 | |
| | 第2層 | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 第2a層 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| | 第3層 | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | 1 | 4 | 4 | 4 | |
| | 第3a層 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 0 | 2 | 2 | 2 | |
| | 合計 | 1 | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 2 | 3 | 0 | 1 | | 1 | 1 | 8 | 6 | 12 |
| II地区 | 攪乱 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | 1 | 3 | 3 | |
| | 2号窯 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 不明 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| | 合計 | | | 1 | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | 2 | | | | 4 | 3 | 5 | 5 | |

凡例：a：瓦層， b：砂利層

哺乳類

ヒト

上腕骨が一点のみ出土している。その他の部位は全く発見されていない。

第15表 ジュゴン出土状況

| 出土地 | 部位 | 個数 |
|---------|----|----|
| I地区III層 | 破片 | 1 |

第16表 ヒト出土状況

| 出土地 | 部位 | 個数 |
|----------------|------|----|
| I地区長瓦列 東側7段 | L上腕骨 | 1 |

ネズミ類

下顎骨が一点のみあり、新しい時期の遺跡からの出土としては少ない。もっともネズミ類の遺骸の所属時期については多くの場合問題が残る。

第17表 ネズミ出土状況

| 出土地 | 部位 | 個数 |
|---------------|------|----|
| I地区す45 黄褐色 | L下顎骨 | 1 |

イヌ

埋葬などの状況、施設などについて確かめることはできなかったが、一括と考えられる一頭とその他に数頭があったようである。しかし、全般に保存は良くなく、形態を窺える標本は少ない。一括と考えられる個体のイヌは成獣ではあるがごく小型のもので、骨体も華奢である。グスク期以前に沖縄で飼育されていた品種とは別ではないかと思われる。その他の標本はこれとは別系の在来のイヌではないかと思われるが、断片的で小型犬である以上のことは不明である。

ネコ

各層で遊離四肢骨がかなり出土しているが、攪乱層からの出土も多く、当時どの程度に飼われていた

第18表 イヌ骨出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 脊椎骨 | | | 上腕骨 | | | | 橈骨 | | | | 尺骨 | | | | 寛骨 | | | | 近端 | |
|-------|----------|-----|---|---|-----|---|-----------|-----|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | | 肩甲骨 | | | 完存 | | 近位骨端のみはずれ | | 完存 | | 近位部 | | 完存 | | 骨体 | | 完存 | | 完存 | | 骨端 | |
| | | R | L | 不 | 椎 | 片 | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L |
| I 地区 | 攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2層 | | | | | | | (1) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2a層 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3.4a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第4a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第4b層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | a集中 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II 地区 | 表土攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第7層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Iト西落込み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2号窯 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 攪乱II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *2号窯 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ナハ-リツガなし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

凡例：() 破片, a:瓦層, b:砂利層

注※A:骨格が他のものと異なるので A と分けた。

ものか確認し難い。ネコはグスク期以降において少なからず出土する動物であって、本遺跡においても当初はあちこちに埋められた個体があったのであろう。標本は本州の近世遺跡で出土する個体と形質で大きく変わらない。

第19表 ネコ骨出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 脊椎骨 | | | | 上腕骨 | | | | 橈骨 | | | | 大腿骨 | | | | 尺骨 | | | | 中手骨 | 寛骨 | | | | 合計 | 個体数 | | | |
|----------|-------|-----|---|---|---|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|
| | | 頸 | 環 | 胸 | 腰 | 肋 | 完存 | 近位 | 遠位 | 完存 | 近位 | 遠位 | 完存 | 近位 | 遠位 | 完存 | 近位 | 遠位 | 完存 | 近位 | 遠位 | | 完存 | 近位 | 遠位 | 中足骨 | | | 近位 | 骨体 | 遠位 |
| | | 椎 | 椎 | 椎 | 椎 | 骨 | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | | L | R | L | R | | | L | R | L |
| I 地区 | 攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第1層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 黄褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II 地区 | 攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 攪乱I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 攪乱II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 攪乱黒褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第5層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ナハ-リツガなし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

ジュゴン

肋骨片を一点検出したのみであった。多数の獣骨を出土している本遺跡としてはあまりに少ないジュゴンの骨の数であるが、ジュゴンがこうした産業関係の場所に運ばれることはほとんどなかったことを示すのであろう。しかし、一方で一点でもジュゴンの骨のあったことにも興味を覚えるのである。僅かでも食用とされたものの断片があったのか、あるいは骨器の素材として運ばれて来たものの一部であったのであろうか。

ウマ

大型家畜としてウマ、ウシの骨の出土は多く、役畜として使われ、食用にも当てられている。ウマはウシに次ぐ量であるが、その重要性はウシに劣らなかった筈である。遺骸の多くは発掘時の破損若しく

| 大 腿 骨 | | | | | | 脛 骨 | | | | | | 距 骨 | 中 手 中 足 骨 | 基 節 骨 | 中 節 骨 | 合 計 | | 個 体 数 | | | | | |
|---------|-----|-------|---|---------|---|-----------|---|-------|---|-------------|---|-----|-----------|-------|-------|-----|----|-------|----|---|---|---|---|
| 位 部 | | 遠 位 部 | | | | 完 存 | | 近 位 部 | | 近 位 部 骨 端 欠 | | | | | | 骨 体 | R | | L | R | L | R | L |
| 骨 端 の み | 骨 体 | 遠 位 部 | | 骨 端 の み | | 骨 端 は ず れ | | 完 存 | | 近 位 部 | | | | | | | | | | | | | |
| R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | R | L | | | | | | |
| | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | 0 | 2 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 2 | | | | |
| | | 1 | | 1 | | | | | 2 | | 1 | | | | | | 5 | 1 | 5 | | | | |
| | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 0 | 1 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | 1 | 1 | 3 | | 1 | 1 | | 2 | | 2 | 1 | | | | | 16 | 6 | 18 | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 0 | 1 | | | |
| | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 0 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 32 | 2 | 0 | 2 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | 6 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 4 | 1 | 1 | 6 | 7 | 7 | |
| | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 12 | 7 | 1 | 7 | 9 | 9 | |

は打ち割られた痕を残して、完存するのは指趾骨などのごく一部である。骨の大きさから指定されるウマの大きさは、小型から中型までのものを含んでいたが、多くは中型の大きさの個体であった。なお個体数の指定で歯を使う場合、P2、もしくはM3のみが部位を正確に当たることができるので、それを使っている。

ブタ

個体数としてはもっとも多く、遺骸が出土している。なかにはイノシシもあるかも知れないが、それをすべての標本について区別するのは難しいようである。とりあえずブタとして扱っておく。そのなかで遺骸の出土状態からブタを二つのグループにわけられる。

1. 頭蓋骨と四肢骨があって一括で出土しているもの

A～Eの5個体が確認されるが、頭蓋のあったのはA・B個体のみである。頭蓋は既に大破して原形をうかがうことはできないが、大型で頭巾広く、頭高の高いものであった。下顎骨はこれに見合う形で、体高高く、歯列の左右巾は広く直線的でなく、最奥部のM3が舌側に傾くなど特徴的である。吻端の形もブタにみるようなしゃくれた形になっている。四肢骨はすべて揃うわけではないが、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、中手・中足骨があった。いずれも太く、短く、特別な形態をみることができる。

2. 遊離顎骨と四肢骨；個体関係を窺うことの難しい標本である。上顎骨、下顎骨、頭頂骨と四肢骨と若干の椎骨がある。顎骨は大小の個体差があるが全般に大きく、沖縄先史時代後期以前のイノシシとは形状を異にする。しかし、歯牙の萌出は画一的で、下顎骨39点のうち乳臼歯をもつもの13点、M3の未萌出13点、M3の萌出途次8点である。つまり大部分が一歳未満から2・3歳までの個体になる。頭蓋はすべて破損しているために形態を窺うことができないが、頭頂骨の骨質は厚く、頭頂骨洞内は充填されている。また頭頂骨全体の形もイノシシとは異なるようである。

四肢骨にも大小、さらにきゃしゃ型、細型などの違いがみられる。こうした大きさや形質差のあるもの、家畜種の特徴なのであろう。四肢骨にみられる年齢的特徴は大きさに関係なく若い個体のものが多く、歯牙にみたのと同じ傾向をみることができた。

ウシ

先にものべたように多くの骨が出土しているが、指趾骨を除いて原形の残る骨はほとんどなかった。頭蓋の破片は多少みられたが、角の部分（角突起）は一点が確認できたのみであった。角は切断して利用されたのであろう。歯をみると上顎歯が少ないので、頭蓋は別に処分された可能性がある。推定される個体数は下顎歯でみると16個体分位はありそうである。

四肢骨の出土は、どの骨をみても歯牙で推測された個体数を推定できる程に多くはない。解体され料理に使われるときにかなり壊されることが多かったためであろう。骨は骨体のほぼ中央で打ち割られ、骨髓が利用された。

ヤギ

別に記した家畜に比べると出土量ははるかに少ない。数個体かそれより僅かに多い程度であろうか。

3. まとめ

以上、湧田窯跡とその周辺において出土した動物遺体について概要をのべたが、ここでは少なからぬ量のウシ、ウマ、ブタが食用に当てられていたことがわかった。出土の状況についての詳細は不明であるが、多くの瓦のたまり部分にこれらの骨が埋存していたのを筆者もみている。

別に一括出土のブタの遺骸は、かつ

て筆者が報告した古墓出土の資料とよく似ているものであった。その古墓は石川市古我知原古墓—伊波仲門門中墓—の調査の際に発見されたもので、古墓の墓室内とその入口前面に穴を掘って埋められていたが、墓室内のものはシャコ貝で覆われていた。この伊波仲門門中墓にあった25基の石厨子のうち3基に銘書があり、乾隆12、13年（1747、1748年）の年号がみえ、石厨子が移転されたものでないとすれば、墓の建造年代の上

限となると考えられている。ブタの頭骨は古墓の石積の下からの発見であり、入口を意識して埋葬したものであろうと報告されている。このブタは一つは乳歯とM1までの萌出、いま一つはM2までの萌出で、湧田のブタと比べて若い。形質の上ではよく似ているものである。この頃のブタの形質を知る良好な資料といえよう。これらのブタは本遺跡で別にのべているブタと大きさ、形質ともかなり異なるので別系統の品種なのであろう。もちろんその他の多数出土したブタも大陸産の家畜種が基幹になっているのではないかと考えているが、これについてはさらに文献資料、考古学的な研究、あるいは家畜種学的な研究が今後の課題である。（註1）

本遺跡の動物遺体にみる特徴が、この頃の動物質の食料のすべてではないであろうが、一般的な傾向が示されているのではないかとと思われる。つまり、それ以前のグスク期からみられていたウシ、ウマ、ブタを中心とした獣肉食の傾向が更に強まっているのではないかとということが予想される。特にブタは体軀の大きな個体も現れ、大小の個体が入り混じった状態であったようである。そしてさらにこれと別

第20表 ヤギ骨出土状況

| 出土地層位 | 部位 | | 上腕骨 | | 橈骨 | | 大腿骨 | | 寛骨 | 中足骨 | 合計 | | 個体数 |
|-------|---------|--|-----|---|-----|---|-----|---|----|-----|----|---|-----|
| | 肩甲骨 | | 骨 | 体 | 近位部 | | 骨 | 体 | | | R | L | |
| I地区 | 第2層 | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | 1 |
| | 第2a層 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 第3層 | | | | | | | 1 | | | 0 | 1 | 1 |
| | 第5a層 | | | 2 | | | | | | | 0 | 2 | 2 |
| | 第1号環状石列 | | | 1 | | | | | | | 1 | 0 | 1 |
| | 合計 | | | 4 | | | | 1 | | 2 | 1 | 5 | 5 |
| II地区 | 攪乱 | | | 1 | | | | | 2 | | 1 | 2 | 2 |
| | 攪乱II | | | 1 | | 1 | | | | | 2 | 0 | 2 |
| | あぜ攪乱II | | | | | | | | 1 | | 0 | 0 | 0 |
| | A1a層 | | | | | | | 1 | | | 1 | 0 | 1 |
| | 合計 | | | 2 | | 1 | | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | 5 |

凡例：a：瓦層

第21表 各種動物最少個体数出土状況

| | 試掘 | I地区 | II地区 | III地区 | 区不明 | 合計 |
|------|-------|-----|------|-------|-----|-----|
| 軟骨魚網 | | 0 | 0 | | | 0 |
| 硬骨魚網 | | 14 | 1 | | | 15 |
| 鳥網 | | 14 | 5 | | | 19 |
| 哺乳類 | ネズミ科 | 1 | | | | 1 |
| | イヌ科 | 18 | 11 | | | 29 |
| | ネコ科 | 4 | 20 | | | 24 |
| 鳥類 | ジュゴン科 | 1 | 0 | | | 1 |
| | ウマ科 | | 57 | 0 | | 57 |
| | イノシシ科 | 1 | 196 | 82 | 2 | 283 |
| | ウシ科 | | 68 | 6 | | 74 |
| | | | 5 | 5 | | 10 |
| | ヤギ | | | | | |
| | 合計 | 1 | 378 | 130 | 2 | 513 |

に形質のブタが窯のところにあった。このブタについての来歴、時期などについての今後の調査資料の増加に注目していきたい。(註2)

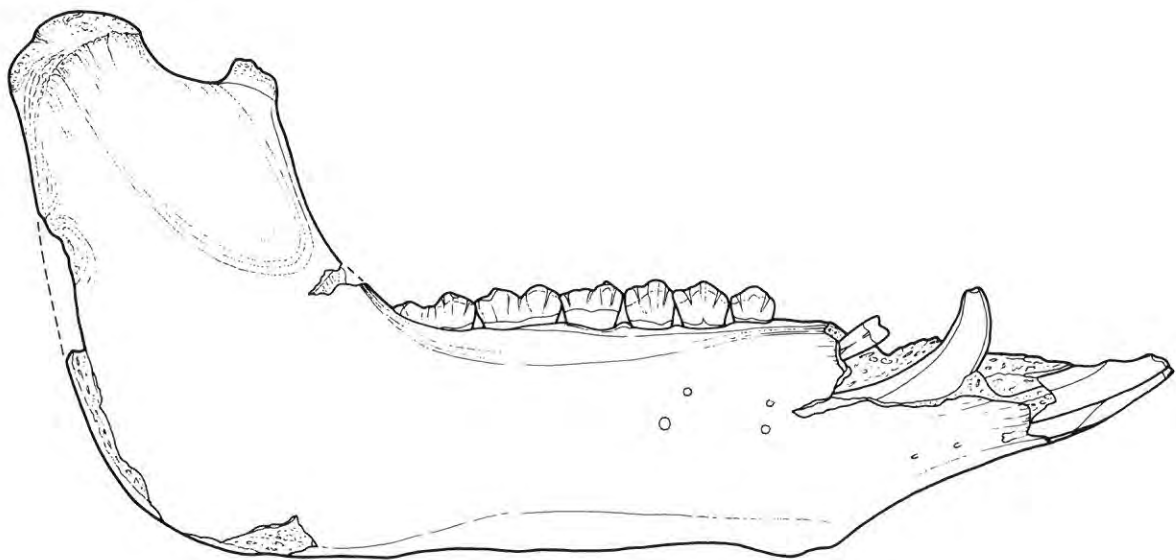
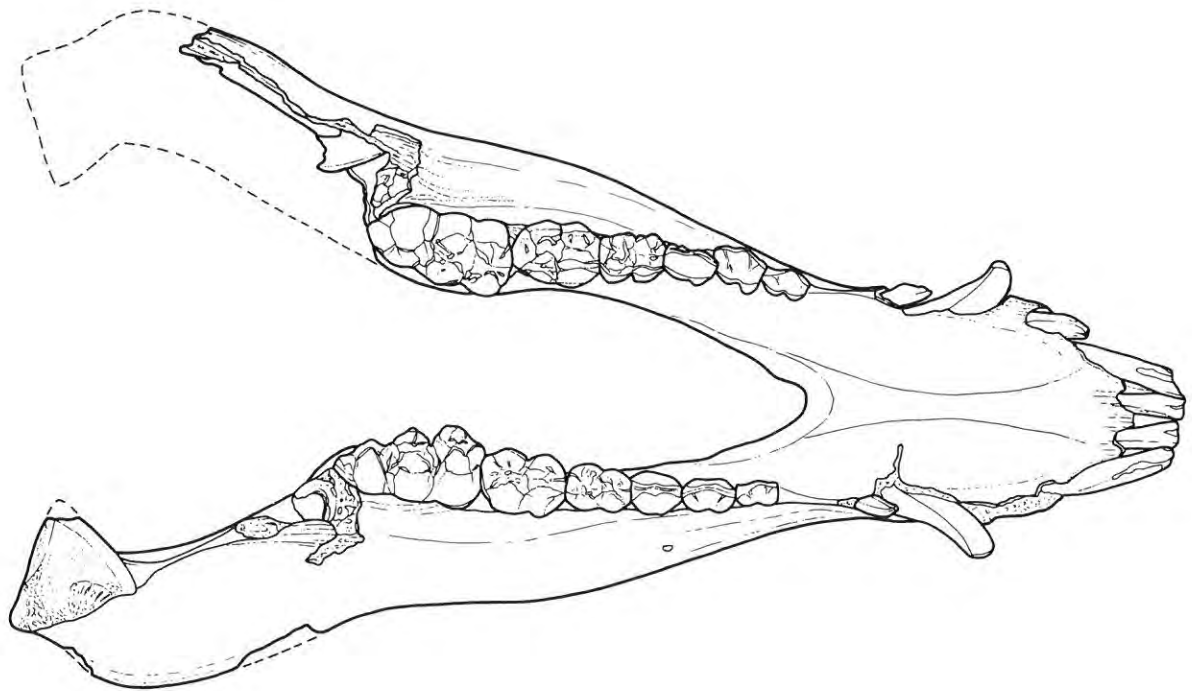
本遺跡で魚類遺体が少なかったことは先にも触れたのであるが、沖縄の漁業史のなかでこれをどのように位置付けていくか今後の課題であろう。グスク期に入ってから漁業はそれ以前の沖縄石器時代後期に比べると種類や量の増加していることが知られている。これも地域による違いがあり一概にはいえないと思うが、その間にあつて技術的な進歩、需要の増大は当然考えられ、それが考古学的な資料にもよくうかがうことができるのである。しかし、それ以後どの様な変遷をとるかはよくわかっていない。つまり本遺跡のような近世の遺跡から出土する動物遺体を調査する機会(ごく少数の資料をみることはあつたが)がまだないからであつて、これも将来の研究にまたねばならないであろう。筆者はそうした機会のくることを期待したい。いずれにしても沖縄における食生活文化史の研究も他の地域と同様に考古学資料の重要さはますます高まるであろう。

註

註1. 金子浩昌、伊波仲門門中墓出土のブタ遺存体、石川市古我知地古墓—沖縄県自動車道(石川那覇間)建設工事に伴う緊急発掘調査報告書(7)—、沖縄県文化財査報告書85集、p.177、沖縄県教育委員会、1987年12月。

註2. 伊波盛、琉球動物史、1979年、ひるぎ書房

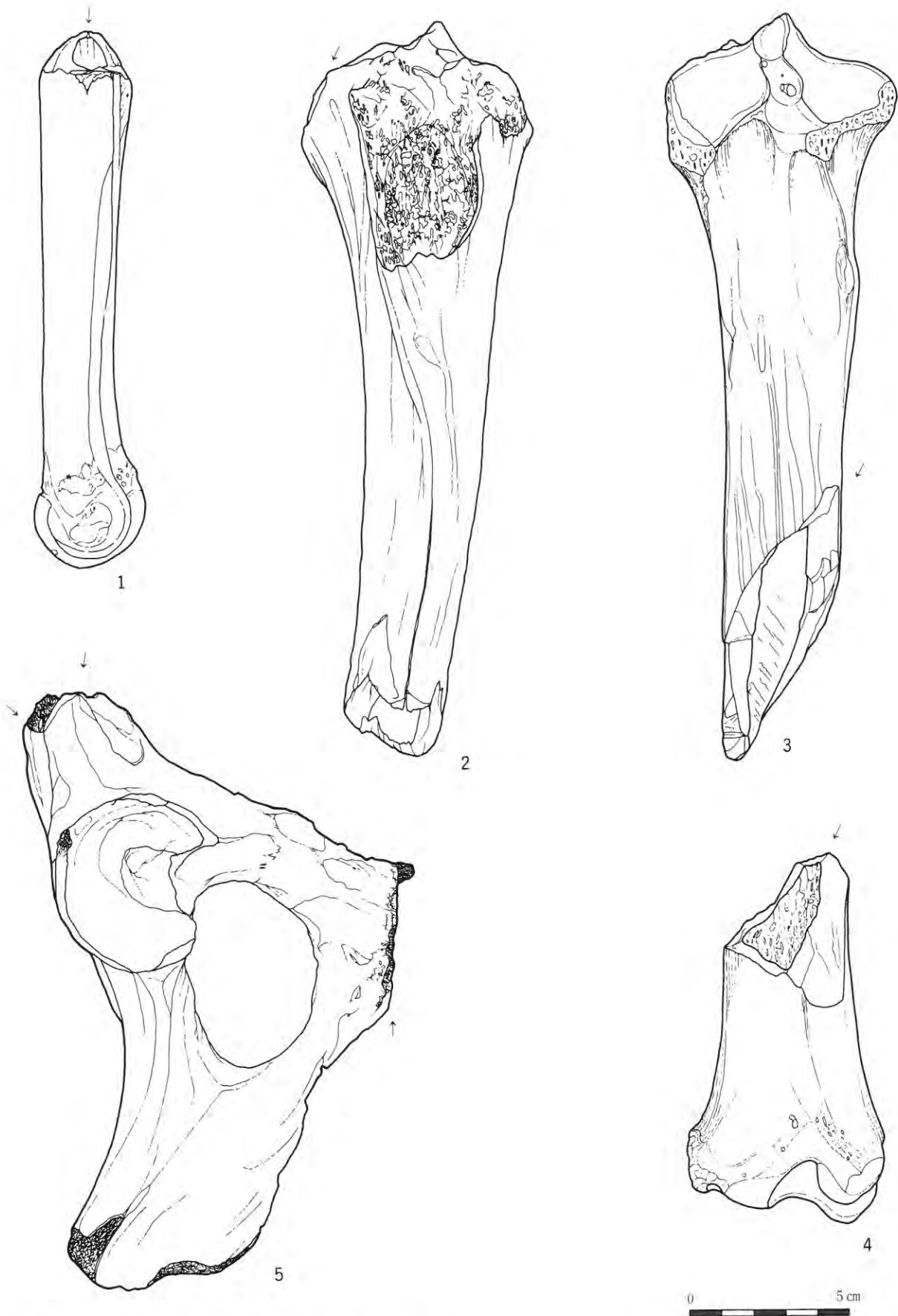
島袋正敏、沖縄の豚と山羊—生活の中から—、おきなわ文庫43、p.164、1989年1月。



第119図 プタ下顎骨

一括出土のものの一つで、小さい方の標本である。





第120図 切断加工痕をもつ四肢骨 (→は傷痕)

1. ウマ左中手骨 2. ウシ右脛骨 3. ウマ左脛骨 4. ウマ右脛骨 5. ウマ右寛骨

第22表 1 骨の計測 (ブタ)

〈獣骨の計測凡例〉 A・U・d : Driesh (1976) による。

上顎骨

| no | 場所 |
|----|----------------------------|
| 7 | Horion-prosthion |
| 25 | C-M3歯槽間長 |
| 26 | I3-P1歯槽間長 |
| 27 | P1-M3歯槽間長 |
| 28 | M1-M3歯槽間長 |
| 29 | P1-P4歯槽間長 |
| 30 | M3長 |
| 31 | M3幅 |
| 34 | 後頭頸幅 |
| 35 | 後頭骨外側部幅 |
| 36 | 大孔幅 |
| 38 | 項稜最大幅 |
| 39 | 項稜最小幅 |
| 40 | 側頭線間幅 |
| 41 | 前頭骨頰骨突起間幅 |
| 42 | 眼窩上孔間幅 |
| 45 | Basion-Akrokranium高 (後頭部高) |

下顎骨

| no | 場所 |
|-----|-----------------------|
| 1 | Gonion-Lufradentale間長 |
| 2 | Id-間節突起間長 |
| 3 | Go-M3歯槽間長 |
| 4 | Id-M3歯槽間長 |
| 5 | Go-P2歯槽間長 |
| 6c | 歯槽後縁-M3歯槽間長 |
| 7 | P1-M3歯槽間長 |
| 7a | P3-M3歯槽間長 |
| 8 | M1-M3歯槽間長 |
| 9a | P2-M3歯槽間長 |
| 9 | P1-M3歯槽間長 |
| 11 | I3-P2歯槽間長 |
| 12 | Id-おとがい突起 (下顎連合部) |
| 13 | 下顎枝高 (Gov-間節突起) |
| 14 | 下顎枝高 (Gov-下顎切痕底部) |
| 15 | 下顎枝高 (Gov-cr筋突起) |
| 16a | 下顎体高 (M3歯槽後縁) |
| 16b | 下顎体高 (M1歯槽前縁) |
| 16c | 下顎体高 (P2歯槽前縁) |

四肢骨

| | |
|-----|--------|
| GLP | 関節窩最大長 |
| BG | 関節窩最大幅 |
| SLC | 肩甲頸最少幅 |
| Bp | 近位端最大幅 |
| Bd | 遠位端最大幅 |
| SD | 骨幹部最少幅 |
| BT | 滑車最大幅 |
| SDO | 肘頭最少深 |
| DPA | 肘突起横断深 |
| GH | 最大高 |
| BFD | 遠位関節面幅 |

A. v. d. Driesh(1976)による。

(1) ブター一括出土標本

上顎骨 (R)

| 計測位置 | 計測値 | 備考 |
|------|--------|-------|
| 7 | 171 | |
| 25 | 113.4 | |
| 28 | 113.8 | |
| 26 | 40.7 | |
| 29 | 27.7 | |
| 30 | (25.6) | 不完全萌出 |
| 31 | 15.8 | |
| 27 | 95 | |
| 27a | 86.3 | |

頭蓋片

| NO | GLP |
|----|--------|
| 34 | 50.78 |
| 35 | 69.42 |
| 35 | (111) |
| 36 | 19.43 |
| 38 | 72.31 |
| 39 | 60.22 |
| 40 | 33.42 |
| 41 | 104.37 |
| 42 | 31.58 |
| 45 | 107.34 |

下顎骨 (R)

| 計測位置 | 計測値 | 備考 | ♀ (大型) |
|-------|---------|-------------------|--------|
| 1 | 217 | | |
| 2 | 240 | | |
| 3 | (66.2) | | |
| 4 | 162 | | |
| 5 | 150.0± | | |
| 6 | 119.5 | | 128 |
| 7 | 104.8 | | |
| 7a | 88.8 | | 101.2 |
| 8 | 58.7 | | |
| 9 | 64.4 | | |
| 9a | 29.2 | | |
| 11 | 43.5± | | 31.4 |
| 12 | 68.9 | | |
| 13 | 115.7 | | |
| 14 | 98.5 | | |
| 15 | (106.2) | | |
| 16a | 55.3 | | 48.3 |
| 16b | 45.1 | | 44.9 |
| 16c | 45.2 | | 45.8 |
| M1中央厚 | 27.7 | 歯槽のうろ的なものはみ受けられない | 29.6 |

上顎骨

| R/L | NO | GLP | SDD | DPA | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|-------|
| R | 7 | 171 | | | |
| R | 25 | 113.4 | | | |
| R | 28 | 113.8 | | | |
| R | 26 | 40.7 | | | |
| R | 29 | 27.7 | | | |
| R | 30 | (25.6) | | | 不完全萌出 |
| R | 31 | 15.8 | | | |
| R | 27 | 95 | | | |
| R | 27 | 86.3 | | | |

(2) ブタ

下顎骨

| R/L | NO | GLP | BG | 備考 |
|-----|------|---------|-------|-------|
| R | 1 | 217 | | ♀ |
| R | 2 | 240 | | |
| R | 3 | (66.2) | | ♀ |
| R | 4 | 162 | | ♀ |
| R | 5 | 150± | | ♀ |
| R | 6 | 119.5 | 128 | ♀/♀大型 |
| R | 7 | 104.8 | | ♀ |
| R | 7 | 88.8 | 101.2 | ♀/♀大型 |
| R | 8 | 58.7 | | ♀ |
| R | 9 | 29.2 | | ♀ |
| R | 9 | 64.4 | | ♀ |
| R | 11 | 43.5± | 31.4 | ♀/♀大型 |
| R | 12 | 68.9 | | ♀ |
| R | 13 | 115.7 | | ♀ |
| R | 14 | 98.5 | | ♀ |
| R | 15 | (106.2) | | ♀ |
| R | 16a | 55.3 | 48.3 | ♀/♀大型 |
| R | 16b | 45.1 | 44.9 | ♀/♀大型 |
| R | 16c | 45.2 | 45.8 | ♀/♀大型 |
| R | M1中央 | 27.7 | 29.6 | ♀/♀大型 |

肩甲骨

| R/L番号 | GLP | BG | SLC |
|-------|-----|------|-------------|
| R | 1 | 37.6 | 23.68 26.12 |

上腕骨

| R/L番号 | SD | Bd | BT | BP | GL |
|-------|----|-------|-------|-------|--------------|
| L | 1 | 20.46 | 45.26 | 37.07 | 44.21 157.41 |

橈骨

| R/L番号 | SD | Bd | BP |
|-------|----|---------------|-------|
| L | 1 | 22.89 × 13.97 | 32.79 |
| R | 1 | 21.39 × 13.0 | 30.26 |

尺骨

| R/L番号 | GLP | SDO | DPA |
|-------|-----|---------|-------|
| R | 1 | (28.57) | 40.56 |

四肢骨

| 部位 | R/L | 計測値 |
|-----------|-----|---|
| 肩甲骨 | R | GLP: 37.6, BG: 23.68, SLC: 26.12 |
| 上腕骨 | L | BD: 45.26, PT: 37.07, SD: 20.46, GL: 157.41, BP: 44.21 |
| 橈骨 | L | BP: 30.26(R), BD: 32.79(L), SD: 22.89×13.97(L), 21.39×13.0(R) |
| 尺骨 | R | SDO: (28.57), DPA: 40.56 |
| 中手・中足骨IV | R | BP: 16.10, GL: 58.25 |
| 中手・中足骨III | R | BP: 19.52, GL: 60.24 |

中手・中足骨III

| R/L番号 | BP | GL |
|-------|----|-------------|
| R | 1 | 19.52 60.24 |

中手・中足骨IV

| R/L番号 | BP | GL |
|-------|----|------------|
| R | 1 | 16.1 58.25 |

第22表2 骨の計測 (ウシ、ウマ、イヌ)

(3) ウシ

| 肩甲骨 | | | | |
|-------|-------|-------|-------|----|
| R/L番号 | GLP | BG | SLC | 備考 |
| L 1 | 65.27 | 55.22 | 61.13 | |
| L 2 | 49.42 | | 44.6 | |
| L 3 | | 48.25 | | |
| L 4 | | 36.49 | 28.76 | 幼 |
| L 6 | 56.92 | | | |
| L 7 | | 34.38 | | 幼 |
| L 9 | | | 42.82 | |
| R 1 | 59.89 | 52.28 | 53.39 | |
| R 2 | | 53.77 | 53.91 | |
| R 3 | 56.68 | 49.74 | 46.37 | |
| R 4 | 61.88 | 52.16 | | |
| R 5 | | 44.05 | 52.7 | |
| R 7 | 50.07 | 45.94 | | |
| R 9 | | | 54.46 | |

| 上腕骨 | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SD | Bd | BT |
| L 1 | 23.65 | | |
| L 2 | 30.5 | | |
| L 3 | | | 62.22 |
| R 1 | 29.03 | | |
| R 2 | | 85.62 | 79.62 |
| R 3 | | | 77.2 |

| 桡骨 | | | | | |
|-------|------|------|-------|--------|-------|
| R/L番号 | SD | Bd | BD | BP | GL |
| L 1 | 36.9 | 70.9 | | 82.15± | 27.5± |
| L 2 | | | 75.89 | | |
| R 1 | | | | 81.39 | |

| 尺骨 | | |
|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SDO | DPA |
| L 1 | 48.98 | |
| R 1 | 44.22 | 57.11 |

| 中手骨 | | | | |
|-------|-------|-------|-------|----|
| R/L番号 | SD | Bd | BP | 備考 |
| L 1 | | 61.8 | | |
| R 1 | 35.96 | | 59.57 | |
| R 2 | 36.92 | | 66.12 | |
| R 3 | 23.51 | | 51.7 | 幼 |
| R 4 | 33.29 | | 61.73 | |
| R 5 | | 55.12 | | |
| R 6 | | 62.68 | | |

| 大腿骨 | |
|-------|-------|
| R/L番号 | SD |
| L 1 | 34.19 |
| R 1 | 35.09 |

| 脛骨 | | | | |
|-------|-------|-------|-----|-----|
| R/L番号 | SD | Bd | BP | GL |
| L 1 | | 63.16 | | |
| L 2 | | 62.47 | | |
| R 1 | 29.76 | | | |
| R 2 | | 60.71 | | |
| R 3 | | 65.98 | | |
| R 4 | 34.1 | 60.03 | 96± | 331 |

| 距骨 | | |
|-------|-------|-------|
| R/L番号 | GL1 | GLm |
| L 1 | 64.42 | |
| L 2 | 64.38 | |
| L 4 | | 61.89 |
| L 3 | 70.28 | |
| R 1 | 64.88 | |
| R 2 | 70.19 | |

| 踵骨 | |
|-------|------|
| R/L番号 | GL |
| L 1 | 130± |

| 中心足根骨 | |
|-------|-------|
| R/L番号 | CB |
| L 1 | 54.87 |
| L 2 | 56.2 |
| L 3 | 51.43 |
| L 4 | 53.2 |
| R 1 | 59.04 |
| R 2 | 51.02 |

| 中足骨 | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SD | Bd | BP |
| L 1 | 24.61 | | 46.52 |
| L 2 | 27.08 | | |
| L 3 | 28.77 | 59.3 | |
| R 1 | 22.82 | | 39.16 |
| R 2 | 27.05 | | 48.15 |
| R 3 | 27.18 | | 46.2 |
| R 4 | 23.08 | 48.38 | |

(4) ウマ

| 肩甲骨 | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | GLP | BG | SLC | GL |
| L 1 | 85.22 | 44.42 | 54.68 | 54.68 |
| L 2 | 79.67 | 39.27 | 55.85 | 49.66 |
| R 1 | | 42.1 | | 52.11 |

| 上腕骨 | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| R/L番号 | BD | BT | BP |
| L 1 | 71.74 | 68.55 | |
| L 2 | 70.49 | 64.68 | |
| L 3 | | 67.65 | |
| L 4 | | | 74.74± |
| R 1 | 69.29 | 65.51 | |

| 桡 (尺骨) | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SD | BD | BP |
| L 1 | 37.32 | | 75.49 |
| L 2 | 37.06 | | |
| L 3 | | 60.85 | |
| L 4 | | 63.91 | |
| R 1 | | 67.02 | |

| 中手骨 | | |
|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SD | BP |
| L 1 | 28.96 | 45.5 |
| L 4 | 28.38 | 41.83 |
| L 5 | | 45.18 |
| L 6 | | 42.21 |
| R 1 | 29.84 | 46.26 |
| R 2 | 23.42 | 45.02 |
| R 3 | | 43.62 |
| R 4 | | 42.54 |

| 寛骨 | | |
|-------|-------|-------|
| R/L番号 | LA | AR |
| L 1 | 56.72 | 53.86 |
| L 2 | 62.43 | 57.07 |
| R 1 | 56.06 | 51.19 |
| R 2 | 61.61 | 55.76 |

| 大腿骨 | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SD | BD | BP |
| L 1 | | | 97.68 |
| L 2 | 33.07 | 77.28 | |
| R 1 | 34.94 | 77.75 | |
| R 2 | | 83.61 | |

| 脛骨 | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SD | BD | BP |
| L 1 | 36.15 | | 80 |
| L 2 | 61.84 | | 63.12 |
| L 3 | | | 65.55 |
| R 1 | | | 84.74 |
| R 2 | 35.94 | | 79.3 |
| R 3 | | 64.88 | |

| 距骨 | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| R/L番号 | BFD | GB | GH |
| R 1 | 43.65 | 51.78 | 54.82 |
| R 2 | 39.75 | 51.33 | |
| R 3 | 45.27 | 51.83 | |
| R 4 | 45.64 | 52.79 | 54.25 |

| 踵骨 | |
|-------|--------|
| R/L番号 | GL |
| L 1 | 95.27 |
| L 2 | 100± |
| L 3 | 98.07 |
| R 1 | 102.41 |
| R 2 | 99.38 |

| 中足骨 | | | |
|-------|----|-------|-------|
| R/L番号 | SD | Bd | BP |
| L 1 | 1 | | 44.23 |
| L 2 | 2 | 26.49 | |
| R 1 | 1 | | 44.69 |
| R 2 | 2 | 28.24 | 47.15 |
| R 3 | 3 | 26.22 | 39.99 |
| R 4 | 4 | | 43.06 |

| 基節骨 | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 番号 | SD | Bd | GL |
| 1 | 29.17 | 41.92 | 72.86 |
| 2 | 26.96 | 38.89 | 78.23 |
| 3 | 29.19 | 41.96 | 74.4 |
| 4 | 34.14 | 44.93 | 75.67 |
| 5 | 29.87 | 40.73 | 78.04 |
| 6 | 27.58 | 41.6 | 75.87 |
| 7 | 30.85 | 42.52 | 76.83 |
| 8 | 31.72 | 43.48 | 81.83 |
| 9 | 28.87 | | 74.06 |
| 10 | 29.89 | 40.46 | |
| 11 | 28.66 | 39.61 | 67.91 |
| 12 | 28.59 | 40.07 | 75.77 |

| 中節骨 | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 番号 | SD | Bd | BP | GL |
| 1 | 39.09 | 42.29 | 47.12 | 40.56 |
| 2 | 40.54 | 47.56 | 46.66 | 40.96 |
| 3 | 41.3 | 44.86 | 47.78 | 42.34 |
| 4 | 38.83 | 42.49 | 47.73 | 43.19 |
| 5 | 37.55 | 41.63 | 45.46 | 40.6 |
| 6 | 37.7 | 40.71 | 43.35 | 41.06 |
| 7 | 40.64 | 45.2 | 45.03 | 42.57 |
| 8 | 40.63 | 47.78 | 45.73 | 40.6 |
| 9 | 43.02 | 46.43 | 48.69 | 39.34 |
| 10 | 36.99 | 40.53 | 45.37 | 42.02 |
| 11 | 37.68 | 42.02 | 45.55 | 40.96 |

| 末節骨 | | | |
|-----|--------|--------|-------|
| 番号 | GL | Ld | CB |
| 1 | 46.69± | 38.67 | |
| 2 | | 40.19± | |
| 3 | 49.27± | 41.77± | |
| 4 | 55.53± | 40.49 | 70.71 |
| 5 | 53.4 | 43.04 | |
| 6 | | | 63.31 |

(5) イヌ

| 上腕骨 | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-----------------|
| R/L番号 | SD | Bd | GL | 備考 |
| L 1 | 10.39 | | | 24.6(Pro epはずれ) |
| R 1 | 8.18 | 22.16 | 104.28 | さ44第1瓦 |

| 桡骨 | | | | |
|-------|------|-------|--------|---------|
| R/L番号 | SD | BP | GL | 備考 |
| L 1 | 9.68 | 13.56 | | 1区ち47かく |
| R 1 | 7.06 | 11.84 | 101.22 | |
| R 1 | | 15.48 | | |

| 尺骨 | | |
|-------|-------|-------|
| R/L番号 | SDO | DPA |
| L 1 | 14.53 | 12.06 |

| 寛骨 | |
|-------|------|
| R/L番号 | SD |
| L 1 | 10.3 |

| 大腿骨 | | | | |
|-------|------|-------|-------|------|
| R/L番号 | SD | Bd | GL | 備考 |
| L 1 | 8.29 | 21.04 | 112.3 | |
| R 1 | | 28.37 | | 1区3瓦 |

| 脛骨 | | | | |
|-------|-------|----|----------|--|
| R/L番号 | SD | BP | 備考 | |
| 1 | 7.5 | | | |
| 1 | 12.68 | 30 | け46第2瓦下部 | |

第23表 ブタ歯牙出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | 左 | | | | | | | 臼歯破片 | 個体数 | | | | | | | | |
|------------------|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|---|----|----|----|----|----|----|----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | | | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 |
| 攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1層 円形集中部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 L型瓦列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 磚組遺構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 溝状遺構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4b層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長瓦列 西側第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5a層 磚組遺構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5a層 炭だまり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6a層 中央瓦列側溝 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1層 円形集中部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 L型瓦列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 磚組遺構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3a層 溝状遺構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4b層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長瓦列 西側第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5a層 磚組遺構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5a層 炭だまり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6a層 中央瓦列側溝 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| あせ赤褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| あせ赤褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試掘6地点 掘6層0/20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

凡例 <>未明出、()幼、a:瓦層、b:砂利層

第24表 イノシシ歯牙出土状況II地区

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | 左 | | | | | | | 臼歯破片 | 個体数 | | | | | | | | |
|----------------------------|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|---|----|----|----|----|----|----|----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | | | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 |
| 表土攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 攪乱I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 攪乱II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2層落込み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2層茶褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4層アゼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5層落込み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IトV 西側落込み 2号室周辺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A-4 赤褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘土だまり上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 攪乱1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 攪乱2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2層落込み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2層茶褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4層アゼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5層落込み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IトV 2号室周辺 A-4 赤褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘土だまり上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

<>未明出、()幼

第25表 ブタ歯牙出土状況II地区(一括)

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | 左 | | | | | | | 臼歯破片 | 個体数 | | | | | | | | |
|----------------------|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|---|----|----|----|----|----|----|----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | | | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 |
| IトV 西側落込み 地区不明 | A上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IトV 西側落込み 地区不明 | B下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IトV 西側落込み 地区不明 | A下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IトV 西側落込み 地区不明 | B上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

凡例 ()幼

第26表 イヌ歯牙出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | | | | | 左 | | | | | | | | | | | 個体数 |
|-------|--------|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|---------|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | |
| 第3層 | 上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | a層骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | 下顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | a層骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| II地区 | 攪乱I上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II地区 | 攪乱I下顎骨 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 地区不明 | 不明上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地区不明 | 不明下顎骨 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| A地区不明 | 不明上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| A地区不明 | 不明下顎骨 | 1 | | | | | | | | | | | 1 1 1 1 | | | | | | | | | | | 2 |

凡例：a:瓦層

第27表 ウマ歯牙出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | | | | | 左 | | | | | | | | | | | 個体数 |
|-------|------|-------------------------------|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|---------------------------------|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | |
| 第1層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 第2層 | a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | bの土層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | 顎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| 第3層 | a層 | 2 1 1 | | | | | | | | | | | 2 4 5 4 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 第4層 | a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 |
| 第5層 | 骨 | 1 2 | | | | | | | | | | | 2 3 8 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 中部そうじ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 中央互列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 不明 | | 2 1 | | | | | | | | | | | 1 1 1 3 2 | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 9 11 1 18 0 8 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 4 4 7 6 9 6 39 | | | | | | | | | | | 39 |
| 攪乱 | | 0 0 0 0 3 3 1 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | (1) |
| 第1層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | 試掘 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 第2層 | bの土層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | 顎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| 第3層 | a層 | 1 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | (2) |
| 第4層 | 骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第4層 | a層 | 1 | | | | | | | | | | | 1 7 5 2 3 1 | | | | | | | | | | | 8 |
| a列裏込め | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 中央a列 | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 合計 | | 0 0 0 2 0 0 0 0 6 9 8 7 6 4 | | | | | | | | | | | 0 0 0 3 0 0 0 0 5 6 1 12 7 7 | | | | | | | | | | | 28 |
| 攪乱 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | (4) |
| 第5層 | 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (2) |
| 第7層 | 顎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 第8層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第9層 | 骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 不明 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 1 2 1 3 0 1 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1 0 3 | | | | | | | | | | | 2 |
| 攪乱 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | (2) |
| 第2層 | 下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第5層 | 顎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第7層 | 顎 | 1 1 3 2 1 | | | | | | | | | | | 1 5 1 | | | | | | | | | | | 5 |
| 第8層 | 骨 | 1 | | | | | | | | | | | 2 2 1 | | | | | | | | | | | 2 |
| 合計 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 3 1 4 1 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 2 3 8 0 1 2 | | | | | | | | | | | 11 |
| 攪乱 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | |

凡例：() 幼, a:瓦層, b:砂利層

第28表 ウシ歯牙出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | | | | | 左 | | | | | | | | | | | 個体数 |
|-------|-----|--------------------------------|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|---------------------------------|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | |
| 表土攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 第1層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 第3層 | 上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| 第3層 | a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (2) |
| 第4層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第4層 | a層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第5層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 北井戸 | 骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 黄褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (1) |
| 合計 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 5 2 2 4 5 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 1 4 2 5 3 | | | | | | | | | | | 24 |
| 表土攪乱 | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | (8) |
| 第1層 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | a層 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 3 |
| 第3層 | 下 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 4 |
| 第3層 | a層 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | (1) |
| 第4層 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第4層 | a層 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第5層 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 北井戸 | 骨 | 1 1 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 黄褐色 | | 1 1 1 1 1 | | | | | | | | | | | 2 3 1 1 1 | | | | | | | | | | | 3 |
| 不明 | | 1 1 1 1 2 | | | | | | | | | | | 1 2 1 | | | | | | | | | | | (1) |
| 合計 | | 3 1 0 0 0 0 0 0 7 8 7 16 10 11 | | | | | | | | | | | 1 2 0 0 0 0 0 0 0 7 9 13 9 5 24 | | | | | | | | | | | 39 |
| 表土攪乱 | | 0 1 0 0 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | 1 1 0 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 | | | | | | | | | | | (8) |
| 第5層 | 顎 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第7層 | 茶褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 表土攪乱 | | 1 1 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 第5層 | 顎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第7層 | 茶褐色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |

凡例：() 幼, a:瓦層

第29表 ヤギ歯牙出土状況

| 出土地層位 | 部位 | 右 | | | | | | | | | | | 左 | | | | | | | | | | | 個体数 |
|-------|-------|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | I1 | I2 | I3 | C | P1 | P2 | P3 | P4 | M1 | M2 | M3 | |
| 第2層 | 上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | 第2層下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第2層 | 下顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 第3層 | 第2層下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 表土攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 攪乱 | 上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II地区 | 7層(上) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 表土攪乱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 攪乱 | 下顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| II地区 | 7層(上) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |

凡例：a:瓦層

第VI章 結 語

県庁舎行政棟建設工事に関わって発掘調査された湧田古窯跡は沖縄窯業史研究の上に多大な成果と研究課題を呈示した。沖縄の伝統的産業としての窯業の展開を知る貴重な遺跡であることがあらためて確認された。幾多の時代の変遷の流れの中において、この地に多くの建物が建設され、文字どおり那覇市の中核を形成してきた場所でもあったことから旧来からの地形が大きく変貌されてきたところでもある。それとともに、湧田古窯跡も完全に壊滅したと考えられていた。しかしながら発掘調査では、これまで予期してなかった重要な遺構が次々と検出されるとともに、膨大な量の遺物が出土した。

これまで沖縄の窯業史研究では、登り窯が伝統的な窯の形態であるとされてきたが、従来の見解を覆す平窯構造が確認されたことが特筆される。平窯そのものは、日本本土にも古くから見られるが、湧田窯の例のような形状をもつものはなく、その類例は中国、東南アジアに分布するといわれている。沖縄の窯業技術の源流の解明に、きわめて重要な手がかりをもたらすこととなった。

外来文化、技術形態の変容のあり方の一つとして、沖縄の歴史的、地理的位置とその展開の特質を象徴的に示している。琉球王府が編纂した文献に湧田窯創建の記録があり、その実際の存在が発掘により検証された。今回の発掘地域は瓦窯を中心として生産していたことが確認された。発掘面積約5000㎡の中で、作業場（工房跡）、粘土取り場、窯、不良品廃棄物、製品置き場等が確認され、「窯場」の様相を主体的に把握出来たことは意義深いものがあったと言える。今調査では、瓦窯が数基検出されるとともに、これに関連する石列囲いの区画、排水溝、瓦列、埴列、井戸等が広範囲に及んで検出された。

特に今回検出された窯は平窯の形態で、南中国との関係が指摘されている。本遺跡が立地する一帯は瓦生産関係窯場で占められていたことはまちがいない。伝承で言われているとおり、湧田窯業遺跡は、県庁敷地のみならずハーバービューホテルが位置する楚辺やさらに南側の壺川に至る広範囲に及んでいたと推定される。その中でも瓦や埴を中心に焼いた瓦窯、甕、壺を焼いた荒焼窯、さらには湧田焼と呼ばれる上焼の窯とそれぞれが専門化されており、窯場が区分されていたと考えられる。

また、遺物については、瓦や窯道具、埴、湧田の上焼、中国磁器等が出土し、時期判定の目安になった。II地区を中心として出土した中国陶磁器について見てみると、15世紀～19世紀にかけての遺物の出土が目立ち、特に17世紀後半～19世紀にかけての資料がまとまって出土しており、近世期の沖縄の窯業の時期、湧田の性格を考える貴重な資料となっている。

各地に残る琉球王朝時代の建造物の屋根瓦が湧田窯で製造された可能性が高いことが確認され、琉球王朝関係建造物の屋根瓦の製造地の一つとして、他の古窯との今後の比較検討の一端をかいま見ることが出来た。また、これまで沖縄の各地の近世村落遺跡から、湧田焼ではないかと見られる陶器がかなり出土している。今回の発掘調査により、その照合が可能になった。

湧田窯の初現と終末はなお不明な部分を残しているが、次のようなことは明らかである。すなわち、薩摩から朝鮮の陶工を招聘して、技術指導を受けていた時よりかなり前から湧田窯は開始されていた。1616年にこの地に窯が開設されて、その後1682年には知花窯など、いくつかの古窯とともに壺屋に統合されたとする記録は、湧田窯のすべてではなかったのではないかと考える。少なくとも、本地区においての瓦窯については、統合後も続けられていた可能性が高い。

以上のように、沖縄の窯業研究は今だ不明確な部分が多く、特に発掘調査において、窯の構造が検出されたことの意義は深く、今後は類例資料の蓄積が必要である。そのことによって沖縄における近世窯業の研究が進展していくものと考えられる。

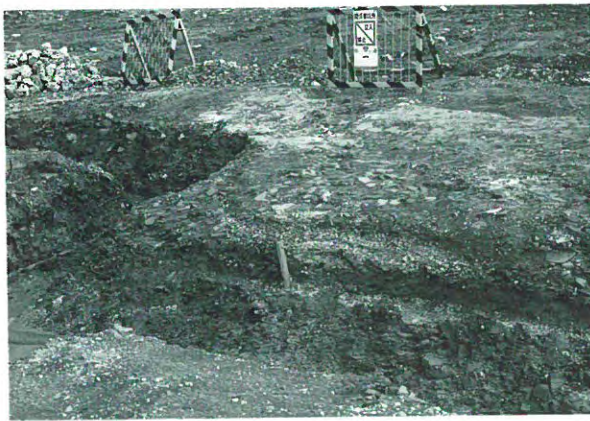
図 版



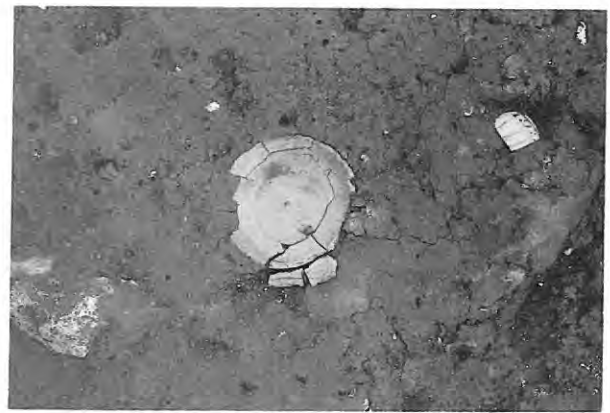
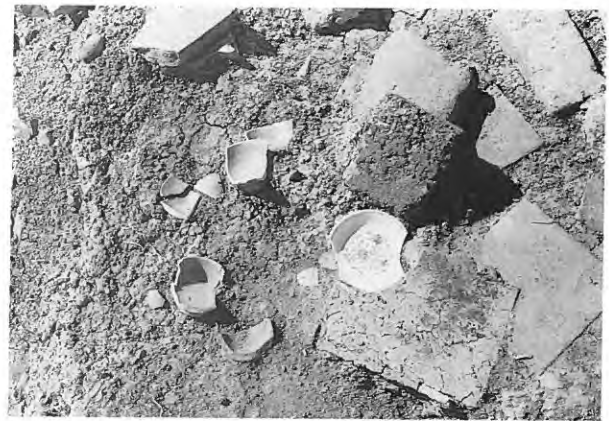
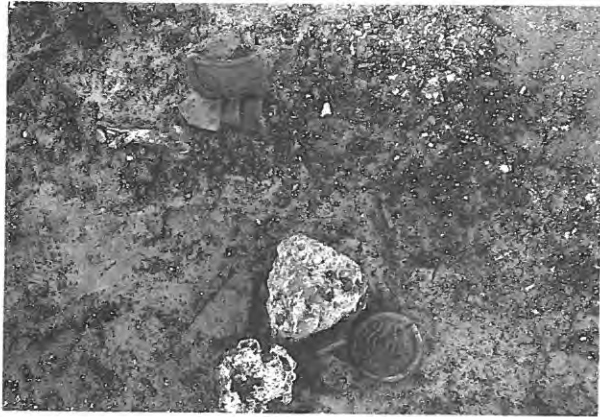
第1図版 表土剥ぎの状況と事前の打ち合せ



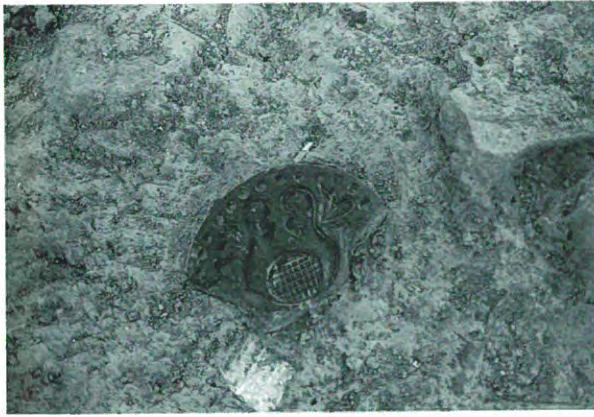
第2図版 I地区作業風景



第3図版 I地区堆積層の状況



第4图版 I地区遺物出土状況



第5图版 I地区遺物出土状況



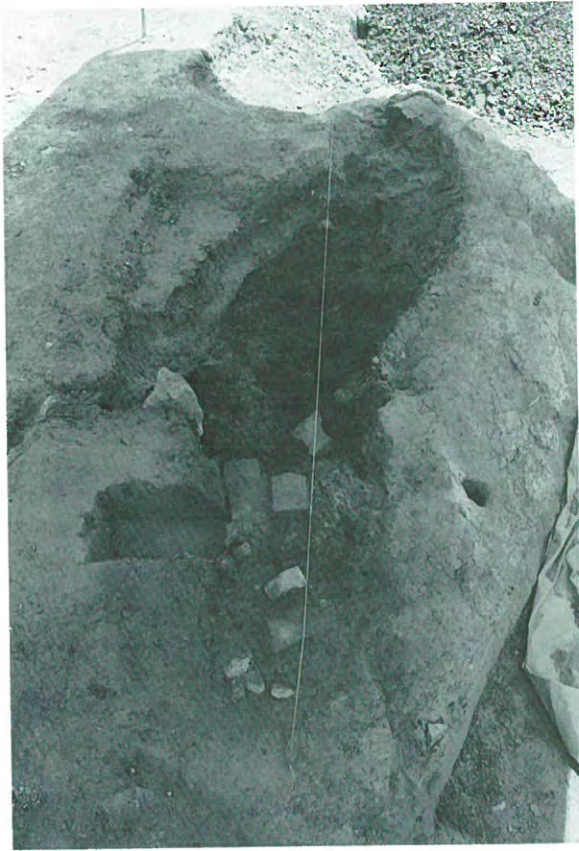
第6図版 I地区 (上: 3号窯と4号窯検出状況、中・下: 3号窯)



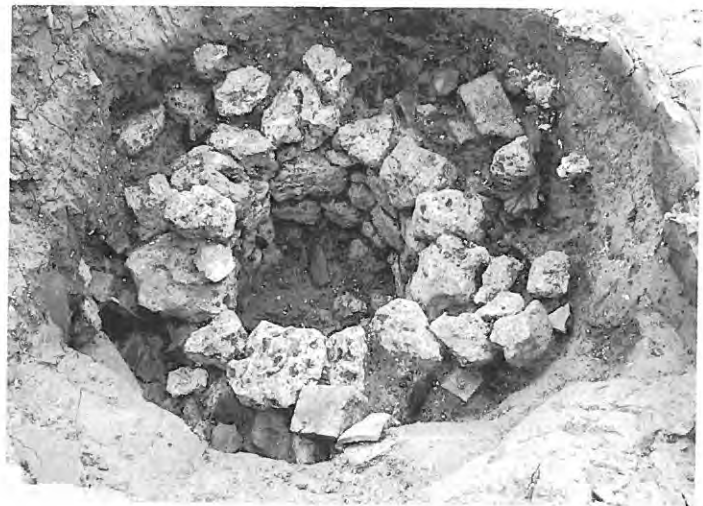
第7図版 I地区4号窯の状況



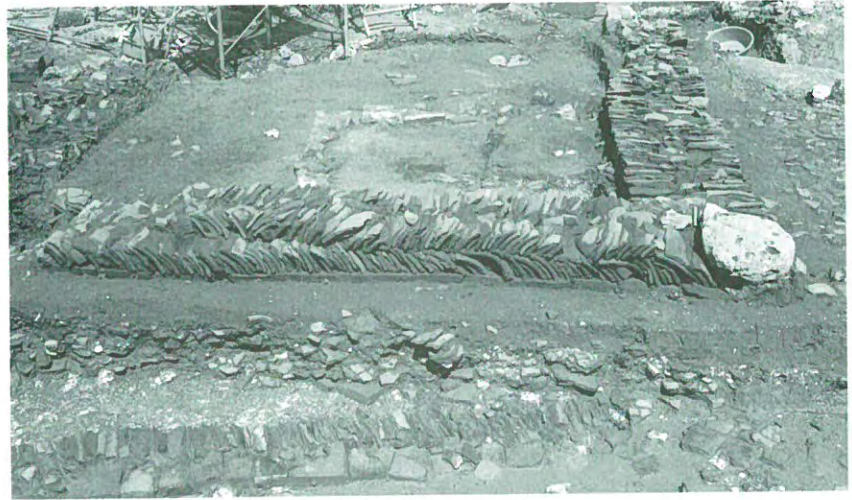
第8図版 I地区5号窯の状況



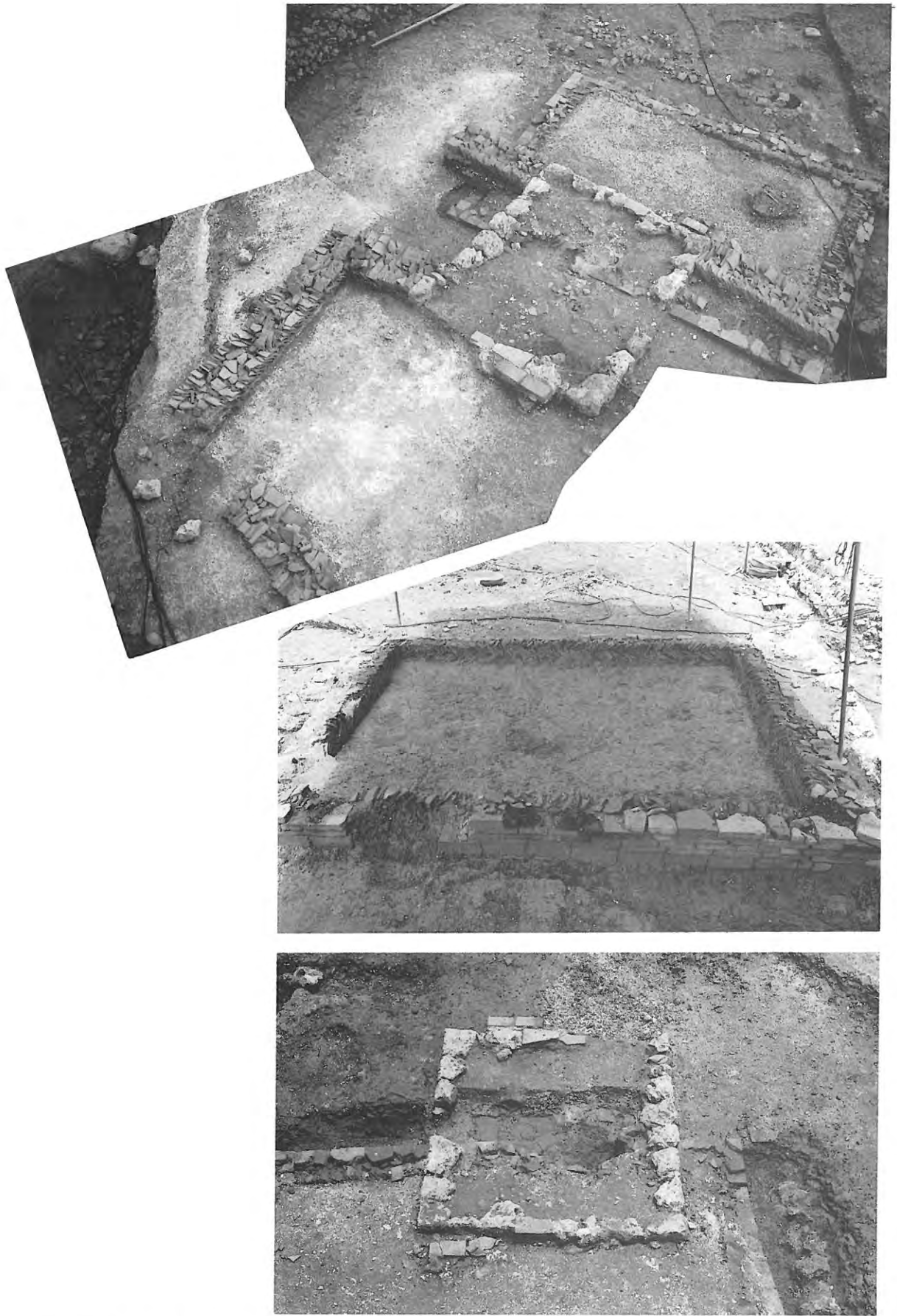
第9図版 I地区6号窯の状況



第10図版 I地区井戸検出状況



第11図版 I 地区遺構検出状況



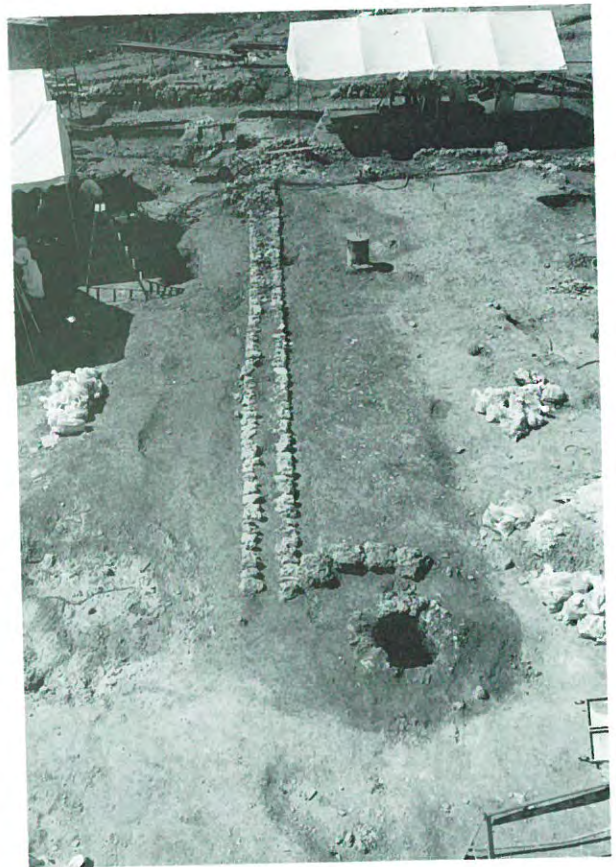
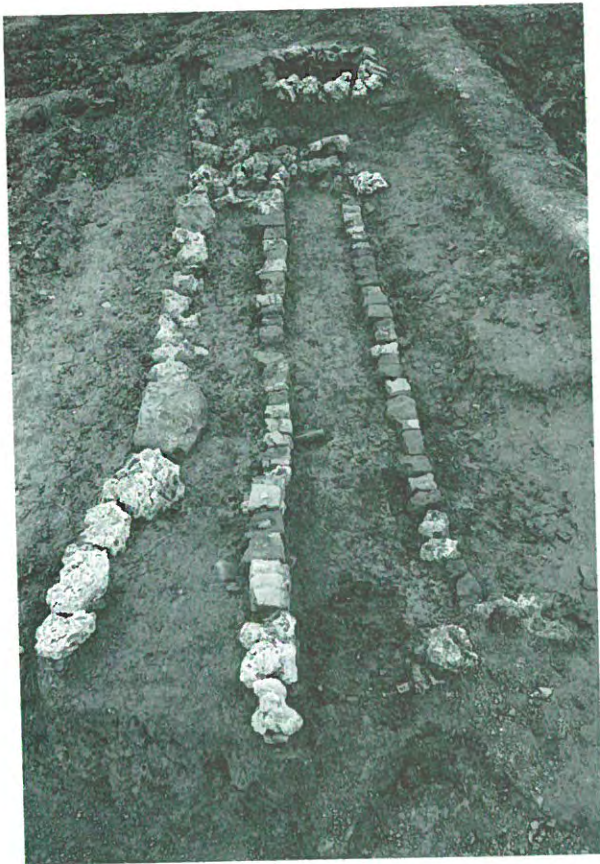
第12図版 I 地区遺構検出状況



第13図版 I 地区遺構検出状況



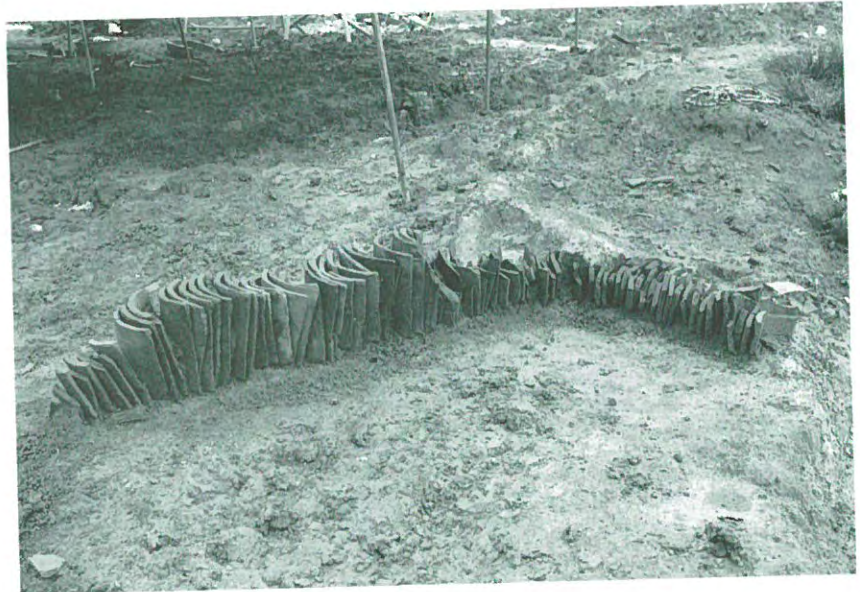
第14図版 I 地区遺構検出状況



第15図版 I 地区遺構検出状況



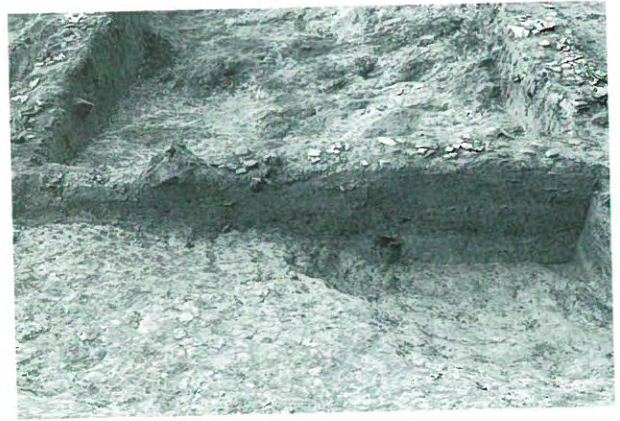
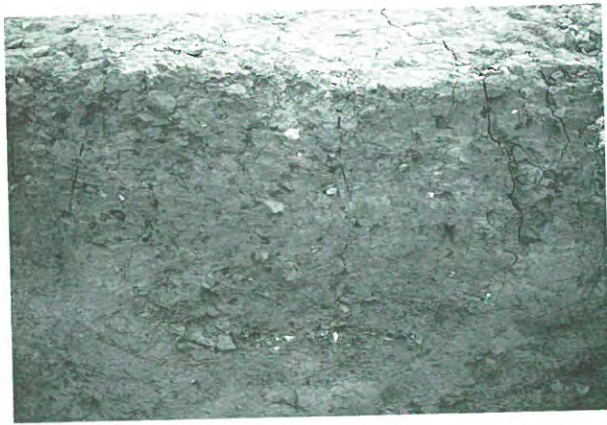
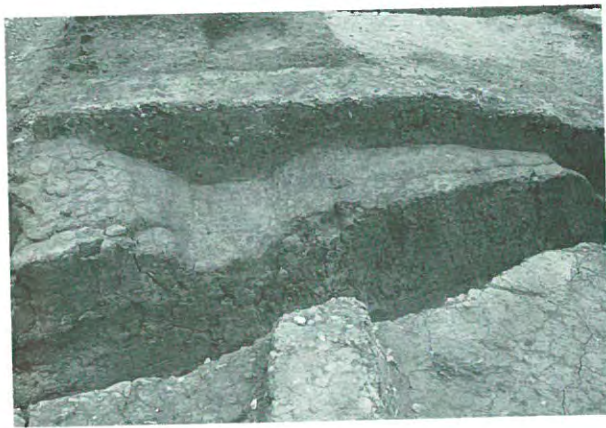
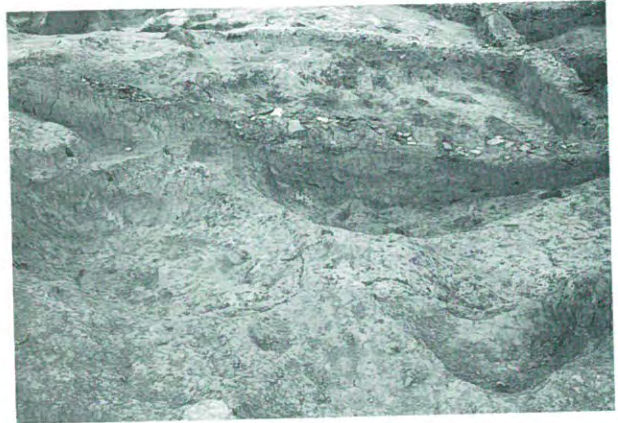
第16図版 I地区遺構検出状況



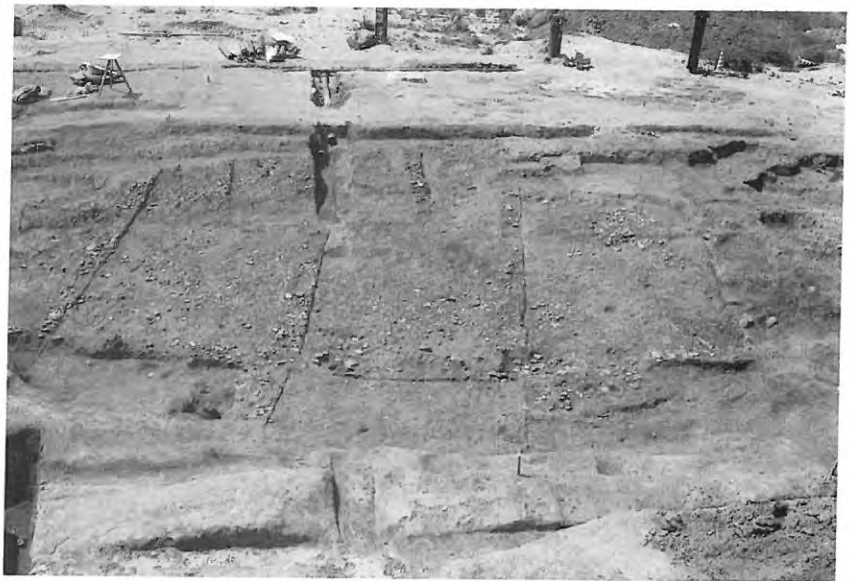
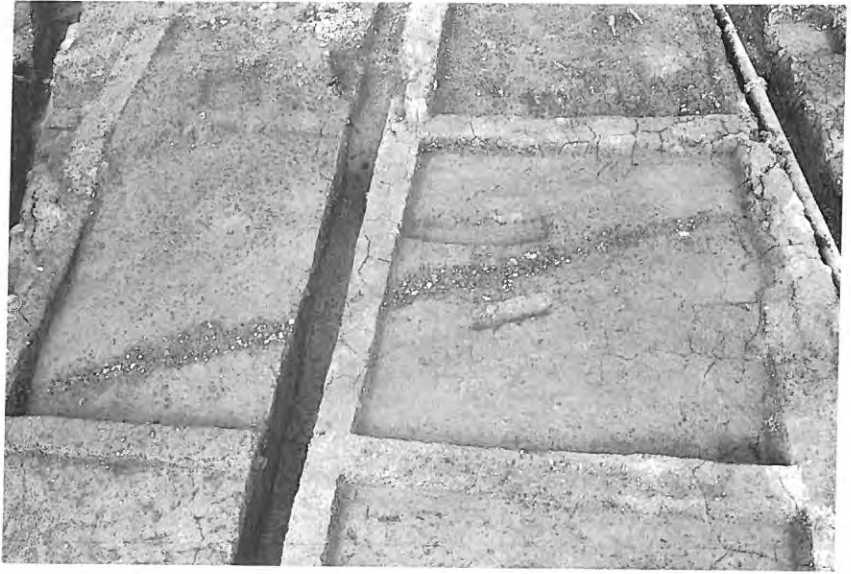
第17図版 I 地区遺構検出状況



第18図版 II地区作業風景



第19図版 II地区堆積層の状況



第20図版 II地区の状況



第21図版 II地区の状況



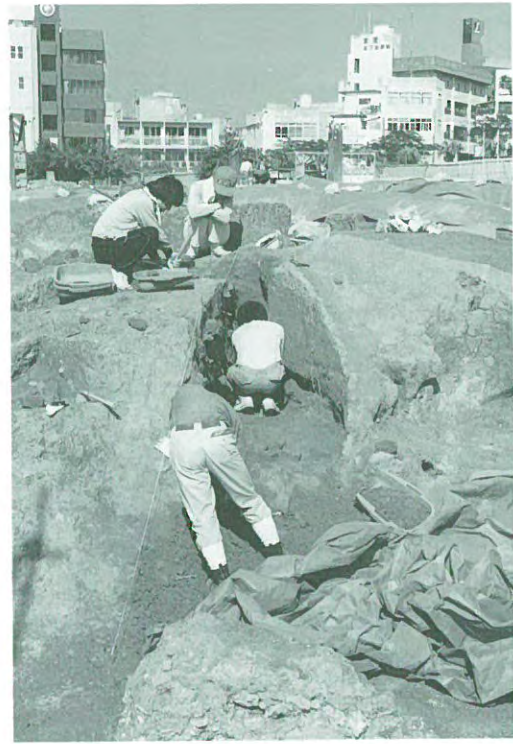
第22図版 II地区遺物出土状況



第23图版 II地区獸骨出土狀況



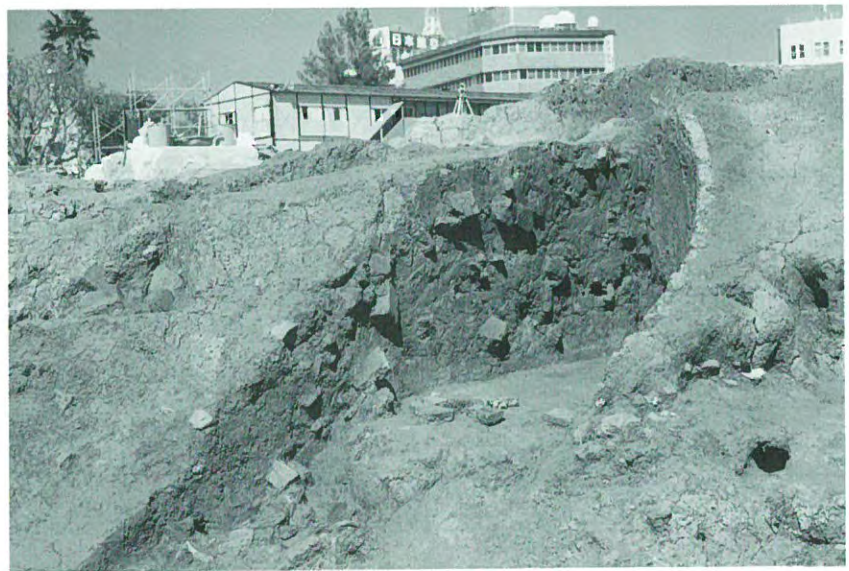
第24図版 II地区窯前面の状況



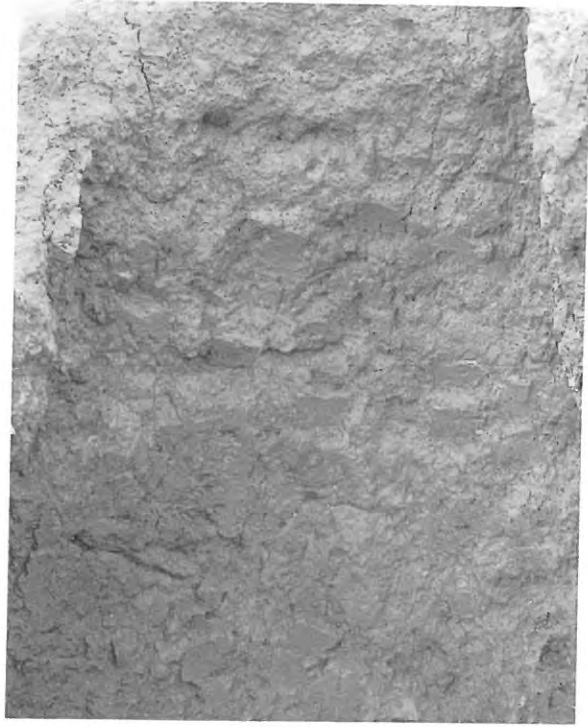
第25図版 II地区1号窯・2号窯の発掘状況



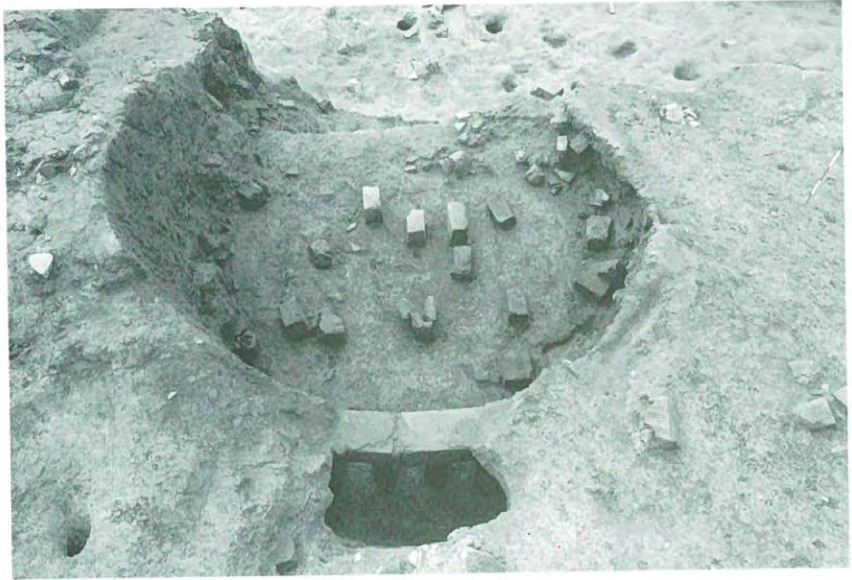
第26図版 II地区1号窯（上）と2号窯（下）



第27図版 II地区 1号窯



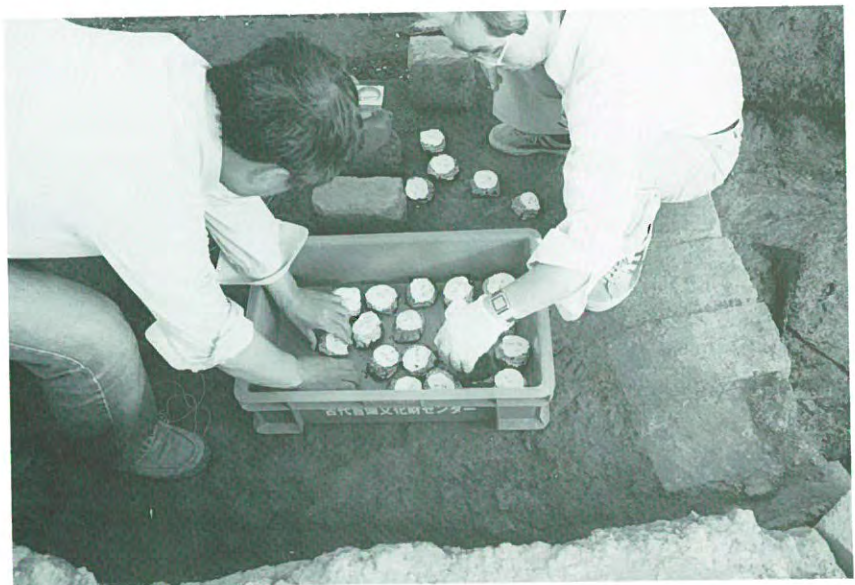
第28図版 II地区1号窯内側の調整痕



第29図版 II地区2号窯の状況と作業風景



第30图版 II地区 2号窰



第31図版 II地区窯体熱残留磁気調査状況



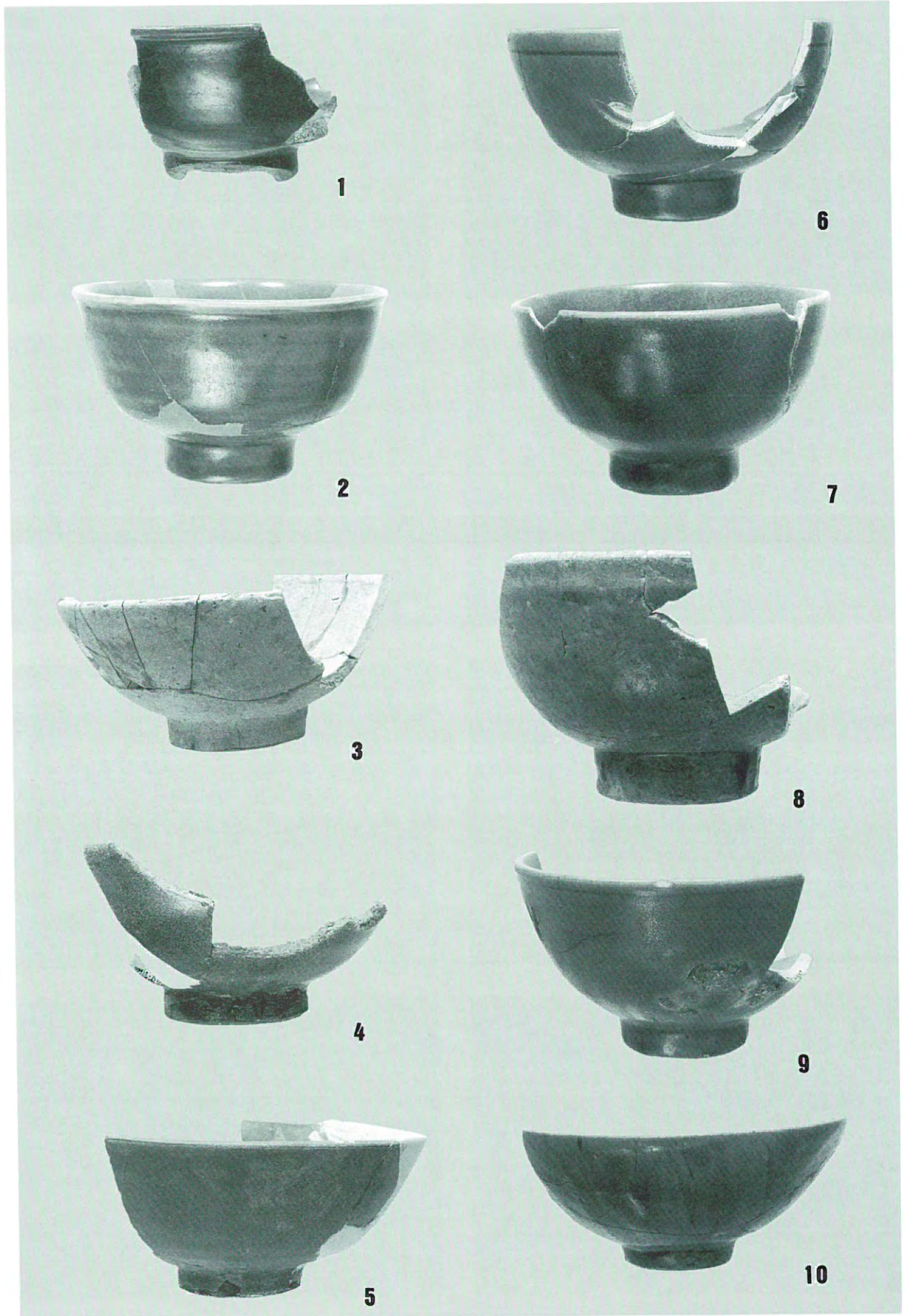
第32図版 II地区1号窯・2号窯切り取り作業



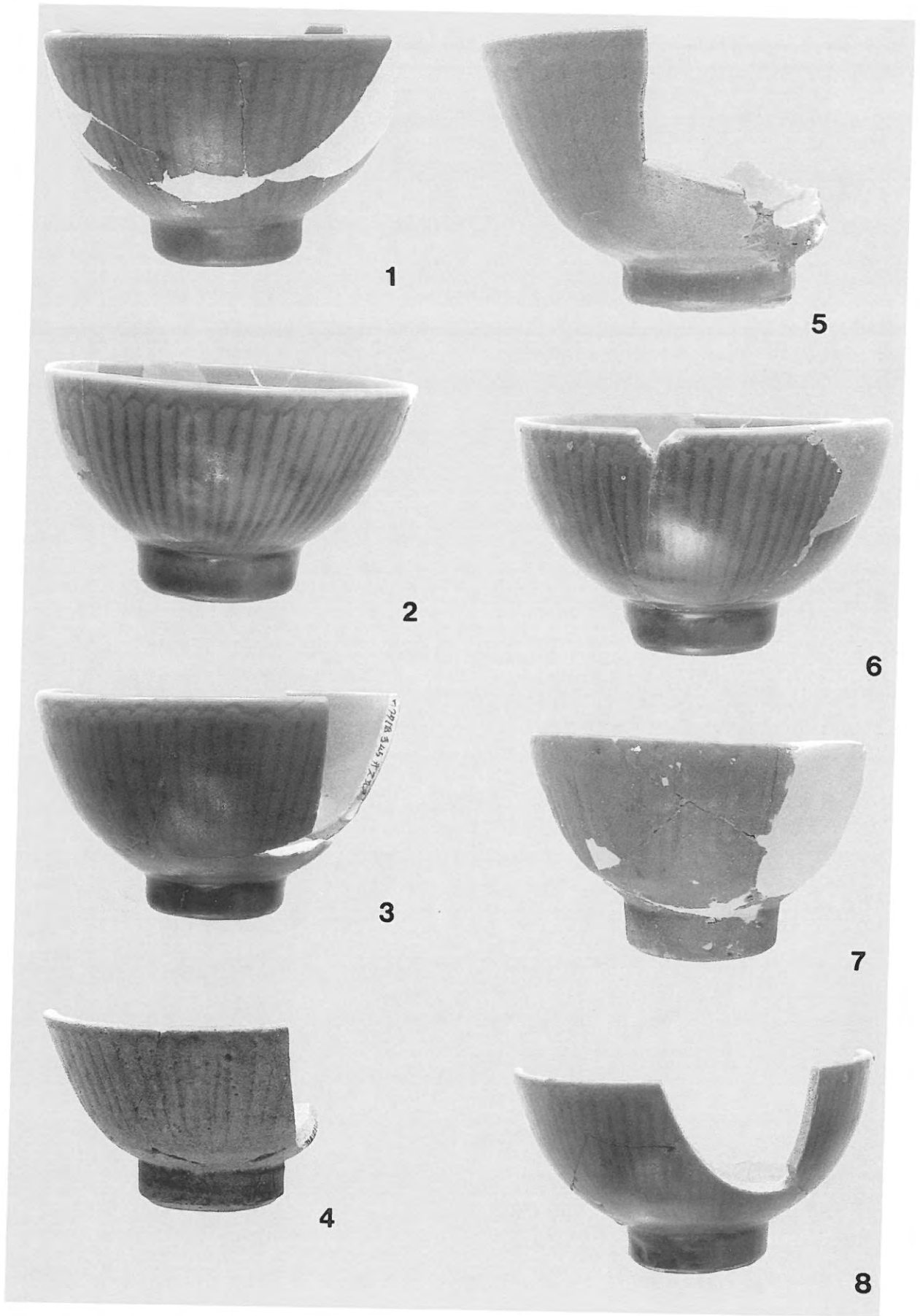
第33図版 III地区発掘風景



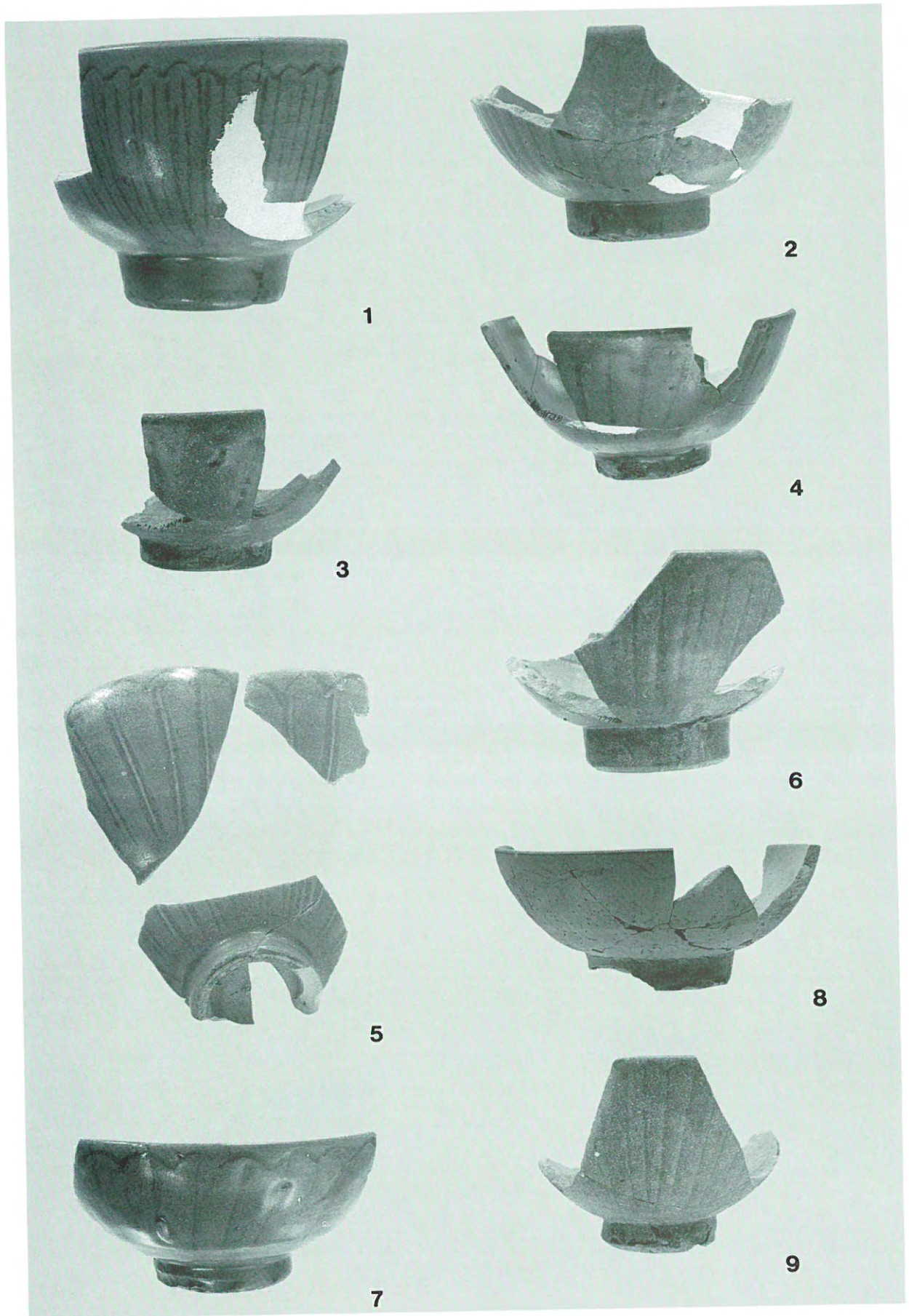
第34図版 III地区の状況と遺物の出土状況



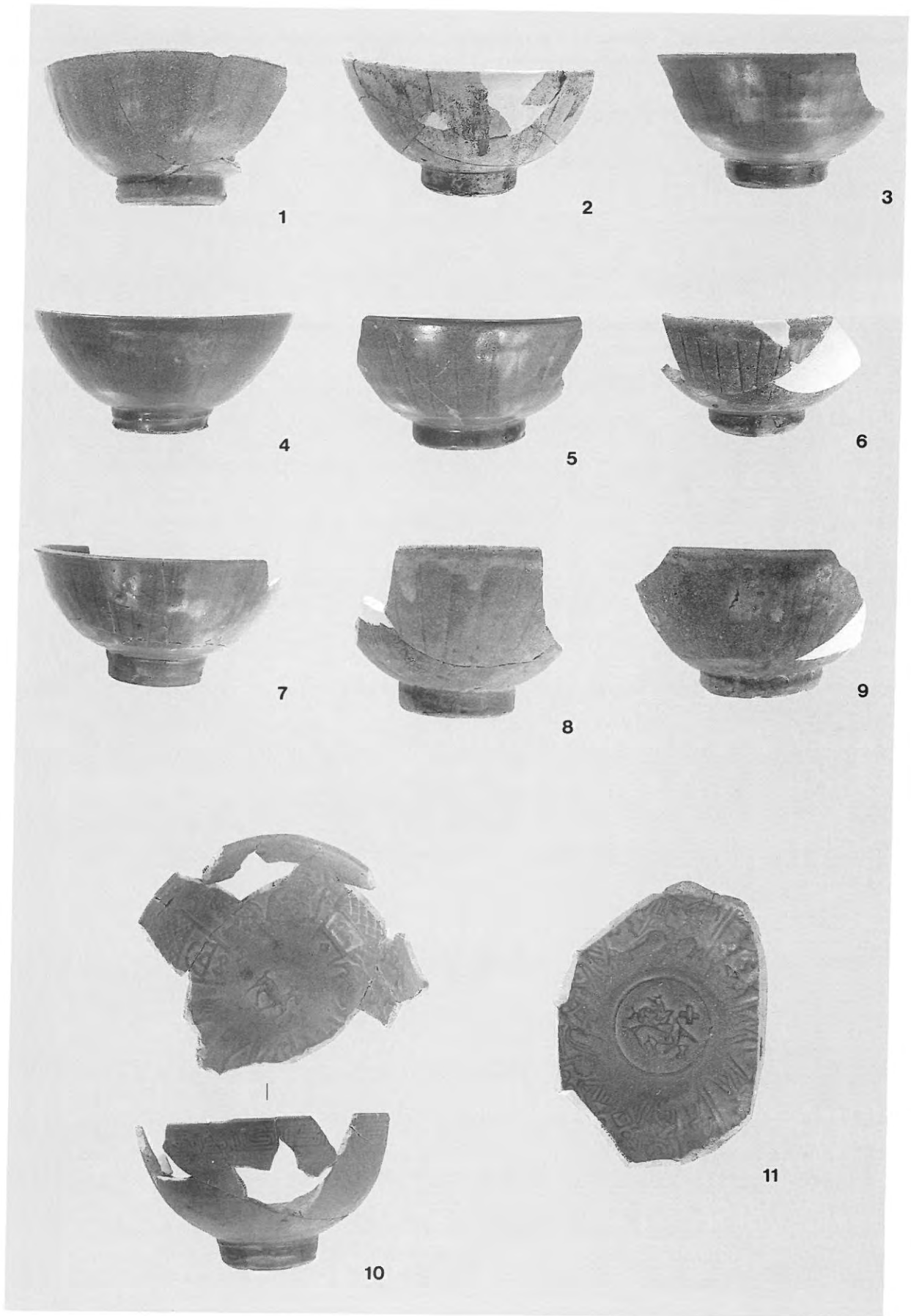
第35图版 青磁① (I地区)



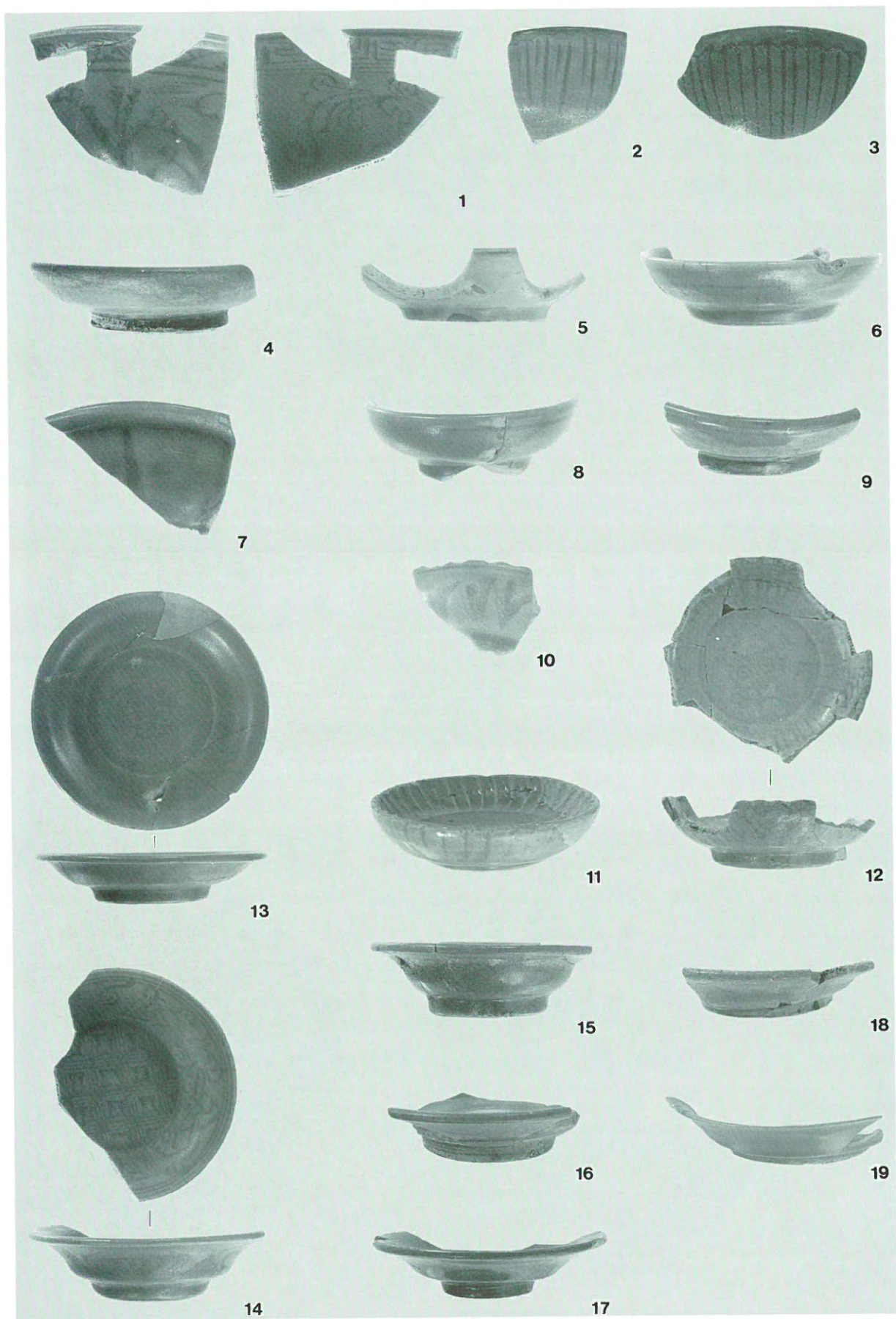
第36图版 青磁② (I地区)



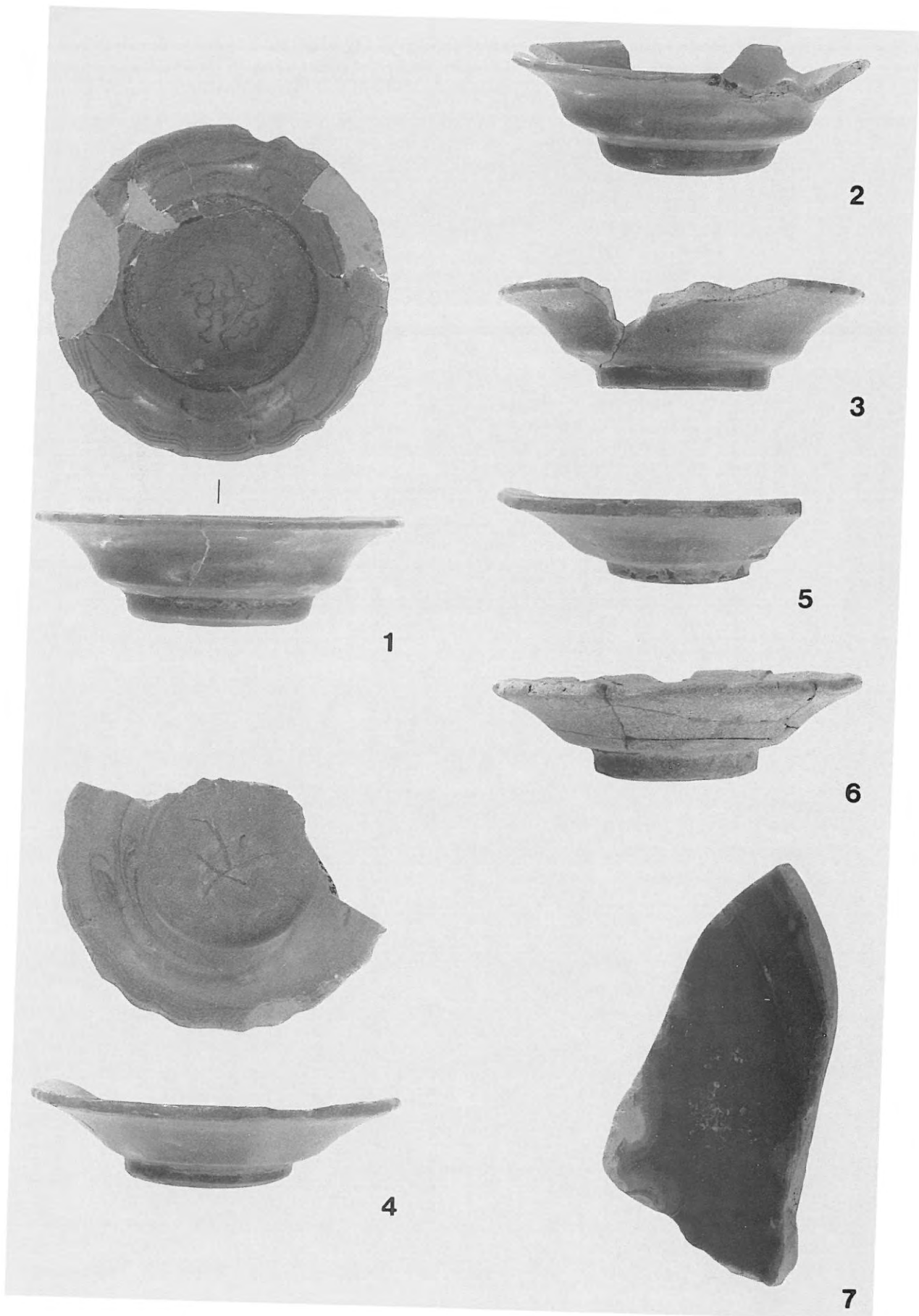
第37图版 青磁③ (I地区)



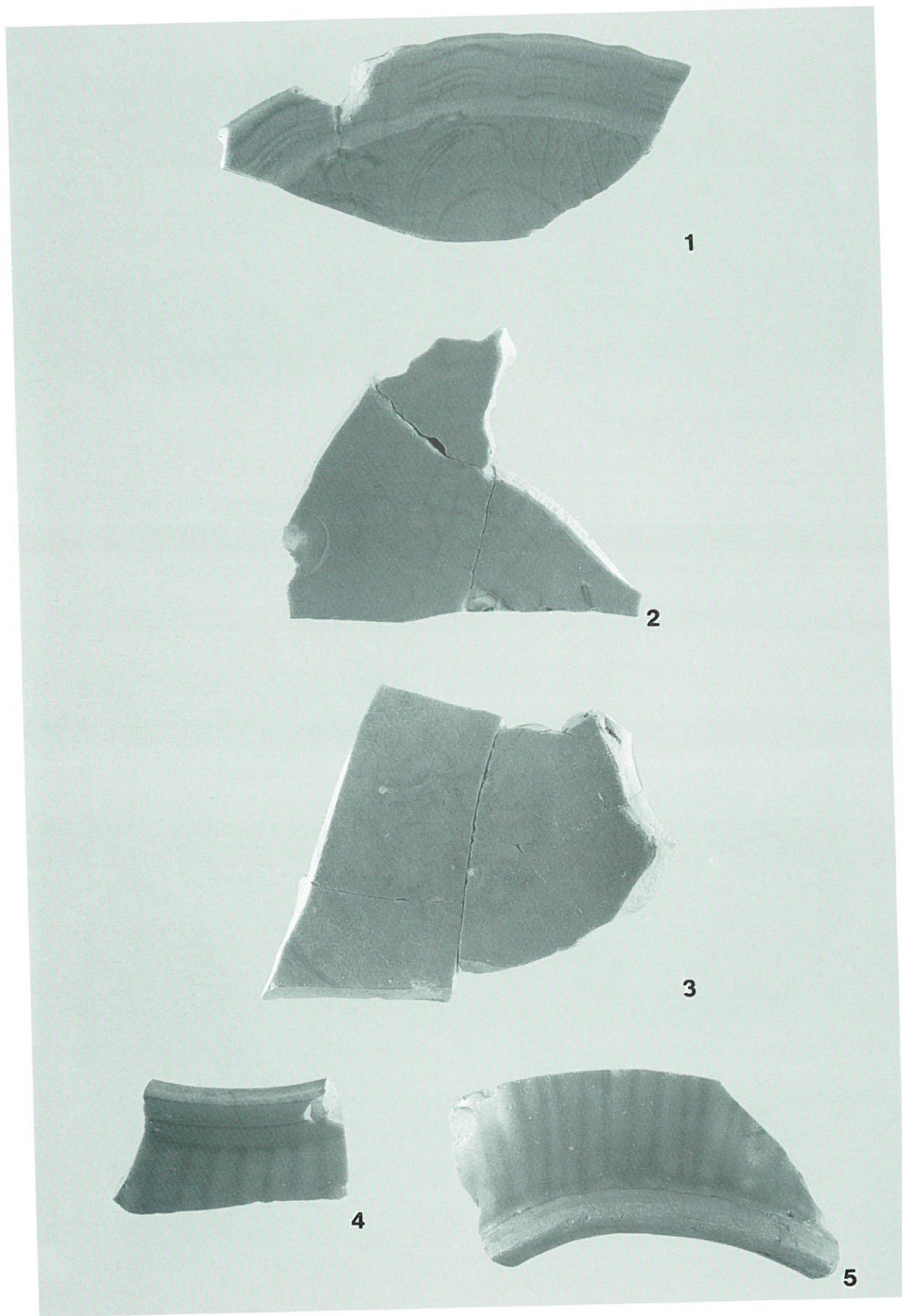
第38图版 青磁④ (I地区)



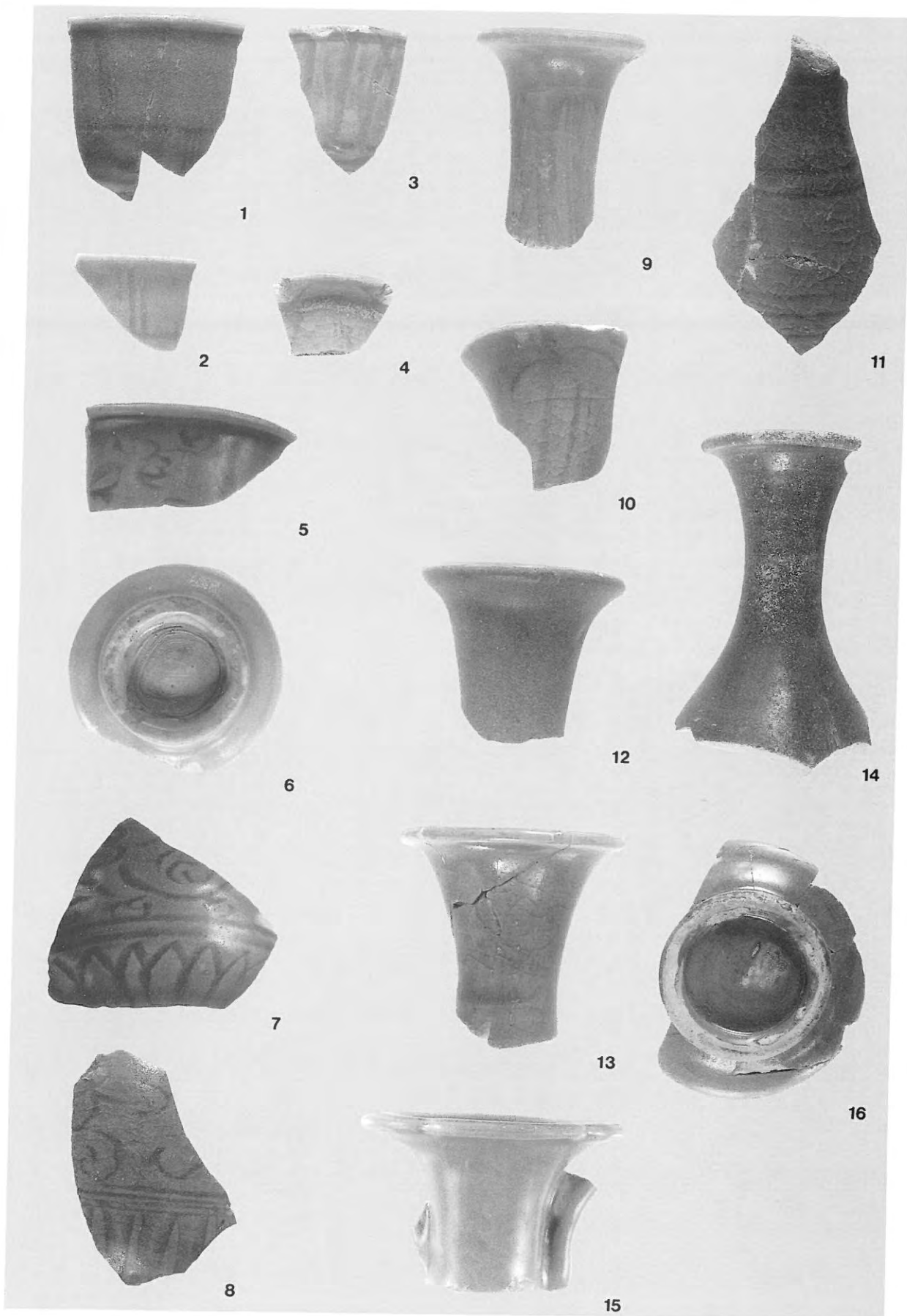
第39图版 青磁⑤ (I地区)



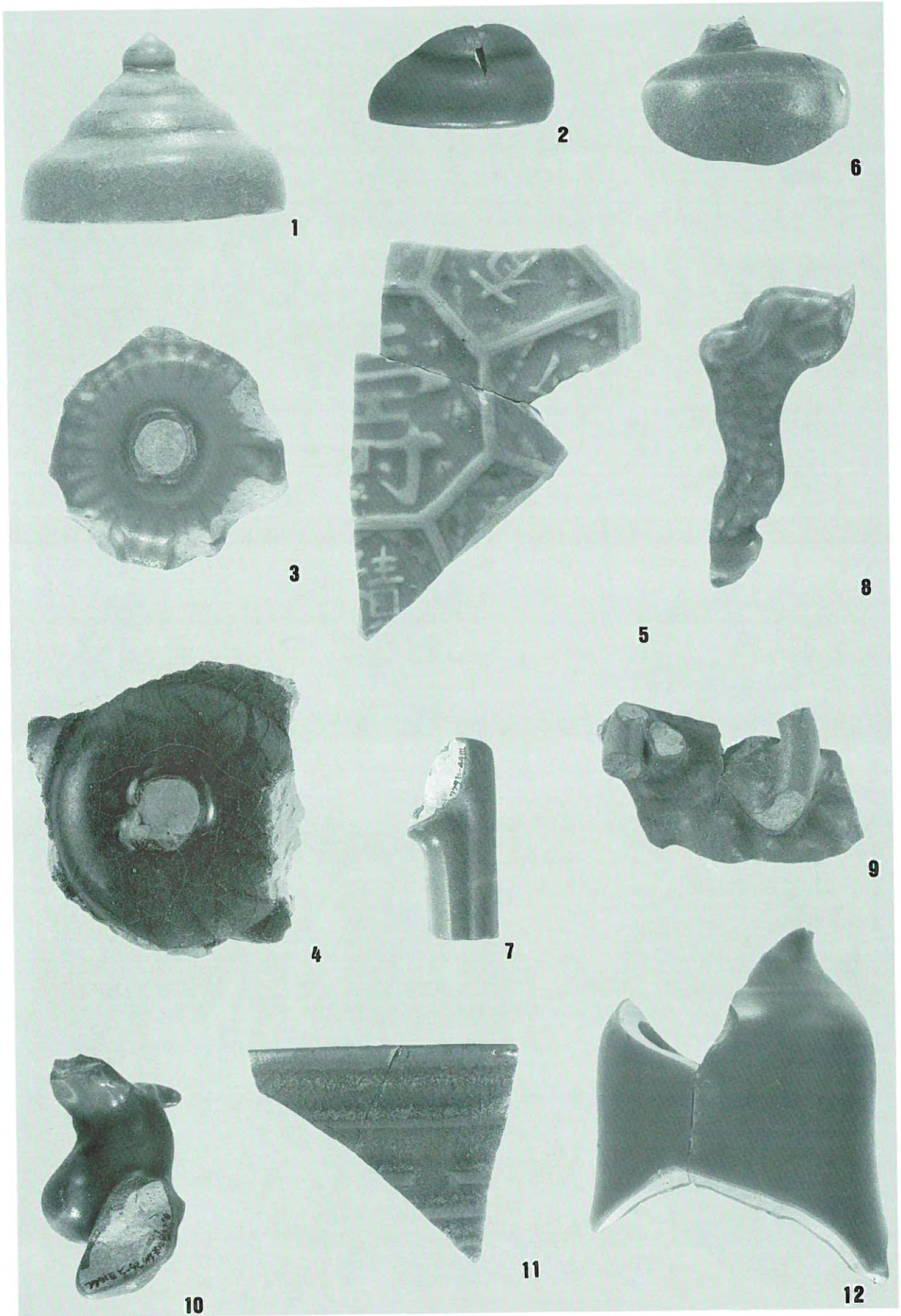
第40图版 青磁⑥ (I地区)



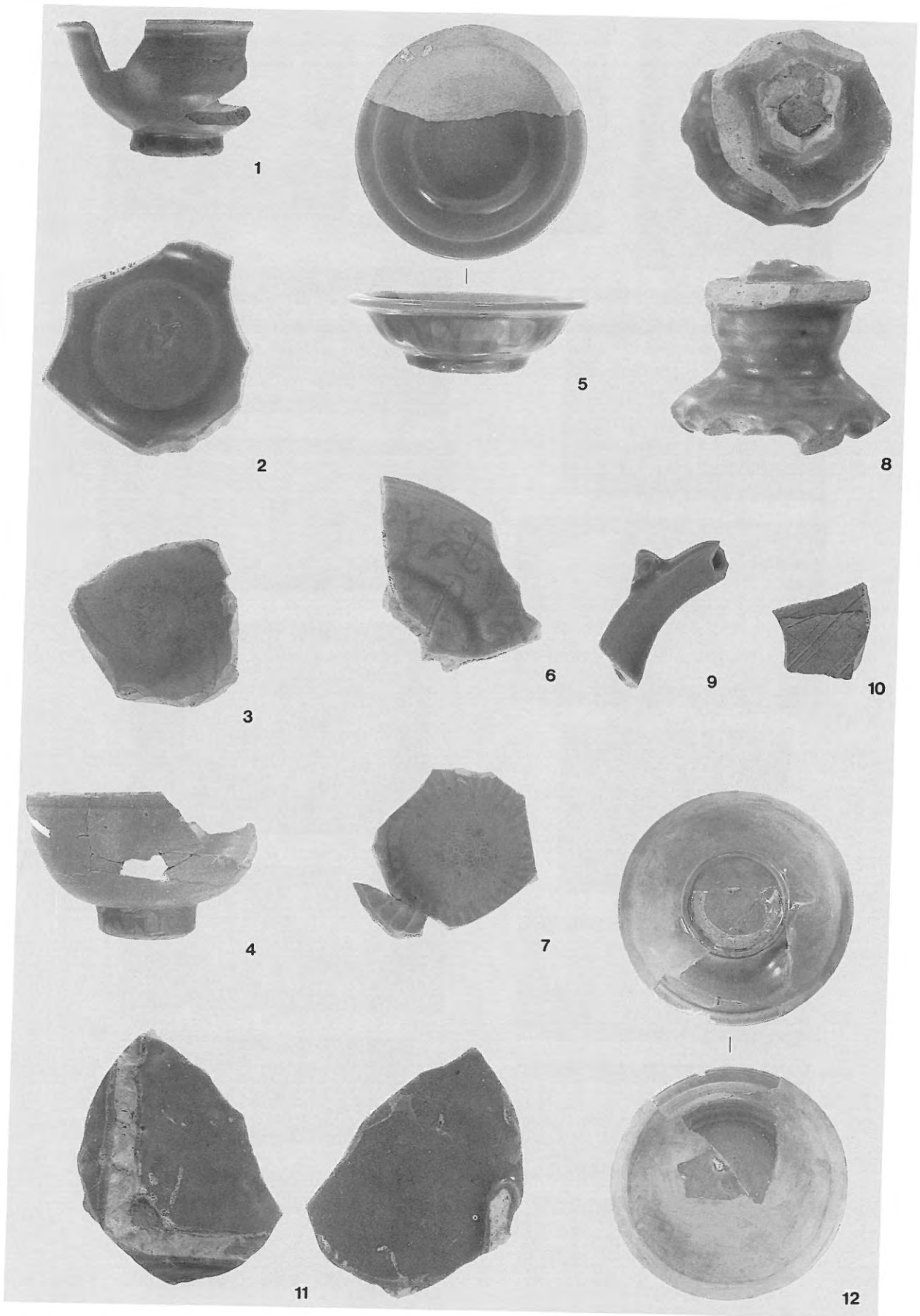
第41图版 青磁⑦ (I地区)



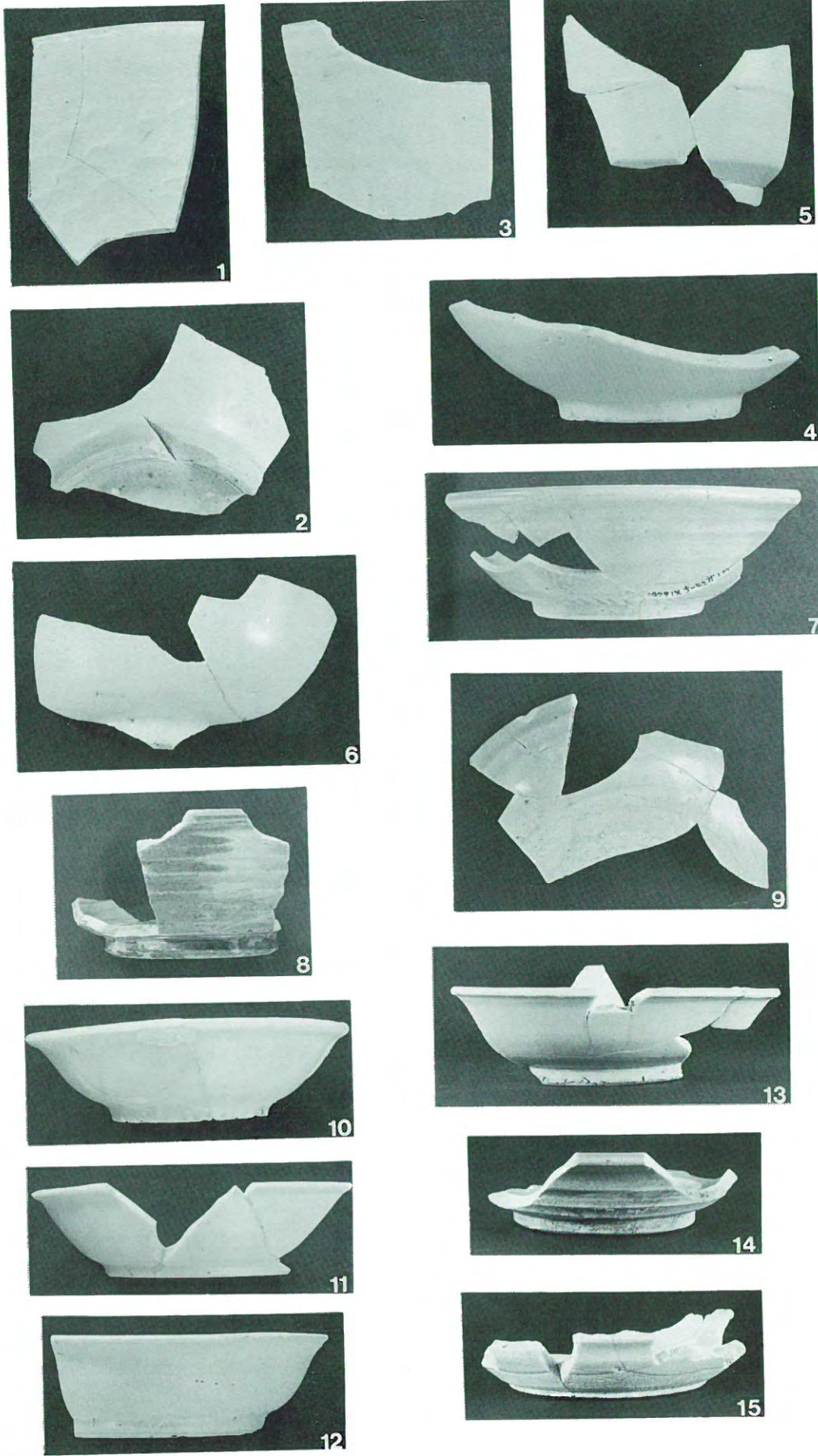
第42图版 青磁⑧ (I地区)



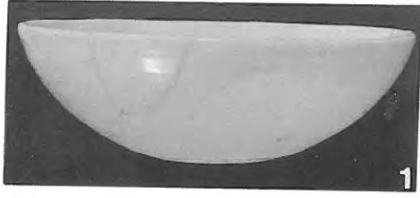
第43图版 青磁⑨ (I地区)



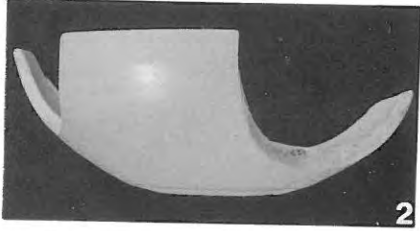
第44图版 青磁^⑩ (I地区)



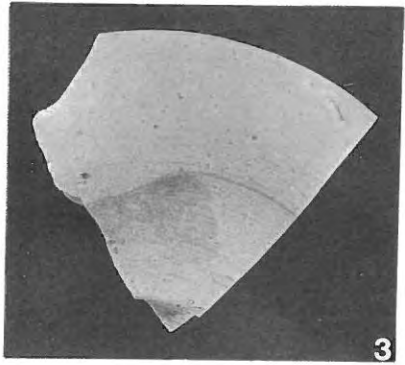
第45图版 白磁① (I地区)



1



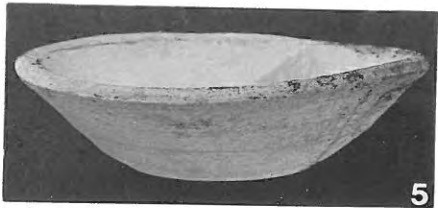
2



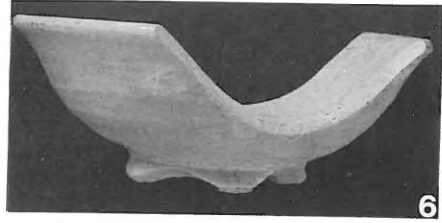
3



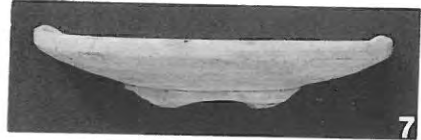
4



5



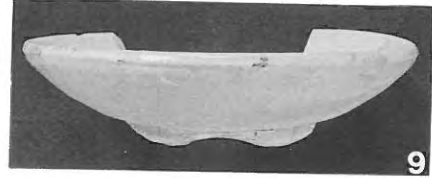
6



7



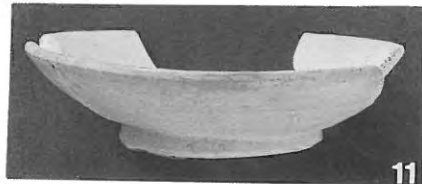
8



9



10



11



12

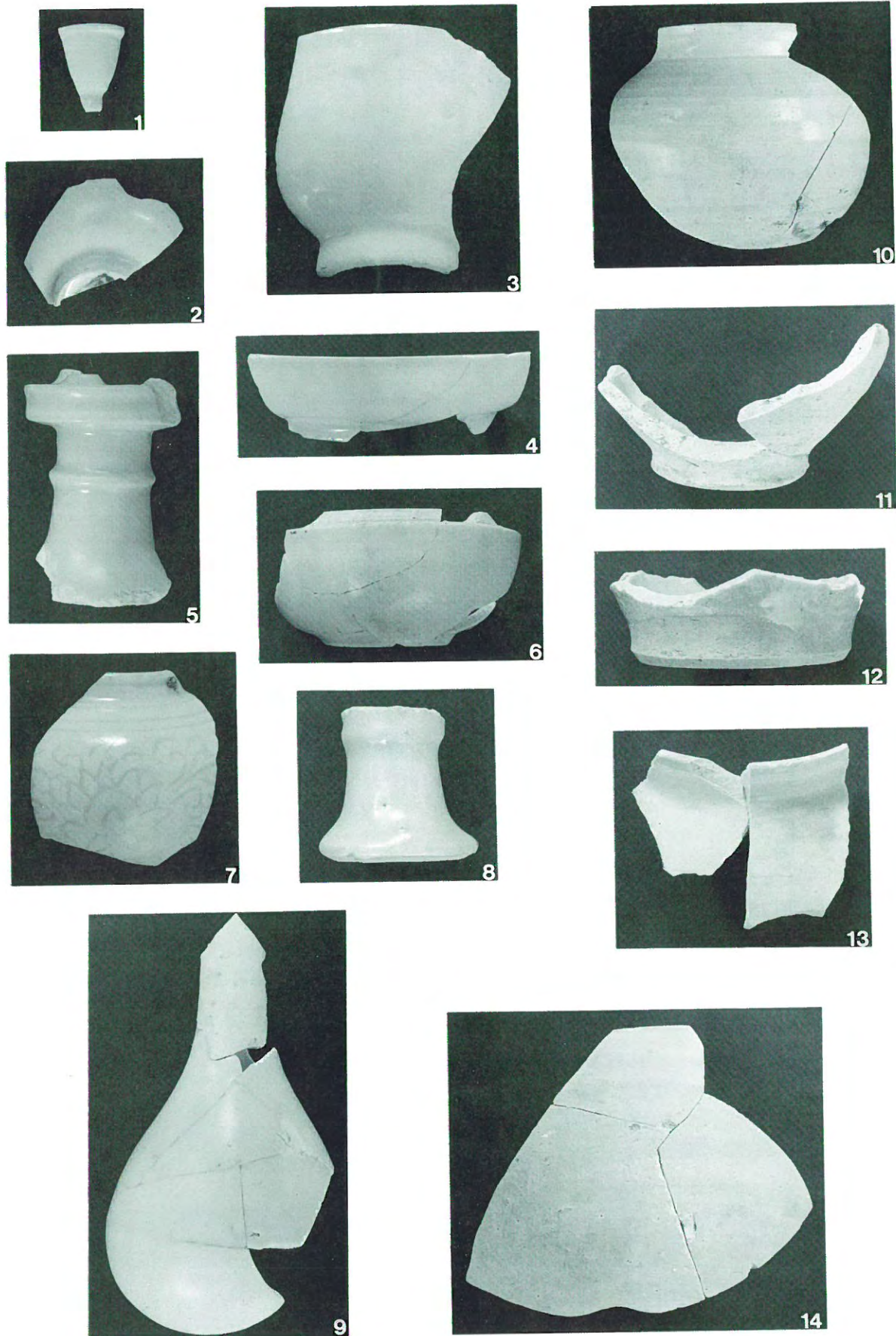


13

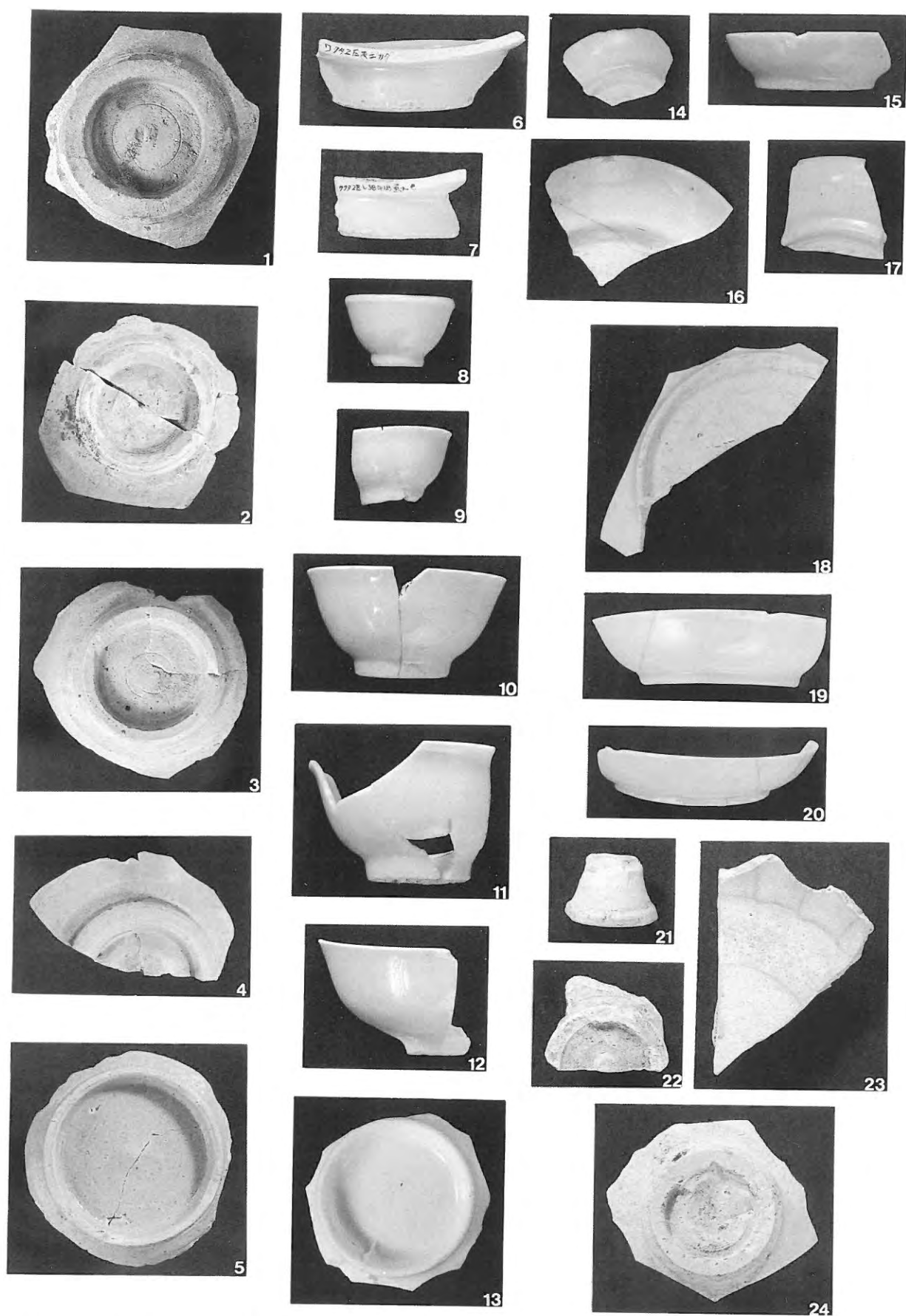


14

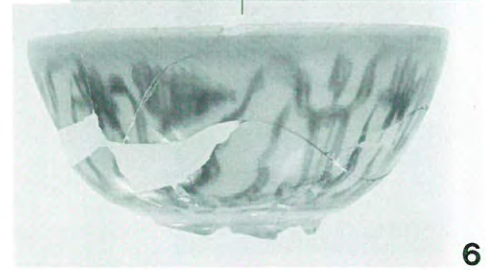
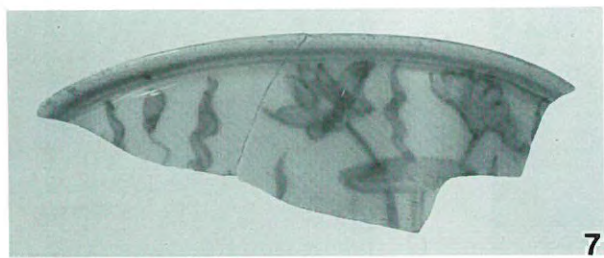
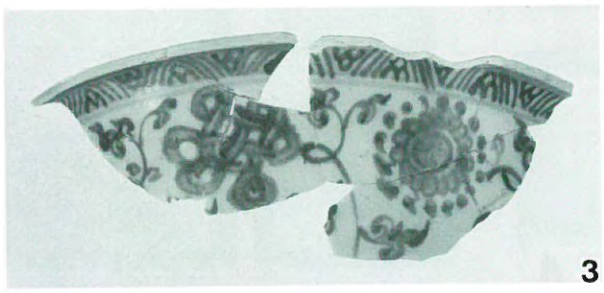
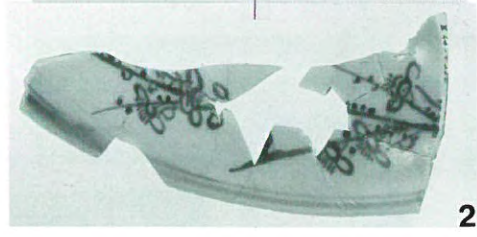
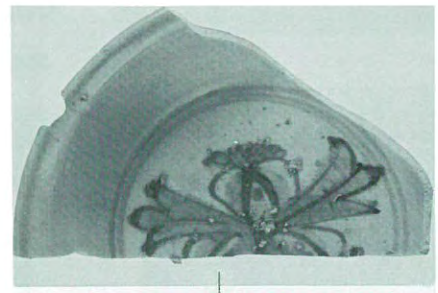
第46图版 白磁② (I地区)



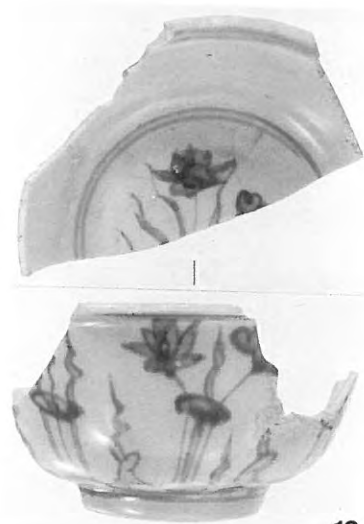
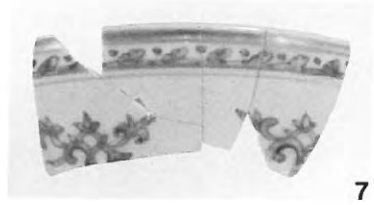
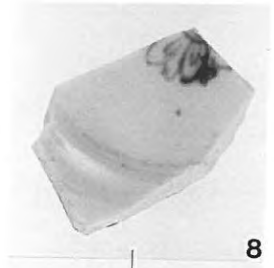
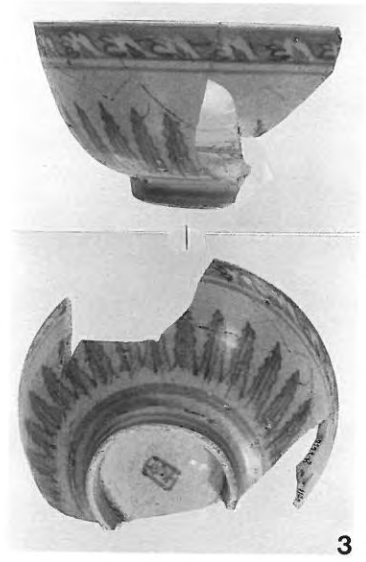
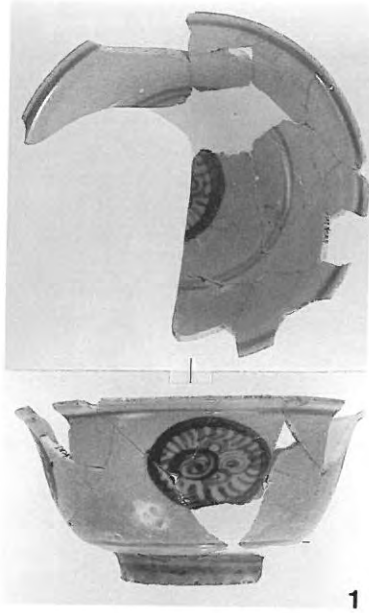
第47图版 白磁③ (I地区)



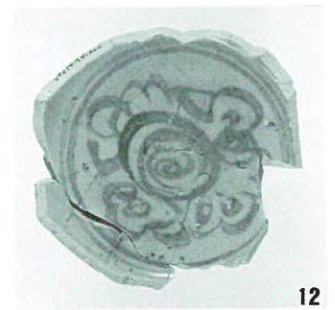
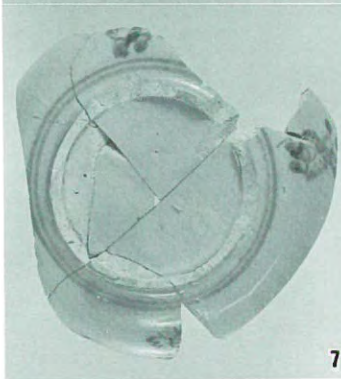
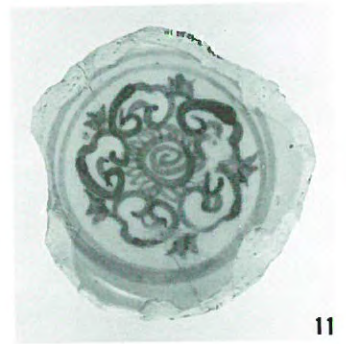
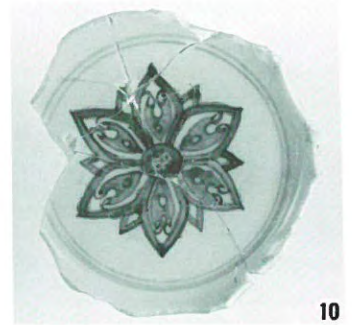
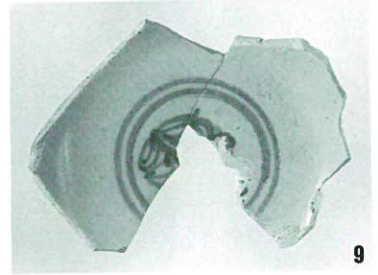
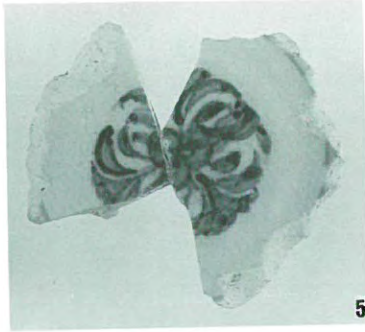
第48图版 白磁④ (II・III地区)



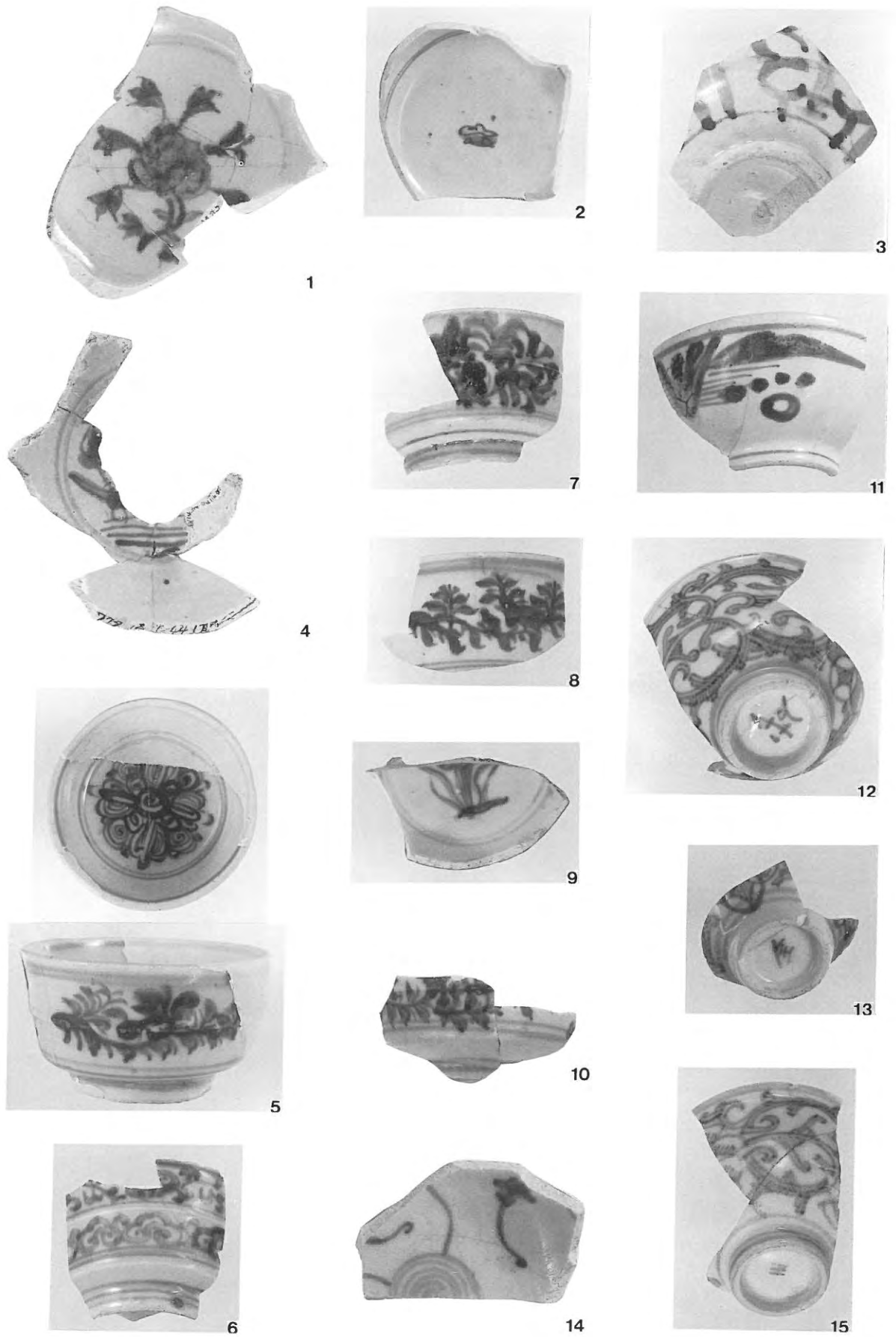
第49図版 染付① (I地区)



第50図版 染付② (I地区)



第51图版 染付③ (I地区)



第52図版 染付④ (I地区)



1



2



3

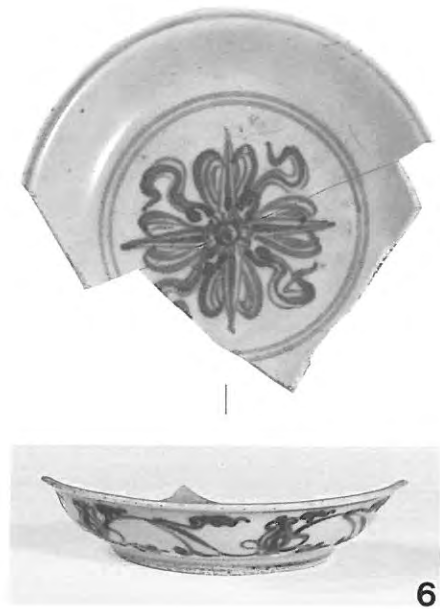
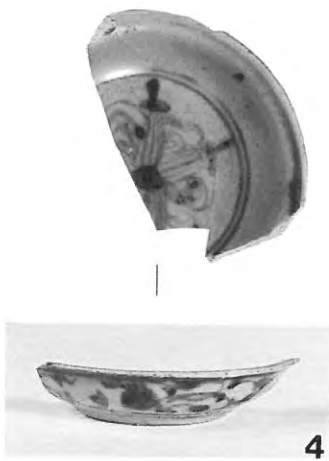
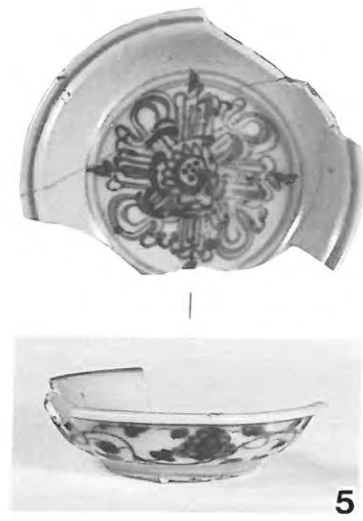
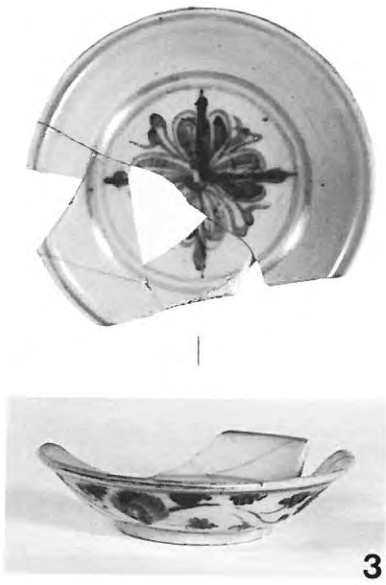
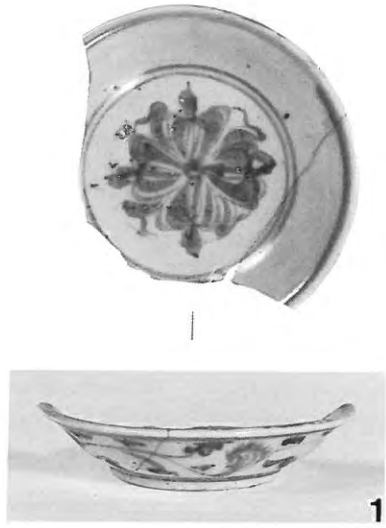


4



5

第53図版 染付⑤ (I地区)



第54図版 染付⑥ (I地区)



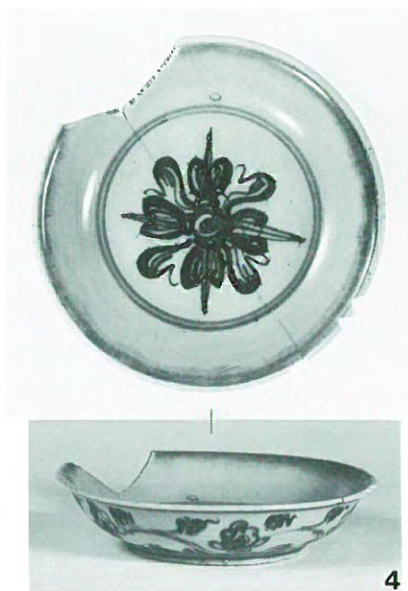
1



2



3

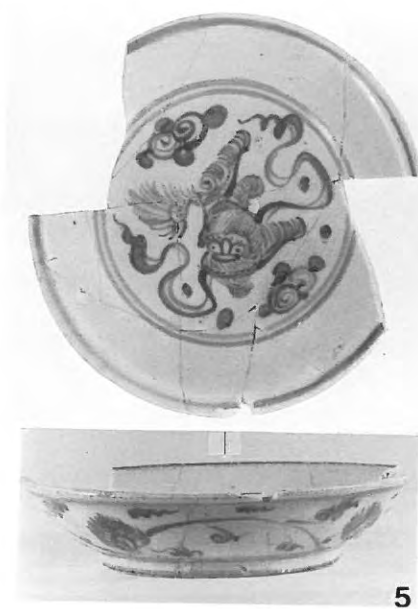
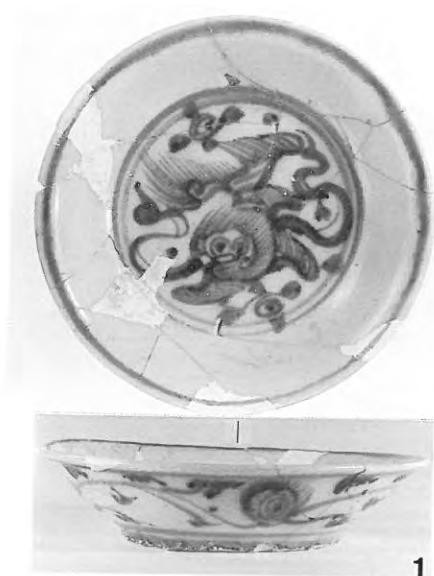


4



5

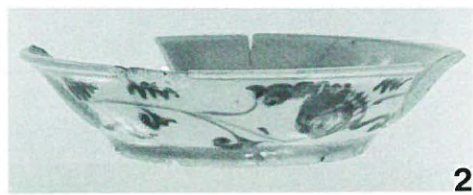
第55図版 染付⑦ (I地区)



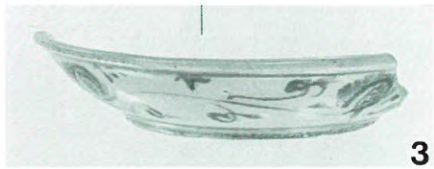
第56図版 染付⑧ (I地区)



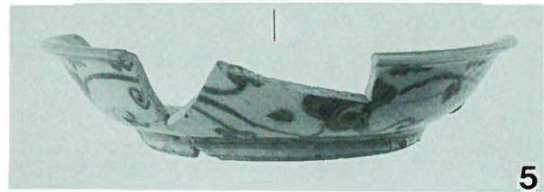
1



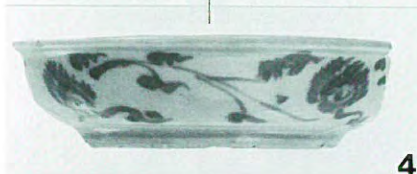
2



3

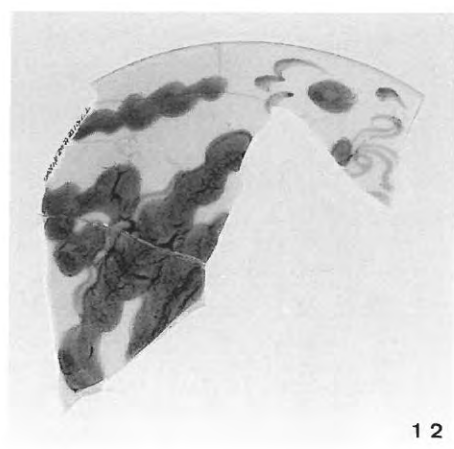
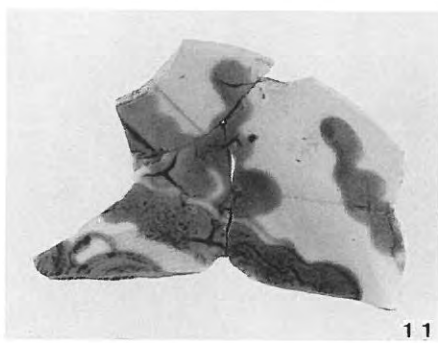
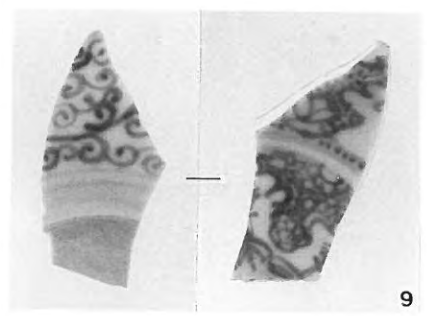
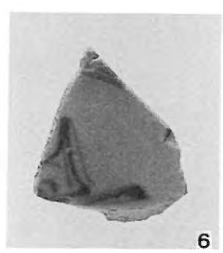
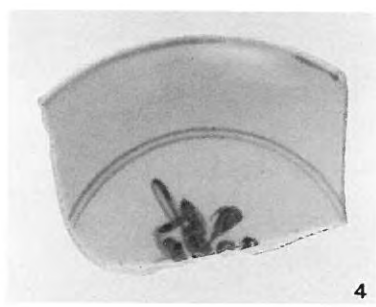
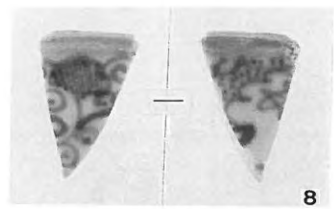
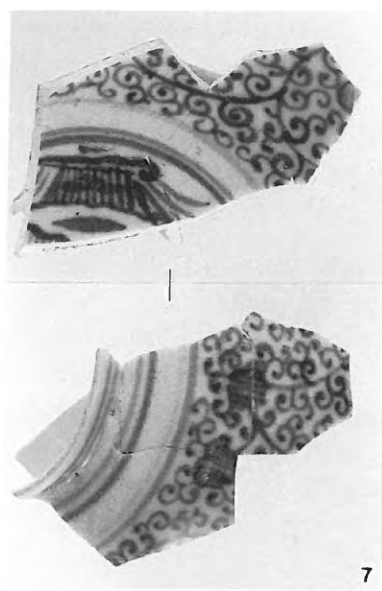
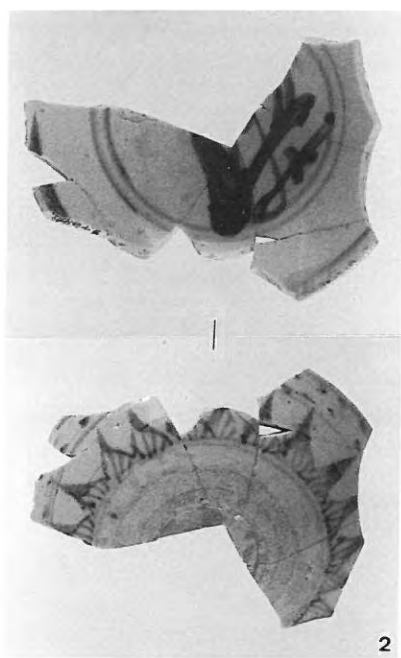
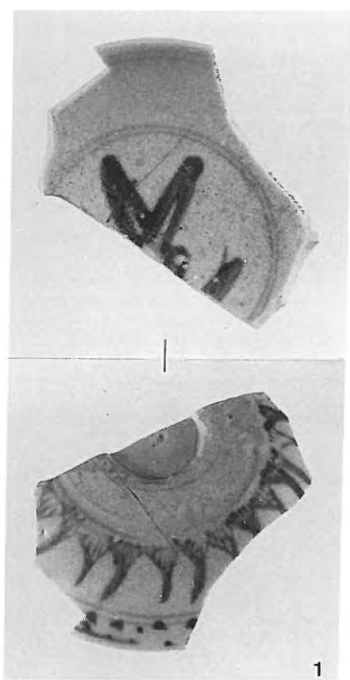


5

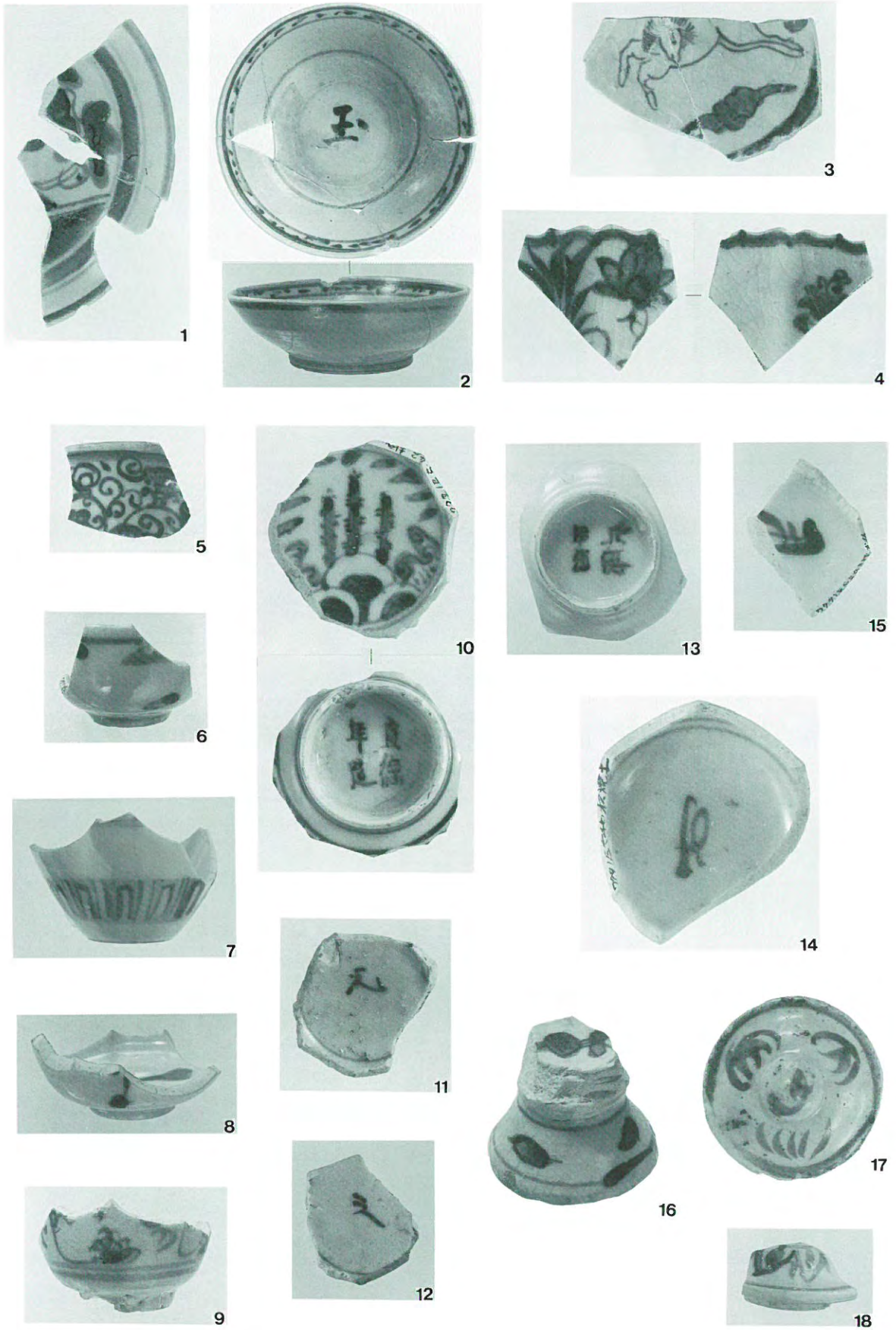


4

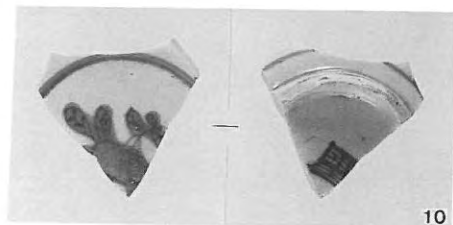
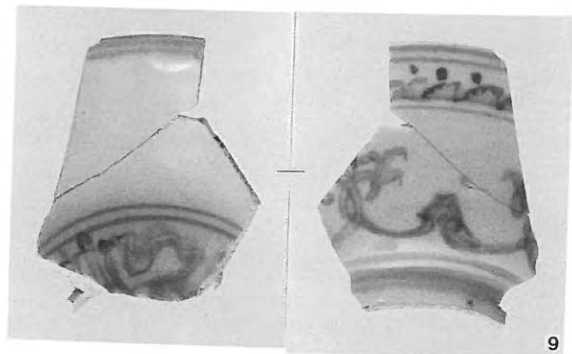
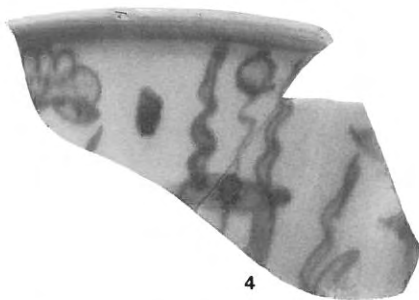
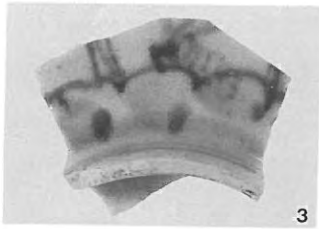
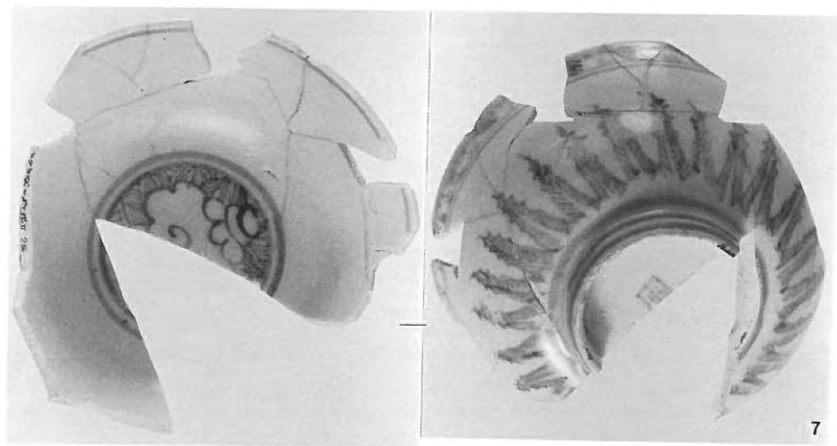
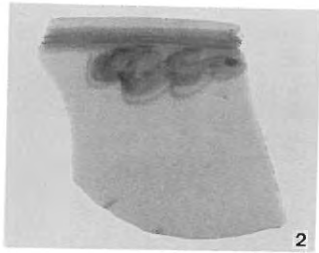
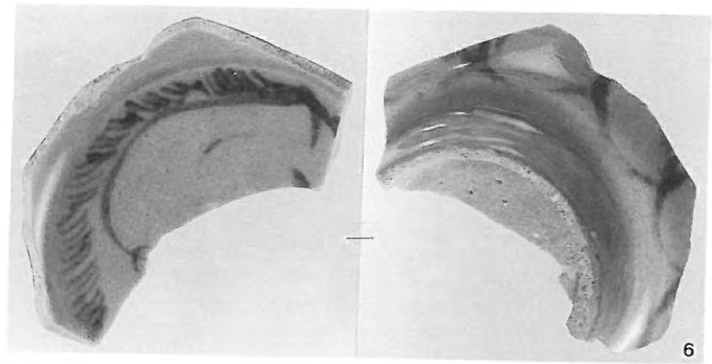
第57図版 染付⑨ (I地区)



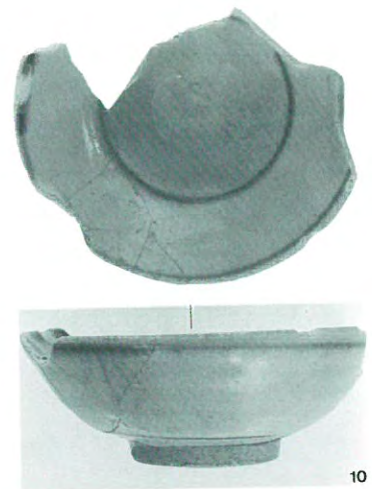
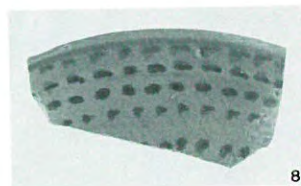
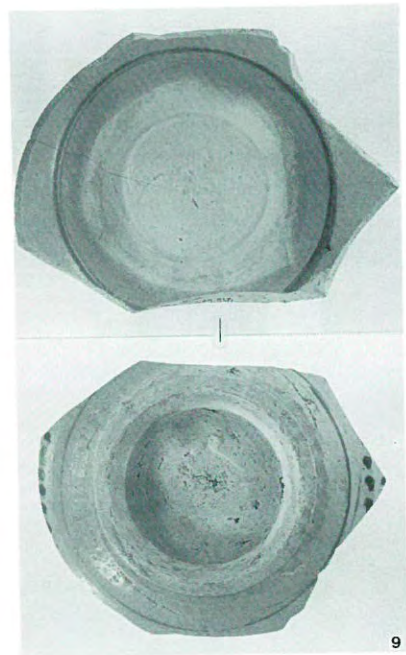
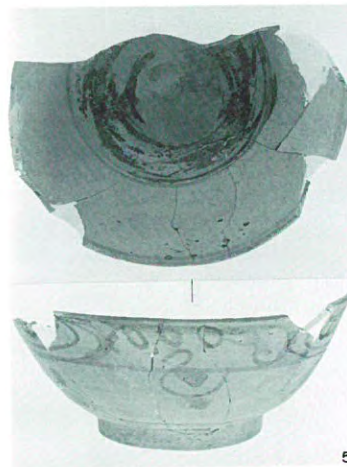
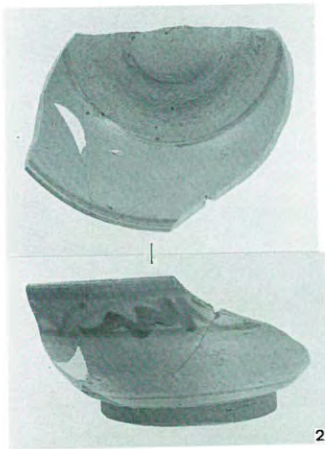
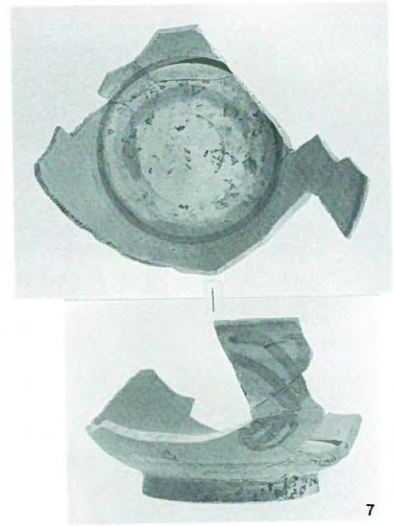
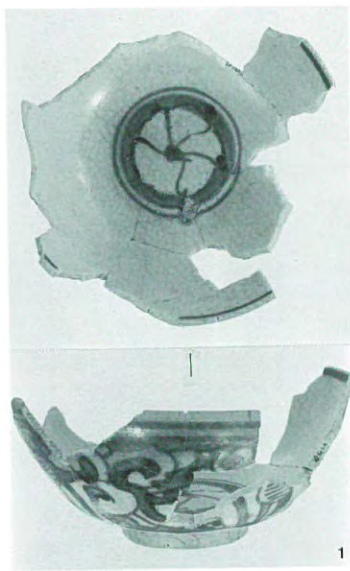
第58図版 染付⑩ (I地区)



第59図版 染付① (I地区)



第60图版 染付⑫ (I地区)



第61図版 染付⑬ (II地区)



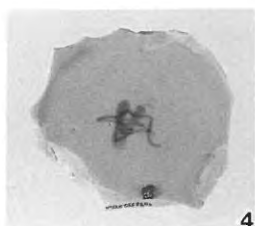
1



2



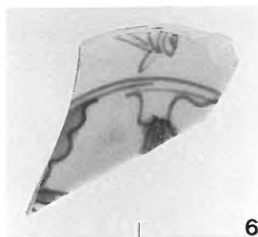
3



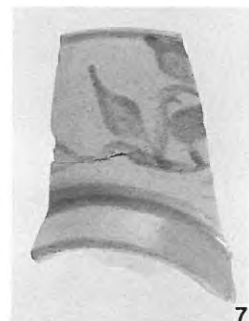
4



5



6



7



8



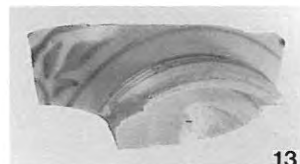
9



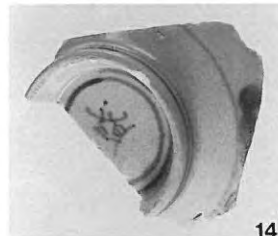
11



12



13



14



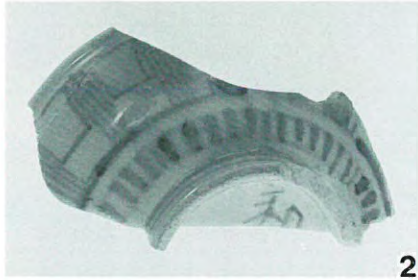
10



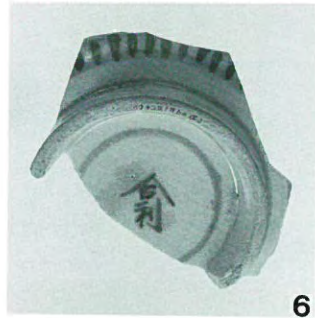
1



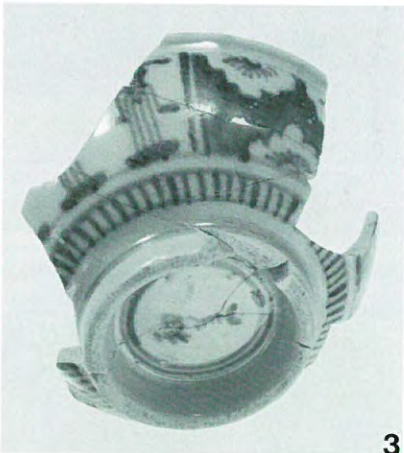
5



2



6



3



7



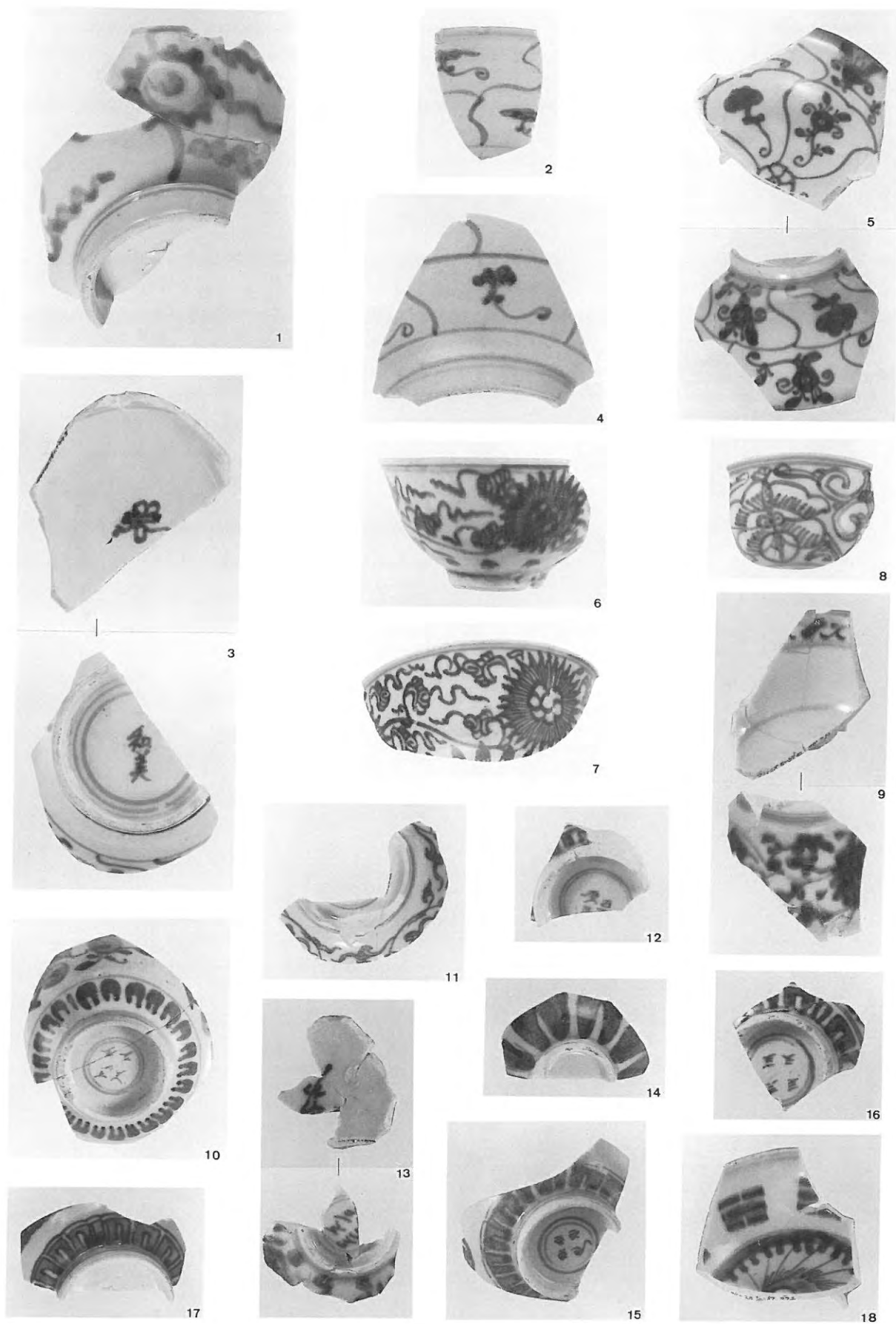
4



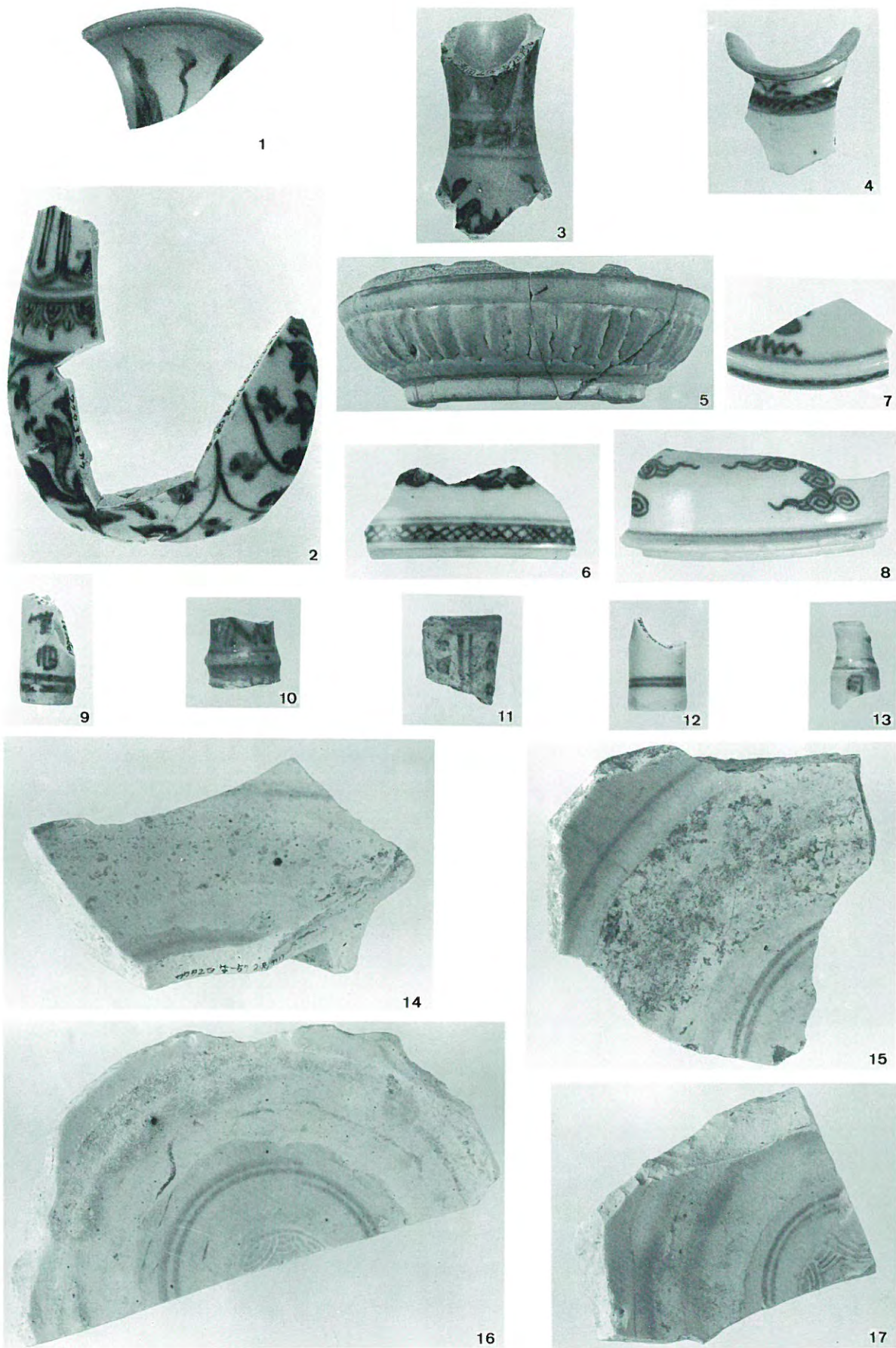
8



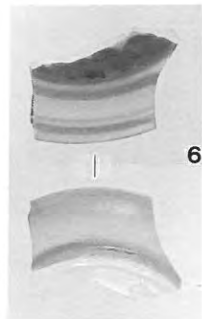
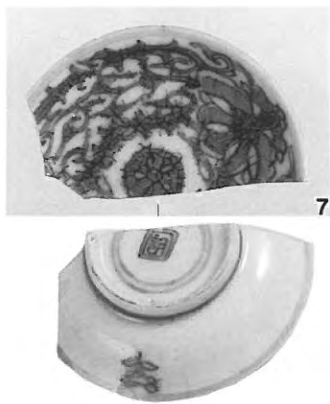
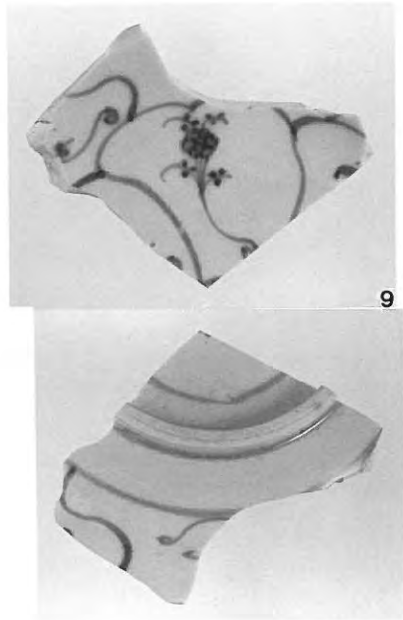
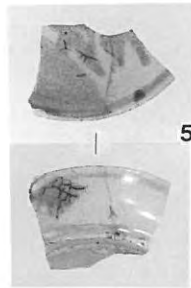
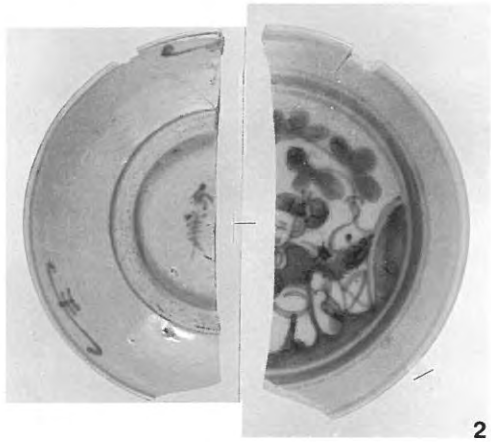
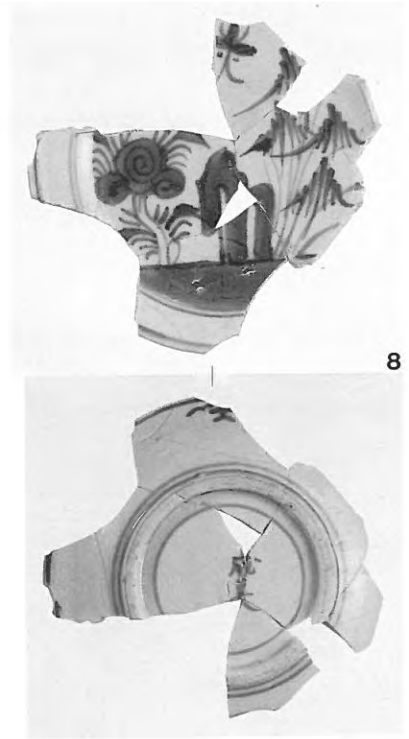
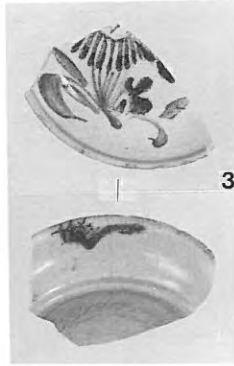
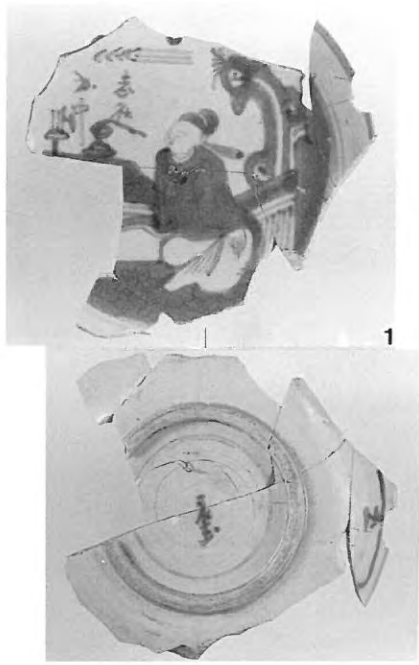
9



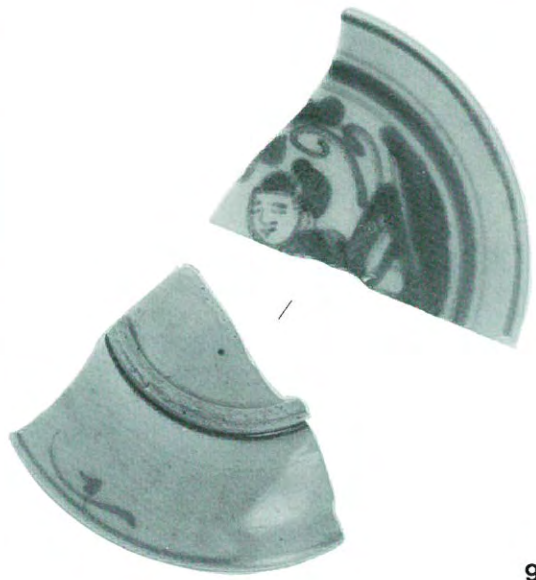
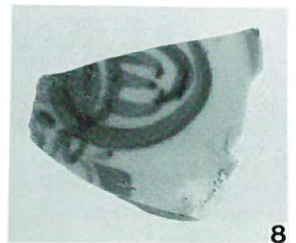
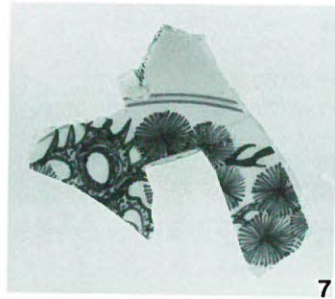
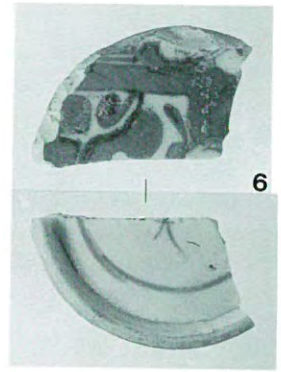
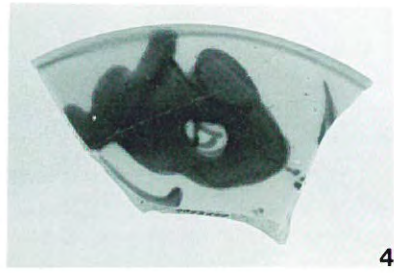
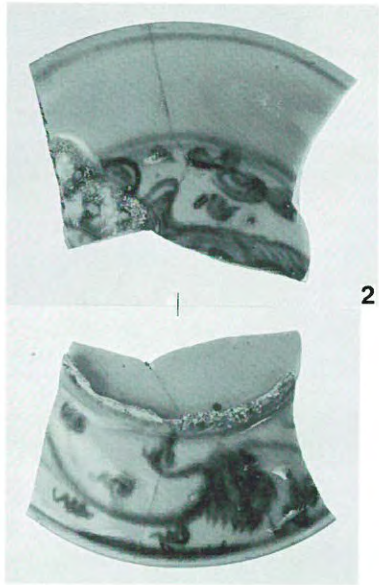
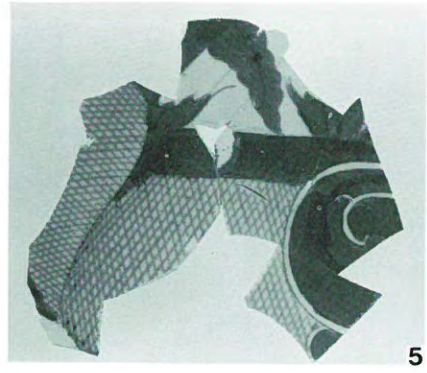
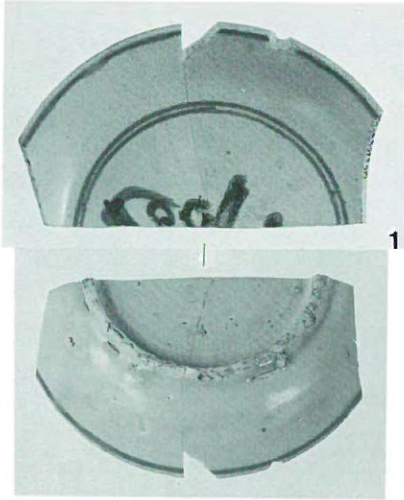
第64图版 染付⑩ (II地区)



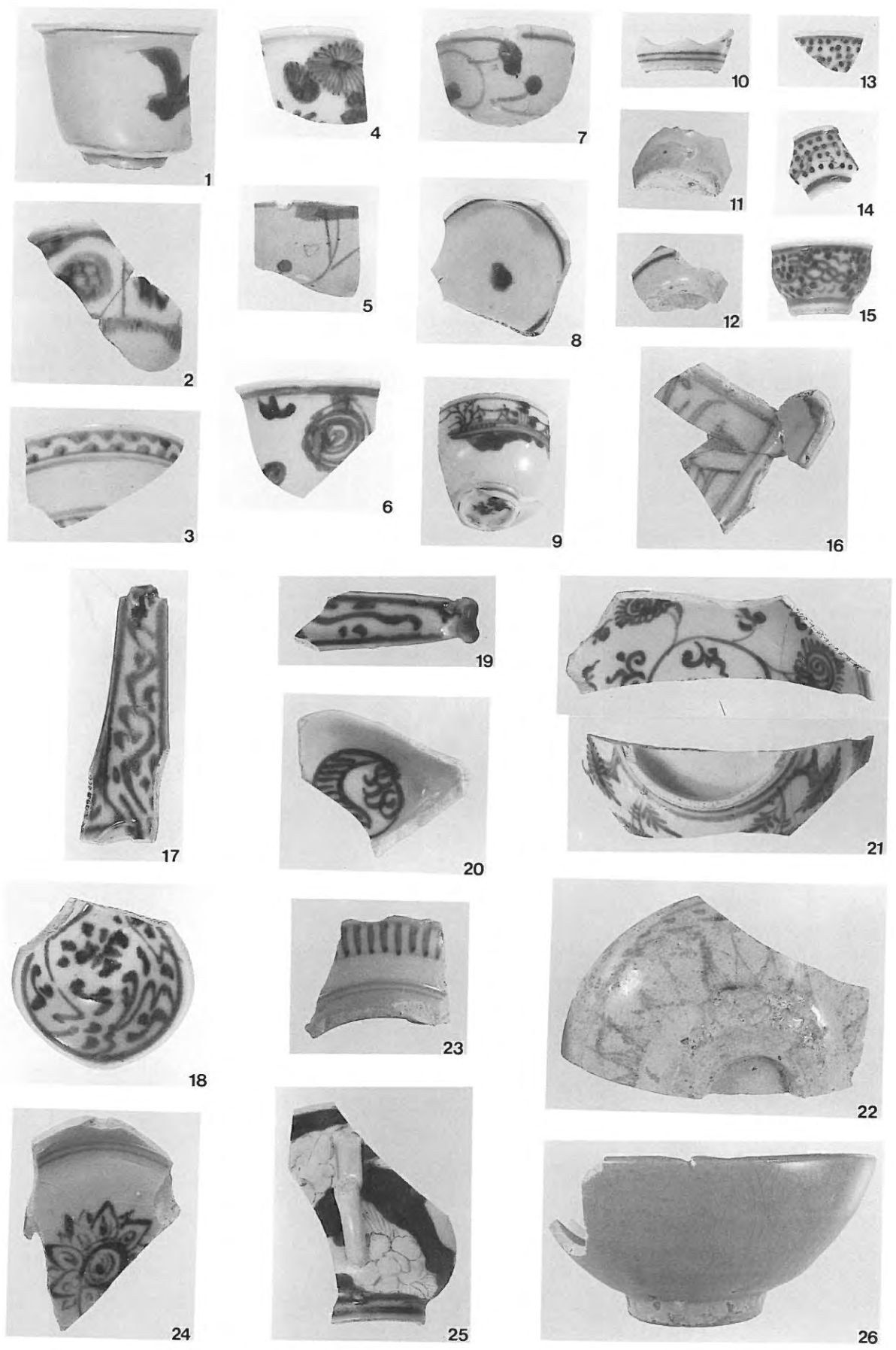
第65図版 染付⑰ (II地区)



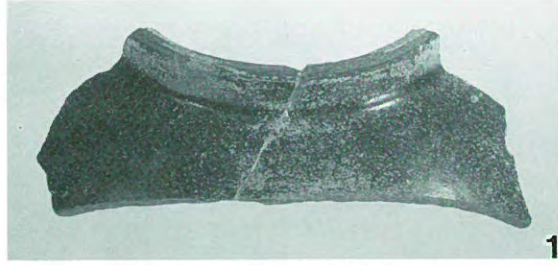
第66図版 染付⑱ (II地区)



第67图版 染付⑩ (II地区)



第68図版 染付② (II地区)・磁器 (III地区)



1



2



3



4



5



1



2



3



4



5



1



2



3



4



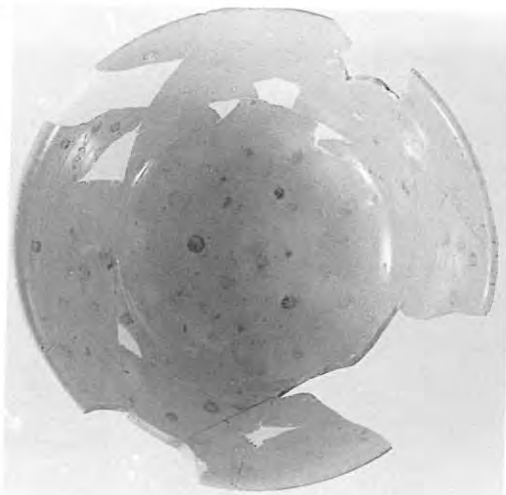
1



6



2



7



3



7



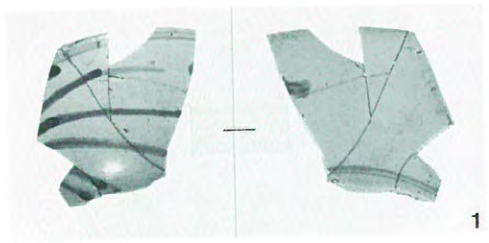
4



8



5



1



5



9



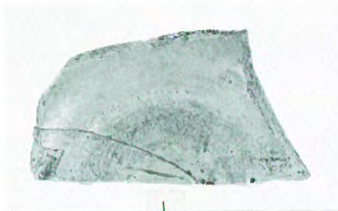
2



6



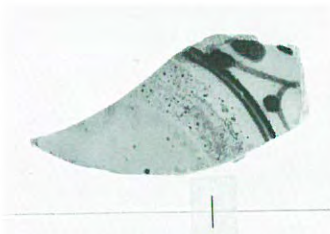
10



7



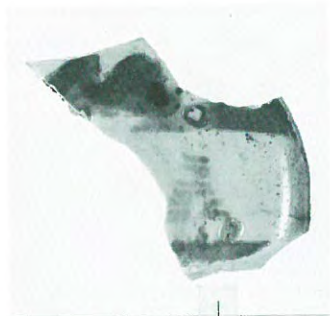
11



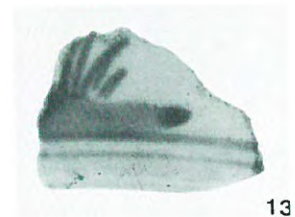
3



12



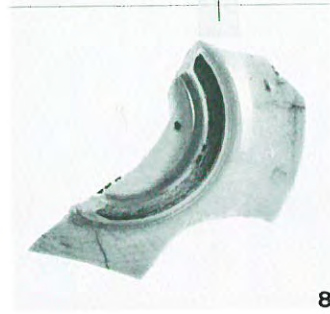
8



13

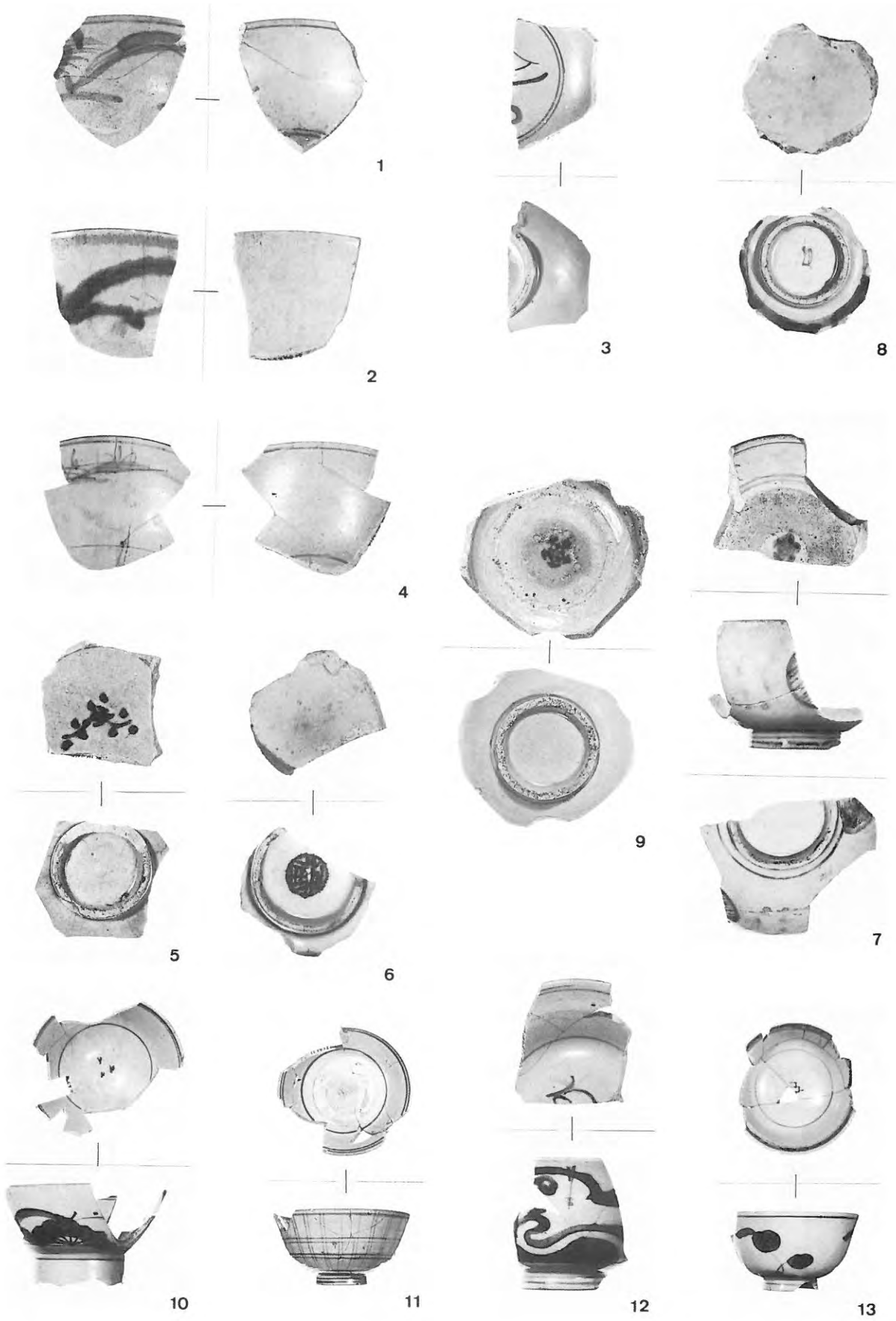


4

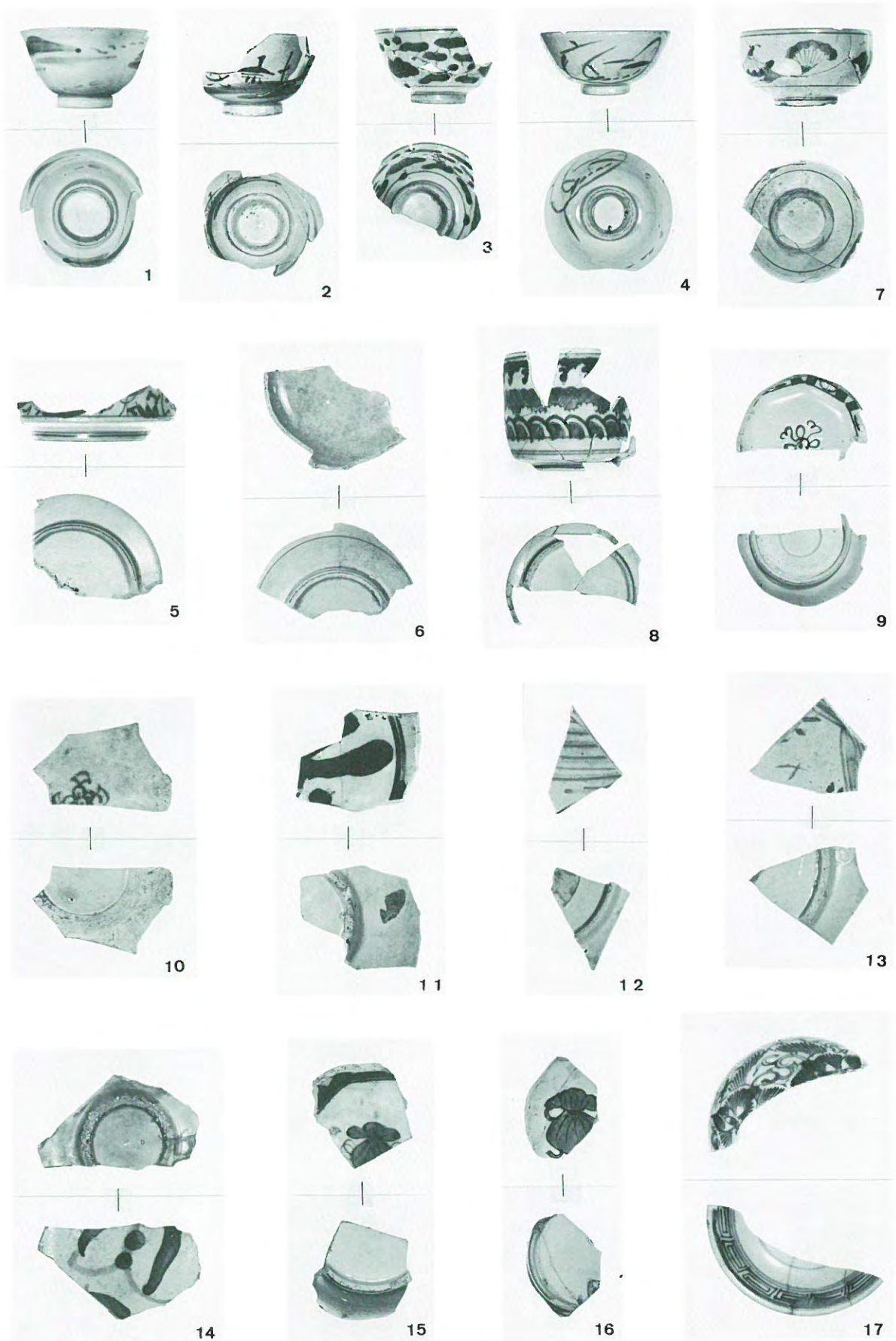


14

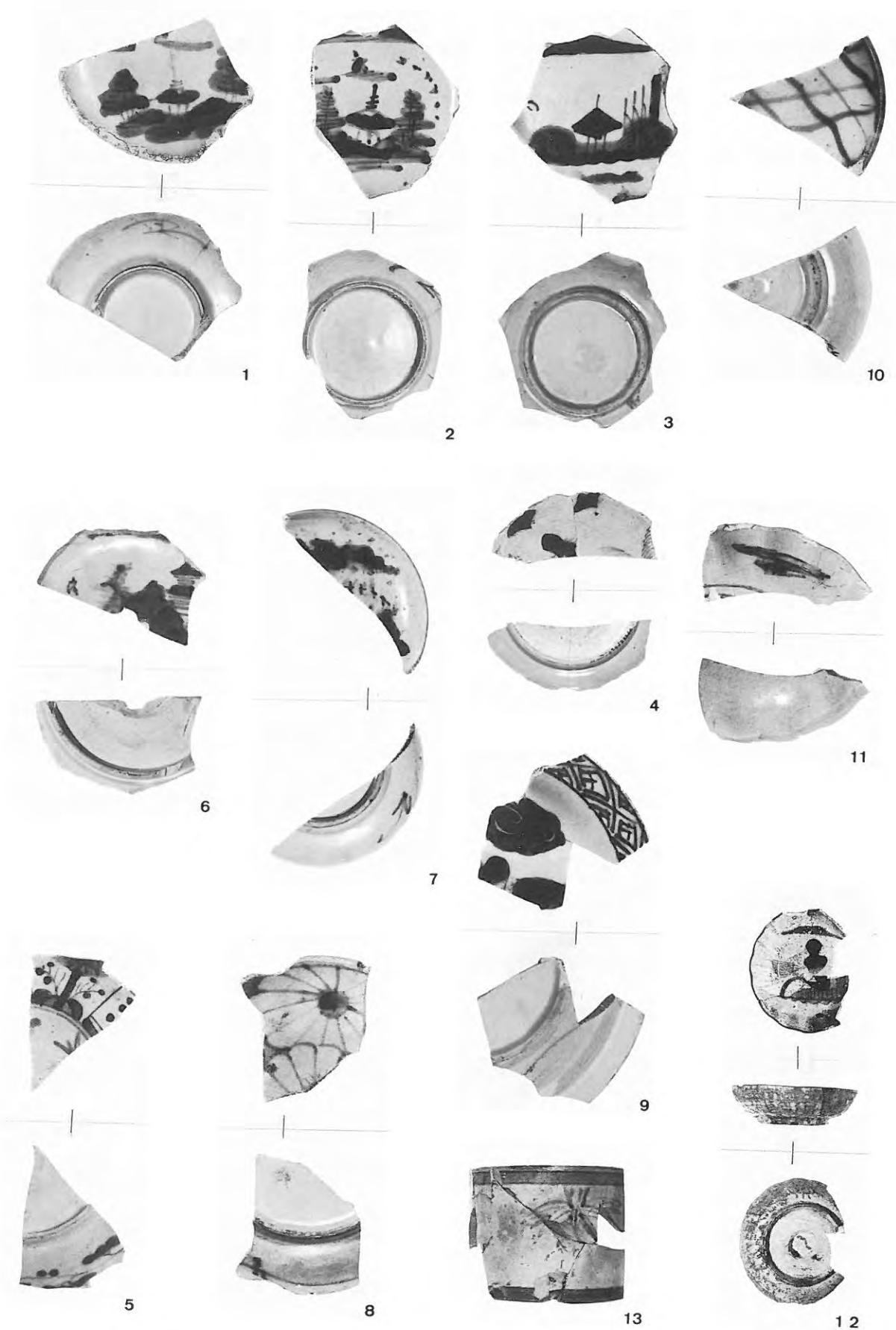
第73図版 本土産陶磁器 (I地区)



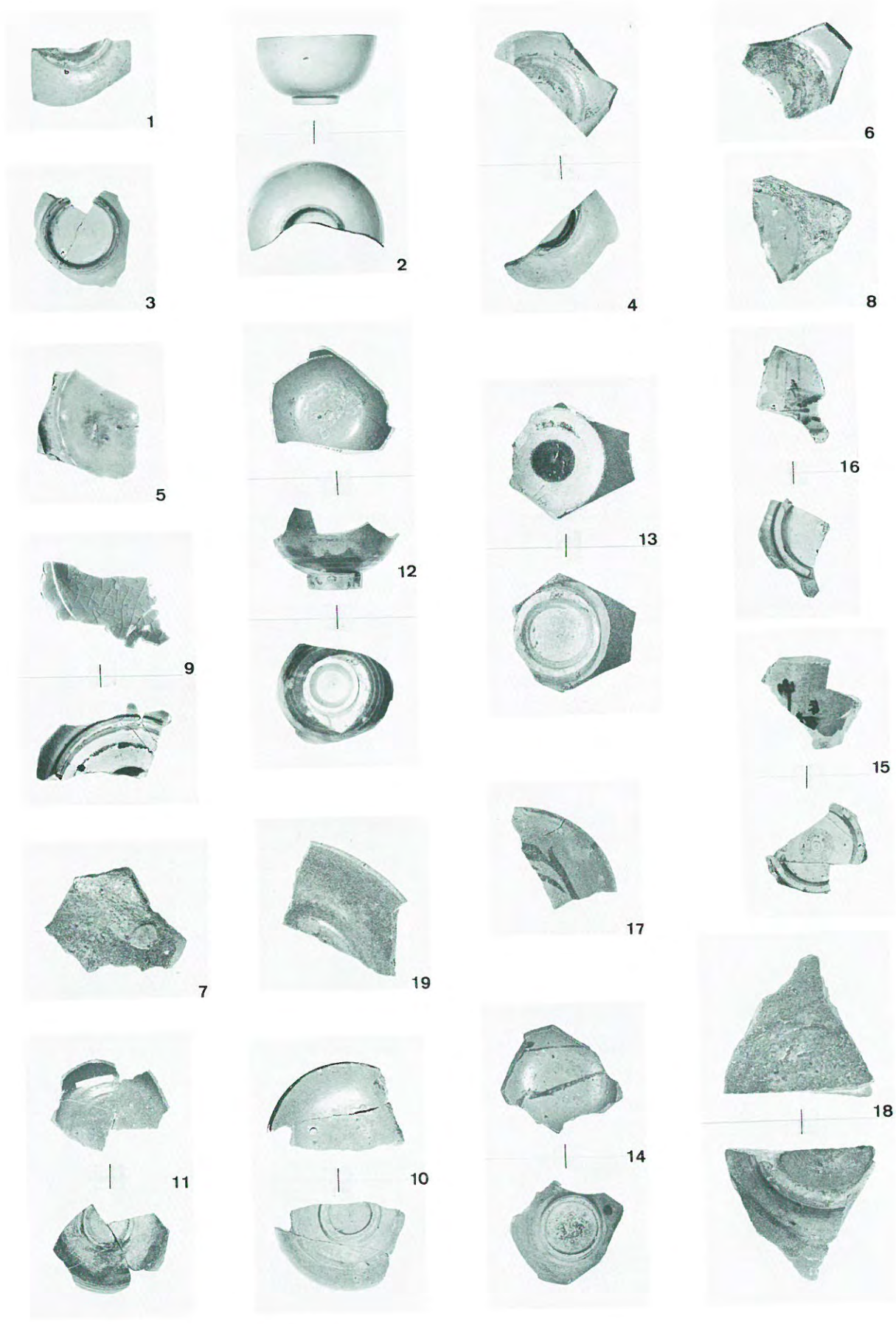
第74図版 本土産陶磁器 (II地区)



第75図版 本土産陶磁器 (II地区)



第76图版 本土産陶磁器 (II地区)



第77图版 本土産陶磁器 (I・II地区)



1



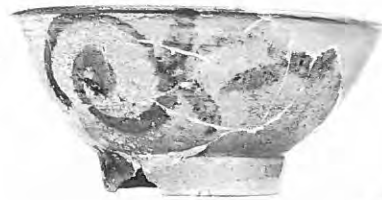
2



4



3



5



6



8



7



9

第78図版 沖縄産施釉陶器（上焼）碗



1



2



3



4



5



6



7



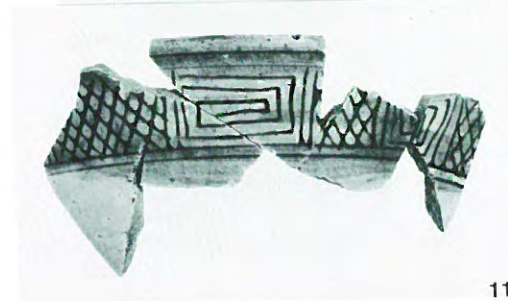
8



9



10



11

第79図版 沖縄産施釉陶器（上焼）碗



1



2



3



4



5



6



7



8



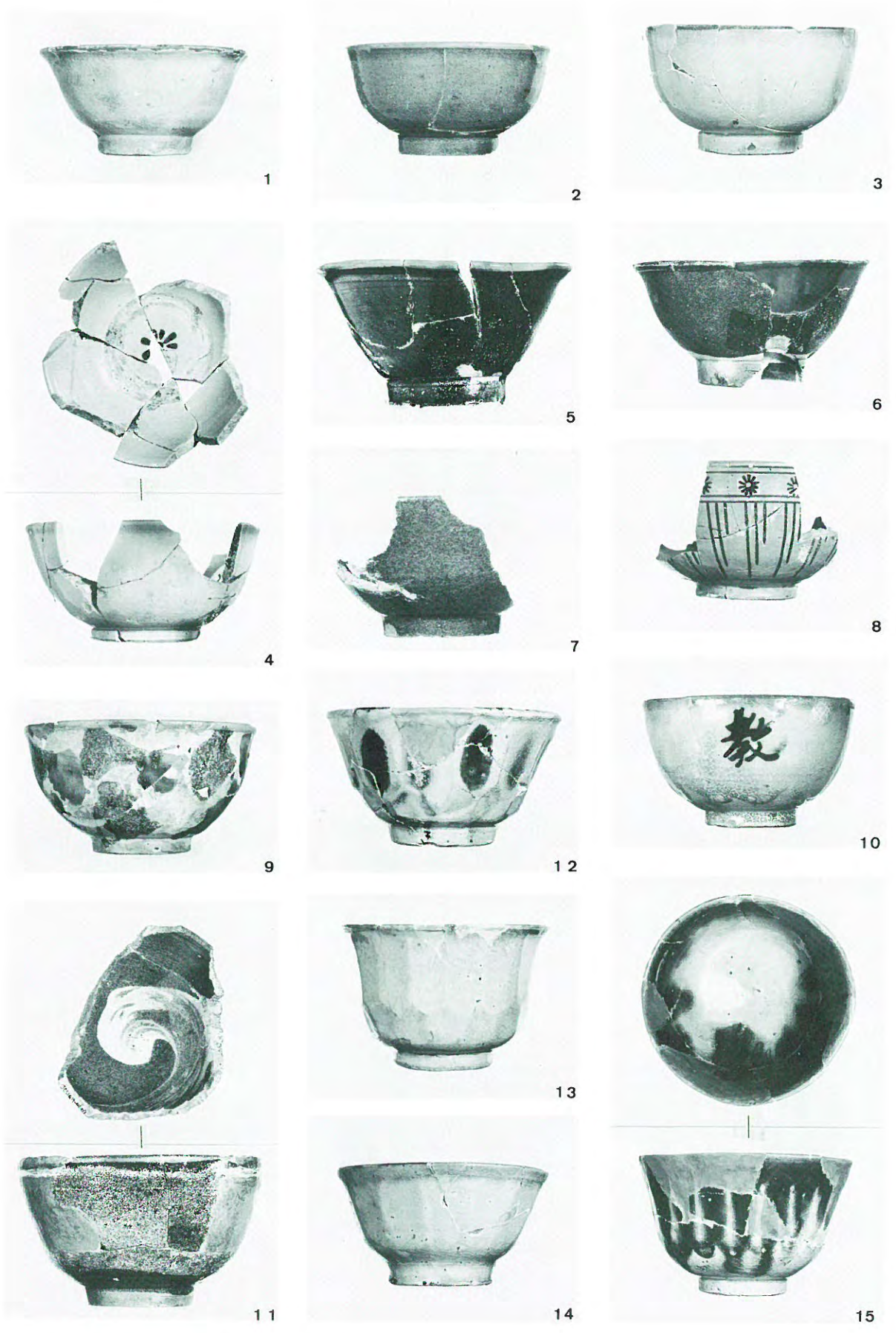
9



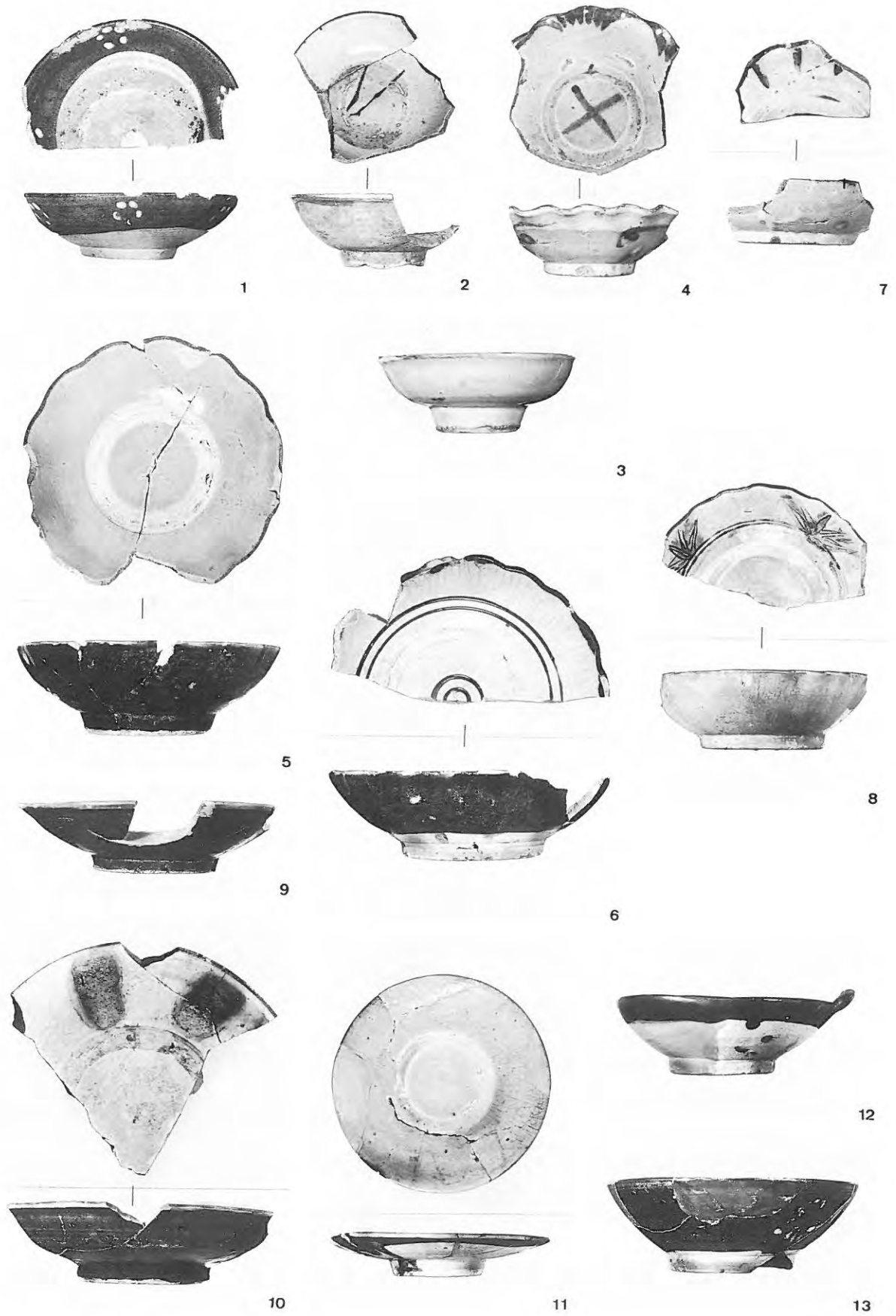
10



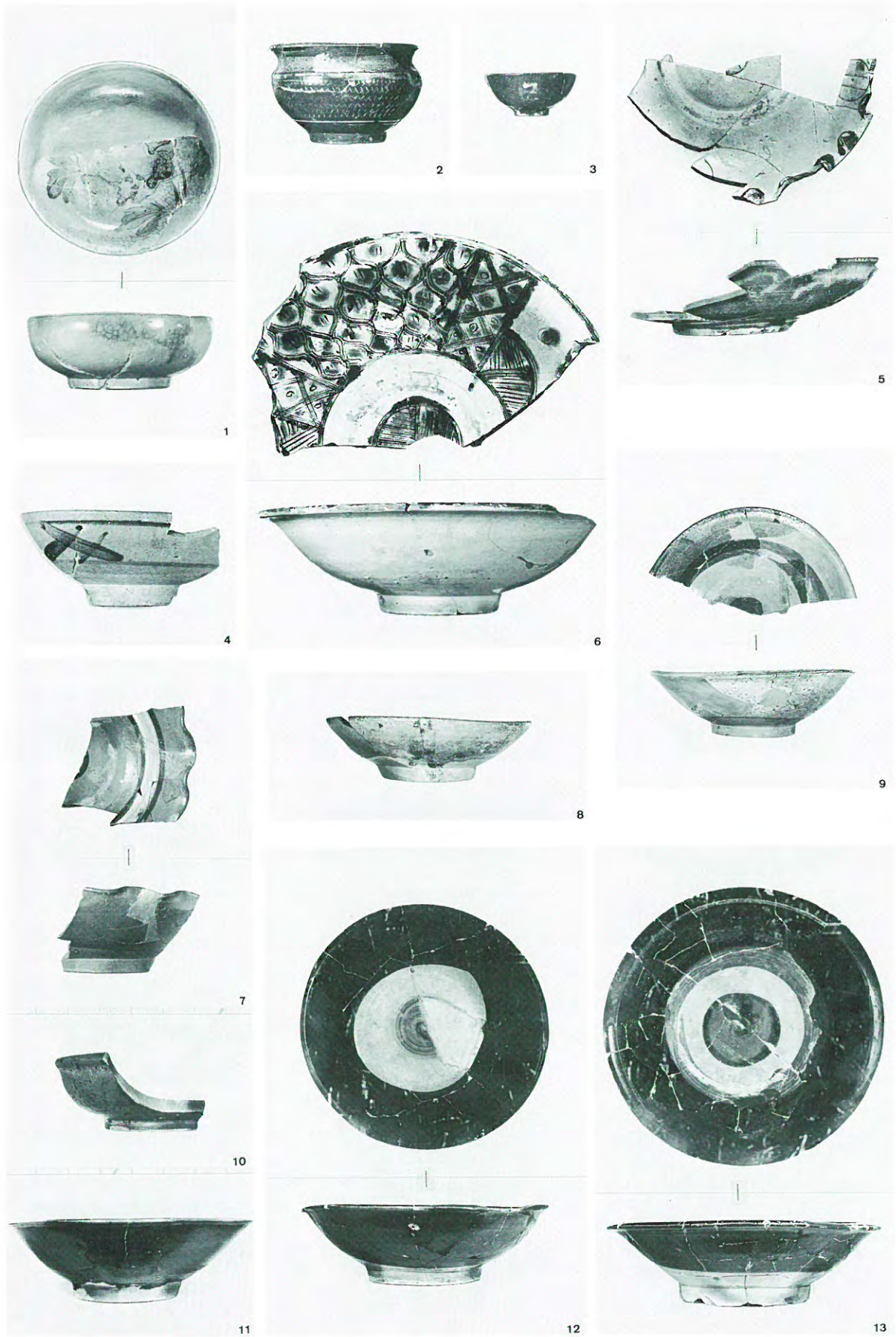
11



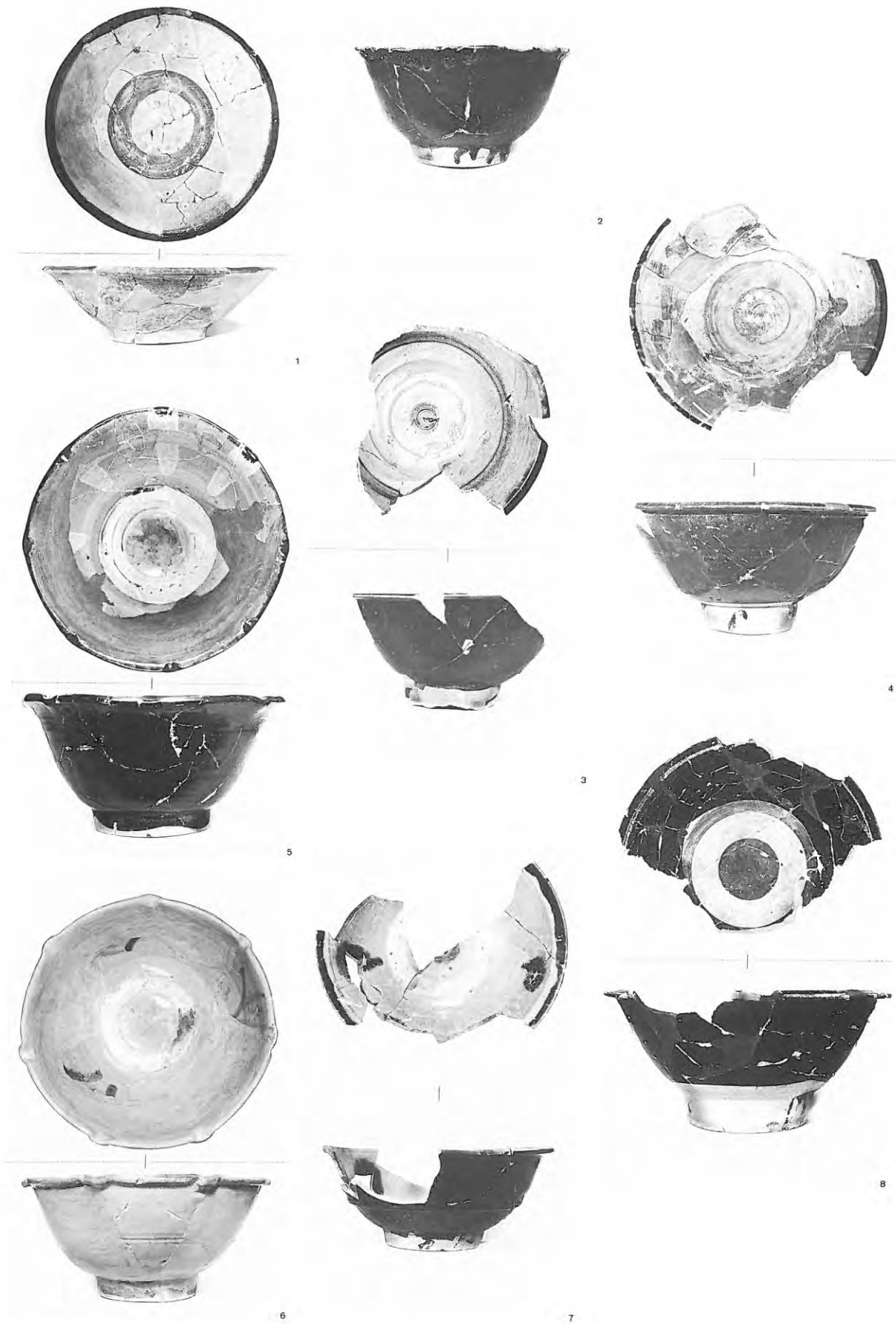
第81図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小碗



第82図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小皿



第83図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小皿・小碗・小杯・大皿



第84図版 沖縄産施釉陶器（上焼）大皿・大鉢



1



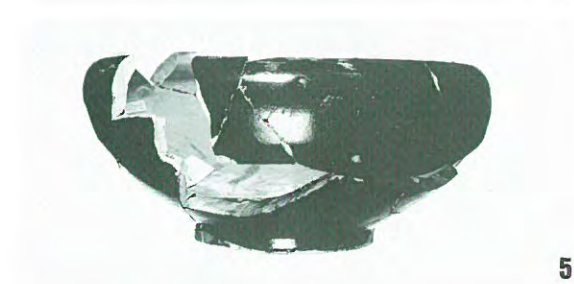
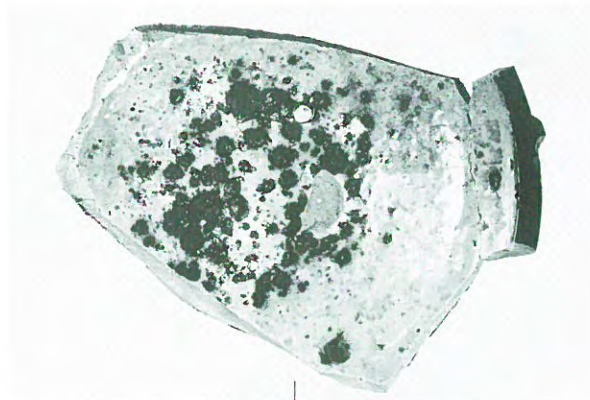
2



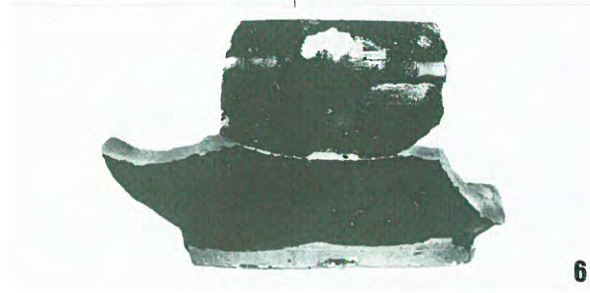
3



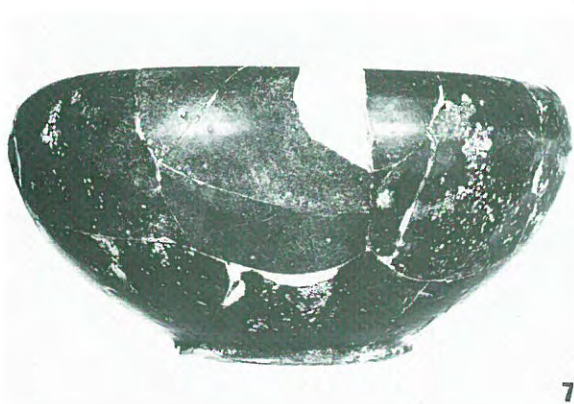
4



5



6



7



8

第85図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小鉢・大鉢



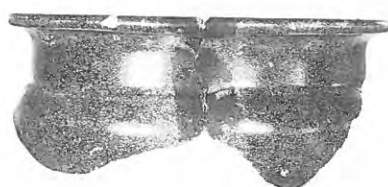
1



2



3



4



5



6

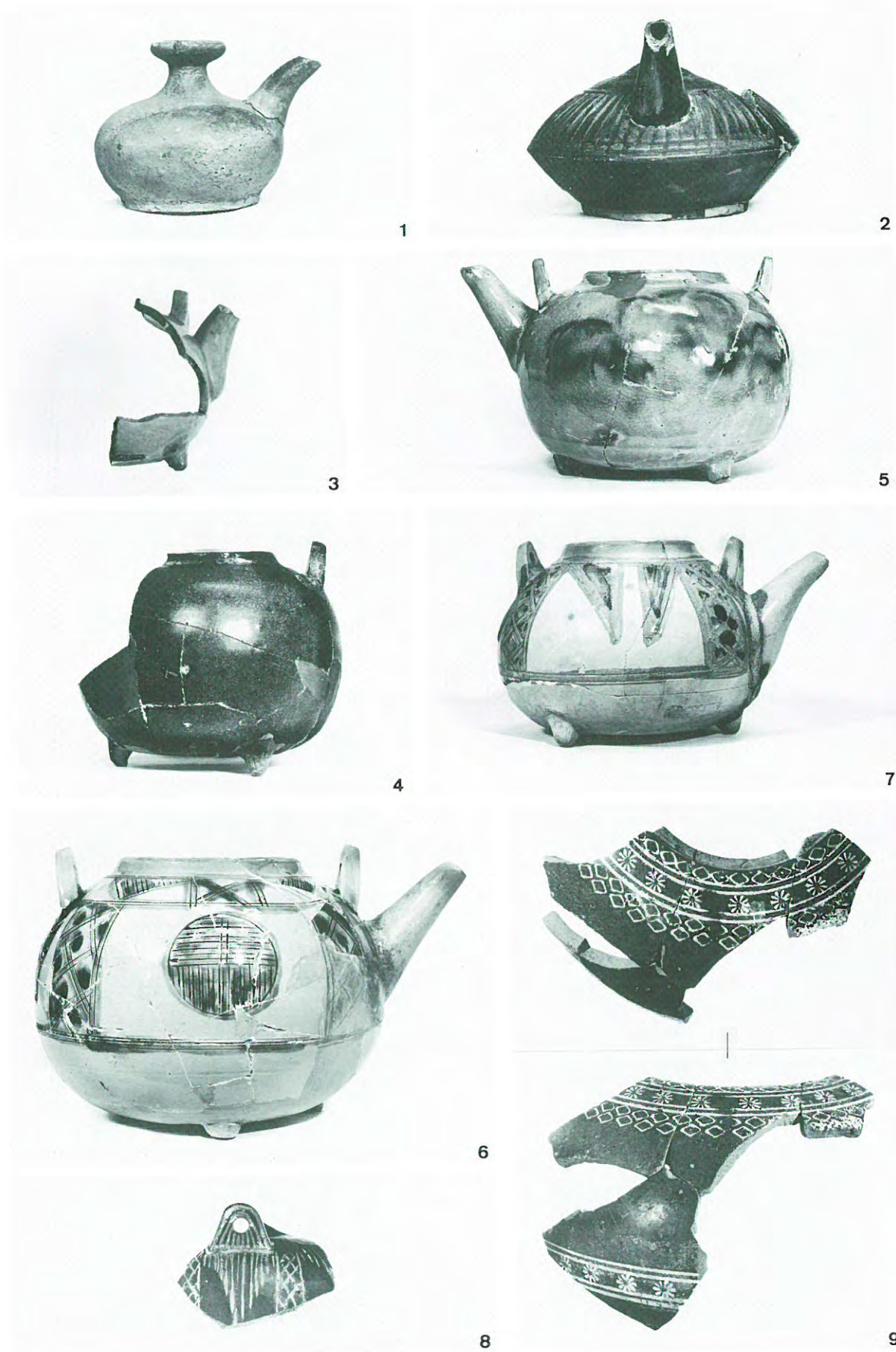


7

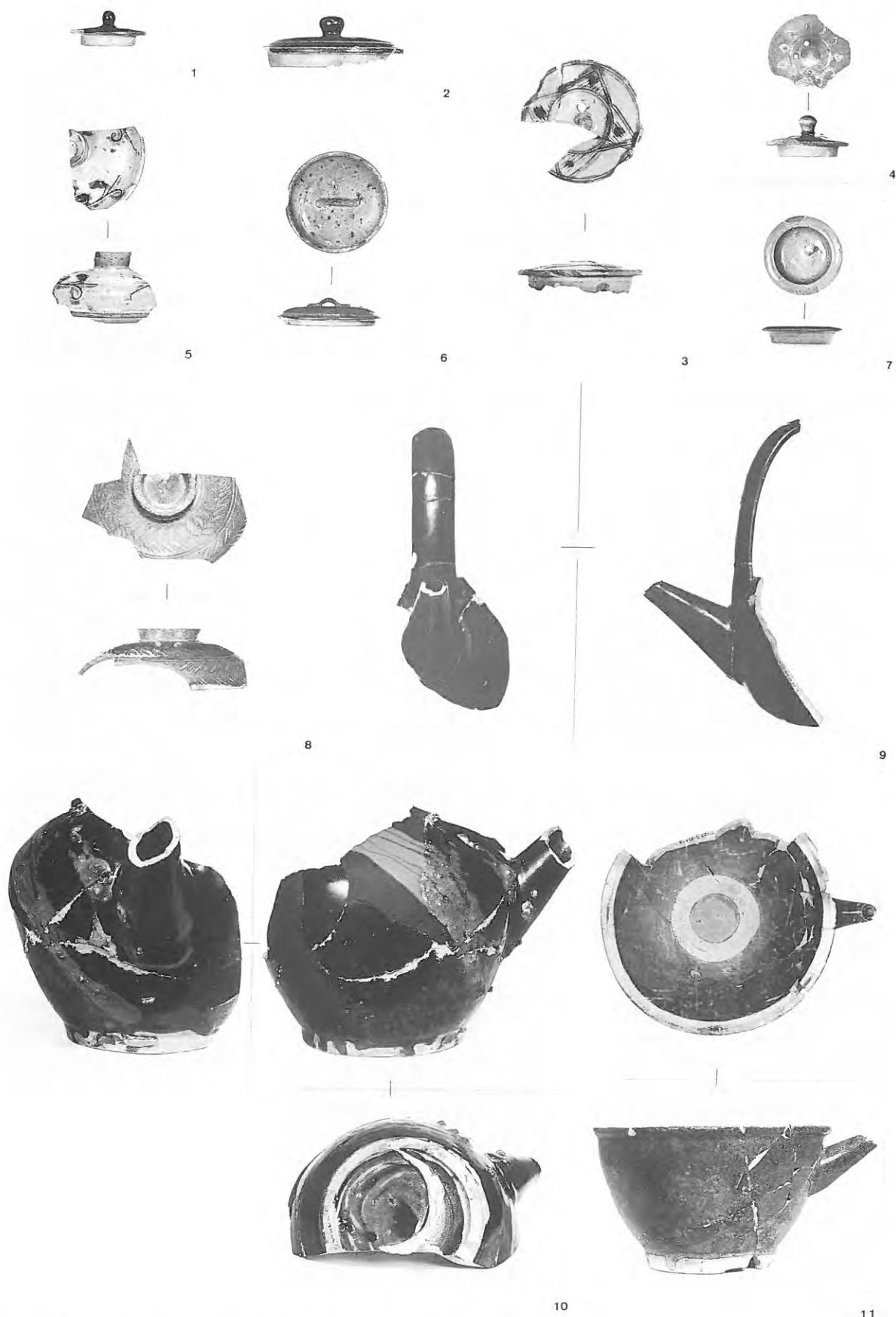


8

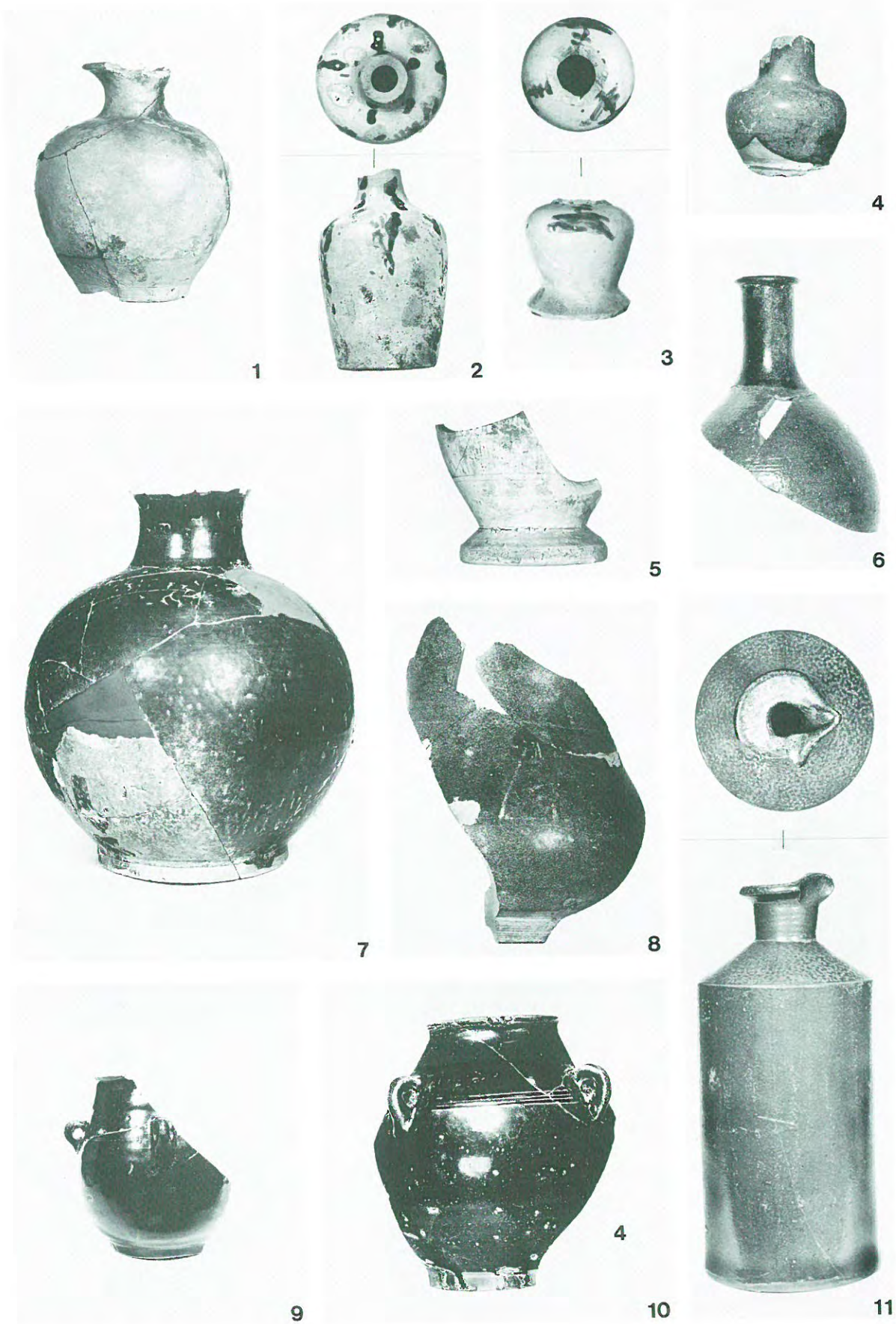
第86図版 沖縄産施釉陶器（上焼）小鉢・香炉・火取



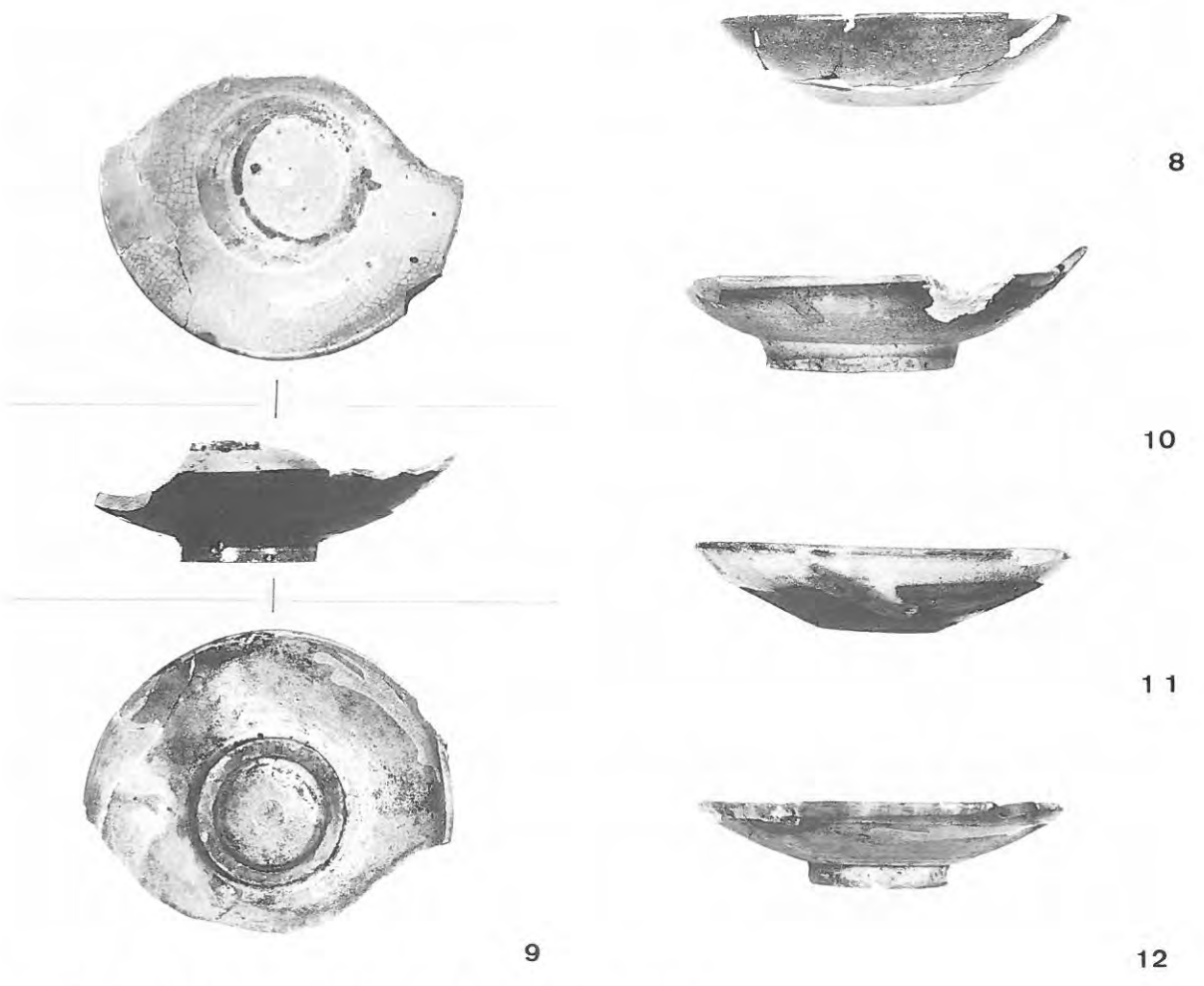
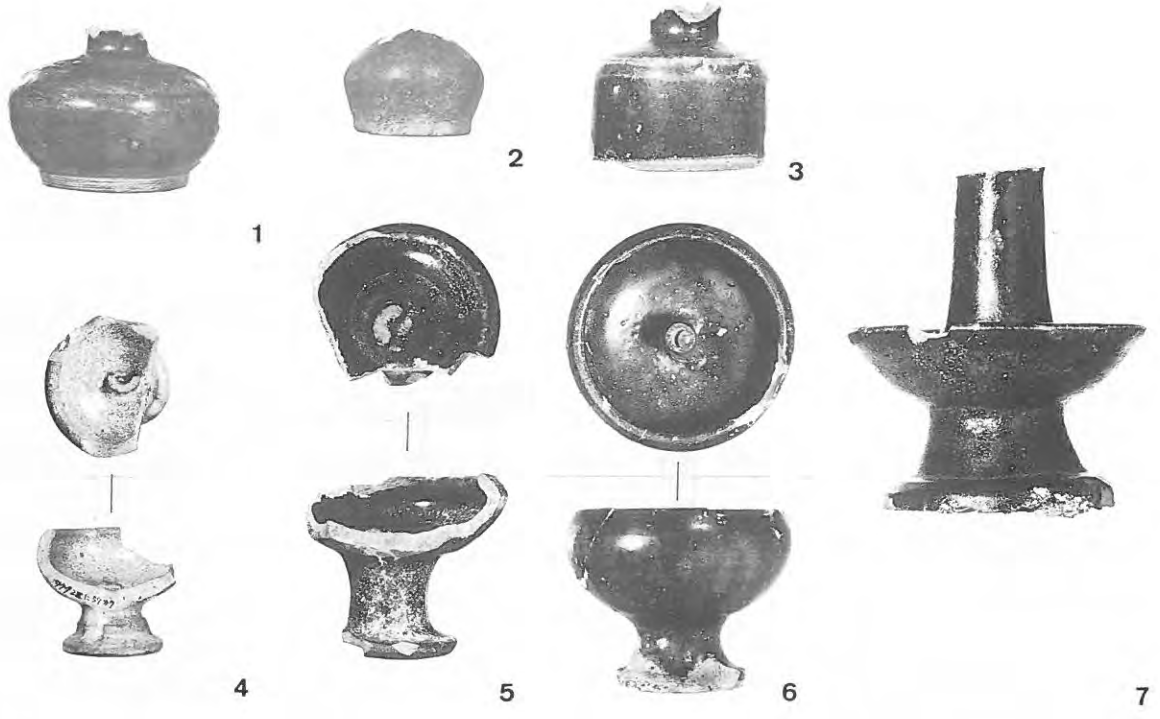
第87図版 沖縄産施釉陶器（上焼）酒器・急須・壺



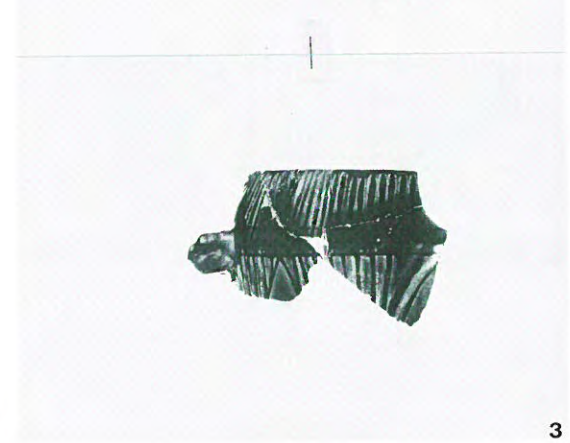
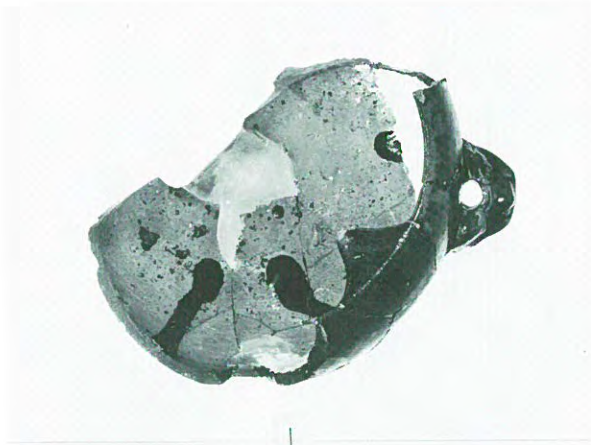
第88図版 沖縄産施釉陶器（上焼）蓋（急須・壺・鍋）大型急須・片口鉢



第89図版 沖縄産施釉陶器（上焼）油壺・瓶子・対瓶・壺



第90図版 沖縄産施釉陶器（上焼）油壺・乗燭・燭台・灯明皿



第91図版 沖縄産施釉陶器（上焼）火炉・火鉢



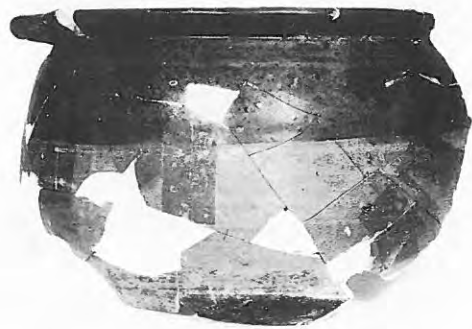
1



3



2



4



5



6



7



8



1



6



2



7



3



8



4



9

第93図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）摺鉢



1



4



2

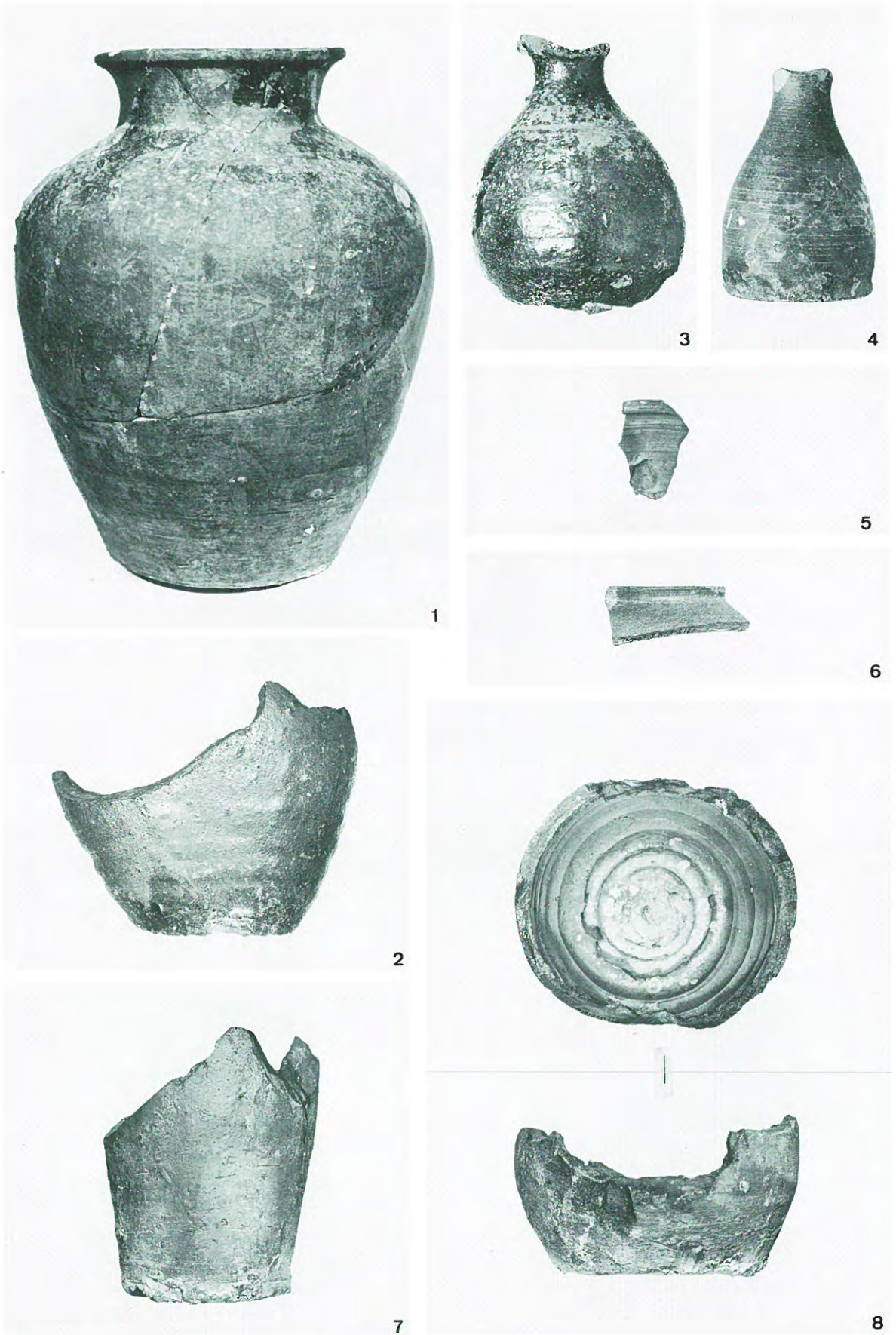


3

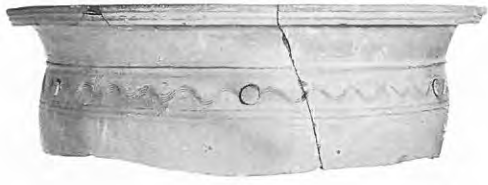


5

第94図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺



第95図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）壺・德利・瓶子・花瓶・小壺



1



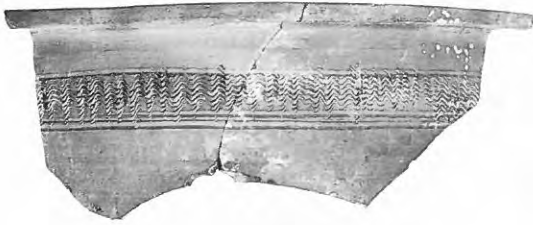
6



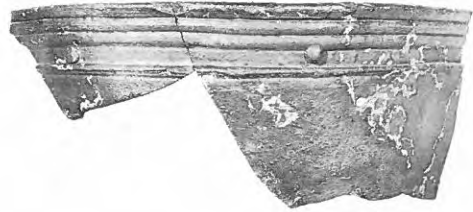
2



7



3



8



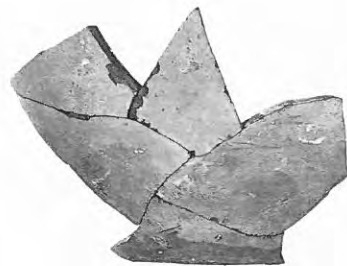
4



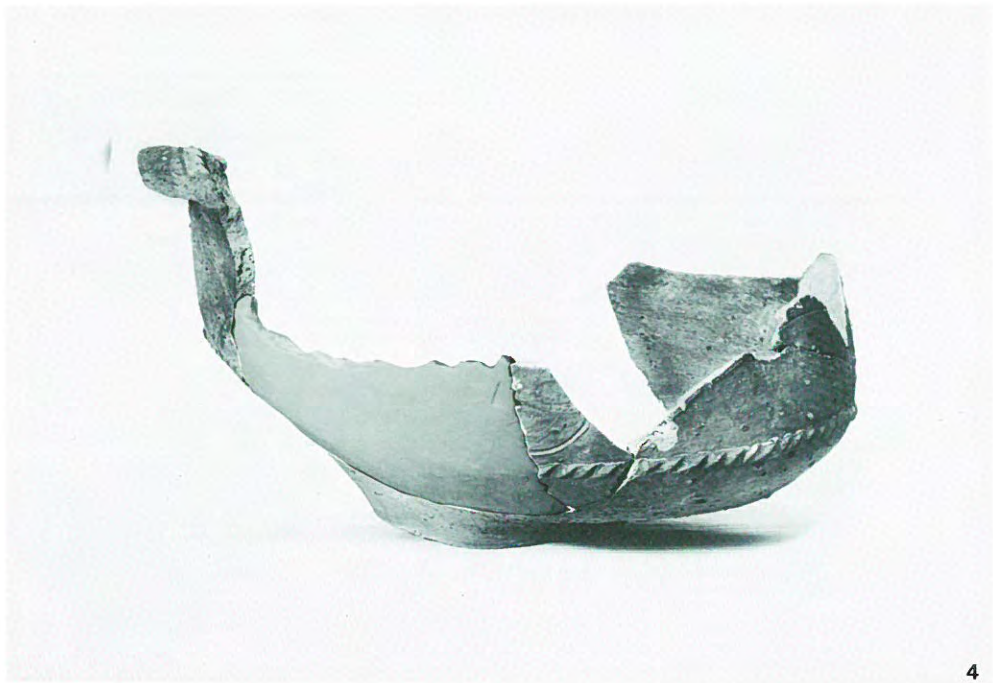
9



5



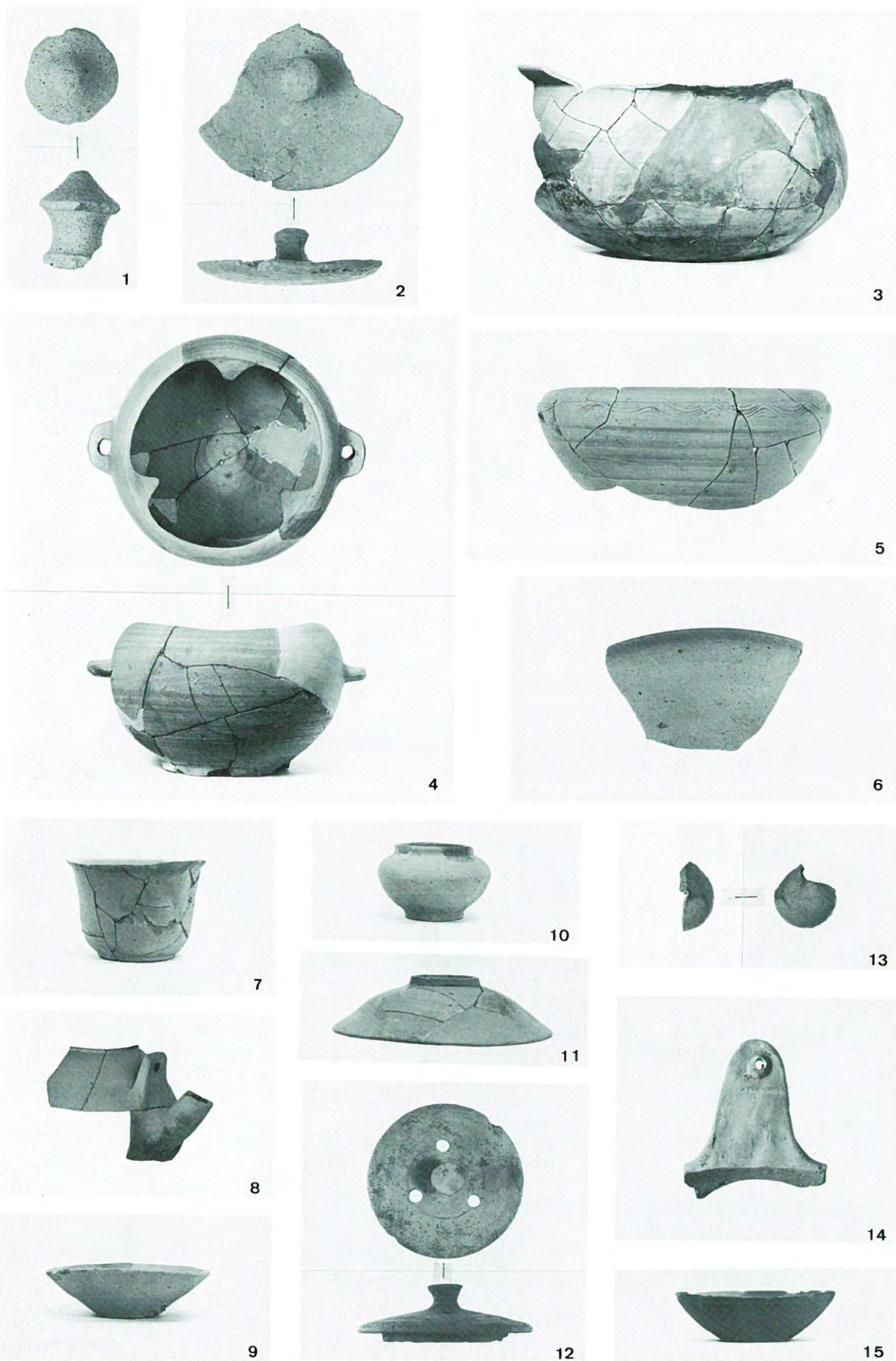
10



第97図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）蓋・水鉢・花鉢



第98図版 沖縄産無釉陶器（荒焼）小鉢・鍋・水注・片口鉢・蓋・碗・皿・乗燭・灯明皿・火炉



第99図版 陶質土器



1



2



3



4



5



6



7



8



9



11



12



10



13





14



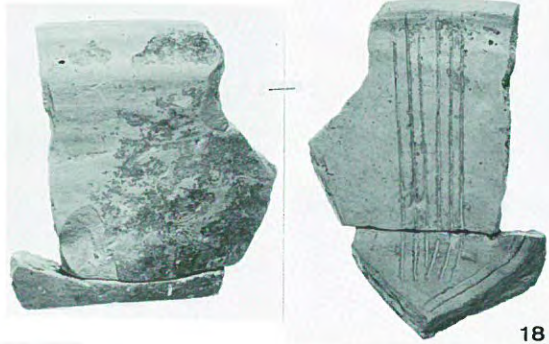
15



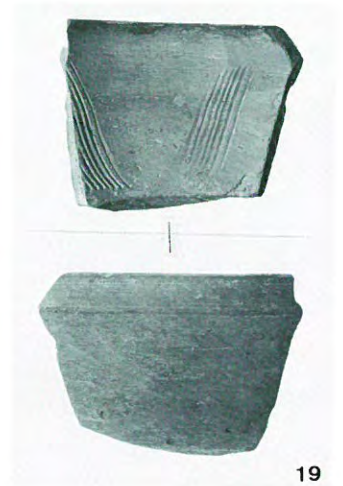
16



17



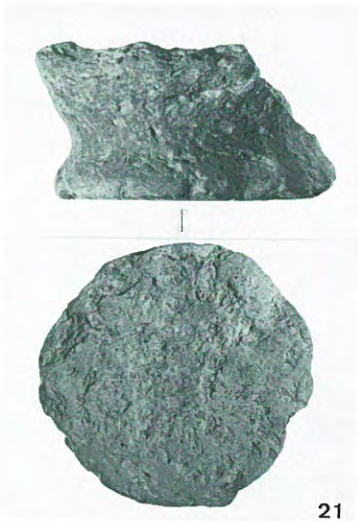
18



19



20



21



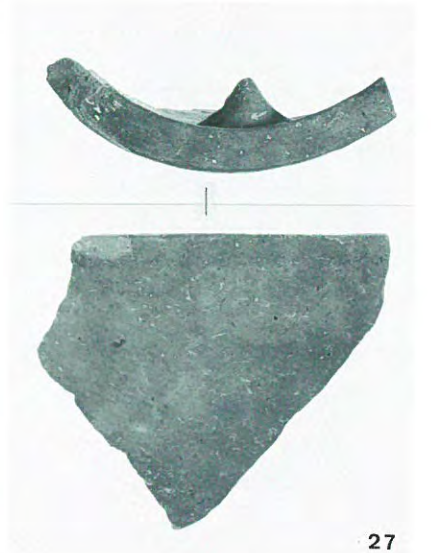
22



23



24



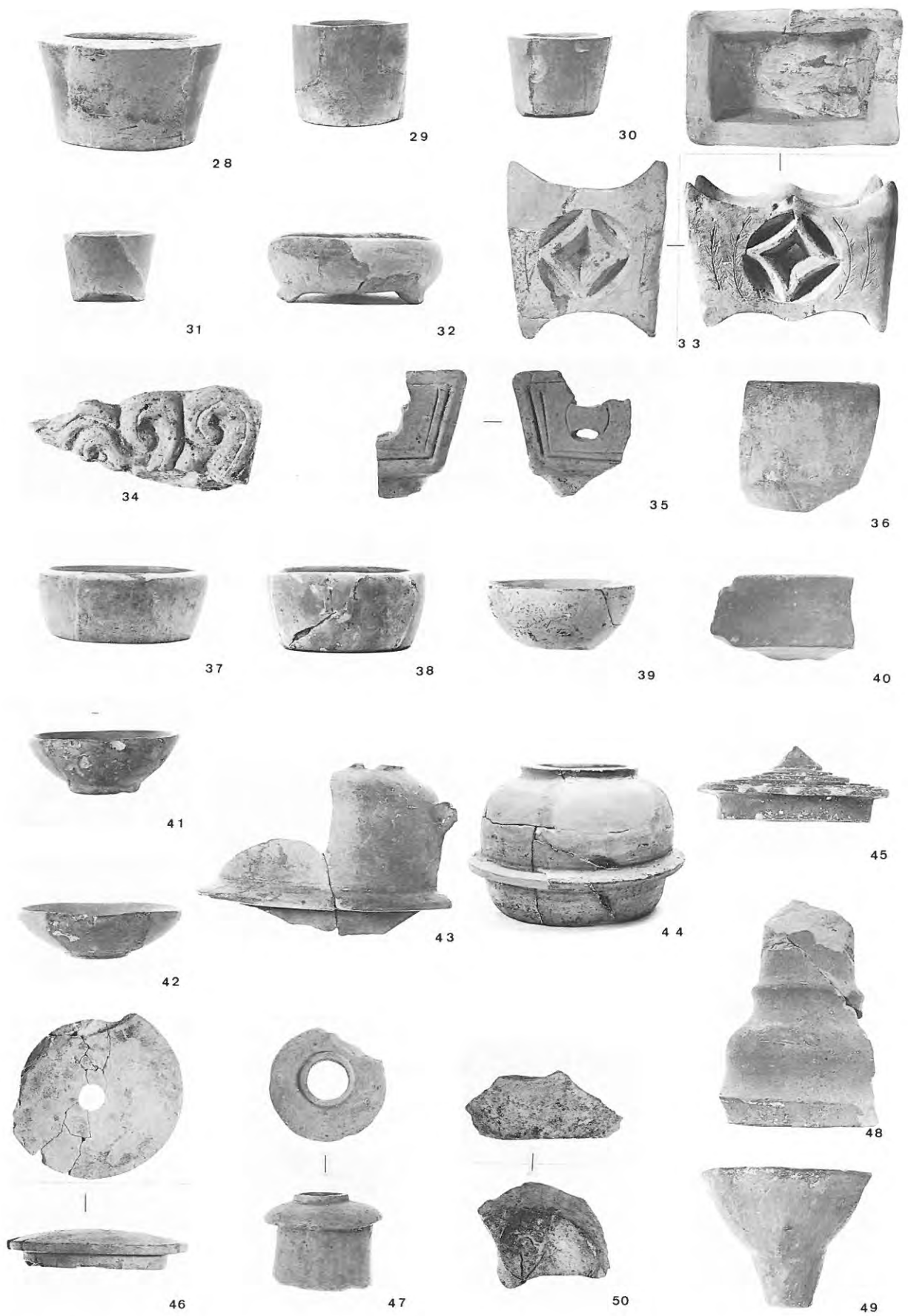
27



25



26





51



52



53



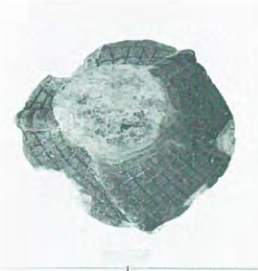
55



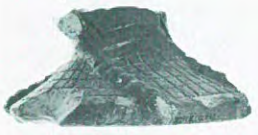
54



56



58



57



59



60



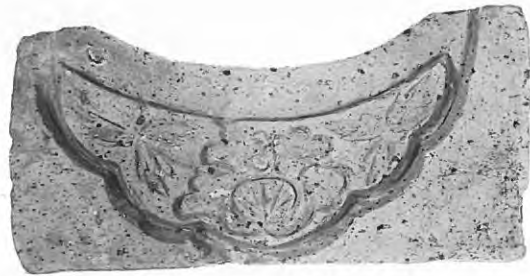
2



1



3



4



5



6



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



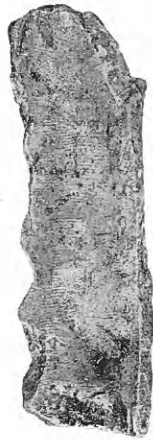
11



12



15



13



16



14



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



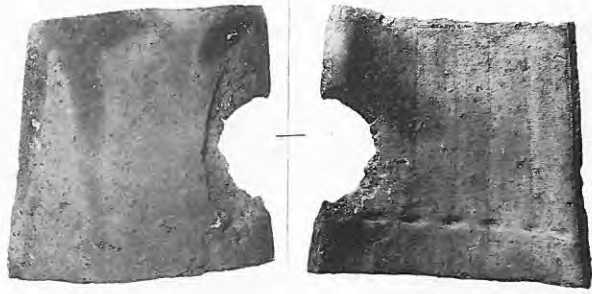
29



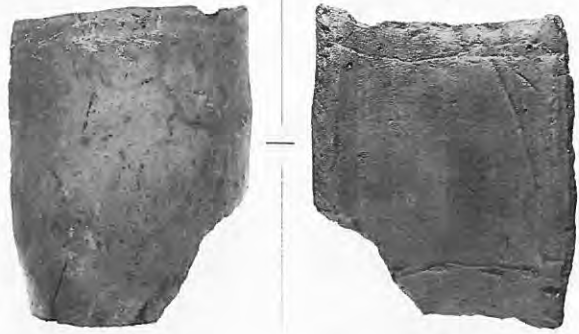
30



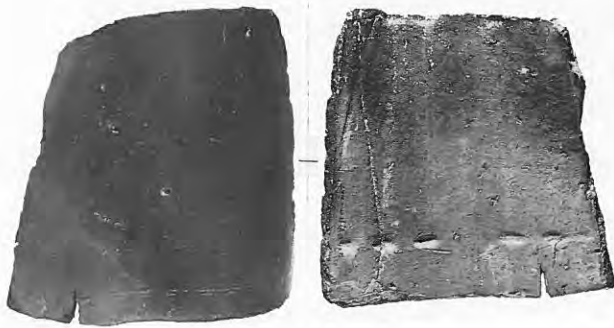
31



32



34



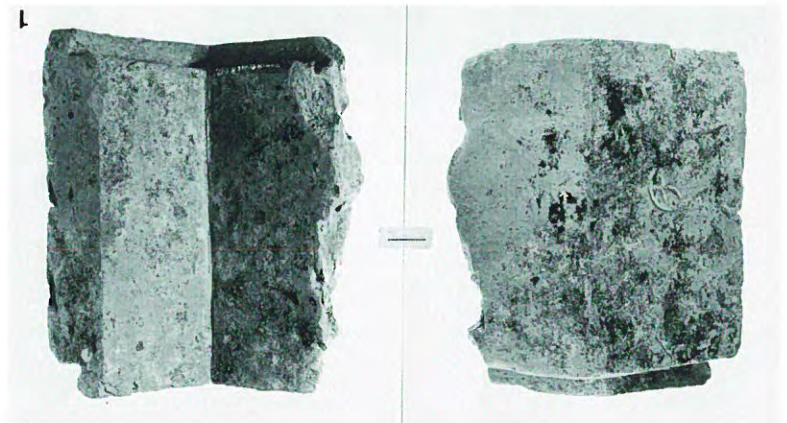
33



35



36





7



10



8



11



9



12



1



4



2



5



3



6



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



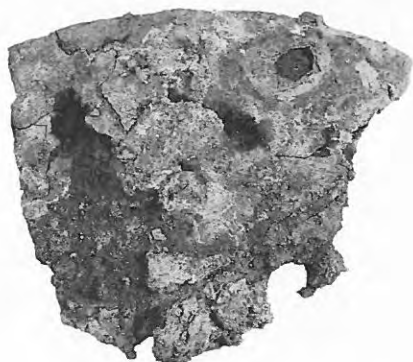
13



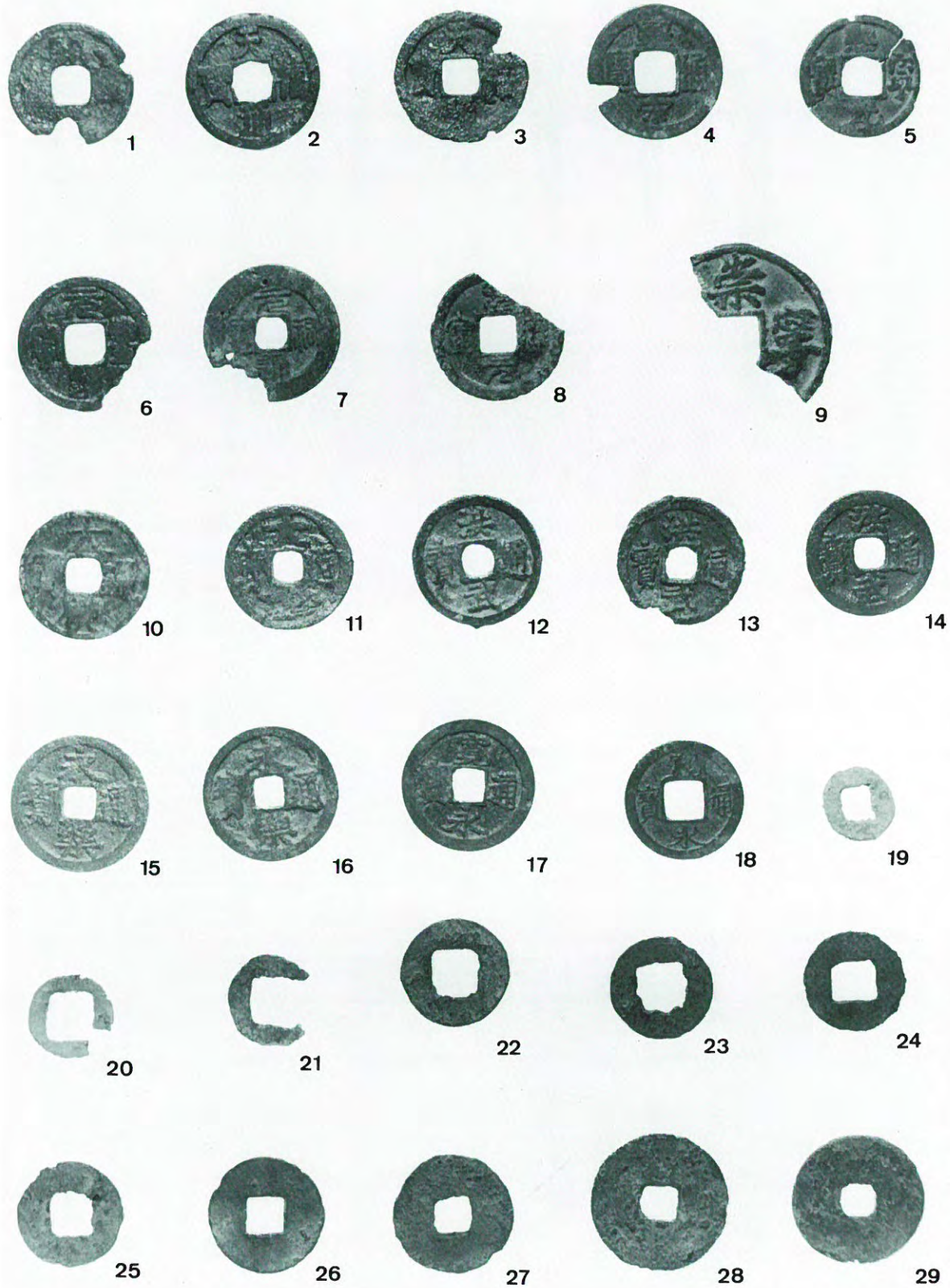
14



15



16



第113図版 銭貨



30



31



32



33



34



35



36



37



38



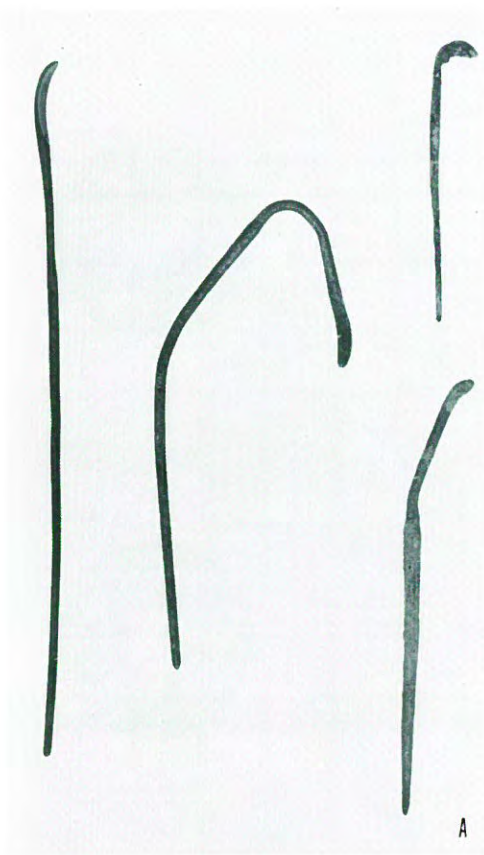
39



40



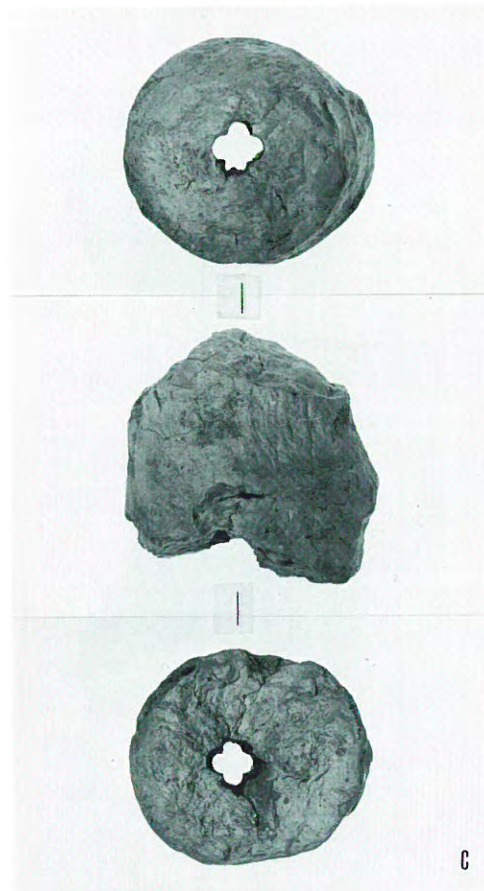
41



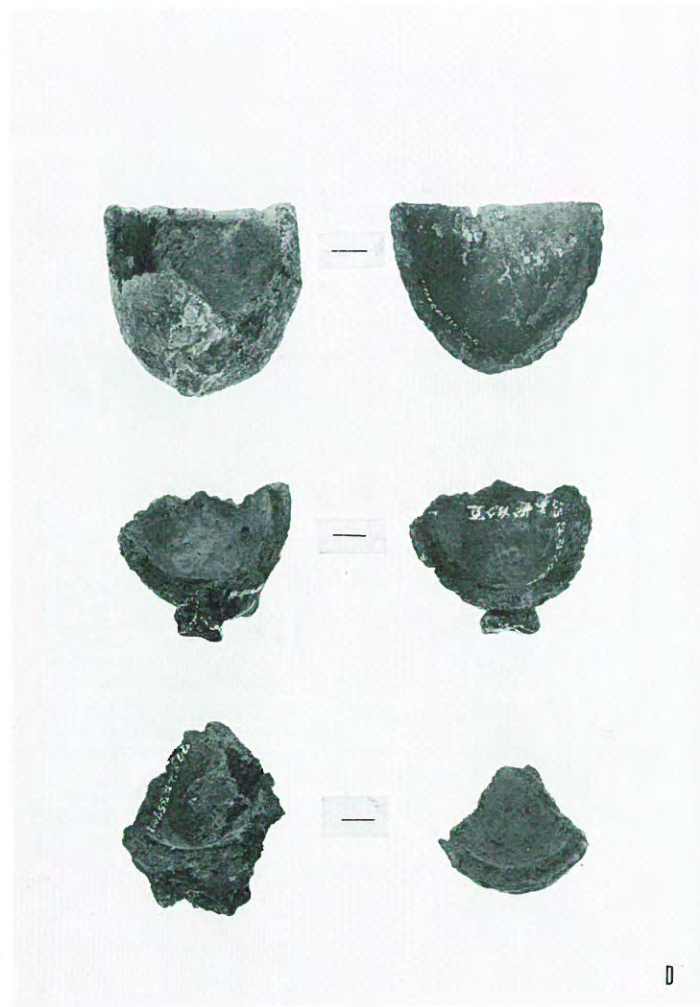
A



B

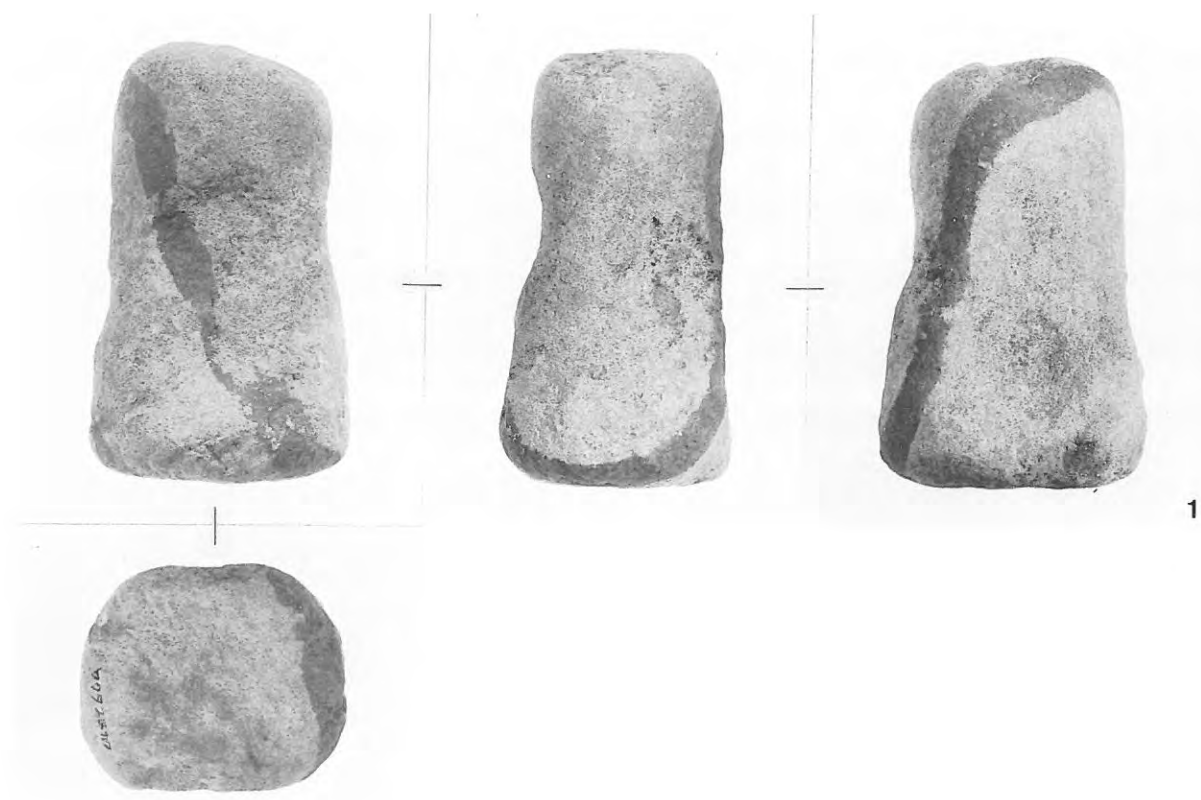


C



D

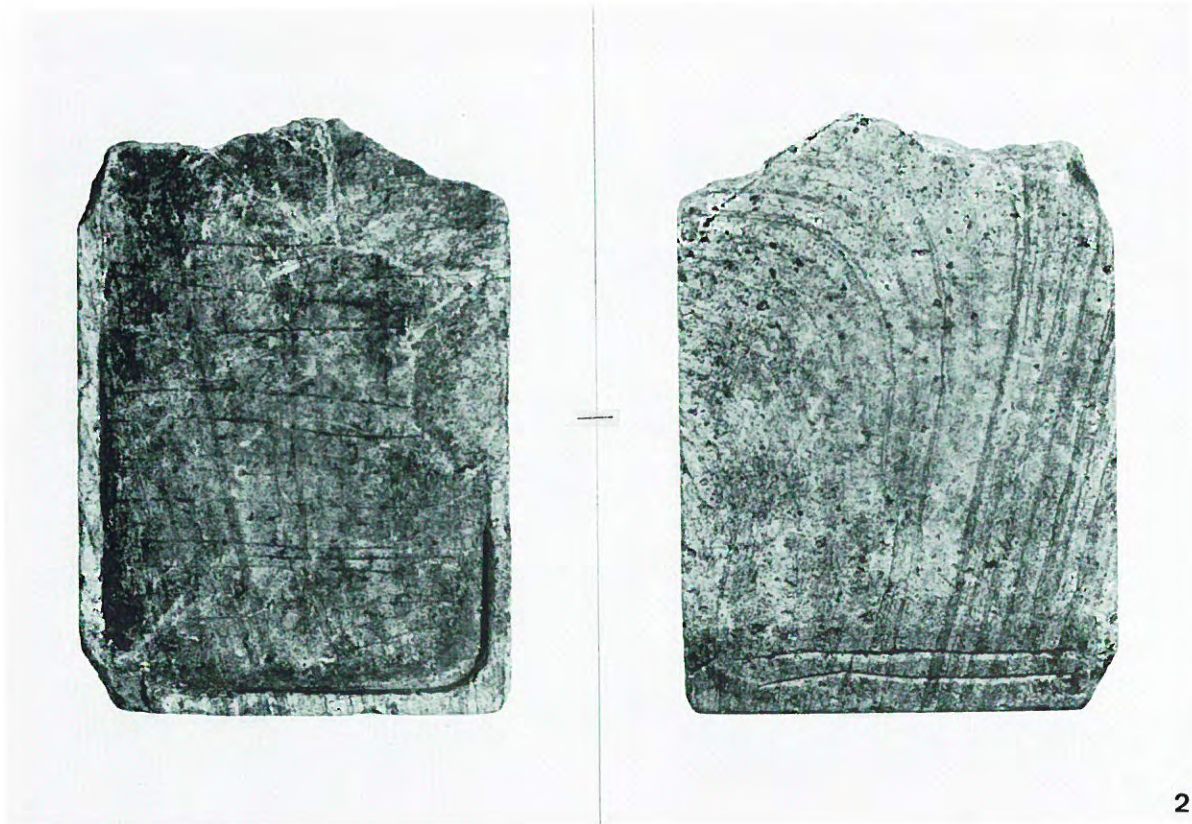
第115図版 カンザシ(A)、鉄滓(B)、埴埴(C)、羽口(D)



第116図版 石器 (1 : たたき石、2 : 砥石)

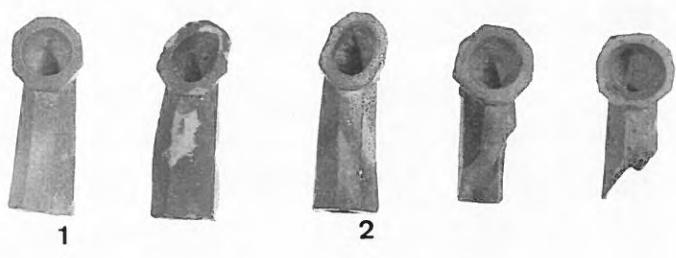
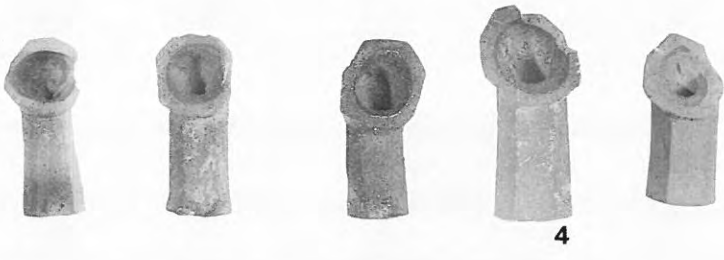


1

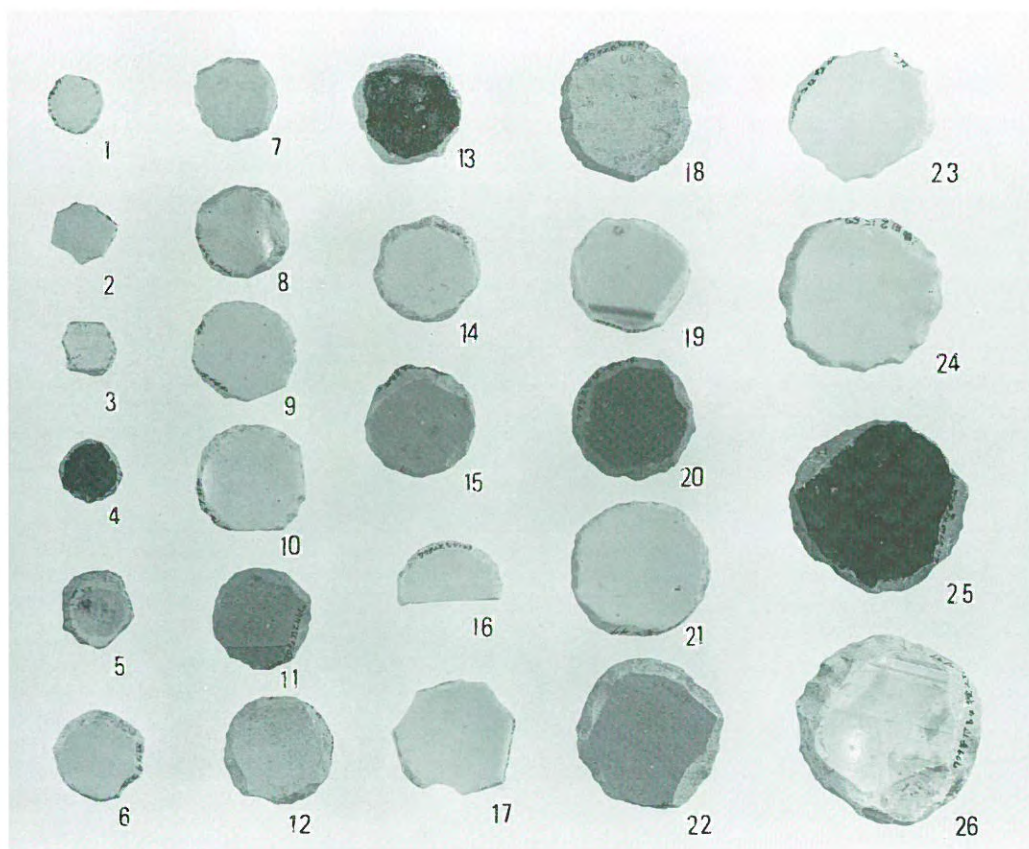
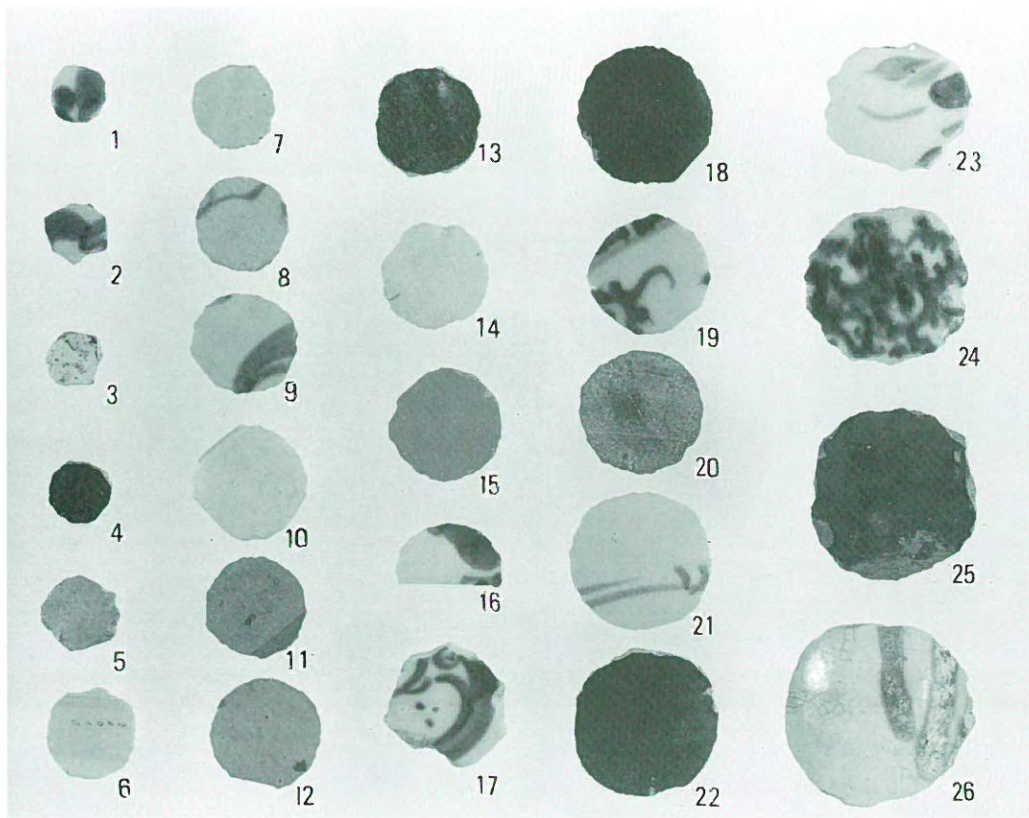


2

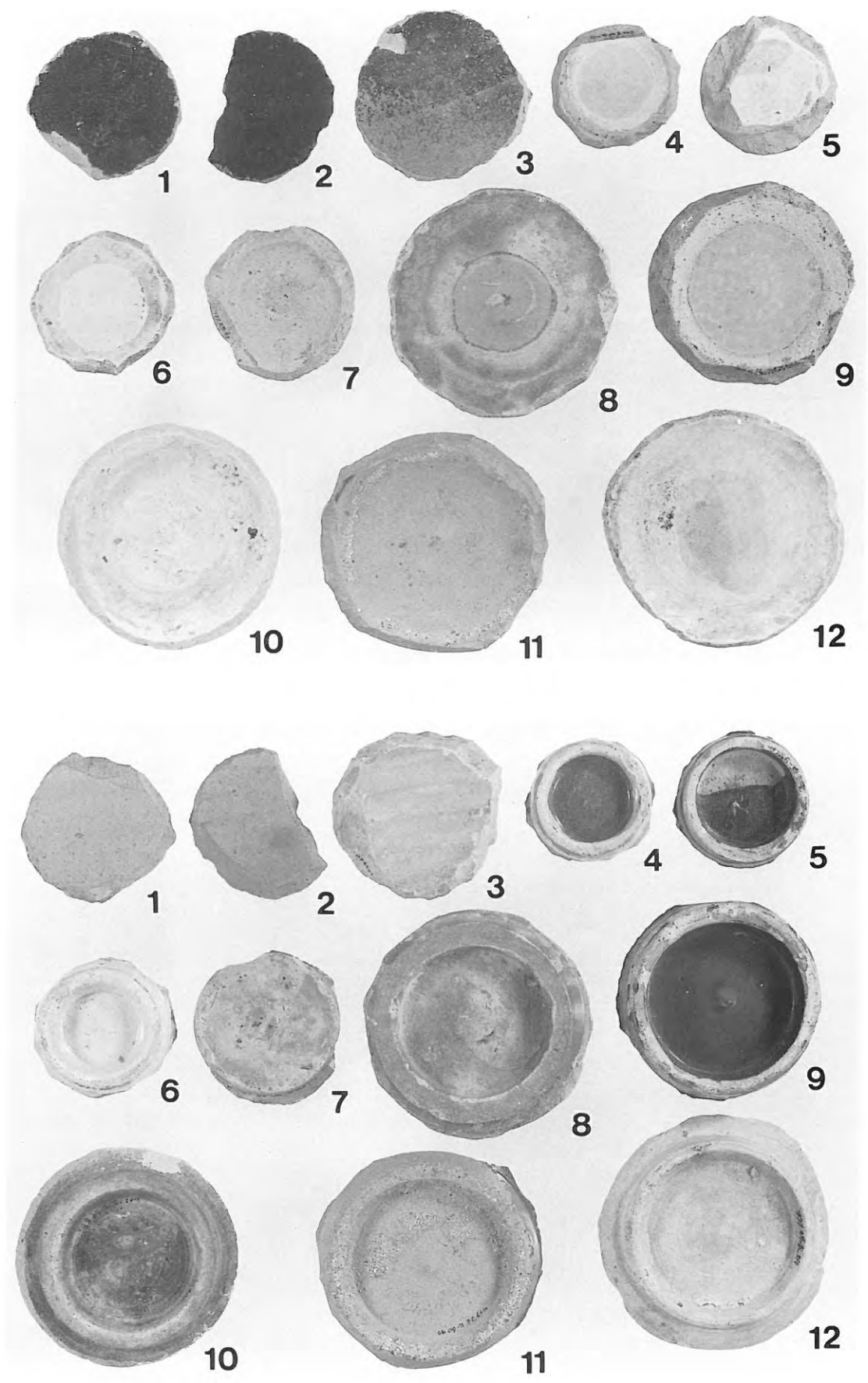
第117図版 硯



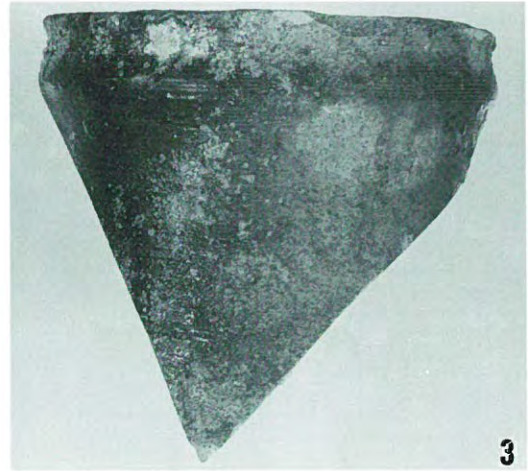
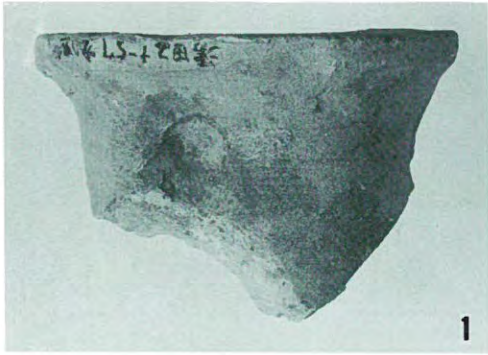
第118図版 キセルの雁首と吸口



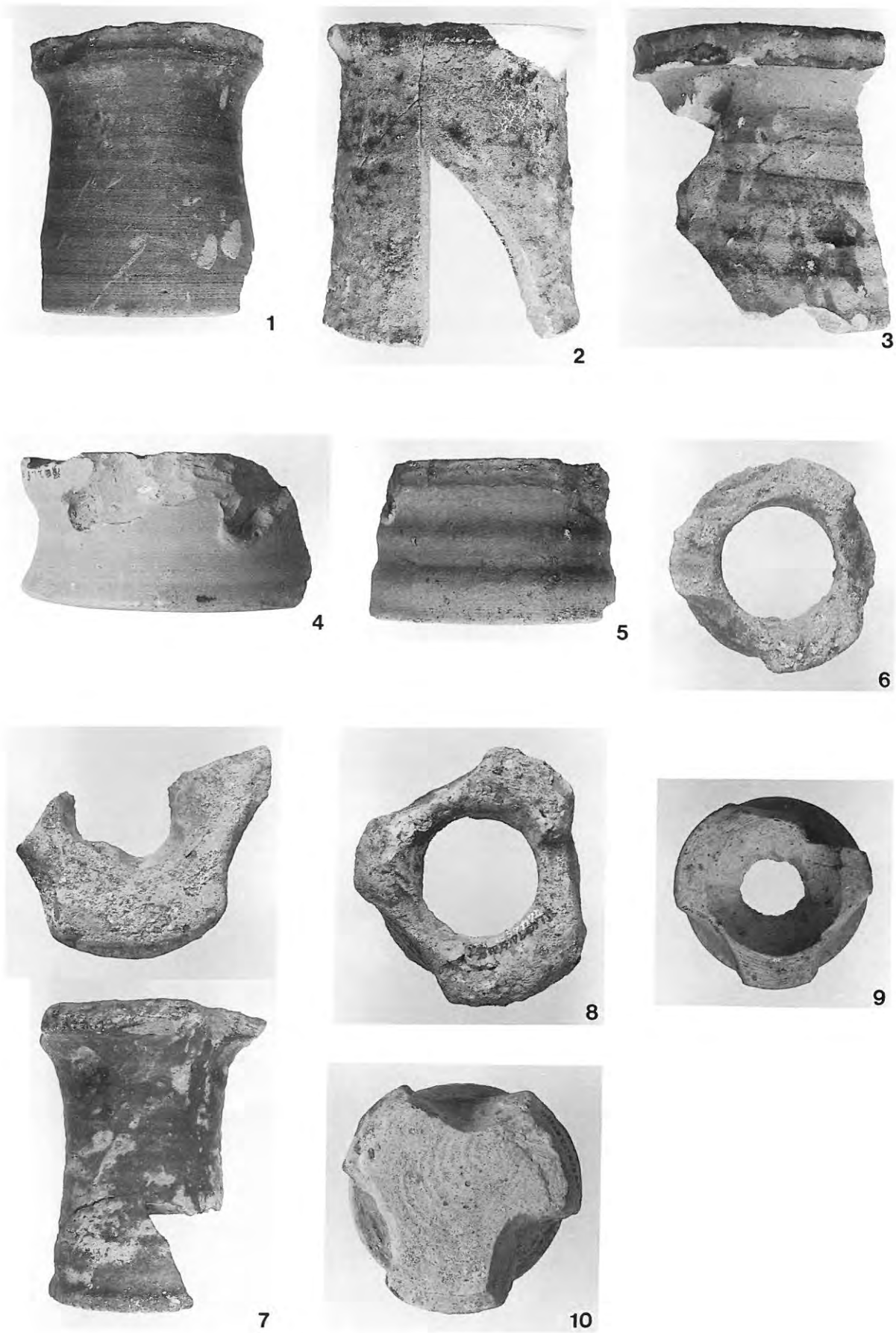
第119図版 円盤状製品



第120図版 円盤状製品



第121図版 窯道具①



第122図版 窯道具②



1



3



5



2



4



6



7



12



8



11



9



10



13



1



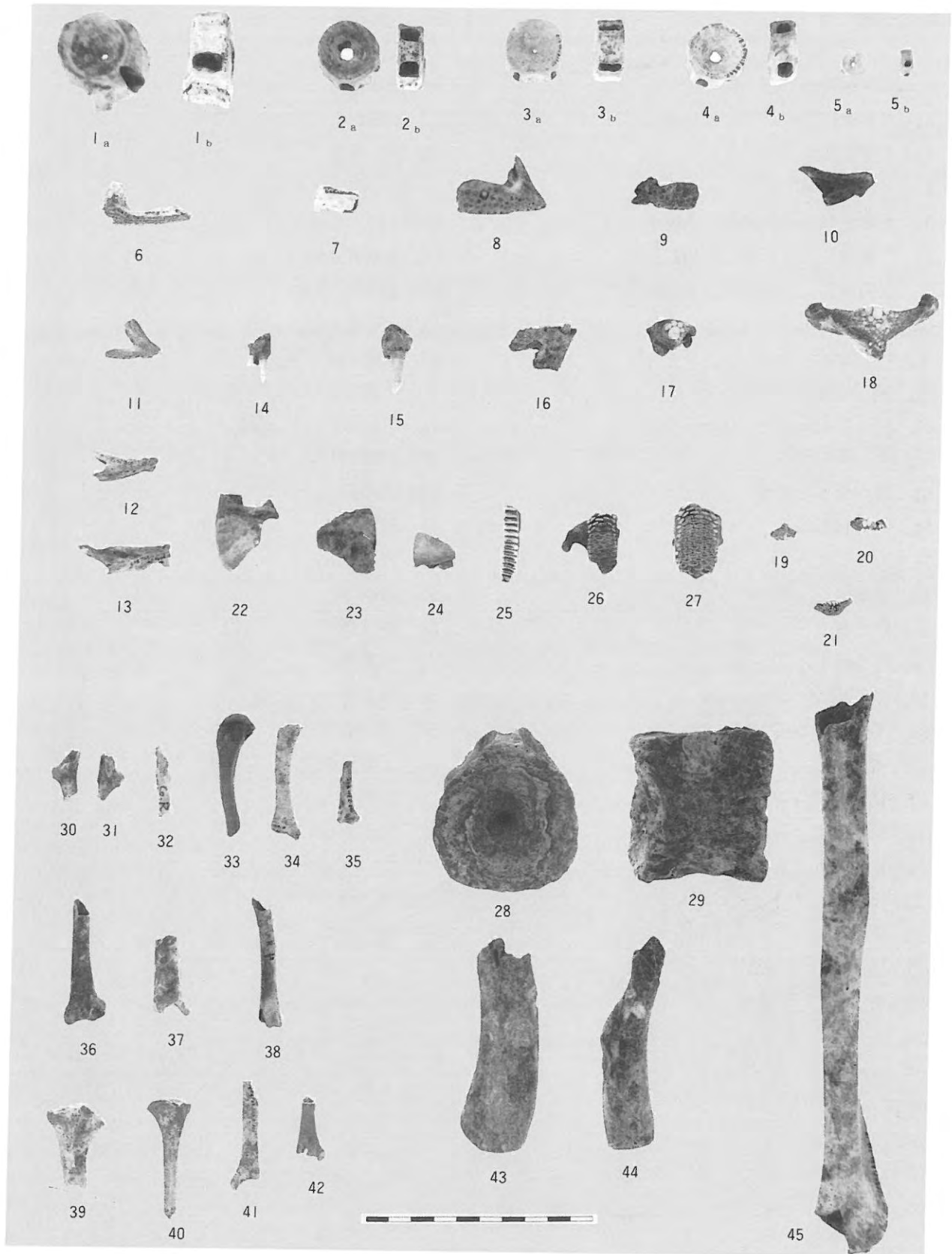
2



3

第125図版

1. サメ・椎骨 a 上面 b 側面
2. サメ・椎骨 a 上面 b 側面
3. サメ・椎骨 a 上面 b 側面
4. サメ・椎骨 a 上面 b 側面
5. サメ・椎骨 a 上面 b 側面
6. ハタ科マハタ属のR上顎骨
7. ハタ科マハタ属のR歯骨
8. タイ科ミナミクロダイのL前上顎骨
9. タイ科ミナミクロダイのL前上顎骨
10. フェフキダイ科R歯骨 R
11. フェフキダイ科R前上顎骨
12. フェフキダイ科R歯骨
13. フェフキダイ科フェフキダイ属のR歯骨
14. ベラ科R前上顎骨
15. ベラ科R前上顎骨
16. ベラ科R歯骨
17. ベラ科上咽頭骨
18. ベラ科下咽頭骨
19. ベラ科下咽頭骨
20. ベラ科下咽頭骨
21. ベラ科下咽頭骨
22. ブダイ科L前上顎骨
23. ブダイ科R歯骨
24. ブダイ科L歯骨
25. ナガブダイ R上咽頭骨側面 腹
26. ナガブダイ下咽頭骨
27. ナガブダイ下咽頭骨
28. カジキ類尾体上面
29. カジキ類尾体側面
30. ニワトリ肩甲骨L
31. ニワトリ肩甲骨R
32. ニワトリ鳥口骨
33. ニワトリ上腕骨L
34. ニワトリ上腕骨L
35. ニワトリ尺骨L
36. ニワトリ大腿骨L
37. ニワトリ大腿骨L
38. ニワトリ大腿骨R
39. ニワトリ脛骨L
40. ニワトリ脛骨R
41. ニワトリ中足骨L
42. ニワトリ中足骨R
43. ジュゴン肋骨上面
44. ジュゴン肋骨側面
45. ヒト上腕骨L



第125図版 サメ、魚類、ニワトリ、ジュゴン、ヒト

第126図版 イヌ

1. 肩甲骨R
2. 肩甲骨L
3. 上顎骨RM¹
4. 上顎骨LM¹
5. 下顎骨R (C、P_{2,3,4}、M_{1,2})
6. 下顎骨L (C、P_{2,4,1}、M_{1,2})
7. 上腕骨L
8. 上顎骨R
9. 橈骨L
10. 橈骨R
11. 尺骨L
12. 尺骨R
13. 寛骨L
14. 寛骨R
15. 大腿骨R
16. 大腿骨L
17. 脛骨R
18. 脛骨L
19. 環椎
20. 下顎骨R
21. 下顎骨L
22. 橈骨R
23. 橈骨L
24. 上腕骨L
25. 大腿骨D-R
26. 大腿骨R
27. 脛骨R

28. 椎体
29. 椎体

ネコ

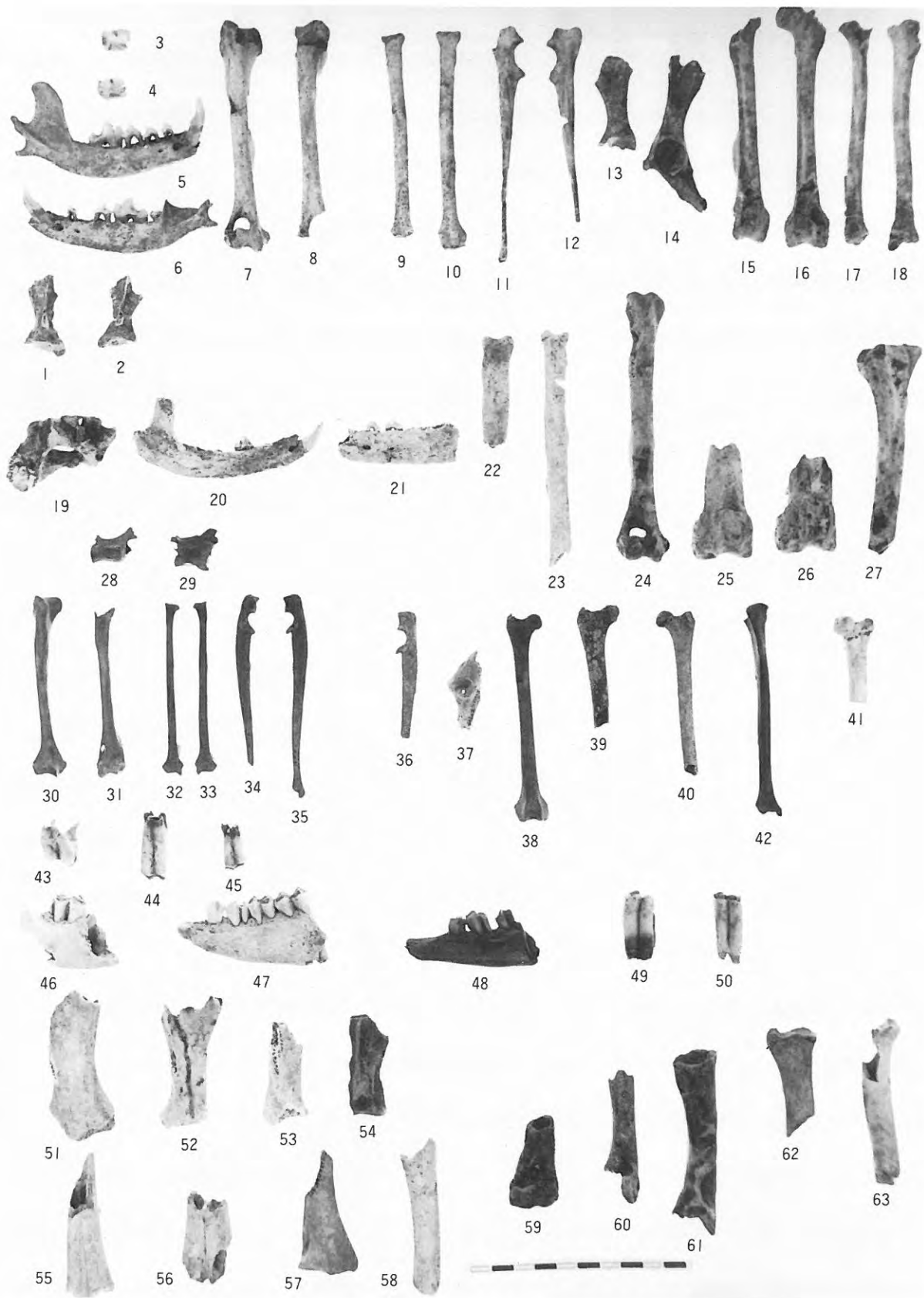
30. 上腕骨R
31. 上腕骨L
32. 橈骨R
33. 橈骨L
34. 尺骨R
35. 尺骨L
36. 尺骨L
37. 寛骨L

38. 大腿骨R
39. 大腿骨R
40. 大腿骨L
41. 大腿骨L
42. 脛骨R

ヤギ

43. 上顎骨LM³
44. 上顎骨LM²
45. 上顎骨LM¹
46. 下顎骨R (M₃)
47. 下顎骨L (P_{3,4}、M_{1,2})
48. 下顎骨L (P₄、M_{1,2})
49. 下顎骨LM₃
50. 下顎骨LM₂
51. 肩甲骨L
52. 肩甲骨L
53. 肩甲骨L
54. 肩甲骨L
55. 中足骨
56. 中足骨
57. 寛骨L
58. 大腿骨R
59. 上腕骨R
60. 上腕骨R
61. ~~橈骨R~~ 上腕骨-R
62. 橈骨R
63. 橈骨L



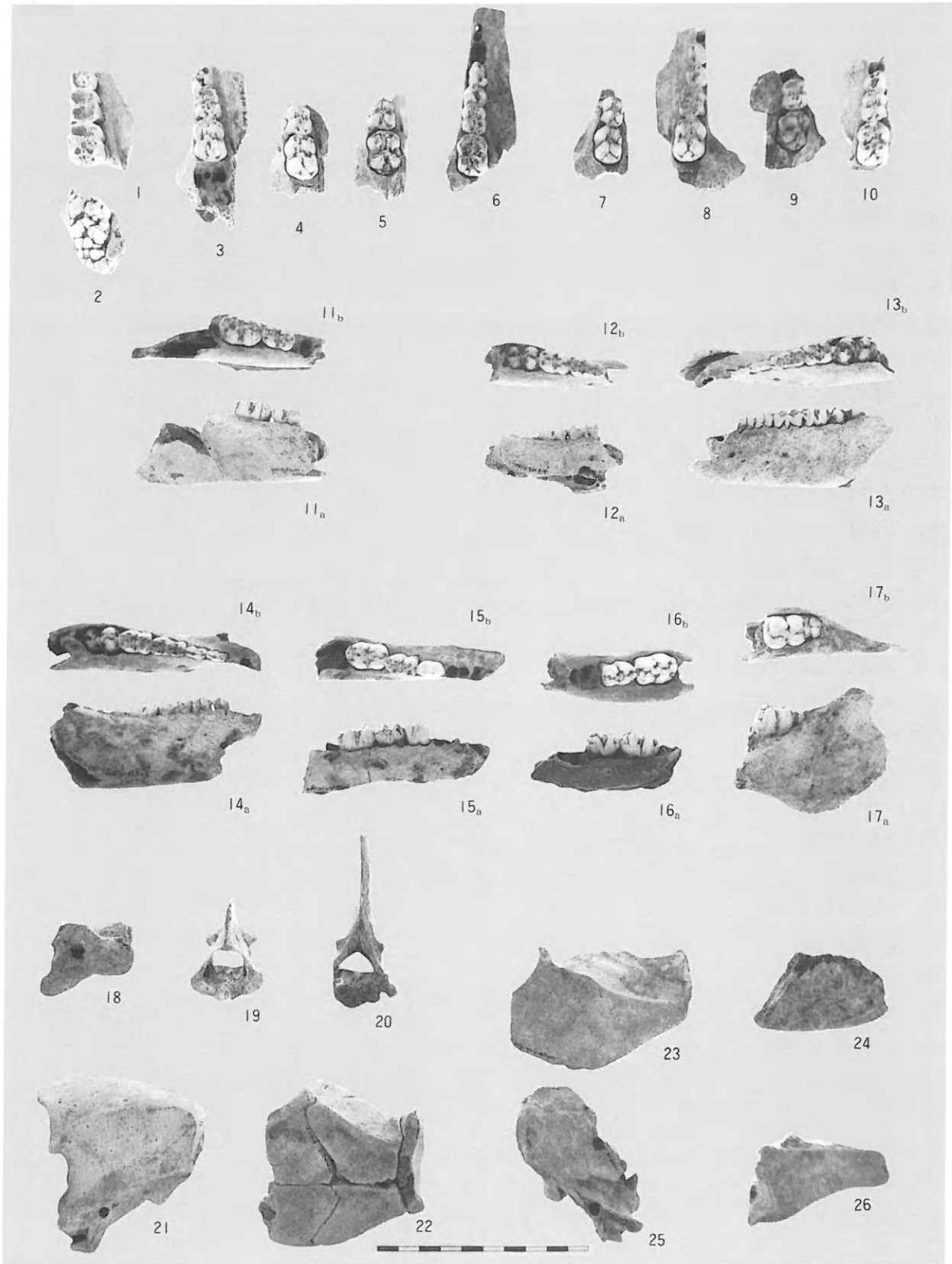


第126図版 イヌ、ネコ、ヤギ

第127図版 ブタ

1. 上顎骨
2. 上顎骨
3. 上顎骨
4. 上顎骨
5. 上顎骨
6. 上顎骨
7. 上顎骨
8. 上顎骨
9. 上顎骨
10. 上顎骨
11. 下顎骨 (a、b) a側面 b上面
12. 下顎骨 (a、b)
13. 下顎骨 (a、b)
14. 下顎骨 (a、b)
15. 下顎骨 (a、b)
16. 下顎骨 (a、b)
17. 下顎骨 (a、b)

18. 環椎L
19. 軸椎
20. 胸椎
21. 頭頂骨L
22. 頭頂骨R・L
23. 頭頂骨R
24. 頭頂骨L
25. 頭頂骨R
26. 頭頂骨L



第127図版 ブタ

第128図版 プタ

1. 肩甲骨R (大型)
2. 肩甲骨R (細型)
3. 肩甲骨L (大型)
4. 肩甲骨L (細型)
5. 上腕骨R (太きやしや型)

腕

6. 橈骨L

6 7. 橈骨R

7 8. 橈骨L (太型)

8 9. 橈骨L (太型)

腕

9 10. 上腕骨R (細型)

10 11. 上腕骨L (細型)

11 12. 上腕骨L (太きやしや型)

12 13. 上腕骨R (太きやしや型)

13 14. 上腕骨L (太きやしや型)

15. 寛骨R上部 (大型)

16. 寛骨R白部 (大型)

17. 寛骨R上部 (大型)

18. 寛骨L上部 (大型)

19. 寛骨L白部 (大型)

20. 尺骨R

21. 尺骨L

22. 尺骨L

23. 大腿骨R

24. 大腿骨L

25. 大腿骨L

26. 大腿骨L

27. 大腿骨L

28. 脛骨R (大型)

29. 脛骨R (大型)

30. 脛骨L (大型)

31. 脛骨L

32. 踵骨R

33. 踵骨L

34. 踵骨L

35. 中足骨R III

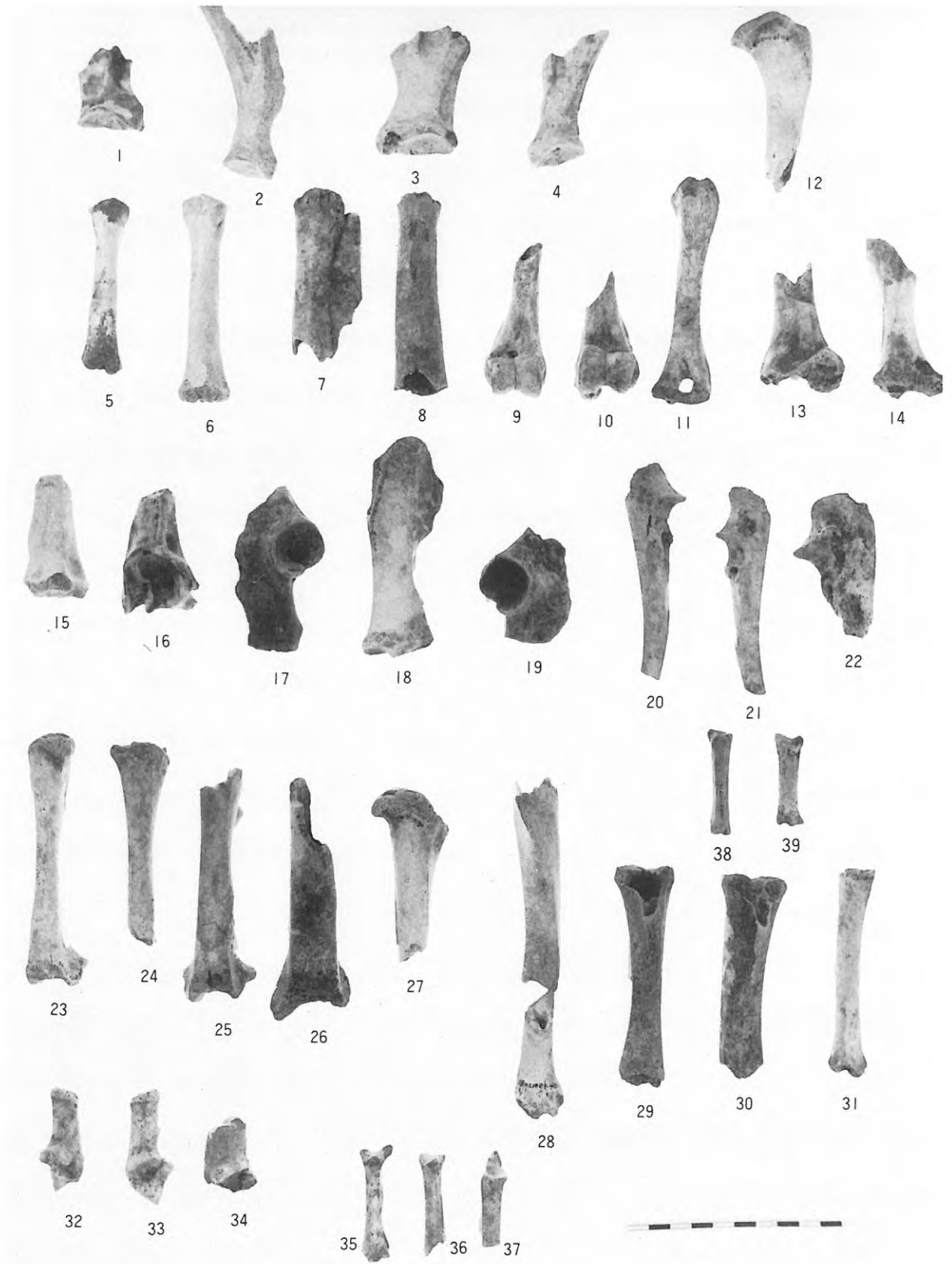
36. 中足骨L III

37. 中足骨L IV

38. 中足骨L IV

手

39. 中手骨L III



第128図版 ブタ

第129図版 ブタ

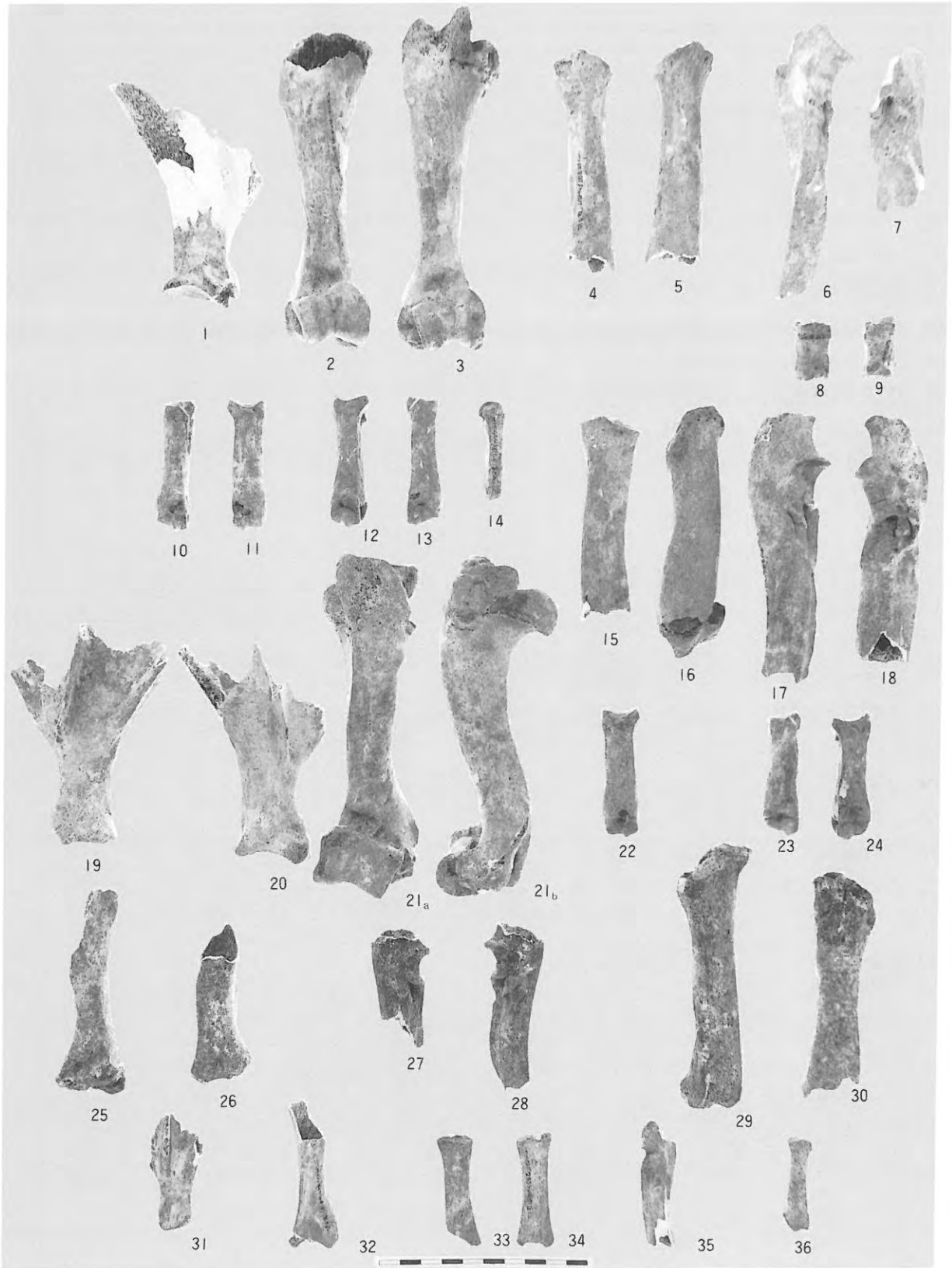
1. 上顎犬歯L (♀) a
2. 上顎犬歯R、 a
3. 涙骨L、 a
4. 後頭骨 a
5. 下顎骨 a
6. 上顎骨R (♀) b
7. 上顎骨L、 b
8. 頭頂骨 b
9. 側頭・後頭骨 b
10. 後頭骨 b
- 11_b. 下顎骨 (♀) b
- 11_a. 下顎骨 b



第129図版 ブタ

第130図版 ブタ

1. 肩甲骨R b
2. 上腕骨R b
3. 上腕骨R c
4. 橈骨R c
5. 橈骨L b
6. 尺骨R
7. 尺骨R b
8. 基節骨c
9. 基節骨c
10. 中手骨RIV b
11. 中手骨RIII b
12. 中手骨LIII c
13. 中手骨LIV c
14. 中足骨 b
15. 橈骨R a
16. 橈骨L a
17. 尺骨R a
18. 尺骨L a
19. 肩甲骨L a
20. 肩甲骨R a
- 21_a. 上腕骨L a
- 21_b. 上腕骨L a
22. 中手骨LIII a
23. 中手骨LIV a
24. 中手骨RIII a
25. 上腕骨R d
26. 上腕骨L d
27. 尺骨R d
28. 尺骨L d
29. 大腿骨R d
30. 大腿骨L d
31. 肩甲骨L e
32. 上腕骨L e
33. 橈骨R e
34. 橈骨L e
35. 尺骨L e
36. 中手骨IVR e



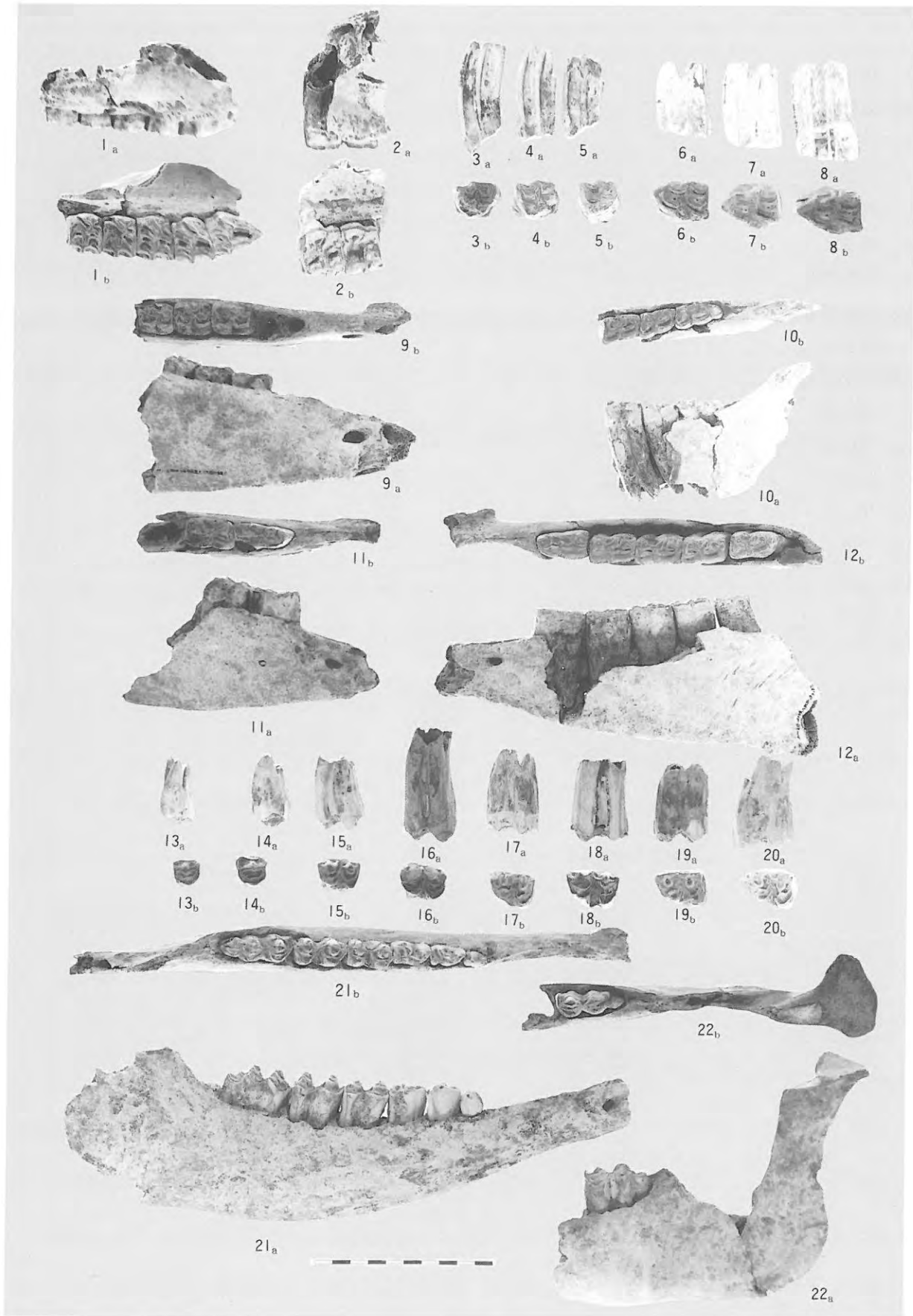
第130図版 ブタ

第131図版 ウマ

1. 上顎骨R (P^{2,3,4}、M^{1,2}) a、b
2. 上顎骨R (P⁴、M¹) a、b
3. 上顎骨L、M³ (a、b) a側面、b上面
4. 上顎骨L、M³ (a、b)
5. 上顎骨L、M³ (a、b)
6. 上顎骨L、P² (a、b)
7. 上顎骨L、P² (a、b)
8. 上顎骨L、P² (a、b)
9. 下顎骨R (P_{3,4}、M₁) (a、b)
10. 下顎骨L (M_{1,2,3}) (a、b)
11. 下顎骨R (P_{2,3}) (a、b)
12. 下顎骨L (P_{2,3,4}、M_{1,2}) (a、b)

ウシ

13. 上顎骨L、P³ (a、b) a側面、b上面
14. 上顎骨R、P⁴ (a、b)
15. 上顎骨R、M¹ (a、b)
16. 上顎骨R、M² (//)
17. 上顎骨R、M³ (//)
18. 上顎骨R、M³ (//)
19. 上顎骨R、M³ (//)
20. 上顎骨R、M³ (//)
21. 下顎骨R (P_{2,3,4}、M_{1,2,3}) a、b
22. 下顎骨L (M₃) a、b



第131図版 ウマ、ウシ

第132図版 ウマ

1. 肩甲骨L
2. 肩甲骨L
3. 上腕骨R
4. 上腕骨L
5. 橈骨L R
6. 橈骨L
7. 中手骨R
8. 中手骨L
9. 寛骨R
10. 寛骨R (L)
11. 基節骨
12. 基節骨
13. 中節骨
14. 中節骨
15. 末節骨
16. 末節骨
17. 肋骨



第132図版 ウマ

第133図版 ウマ

1. 大腿骨R
2. 大腿骨L
3. 脛骨L
4. 脛骨R
5. 脛骨L
6. 距骨
7. 踵骨R
8. 踵骨L
9. 中足骨 (R)
10. 中足骨 (R)
11. 中足骨L
12. 中足骨L



第133図版 ウマ

第134図版 ウシ

1. 環椎
2. 軸椎
3. 肩甲骨L
4. 肩甲骨L
5. 肩甲骨L (幼)
6. 上腕骨R
7. 上腕骨L
8. 上腕骨L (幼)
9. 橈尺骨L
10. 橈骨L
11. 橈骨L
12. 尺骨L
13. 中手骨R
14. 中手骨R
15. 中手骨R (幼)
16. 中手骨L
17. 中手骨R
18. 基節骨
19. 基節骨
20. 中節骨
21. 中節骨
22. 末節骨
23. 末節骨



第134図版 ウシ

第135図版 ウシ

1. 寛骨R
2. 寛骨L
3. 大腿骨R
4. 大腿骨L
5. 脛骨R
6. 脛骨R
7. 脛骨L
8. 膝蓋骨R
9. 膝蓋骨L
10. 距骨R
11. 距骨L
12. 踵骨R
13. 踵骨L
14. 踵骨(幼)L
15. 踵骨(幼)R
16. 中心骨根骨R
17. 中足骨L
18. 中足骨L
19. 中足骨R



第135図版 ウシ

沖縄県文化財調査報告書第111集

湧田古窯跡（Ⅰ）

— 県庁舎行政棟建設に係る発掘調査 —

印刷 平成5年3月21日

発行 平成5年3月31日

発行 沖縄県教育委員会

編集 沖縄県教育庁文化課

〒900 那覇市泉崎1丁目2-2

TEL 098 (866) 2731~2733

印刷 文進印刷(株)

湧田古窯跡正誤表

| 頁 | 行 | 誤 | 正 |
|--------|--------------|---------------------|---------------------|
| 巻首図版1 | | 東側 | 北東側 |
| 5 | 15 | 大城剛(現具志川市教育委員会) | 金城透(現沖縄県立博物館) |
| 9 | 4 | 磚 | |
| 21 | 第15図 | スリット-7の番号が載っている | 番号は載せない |
| 26 | 19 | 搏 | |
| 26 | 7 | 割愛 | 割合 |
| 36 | 第1表1 | 第30図PL. 38 | 載せない |
| 47 | 第35図青磁⑩ | 番号なし | 12 |
| 82 | 第60図褐釉陶器 | 番号なし | 5 |
| 85 | 11 | 第63図1 | 第63図7 |
| 85 | 13 | 第63図2 | 第63図8 |
| 93 | 2 | 「上焼」(註1) | (註1) 削除 |
| 93 | 14 | 「フィガキー」(註2) | 「フィガキー」(註1) |
| 94 | 36 | これは外面鉄釉。内面 | 鉄釉、内面 |
| 95 | 33 | 灯火以下に | 灯火以外に |
| 98 | 13 | 三華文 | 三葉文 |
| 98 | 40 | a~b | a・b |
| 99 | 27 | 円味 | 丸味 |
| 101 | 29 | 入れる前 | 入る前 |
| 101 | 32 | 陶器が出土 | 陶器は出土 |
| 101 | 35 | 灰緑色の釉色 | 灰緑色等の釉色 |
| 103 | 第71図4 | 腰部に僅かに | 腰部は僅かに |
| 104 | 第73図12-13 | | 罫線もれ |
| 105 | 第76図3 | 内面の角の部に | 内面の角部分 |
| 105 | 第77図6 | 円筒形 | 円筒形 |
| 105 | 第78図3-4 | | 罫線もれ |
| 105 | 第78図5~7 | (三採) | (三彩) |
| 105 | 第79図3 | (三採) | (三彩) |
| 106 | 第82図3 | 下端に釉溜で | 下端は釉溜で |
| 122 | 10 | (第92図1) | (第84図1) |
| 122 | 17 | □厚も | □唇も |
| 122 | 25 | (第93図1) | (第85図1) |
| 122 | 33 | (第93図3) | (第85図3) |
| 122 | 34 | (第94図1) | (第86図1) |
| 123 | 8 | (第95図1) | (第87図1) |
| 123 | 9 | (第97図7) ... (第97図1) | (第89図7) ... (第89図1) |
| 123 | 13 | □屋外端 | □唇外端 |
| 123 | 28 | (第96図2) | (第88図2) |
| 123 | 36 | (第97図2) | (第89図2) |
| 123 | 38 | 立端を欠く | 先端を欠く |
| 124 | 32 | (註1) をを参考 | (註1) を参考 |
| 126 | 第84図9 | 脚高の...脚高外端 | 脚台の...脚台外端 |
| 127 | 第87図6 | 「へ」の字の上に点である。 | 「へ」の字の上に句点を入れてある。 |
| 130 | 6 | タイプのもと、 | タイプのもので、 |
| 134 | 16 | 口縁内部 | 口縁内面 |
| 134 | 19 | 資元資料の | 復元資料は |
| 134 | 5 | 橙褐色 | 橙褐色 |
| 135 | 29 | 内湾口径の | 内湾口縁の |
| 138 | 第9表 | 摺鉢 | 植木鉢 |
| 138 | 第9表 | 第9表 摺鉢口径一覽 | 第9表 植木鉢口径一覽 |
| 140 | 第91図12 | 「」のヘラ記号 | 「⊖」のヘラ記号 |
| 140 | 第93図50 | 「」のヘラ記号 | 「⊃」のヘラ記号 |
| 178 | 第14表ニトリ骨出土状況 | 脛骨骨体第3層(1) | 脛骨近位部第1層(1) |
| 179 | 第18表イヌ骨出土状況 | 肩甲骨・脊椎骨 | 順序入れかえ |
| 183 | 第119図 | ブタ | ブタ |
| 188 | 第24表 | イノシシ歯牙出土状況 | ブタ歯牙出土状況 |
| 191 | 第33表ウサギ骨出土状況 | 肩甲骨の完存 | 肩甲骨の近位部 |
| 第81図版 | | 7の正面写真と11の正面写真 | 7→11 11→7 |
| 第90図版 | | 9の正面写真と12の正面写真 | 9→12 12→9 |
| 第125図版 | 9 | タイ科ミミカグイのL前上顎骨 | タイ科ミミカグイのR前上顎骨 |
| 第126図版 | | ネコが29. 椎体の下になっている | ネコは28. 椎体の上にくる |
| 第126図版 | 25 | 大腿骨L | 大腿骨R |
| 第126図版 | 28 | 28. 椎体 | 28. 腰椎体 |
| 第126図版 | 29 | 29. 椎体 | 29. 腰椎体 |
| 第128図版 | 5・10~14 | 上腕骨R | 上腕骨R |
| 第132図版 | 10 | 10. 寛骨R | 10. 寛骨L |
| 第132図版 | 5 | 5. 橈骨L | 5. 橈尺骨 |
| 第133図版 | 10 | 10. 中足骨 | 10. 中足骨R |
| 第133図版 | 9 | 9. 中足骨 | 9. 中足骨R |

第4表 本土産陶器観察一覽

| 図. PL. | 地区 | ケリツ | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 |
|----------------|----|-----|---------------|-------|-----|------|-----|------|-----------------------------------|-----|---------------|
| 第64図 PL. 73 | 1 | し44 | 第1瓦層 | 碗 | 口縁部 | 14.5 | | | 龍鳳見込み荒磯文。 | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| | 2 | せ44 | 3層,黄灰色上面 | 碗 | 底部 | | | 6 | 見込み荒磯文。 | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| | 3 | し45 | 円形状集中1(L字土層上) | 碗 | 底部 | | | 3 | 外体部下半に1条,高台外面2条,高台内に1条の圈線。 | 肥前 | 17C後半 |
| | 4 | こ46 | 第4層,4号井戸 | 碗 | 底部 | | | 4.2 | 外体部下半に1条,高台外面に2条の圈線。畳付けに砂付着。 | 肥前 | 17C後半 |
| | 5 | 試5 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | 4.8 | コニヤ印判。 | 肥前 | 18C前半~中葉 |
| | 6 | し40 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | | 4.9 | 見込み蛇の目軸刺ぎ。高台砂付着。 | 肥前 | 18C代 |
| | 7 | ち44 | 第2層 | 碗 | 底部 | | | 4.4 | 見込み蛇の目軸刺ぎ。 | 肥前 | 18C後半~19C前半 |
| | 8 | に41 | 第2層 | 碗 | 底部 | | | 4 | | 肥前 | 18C後半~19C前半 |
| | 9 | た44 | 第1瓦層 | 碗 | 底部 | | | 3.2 | 山水文。 | 肥前系 | 19C初~幕末 |
| | 10 | ち44 | 第3層 | 瓶 | | | | | 頸部に蓮弁文。 | 肥前 | 17C中葉 |
| | 11 | つ45 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | 5.9 | 体部内面つる草。見込み蛇の目軸刺ぎ | 肥前 | 17C末~18C中葉 |
| | 12 | け40 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | 4.2 | 見込み山水文。畳付けに煤付着。 | 肥前系 | 19C初~幕末 |
| | 13 | さ40 | 表土攪乱 | そばちよこ | 底部 | | | 6.5 | 山水文。 | 肥前 | 18C前半~中葉 |
| | 14 | | 1号表 | 小杯 | | | | | 柳文。 | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| 第65図 PL. 74 | 1 | な61 | 攪乱 | 碗 | 口縁部 | 12.8 | | | 雲龍見込み荒磯文。 | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| | 2 | | 2号窯前面,攪乱 | 碗 | 口縁部 | 13.4 | | | 雲龍見込み荒磯文。 | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| | 3 | | 黒褐色,攪乱 | 碗 | 底部 | | | 4.6 | 見込み荒磯文。 | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| | 4 | ち59 | 8層 | 碗 | 口縁部 | 11.7 | | | 山水文。 | 肥前 | 1640年代~1650年代 |
| | 5 | た59 | 1層 | 碗 | 底部 | | | 5.4 | 見込み圈線内に花卉文。畳付けに砂付着。 | 肥前 | 1640年代~1650年代 |
| | 6 | て57 | 砂利層 | 碗 | 底部 | | | 3.6 | 高台内に「寿福」を上下に合字? | 肥前 | 1650年代~1680年代 |
| | 7 | | 表土攪乱 | 碗 | 完形 | 11.9 | 5.8 | 5 | 外面丸文。見込み五弁花(コニヤ印判)。見込み蛇の目軸刺ぎ。 | 肥前 | 18C中葉~末 |
| | 8 | な57 | 落ち込み(黒褐色) | 碗 | 底部 | | | 4.8 | 高台内「大明年製」のくずれの款。 | 肥前 | 18C中葉~末 |
| | 9 | に57 | 2攪乱 | 碗 | 底部 | | | 5.1 | 見込み五弁花(コニヤ印判)見込み蛇の目軸刺ぎ。軸刺ぎ,高台砂付着。 | 肥前 | 18C後半 |
| | 10 | な57 | 攪乱2 | 碗 | 完形 | 10.8 | 5.8 | 5.6 | 広東型。外面山水文。見込み岩波又は千鳥のくずれ。 | 肥前 | 19C前半 |
| | 11 | | 表土攪乱 | 碗 | 完形 | 11 | 5.4 | 3.8 | 外面,見込み格子目文。見込み蛇の目軸刺ぎ。 | 肥前系 | 1820年代~幕末 |
| | 12 | な57 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 11.7 | 6 | 4.6 | 端反型。外面流水文。 | 肥前 | 1820年代~幕末 |
| | 13 | ぬ59 | 攪乱,黒褐色 | 碗 | 完形 | 10.1 | 5.4 | 4.1 | 端反型。外面水草文。口縁内面雷文。見込み「源氏」くずれ。 | 肥前 | 1820年代~幕末 |
| 第66図 PL. 75 | 1 | に59 | 攪乱 | 碗 | 完形 | 10.8 | 5.8 | 3.8 | 外面山水文。 | 肥前系 | 1820年代~幕末 |
| | 2 | に57 | 赤褐色 | 碗 | 完形 | 9 | 4.6 | 3.5 | 外面山水文。 | 肥前系 | 1820年代~幕末 |
| | 3 | に57 | 赤褐色 | 碗 | 完形 | 8.9 | 4.7 | 3.6 | 外面唐草文。 | 肥前系 | 1820年代~幕末 |
| | 4 | に58 | 黒褐色 | 碗 | 完形 | 10.8 | 5 | 3.8 | 外面帆掛文と鳥。見込み蛇の目軸刺ぎ。 | 肥前系 | 1820年代~幕末 |
| | 5 | | 表土攪乱(埴物) | 蓋物 | 底部 | | | 6.2 | 外面唐草文の一種。 | 肥前 | 18C代 |
| | 6 | に57 | 攪乱2 | 蓋物 | 底部 | | | 6.8 | 体部外面下半,高台に圈線。 | 肥前 | 18C代 |
| | 7 | に57 | 攪乱 | 蓋物 | 完形 | 8.6 | 4.6 | 4 | 蓋物の身。外面仔文。 | 肥前系 | 18C末~幕末 |
| | 8 | に57 | 攪乱 | 蓋物 | 完形 | 10.3 | 8.6 | 7.2 | 蓋物の身。外面波濤文。 | 肥前系 | 18C代 |
| | 9 | な57 | 攪乱2 | 鉢 | 底部 | | | 7.2 | 見込み花か宝文。蛇の目凹形高台。 | 肥前系 | 19C初~幕末 |
| | 10 | に57 | 赤褐色 | 皿 | | | | | 見込み五弁花文。高台内蛇の目軸刺ぎ。 | 肥前 | 1640年代~1650年代 |
| | 11 | な59 | 攪乱(淡黄褐色) | 皿 | 底部 | | | 5.4 | 畳付けに砂付着。 | 肥前 | 1640年代~1650年代 |
| | 12 | に57 | 攪乱1 | 皿 | 底部 | | | 10.2 | 粗放な芙蓉手皿。見込み流水文。 | 肥前 | 1650年代~1670年代 |
| | 13 | | 2号窯前面,攪乱 | 皿 | 底部 | | | 10 | 粗放な芙蓉手皿。見込み文様は不明。 | 肥前 | 1650年代~1670年代 |
| | 14 | | 表土攪乱 | 皿 | 底部 | | | 4.7 | 見込み唐草文。畳付砂付着。 | 肥前 | 18C後半 |
| | 15 | に57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | | 6.4 | 見込み宝袋文。 | 肥前系 | 18C後半~19C初 |

第4表 本土産陶器観察一覽

| 図. PL. | 地区 | ケリット | 層位 | 器形 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 特徴 | 産地 | 年代 | |
|----------------|----------------|------|---------|--------------|-----|------|------|-----|---------------------------------|-----------------------------------|---------------|---------------|
| 第66図 PL. 75 | 16 | 2 | | 埋土 | 皿 | 底部 | | 8.2 | 見込み宝袋文。 | 肥前系 | 18C後半～19C初 | |
| | 17 | 2 | に57 | 攪乱2 | 碗の蓋 | 口縁部 | 9.2 | | 端反型の碗の蓋。外面唐草文の一種。口縁内面雷文。 | 肥前系 | 1820年代～幕末 | |
| 第67図 PL. 76 | 1 | 2 | な60 | 第3層 | 皿 | 底部 | | 5 | 見込み山水図。外面草花文の一種。 | 肥前系 | 19C初～幕末 | |
| | 2 | 2 | な57 | 攪乱2 | 皿 | 底部 | | 5.6 | 見込み山水図。外面草花文の一種。 | 肥前系 | 19C初～幕末 | |
| | 3 | 2 | に57 | 赤褐色 | 皿 | 完形 | 10 | 2.2 | 5.8 | 見込み山水図。口鏽。輪花型の皿。 | 肥前系 | 19C初～幕末 |
| | 4 | 2 | に56 | 攪乱1 | 皿 | 底部 | | 8 | 見込み千鳥図。高台内無釉。 | 肥前系 | 19C初～幕末 | |
| | 5 | 2 | | 2号窯(前壁部)、攪乱 | 皿 | 底部 | | 5.5 | 輪花形の皿。外面唐草文の一種。内面芙蓉手。 | 肥前系 | 19C初～幕末 | |
| | 6 | 2 | な56 | 6層上 | 皿 | 底部 | | 9.4 | 見込み山水図。蛇の目凹形高台。 | 肥前系 | 19C初～幕末 | |
| | 7 | 2 | に57 | 攪乱 | 皿 | 完形 | 10.2 | 2.2 | 6 | 見込み山水図。外面草花文の一種。 | 肥前系 | 18C末～19C前半 |
| | 8 | 2 | な62 | 攪乱 | 皿 | 完形 | 10.2 | 2.1 | 6.6 | 外面唐草文の一種。内面菊花散らし文。 | 肥前系 | 19C初～幕末 |
| | 9 | 2 | な56 | 攪乱1 | 皿 | 完形 | 12.2 | 2.2 | 6.2 | 口縁内面四方だすき文。見込み山水図。 | 肥前系 | 19C初～幕末 |
| | 10 | 2 | な60 | 第3層 | 皿 | 完形 | 7.8 | 1.9 | 4.2 | 内面網目文。 | 肥前系 | 19C初～幕末 |
| | 11 | 2 | ぬ58 | 攪乱層 | 皿 | 口縁部 | 12.2 | | | 輪花形の皿。内面の文様意匠文明。 | 肥前系 | 19C初～幕末 |
| | 12 | 2 | な57 | 落ち込み、暗褐色 | 皿 | 完形 | 15.2 | 4.3 | 8.8 | 輪花形の皿。口鏽。蛇の目凹形高台。内面山水文。 | 肥前系 | 19C初～幕末 |
| | 第68図 PL. 77 | 1 | 1 | こ41 | 第2層 | 火入れ碗 | 完形 | 9.2 | 7.9 | 9.8 | 外面梅と竹。白磁。 | 肥前 |
| 2 | | 2 | な・に60 | | 碗 | 完形 | 11.2 | 5.6 | 4.1 | 白磁。 | 肥前 | 17C後半 |
| 3 | | 2 | に57 | 攪乱2 | 碗 | 底部 | | 4.5 | 白磁。 | 肥前系 | 18C | |
| 4 | | 2 | に57 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | 5 | 白磁。見込み蛇の目軸刺ぎ。 | 肥前系 | 18C後半～幕末 | |
| 5 | | 1 | と42 | 第2層 | 瓶 | 底部 | | 4.7 | 白磁。 | 肥前 | 18C～19C | |
| 6 | | 2 | な・に60 | 攪乱 | 碗 | 底部 | | 4.8 | 白磁。見込み部分を蛇の目軸刺ぎ状に泥状の砂を塗り、焙焼を防ぐ。 | 肥前系 | 18C後半～幕末 | |
| 7 | | 2 | に57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | 4.8 | 高台部無釉。見込みに砂目1個あり。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 | |
| 8 | | 2 | | 攪乱 | 皿 | 底部 | | 6 | 白磁。見込み部分を蛇の目軸刺ぎ状に泥状の砂を塗り、焙焼を防ぐ。 | 肥前系 | 18C後半～幕末 | |
| 9 | | 2 | | 表土攪乱 | 皿 | 底部 | | 8.9 | 青磁。蛇の目凹形高台。 | 肥前 | 18C～19C前半 | |
| 10 | | 1 | さ44 | 第3層 | 皿 | 完形 | 10.7 | 3.3 | 3.6 | 口鏽。胴下半・高台部無釉。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 |
| 11 | | 1 | た42、ち42 | 第1瓦層、第3層黄灰色土 | 皿 | 完形 | 10.7 | 3 | 3.6 | 胴下半・高台部無釉。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 |
| 12 | | 1 | せ47 | 第1層 | 皿 | 口縁部 | 12.6 | | | 胴下半無釉。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 |
| 13 | | 1 | さ40、さ42 | 攪乱、北井戸 | 碗 | 底部 | | 4 | | 内野山窯産。外面緑釉、内面透明釉。高台部無釉。 | 肥前 | 18C前半～中葉 |
| 14 | | 1 | こ41 | 井戸中 | 皿 | 底部 | | 4.5 | | 内野山窯産。内面緑釉、外面透明釉。見込み蛇の目軸刺ぎ。高台部無釉。 | 肥前 | 18C前半～中葉 |
| 15 | | 1 | ち43 | 第3層 | 碗 | 底部 | | 4.4 | | 見込み鉄絵。外面胴下半・高台部無釉。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 |
| 16 | | 2 | な57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | 4.3 | | 肥前産の可能性強い。見込みに山水図を描く。 | 京焼系 | 18C前半 |
| 17 | | 2 | ぬ59 | 攪乱、黒褐色 | 皿 | 底部 | | 4.7 | | 京焼風陶器。見込みに呉須絵で山水図を描く。高台内印銘「木下弥」? | 肥前 | 17C後半 |
| 18 | 1 | た42 | 第1瓦層 | 皿 | 口縁部 | 11.5 | | | 鉄絵により植物文?を描く。胴下半無釉。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 | |
| 19 | 2 | な57 | 攪乱 | 皿 | 底部 | | 7.6 | | 大皿。胴下半・高台部無釉。 | 肥前 | 1580年代～1610年代 | |

イノシシ歯咬耗度分布

